

# 滋賀県スポーツ科学委員会紀要

1980 - 1989

上 卷

(財)滋賀県体育協会

## 科学委員会紀要の発刊を祝す



(財)日本体育協会スポーツ科学研究所

所長 塚越 克巳

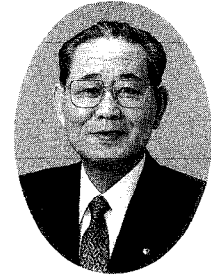
発刊、誠にめでとうございます。心からお祝いを申し上げるとともに、積み重ねられた10年のご努力に深く敬意を表します。

省みれば、滋賀県体協のスポーツ科学委員会と私どもの研究所とのお付き合いは、昭和56年度より開始された加盟地方団体との共同研究「女子のスポーツ適性に関する研究」からですから、これも10周年という一つの節目の年に当ることになります。さらに、昭和59年度からの「若年層におけるスポーツ外傷・傷害とその予防に関する研究」に、また平成2年度からは「国体選手の健康管理に関する研究」にも参加していただいております、スポーツ医・科学の振興を願う同志の一人として誠に心強い限りです。

平成元年の日体協調べによれば、加盟47都道府県の体育協会におけるスポーツ医・科学関係の委員会機構組織率は、既に80%に達しようとしています。報告書を発刊している団体は、30%をやっと越えたところです。マスコミュニケーションの発達した近代社会においてはなおのこと、スポーツ医・科学の普及・振興の媒体基盤が、文献類にあることは疑いのないことであります。

我々関係者がスポーツ医・科学を普及・振興しなければならない我が国は面積的には広くはありませんが、そこで繰り広げられる幼児・発育期のスポーツ、トップ・アスリートのスポーツ、あるいは高齢者のスポーツと、その階層構造を考えあわせるとそのニーズは少なくありません。だからこそ、幅広い、多くの関係者が一致協力し、努力を積み重ねる必要があるのではないのでしょうか。

## 発刊のご挨拶



滋賀県体育協会  
会長 稲葉 稔

ここに滋賀県体育協会スポーツ科学委員会の紀要論文を集大成して発刊の運びとなりました。

聞き及ぶところによりますと、近年、他府県においても本委員会に該当する組織の充実が益々積極的であるとのこと。誠に喜ばしいかぎりであります。

本県スポーツ科学委員会の研究・調査部門の組織は、6部門（医学・生理学・心理学・社会学・運動学・歴史）から構成され、各部門別の研究を継続すると共に、県内外の委託研究にも総合的に対応することにより、活動内容の充実に努めてきたわけです。そして、その成果が、ここにお届けする「スポーツ科学委員会紀要論文集」に結実しました。

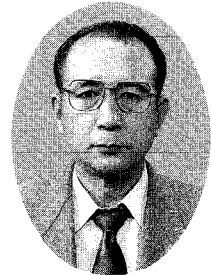
どうか、ご高覧の上、ご批判、ご叱正などを賜われればこれにすぐるものはございません。

近年の生活様式の大変化にともない、競技スポーツはいうに及ばず、生活を支える、いわば生活スポーツの発展・充実もまた、人間が人間らしく生きるために重要になってまいりました。加えて、競技スポーツに対する過熱化現象が、ことによっては人間破壊を起こしかねない危惧すら感じられることに思いをはせます時、いよいよ、好ましいスポーツのあり方究明に対して、真剣に取り組まねばならないと考えております。どうか、今後ともご指導ご鞭撻を賜われますようお願い申し上げます。

## 発刊にあたって

滋賀県体育協会スポーツ科学委員会

委員長 豊田 一成



滋賀県体育協会にスポーツ科学委員会が発足したのが、1979年（昭和54年度）であります。この年は、年度半ばでありましたために、各都道府県および、傘下の各団体に対してスポーツ科学に対する必要性や要望などの実態を調査する程度にとどまりました。したがって、本格的活動は、翌1980年（昭和55年度）からということになります。

爾来、1989年（平成元年度）にいたるまでの10年間に、研究論文が110篇、資料・講演集が8篇の、合計118篇の成果が公表されるにいたりました。一地方体育協会のレベルでこれだけの仕事が継続できた背景には、スポーツ行政に関与する方々はもちろんのこと、野にある方々の深いご理解とスポーツ振興に対する強い情熱があり、大きな支えとなったことを忘れてはなりません。

思い起こしますと、滋賀県が全国高校総体（S54）とびわこ国体（S56）を迎えるにあたり、前スポーツ科学委員長・木下修二郎先生たち数人で、時の保健体育課長にスポーツ科学に関する組織の必要性を陳情したことが昨日の様に思い出されます。これを契機に確立された本科学委員会は、その後、体育協会傘下はもちろんのこと、行政・大学・医学関係者などの積極的な協力体制によって今日が迎えられたわけであります。

ここに10年間の成果を出版するにあたり、多くの方からいただいたご支援・ご指導に対し、心からお礼を申し上げますと共に、今後も変らぬご援助をお願いしつつ、発刊のご挨拶といたします。



● 目次 (上卷)

# 滋賀県スポーツ科学委員会 紀要 総集編

1980—1989

## 上巻 目次

滋賀県スポーツ科学委員会紀要の発刊を祝す

(財)日本体育協会 スポーツ科学研究所 所長 塚越 克巳 II

発刊のご挨拶

滋賀県体育協会 会長 稲葉 稔 III

発刊にあたって

滋賀県体育協会 スポーツ科学委員会 委員長 豊田 一成 IV

### ●スポーツ社会学編

---

一流運動競技選手のスポーツへの社会化の過程に関する基礎的研究(その1)

[Vol.2 1981] 沢田 和明 3

一流運動競技選手のスポーツへの社会化の過程に関する基礎的研究(その2)

[Vol.3 1982] 沢田 和明 29

一流運動競技選手のスポーツへの社会化の過程に関する基礎的研究(その3)

[Vol.4 1983] 沢田 和明 67

競技団体のリーダーシップに関する基礎的研究 [Vol.1 1980]

沢田 和明 85

サッカー少年団活動の実態に関する基礎的研究 [Vol.5 1984]

沢田 和明 101

スポーツクラブ参加者、指導者、保護者の意識の相違に関する基礎的研究

[Vol.6 1985] 沢田 和明 他 131

スポーツクラブ参加者、指導者の意識の相違に関する基礎的研究

[Vol.7 1986] 沢田 和明 他 155

健康と体力についての意識と行動に関する研究 [Vol.8 1987]

沢田 和明 他 179

滋賀県民の健康と体力についての意識と行動に関する研究 [Vol.9 1988]

沢田 和明 他 203

高齢者の生活とスポーツ活動 [Vol.8 1987]

沢田 和明 230

高齢者の健康や体力と運動からみた高齢者の生活実態 [Vol.9 1988]

沢田 和明 239

高齢化社会の準備のための運動やスポーツのあり方 [Vol.10 1989]

沢田 和明 他 282

社会的統合機能としてのスポーツ [Vol.10 1989]

平井 肇 294

### ●スポーツ心理学編

---

びわこ国体候補選手の性格特性とあがりについて [Vol.1 1980]

豊田 一成 305

びわこ国体選手の性格特性とあがりについて [Vol.2 1981]	豊田 一成 他	315
スポーツマンの性格特性について [Vol.3 1982]	町田 登 他	327
運動選手の「あがり」傾向について [Vol.3 1982]	沢 淳一 他	334
競技者の性格特特別あがり [Vol.3 1982]	高木 悟 他	340
スポーツマンの競技意欲に関する研究 [Vol.3 1982]	豊田 一成	346
競技意欲と性格の関係に関する一考察 [Vol.4 1983]	豊田 一成 他	362
競技意欲と集中に関する研究 (その1) [Vol.5 1984]	豊田 一成	374
競技意欲と集中に関する研究 (その2) [Vol.6 1985]	豊田 一成	405
コーチングに関するスポーツ心理学的基礎研究 [Vol.4 1983]	豊田 一成 他	428
負傷しやすい児童の心理的特性に関する一考察 [Vol.6 1985]	豊田 一成	439
高校運動部員の負傷に関する心理学的考察 [Vol.7 1986]	豊田 一成	447
競技スポーツにおける望ましい指導者像に関する一考察 (その1)		
	[Vol.7 1986]	豊田 一成 451
競技スポーツにおける望ましい指導者像に関する一考察 (その2)		
	[Vol.8 1987]	豊田 一成 460
競技スポーツにおける望ましい指導者像に関する一考察 (その3)		
	[Vol.9 1988]	豊田 一成 465
児童の興味に対する教師の評価 [Vol.6 1985]	長野 正 他	475
児童期の体育に関する自己概念について [Vol.10 1989]	長野 正 他	487
生涯スポーツを見通した学齢期 (中学生) における運動適性について		
	[Vol.8 1987]	中川 和夫 他 493
高齢者の生きがいと運動実施に関する心理学的考察 [Vol.8 1987]	豊田 一成 他	497
高齢者の健康・体力と運動実施に関する実態 [Vol.9 1988]	豊田 一成 他	503
高齢者の悩み・心配ごとと運動実施に関する一考察 [Vol.10 1989]	豊田 一成	510
メンタルマネージメントに関する研究 (その1) [Vol.9 1988]	豊田 一成 他	515
メンタルマネージメントに関する研究 (その2) [Vol.9 1988]	今井 義尚 他	525
メンタルマネージメントに関する研究 (その3) [Vol.9 1988]	豊田 一成 他	534
メンタルトレーニングに関する研究 (その4) [Vol.10 1989]	豊田 一成 他	541
<hr/>		
滋賀県スポーツ科学委員会歴代研究員一覧		560
索引 (上下巻共通)		562



# 『一流運動競技選手のスポーツへの 社会化の過程に関する基礎的研究』

— 第36回国民体育大会（びわこ国体）参加出場滋賀県選手団を中心に —

沢 田 和 明（滋賀大学）

## 1. 緒 言

現代社会におけるスポーツの個人的、社会的機能には多様なものが列挙されよう。それは現代社会の動きに関連しながら種々の観点から捉えることが可能である。「スポーツ」という用語で表現される一つの文化は、それ自体独立して存在し得るものではなく、多様な社会の動きに影響を受け、また影響を及ぼしてきている。その中には社会や個人にとって肯定的に評価される順機能的な側面と同様に、否定的に評価される逆機能的な側面が考えられる。逆機能的な側面を含みながらもその文化が存続していくのは順機能的な面とのバランスの問題であり、またそれはその価値的判断をする準拠枠の設定を誰がどんな角度からどの程度するかによっても異ってくる。

スポーツの手段の順機能の一例としては、社会のある一局面にとっては肯定的な価値を持つものとして認められてきた現象そのものやその結果が、別の観点や総合的な立場からは単純に肯定し得ない情況を生み出している場合、その矛盾を緩和、是正する方向でのスポーツの機能が考えられ得る。それは特に健康に関する危機感の増大、労働の中での人間疎外的情況の蓄積、よりよい生活環境を作り出すはずであった諸機械、道具による慢性的運動不足情況など、精神的・肉体的にマイナスとなっている局面の克服を基本的なものとしている。またそれは漸増する余暇時間の有効な利用方法の一手段として機能し得る可能性を内包し、また増大の一步を辿る医療費の上昇の歯止めとして期待される面も少なからずあるといえよう。これらのことは個人的レベルばかりでなく、集団のレベルや社会のレベルで言えることであり、スポーツが個人的レベルで完結するものでなく、仲間を組織

し、より高次なものを求め機能集団を作ることからも窮えるように、極めて社会的な要素を持っている。しかし個人的に肯定されるものであってもその総和が肯定されるものである保証はどこにもない。 $1 + 1 = 2 + \alpha$ の図式の $\alpha$ はプラスにもなればマイナスにもなる。その $\alpha$ をより大きなプラスにすることが人間の文化の所産であり、それであってこそ共有し伝播し得る文化となり得るのであり、問題を含んだまま連鎖と続けられる無批判的な伝統合理主義的側面は修正されるべきであろう。

とにかくスポーツ現象が観察され得る限り、肯定的・否定的な価値づけをめぐるそのバランスの中で望ましいあり方が論議されることになる。仮に不要なものであれば徐々に淘汰され、時には消滅することも考えられないことではない。現時点においてスポーツ文化の消滅を想定することは困難なことがあるが、その情況そのものの把握やスポーツ文化に代替的機能を果し得るものの可能性などを推論してみる作業を通して、改めて現代社会におけるスポーツの役割を確認する一つの糸口を見出すことも可能であろう。

国民体育大会はいくつかの批判や矛盾を含みながらも全国的な競技会としての位置を確保してきている。批判としてはプレイ論的観点からその大会を純粋なスポーツ現象としてみた場合、そのスポーツの純粋性確保という観点からの問題点が指摘される場合が多い。例えば県人口やスポーツ人に構造等を無視した県別対抗競技会形式、開催県有利なエントリー方式、開催県や近年開催予定県の関心のみが異常に高いことなどスポーツの結果の未確定性や平等条件確保という極めて基本的な条件が欠落ないしは軽視されている点があげられ

よう。また競争(アゴン<sup>アゴニ</sup>agon)という性格からは、より強い相手を求めるという意味での全国レベルの大会では日本一を競う意味づけがされねばならないのに、各競技団体の選手権試合に比較するとせいぜい同等か多くの場合それ以下という評価しかなされ得ない実情がある。これはスポーツの持つ競争性と全国大会という出場可能性ということからすると矛盾している。

これらプレイ論的観点からの批判は、スポーツの純粋性を確保していない大会の存続理由を地域開発や県民意識の高揚というスポーツ大会そのものの他の目的への手段的利用に転嫁させる糸口を与える。それは経費が巨額になり、単なる純粋消費としてのスポーツへの投資としては余りに「勿体なく」当然見返りとしての実社会に役立ち得る「土産」が必要となり、スポーツに関連する表向きの目標を掲げながら、裏面でスポーツに関連する面を一部に含んだ形で施策されていく。例えば会場の分散は県下全域にスポーツを普及するチャンスとなるが、それはその会場を結びつける道路の拡充整備と結果的には不可分である。また選手の歓迎接待は駅舎整備や県民道徳高揚運動、観光事業への刺激と関連づけられる。県民運動実践要項<sup>(2)</sup>には「住みよい郷土を築こう」「生活を明るくしよう」「心身をたくましくしよう」を基本目標に「湖国を美しくする運動」「郷土を知り文化を高める運動」「心のふれあい運動」「ムダをなくしものを大切にする運動」「事故をなくす運動」「青少年を健全に育てる運動」「スポーツに親しむ運動」「健康を高める運動」など、どちらかといえば競技会そのものとは殆んど無縁なものが運動項目として列挙されている。スポーツ競技会が手段的に用いられることを批判できるのはスポーツ競技会がスポーツのもつプレイ性の維持の観点からのみであるが、国体はその形式的純粋性から距離を置きすぎているように思われる。

いくつかの批判はあるが、国民体育大会が日本を代表するスポーツ選手を含めて競われる競技大会であり、参加する選手は各県やブロックを代表するエリートであることには変りはない。また一つの到達目標としての競技会であり、この大会を

契機に多くの国際的一流選手が輩出されたことも事実である。それは競技力向上においても、普及発展においても多くの影響を与えてきている。

今後の国民体育大会のあり方に関しては、各方面で改善、改良への方策について取りくまれ、また実施されてきているが、所与の企画への取り組みは、参与者全員が同一レベルで捉えられ得るものではなく、その諸個人、諸組織により興味や関心の対象が多様であり、ただ参加という観点においてのみ共通した一致点が見出せるだけである。

本研究はその多様な立場での参加の中で選手として参加する人達の現在の状況や現在に至る過程を多面的に捉え、今後の競技力向上、普及発展に役立ち得る基礎的資料を得ようとするものである。それは競技参加選手がいなければ成り立たないスポーツ競技会の再認識であり、少なくとも選手が不都合や不合理を抱えながら練習を続けなければならない状態の改善への糸口となる資料となり得るものである。またホンネとタテマエがずれた形でのスポーツへの取り組み、手段と目的が混淆した国民体育大会のあり方を問い直すものでもあり、それらは望ましい競技力向上、望ましい普及発展とは何かについて示唆深いものとなると思われる。

## 2. スポーツへの社会化

「社会化」という用語は多様な内容を含んでいるが、一般に 1) 社会主義化 2) 民主化 — 社会的条件整備 3) 社会的人間の形成などがあげられる。<sup>(6)</sup>ここでは 3) の意味で取り上げていくが、スポーツとの関りでは「スポーツによる」社会化(socialization via sport)が従来は主として学校の教科体育の中で論じられてきた。運動やスポーツにより教育が期待する、即ち社会が期待する人間がどのように育成され得るかが教科体育の存在可能性の一つの原点であった。しかしその手段的側面の強調は、反面到達目標としての人間形成に重点が置かれ、目標達成のみに着目されれば、何も運動やスポーツを手段的に媒介させなくともよいという考え方が成立し、教科としての独自性、存在理由の基点を失うことになる。このことから教科体育の教科としての独自性は、手段

から目的観への再検討が必要とされ、その結果一つの方向として運動文化の学習、獲得、伝播に集約されてきた。それは運動文化の単なる形式的伝承ではなく、新しい文化の創造という観点を含んだものであり、それは人間が運動やスポーツに対してどのように関るかの問題とも関連している。

この運動やスポーツへの関り方こそがスポーツへの社会化(socialization into sport involvement)の問題であり、前述の現代社会の動きの中で諸個人が対処せねばならないものである。この中にはスポーツへのプラスの関心が過剰社会化をも含めて量的質的に高まる方向のものもあれば、スポーツへの無関心、更には否定的な関心といったいわゆる脱社会化のものもその中に含まれてくる。またそれらの状況は現在の状態のものもあれば現在変革進行中のものもあり、また過去そうであったという状態のものに至るまで再社会化の問題を含めて多様な時間的流れの中で捉えられるものでもある。

またその関り方のレベルは単に行動的(behavioral)な次元ばかりでなく、認知的(cognitive)、性向的(dispositional)な次元まで多様であり、またそれらは直接的に活動をするものと間接的に誰かのプレイを見たりすることの両者への関り方についてそれぞれ言えることである。G.S.Kenyonはスポーツへの関り方と役割学習という観点から捉え、次のような類型を提示している。

Mode	Primary	Secondary				
		Consumer		Producer		
		direct	indirect	leader	arbitrator	entrepreneur
Role	contestant	spectator	viewer	instructor	member of sports governing body	manufacturer
	athlete		listener	coach	rules committee	promoter
	player		reader	manager	referee	wholesaler
				team leader	umpire	retailer
					scorekeeper	
					other officials	

図1 スポーツに関する社会的役割

この図式はスポーツの場を最小限に成立させるために直接的に関わる側(primary)と間接的に関わる側(secondary)に大別して、更に間接的なものをスポーツの場を消費する側(consumer)と作りだす側(producer)に類型化して捉えている。また彼は一連のスポーツへの社会化の研究の基本

的枠組として次のようなものを考えている。

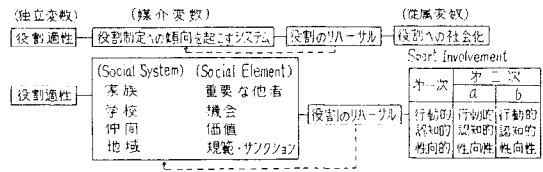


図2 Sport involvementの一般モデル

この図式は同じ基本的適性を持っている者でも同じ役割を獲得するのではなく、その過程において特定な役割を獲得するように社会の中でのスポーツに関連する機関の中で、種々の人や出来事と関わる中で、多様に異なった役割を獲得することを表わしている。

一流競技選手のスポーツへの社会化、即ち現在一流選手であるという行動レベルにおけるエリートという従属変数は、その過程でいかなる媒介変数とどのように関連していたのかを明確にする研究は近年始まったばかりである。ユネスコの国際スポーツ社会学委員会が中心となった国際的な調査もいくつか見られるが、国内的にまとまった研究はこれまでのところあまりない。エリート選手の社会化過程の実態把握は、競技力向上にとっての多くの観点到役立つ基礎資料となり得るし、一般人の社会化の過程の相違を明確にすることで普及の面での基礎資料ともなり得る。

なお今回の調査は日本体育協会のスポーツ科学委員会の中の中央企画班が作成した「スポーツ競技者に関する調査」案を他県との比較をも兼ねて用いた。またこの調査のプロジェクトは「女子のスポーツ適性」を主たる関心としているが、これは日本におけるスポーツ競技選手が男子に比較して好材を見出しにくいことや競技生活が極めて短かいことなどを背景に、一流女子競技選手がスポーツと如何にかかわり、またかかわりをもたせられているか、またいたか、ということを確認し、その競技力向上に支障をきたしているものや、選手が競技生活を続けていく上で大切であるものを明らかにしていくことを一つの目的としている。

### 3. 調査の概要及び結集

本研究で用いられた調査は、日本体育協会スポーツ科学委員会が昭和56年度から3年間の継続研究で取り組む「女子のスポーツ適性に関する研究」の中でスポーツ社会学研究班が作成した参加8県共通の調査質問紙によるものである。質問紙の内容は文末に基礎集計結果でわかる通り、質問数48全質問項目275に及ぶ莫大なものであり、対象は第36回国民体育大会出場の新潟県代表選手（夏季秋季大会のみ）である。

全国比較は中央班が取り扱う問題として研究を進めているが、新潟県では県関係の集約を本年度の中心課題とし、次の手順により調査を進めた。

調査対象は第36回国民体育大会新潟県選手全員とし、県体育協会を通して7月下旬から8月上旬に調査票を配票した。成年の部の回収率は73.5%（308）であった。また同一調査用紙を少年の部に、またそれを部分的に修正や削除をして中学生用に作成し県中学校総合体育大会参加者にそれぞれ配票回収をした。なお本研究では成年に限定して男女別の基礎集計結果に基づき述べていく。

成年の有効回収標本数は男子204（72.9%）女子104（77.6%）の計308であった。それらは同一事業所に所属する種目が少なく、合宿等はずらずと配布回収は少年に比較して困難であり、1回の督促を行ったが種目により協力の度合いが異なり、種目を中心とした分析は困難となった。有効回収標本数は体操8、バレーボール43、バスケットボール22、ハンドボール23、サッカー15、ラグビー23、ホッケー27、ソフトボール27、軟式野球14、軟式庭球6、卓球4、バドミントン4、レスリング8、柔道5、相撲8、弓道6、空手道5、銃剣道3、アーチェリー7、ライフル射撃7、クレー射撃8、馬術9、山岳3、水泳10、ヨット8、カヌー2、フェンシング3である。夏季・秋季大会では競上競技、テニス、ボクシング、ウェイトリフティング、剣道、自転車、漕艇は回収できなかった。なお冬季種目は中央企画班の計画や配布回収の可能性の考慮などから今回の調査対象から除外してある。

#### 1) 基礎的項目

平均年齢は男子25.8歳、女子20.9歳。平均身長男子173.4 cm（標準偏差6.9 cm）女子162.0 cm（標準偏差5.9 cm）平均体重男子69.3 Kg（標準偏差10.3 Kg）女子56.3 Kg（標準偏差5.6 Kg）である。以上の項目以外の全項目については男女別のデータを文末資料としてまとめてあるので参照されたい。

結婚している者は男子20.8%、女子1.0%であり、子供ありと答えたもの男子18.6%、女子1.0%である。職業は男子では自営業6.3%、勤め人87.5%、無職6.3%であり、女子は勤め人90.3%無職9.7%である。最終学歴は男子・女子それぞれの義務教育終了は2.9%、1.0%、高校終了は37.7%、53.4%、大学終了程度は56.5%、38.3%である。

また出身高校については男子・女子それぞれ共学が75.0%、69.2%、男子校25.0%、女子校29.8%であった。公・私立別では男子ではそれぞれ72.7%、27.3%、女子ではそれぞれ77.0%、22.0%であった。また課程別では男女のそれぞれの比率は職業課程35.8%、34.0%、普通課程38.8%、39.8%、併設校25.4%、25.2%であった。高校の進学についての傾向はほとんど進学が13.2%、21.2%進学者が多いが16.2%、26.9%、就職者が多いが70.0%、51.0%である。スポーツ活動は図3の通りスポーツ活動が盛んな学校が8割強を占めている。

男子(N=203)	44.1%	38.2%	17.6%
女子(N=104)	38.5%	44.2%	16.3%

在学せず1.0%

図3 高校のスポーツレベル

ところでこの基本項目は結婚以下のことについては調査票の最終頁に質問項目があるが、その前頁に女子のみが回答する2問があり、約半数の男子は最終頁の基礎項目には回答しておらず、本調査票の質問文配置については全くの失敗であり、男子の回答は信頼できるデータとしては問題がある。



## 2) スポーツ及び専門職種への初期社会化

小学校前にスポーツを行うことに関心を持ったと回答した者は男子で10.8%、女子で6.7%いるが最頻値は男女共小学校4～6年生の間(36.9% 51.9%)で高校以上になると男子3.0%、女子2.9%と低くなる。なお累積比率は図4の通りである。

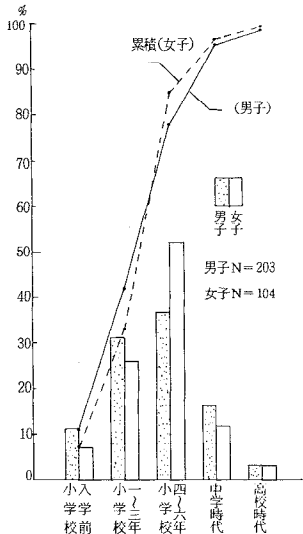


図4 スポーツを行うことへの初期社会化(Q.1)

現在の専門種目を始めた年齢は小学校前までが男子で26.1%、女子26.0%であり、中学時代はそれぞれ25.1%、39.4%、高校時代が31.5%、30.8%で、大学またはそれ以降に現在の専門種目に取り組んだのは17.3%、3.9%である。これは種目の特性にもよるものと思われるが、22歳以降での国体出場及び男女の差の開きは意味あるデータと思われる。

現在の専門種目を初めて行ったのは、男女とも学校の運動部やクラブが多く(62.4%、69.2%)学校の体育での授業は男女に多少の差が見られる(7.9%、15.4%)学校以外の場合は営利、非営利を含めて余り多いとはいえない。また興味を持つようになったきっかけは図6の通りであるが実際に行く(学校で習って、誰かと行って)というprimaryな接触経験が男女とも半数を占めている(男子49.2%、女子57.7%)。このことは残り半数が直接身体を動かさずに(secondary)興味

を持っていたことを示している。

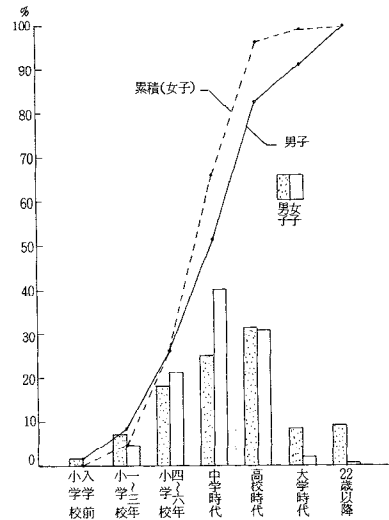


図5 現在の専門種目を行うことへの初期社会化の時期(Q.2)

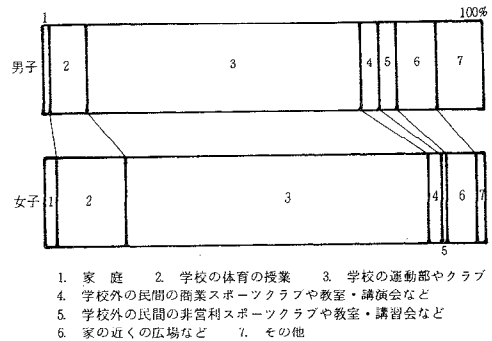


図6 専門種目を初めて行った場所(Q.3)

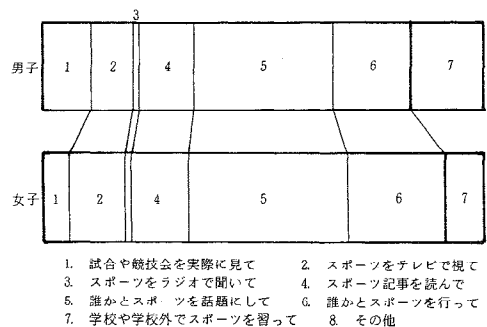


図7 現在の競技種目へのきっかけ(Q.4)

専門種目を本格的に始めることを決めたのは一学年の間では高校一年生が多く(29.6%、28.8%)高校全体では男子が37.9%、女子が41.6%、中学時代は男子32.0%、女子47.3%で男子では7割、

女子では9割が中高時代に本格的に始めている。

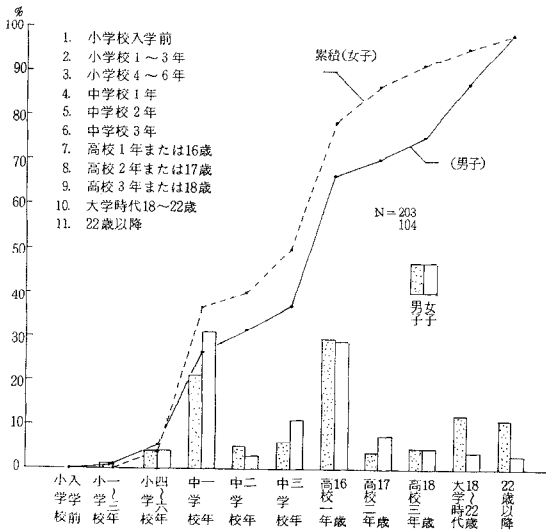


図8 現在の競技種目を本格的に始めようとした時期(Q. 5)

またその決定をしたのが自分であるとしている者は男子76.1%、女子67.6%であり、それ以外の人が入っている内訳は学校やクラブの顧問、監督コーチの先生が男女とも多く(49.0%、54.5%)が第1位を占め、男子では強いて先輩や上級生(17.6%)父(7.8%)であるのに対し、女子では母(9.1%)クラブ関係以外の先生(9.1%)である。

専門種目を本格的に努める前に主に行っていた種目があると回答した者は男子68.0%、女子44.2%で、その内訳は男子では軟式野球31.4%、バスケットボール10.0%、バレーボール8.6%、女子ではバレーボール26.1%、水泳15.2%、卓球13.0%で、男子21種目、女子12種目とその範囲は多少差がみられる。

3) 専門種目への社会化

現在の専門種目の公式試合への初参加平均年齢は男子で16.4歳(標準偏差4.9歳)女子は14.1歳(標準偏差2.0歳)であり最頻値は男子は16歳、21.3%、女子は13歳、34.0%である。またその際の出場チームは男女とも学校が多い(男子77.2%女子92.3%)。

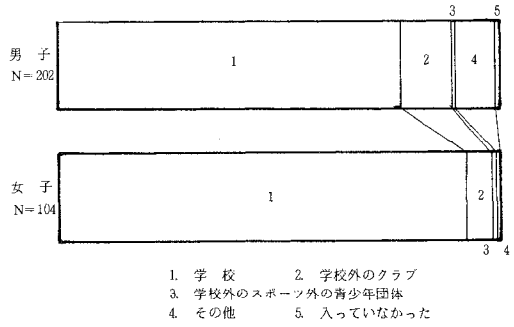


図9 公式試合の所属チーム(Q. 10. Q. 11)

専門種目の公式試合出場頻度は年齢とともに増加の傾向を示し、最頻値の移動を示せば男子は小学校1~3年、4~6年、中学時代では84.6% 71.1%、39.1%と参加しないが多く、高校時代、大学時代、現在が月1.2回で41.5%、46.6% 46.9%となっている。女子は小学校1~3年、4~6年が92.5%、84.1%と参加しないが多く、中学校高校は年1.2回で47.8%、45.5%であり、大学、現在は45.6%、46.3%と月1.2回と徐々に増加する傾向を示している。

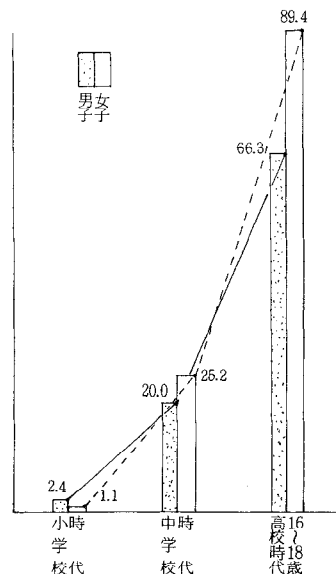


図10 ブロック大会以上の出場時期(Q. 15)

また小学校時代に特別なスポーツ合宿（専門種目に限らないに参加したこと有り）と回答した者は男子で28.2%、女子で33.7%である。また専門種目のブロック大会以上の参加の推移は図10の通りである。

各年代ごとの最高レベルの試合出場は表1の通りであり、小学校時代では男子で33.4%、女子で16.7%が試合に全く出場していないと回答しているが、県レベルの試合に出ているものが男子で7.1%、女子で4.4%あった。中学時代では県大会以上の出場が男子で48.9%、女子で57.5%に達し、参加していない者は男子45.0%、28.3%と女子の方が少ない。高校時代は全国大会レベル以上のものが男子で58.0%、女子で76.9%にもなり、参加しない者は16.6%、2.9%であり、これは専門の種目を始めるのが男子に大学以降のものが多いこととも関連している。

表1 合宿参加比率

	小学校 1～3年	小学校 4～6年	中学時代	高校時代
男子	1.7	9.4	30.5	67.7
女子	-	7.7	48.5	83.7

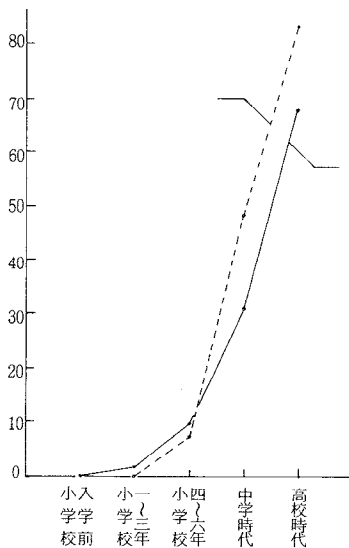


図11 現在の専門種目の合宿や特別練習の累積出席率 (Q. 14)

練習の場所までの所要時間は小学校時代は15分以内が多く、中学時代では男子が15分以内、女子が15～30分が多く、高校になると30分以上が多くなる。これは学校を母体とした活動を裏づけるものと思われる。

4) 重要な他者

専門種目を続けていく上で強く励ましてくれた人、反対した人がいたと回答した比率は図12の通りである。上へ行くほどはげましも反対も多くなるが女子は男子に比較してはげましも多く、反対の率も多少多いようである。はげましの内訳は中学時代では母、父の順であり、高校になると女子では身近な知人も多くなる。また反対した人の内訳では高校時代の女子に母親の13.9%が一番多かった。

スポーツの腕前についての推移は図13の通りであるが、小学校では1割ぐらいが普通以下と答えている。もちろん年齢が高くなるに伴い技術の差が意識されてくるが、中学校時代でも4割ぐらいは平均またはそれ以下という認識である。

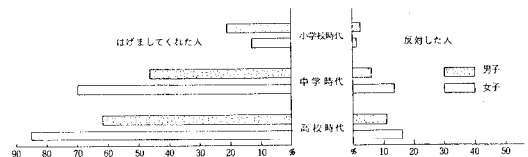


図12 専門種目を続ける上で励ましてくれた人 反対した人 (Q. 17 Q. 18)

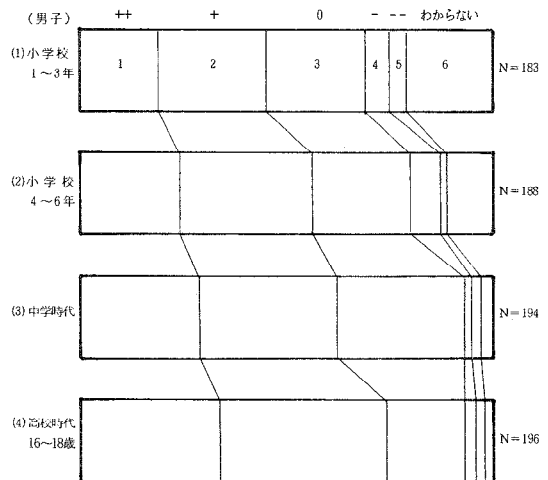
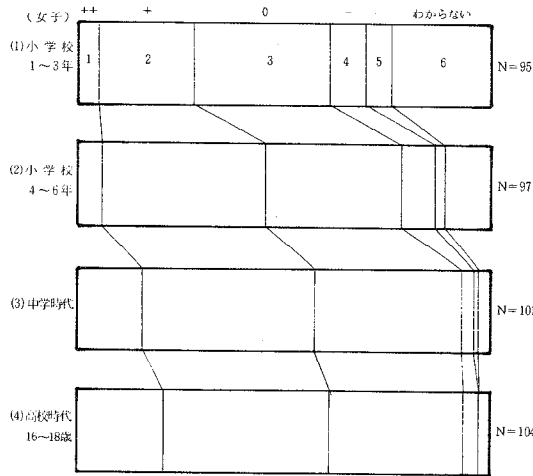


図13 スポーツの腕前の近所や学校の同年齢の人達との比較 (Q. 21)



それぞれの時期でのスポーツとのかかわり方は小学校4～6年以降非常に好き、まあ好きというところで男女とも同様であるが、いずれの時期にも1割程度「なんとなく」「仕方なく」という回答があった。また所属運動部の雰囲気は「なごやかでくつろげる」というものは1割程度で、その感じ方は女子に少なく、特に高校時代は約半数が「厳しさと緊張感の多いクラブ」に所属していた。大学以降になると「厳しい面となごやかな面の両方がある」と回答するクラブ所属が多くなってくる。

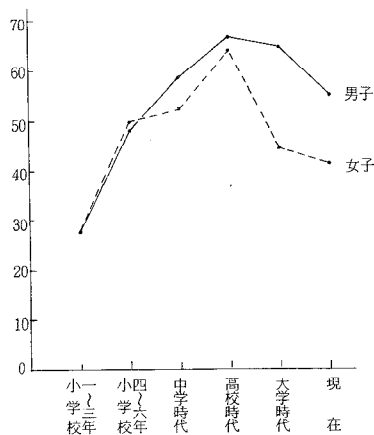


図14 スポーツとのかかわり方(Q. 23)

クラブでの練習との関り方については、中学時代以降6割～7割が積極的に練習をし、クラブも楽しかったと答えているが、1割前後は練習への参加の仕方にかかわらずクラブになじめなかったと回答をしている。

指導者はいずれの時期においても指導者の能力や専門的知識にもとづいた指導をすると回答した

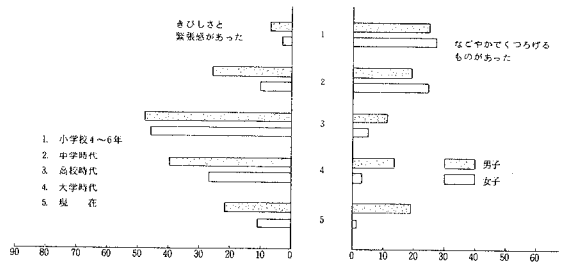
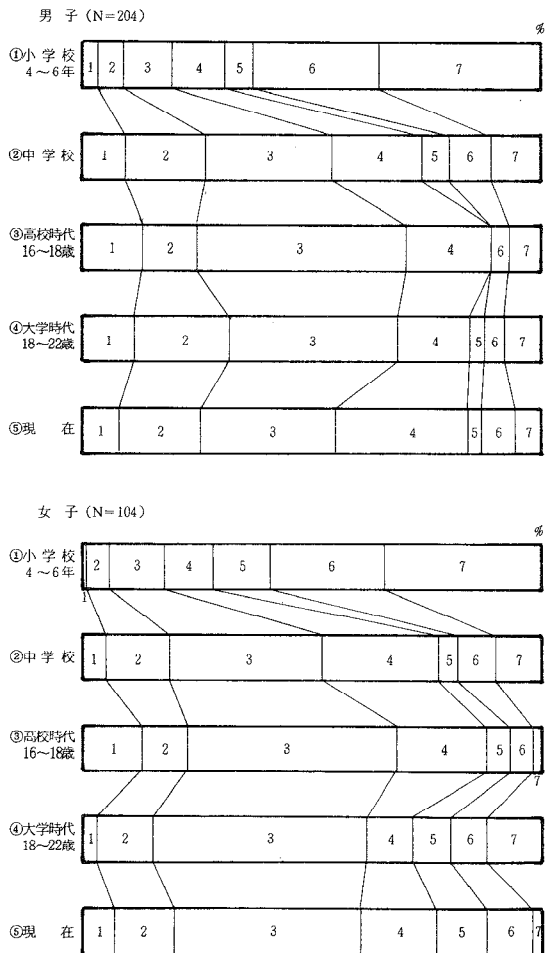


図15 所属クラブの雰囲気について(Q. 24)



1. 指導者の地位や権威あるいは規制やきまりなどをよりどころとしたタイプの指導。
2. チームの個人の成績やできばえに主眼を置いたタイプの指導。
3. 指導者のもっている能力、専門的知識にもとづいたタイプの指導。
4. 指導者の人柄やクラブ員との人間関係をよりどころとしたタイプの指導。
5. その他。
6. わからない。
7. 指導者がいなかった (いない)

図16 指導者の指導タイプ(Q. 26)

人が多く（3～4割）地位や規則や権威をよりどころとする指導が1割、人間関係を中心とした指導が2割であった（図16）。また指導計画については個人が作成して見てもらったり自分で行ったりは殆んどなく、またクラブ員全員で相談することも余りなく、クラブ員外の顧問や監督コーチと一部上級生が決定するものが中学校・高校・大学とも高率を占めている。（中・高・大それぞれ男子62.9%、63.6%、62.6%、女子73.7%、84.3%、73.8%）

指導者の指導のタイプ、人柄のタイプ、練習方法決定のタイプは男女とも各年代で同傾向であると思われるが、その評価については男子に比較して女子がわからないと回答する率が大学時代や現在になるにつれ高くなることは、女子のスポーツへの取り組み方を考える際の一つの視点となると思われる。練習決定方法のタイプへの満足、不満足について判断を保留した者の年代別推移は図17の通りである。

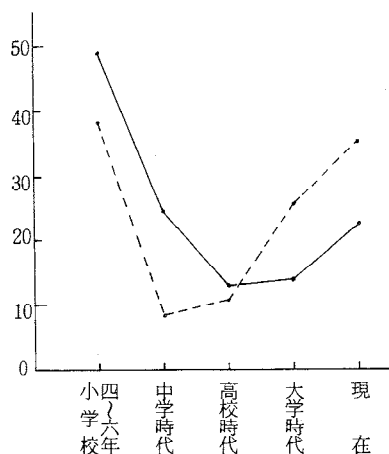


図17 練習決定方法について満足、不満足  
の判断保留(Q. 28)

これまでの選手生活に特に大きく影響したことからとしては、男子では1位にあがるものは順に  
よい指導者に恵まれたこと（31.3%）、運動クラブに恵まれたこと（21.4%）、家族等の励ましや理解（14.4%）、があり、女子はよい指導者に恵まれたこと（51.5%）、家族等の励ましや理解（22.3%）、があげられている。自分自身の努力は第3位に選択したものの1位（男子19.5%、女子15.5%）で

素質はあまり上ってこない。

#### 5) 競技生活の評価

これまでの競技生活を通じて「いくらか」また「非常に」犠牲にしてきたことがら男女とも自由時間（男子85.5%、女子71.4%）が第1位であり、次に男子では金銭（55.8%）スポーツ以外の趣味、教養活動（53.1%）職業上の事柄（49.5%）と続き、女子ではスポーツ以外の趣味、教養活動（61.5%）金銭（52.9%）学校での勉学（39.0%）である。いくらか犠牲にしたという項目全体では男女に差はみられないが、非常に犠牲にしたという項目全体では女子は男子の6割程度しかない。また有意な差がみられたものは政治的活動、自由時間、性生活（ $P < 0.001$ ）、職業上の事柄、家事、育児（ $P < 0.05$ ）であった。

競技活動を続けたことが何に役立ったかという質問では男女とも健康・体力（73.5%、72.1%）社交・交際（65.7%、69.2%）就職（61.8%、68.3%）の順である。

またこれまで競技をやめたいと思ったことがある。実際やめたことがあると回答している人は男子では75.5%、女子では96.1%あった。その理由の第1位は男女とも練習のつらさ（26.2%、24.2%）であり、男子は続いて健康・体力（10.1%）競技成績の低下（10.1%）であり、女子は仲間との人間関係（20.2%）束縛されるのがいや（11.1%）と男子と内容が異っている。

また女子が競技を続けていけない理由について男女とも一番に結婚、家事、育児などの家庭的な要因をあげている（63.6%、55.8%）が、第2位に男子はやる気などの精神的要因（22.3%）があり、女子では体力など身体的要因（23.1%）をあげている。体力などの身体的要因については男子は9.8%しかなく、男女の認識のズレが見られる。

選手への道を歩んできたことの評価については男女とも7割程度が「大変よかった」と回答しているが、これまでを肯定的に評価できないものが男子で4.0%、女子で3.9%いる。そしてもう一度チャンスがあればスポーツ選手の道を選ぶかという問について男子は70.1%が「選んでみたい」

表2 競技生活を通して犠牲にしたことから

		全然犠牲に しなかった	それほど	どちらとも いえない	いくらか	非 常 に 犠牲にした	わからない
学校での勉強	男	11.0	27.2	19.4	25.1	14.1	3.1
	女	7.0	28.0	23.0	32.0	7.0	3.0
進 学	男	32.8	28.6	19.8	10.9	5.2	2.6
	女	40.0	18.0	23.0	8.0	8.0	3.0
就 職	男	43.1	21.8	16.5	7.4	6.4	4.8
	女	43.4	15.2	20.2	10.1	4.0	7.1
職業上の事柄	男	18.9	14.3	13.3	34.7	14.8	4.1
	女	24.9	11.9	20.8	21.8	7.9	12.9
金 銭	男	10.1	18.1	15.1	32.2	23.6	1.0
	女	5.8	13.5	14.4	43.3	9.6	13.5
結 婚	男	27.7	11.4	15.2	9.2	8.2	28.3
	女	26.0	4.2	19.8	5.2	4.2	40.6
家事・育児	男	24.3	8.5	12.4	11.9	9.6	33.3
	女	24.2	2.1	10.5	9.5	—	53.7
健康・体力	男	27.3	25.8	15.2	19.2	9.6	3.0
	女	23.3	20.4	21.4	29.1	2.9	2.9
性 生 活	男	26.9	10.8	23.1	7.0	8.1	24.2
	女	29.0	2.2	9.7	1.1	1.1	57.0
専門以外の スポーツ活動	男	13.8	16.8	18.9	29.1	14.8	6.6
	女	16.8	11.9	18.8	21.8	6.9	23.8
スポーツ以外の 趣味・教養活動	男	11.1	17.2	17.7	37.4	15.7	1.0
	女	5.8	11.5	16.3	50.0	11.5	4.8
政治的活動	男	30.1	4.8	22.6	3.8	5.4	33.3
	女	32.7	2.0	13.3	1.0	—	51.0
自 由 時 間	男	7.0	11.1	9.5	26.2	35.2	1.0
	女	—	5.8	8.7	44.2	41.3	—

と答えているのに対し、女子は38.8%しかなく、「選びたくない」という回答は男子7.0%、女子12.6%で女子の方が消極的な傾向がみられる。このことは、今後のスポーツとの関り方について女子は「大会に出ないでスポーツを楽しむ」が62.5%でトップであり、男子は「今まで通りアマチュア競技者として」が66.2%で一番であることや「競技審判員として」の男女の%が25.5%と5.8%であることなどからも裏づけられる。

また「スポーツの勝敗は人生の勝敗に通ず」と「スポーツはスポーツ、人生は人生」という二つの考え方について前者に賛成する者は男子で35.8%、女子は26.5%、後者に賛成するもの男子44.5%、女子38.2%であり、また実際については前者であるものは男子38.3%、女子32.3%、後者であるものが男子は51.0%、女子32.4%である。考え方の傾向は男女とも似ているが、わからないと回答した者が男子19.7%、女子35.3%と自分のスポーツへの接し方をはっきりさせない者が女子に多い。

本研究は女子のスポーツ適性ということで取り組まれていることは前述したが、スポーツをする上で「女性」であるということで不利益な扱いを受けたことがあるかという女子のみに行った質問に対しては図18の通り「よく経験した」「時々経験した」を加えると年代が上るにつれ多くの不利益を感じる傾向がみられる。

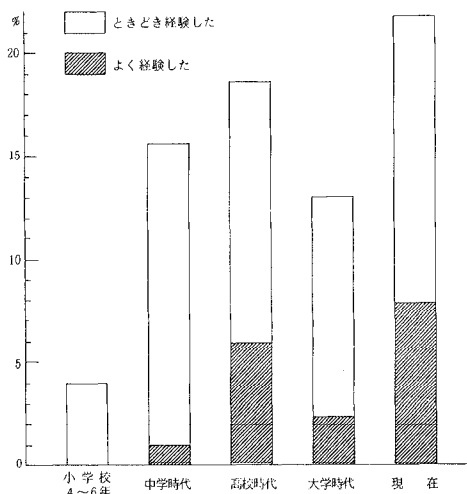


図18 女性であることで不利益を受けたこと(Q. 43)

#### 4. 結語及び今後の課題

以上男女別の単純集計を中心に結果を見たが、男女に差の見られる項目は具体的に顕著な形であがってくるものは結果の中でその都度述べたが総じて少ない。しかしその中で強調しておきたいのは専門種目への社会化の過程で極めて重要だと思われるクラブ活動における指導に関連する評価の男女差の問題である。このことは現実の指導が男女全く同じになされて男女の受け取り方が異なるということを示している。短絡的に断定することは現時点では不可能である。以下に指導のタイプ(Q. 26)指導者の人柄のタイプ(Q. 27)、練習計画決定方法のタイプ(Q. 28)の3つについての評価の仕方をそれぞれ小・中・高・大の年代別に関連するかどうかの表を示してある。

表3 指導者のタイプと評価の関連

		小学校時代	中学校時代	高校時代	大学時代	現在
男子	指導タイプ	***	***	***	**	**
	人柄タイプ	***	***	***	***	***
	練習計画タイプ	***	**	—	*	*
女子	指導タイプ	*	***	***	***	***
	人柄タイプ	***	***	***	***	***
	練習計画タイプ	—	—	—	*	—

(\*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05)

これによれば指導のタイプや人柄のタイプは男女に顕著な差はないが練習計画決定については多少の差が見られる。このことは単に練習計画決定という1つのことではなく、女子が練習を続けていく上での障害となる事項(Q. 33)の「人間関係」や「束縛されるのがいや」という理由と関連し、不満を持ち続けながら練習をしていく姿が男子に比較すると強いことと関連すると思われる。またそれは女子がスポーツとの今後の取り組みで「競技関係者として」は余り関らない傾向や「もう一度チャンスがあったらまた競技選手の道を選ぶか」ということへの肯定的回答の低さと関連させると

男子に比較して女子の競技生活への消極的取り組みの実態が見られるが、それは女子が競技生活を続けていけない理由の男女の認識の差（男子は精神的力をあげ、女子は体力的要因をあげる）や、女性であるという理由で不利益をこうむる率が年齢とともに増加する傾向にみられるように、社会との関りで女性の立場をよく理解していないことから生ずる面も少なからずあると思われる。

また全体的傾向として判断を求める質問に対し女子は男子に比較して「わからない」とする傾向が多く、この「わからない」と回答するのは、判断がつかないのか、判断できるし、できているが表明したくないのか、単に判断がめんどうくさいのかが不明であり、その不明を究明すれば男女の差は縮まるかもしれないし、広がるかもしれない。とにかくその「わからない」とする背景をそのままの姿で認め、その上に「わからない」の内容をより正確に判断するといずれなのかを判別する作業を通して、女子一流競技選手が抱えている問題に切り込まねばならないと思われる。

個人の価値観に従った判断に特別介入する必要はないが、一つの事実として一流競技選手であったが故に何か犠牲にされ、仮に競技生活のチャンスがあってもやりたくないと表現する人がいるとすれば問題であり、また本人の意志で練習していればともかく、何らかの外的な力で強制され継続せざるを得なかった傾向が否定できないとすれば問題である。スポーツの活動そのものは基本的には全く個人レベルのものであり、それは現実の空間には理想的には何ら影響を及ぼさないのがタマエのはずであり、その共通理解の上で営まれるのが各種アマチュアの競技会であるはずである。

スポーツは両刃の剣であり、楽にもなれば毒にもなる。健康、豊かな人間形成、何らかのプラス意識の高揚といった錦の御旗のみが通用する時代ではなく、そのマイナス面を個人レベル、集団レベル、社会レベルでも検討しそれらの相互の関りの中で競技力向上の問題、普及発展の問題を論議せねばならないと思われる。そのような意味で単にスポーツはいいものとする「神話」から離れ、謙虚に事実を捉え直すことは重要であり、その事

実に基づき今後の展望を見直す必要がある。それには貴重なデータの多面的な検討や既成の諸データとの比較等が不可欠であり、また同一質問紙による異なる対象への研究や、同一対象へのスポーツへの社会化の継続的研究も重要課題となつてこよう。

なおクロス集計や多変量解析を中心とした検討及び少年のデータの基礎集計、中学生データの検討、それら相互の総合的な比較検討やそれらをふまえた競技力向上、普及振興の観点からみた国民体育大会のあり方の問題は次年度の課題としたい。

## 参 考 文 献

- 1) Caillois, R 多田、塚崎訳「遊びと人間」講談社 1971
- 2) 第36回国民体育大会滋賀県実行委員会「第36回国民体育大会資料」1979
- 3) Kenyon, G.S " The Use of Path Analysis in Sport Sociology with Special Reference to Involvement Socialization ", International Review of Sport Sociology Vol. 5 1970
- 4) Kenyon, G.S and McPherson, B " Becoming Involved in Physical Activity and Sport ; A Process of Socialization ", Academic Press 1972
- 5) Kenyon, G.S and McPherson, B " An Approach to the Study of Sport Socialization ", International Review of Sport Sociology Vol. 9 1974
- 6) スポーツ社会学国際調査委員会 「一流競技者のスポーツへの社会化に関する調査研究報告」道和書院 1981
- 7) 体育社会学研究会編「スポーツ参与の社会学」道和書院 1977



## 「スポーツ競技者に関する調査」基礎集計（男女別）

## 1. あなたが初めてスポーツ（現在専門としている競技種目に限らない）を行うことに興味を持ったのは大体いつ頃ですか。

	小学校前	小学校1～3年	小学校4～6年	中学	高校	その他
男（203）	10.8	31.0	36.9	16.7	3.0	1.5
女（104）	6.7	26.0	51.9	11.5	2.9	1.0

## 2. あなたが現在の競技種目を初めて行ったのは、大体いつ頃ですか。

	小学校前	小学校1～3年	小学校4～6年	中学	高校	大学	その他
男（203）	1.5	6.9	17.7	25.1	31.5	8.4	8.9
女（104）	—	4.8	21.2	39.4	30.8	2.9	1.0

## 3. あなたが現在の競技種目を初めて行ったのは、つぎのどこですか。（主なもの一つ）

	家庭	体育の授業	学校の運動部	学校外のクラブ など（営利）	学校外のクラブ など（非営利）	家の近く	その他
男（203）	2.0	7.9	62.4	4.0	4.0	9.4	10.4
女（104）	2.9	15.4	69.2	2.9	1.0	6.7	1.9

## 4. あなたが現在の競技種目に興味を持ったきっかけは何ですか。（主なもの一つ）

	試合観戦	テレビで	ラジオで	記事を読んで	話題にして	行って	習って	その他
男（203）	11.3	9.4	—	1.0	12.8	31.5	17.7	16.3
女（104）	6.7	12.5	—	1.0	13.5	35.6	22.1	8.7

## 5. ところで、あなたが現在の競技種目を本格的に始めようと決めたのは、つぎのいつですか。

	小学校前	小1～3年	小4～6年	中1	中2	中3	高1	高2	高3	大学
男（203）	—	1.0	3.9	21.2	4.9	5.9	29.6	3.4	4.9	12.3
女（104）	—	—	3.8	32.7	2.9	10.6	28.8	7.7	4.8	3.8
	22以降	わからない								
男（203）	11.3	1.5								
女（104）	2.9	1.9								

## 6. それを決めたのは、誰ですか。

	自分以外の人	自分と自分以外の人	自分で
男（203）	4.5	19.4	76.1
女（104）	1.0	31.4	67.6

## 7. 自分以外の人の内容（主な人ひとり）

	父	母	兄弟姉妹	祖父母親類	近所の人・知人	学校のクラブの先生	その他の先生
男（51）	7.8	—	5.9	2.0	5.9	49.0	3.0
女（33）	3.0	9.1	6.1	—	6.1	54.5	9.1
	先生以外のコーチ		先輩上級生	その他			
男（51）	5.9		17.6	2.0			
女（33）	6.1		6.1	—			

8. あなたが現在の競技種目を本格的に始める前に、主に行っていたスポーツはありましたか。

	あ る	な い
男 (203)	68.0	32.0
女 (104)	44.2	55.8

9. 8のスポーツ名

	体 操	陸 上	バレーボール	バスケットボール	ハンドボール	サッカー	ラグビー	アイスホッケー		
男 (138)	2.9	5.7	8.6	10.0	0.7	5.0	0.7	0.7		
女 (46)	2.2	8.7	26.1	10.9	4.3	—	—	—		
	ソフトボール	軟式野球	硬式野球	軟式テニス	硬式テニス	卓 球	バドミントン	柔 道	剣 道	
男 (138)	1.4	31.4	2.1	4.3	0.7	3.6	0.7	1.4	3.6	
女 (46)	6.5	—	—	4.3	—	13.0	4.3	—	—	
	相 撲	スキー	水 泳	ゴルフ	弓 道	馬 術				
男 (138)	1.4	0.7	6.4	1.4	—	—				
女 (46)	—	—	15.2	—	2.2	2.2				

10. あなたが現在の競技種目の公式の試合や競技会に出場したのは、何歳の頃ですか。

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
男 (202)	2.5	3.5	7.4	11.4	13.4	7.4	21.3	10.9	4.0	1.5	2.5	3.0	3.0	2.0
女 (103)	1.9	3.9	10.7	34.0	5.8	11.7	22.3	5.8	2.9	1.0	—	—	—	—
	24	25	26	28	30以降									
男 (202)	1.5	1.5	0.5	0.5	2.5									
女 (103)	—	—	—	—	—									

11. また、その時あなたが所属した出場チームや団体は、つぎのどれに入りますか。

	学 校	学校外のクラブ	学校外のスポーツ以外のクラブ	その他	入ってなかった
男 (202)	77.2	11.9	—	0.5	9.4
女 (104)	92.3	5.8	—	1.0	—

12. つぎのそれぞれの時期に、あなたは現在の競技種目の公式の試合や競技会に年間どの位出場しましたか(していますか)。

		週1～2回位	月1～2回位	年1～2回位	参加しなかった	わからない
(1)	小学校 男 (136)	—	—	3.7	84.6	11.8
	1～3年 女 (80)	—	—	1.2	92.5	93.8
(2)	小学校 男 (149)	0.7	4.7	16.1	71.1	7.4
	4～6年 女 (82)	—	—	12.2	84.1	3.7
(3)	中学時代 男 (169)	0.6	24.3	33.1	39.1	3.0
	女 (90)	—	12.2	47.8	26.7	13.3
(4)	高校時代又は 男 (183)	4.9	41.5	32.8	13.7	7.1
	16～18歳頃 女 (101)	—	38.6	45.5	2.0	13.9
(5)	大学時代又は 男 (176)	6.3	46.6	30.7	8.0	8.5
	18～22歳頃 女 (79)	—	45.6	40.5	2.5	11.4
(6)	現 在 男 (194)	5.2	46.9	38.7	1.0	8.2
	女 (95)	2.1	46.3	36.8	1.1	13.7

13. あなたは小学校6年生までに、スポーツ（現在の競技種目に限らない）のための特別なスポーツ教室や合宿練習、講習会などに参加しましたか。

	参加したことがある	参加しなかった
男(202)	28.2	71.8
女(104)	33.7	66.3

14. つぎのそれぞれの時期に、あなたは現在専門している競技種目のための、特別なスポーツ教室や合宿練習、講習会などに参加しましたか。

		参加した	参加しなかった
(1) 小学校入学前	男(176)	—	100.0
	女(89)	—	100.0
(2) 小学校 1～3年	男(176)	1.7	98.3
	女(89)	—	100.0
(3) 小学校 4～6年	男(181)	9.4	90.6
	女(91)	7.7	92.3
(4) 中学時代	男(187)	30.5	69.5
	女(97)	48.5	51.5
(5) 高校時代又は 16～18歳頃	男(192)	67.7	32.3
	女(104)	83.7	16.3

15. つぎのそれぞれの時期に、現在の競技種目であなたが出場した最高のレベルの試合や競技会はどれですか。

		市町村大会	都道府県大会	ブロック大会	全国大会	国際大会	参加しなかった
(1) 小学校時代	男(171)	16.4	4.7	1.2	0.6	0.6	76.6
	女(90)	12.2	3.3	1.1	—	—	83.3
(2) 中学時代	男(180)	6.1	28.9	10.6	9.4	—	45.0
	女(99)	14.1	32.3	13.1	12.1	—	28.3
(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(193)	0.5	16.6	8.3	52.3	5.7	16.6
	女(104)	—	7.7	12.5	73.1	3.8	2.9

16. つぎのそれぞれの時期に、その当時あなたが行ってた競技種目の練習場所までの位かかりましたか。（普通の交通方法で）

		15分以内	15～30分	30分以上	なかった
(1) 小学校時代	男(174)	34.5	10.3	3.4	51.7
	女(91)	20.9	11.0	3.3	64.8
(2) 中学時代	男(188)	44.7	27.7	12.2	15.4
	女(100)	40.0	43.0	8.0	9.0
(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(195)	30.8	17.4	45.1	6.7
	女(103)	27.2	24.3	16.6	1.9

17. つぎのそれぞれの時期に、あなたが専門としている競技種目をやることについて、強くはげましてくれた家族や親類、知人はいましたか。また、それは誰ですか。（このページの下の枠の中からあてはまる人の番号を選んで記入してください。）

		いた	いなかった	わからない
(1) 小学校時代	男(179)	20.7	54.2	25.1
	女(86)	12.8	57.0	30.2

		いた	いなかった	わからない
(2) 中学時代	男(187)	46.0	39.6	14.4
	女(95)	69.5	17.9	12.6
(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(193)	63.2	29.0	7.8
	女(103)	85.4	11.7	2.9

17.SQ. いたと答えた人の内訳(重答)

		父	母	兄弟姉妹	祖父母、親類	身近な知人	その他
(1) 小学校時代	男(179)	13.9	13.0	8.7	4.0	4.0	2.9
	女(86)	7.0	7.9	5.1	2.1	2.1	1.1
(2) 中学時代	男(187)	29.2	31.2	20.1	9.2	18.5	11.9
	女(95)	50.0	54.8	38.7	24.0	42.4	19.1
(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(193)	46.5	48.5	35.9	29.4	35.4	20.8
	女(103)	77.1	79.7	72.4	55.6	74.2	54.3

18. つぎのそれぞれの時期に、あなたが専門としている競技種目をやることについて、反対した家族や親類、知人はいましたか。また、それは誰ですか。

(このページの下の枠の中からあてはまる人の番号を選んで記入してください)

		いた	いなかった	わからない
(1) 小学校時代	男(176)	2.3	84.1	13.6
	女(85)	1.2	83.5	15.3
(2) 中学時代	男(182)	5.5	89.0	5.5
	女(95)	13.7	82.1	4.2
(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(192)	10.9	85.9	3.1
	女(104)	16.3	83.7	—

18.SQ. いたと答えた人の内訳(重答)

		父	母	兄弟姉妹	祖父母、親類	身近な知人	その他
(1) 小学校時代	男(176)	1.5	1.5	0.5	—	—	—
	女(85)	—	1.0	—	—	—	—
(2) 中学時代	男(182)	3.5	4.0	0.5	0.5	—	—
	女(95)	7.1	6.2	2.2	2.2	—	1.1
(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(192)	7.6	7.1	0.5	2.2	—	0.5
	女(104)	8.4	13.9	2.2	3.3	—	1.1

19. つぎのそれぞれの時期に、あなたの専門の競技活動に影響を及ぼした家族や親類、知人の中に、スポーツ(あなたの専門とする競技種目に限らない)をかなりやっていた人はいましたか。また、それは誰ですか。

(このページの下の枠の中からあてはまる人の番号を選んで記入してください)

		いた	いなかった	わからない
(1) 小学校時代	男(190)	21.7	66.1	12.2
	女(98)	17.3	74.5	8.2
(2) 中学時代	男(185)	41.1	53.5	5.4
	女(101)	43.6	52.5	4.0

		いた	いなかった	わからない
(3) 高校時代又は	男 (193)	43.0	52.3	4.7
16～18歳頃	女 (103)	53.4	44.7	1.9

19.SQ. いたと答えた人の内訳(重答)

		父	母	兄弟姉妹	祖父母、親類	身近な知人	その他
(1) 小学校時代	男 (100)	4.1	1.8	6.8	3.5	9.8	3.5
	女 (98)	2.2	2.2	10.3	3.3	1.1	2.2
(2) 中学時代	男 (185)	6.6	1.5	16.9	10.5	19.0	8.6
	女 (101)	4.8	4.8	25.9	11.8	22.1	3.2
(3) 高校時代又は	男 (193)	6.2	2.4	12.9	10.9	23.7	15.3
	16～18歳頃	女 (103)	3.9	3.9	31.9	9.3	33.8

20. つぎのそれぞれの時期に、あなたの家族や親類、知人の中に、あなたの専門とする競技種目と同じスポーツをかなりやっていた人はいましたか。また、それは誰ですか。

(このページの下の枠の中からあてはまる人の番号を選んで記入してください)

		いた	いなかった	わからない
(1) 小学校時代	男 (178)	20.2	73.0	6.7
	女 (97)	13.4	82.5	4.1
(2) 中学時代	男 (182)	33.5	63.7	2.7
	女 (102)	38.2	59.8	2.0
(3) 高校時代又は	男 (189)	37.0	61.9	1.1
	16～18歳頃	女 (104)	46.2	53.8

20.SQ. いたと答えた人の内訳(重答)

		父	母	兄弟姉妹	祖父母、親類	身近な知人	その他
(1) 小学校時代	男 (178)	3.4	0.6	7.2	2.3	6.7	3.4
	女 (97)	1.1	—	7.1	1.9	3.2	1.1
(2) 中学時代	男 (182)	3.4	0.7	11.2	7.7	16.4	5.9
	女 (102)	—	1.5	13.3	9.7	27.0	1.5
(3) 高校時代又は	男 (189)	3.6	0.7	11.8	7.6	21.6	8.8
	16～18歳頃	女 (104)	—	1.8	17.6	9.7	37.8

21. あなたのスポーツの腕前は、近所や学校の同年代の人達とくらべてどうでしたか。下の枠内にある尺度点の数字をそれぞれの時期に記入してください。

1. かなり上手      2. いくらか上手      3. ふつう      4. いくらか下手      5. かなり下手  
6. わからない

		1	2	3	4	5	6
(1) 小学校	男 (183)	19.1	26.2	24.0	5.6	4.4	20.8
	1～3年	女 (95)	5.3	23.2	31.6	9.5	6.3
(2) 小学校	男 (188)	24.5	33.0	23.4	6.4	1.6	11.2
	4～6年	女 (97)	6.2	39.2	33.0	8.2	2.1
(3) 中学時代	男 (194)	28.9	33.5	30.9	1.5	2.1	3.1
	女 (101)	15.8	41.6	35.6	3.0	1.0	3.0
(4) 高校時代又は	男 (196)	33.7	40.8	18.4	3.1	2.0	2.0
	16～18歳頃	女 (104)	20.2	40.4	32.7	3.8	—

22. あなたのこれまでの運動クラブ所属について、右側のそれぞれの時期にあてはまるものを下の枠内から選んで、その番号を記入してください。

1. 学校の運動クラブに入っていた(入っている)。
2. 学校外の運動クラブに入っていた(入っている)。
3. 1と2の両方に入っていた(入っている)。
4. 入っていなかった(入っていない)。
5. わからない。

		1	2	3	4	5
(1)	小学校 男(204)	8.6	2.7	0.5	81.8	6.4
	1～3年 女(94)	7.1	1.0	—	84.8	7.1
(2)	小学校 男(204)	37.2	9.4	1.0	48.2	4.2
	4～6年 女(102)	39.2	2.9	6.9	51.0	—
(3)	中学時代 男(195)	84.6	2.6	1.5	10.8	0.5
	女(104)	83.7	1.0	3.8	11.5	—
(4)	高校時代又は 男(197)	90.4	1.5	1.5	6.1	0.5
	16～18歳頃 女(104)	94.2	1.0	2.9	1.9	—
(5)	大学時代又は 男(204)	70.9	18.4	2.2	6.1	2.2
	18～22歳頃 女(84)	57.1	33.3	7.1	2.4	—
(6)	現在 男(188)	23.4	64.4	—	10.6	1.6
	女(98)	18.4	73.5	3.1	4.1	1.0

23. それぞれの時期での、あなたとスポーツのかかわり方について答えてください(スポーツは専門外のスポーツも含みます)。最も近いかかわり方のタイプを下の枠の中からえらんでください。

1. 非常に好きで、夢中になってやった(やっている)。
2. まま好きで、人並みにやった(やっている)。
3. あまり好きではなく、なんとなくやった(やっている)。
4. 好きではなく、仕方なくやった(やっている)。
5. わからない。

		1	2	3	4	5
(1)	小学校 男(187)	27.8	30.5	7.5	2.1	32.1
	1～3年 女(94)	29.8	31.7	6.4	6.4	25.5
(2)	小学校 男(189)	48.1	31.7	6.3	2.1	11.6
	4～6年 女(98)	49.0	35.7	5.1	1.0	9.2
(3)	中学時代 男(193)	59.1	29.5	7.3	2.1	2.1
	女(103)	52.4	38.8	3.9	1.0	3.9
(4)	高校時代又は 男(197)	66.5	26.4	6.1	1.0	—
	16～18歳頃 女(104)	64.4	30.8	2.9	—	1.9
(5)	大学時代又は 男(181)	64.6	28.2	3.9	1.7	1.7
	18～22歳頃 女(86)	44.2	44.2	8.1	1.2	2.3
(6)	現在 男(195)	55.4	39.0	4.6	0.5	0.5
	女(102)	41.2	44.1	3.9	1.0	9.8

24. あなたがそれぞれの時期に入っていた運動クラブのふんい気(ムード)について答えてください。下の枠内から最も近いふんい気のタイプを一つあげてください。

1. きびしさと緊張感があった(ある)。
2. なごやかで、くつろげるものがあった(ある)。
3. きびしい面となごやかな面と両方があった(ある)。
4. その他。
5. わからない。
6. 運動クラブに入っていなかった(いない)。

		1	2	3	4	5	6
(1)	小学校 男 (190)	6.8	24.2	15.8	2.1	14.2	36.8
	4～6年 女 (102)	2.9	26.5	7.8	2.9	11.9	48.0
(2)	中学時代 男 (197)	28.4	18.8	40.1	3.0	7.1	5.6
	女 (104)	10.6	24.0	50.0	1.0	3.8	10.0
(3)	高校時代又は 男 (197)	48.2	11.2	35.5	0.5	1.0	3.6
	16～18歳頃 女 (104)	45.2	4.8	47.1	1.0	—	1.9
(4)	大学時代又は 男 (184)	39.7	13.0	42.9	1.1	1.1	2.2
	18～22歳頃 女 (87)	26.7	2.3	58.1	1.2	9.3	2.3
(5)	現在 男 (200)	22.0	19.5	54.0	0.5	3.0	1.0
	女 (101)	10.9	1.0	72.3	2.0	11.9	2.0

25. それぞれの時期に、あなたが練習やクラブにどのようにかかわっていたかについて教えてください。

下の枠内から最も近いかわり方のタイプを一つあげてください。

1. 自分で積極的に練習をし、クラブにもなじんで楽しかった (楽しい)。
2. 積極的に練習をしたが、クラブはあまりなじめなかった (なじめない)。
3. 積極的に練習した方ではなく、またクラブにもなじめなかった (なじめない)。
4. 積極的に練習した方ではないが、クラブにはなじみ、楽しかった (楽しい)。
5. 積極的に練習をしたが、クラブには入っていなかった (入っていない)。
6. 積極的に練習もしなかったし、クラブにも入っていなかった (入っていない)。
7. その他。
8. わからない。

		1	2	3	4	5	6	7	8
(1)	小学校 男 (192)	23.9	2.6	2.6	9.4	7.8	20.8	6.3	16.7
	4～6年 女 (100)	29.0	2.0	1.0	9.0	8.0	29.0	9.0	13.0
(2)	中学時代 男 (195)	60.0	10.3	6.1	13.3	0.5	4.6	1.0	5.1
	女 (104)	61.5	7.7	1.0	18.3	2.1	5.8	2.9	—
(3)	高校時代又は 男 (198)	76.3	6.6	3.0	10.1	1.0	2.5	—	0.5
	16～18歳頃 女 (104)	71.2	3.8	—	16.3	—	1.9	5.8	1.0
(4)	大学時代又は 男 (182)	70.9	6.6	2.7	14.3	2.2	1.6	1.1	0.5
	18～22歳頃 女 (87)	60.9	12.6	1.1	10.3	1.1	1.1	4.6	8.0
(5)	現在 男 (198)	67.2	7.1	1.0	12.1	2.0	0.5	3.0	7.1
	女 (101)	52.5	7.9	3.0	10.9	2.0	—	8.7	14.9

26. それぞれの時期の指導者(顧問や監督、コーチなど)は、どのようにみんなを指導していましたか。

下の枠内から最も近い指導のタイプを一つあげてください。また、その指導はあなたにとって良かったですか。

1. 指導者の地位や権威あるいは規制やきまりなどをよりどころとしたタイプの指導。
2. チームの個人の成績やできばえに主眼を置いたタイプの指導。
3. 指導者のもっている能力、専門的知識にもとづいたタイプの指導。
4. 指導者の人柄やクラブ員との人間関係をよりどころとしたタイプの指導。
5. その他。
6. わからない。
7. 指導者はいなかった (いない)。

		1	2	3	4	5	6	7	良かった	良くな かった	わから ない
(1)	小学校 男(178)	3.9	5.6	10.1	11.8	6.2	27.0	35.8	43.4	2.8	53.8
	4~6年 女(88)	1.1	4.5	12.5	10.2	12.5	25.0	34.1	51.1	—	48.9
(2)	中学時代 男(190)	10.5	17.4	27.4	19.5	5.8	9.5	10.5	62.3	11.7	25.9
	女(99)	5.1	14.1	33.3	25.3	4.0	8.1	10.1	75.0	8.3	16.7
(3)	高校時代又は 男(193)	13.0	11.9	45.6	19.2	—	3.1	7.3	80.2	8.1	11.6
	16~18歳頃 女(101)	12.9	9.9	45.5	19.8	5.0	5.0	2.0	87.4	4.2	8.4
(4)	大学時代又は 男(181)	11.6	20.4	36.5	16.0	2.8	4.4	8.3	69.4	12.5	18.1
	18~22歳頃 女(85)	3.5	11.8	47.1	9.4	8.2	8.2	11.8	65.8	1.4	32.9
(5)	現在 男(195)	8.2	17.9	29.2	29.2	2.1	7.7	5.6	65.5	5.7	28.7
	女(100)	7.0	13.0	41.0	16.0	11.0	10.0	2.0	61.3	3.2	35.5

27. それぞれの時期のクラブの指導者の人柄はどのようでしたか。下の枠内から最も近い人柄のタイプを一つあげてください。

また、その人柄のタイプはあなたにとって好ましいものでしたか。

1. クラブの時も、ふだんの時も指導者らしい人。
2. クラブの時は指導者だが、ふだんは指導者らしくない人。
3. クラブの時も、ふだんの時も指導者らしくない人。
4. その他。
5. わからない。
6. クラブに入っていないなかった。

		1	2	3	4	5	6	好ましい	好ましくない
(1)	小学校 男(178)	26.4	6.7	2.8	1.7	29.2	33.1	45.3	6.6
	4~6年 女(90)	23.3	4.4	2.2	2.2	20.0	47.8	50.0	—
(2)	中学時代 男(189)	50.3	16.4	9.5	3.2	14.8	5.8	61.8	15.8
	女(99)	56.6	20.2	8.1	2.0	5.1	8.1	75.0	11.9
(3)	高校時代又は 男(190)	64.2	20.2	7.4	2.1	3.7	2.6	78.9	6.3
	16~18歳頃 女(102)	69.6	21.6	2.9	2.0	2.0	2.0	85.9	4.3
(4)	大学時代又は 男(178)	58.4	24.2	5.1	2.8	6.2	3.4	74.1	10.5
	18~22歳頃 女(80)	38.7	40.0	2.5	10.0	7.5	1.2	64.3	4.3
(5)	現在 男(194)	52.6	24.2	5.7	3.1	12.9	1.5	73.3	4.1
	女(98)	35.7	44.9	4.1	3.1	10.2	2.0	61.6	4.7

		わからない	男性	女性
(1)	小学校 男(178)	48.1	99.0	1.0
	4~6年 女(90)	50.0	87.8	12.2
(2)	中学時代 男(189)	22.4	99.4	0.6
	女(99)	13.1	88.8	11.2
(3)	高校時代又は 男(190)	14.9	98.3	1.7
	16~18歳頃 女(102)	9.8	93.8	6.2
(4)	大学時代又は 男(178)	15.4	100.0	—
	18~22歳頃 女(80)	31.4	92.8	7.2
(5)	現在 男(194)	22.7	100.0	—
	女(98)	33.7	97.8	2.2



28. それぞれの時期に、あなたが入っていたクラブでは、練習計画をどのように決めていましたか。下の枠内から最も近い決め方のタイプを一つあげてください。

また、その決め方はあなたにとって満足のいくものでしたか。

1. 顧問や監督、コーチなどのクラブ員以外の人が決めるタイプ。
2. 顧問や監督、コーチならびに主将などの一部の上級生とで決めるタイプ。
3. 主将などのクラブの首脳部が決めるタイプ。
4. クラブ員全員で相談して決めるタイプ。
5. 一人一人が自分で作り、顧問や監督、コーチなどに見てもらうタイプ。
6. 一人一人が自分で作り、それを自分で実行していくタイプ。
7. その他。
8. わからない。
9. クラブに入っていないなかった(いない)。

			満足していた									不満だった		わからない
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	4.0	4.8.0	
(1)	小学校	男(173)	29.5	4.6	1.2	4.6	—	0.6	2.3	23.1	34.1	48.0	4.0	48.0
	4~6年	女(93)	25.8	7.5	1.1	1.1	1.1	1.1	3.2	11.8	47.3	57.4	4.3	38.3
(2)	中学時代	男(189)	31.7	21.2	18.5	12.7	1.6	2.6	—	6.9	4.8	57.6	18.0	24.4
		女(99)	42.4	31.3	6.1	3.0	1.0	3.0	1.0	3.0	9.1	80.5	11.5	8.0
(3)	高校時代又は 16~18歳頃	男(192)	31.3	32.3	21.9	7.8	1.0	2.1	1.0	—	2.6	72.0	15.4	12.6
		女(102)	55.9	28.4	10.8	3.9	—	—	—	—	1.0	82.2	6.9	10.9
(4)	大学時代又は 18~22歳頃	男(179)	17.3	45.3	21.2	5.6	1.1	3.4	1.1	1.1	3.9	66.7	19.0	14.3
		女(84)	22.6	51.2	17.9	—	2.4	1.2	1.2	1.2	2.4	60.8	12.7	26.6
(5)	現在	男(194)	19.1	34.0	16.0	9.3	6.2	10.3	—	2.6	2.6	58.8	18.7	22.5
		女(97)	41.2	48.5	4.1	—	2.1	1.0	2.1	—	1.0	56.4	8.5	35.1

29. あなたがここまで選手をやった背後には、いろいろな要因があると思われますが、つきにかか  
ける事柄の中から最も大きな影響を及ぼした要因を順に三つ選んで、右の( )の中にその番号を記入  
してください。

	1位		2位		3位	
	男	女	男	女	男	女
	(201)	(103)	(201)	(103)	(200)	(103)
01. テレビ、新聞・雑誌、書物の影響	1.5	1.0		1.0	1.0	2.9
02. スポーツ施設に恵まれたこと	3.5	1.0	3.5	3.9	6.0	4.9
03. 運動クラブに恵まれたこと	21.4	3.9	12.9	21.4	8.5	10.7
04. 学校の環境がよかったこと	5.5	3.9	8.0	7.8	4.0	10.7
05. よい指導者に恵まれたこと	31.3	51.5	25.9	22.3	7.5	8.7
06. 家族や親類、知人のはげまし、理解があったこと	14.4	22.3	21.4	26.2	11.0	14.6
07. 友人のはげまし、理解があったこと	5.0	6.8	3.5	4.9	7.0	11.7
08. 経済的に恵まれたこと	0.5	—	5.5	1.0	8.0	4.9
09. あなた自身の素質	3.0	—	3.0	4.9	9.5	1.9
10. あなた自身の努力	10.0	3.9	10.4	3.9	19.5	15.5
11. 運やつき	2.0	3.9	5.0	2.9	16.5	8.7
12. その他	2.0	1.9	1.0	—	1.5	4.9

30. あなたはこれまでの競技生活を通じて、つぎの事柄をどの位犠牲にしてきましたか。

		全然犠牲に しなかった	それほど犠牲 にしなかった	どちらとも いえない	いくらか 犠牲にした	非常に犠牲 にした	わからない
(1) 学校での勉強	男(191)	11.0	27.2	19.4	25.1	14.1	3.1
	女(100)	7.0	28.0	23.0	32.0	7.0	3.0
(2) 進学	男(192)	32.8	28.6	19.8	10.9	5.2	2.6
	女(100)	40.0	18.0	23.0	8.0	8.0	3.0
(3) 就職	男(188)	43.1	21.8	16.5	7.4	6.4	4.8
	女(99)	43.4	15.2	20.2	10.1	4.0	7.1
(4) 職業上の事柄	男(196)	18.9	14.3	13.3	34.7	14.8	4.1
	女(101)	24.8	11.9	20.8	21.8	7.9	12.9
(5) 金銭	男(199)	10.1	18.1	15.1	32.2	23.6	1.0
	女(104)	5.8	13.5	14.4	43.3	9.6	13.5
(6) 結婚	男(184)	27.7	11.4	15.2	9.2	8.2	28.3
	女(96)	26.0	4.2	19.8	5.2	4.2	40.6
(7) 家事・育児	男(177)	24.3	8.5	12.4	11.9	9.6	33.3
	女(95)	24.2	2.1	10.5	9.5	—	53.7
(8) 健康・体力	男(198)	27.3	25.8	15.2	19.2	9.6	3.0
	女(103)	23.3	20.4	21.4	29.1	2.9	2.9
(9) 性生活	男(186)	26.9	10.8	23.1	7.0	8.1	24.2
	女(93)	29.0	2.2	9.7	1.1	1.1	57.0
(10) 専門以外の スポーツ活動	男(196)	13.8	16.8	18.9	29.1	14.8	6.6
	女(101)	16.8	11.9	18.8	21.8	6.9	23.8
(11) スポーツ以 外の趣味・ 教養活動	男(198)	11.1	17.2	17.7	37.4	15.7	1.0
	女(104)	5.8	11.5	16.3	50.0	11.5	4.8
(12) 政治的活動	男(186)	30.1	4.8	22.6	3.8	5.4	33.3
	女(98)	32.7	2.0	13.3	1.0	—	51.0
(13) 自由時間	男(199)	7.0	11.1	9.5	26.2	35.2	1.0
	女(104)	—	5.8	8.7	44.2	41.3	—

31. あなたがこれまで競技活動を続けてきたことは、つぎのどのようなことに役に立ちましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(重答)

	勉学	進学	就職	職業上の事柄	収入	結婚	家事	健康・体力	専門以外のスポーツ	
男(203)	8.8	35.8	61.8	25.5	9.3	3.9	0.5	73.5	11.8	
女(104)	9.6	30.8	68.3	16.3	7.7	4.8	1.0	72.1	5.8	
	社交	政治的活動	その他							
男(203)	65.7	0.5	1.5							
女(104)	69.2	—	4.8							

32. あなたはこれまでの競技生活を通じて、競技をやめたいと思ったことや実際にやめたことがありますか。

	やめたいと思ったことがある	実際にやめたことがある	そのようなことはなかった
男(200)	67.5	8.0	24.5
女(103)	92.2	3.9	3.9

33. その理由はつぎのどれですか。主なもの順に三つあげてください。

	男 子			女 子		
	1 位 (203)	2 位 (186)	3 位 (174)	1 位 (104)	2 位 (97)	3 位 (92)
1. 勉 学	4.0	0.8	0.8	3.0	3.3	4.6
2. 進 学	2.7	—	—	5.1	1.1	1.1
3. 就 職	2.0	3.1	1.7	—	1.1	2.3
4. 職業上の事柄	9.4	5.3	1.7	2.0	—	—
5. 経済的理由	2.7	3.8	3.4	1.0	1.1	1.1
6. 結 婚	0.7	1.5	0.8	—	—	—
7. 家事・育児	0.7	2.3	0.8	—	—	—
8. 親やまわりの反対	3.4	2.3	2.5	3.0	5.4	4.6
9. 夫や妻の反対	0.7	0.8	—	—	—	—
10. 転勤や住居の移転	—	—	0.8	—	—	—
11. 競技の記録や成績の低下	10.1	9.9	7.6	5.1	15.2	3.4
12. 健康・体力上の理由	10.1	11.5	6.7	10.1	8.7	5.7
13. 練習のつらさ	26.2	15.3	13.4	24.2	17.4	10.3
14. 仲間の選手との人間関係	8.1	9.2	5.9	20.2	15.2	11.5
15. 指導者との人間関係	3.4	6.9	5.0	4.0	4.3	5.7
16. 施設、クラブ、指導者の不備	2.0	2.3	2.5	2.0	4.3	—
17. スポーツ上の女性差別	—	—	—	—	—	—
18. 束縛されるのがいや	4.7	15.3	12.6	11.1	9.8	17.2
19. 他にしたいことがある	6.0	6.9	24.4	5.1	12.0	17.2
20. その他	3.4	3.1	9.2	4.0	1.1	14.9

34. あなたは競技生活をもうやめたいと思っていますか。

	すぐにもやめたいと思っている	まだやめる気はない
男 (197)	19.3	80.7
女 (102)	36.3	63.7

35. その理由は何ですか。前問33の理由の中からあてはまるものを順に三つあげてください。

男			女		
1 位 (202)	2 位 (200)	3 位 (198)	1 位 (104)	2 位 (102)	3 位 (99)
19 … 21.6	12 … 20.0	4 … 18.2	12 … 37.8	19 … 37.1	19 … 25.0
12 … 16.2	18 … 17.1	19 … 15.2	18 … 16.2	12 … 14.3	20 … 15.6
14 … 16.2	19 … 14.3	18.20 … 12.1	14 … 13.5	18 … 14.3	12.14.18 … 12.5

36. 多くの女性スポーツ愛好者が競技を続けていけない要因は何だとお考えですか。最も大きな要因と考えるものから順に三つ選んでください。

	1 位		2 位		3 位	
	男 (184)	女 (104)	男 (179)	女 (102)	男 (174)	女 (97)
1. やる気などの精神的要因	22.3	15.4	16.8	19.6	34.5	29.3
2. 体力などの身体的要因	9.8	23.1	44.1	45.1	19.5	20.2
3. 結婚、家事・育児などの家庭的な要因	63.6	55.8	21.8	28.4	9.2	12.1

	1 位		2 位		3 位	
	男	女	男	女	男	女
	(184)	(104)	(179)	(102)	(174)	(97)
4. 指導者やクラブ、施設等の不備	3.3	3.8	13.4	6.9	15.5	18.2
5. スポーツにおける女性に対する差別	0.5	1.0	2.8	—	5.2	7.1
6. そ の 他	0.5	1.0	1.1	—	16.1	13.1

37. あなたは今後どのようなかたちで、スポーツとかかわりたいと考えていますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

	男	女
	(203)	(104)
1. スポーツとはまったく無関係になる	1.5	—
2. 今までどおりアマチュア競技者として	66.2	41.3
3. プロのスポーツ競技者として	—	—
4. 大会には出ないで、スポーツを楽しむ	35.8	62.5
5. 学校の体育教師や運動部の顧問として	34.3	19.2
6. 体育・スポーツの研究者として	12.3	4.8
7. 本業のコーチやトレーナーとして	14.7	5.8
8. 本業でないコーチやトレーナーとして	15.7	14.4
9. 競技審判員として	25.5	5.8
10. スポーツ団体の役員や職員として	12.3	8.7
11. スポーツ関係のマスコミの職員として	0.5	—
12. そ の 他	—	—

38. あなたはこれまで選手への道を歩んできてよかったと思いますか。

	大変よかった	いくらかよかった	どちらともいえない	いくらかよくなかった	全然よくなかった
男(202)	77.7	18.3	4.0	—	—
女(104)	69.2	26.9	1.0	2.9	—

39. あなたはもう一度チャンスがあれば、スポーツ選手への道を選びますか。

	選んでみたい	選びたくない	わからない
男(201)	70.1	7.0	22.9
女(103)	38.8	12.6	48.5

40. 「試合や練習の前後には、指導者はその役割をぬいで一人の人間としてホンネで選手に接すべきだ」という意見があります。あなたが指導者なら、この考えに対してどう思いますか。

	男(200)	女(104)
1. 考えに賛成だし、そのようにできる	53.0	29.8
2. 考えに賛成だが、そのようにできない	29.5	30.8
3. 考えに反対だが、そのようにしたい	1.0	1.0
4. 考えに反対だし、そうしない	3.0	7.7
5. わからない	13.5	30.8

41. 「スポーツの勝ち負けは人生の勝ち負けに通ず」と言われる一方で、「スポーツはスポーツ、人生は人生」という考え方もあります。あなたは、これらの考えに対して、どう思いますか。

	男(198)	女(102)
1. 前者の考えに賛成だし、そのようにしている	21.7	14.7
2. 後者の考えに賛成だし、そのようにしている	36.9	20.6

	男(198)	女(102)
3. 前者の考えに賛成だが、そのようにできない	14.1	11.8
4. 後者の考えに賛成だが、そのようにできない	7.6	17.6
5. わからない	19.7	35.3

42. あなたは、男性、女性どちらの指導者をのぞみますか。

	男性がよい	女性がよい	どちらでもよい
男(201)	85.6	3.0	11.4
女(103)	85.4	1.9	12.6

43. つぎのそれぞれの時期に、スポーツをする上で「女性」であるということによって不利益なあつかいを受けたことはありましたか。(女子のみ回答)

		よく経験した	時々経験した	経験しなかった	わからない
(1) 小学校時代	(97)	—	4.1	61.9	34.0
(2) 中学時代	(103)	1.0	14.6	70.9	13.6
(3) 高校時代又は 16~18歳頃	(102)	5.9	12.7	73.5	7.8
(4) 大学時代又は 18~22歳頃	(84)	2.4	10.7	76.2	10.7
(5) 現在	(101)	7.9	13.9	70.3	7.9

44. あなたの初潮年齢(女子のみ回答) N=(103)

最小値	10歳0か月
最大値	18歳5か月
中央値	13歳0か月
最頻値	12歳0か月
平均値	13歳3か月

基礎的事項

45. 結婚	結婚している	結婚していない
男(72)	20.8	79.2
女(104)	1.0	99.0
46. 子ども	あり	なし
男(72)	18.6	81.4
女(104)	1.0	99.0

47. 職業

	自営者	勤め人	家族従業者	無職
男(64)	6.3	87.5	—	6.3
女(103)	—	90.3	—	9.7

48. 最終学歴

	義務教育終了	高校終了程度	大学終了程度(短大、高専を含む)
男(69)	2.9	37.7	56.5
女(103)	1.0	53.4	38.8

49. あなたが行っていた高校について

(1)	男女共学	男子校または女子校	在学しなかった	
男(69)	2.9	37.7	56.5	
女(104)	1.0	53.4	38.8	
(2)	国公立の高校	私立の高校	在学しなかった	
男(68)	72.7	27.3	—	
女(100)	77.0	22.0	1.0	
(3)	職業課程の高校	普通課程の高校	1と2の併設校	在学しなかった
男(67)	35.8	38.8	25.4	—
女(103)	34.0	39.8	25.2	1.0
(4)	ほとんどの生徒が進学する高校	進学者の方が比較的多い高校	就職者の方が多い	在学しなかった
男(68)	13.2	16.2	70.0	—
女(104)	21.2	26.9	51.0	1.0
(5)	スポーツ盛んでレベル高い	スポーツ盛んでレベル普通	スポーツ低調	在学しなかった
男(68)	44.1	38.2	17.6	—
女(104)	38.5	44.2	16.3	1.0

## 『一流競技選手のスポーツへの社会化の 課程に関する基礎的研究』 (その2)

— 第36回国民体育大会(びわこ国体)参加出場滋賀県選手団及び  
昭和56年度滋賀県中学校総合体育大会上位入賞選手を中心に —

沢田和明(滋賀大学教育学部)

### 1. 緒言

第36回国民体育大会(びわこ国体)が終了し1年半余り経過した。同国体についてはいくつかの批判点が指摘されながらも、開催県としての評価は総合的にみて低いものではないと思われる。批判点のいくつかは昭和56年度の本委員会紀要No.2に述べたが、スポーツ大会の規模が大きくなればなるほど、スポーツの純粋性を確保することが難しくなる傾向からすれば、それらの批判の多くはスポーツという枠内からは論じられても他の諸領域からは軽視または無視されていくものなのかもしれない。

国際政治がスポーツにより影響を受け、また政治がスポーツの中に介入してくることは、現実としての政治の面からは当然のこととされるかもしれないが、現実の社会生活を一時中断してその中のみ通用する規則性の中で未確定性を競いあうスポーツからすれば、現実から隔離されていることがその理想的状況を保証する前提となる。その保証があってこそそのスポーツの特質としての *agōn* (競争) 追求であり、その世界の中での、その世界の中でしか通用しない限られた技術的特質における優秀性の社会的承認の手続きこそがスポーツの競技会であるといえよう。

絶対的平等条件を保証し得ないいかなる競技会もそれはスポーツの立場からは問題があり、その問題を不問にしたままで繰り返される競技会はその純粋性を損んでいるという観点からは改善の余地があってしかるべきであろう。しかしその改善の余地は多くの場合現実社会のスポーツ、またはスポーツ競技会を何らかの手段的

利用を意図、計画している領域からは、ある時は「たかがスポーツだから」という言葉で、またある時は「たかがスポーツではすまされない点があるからこそ」という二枚舌の方便によりその改善の願いは空文化し、改善の余地は手段的利用の中にかき消されてしまう。

オリンピックはアマプロ、国旗などを含めたその現実問題はともかく、その理念からはあくまで個人レベルのものであり、各国の運動技能到達水準を競うものではあり得ない点にまだ純粋性の残滓があるという見方も全く否定されるものではない。しかし国民体育大会はその各県の成績算出や第1位についての処置についての成文化からすれば、スポーツの純粋性を著しく損うものといえよう。*agōn*の特性からすれば、より強い相手を求め、その頂上を極めることに意義を見出し、その順位を目標にすること自体何ら不自然なことではない。しかしそれらはいくまで参加資格を有する個々人が、その出場するスポーツ種目の技術水準が個人レベル、チームレベルにおいて問われるものであり、その個人やチームが競い勝ち残ってきた異質な母集団のそれぞれの代表という捉え方をする一般的な見方に対しては、スポーツの本質という観点からは論理的飛躍がみられるように思われる。

平等条件の確保というスポーツ競技会にとっての絶対的必要条件は、単に地方自治体の行政的な区分けや、そのいくつかの集合体をブロックと称して行い、いずれも「代表」という名の下で競技能力を試すこととは全く無縁であり、ましてや個人が所属する自治体であるというそれだけの理由から自治体の選手団を組まざるを得

ないことは、スポーツそのものからすれば矛盾を胎んでいるといわざるを得ない。

この矛盾は何も国民体育大会のみではなく、国内の他の競技会ははじめオリンピック競技大会及び他の競技会も同様にみられるのであり、それは基本的にはスポーツの世界と現実の社会との絶対的隔離を保障し得ないことによる矛盾といえるかもしれない。日本においてはそれが恥の文化と結びつき、母校や郷土、国の名誉といったものに関連づきやすく、それを矛盾として感じない情況に至っているともいえよう。

前回の報告書の中での女子のスポーツへの取り組みの消極的態度は、いくつかの多くの原因によるものとしても、根幹的にはスポーツが純粋に個人的レベルで行われていない、またスポーツがスポーツ以外のものとの関りで純粋性を確保できない情況の中での当然の帰結といえるかもしれない。

「女子のスポーツ適性」と題した日本体育協会のプロジェクトの根底には、日本の女子選手発掘における問題点の発見や解決といった極めてnormativeな問題が内包されていると思われるが、それらは別の観点からすれば、まさにスポーツの純粋性を損うことでしか競技会が運営できない現状の確認や告発ということにもつながるといえよう。「集団の中に個を埋没せざるを得ない情況」の理解を不問にしたままで、ただ優秀選手を意識した競技力向上や普及振興のいかなる施策も極めて対症療法的でしかあり得ない。

またそれ故そこから脱却する道、即ちスポーツやスポーツ界が他のものへ身売りしたり媚びたりしなくていい道の模索は、一つにはスポーツの本質への遡及であり、また社会の中でのスポーツの価値の適正評価を求めての現状是正への動き出しであろうと思われる。スポーツがスポーツとして守らねばならない一線の理解とその一線を確保するための運動の展開への準備が急務であろう。

本研究はそれらを上位の問題として意識しながら、男子と女子とのスポーツのかかわり方の

相違が単なる両性の心理的・生理的な機能差のみに起因するものではなく、社会的情況の中におけるスポーツが他の諸条件との関りの中で男性優位に展開しやすくなっていくという現実(時にスポーツは男性文化を称されたりする)を見つめ直すための基礎的資料蒐集を目的としている。そのようなスポーツの展開自体に問題があることを背景に意識しながら作業を進めていきたいと思う。

## 2. 調査の概要及び結果

本研究で用いられた調査票は、日本体育協会が昭和56年度より3年継続研究で行われている「女子のスポーツ適性に関する研究」プロジェクトの中で社会学班が作成したものであり、同一質問紙により全国8県(北海道・青森・愛知滋賀・石川・広島・愛媛・熊本)が第36回国民体育大会(びわこ国体)の成年の部に参加した選手を対象に調査を実施している。

本研究では同一の調査票を少年の部参加選手に、また一部を修正した調査票を昭和56年度滋賀県中学校総合体育大会ブロック大会上位入賞選手を対象に行った。それらの有効回収標本数は表1の通りである。

表1 有効回収標本数

	A成年	B少年	C中学生	計
男	203	169	213	585
女	104	53	108	265
計	307	222	321	850

成年の部についての概要については一部報告済(昭和56年度滋賀県スポーツ科学委員会紀要No.2)であるので、本研究では少年及び中学生の相互の比較や、全体としての男女の相違などを中心に述べていきたい。

なお調査票の全項目についての男女別の基礎集計結果は文末資料としてまとめてあるので参照されたい。(A:成年、B:少年、C:中学生)。またその中での基礎項目については今回の調査票の質問文の配置の不適切(女子のみが



回答するQ.43、Q.44.の後に全員が回答する5項目に12質問があったが、男子の大部分が未回答のままであった)なものを含んでいる。

また同資料には各項目の性別クロス集計における $\chi^2$ 検定の結果、統計的に有意差のみられたものについては\*をつけた。(\*\*\*…… $P < 0.001$ 、\*\*…… $P < 0.01$ 、\*…… $P < 0.05$ )

結果の理解、解釈については具体的数値の吟味がその現実の姿やその結果を含めた上でなされなければならない。同一調査票であり、字句などは全く同じであるが、その字句が内包している意味は大きく異なるものが少なくない。例えば「専門」という用語は成年と少年、中学生の間では非常に異なるといえよう。中学生ではやっとやりはじめたばかりのクラブ活動であり高校、大学へと進むにつれその専門種目が変わり得るものであるという意味での専門であり、また中学・高校・大学・一般へと社会的背景が異なれば、当然その評価も異っていくものと思われる。

それは同様に成年男子では現在の専門種目開始が高校卒業後に新しく始められた種目が少なくないことなどについてもいえることである。この調査での専門についての解釈は、その調査時点で被調査者が専門であると思っっている現在の種目について回答してくれたことであり、少なくとも成年の人の中学生時代の回答が、そのまま中学生の現在の専門として回答したことを同値に対比して考えられるものではない、また中学時代ということのみで単純に比較するには両者間の時間的推移と、その間における価値観の相違などからいろいろ問題があることを理解しておくことは大切なことである。

これら限られた範囲の中で調査の結果について順に述べていきたいと思う。

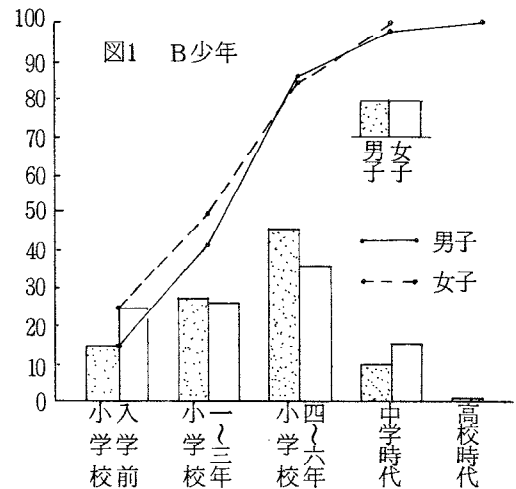
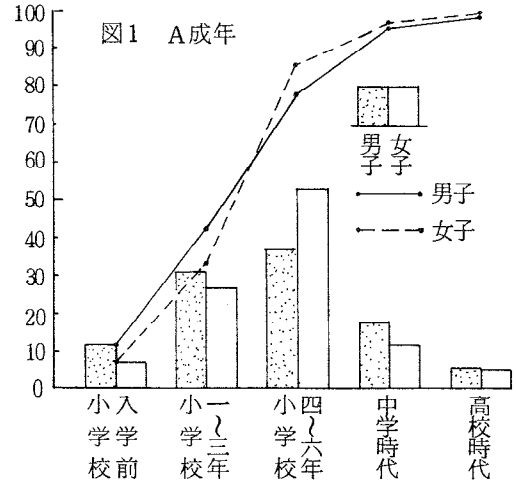
### 1) 基礎的項目

上述の通り、男子データの信頼性が低く、比較するための条件が欠落していることから基礎的項目の記述は割愛する。また中学生の質問紙では職業、結婚、学歴、高校の状況など不要の項目であるのでともともと調査項目には含めてな

い。

### 2) スポーツ及び専門種目への初期社会化

スポーツを行うことに関心を持った時期については、成年、少年、中学生はそれぞれ図1 A B Cの通りである。3グループとも類似の傾向を示しているが、中学生はほぼ小学校で社会化がなされている。また中学生は男子の方が女子より早く社会化されてきているといえよう。(P<0.001)。



現在の専門種目を始めた時期は、成年、少年中学生いずれも中学校、高校の1年生の時が多い。(中1と回答した比率は男女別にA 21.2% 32.7%、B 30.3%、26.4%、C 60.8%、70.4%であり、高1は同様にA 29.6%、28.8%、B 42.6

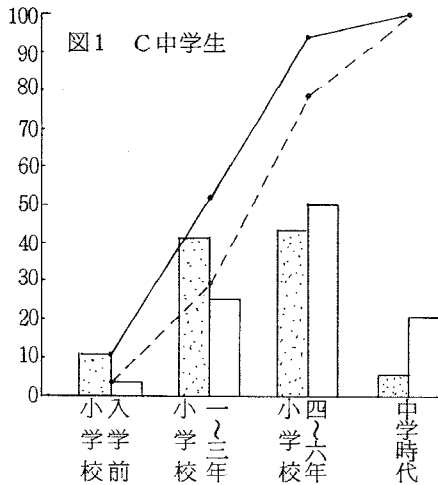


図1 スポーツを行うことへの初期社会化の時期 (Q.2)

%, 37.8%) である。成年は高2以降大学卒業後に開始した人もいるので比率が低くなっており、先述の専門の捉え方のズレを意識する必要があるだろう。

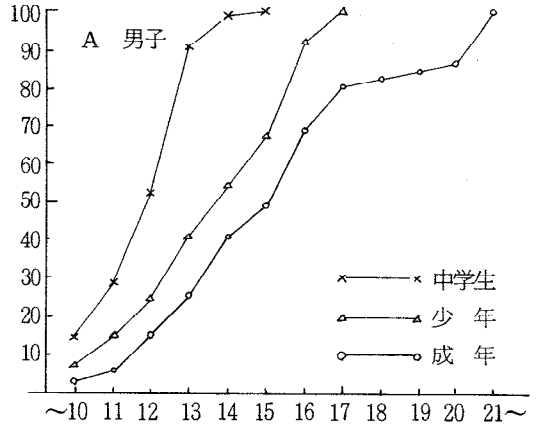
その専門種目の決定は、いずれも6割から7割の者が自分で決定している。また3グループとも男子が女子より高い比率を示している。(成人  $P < 0.05$ )。また他の人が介在する専門決定にあたっては各年代を横断的に捉えれば、加齢に従い相談者は両親から学校のクラブの先生に移動するといえよう。また両親への相談は男子は父親に、女子は母親に相談することが多い。

表2 専門種目決定に関った人 (Q.6)

		父	母	知人	クラブの先生
成年	男	7.8	—	5.9	49.0
	女	3.0	9.1	6.1	54.5
少年	男	22.5	2.5	10.0	30.0
	女	—	10.0	20.0	45.0
中学生	男	34.0	16.0	8.0	16.0
	女	8.3	22.2	8.3	11.1

専門種目への公式試合や競技会への初参加については、男女別に図2 A Bの通りである。図からは年令が低いほど初参加年令が低いということを見れば当然といえるかもしれないし、単純に専門種目へのかかわりの早期化という見

方が出来るものではないと思われる。



B 女子

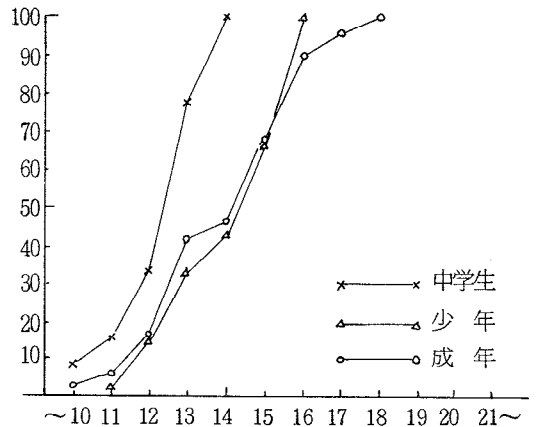


図2 専門種目競技会初参加年令

またその時の所属したチームや団体については図3の通りであるが、低年令化に伴い男女ともに学校外のクラブが増加している。またその傾向は女子より男子に多い。このことは社会におけるスポーツの普及、スポーツ少年団はじめ種々の社会教育団体の増加に裏づけられるものであろう。そこでの女子の比率が低い(成年  $P < 0.05$ 、中学生  $P < 0.001$ ) ことについては、女子が参加する団体の絶対量が少ないことに関連すると思われる。

このことは専門種目開始以前に主に行っていたスポーツの有無における中学生 ( $P < 0.001$ )に

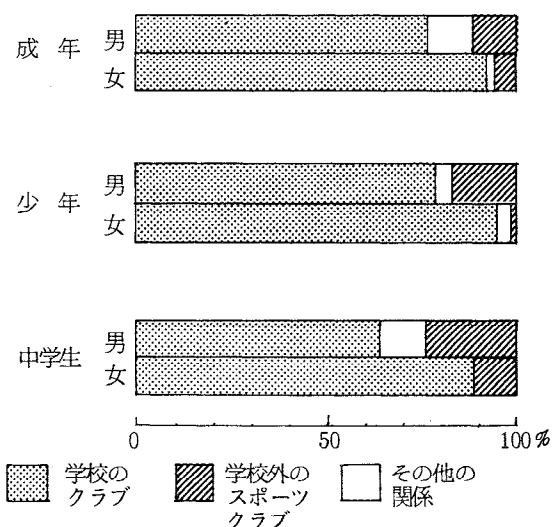


図3 現在の競技種目初参加チーム所属 (Q.11)  
みられる男子52.2%、女子34.1%の差にも裏づけられるかもしれない。なお成年、少年ほどに比率が高くないことは、専門そのものの捉え方の相違に通ずるものと思われる。

専門種目の合宿参加については表3の通りであるが、成年、少年の高校時代の比率に比較し中学生が低いのは、その程度の専門性でしかないことを示しているともいえるし、成年の小学校における比率の低さも専門選択への過程が中学生ほど単純でないことや、スポーツに対するまわりの認識のちがいによるものと思われる。いずれも性差や暦年齢の差よりは、専門種目決定への過程を考慮すべき問題であると思われる。

表3 専門種目の合宿、講習会参加 (Q.14)

		小学校入学前	小学校1-3年	小学校4-6年	中学校	高校
成年	男	-	1.7	9.4	30.5	67.7
	女	-	-	7.7	48.5	83.7
少年	男	0.8	4.1	28.7	52.9	94.6
	女	-	-	23.4	50.0	100.0
中学生	男	1.1	7.1	37.1	49.2	-
	女	-	1.1	28.3	39.2	-

### 3) 重要な他者

専門種目を継続していく上で励ましてくれた人、反対した人については図4の通りである。

小中高と上へいくほどはげましてくれる人も反対する人も増えている。また女子の方がはげましてくれる人が多い。(成年の中学、高校P<0.001)。

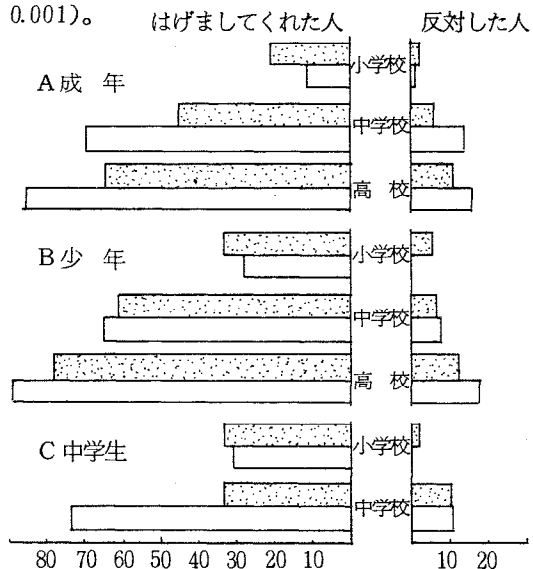


図4 専門種目を続ける上ではげましてくれた人 反対した人 (Q.17. Q.18)

またはげましてくれた人、反対した人の内容については、父母と回答したものが多い。少年の中学時代を除き中学時代以上においては女子が男子より両者とも比率が高い。またその比率は中学、少年、成年と加齢に従い高くなっている。

またまわりで競技活動をやっていた人は各グループとも年齢が高くなるにつれ増える傾向にある。中学生以上については男女とも4割から5割程度まわりはかなりスポーツをやっていた人がいて、現在の専門種目の人も3割程度いると回答している。その内容は異種目をも含めると兄弟、知人が多く、同種目では身近な知人が多い。また両親では父親の方が母親より多い。このことは被調査である選手の両親の年代においては、女子のスポーツ参加が男子より低かったことを示しているものと思われる。

スポーツの腕前についてのまわりの同年代の人との比較については、かなり上手、いくらか上手という回答をした人は表4の通りであり、一流競技選手は特定種目に関してはひいできてい

るが、全体的にはその腕前を肯定する者は半数程度でしかない。また少年、成年になるに従い小学生、中学生時代ではよくできたと回答する比率が高い。今の中学生が全般的な能力において少年、成年の同時代に比較して低いということは、小学校時代から特定種目のみの能力が高く、小学校時代から特定種目を集中して練習する「専門化の早期化」の傾向とも考えられる。何でも出来た中から特定の種目を専門化した成年の子供時代から、はじめから特定のもののみを開発していく現在の中学生の時代への推移といえることができるかもしれない。

表4 同年齢の人との運動能力の比較(Q.21)  
(かなり、いくらか上手)

		小学校 1~3年	小学校 4~6年	中学校	高校
成年	男	45.3	57.5	62.4	74.5
	女	28.5	45.4	57.4	60.6
少年	男	33.1	47.8	52.4	50.0
	女	38.3	54.0	57.7	40.0
中学生	男	23.2	35.0	38.9	
	女	16.8	24.5	29.9	

#### 4) クラブと指導者

学校時代はいずれも学校のクラブに属している人が多いが、少年及び中学生の小学校4~6年時代は学校外の運動クラブの比率が他の年代より多くなっている。(中学生男34.3%、女9.8%、少年男22.1%、女15.7%)。これは地域のスポーツ少年団や民間のスポーツクラブや団体のものであると思われるが、成年の同時代(男9.4%、女2.9%)に較べての増加の傾向はその普及と関連すると思われるが、いずれも男子が女子より多いことは女子の参加可能な種目数の少ないことや、女子のスポーツ参加に対するまわりの影響が考えられると思われる。(中学生の小学校時代1~3年、4~6年P<0.001)。

専門種目をも含めてスポーツ全般への取り組み方の中学生時代以上については、「非常に好

き」「まあ好き」を肯定的、「余り好きでない」「しかたなくやった」と「わからない」という回答を否定的として各年代別にしたものが表5である。「なんとなく」とか「しかたなく」というカテゴリーに記入があること自体プレイを基本としたスポーツへの考え方とは異ったものであり、いやいや行った人の存在を否定できないデータである。また男女の相違については、成年と少年の現在において0.1%水準の差がみられている。女子が専門化していく上で問題点になるところが多いといえよう。

表5 スポーツへのとりくみ(Q.23)

		成年		少年		中学生	
		肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
中学時代	男	88.5	11.5	94.0	6.0	87.2	12.7
	女	91.2	8.8	88.2	11.8	88.7	11.3
高校 16~18歳	男	92.9	7.1	94.6	5.4		
	女	95.2	4.8	80.2	19.8		
大学 18~22歳	男	92.7	7.3				
	女	88.4	11.6				
現在	男	94.4	5.6				
	女	85.3	14.7				

同様に専門種目への取り組み方は図5の通りである。女子では専門化していく過程で「積極的、楽しい」と回答する比率が少しずつ低下している。「非積極的でなじみのない」人が一流選手にいたこと。またその程度が年令とともに増加することは女子のスポーツの今後を考える上で重要な問題といえよう。

そのことは指導者との関連もあると思われるが、指導者の指導タイプは「専門的知識にもとづいた」タイプの指導が、権威や規律、成績や人間関係などを重視する指導より多かった。また指導が「良かった」と肯定的に答えられないものもかなりいることから問題となろう。

また練習計画のきめ方については種目の特性にも関連し、同じように考えることは難しいが

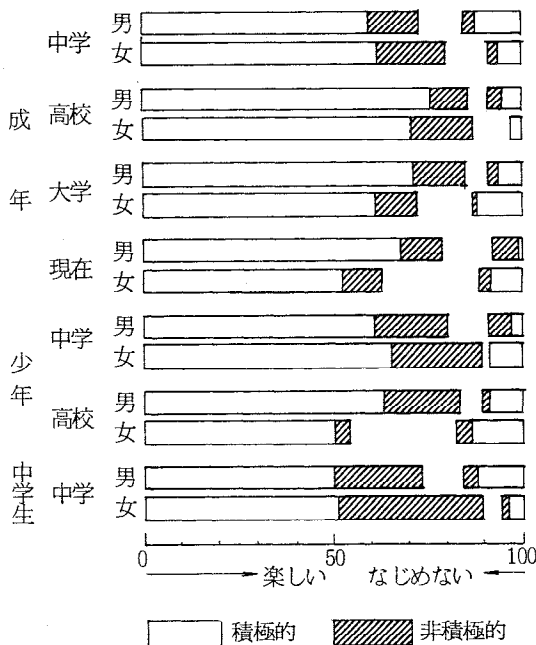


図5 専門種目のクラブや練習へのとりくみ方 (Q.25)

表6 指導タイプの評価 (Q.26)  
(肯定できないもの)

		成年	少年	中学生
中学時代	男	27.2	33.4	40.9
	女	25.0	33.3	48.6
高校	男	19.6	31.7	
	女	12.6	52.4	
16~18歳	男	30.6		
	女	34.3		
現在	男	34.4		
	女	38.7		

クラブ員外の人が決するものが高校時代までに多い。大学生以降になってキャプテンを含めて考えていくタイプが多くなる。これらのデータはクラブ全体が練習計画を決定してくれる人に全面的に依存することであり、自分達が自分達のために動き出すことが非常に困難な環境の中で練習が続けられていることを表わしている。またその評価については指導のタイプと同様に「不満」とか「わからない」という否定的なものが3割~5割ほどいることを考えあわせると今後の指導者のあり方が問い直されねばならぬ

い状況になる。

表7 練習計画のきめ方 (Q.28)

		クラブ員外の人が決める(1)			クラブの首脳部他一部の人で決定(1.2.3)		
		成年	少年	中学生	成年	少年	中学生
中学	男	31.7	33.3	38.2	71.4	78.8	84.0
	女	42.4	45.3	35.6	79.8	83.0	76.9
高校	男	31.3	52.4		85.5	91.5	
	女	55.9	41.0		95.1	91.0	
大学	男	17.3			83.8		
	女	22.6			91.7		
現在	男	19.1			69.1		
	女	41.2			93.8		

5) 競技生活の評価

これまで選手生活を続けてきたことに対し、最も影響を及ぼしたのものについての12項目中第

表8 選手を続けるのに影響が強かったもの (Q.28)

	よにこ い恵 指ま 導れ 者た	運にこ 動恵 クま ラれ づた	家知ま 族入し やの 親は理 類げ解	あな た自 身 力	の 努 力	テ聞書 レ・物 ビ・の ・雑影 ・誌響	友人の はげ まし ・理 解
成年	男	1 31.3	2 21.4	3 14.0	4 10.0	10 1.5	5 5.0
	女	1 51.5	4 3.9	2 22.3	4 3.9	8 1.0	5 6.8
少年	男	1 32.1	2 17.9	3 17.3	4 7.1	7 3.6	4 7.1
	女	1 24.5	4 13.2	2 18.9	2 18.9	5 5.7	5 5.7
中学生	男	1 26.4	3 16.3	5 7.7	2 14.4	4 10.6	6 6.2
	女	1 26.2	3 13.1	5 9.3	3 13.1	7 4.7	2 19.2

1位にあげられたものの比率及び順位は表7の通りである。いずれも第1位はよい指導者に恵まれたことをあげ、続いて運動クラブに恵まれたことや家族や親類のはげましや理解をあげている。中学生女子では、知人のはげましは2位となっている。成年女子は指導者に恵まれたことを半数の者が肯定している反面、自身の努力について低い評価しか持っていない。

犠牲にしたことがらについては「いくらか」「非常に」をまとめると表9の通りである。

これらの項目では男女のデータに15の項目にわたり有意な差がみられる(資料参照)が、どのグループでも女子の方が「犠牲にした」という回答比率が高い。

しかし考えてみれば自分の好きなスポーツを

自分の自由意志で、しかも自由時間に行う以上「犠牲にした」といういい方自体問題のある表現であり、もし仮に犠牲にしたという表現が適切であるとすればそれこそ問題であろう。

またスポーツが何に役立ったかという質問ではいずれも健康や体力が1位にあげられているが、成年では男女とも第2位に社交、就職があがっている。少年では社交が、次に就職や進学があげられている。

競技生活を「今すぐにもやめたい」と思っている人は図6の通りである。中学生はスポーツをはじめたばかりであり、やめたいと思っ

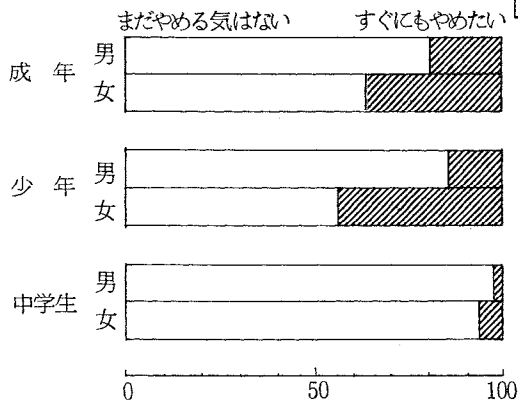


図6 すぐにもやめたいと思っているか (Q.34)

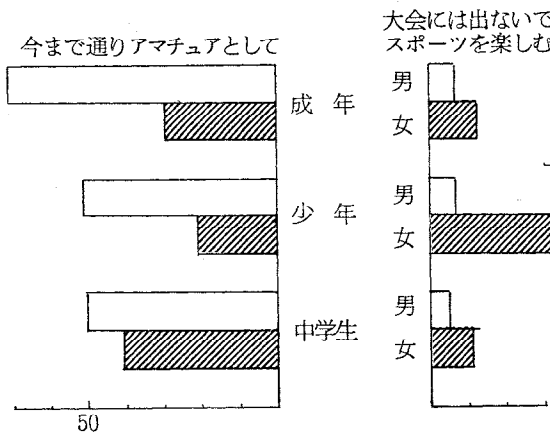


図8 今後のスポーツとのかかわり方 (Q.37)

いる人は少ないが少年、成年には特に女子にやめたいと回答している人が多い。またもう一度チャンスがあればスポーツ選手の道を選ぶかという問には、選びたくないと答える者は少年女子をトップに図7の通りの結果となっている。

今後のスポーツとのかかわり方の中で、今まで通りアマチュアとしてという項目と、大会に

表9 犠牲にしたことがら (Q.30)(いくらか、非常に)

	成年		少年		中学生	
	男	女	男	女	男	女
学校での勉強	39.2	39.0	64.3	73.6	20.7	24.3
進学	16.1	16.0	26.7	13.0	11.9	11.8
職業上の事柄	59.7	29.7	-	-	-	-
金 銭	55.8	52.9	67.2	86.8	32.6	23.1
家事・育児	21.5	9.5	3.3	3.6	7.2	26.2
健康・体力	25.8	32.0	26.7	46.2	15.6	16.5
専門以外のスポーツ活動	43.9	28.7	31.4	45.8	10.6	9.6
スポーツ以外の趣味・教室	53.1	61.5	59.1	75.5	22.4	26.7
自由時間	61.4	85.5	83.2	94.5	45.0	61.5

出ないでスポーツを楽しむという項目は男子が前者に、女子は後者に多くなっている。

これらのことを考え合せると、競技スポーツとは一体誰のための、何のためのものかを今一度根底から問い直す必要があるかと思われる。

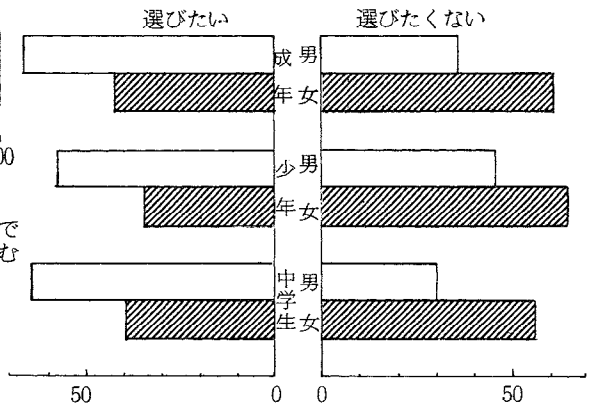


図7 もう一度チャンスがあればスポーツ選手を選ぶか (Q.39)

女子が競技生活を永く続けられない要因については表8の通りである。中学校男子を除いていずれも第1位には結婚、家事、育児などの家庭的要因をあげているが、成年、少年では男子が第2位にやる気などの精神的要因をあげているのに対し、女子は体力などの身体的要因をあげており、男女間での認識のズレがみられる。

また女子のみの質問で女性であることだけで不利益な扱いを受けた経験があるかについては「よく」「ときどき」をまとめると図9の通りであり、加齢とともにその比率が高くなっていることがわかる。

表10 競技をやめたいと思う理由（第1位）(Q.33)

	成 年		少 年		中 学 生	
	男	女	男	女	男	女
1. 勉 学	4.0	3.0	13.0	8.5	11.5	6.6
11. 記録・成績低下	10.1	5.1	5.3	10.6	10.3	11.8
12. 健康体力	10.1	10.1	9.9	2.1	4.6	3.9
13. 練習のつらさ	26.2	24.2	41.2	25.6	36.8	36.8
14. 仲間との人間関係	8.1	20.2	3.1	4.3	3.4	22.4
15. 指導者との人間関係	3.4	4.0	6.1	8.5	3.4	2.6
18. 束縛されるのがいや	4.7	11.1	3.8	14.9	2.3	7.9
19. 他にしたいことがある	6.0	5.1	6.9	21.3	13.8	6.7

表11 女子が競技をつづけられない理由 (Q.36)

	成 年		少 年		中 学 生	
	男	女	男	女	男	女
結婚・家事・育児などの家庭的要因	63.6	55.8	52.8	75.5	30.6	45.7
やる気などの精神的要因	22.3	15.7	19.4	7.5	34.5	29.5
体力などの身体的要因	9.8	23.1	23.6	17.6	26.2	21.9

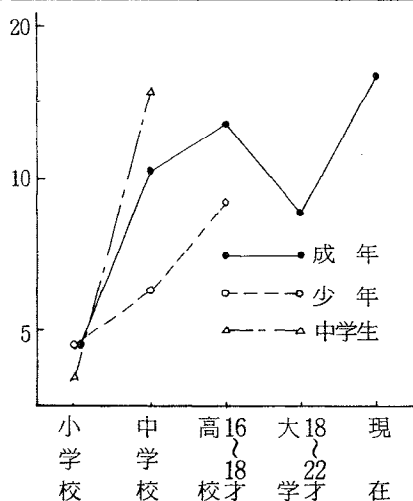


図9 女性であることで不利益な扱いをうけたか (Q.43)

### 3. 結語及び今後の課題

以上成年、少年、中学生について男女別または年代別にみてきたが、男子に比較して女子は競技生活自体を楽しむというよりは何か追いつたてられるようにして、表面的には自由意志であ

りながら実際は仕事のような感覚、できればすぐにも逃げ出したいという感じで取り組んでいる人が多いように思われる。またその中では男子に比較し指導者に依存する比率が高く、第一報でも述べた女子の回答の中に「わからない」と回答する比率が高いことなどをあわせて考えると、何となく消極的な態度が男子より強いように思われる。

馬術や射撃など一部の競技を除いてはほとんどが男女別に競技が実施され、また種目によっては女子には男子と同じ水準での公式試合がない場合が少なくない。また世界的な傾向として男女のスポーツ競技記録の漸近現象がみられ、種目によっては遠からず追いつく可能性のあるものがあるかもしれないといわれる中で、日本では女子の競技生活年限が欧米のスポーツ先進諸国より短いとか、記録の漸近現象が遅滞しているとか指摘されたりする。西欧の女子一流競技選手の中には専業主婦や勤労者も少なくな

い。日本ではせいぜい学校時代プラス数年であるということは、上述の女子のスポーツの取り組み方の消極性の現象を考えあわせると、競技生活を続けたいのに続けられない。または続けたくないのにやらされていることが表裏一体の問題としてうかびあがってくる。

そこには女子のスポーツとのかかわり方を社会の中で歴史的に制限してきた流れやスポーツ観が、日本の女性観、価値観と結びついていることを今一度考え直してみる必要があるように思われる。

またこのことは何も女子のみのことではなく日本の競技スポーツが指導者を中心に展開され選手は指導者の指示通りに動くように育て上げられることを当然とする風潮と関っていることを捉え直す作業の中で考察が深められねばならない。日本の社会集団が上に立つ者の指導方針を絶対のものとして待ち望み、指導者がいなければ動き出さないという特徴がスポーツ集団の中では特に強いように思われる。

指導者が変わると勝てないチームになったり指導者の顔色を常にうかがう方式からは自発的な相互に動き出す集団は作れそうもない。

そのような中で今後の競技スポーツはどうあるのかについて、スポーツの本質論に立ち帰り捉え直すことがより望ましいスポーツとのかかわり方を考える上で是非必要な作業となる。

## 参 考 文 献

- 1) 沢田和明「一流運動競技選手のスポーツへの社会化の課程に関する基礎的研究」滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要 1982
- 2) スポーツ社会学国際調査委員会「一流競技者のスポーツへの社会化に関する調査研究報告」道と書院 1981
- 3) 体育社会学研究会編「一流競技者の社会学」道と書院 1981
- 4) 体育社会学研究会編「スポーツ参与の社会学」道と書院 1977



## 「スポーツ競技者に関する調査」基礎集計（男女別）

A…成年 B…少年 C…中学生( $\chi^2$ 検定\*\*\*… $P<0.001$ 、\*\*… $P<0.01$ 、\*… $P<0.05$ )

1. あなたが初めてスポーツ（現在専門としている競技種目に限らない）を行うことに興味を持ったのは大体いつ頃ですか。

		小学校前	小学校1～3年	小学校4～6年	中学	高校	その他
A	男(203)	10.8	31.0	36.9	16.7	3.0	1.5
	女(104)	6.7	26.0	51.9	11.5	2.9	1.0
B	男(169)	13.0	28.4	46.2	11.2	1.2	—
	女(53)	22.6	26.4	35.8	15.2	—	—
C ***	男(213)	10.8	41.3	42.7	5.2	—	—
	女(108)	3.7	25.0	50.0	21.3	—	—

2. あなたが現在の競技種目を初めて行ったのは、大体いつ頃ですか。

		小学校前	小学校1～3年	小学校4～6年	中学	高校	大学	その他
A ***	男(203)	1.5	6.9	17.7	25.1	31.5	8.4	8.9
	女(104)	—	4.8	21.2	39.4	30.8	2.9	1.0
B	男(169)	4.4	10.4	27.8	26.6	30.8	—	—
	女(53)	—	3.8	18.9	28.3	49.0	—	—
C	男(213)	0.5	14.1	41.3	44.1	—	—	—
	女(108)	0.9	6.5	52.8	39.8	—	—	—

3. あなたが現在の競技種目を初めて行ったのは、つぎのどこですか。（主なもの一つ）

		家庭	体育の授業	学校の運動部	学校外のクラブなど(営利)	学校外のクラブなど(非営利)	家の近く	その他
A *	男(203)	2.0	7.9	62.4	4.0	4.0	9.4	10.4
	女(104)	2.9	15.4	69.2	2.9	1.0	6.7	1.9
B	男(169)	3.0	3.0	64.5	0.6	7.0	20.1	1.8
	女(53)	1.9	3.8	75.5	1.9	9.4	5.7	1.8
C **	男(213)	5.2	4.7	50.7	9.4	18.3	10.8	0.9
	女(105)	1.8	16.2	62.9	2.8	10.5	4.8	1.0

4. あなたが現在の競技種目に興味を持ったきっかけは何ですか。（主なもの一つ）

		試合観戦	テレビで	ラジオで	記事を読んで	話題にして	行って	習って	その他
A	男(203)	11.3	9.4	—	1.0	12.8	31.5	17.7	16.3
	女(104)	6.7	12.5	—	1.0	13.5	35.6	22.1	8.7
B	男(169)	4.7	23.1	—	—	17.2	26.0	17.8	11.2
	女(53)	9.4	5.7	—	1.9	37.7	13.2	15.1	17.0
C	男(212)	6.6	18.9	—	1.4	21.7	17.5	17.9	16.0
	女(104)	4.8	10.6	—	2.8	21.2	27.8	22.1	10.6

5. ところで、あなたが現在の競技種目を本格的に始めようと思ったのは、つぎのいつですか。

		小学校前	小1～3年	小4～6年	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
A ※	男(203)	—	1.0	3.9	21.2	4.9	5.9	29.6	3.4	4.9
	女(104)	—	—	3.8	32.7	2.9	10.6	28.8	7.7	4.8
B ※	男(169)	—	3.7	8.9	30.3	6.5	3.7	42.6	2.4	1.8
	女(53)	—	—	9.4	26.4	1.9	17.0	37.8	7.5	—
C	男(212)	0.5	3.8	32.1	60.8	2.4	—	—	—	—
	女(108)	—	—	23.1	70.4	4.6	—	—	—	—

大 学 22以降 わからない

A	男(203)	12.3	11.3	1.5
	女(104)	3.8	2.9	1.9
B	男(169)	—	—	—
	女(53)	—	—	—
C	男(212)	—	—	0.5
	女(108)	—	—	1.9

6. それを決めたのは、誰ですか。

		自分以外の人	自分と自分以外の人	自分で
A ※	男(203)	4.5	19.4	76.1
	女(104)	1.0	31.4	67.6
B	男(169)	3.0	20.4	76.6
	女(53)	3.8	34.0	62.2
C	男(212)	3.3	19.8	76.9
	女(107)	0.9	33.6	65.5

7. 自分以外の人の内容(主な人ひとり)

		父	母	兄弟姉妹	祖父母親類	近所の人・知人	学校のクラブの先生
A	男(51)	7.8	—	5.9	2.0	5.9	49.0
	女(33)	3.0	9.1	6.1	—	6.1	54.5
B	男(40)	22.5	2.5	10.0	5.0	10.0	30.0
	女(20)	—	10.0	5.0	—	20.0	45.0
C	男(50)	34.0	16.0	2.0	6.0	8.0	16.0
	女(36)	8.3	22.2	13.9	2.8	8.3	11.1

その他の先生 先生以外のコーチ 先輩上級生 その他

A	男(51)	3.0	5.9	17.6	2.0
	女(33)	9.1	6.1	6.1	—
B	男(40)	—	5.0	7.5	7.5
	女(20)	5.0	—	10.0	5.0
C	男(50)	—	2.0	2.0	14.0
	女(36)	5.6	11.1	—	16.7

8. あなたが現在の競技種目を本格的に始める前に、主に行っていたスポーツはありましたか。

		あ	る	な	い
A	男(203)	68.0		32.0	
	女(104)	44.2		55.8	
B	男(167)	65.6		34.4	
	女(53)	77.4		22.6	
C ***	男(207)	52.2		47.8	
	女(107)	34.1		65.9	

9. 8のスポーツ名

		体	操	陸	上	バレーボール	バスケットボール	ハンドボール	サッカー	ラグビー	
A ***	男(138)	2.9	5.7	8.6	10.0	0.7	5.0	0.7			
	女(46)	2.2	8.7	26.1	10.9	4.3	-	-			
B ***	男(110)	2.7	3.6	9.1	5.5	0.9	19.1	2.7			
	女(40)	12.5	5.0	20.0	20.0	-	-	-			
C ***	男(114)	-	1.8	2.7	6.3	-	11.7	0.9			
	女(37)	2.7	8.1	51.4	8.1	-	-	-			
		アイスホッケー	ソフトボール	軟式野球	硬式野球	軟式テニス	硬式テニス	卓球			
A	男(138)	0.7	1.4	31.4	2.1	4.3	0.7	3.6			
	女(46)	-	6.5	-	-	4.3	-	13.0			
B	男(110)	-	8.2	28.2	-	0.9	-	3.6			
	女(40)	-	7.5	-	-	-	-	2.5			
C	男(114)	0.9	27.0	36.0	-	-	-	5.4			
	女(37)	-	5.4	-	-	5.4	-	2.7			
		バドミントン	柔道	剣道	相撲	スキー	水泳	ゴルフ	弓道	馬術	その他
A	男(138)	0.7	1.4	3.6	1.4	0.7	6.4	1.4	-	-	-
	女(46)	4.3	-	-	-	-	15.2	-	2.2	2.2	-
B	男(110)	0.9	5.5	2.7	0.9	0.9	2.7	-	-	-	0.9
	女(40)	10.0	-	2.5	-	2.5	15.0	-	-	-	2.5
C	男(114)	-	-	4.5	-	-	0.9	-	-	-	1.8
	女(37)	5.4	-	2.7	-	-	-	-	-	-	2.7

10. あなたが現在の競技種目の公式の試合や競技会に出場したのは、何歳の頃ですか。

		～	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
A ***	男(202)	2.5	3.5	7.4	11.4	13.4	7.4	21.3	10.9	4.0	1.5	2.5	3.0	3.0	2.0	
	女(103)	1.9	3.9	10.7	34.0	5.8	11.7	22.3	5.8	2.9	1.0	-	-	-	-	
B	男(168)	7.8	8.1	8.3	16.7	13.1	12.5	25.6	7.1	-	-	-	-	-	-	
	女(51)	-	2.1	13.7	17.6	9.8	23.5	33.3	-	-	-	-	-	-	-	
C *	男(197)	14.8	13.2	22.3	41.1	7.6	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	女(104)	8.6	7.7	18.3	45.2	20.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		24	25	26	28	30以降										
A	男(202)	1.5	1.5	0.5	0.5	2.5										
	女(103)	-	-	-	-	-										

11. また、その時あなたが所属した出場チームや団体は、つぎのどれに入りますか。

		学 校	学校外のクラブ	学校外のスポーツ以外のクラブ	その他	入っていないかった
A ※	男(202)	77.2	11.9	0.5	9.4	1.0
	女(104)	92.3	5.8	1.0	1.0	—
B	男(169)	79.9	15.4	3.5	0.6	0.6
	女(52)	94.3	1.9	3.8	—	—
C ※※※	男(212)	63.7	23.6	11.3	1.4	—
	女(107)	89.7	10.3	—	—	—

12. つぎのそれぞれの時期に、あなたは現在の競技種目の公式の試合や競技会に年間どの位出場しましたか(していますか)。

		週1～2回位	月1～2回位	年1～2回位	参加しなかった	わからない	
A	(1)	小 学 校 男(136)	—	—	3.7	84.6	11.8
		1～3年 女(80)	—	—	1.2	92.5	93.8
	(2)	小 学 校 男(149)	0.7	4.7	16.1	71.1	7.4
		4～6年 女(82)	—	—	12.2	84.1	3.7
	※	(3) 中学時代 男(169)	0.6	24.3	33.1	39.1	3.0
		女(90)	—	12.2	47.8	26.7	13.3
	※	(4) 高校時代又は 男(183)	4.9	41.5	32.8	13.7	7.1
		16～18歳頃 女(101)	—	38.6	45.5	2.0	13.9
	※	(5) 大学時代又は 男(176)	6.3	46.6	30.7	8.0	8.5
		18～22歳頃 女(79)	—	45.6	40.5	2.5	11.4
(6)	現 在 男(194)	5.2	46.9	38.7	1.0	8.2	
	女(95)	2.1	46.3	36.8	1.1	13.7	
B	(1)	小 学 校 男(101)	1.0	1.0	—	90.1	7.9
		1～3年 女(39)	—	—	—	92.3	7.7
	※	(2) 小 学 校 男(108)	0.9	10.2	19.4	61.2	8.3
		4～6年 女(40)	—	—	5.0	85.0	10.0
	※	(3) 中学時代 男(122)	1.6	18.0	49.3	21.3	9.8
		女(45)	—	4.4	40.0	37.8	17.8
	(4)	高校時代又は 男(150)	4.0	21.3	62.0	1.3	11.4
		16～18歳頃 女(42)	—	16.7	54.8	—	28.5
C	※	(1) 小 学 校 男(157)	—	2.5	7.6	79.0	10.9
		1～3年 女(91)	—	—	2.2	93.4	4.4
	※※※	(2) 小 学 校 男(179)	0.6	11.7	34.1	45.3	8.3
		4～6年 女(91)	1.1	4.4	12.1	73.6	8.8
	※	(3) 中学時代 男(205)	1.0	13.2	70.7	3.9	11.2
		女(103)	1.0	6.8	66.0	1.0	25.2

13. あなたは小学校6年生までに、スポーツ（現在の競技種目に限らない）のための特別なスポーツ教室や合宿練習、講習会などに参加しましたか。

参加したことがある 参加しなかった

A	男(202)	28.2	71.8
	女(104)	33.7	66.3
B	男(168)	58.3	41.7
	女(53)	54.7	45.3
C	男(210)	55.7	44.3
	女(108)	42.6	57.4

14. つぎのそれぞれの時期に、あなたは現在専門している競技種目のための、特別なスポーツ教室や合宿練習、講習会などに参加しましたか。

		A		B		C	
		参加した	しなかった	参加した	しなかった	参加した	しなかった
(1) 小学校入学前	男(176)	—	100.0	(122) 0.8	99.2	(174) 1.1	98.9
	女(89)	—	100.0	(44) —	100.0	(91) —	100.0
(2) 小学校 1～3年	男(176)	1.7	98.3	(123) 4.1	95.9	(176) 7.1	92.9
	女(89)	—	100.0	(44) —	100.0	(91) 1.1	98.9
(3) 小学校 4～6年	男(181)	9.4	90.6	(129) 28.7	71.3	(190) 37.1	62.9
	女(91)	7.7	92.3	(47) 23.4	76.6	(92) 28.3	71.7
(4) 中学時代	男(187)	30.5	69.5	(138) 52.9	47.1	(198) 49.2	50.8
	女(97)	48.5	51.5	(48) 50.0	50.0	(106) 39.2	60.8
(5) 高校時代又は 16～18歳頃	男(192)	67.7	32.3	(166) 94.6	5.4	—	—
	女(104)	83.7	16.3	(48) 100.0	—	—	—

15. つぎのそれぞれの時期に、現在の競技種目であなたが出場した最高のレベルの試合や競技会はどれですか。

		市町村大会	都道府県大会	ブロック大会	全国大会	国際大会	参加しなかった	
A	(1) 小学校時代	男(171)	16.4	4.7	1.2	0.6	0.6	76.6
		女(90)	12.2	3.3	1.1	—	—	83.3
	*(2) 中学時代	男(180)	6.1	28.9	10.6	9.4	—	45.0
		女(99)	14.1	32.3	13.1	12.1	—	28.3
	****(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(193)	0.5	16.6	8.3	52.3	5.7	16.6
		女(104)	—	7.7	12.5	73.1	3.8	2.9
B	****(1) 小学校時代	男(121)	21.5	9.9	6.6	0.8	—	61.2
		女(44)	4.5	—	—	4.5	—	91.0
	*(2) 中学時代	男(133)	6.8	35.3	19.5	18.8	—	19.6
		女(47)	4.3	21.3	14.9	17.0	4.3	38.2
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(168)	1.2	8.3	22.0	66.1	1.2	1.2
		女(51)	—	5.9	11.8	80.4	—	1.9
C	****(1) 小学校時代	男(188)	21.8	18.6	16.5	4.8	—	38.3
		女(92)	14.1	12.0	1.1	1.1	1.1	70.6
	(2) 中学時代	男(207)	6.8	50.7	32.4	3.9	—	6.2
		女(105)	9.5	45.7	40.0	3.8	—	1.0

16. つぎのそれぞれの時期に、その当時あなたが行っていた競技種目の練習場所までどの位かかりましたか。(普通の交通方法で)

		15分以内	15~30分	30分以上	なかった	
A	(1) 小学校時代	男(174)	34.5	10.3	3.4	51.7
		女(91)	20.9	11.0	3.3	64.8
	*(2) 中学時代	男(188)	44.7	27.7	12.2	15.4
		女(100)	40.0	43.0	8.0	9.0
	(3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(195)	30.8	17.4	45.1	6.7
		女(103)	27.2	24.3	46.6	1.9
B	(1) 小学校時代	男(131)	36.6	19.8	5.3	38.3
		女(49)	30.6	20.4	10.2	38.8
	(2) 中学時代	男(142)	45.4	36.8	6.4	11.4
		女(52)	42.3	40.4	7.7	9.6
	(3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(169)	29.6	25.4	43.2	1.8
		女(59)	33.3	19.6	47.1	—
C	(1) 小学校時代	男(193)	50.3	15.0	9.8	24.9
		女(95)	28.4	16.8	7.4	47.4
	***(2) 中学時代	男(208)	48.1	32.7	10.6	8.6
		女(108)	38.9	52.8	5.6	2.7

17. つぎのそれぞれの時期に、あなたが専門としている競技種目をやることについて、強くはげましてくれた家族や親類、知人はいましたか。また、それは誰ですか。(このページの下の枠の中からあてはまる人の番号を選んで記入してください。)

		い	た	いなかった	わからない
A	(1) 小学校時代	男(179)	20.7	54.2	25.1
		女(86)	12.8	57.0	30.2
	*** (2) 中学時代	男(187)	46.0	39.6	14.4
		女(95)	69.5	17.9	12.6
	*** (3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(193)	63.2	29.0	7.8
		女(103)	85.4	11.7	2.9
B	(1) 小学校時代	男(123)	32.5	40.7	26.8
		女(46)	28.3	45.7	26.0
	(2) 中学時代	男(133)	61.7	25.6	12.7
		女(51)	64.7	25.5	9.8
	(3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(162)	77.2	11.7	11.1
		女(52)	88.5	7.7	3.8
C	(1) 小学校時代	男(195)	32.8	41.5	25.7
		女(91)	30.8	46.2	23.0
	(2) 中学時代	男(195)	32.8	41.5	25.6
		女(107)	73.8	17.8	8.4

17. SQ. いたと答えた人の内訳（重答）

			父	母	兄弟姉妹	祖父母、親類	身近な知人	その他
A	(1) 小学校時代	男(179)	13.9	13.0	8.7	4.0	4.0	2.9
		女(86)	7.0	7.9	5.1	2.1	2.1	1.1
	(2) 中学時代	男(187)	29.2	31.2	20.1	9.2	18.5	11.9
		女(95)	50.0	54.8	38.7	24.0	42.4	19.1
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(193)	46.5	48.5	35.9	29.4	35.4	20.8
		女(103)	77.1	79.7	72.4	55.6	74.2	54.3
B	(1) 小学校時代	男(123)	17.8	22.0	7.3	8.9	4.9	2.4
		女(46)	17.4	26.1	15.2	8.7	13.0	6.5
	(2) 中学時代	男(133)	45.1	41.4	12.0	17.3	13.5	9.0
		女(51)	27.4	37.3	33.3	13.7	33.3	7.8
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(162)	62.3	57.4	21.0	32.1	27.8	9.3
		女(52)	57.6	65.4	46.2	25.0	54.8	7.7
C	(1) 小学校時代	男(195)	22.1	21.0	10.1	9.7	7.2	0.5
		女(91)	15.4	26.4	9.9	8.8	11.0	—
	(2) 中学時代	男(213)	38.5	31.0	16.0	16.4	10.8	—
		女(107)	43.0	59.8	26.2	19.6	31.8	7.5

18. つぎのそれぞれの時期に、あなたが専門としている競技種目をやることについて、反対した家族や親類、知人はいましたか。また、それは誰ですか。（このページの下の枠の中からあてはまる人の番号を選んで記入してください。）

			い	た	いなかった	わからない
A	(1) 小学校時代	男(176)	2.3		84.1	13.6
		女(85)	1.2		83.5	15.3
	(2) 中学時代	男(182)	5.5		89.0	5.5
		女(95)	13.7		82.1	4.2
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(192)	10.9		85.9	3.1
		女(104)	16.3		83.7	—
B	(1) 小学校時代	男(119)	5.9		84.0	10.1
		女(45)	—		88.9	11.1
	(2) 中学時代	男(132)	7.6		90.9	1.5
		女(49)	8.2		85.7	6.1
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(160)	13.1		86.3	0.6
		女(51)	17.6		76.5	5.9
C	(1) 小学校時代	男(195)	1.5		86.2	12.3
		女(91)	—		80.2	19.8
	(2) 中学時代	男(212)	9.0		87.7	3.3
		女(108)	11.1		88.0	0.9

18. SQ. いたと答えた人の内訳(重答)

		父	母	兄弟姉妹	祖父母、親類	身近な知人	その他	
A	(1) 小学校時代	男(176)	1.5	1.5	0.5	—	—	—
		女(85)	—	1.0	—	—	—	—
	(2) 中学時代	男(182)	3.5	4.0	0.5	0.5	—	—
		女(95)	7.1	6.2	2.2	2.2	—	1.1
	(3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(192)	7.6	7.1	0.5	2.2	—	0.5
		女(104)	8.4	13.9	2.2	3.3	—	1.1
B	(1) 小学校時代	男(119)	0.8	0.8	—	0.8	—	0.8
		女(45)	—	—	—	—	—	—
	(2) 中学時代	男(132)	2.3	4.5	1.5	1.5	—	0.8
		女(49)	2.0	6.1	—	—	—	2.0
	(3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(160)	5.0	6.3	0.6	1.9	0.6	2.5
		女(51)	7.8	11.8	2.0	3.9	—	2.0
C	(1) 小学校時代	男(195)	1.0	0.5	—	0.5	—	0.5
		女(91)	—	—	—	—	—	—
	(2) 中学時代	男(212)	3.8	4.7	—	2.8	—	0.5
		女(108)	7.8	13.7	11.8	—	2.0	—

19. つぎのそれぞれの時期に、あなたの専門の競技活動に影響を及ぼした家族や親類、知人の中にスポーツ(あなたの専門とする競技種目に限らない)をかなりやっていた人はいましたか。また、それは誰ですか。(このページの下枠の中からあてはまる人の番号を選んで記入してください。)

		い	た	いなかった	わからない
A	(1) 小学校時代	男(190)	21.7	66.1	12.2
		女(98)	17.3	74.5	8.2
	(2) 中学時代	男(185)	41.1	53.5	5.4
		女(101)	43.6	52.5	4.0
	(3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(193)	43.0	52.3	4.7
		女(103)	53.4	44.7	1.9
B	(1) 小学校時代	男(123)	27.6	59.3	13.1
		女(45)	28.9	64.4	6.7
	(2) 中学時代	男(129)	44.2	51.9	3.9
		女(49)	51.0	46.9	2.1
	(3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(160)	37.5	55.6	6.9
		女(50)	36.0	64.0	—
C	(1) 小学校時代	男(197)	36.0	46.2	17.8
		女(93)	28.0	61.3	10.7
	(2) 中学時代	男(213)	39.9	46.5	13.6
		女(108)	41.7	48.1	10.2



19. SQ. いたと答えた人の内訳（重答）

		父	母	兄弟姉妹	祖父母、親類	身近な知人	その他	
A	(1) 小学校時代	男(100)	4.1	1.8	6.8	3.5	9.8	3.5
		女(98)	2.2	2.2	10.3	3.3	1.1	2.2
	(2) 中学時代	男(185)	6.6	1.5	16.9	10.5	19.0	8.6
		女(101)	4.8	4.8	25.9	11.8	22.1	3.2
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(193)	6.2	2.4	12.9	10.9	23.7	15.3
		女(103)	3.9	3.9	31.9	9.3	33.8	15.5
B	(1) 小学校時代	男(123)	8.1	0.8	8.9	4.1	6.5	4.9
		女(45)	2.2	4.4	8.9	6.7	6.7	—
	(2) 中学時代	男(129)	8.5	3.1	12.4	12.4	12.4	5.4
		女(49)	2.0	6.1	18.4	8.2	18.4	4.1
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(160)	8.1	0.6	12.5	10.0	11.3	0.5
		女(50)	—	2.0	10.0	4.0	22.0	6.0
C	* (1) 小学校時代	男(197)	8.1	3.0	11.7	13.2	7.6	1.5
		女(93)	8.6	4.3	14.0	10.8	8.6	—
	(2) 中学時代	男(213)	10.8	3.8	13.1	14.6	8.5	3.3
		女(108)	8.3	4.6	20.4	13.0	12.0	0.9

20. つぎのそれぞれの時期に、あなたの家族や親類、知人の中に、あなたの専門とする競技種目と同じスポーツをかなりやっていた人はいましたか。また、それは誰ですか。（このページの下の枠の中からあてはまる人の番号を選んで記入してください。）

		い	た	いなかった	わからない
A	(1) 小学校時代	男(178)	20.2	73.0	6.7
		女(97)	13.4	82.5	4.1
	(2) 中学時代	男(182)	33.5	63.7	2.7
		女(102)	38.2	59.8	2.0
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(189)	37.0	61.9	1.1
		女(104)	46.2	53.8	—
B	* (1) 小学校時代	男(123)	23.6	66.7	9.7
		女(44)	15.9	84.1	—
	(2) 中学時代	男(130)	32.3	63.8	3.9
		女(48)	37.5	62.5	—
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃	男(164)	30.5	67.1	2.4
		女(49)	30.6	69.4	—
C	(1) 小学校時代	男(200)	32.0	55.0	13.0
		女(95)	24.2	66.3	9.5
	(2) 中学時代	男(212)	39.2	51.9	8.9
		女(107)	35.5	59.8	4.7

20. SQ. いたと答えた人の内訳(重答)

		父	母	兄弟姉妹	祖父母、親類	身近な知人	その他	
A	(1) 小学校時代	男(178)	3.4	0.6	7.2	2.3	6.7	3.4
		女(97)	1.1	—	7.1	1.9	3.2	1.1
	(2) 中学時代	男(182)	3.4	0.7	11.2	7.7	16.4	5.9
		女(102)	—	1.5	13.3	9.7	27.0	1.5
	(3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(189)	3.6	0.7	11.8	7.6	21.6	8.8
		女(104)	—	1.8	17.6	9.7	37.8	6.7
B	(1) 小学校時代	男(123)	5.1	—	5.7	5.7	7.3	1.6
		女(44)	—	4.5	2.3	2.3	6.8	—
	(2) 中学時代	男(130)	4.6	1.5	7.7	11.5	11.5	3.1
		女(48)	—	—	8.3	4.2	22.9	4.2
	(3) 高校時代又は 16~18歳頃	男(164)	3.7	—	7.9	6.7	11.6	4.9
		女(49)	—	—	6.1	2.0	22.5	4.1
C	(1) 小学校時代	男(200)	6.0	1.5	10.5	10.5	8.0	1.0
		女(95)	2.1	1.1	13.7	8.4	7.4	—
	(2) 中学時代	男(212)	9.0	1.4	8.5	14.6	12.7	2.4
		女(107)	2.8	1.9	13.1	8.5	18.7	—

21. あなたのスポーツの腕前は、近所や学校の同年齢の人達とくらべてどうでしたか。下の枠内にある尺度点の数字をそれぞれの時期に記入してください。

1. かなり上手    2. いくらか上手    3. ふつう    4. いくらか下手    5. かなり下手  
6. わからない                    1            2            3            4            5            6

A	* (1) 小学校	男(183)	19.1	26.2	24.0	5.6	4.4	20.8
		女(95)	5.3	23.2	31.6	9.5	6.3	24.2
	* (2) 小学校	男(188)	24.5	33.0	23.4	6.4	1.6	11.2
		女(97)	6.2	39.2	33.0	8.2	2.1	11.3
	* (3) 中学時代	男(194)	28.9	33.5	30.9	1.5	2.1	3.1
		女(101)	15.8	41.6	35.6	3.0	1.0	3.0
	(4) 高校時代又は 16~18歳頃	男(196)	33.7	40.8	18.4	3.1	2.0	2.0
		女(104)	20.2	40.4	32.7	3.8	—	2.9
B	(1) 小学校	男(139)	10.1	23.0	36.7	6.5	7.9	15.8
		女(47)	8.5	29.8	27.7	10.6	6.4	17.0
	(2) 小学校	男(155)	18.1	29.7	37.4	9.7	1.9	3.2
		女(50)	8.0	46.0	30.0	4.0	4.0	8.0
	(3) 中学時代	男(164)	13.4	39.0	38.4	4.9	2.4	1.9
		女(52)	9.6	48.1	34.6	1.9	1.9	3.9
	(4) 高校時代又は 16~18歳頃	男(168)	19.0	31.0	41.7	3.0	1.8	3.5
		女(50)	2.0	38.0	54.0	2.0	—	4.0
C	(1) 小学校	男(190)	10.0	13.2	35.8	7.4	8.9	24.7
		女(95)	4.2	12.6	26.3	6.3	10.5	40.1
	(2) 小学校	男(200)	13.0	22.0	40.0	13.0	1.0	11.0
		女(98)	9.2	15.3	41.8	13.3	5.1	15.3
	(3) 中学時代	男(213)	15.0	23.9	39.4	8.9	4.2	8.6
		女(107)	10.3	19.6	49.5	8.4	4.7	7.5

22. あなたのこれまでの運動クラブ所属について、右側のそれぞれの時期にあてはまるものを下の枠内から選んで、その番号を記入してください。

1. 学校の運動クラブに入っていた(入っている)
2. 学校外の運動クラブに入っていた(入っている)
3. 1と2の両方に入っていた(入っている)
4. 入っていなかった(入っていない)
5. わからない。

			1	2	3	4	5
A	(1)	小学校 男(204)	8.6	2.7	0.5	81.8	6.4
		1～3年 女(94)	7.1	1.0	—	84.8	7.1
	*(2)	小学校 男(204)	37.2	9.4	1.0	48.2	4.2
		4～6年 女(102)	39.2	2.9	6.9	51.0	—
	(3)	中学時代 男(195)	84.6	2.6	1.5	10.8	0.5
		女(104)	83.7	1.0	3.8	11.5	—
	(4)	高校時代又は 男(197)	90.4	1.5	1.5	6.1	0.5
		16～18歳頃 女(104)	94.2	1.0	2.9	1.9	—
	*(5)	大学時代又は 男(204)	70.9	18.4	2.2	6.1	2.2
		18～22歳頃 女(84)	57.1	33.3	7.1	2.4	—
	*(6)	現在 男(188)	23.4	64.4	—	10.6	1.6
		女(98)	18.4	73.5	3.1	4.1	1.0
B	(1)	小学校 男(149)	7.4	6.7	—	81.2	4.7
		1～3年 女(50)	4.0	2.0	—	92.0	2.0
	(2)	小学校 男(163)	41.7	22.1	14.1	21.5	0.6
		4～6年 女(51)	54.9	15.7	3.9	23.5	2.0
	(3)	中学時代 男(166)	86.8	2.4	6.0	4.8	—
		女(53)	84.9	1.9	7.5	5.7	—
	(4)	高校時代又は 男(164)	90.3	7.3	2.4	—	—
		16～18歳頃 女(44)	95.5	—	4.5	—	—
C	*** (1)	小学校 男(197)	3.6	17.8	1.0	67.0	10.6
		1～3年 女(101)	4.0	2.0	—	90.0	4.0
	*** (2)	小学校 男(207)	34.8	34.3	13.0	13.5	4.4
		4～6年 女(102)	51.0	9.8	11.8	24.5	2.9
	(3)	中学時代 男(213)	86.9	2.8	7.5	0.5	2.3
		女(108)	93.5	1.9	2.7	1.9	—

23. それぞれの時期での、あなたとスポーツのかかわり方について教えてください(スポーツは専門外のスポーツも含みます。)最も近いかかわり方のタイプを下の枠の中からえらんでください。

1. 非常に好きで、夢中になってやった(やっている。)
2. まあまあ好きで、人並みにやった(やっている。)
3. あまり好きではなく、なんとなくやった(やっている。)
4. 好きではなく、仕方なくやった(やっている。)
5. わからない。

		1	2	3	4	5
A	(1) 小学校 男(187)	27.8	30.5	7.5	2.1	32.1
	1～3年 女(94)	29.8	31.7	6.4	6.4	25.5
	(2) 小学校 男(189)	48.1	31.7	6.3	2.1	11.6
	4～6年 女(98)	49.0	35.7	5.1	1.0	9.2
	(3) 中学時代 男(193)	59.1	29.5	7.3	2.1	2.1
	女(103)	52.4	38.8	3.9	1.0	3.9
	(4) 高校時代又は 男(197)	66.5	26.4	6.1	1.0	—
	16～18歳頃 女(104)	64.4	30.8	2.9	—	1.9
	※(5) 大学時代又は 男(181)	64.6	28.2	3.9	1.7	1.7
	18～22歳頃 女(86)	44.2	44.2	8.1	1.2	2.3
****(6) 現 在 男(195)	55.4	39.0	4.6	0.5	0.5	
女(102)	41.2	44.1	3.9	1.0	9.8	
B	(1) 小学校 男(141)	26.2	33.3	7.8	1.4	31.3
	1～3年 女(45)	28.9	31.2	4.4	2.2	33.3
	(2) 小学校 男(164)	55.5	34.1	5.5	—	4.9
	4～6年 女(50)	46.0	42.0	4.0	2.0	6.0
	(3) 中学時代 男(167)	56.3	37.7	2.4	1.8	1.8
	女(51)	54.9	33.3	9.8	2.0	—
****(4) 高校時代又は 男(165)	46.7	47.9	2.4	3.0	—	
16～18歳頃 女(41)	39.0	41.4	9.8	—	9.8	
C	※(1) 小学校 男(195)	22.6	33.8	10.8	4.6	28.2
	1～3年 女(92)	9.8	37.0	7.6	4.3	41.3
	(2) 小学校 男(206)	38.8	43.7	11.7	1.5	4.3
	4～6年 女(98)	37.8	49.0	8.2	1.0	4.0
	(3) 中学時代 男(213)	41.8	45.5	9.4	1.4	1.9
	女(106)	34.0	54.7	7.5	—	3.8

24. あなたがそれぞれの時期に入っていた運動クラブのふんい気(ムード)について教えてください。下の枠内から最も近いふんい気のタイプを一つあげてください。

1. きびしさと緊張感があった(ある。)
2. なごやかで、くつろげるものがあった(ある。)
3. きびしい面となごやかな面と両方があった(ある。)
4. その他
5. わからない
6. 運動クラブに入っていなかった(いない。)

			1	2	3	4	5	6
A	(1)	小学校 男(190)	6.8	24.2	15.8	2.1	14.2	36.8
		4～6年 女(102)	2.9	26.5	7.8	2.9	11.9	48.0
	*(2)	中学時代 男(197)	28.4	18.8	40.1	3.0	7.1	5.6
		女(104)	10.6	24.0	50.0	1.0	3.8	10.0
	(3)	高校時代又は 男(197)	48.2	11.2	35.5	0.5	1.0	3.6
		16～18歳頃 女(104)	45.2	4.8	47.1	1.0	—	1.9
	****(4)	大学時代又は 男(184)	39.7	13.0	42.9	1.1	1.1	2.2
		18～22歳頃 女(87)	26.7	2.3	58.1	1.2	9.3	2.3
	****(5)	現在 男(200)	22.0	19.5	54.0	0.5	3.0	1.0
		女(101)	10.9	1.0	72.3	2.0	11.9	2.0
B	(1)	小学校 男(158)	3.8	41.1	22.8	1.9	11.4	19.0
		4～6年 女(52)	5.8	42.3	19.2	1.9	7.7	23.1
	*(2)	中学時代 男(167)	19.2	25.1	50.9	0.6	0.6	3.6
		女(52)	7.7	21.2	67.3	—	—	3.8
	*** (3)	高校時代又は 男(166)	36.8	10.8	51.8	—	0.6	—
		16～18歳頃 女(43)	44.1	4.7	41.8	4.7	4.7	—
C	****(1)	小学校 男(206)	8.3	39.8	28.6	4.9	10.1	8.3
		4～6年 女(100)	2.0	27.0	28.0	4.0	16.0	23.0
	*(2)	中学時代 男(213)	16.9	17.4	56.3	4.7	4.2	0.5
		女(108)	22.2	5.6	67.6	0.9	3.7	—

25. それぞれの時期に、あなたが練習やクラブにどのようにかかわっていたかについて答えてください。下の枠内から最も近いかわり方のタイプを一つあげてください。

1. 自分で積極的に練習をし、クラブにもなじんで楽しかった (楽しい)
2. 積極的に練習をしたが、クラブはあまりなじめなかった (なじめない)
3. 積極的に練習した方ではなく、またクラブにもなじめなかった (なじめない)
4. 積極的に練習した方ではないが、クラブにはなじみ、楽しかった (楽しい)
5. 積極的に練習をしたが、クラブには入っていなかった (入っていない)
6. 積極的に練習もしなかったし、クラブにも入っていなかった (入っていない)
7. その他。
8. わからない。

		1	2	3	4	5	6	7	8
A	(1) 小学校 男(192)	23.9	2.6	2.6	9.4	7.8	20.8	6.3	16.7
	4～6年 女(100)	29.0	2.0	1.0	9.0	8.0	29.0	9.0	13.0
	* (2) 中学時代 男(195)	60.0	10.3	6.1	13.3	0.5	4.6	1.0	5.1
	女(104)	61.5	7.7	1.0	18.3	2.1	5.8	2.9	—
	*** (3) 高校時代又は 男(198)	76.3	6.6	3.0	10.1	1.0	2.5	—	0.5
	16～18歳頃 女(104)	71.2	3.8	—	16.3	—	1.9	5.8	1.0
	*** (4) 大学時代又は 男(182)	70.9	6.6	2.7	14.3	2.2	1.6	1.1	0.5
	18～22歳頃 女(87)	60.9	12.6	1.1	10.3	1.1	1.1	4.6	8.0
	(5) 現在 男(198)	67.2	7.1	1.0	12.1	2.0	0.5	3.0	7.1
	女(101)	52.5	7.9	3.0	10.9	2.0	—	8.7	14.9
B	(1) 小学校 男(159)	45.3	5.7	4.4	18.2	1.9	13.2	1.3	10.0
	4～6年 女(50)	38.0	6.0	2.0	24.0	—	14.0	4.0	12.0
	* (2) 中学時代 男(168)	60.1	6.5	3.0	20.2	0.6	4.8	2.4	2.4
	女(53)	66.0	9.4	—	20.8	—	3.8	—	—
	*** (3) 高校時代又は 男(166)	63.9	9.0	2.4	20.5	—	—	1.2	3.0
16～18歳頃 女(44)	50.0	13.6	4.5	4.5	—	—	—	27.4	
C	(1) 小学校 男(205)	42.0	11.2	3.4	25.9	1.5	4.9	1.5	9.6
	4～6年 女(101)	42.6	5.0	2.0	19.8	5.0	9.9	4.0	11.7
	(2) 中学時代 男(212)	50.5	11.8	4.2	23.1	—	—	0.9	9.5
	女(108)	50.9	4.6	2.8	38.0	—	—	—	3.7

26. それぞれの時期の指導者（顧問や監督、コーチなど）は、どのようにみんなを指導していましたか。下の枠内から最も近い指導のタイプを一つあげてください。また、その指導はあなたにとって良かったですか。

1. 指導者の地位や権威あるいは規制やきまりなどをよりどころとしたタイプの指導。
2. チームの個人の成績やできばえに主眼を置いたタイプの指導。
3. 指導者のもっている能力、専門的知識にもとづいたタイプの指導。
4. 指導者の人柄やクラブ員との人間関係をよりどころとしたタイプの指導。
5. そ の 他。
6. わからない。
7. 指導者はいなかった（いない）。

			1	2	3	4	5	6	7	良 か っ た	良くな かった	わから ない
A	(1)	小 学 校 男(178)	3.9	5.6	10.1	11.8	6.2	27.0	35.8	43.4	2.8	53.8
		4 ~ 6 年 女(88)	1.1	4.5	12.5	10.2	12.5	25.0	34.1	51.1	—	48.9
	(2)	中 学 時 代 男(190)	10.5	17.4	27.4	19.5	5.8	9.5	10.5	62.3	11.7	25.9
		女(99)	5.1	14.1	33.3	25.3	4.0	8.1	10.1	75.0	8.3	16.7
	(3)	高校時代又は 16~18歳頃 男(193)	13.0	11.9	45.6	19.2	—	3.1	7.3	80.2	8.1	11.6
		女(101)	12.9	9.9	45.5	19.8	5.0	5.0	2.0	87.4	4.2	8.4
	(4)	大学時代又は 18~22歳頃 男(181)	11.6	20.4	36.5	16.0	2.8	4.4	8.3	69.4	12.5	18.1
		女(85)	3.5	11.8	47.1	9.4	8.2	8.2	11.8	65.8	1.4	32.9
	(5)	現 在 男(195)	8.2	17.9	29.2	29.2	2.1	7.7	5.6	65.5	5.7	28.7
		女(100)	7.0	13.0	41.0	16.0	11.0	10.0	2.0	61.3	3.2	35.5
B	(1)	小 学 校 男(151)	4.0	6.6	18.5	27.8	2.6	28.6	11.9	55.9	4.8	39.3
		4 ~ 6 年 女(43)	7.0	9.3	7.0	30.2	—	41.8	4.7	44.2	2.3	53.5
	(2)	中 学 時 代 男(161)	11.2	21.1	30.4	25.5	0.6	7.5	3.7	66.7	16.0	17.3
		女(52)	7.7	23.1	28.8	28.8	1.9	5.9	3.8	66.7	11.8	21.5
	(3)	高校時代又は 16~18歳頃 男(163)	13.5	11.7	52.8	12.3	1.2	7.3	1.2	68.3	1.2	30.5
		女(42)	23.8	7.1	47.6	14.3	4.8	2.4	—	47.6	2.4	50.0
C	(1)	小 学 校 男(197)	12.7	5.1	28.4	16.8	6.6	20.2	10.2	65.2	6.0	28.3
		4 ~ 6 年 女(92)	2.2	13.0	17.4	17.4	1.1	40.2	8.7	43.7	13.8	42.5
	(2)	中 学 時 代 男(208)	17.8	18.3	32.7	9.1	1.4	19.7	1.0	59.1	8.4	32.5
		女(108)	5.6	23.1	32.4	13.0	—	25.9	—	51.4	10.3	38.3

27. それぞれの時期のクラブの指導者の人柄はどのようでしたか。下の枠内から最も近い人柄のタイプを一つあげてください。

また、その人柄のタイプはあなたにとって好ましいものでしたか。

1. クラブの時も、ふだんの時も指導者らしい人。
2. クラブの時は指導者だが、ふだんは指導者らしくない人。
3. クラブの時も、ふだんの時も指導者らしくない人。
4. そ の 他
5. わからない
6. クラブに入っていなかった

				1	2	3	4	5	6
A	(1)	小 学 校 男(178)		26.4	6.7	2.8	1.7	29.2	33.1
		4 ~ 6 年 女(90)		23.3	4.4	2.2	2.2	20.0	47.8
	(2)	中 学 時 代 男(189)		50.3	16.4	9.5	3.2	14.8	5.8
		女(99)		56.6	20.2	8.1	2.0	5.1	8.1
	(3)	高校時代又は 男(190)		64.2	20.2	7.4	2.1	3.7	2.6
		16~18歳頃 女(102)		69.6	21.6	2.9	2.0	2.0	2.0
	*** (4)	大学時代又は 男(178)		58.4	24.2	5.1	2.8	6.2	3.4
		18~22歳頃 女(80)		38.7	40.0	2.5	10.0	7.5	1.2
	* (5)	現 在 男(194)		52.6	24.2	5.7	3.1	12.9	1.5
		女(98)		35.7	44.9	4.1	3.1	10.2	2.0
B	(1)	小 学 校 男(156)		38.5	22.4	3.2	3.2	17.3	15.4
		4 ~ 6 年 女(48)		41.7	16.7	4.2	—	22.8	14.6
	(2)	中 学 時 代 男(165)		55.8	23.6	7.9	3.0	7.9	1.8
		女(52)		67.3	19.2	3.8	—	5.9	3.8
	*** (3)	高校時代又は 男(164)		62.2	29.9	1.2	1.2	4.9	0.6
		16~18歳頃 女(43)		41.9	41.9	2.3	—	13.9	—
C	(1)	小 学 校 男(201)		39.3	18.4	9.5	5.0	18.8	9.0
		4 ~ 6 年 女(90)		33.3	21.1	5.6	2.2	23.4	14.4
	(2)	中 学 時 代 男(211)		59.7	16.6	6.2	3.3	14.2	—
		女(108)		66.7	16.7	2.8	5.6	7.3	0.9



		好ましい	好ましくない	わからない	男 性	女 性	
A	(1) 小 学 校	男(178)	45.3	6.6	48.1	99.0	1.0
		4 ~ 6 年 女(90)	50.0	—	50.0	87.8	12.2 <sup>**</sup>
	(2) 中 学 時 代	男(189)	61.8	15.8	22.4	99.4	0.6
		女(99)	75.0	11.9	13.1	88.8	11.2 <sup>***</sup>
	(3) 高 校 時 代 又 は	男(190)	78.9	6.3	14.9	98.3	1.7
		16 ~ 18 歳 頃 女(102)	85.9	4.3	9.8	93.8	6.2
	(4) 大 学 時 代 又 は	男(178)	74.1	10.5	15.4	100.0	—
		18 ~ 22 歳 頃 女(80)	64.3	4.3	31.4 <sup>*</sup>	92.8	7.2 <sup>**</sup>
	(5) 現 在	男(194)	73.3	4.1	22.7	100.0	—
		女(98)	61.6	4.7	33.7	97.8	2.2
B	(1) 小 学 校	男(136)	58.8	3.7	37.5	100.0	—
		4 ~ 6 年 女(44)	54.5	2.3	43.2	82.5	17.5 <sup>***</sup>
	(2) 中 学 時 代	男(154)	66.2	15.6	18.2	98.0	2.0
		女(50)	68.0	12.0	20.0	85.7	14.3 <sup>**</sup>
	(3) 高 校 時 代 又 は	男(156)	71.8	3.8	24.4	100.0	—
		16 ~ 18 歳 頃 女(43)	37.2	2.3	60.5	76.2	23.8 <sup>***</sup>
C	(1) 小 学 校	男(177)	61.0	6.2	32.8	94.8	5.2
		4 ~ 6 年 女(82)	48.8	9.8	41.4	61.8	38.2 <sup>***</sup>
	(2) 中 学 時 代	男(199)	59.8	8.0	32.2	95.6	4.4
		女(105)	59.0	9.5	31.5	77.1	22.9 <sup>***</sup>

28. それぞれの時期に、あなたが入っていたクラブでは、練習計画をどのように決めていましたか。

下の枠内から最も近い決め方のタイプを一つあげてください。

また、その決め方はあなたにとって満足のいくものでしたか。

1. 顧問や監督、コーチなどのクラブ員以外の人が決めるタイプ。
2. 顧問や監督、コーチならびに主将などの一部の上級生とで決めるタイプ。
3. 主将などのクラブの首脳部が決めるタイプ。
4. クラブ員全員で相談して決めるタイプ。
5. 一人一人が自分で作り、顧問や監督、コーチなどに見てもらうタイプ。
6. 一人一人が自分で作り、それを自分で実行していくタイプ。
7. そ の 他。
8. わからない。
9. クラブに入っていなかった (いない)。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	満足し ていた	不 満 だった	わか ら ない	
A	(1) 小 学 校	男(173)	29.5	4.6	1.2	4.6	—	0.6	2.3	23.1	34.1	48.0	4.0	48.0
		4 ~ 6 年 女(93)	25.8	7.5	1.1	1.1	1.1	1.1	3.2	11.8	47.3	57.4	4.3	38.3
	(2) 中 学 時 代	男(189)	31.7	21.2	18.5	12.7	1.6	2.6	—	6.9	4.8	57.6	18.0	24.4
		女(99)	42.4	31.3	6.1	3.0	1.0	3.0	1.0	3.0	9.1	80.5	11.5	8.0
	(3) 高 校 時 代 又 は	16 ~ 18 歳 頃 男(192)	31.3	32.3	21.9	7.8	1.0	2.1	1.0	—	2.6	72.0	15.4	12.6
		女(102)	55.9	28.4	10.8	3.9	—	—	—	—	1.0	82.2	6.9	10.9
	(4) 大 学 時 代 又 は	18 ~ 22 歳 頃 男(179)	17.3	45.3	21.2	5.6	1.1	3.4	1.1	1.1	3.9	66.7	19.0	14.3
		女(84)	22.6	51.2	17.9	—	2.4	1.2	1.2	1.2	2.4	60.8	12.7	26.6
	(5) 現 在	男(194)	19.1	34.0	16.0	9.3	6.2	10.3	—	2.6	2.6	58.8	18.7	22.5
		女(97)	41.2	48.5	4.1	—	2.1	1.0	2.1	—	1.0	56.4	8.5	35.1
B	(1) 小 学 校	男(155)	41.9	14.8	3.9	3.9	1.3	1.3	3.9	12.9	16.1	51.8	7.3	40.9
		4 ~ 6 年 女(49)	57.1	6.1	2.0	—	2.0	—	—	14.4	18.4	46.7	2.2	51.1
	(2) 中 学 時 代	男(165)	33.3	26.7	18.8	12.7	1.2	0.6	1.8	3.7	1.2	66.3	19.4	14.3
		女(53)	45.3	26.4	11.3	9.4	1.9	—	1.9	—	3.8	76.5	13.7	9.8
	(3) 高 校 時 代 又 は	16 ~ 18 歳 頃 男(164)	52.4	31.8	7.3	3.7	0.6	0.6	1.8	1.8	—	59.1	18.9	22.0
		女(44)	41.0	45.5	4.5	6.8	2.3	—	—	—	—	42.9	14.3	42.8
C	(1) 小 学 校	男(183)	38.6	13.4	5.9	12.4	2.0	3.5	2.0	12.8	9.4	60.0	8.1	31.9
		4 ~ 6 年 女(91)	34.1	13.2	2.2	7.7	—	—	2.2	23.0	17.6	55.4	10.8	33.8
	(2) 中 学 時 代	男(212)	38.2	34.0	11.8	6.6	0.5	2.4	0.9	5.6	—	58.0	10.1	31.9
		女(108)	35.6	37.5	3.8	12.2	1.0	2.0	2.0	4.9	1.0	50.9	13.9	35.2

29. あなたがここまで選手をやった背後には、いろいろな要因があると思われませんが、つきにかかげる事柄の中から最も大きな影響を及ぼした要因を順に三つ選んで、右の( )の中にその番号を記入してください。

	A					
	1 位		2 位		3 位	
	男	女	男	女	男	女
01. テレビ、新聞・雑誌、書物の影響	***					
02. スポーツ施設に恵まれたこと	(201)	(103)	(201)	(103)	(200)	(103)
03. 運動クラブに恵まれたこと	1.5	1.0		1.0	1.0	2.9
04. 学校の環境がよかったこと	3.5	1.0	3.5	3.9	6.0	4.9
05. よい指導者に恵まれたこと	21.4	3.9	12.9	21.4	8.5	10.7
06. 家族や親類、知人のはげまし、理解があったこと	5.5	3.9	8.0	7.8	4.0	10.7
07. 友人のはげまし、理解があったこと	31.3	51.5	25.9	22.3	7.5	8.7
08. 経済的に恵まれたこと	14.4	22.3	21.4	26.2	11.0	14.6
09. あなた自身の素質	5.0	6.8	3.5	4.9	7.0	11.7
10. あなた自身の努力	0.5	—	5.5	1.0	8.0	4.9
11. 運やつき	3.0	—	3.0	4.9	9.5	1.9
12. その他	10.0	3.9	10.4	3.9	19.5	15.5
	2.0	3.9	5.0	2.9	16.5	8.7
	2.0	1.9	1.0	—	1.5	4.9

	B						C					
	1 位		2 位		3 位		1 位		2 位		3 位	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	(168)	(53)	(168)	(53)	(168)	(53)	(208)	(107)	(209)	(100)	(208)	(107)
01.	3.6	5.7	3.6	—	1.8	—	10.6	4.7	9.1	8.0	5.8	6.6
02.	2.4	1.9	2.4	7.5	6.5	5.7	3.8	2.8	6.2	6.0	4.4	3.8
03.	17.9	13.2	14.9	13.2	8.3	5.7	16.3	13.1	11.0	22.0	13.6	6.6
04.	3.0	5.7	5.4	—	11.9	—	6.2	6.5	6.2	7.0	8.3	11.2
05.	32.1	24.5	19.7	18.9	8.3	17.0	26.4	26.2	21.1	16.0	11.7	13.1
06.	17.3	18.9	20.8	13.2	16.8	18.9	7.7	9.3	12.9	21.0	6.3	11.2
07.	7.1	5.7	7.7	13.2	8.3	5.7	6.2	19.6	7.7	12.0	11.7	14.0
08.	0.6	—	1.2	—	2.4	—	—	0.9	1.4	—	2.8	—
09.	1.8	—	6.5	5.7	4.8	1.9	3.8	—	11.0	—	5.8	2.8
10.	7.1	18.9	10.7	7.5	14.9	20.8	14.4	13.1	9.6	6.0	16.0	23.2
11.	5.4	—	7.1	17.0	8.9	11.3	1.0	1.9	2.4	1.0	5.3	4.7
12.	1.7	5.5	—	3.8	7.1	13.0	3.7	0.9	1.4	1.0	8.3	2.8

30. あなたはこれまでの競技生活を通じて、つぎの事柄をどの位犠牲にしてきましたか。

		全然犠牲に しなかった	それほど 犠牲に しなかった	どちらとも いえない	いくらか 犠牲にした	非常に犠牲 にした	わからない	
A	(1) 学校での勉強	男(191)	11.0	27.2	19.4	25.1	14.1	3.1
		女(100)	7.0	28.0	23.0	32.0	7.0	3.0
	(2) 進 学	男(192)	32.8	28.6	19.8	10.9	5.2	2.6
		女(100)	40.0	18.0	23.0	8.0	8.0	3.0
	*** (3) 就 職	男(188)	43.1	21.8	16.5	7.4	6.4	4.8
		女(99)	43.4	15.2	20.2	10.1	4.0	7.1
	(4) 職業上の事柄	男(196)	18.9	14.3	13.3	34.7	14.8	4.1
		女(101)	24.8	11.9	20.8	21.8	7.9	12.9
	**** (5) 金 銭	男(199)	10.1	18.1	15.1	32.2	23.6	1.0
		女(104)	5.8	13.5	14.4	43.3	9.6	13.5
	(6) 結 婚	男(184)	27.7	11.4	15.2	9.2	8.2	28.3
		女(96)	26.0	4.2	19.8	5.2	4.2	40.6
	** (7) 家事・育児	男(177)	24.3	8.5	12.4	11.9	9.6	33.3
		女(95)	24.2	2.1	10.5	9.5	—	53.7
	(8) 健康・体力	男(198)	27.3	25.8	15.2	19.2	9.6	3.0
		女(103)	23.3	20.4	21.4	29.1	2.9	2.9
	**** (9) 性 生 活	男(186)	26.9	10.8	23.1	7.0	8.1	24.2
		女(93)	29.0	2.2	9.7	1.1	1.1	57.0
	**** (10) 専門以外の スポーツ活動	男(196)	13.8	16.8	18.9	29.1	14.8	6.6
		女(101)	16.8	11.9	18.8	21.8	6.9	23.8
* (11) スポーツ以外 の趣味・教養 活 動	男(198)	11.1	17.2	17.7	37.4	15.7	1.0	
	女(104)	5.8	11.5	16.3	50.0	11.5	4.8	
(12) 政治的活動	男(186)	30.1	4.8	22.6	3.8	5.4	33.3	
	女(98)	32.7	2.0	13.3	1.0	—	51.0	
** (13) 自由時間	男(199)	7.0	11.1	9.5	26.2	35.2	1.0	
	女(104)	—	5.8	8.7	44.2	41.3	—	

		全然犠牲に しなかった	それほど 犠牲に しなかった	どちらとも いえない	いくらか 犠牲にした	非常に犠牲 にした	わからない	
B	(1) 学校での勉強	男(168)	2.4	11.9	20.8	45.8	18.5	0.6
		女(53)	1.9	7.5	15.1	49.1	24.5	1.9
	* (2) 進学	男(161)	24.2	13.0	19.3	18.6	8.1	16.8
		女(46)	32.6	2.2	30.4	4.3	8.7	21.8
	(3) 就職	男(107)	15.0	7.5	16.8	13.1	4.7	42.9
		女(37)	32.4	10.8	10.8	5.4	10.8	29.8
	(4) 職業上の事柄	男(96)	8.3	6.3	16.7	6.3	2.1	60.3
		女(27)	18.5	—	—	3.7	—	77.8
	* (5) 金銭	男(162)	5.6	8.6	15.4	45.1	22.1	3.2
		女(53)	1.9	1.9	9.4	43.4	43.4	—
	(6) 結婚	男(84)	11.9	—	4.8	—	—	83.3
		女(27)	25.9	—	—	—	—	74.1
(7) 家事・育児	男(89)	12.4	—	4.5	2.2	1.1	79.8	
	女(28)	21.4	3.6	—	—	3.6	71.4	
* (8) 健康・体力	男(165)	22.4	17.0	27.2	20.0	6.7	6.7	
	女(52)	11.5	15.4	25.0	25.0	21.2	1.9	
(9) 性生活	男(114)	9.6	3.5	14.0	7.0	5.3	60.6	
	女(29)	20.7	—	6.9	3.4	—	69.0	
(10) 専門以外の スポーツ活動	男(159)	20.8	11.9	22.6	19.5	11.9	13.2	
	女(48)	18.8	4.1	12.5	20.8	25.0	18.8	
(11) スポーツ以外 の趣味・教養 活動	男(164)	6.7	9.1	19.5	40.2	18.9	5.6	
	女(49)	2.0	10.2	8.2	38.8	36.7	4.1	
* (12) 政治的活動	男(108)	13.0	1.9	10.2	3.7	1.9	69.3	
	女(37)	32.4	—	2.7	2.7	8.1	54.1	
(13) 自由時間	男(166)	3.6	2.4	8.4	27.7	55.5	2.4	
	女(52)	—	—	5.8	23.1	71.1	—	
C	** (1) 学校での勉強	男(183)	23.0	22.4	29.0	18.0	2.7	4.9
		女(107)	13.1	27.1	30.8	22.4	1.9	4.7
	(2) 進学	男(169)	27.2	9.5	18.9	10.1	1.8	32.5
		女(101)	21.8	10.9	28.7	5.9	5.9	26.8
	(3) 金銭	男(181)	21.0	21.5	14.4	24.9	7.7	10.5
		女(104)	15.4	19.2	25.0	15.4	7.7	17.3
	*** (4) 家事・育児	男(168)	33.9	11.9	17.9	6.0	1.2	29.1
		女(99)	24.2	11.1	20.2	22.2	4.0	18.3
	(5) 健康・体力	男(179)	36.9	19.6	21.8	14.5	1.1	6.1
		女(103)	28.2	34.0	18.4	13.6	2.9	2.9
	(6) 専門以外の スポーツ活動	男(179)	42.5	18.4	16.2	9.5	1.1	12.3
		女(104)	40.4	16.3	22.1	5.8	3.8	11.6
*** (7) スポーツ以外 の趣味・教養 活動	男(179)	35.8	22.9	11.2	16.8	5.6	7.7	
	女(105)	21.0	19.0	27.6	21.0	5.7	5.7	
*** (8) 自由時間	男(175)	20.0	14.9	16.6	31.4	13.7	3.4	
	女(104)	7.7	14.4	14.4	35.6	26.9	1.0	

31. あなたがこれまで競技活動を続けてきたことは、つぎのどのようなことに役に立ちましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(重答)

		勉学	進学	就職	職業上の事柄	収入	結婚	家事	健康・体力
A	男(203)	8.8	35.8	61.8	25.5	9.3	3.9	0.5	73.5
	女(104)	9.6	30.8	68.3	16.3	7.7	4.8	1.0	72.1
B	男(169)	10.7	24.3	21.9	2.4	—	0.6	0.6	78.7
	女(53)	3.8	15.1	24.5	—	—	—	—	67.9
C	男(213)	17.8	6.6	0.5	—	—	—	4.2	72.3
	女(108)	12.0	6.5	0.9	—	—	—	1.9	92.6
		専門以外のスポーツ	社交	政治的活動	その他				
A	男(203)	11.8	65.7	0.5	1.5				
	女(104)	5.8	69.2	—	4.8				
B	男(169)	9.5	39.1	0.6	1.8				
	女(53)	3.8	55.6	—	11.3				
C	男(213)	18.3	9.9	—	3.8				
	女(108)	13.0	21.3	—	3.7				

32. あなたはこれまでの競技生活を通じて、競技をやめたいと思ったことや実際にやめたことがありますか。

		やめたいと思ったことがある	実際にやめたことがある	そのようなことはなかった
A ***	男(200)	67.5	8.0	24.5
	女(103)	92.2	3.9	3.9
B	男(168)	68.5	7.7	23.8
	女(53)	83.0	5.7	11.3
C ***	男(211)	40.8	3.3	55.9
	女(107)	70.1	4.7	25.2

33. その理由はつぎのどれですか。主なもの順に三つあげてください。

	A					
	男 子			女 子		
	1位 (203)	2位 (186)	3位 (174)	1位 (104)	2位 (97)	3位 (92)
1. 勉 学	4.0	0.8	0.8	3.0	3.3	4.6
2. 進 学	2.7	—	—	5.1	1.1	1.1
3. 就 職	2.0	3.1	1.7	—	1.1	2.3
4. 職業上の事柄	9.4	5.3	1.7	2.0	—	—
5. 経済的理由	2.7	3.8	3.4	1.0	1.1	1.1
6. 結 婚	0.7	1.5	0.8	—	—	—
7. 家事・育児	0.7	2.3	0.8	—	—	—
8. 親やまわりの反対	3.4	2.3	2.5	3.0	5.4	4.6
9. 夫や妻の反対	0.7	0.8	—	—	—	—
10. 転勤や住居の移転	—	—	0.8	—	—	—
11. 競技の記録や成績の低下	10.1	9.9	7.6	5.1	15.2	3.4
12. 健康・体力上の理由	10.1	11.5	6.7	10.1	8.7	5.7
13. 練習のつらさ	26.2	15.3	13.4	24.2	17.4	10.3
14. 仲間の選手との人間関係	8.1	9.2	5.9	20.2	15.2	11.5
15. 指導者との人間関係	3.4	6.9	5.0	4.0	4.3	5.7
16. 施設、クラブ、指導者の不備	2.0	2.3	2.5	2.0	4.3	—
17. スポーツ上の女性差別	—	—	—	—	—	—
18. 束縛されるのがいや	4.7	15.3	12.6	11.1	9.8	17.2
19. 他にしたいことがある	6.0	6.9	24.4	5.1	12.0	17.2
20. そ の 他	3.4	3.1	9.2	4.0	1.1	14.9

	B						C					
	男 子			女 子			男 子			女 子		
	1位* (131)	2位 (122)	3位* (111)	1位 (47)	2位 (46)	3位 (45)	1位 (87)	2位 (79)	3位 (73)	1位 (76)	2位 (70)	3位 (69)
1.	13.0	6.6	15.3	8.5	8.7	4.4	11.5	8.9	8.2	6.6	7.1	5.8
2.	3.1	7.4	2.7	—	2.2	2.2	—	5.1	1.4	—	1.4	2.3
3.	1.5	0.8	3.6	—	—	2.2	—	—	1.4	—	—	—
4.	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5.	—	0.8	0.9	—	—	—	1.1	1.3	—	—	—	—
6.	—	0.8	—	—	—	—	—	1.3	—	—	—	—
7.	—	—	—	—	—	—	—	—	1.4	—	1.4	—
8.	1.5	4.1	1.8	2.1	2.2	13.3	1.1	1.3	1.4	—	4.3	1.4
9.	—	0.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10.	—	—	—	—	—	2.3	2.3	—	—	—	—	—
11.	5.3	5.7	1.8	10.6	8.7	8.9	10.3	11.4	13.7	11.8	18.6	11.6
12.	9.9	9.0	7.2	2.1	4.3	8.9	4.6	17.7	9.6	3.9	10.0	5.8
13.	41.2	19.7	17.2	25.6	21.7	17.8	36.8	15.2	16.4	36.8	14.3	14.5
14.	3.1	4.9	6.3	4.3	2.2	2.3	3.4	7.6	5.5	22.4	12.9	11.6
15.	6.1	4.1	5.4	8.5	4.3	13.3	3.4	3.8	4.1	2.6	12.9	4.3
16.	1.5	0.8	2.7	—	—	—	—	7.6	4.1	—	—	7.2
17.	—	—	—	—	—	—	1.1	—	2.7	—	—	—
18.	3.8	18.0	7.2	14.9	32.7	6.7	2.3	7.6	2.7	1.3	7.1	5.8
19.	6.9	15.7	18.0	21.3	13.0	13.3	13.8	5.1	8.2	7.9	4.3	15.9
20.	3.1	0.8	9.9	2.1	—	4.4	8.3	6.1	19.2	6.7	5.7	12.9

34. あなたは競技生活をもうやめたいと思っていますか。

すぐにもやめたいと思っている      まだやめる気はない

A **	男(197)	19.3	80.7
	女(102)	36.3	63.7
B ***	男(167)	14.4	85.6
	女(51)	43.1	56.9
C *	男(212)	1.9	98.1
	女(102)	7.8	92.2

35. その理由は何ですか。前問33の理由の中からあてはまるものを順に三つあげてください。

	男			女		
	1 位 (202)	2 位 (200)	3 位 (198)	1 位 (104)	2 位 (102)	3 位 (99)
A	19 …… 21.6	12 …… 20.0	4 …… 18.2	12 …… 37.8	19 …… 37.1	19 …… 25.0
	12 …… 16.2	18 …… 17.1	19 …… 15.2	18 …… 16.2	12 …… 14.3	20 …… 15.6
	14 …… 16.2	19 …… 14.3	18.20 … 12.1	14 …… 13.5	18 …… 14.3	12.14.18 … 12.5
B	(25)	(23)	(22)	(22)	(22)	(22)
	18 …… 20.0	19 …… 26.1	19 …… 40.9	19 …… 40.9	18 …… 36.4	13 …… 27.3
	13 …… 16.0	13.18 … 17.4	20 …… 13.6	13.18 … 18.2	19 …… 27.3	15 …… 13.6
C	1.2.19 … 12.0	1 …… 13.0	1.13.15 … 9.1	1.15 … 9.1	12 …… 13.6	3 …… 18.2
	(4)	(4)	(4)	(8)	(8)	(8)
	12.13.17 … 33.3	2.8.19 … 33.3	1.2.14 … 33.3	1 …… 50.0	2 …… 50.0	13.18 … 37.5
			19 …… 25.0	1.14.15.16	11.15 … 12.5	
			2.13 … 12.5	… 12.5		



36. 多くの女性スポーツ愛好者が競技を続けていけない要因は何だとお考えですか。最も大きな要因と考えるものから順に三つ選んでください。

	A					
	1	位	2	位	3	位
	男	女	男	女	男	女
	(184)	(104)	(179)	(102)	(174)	(97)
1. やる気などの精神的要因	22.3	15.4	16.8	19.6	34.5	29.3
2. 体力などの身体的要因	9.8	23.1	44.1	45.1	19.5	20.2
3. 結婚、家事・育児などの家庭的な要因	63.6	55.8	21.8	28.4	9.2	12.1
4. 指導者やクラブ、施設などの不備	3.3	3.8	13.4	6.9	15.5	18.2
5. スポーツにおける女性に対する差別	0.5	1.0	2.8	—	5.2	7.1
6. そ の 他	0.5	1.0	1.1	—	16.1	13.1

	B						C					
	1	位	2	位	3	位	1	位	2	位	3	位
	男	※女	男	※女	男	※女	男	女	男	※女	男	女
	(165)	(53)	(162)	(53)	(161)	(53)	(206)	(105)	(196)	(104)	(196)	(103)
1.	19.4	7.5	16.0	1.9	28.0	45.3	34.5	29.5	13.3	23.3	17.9	31.1
2.	23.6	17.0	43.2	66.0	19.3	7.5	26.2	21.9	44.4	44.3	17.9	21.4
3.	52.8	75.5	19.2	18.9	11.2	5.7	30.6	45.7	22.4	22.1	15.8	15.5
4.	1.8	—	11.1	11.3	11.2	17.0	1.9	1.9	5.6	6.7	12.2	11.7
5.	2.4	—	8.0	1.9	14.3	3.8	4.9	1.0	12.2	3.8	19.4	7.8
6.	—	—	2.5	—	16.0	20.7	1.9	—	2.1	—	16.8	12.5

37. あなたは今後どのようなかたちで、スポーツとかかわりたいと考えていますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(重答)

	A		B		C	
	男	女	男	女	男	女
	(203)	(104)	(169)	(53)	(213)	(108)
1. スポーツとはまったく無関係になる	1.5	—	1.8	5.7	5.2	4.6
2. 今まで通りアマチュア競技者として	66.2	41.3	56.8	34.0	63.8	38.9
3. プロのスポーツ競技者として	—	—	3.0	—	11.3	6.5
4. 大会には出ないで、スポーツを楽しむ	35.8	62.5	45.6	66.0	29.1	56.5
5. 学校の体育教師や運動部の顧問として	34.3	19.2	10.7	3.8	7.5	8.3
6. 体育・スポーツの研究者として	12.3	4.8	3.0	1.9	1.9	2.8
7. 本業のコーチやトレーナーとして	14.7	5.8	5.3	—	1.9	3.7
8. 本業でないコーチやトレーナーとして	15.7	14.4	11.8	7.5	10.8	8.3
9. 競技審判員として	25.5	5.8	5.3	1.9	4.7	0.9
10. スポーツ団体の役員や職員として	12.3	8.7	3.6	11.3	1.9	4.6
11. スポーツ関係のマスコミの職員として	0.5	—	1.8	—	2.8	0.9
12. そ の 他	—	—	9.5	5.7	10.3	9.3

38. あなたはこれまで選手への道を歩んできてよかったと思いますか。

大変よかった いくらかよかった どちらともいえない いくらかよくなかった 全然よくなかった

A ※	男(202)	77.7	18.3	4.0	—	—
	女(104)	69.2	26.9	1.0	2.9	—
B ※	男(169)	67.5	25.4	5.9	0.6	0.6
	女(53)	43.4	43.4	13.2	—	—
C	男(209)	52.6	32.2	12.4	1.4	1.4
	女(107)	43.0	45.8	7.5	2.8	0.9

39. あなたはもう一度チャンスがあれば、スポーツ選手への道を選びますか。

選んでみたい 選びたくない わからない

A ※※※	男(201)	70.1	7.0	22.9
	女(103)	38.8	12.6	48.5
B ※※※	男(162)	51.2	7.4	41.4
	女(53)	20.8	32.1	47.1
C	男(203)	50.2	4.9	44.8
	女(106)	46.2	11.3	42.5

40. 「試合や練習の前には、指導者はその役割をぬいて一人の人間としてホンネで選手に接すべきだ」という意見があります。あなたが指導者なら、この考えに対してどう思いますか。

	A※※※		B		C	
	男(200)	女(104)	男(168)	女(52)	男(208)	女(108)
1. 考えに賛成だし、そのようにできる	53.0	29.8	53.0	32.7	30.8	26.9
2. 考えに賛成だが、そのようにできない	29.5	30.8	17.3	26.9	19.2	30.6
3. 考えに反対だが、そのようにしたい	1.0	1.0	1.8	—	1.0	2.8
4. 考えに反対だし、そうしない	3.0	7.7	1.8	3.8	3.4	0.9
5. わからない	13.5	30.8	26.1	36.6	45.6	38.8

41. 「スポーツの勝ち負けは人生の勝ち負けに通ず」と言われる一方で、「スポーツはスポーツ、人生は人生」という考え方もあります。あなたは、これらの考えに対して、どう思いますか。

	A※※※		B		C※※	
	男	女	男	女	男	女
	(198)	(102)	(169)	(53)	(209)	(107)
1. 前者の考えに賛成だし、そのようにしている	21.7	14.7	19.5	11.3	14.4	8.4
2. 後者の考えに賛成だし、そのようにしている	36.9	20.6	23.7	17.0	32.5	23.4
3. 前者の考えに賛成だが、そのようにできない	14.1	11.8	12.4	18.9	8.1	13.1
4. 後者の考えに賛成だが、そのようにできない	7.6	17.6	12.4	15.1	5.7	16.8
5. わからない	19.7	35.3	32.0	37.7	39.3	38.3

42. あなたは、男性、女性どちらの指導者をのぞみますか。

		男性がよい	女性がよい	どちらでもよい
A	男(201)	85.6	3.0	11.4
	女(103)	85.4	1.9	12.6
B	男(164)	74.4	10.4	15.2
	女(53)	75.5	3.8	20.7
C ***	男(209)	70.8	9.1	20.1
	女(108)	42.6	13.0	44.4

43. つぎのそれぞれの時期に、スポーツをする上で「女性」であるということによって不利益なあつかいを受けたことはありましたか。(女子のみ回答)

		よく経験した	時々経験した	経験しなかった	わからない
A	(1) 小学校時代 (97)	—	4.1	61.9	34.0
	(2) 中学時代 (103)	1.0	14.6	70.9	13.6
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃 (102)	5.9	12.7	73.5	7.8
	(4) 大学時代又は 18～22歳頃 (84)	2.4	10.7	76.2	10.7
	(5) 現在 (101)	7.9	13.9	70.3	7.9
B	(1) 小学校時代 (49)	—	4.1	57.1	38.8
	(2) 中学時代 (52)	1.9	5.8	67.3	25.0
	(3) 高校時代又は 16～18歳頃 (43)	—	14.1	67.4	18.5
C	(1) 小学校時代 (97)	—	7.2	59.8	33.0
	(2) 中学時代 (107)	1.9	18.7	52.3	27.1

44. あなたの初潮年齢(女子のみ回答)

	A	B	C
最小値	10歳0か月	11歳1か月	10歳1か月
最大値	18歳5か月	15歳11か月	15歳5か月
中央値	13歳0か月	13歳0か月	12歳11か月
最頻値	12歳0か月	12歳10か月	13歳9か月
平均値	13歳3か月	12歳2か月	12歳8か月

基礎的事項

45. 結婚

		結婚している	結婚していない
A ***	男(72)	20.8	79.2
	女(104)	1.0	99.0

46. 子 ども      あ り      な し

A ***	男(72)	18.6	81.4
	女(104)	1.0	99.0

47. 職 業      自 営 者      勤 め 人      家 族 従 事 者      無 職

A *	男(64)	6.3	87.5	—	6.3
	女(103)	—	90.3	—	9.7

48. 最 終 学 歴      義 務 教 育 終 了      高 校 終 了 程 度      大 学 終 了 程 度 (短 大 ・ 高 専 を 含 む)

A	男(69)	2.9	37.7	56.5
	女(103)	1.0	53.4	38.8

49. あ な た が 行 っ て い た 高 校 に つ い て

(1)      男 女 共 学      男 子 校 ま た は 女 子 高      在 学 し な か っ た

A	男(69)	2.9	37.7	56.5
	女(104)	1.0	53.4	38.8
B	男(19)	100.0	—	—
	女(53)	100.0	—	—

(2)      国 公 立 の 高 校      私 立 の 高 校      在 学 し な か っ た

A	男(68)	72.7	27.3	—
	女(100)	77.0	22.0	1.0
B	男(19)	78.9	21.1	
	女(53)	94.3	5.7	

(3)      職 業 課 程 の 高 校      普 通 課 程 の 高 校      1 と 2 の 併 設 校      在 学 し な か っ た

A	男(67)	35.8	38.8	25.4	—
	女(103)	34.0	39.8	25.2	1.0
B **	男(18)	16.7	77.8	5.5	
	女(52)	38.5	36.5	25.0	

(4)      殆 ん ど の 生 徒 が 進 学 す る 高 校      進 学 者 の 方 が 比 較 的 多 い 高 校      就 職 者 の 方 が 多 い      在 学 し な か っ た

A	男(68)	13.2	16.2	70.0	—
	女(104)	21.2	26.9	51.0	1.0
B *	男(18)	33.3	27.8	38.9	—
	女(53)	7.5	28.3	64.2	—

(5)      ス ポ ー ツ 盛 ん で レ ベ ル 高 い      ス ポ ー ツ 盛 ん で レ ベ ル 普 通      ス ポ ー ツ 低 調      在 学 し な か っ た

A	男(68)	44.1	38.2	17.6	—
	女(104)	38.5	44.2	16.3	1.0
B	男(18)	16.7	61.1	22.2	—
	女(52)	15.6	51.8	32.6	—

# 『一流運動競技選手のスポーツへの社会化の過程に関する 基礎的研究』その3

## ——女子選手の選手生活継続に及ぼすマイナス要因について——

沢田和明 (滋賀大学教育学部)

### 1. 緒言

スポーツは理想的には個人レベルのものであり、個人が個人の欲求に従い、その責任の範囲でスポーツと関わりを持てばよいものである。ところがスポーツの特性に Caillois, R. のいう <sup>アゴーン</sup> *αγων* (競争) を考えていく以上、またその Play への心的態度が、基本的には社会的承認の欲求に基づいていると捉えていく以上、特定ルールに従い、より高度な技能レベルそのもの、またはそのレベルを保持している個人や集団に対し、各人が努力したり挑戦したりして、より上位に位置づいたり、その位置をより長く維持しようとする人間の試みは、否定不可能な宿命的なものといえよう。

そしてその無限の繰り返しの中でルールが改変され、技術の水準が高揚し、スポーツの試合や練習の過程や結果に対する社会的評価も社会の動きと関わりながら種々変容をみせてきているといえよう。

社会的評価の変容は、基本的にはスポーツ文化自体の中核的体系を構成する技術体系の質的高揚に裏付けられるものに由来することが多いと思われる。スポーツ文化が政治、経済、教育、科学等スポーツ以外の体系と関わり、種々に変容する現代社会の中でマスコミはじめ情報媒体を通して技術の高揚についての価値観を修正し確定していくことになる。

その技術体系の中での高水準に位置づくためにはそれに相当する個人の努力を前提とし、その努力はその個人が手に入れた他の価値を犠牲にして入手、または入手可能なことがあり得るという過程を経る。

一般的により多くの人が入手を期待したり、接近したいと思いつながら、その代償としての犠牲が大きければ大きいほど社会的価値は高くな

るが、その技術獲得のための社会化の過程には、本人の技能の程度、関心の程度を中心に、家庭や学校や仲間集団や地域など種々との社会的機関の中で、重要な他者（+、- に影響を及ぼす人）との出逢い、スポーツへの機会の多寡や条件の良し悪し、スポーツに対する価値づけや自己の行動に対する周囲よりの反応としての賞罰などの社会的要素が複雑に関わり、何度もスポーツとの関わりを繰り返す中で、諸個人のスポーツについての社会的役割がいくつかの類型にパターン化されていくことになる。

この類型については Kenyon, G.S. は行動的なレベル、認知的なレベル、性向的なレベルを一方の手掛りに、また直接スポーツ競技や練習をしている Player としての立場とそれ以外に分け、後者をさらに、スポーツの場を作り上げていくことに関わる類型と、その場を間接的に消費する形で楽しむ類型に分けている。

この消費の類型と直接 Play をする類型への層化現象の原点こそ先述の技術体系における技術水準の高低であり、その隔差を助長し、価値的高揚に働くのがその場を作り上げていくことに関わるコーチや指導者、競技連盟や報道関係等である。

またその裏付けをしていくのが学校体育の技術中心主義教育であったり、発育発達への刺激としての体育の目標設定や、健康の維持増進、安全の確保といった、運動やスポーツの手段の捉え方をしてきた日本の学校体育の歴史で育てられたスポーツ即いいものという神話であったりする。

スポーツが個人レベルで論議できる限界は全ての人直接的に Play するレベルにある場合であり、技術の高度化に伴い行方側と観る側に

層化し乖離していく現象が生ずる中では、スポーツは常に個人レベルと個人を超えたレベルでの葛藤状況を生み出す。それが技術レベルの高揚に伴い葛藤も深刻になってくる。例えば、個人の自由意志でスポーツ活動の継続やスポーツ集団への所属や、スポーツ活動の休止や停止、スポーツ集団からの離脱等が自由に行えない状況の現出が、個人の技能が高まれば高まるほど多くなるといえよう。

そのこと自体が理念としてのスポーツからみれば病理的現象であるといえるかもしれないが、社会的価値を賦与された個人の技能はもはや個人の領域にとどまらないものという考え方の方が理解しやすいかもしれない。

とにかくスポーツ活動の継続、休止、停止が本人の自由意志で行われるというテーマエが特定技能水準を境界に少しずつ崩れていき、技能の程度という観点から続けたくても続けられないとか、逆に休んだり、やめたりしたくても出来ないという状況があるとすれば問題である。

## 2. 目的・手順

本研究は昨年、一昨年<sup>1)</sup>の第36回国民体育大会（びわこ国体）出場の滋賀県選手団選手、及び中学校総合体育大会上位入賞者を中心とした「一流運動競技選手のスポーツの社会化の過程に関する研究」（その1）、（その2）で明らかになったことがらのうち、特に一流競技選手の試合や練習を中心とした選手生活についての考え方についての男女差に着目し、女子がスポーツ選手生活を継続していくことの困難さを集約し、その集約を具体的な事例で裏づけ可能な資料を蒐集し、その集約により調査票法で行われる社会調査の粗さを補足していこうとするものである。

社会調査とは安田<sup>2)</sup>によれば「一定の社会または集団における社会事象を主として現地調査によって直接に観察し、記述、分析する過程」である。その目的は事実発見や仮設検証、意志決定などに用いられ、国勢調査や世論調査、学問的調査、市場調査、社会踏査などとして行わ

れているが、一般的なものとしては調査票を用いてある程度の数量を集め、母集団の状況を標本により明らかにすることが多く、またその内容は質的なものよりは量的なものを中心として処理されることが多い。

そのことは質的なものの処理の過程や結果が、その客観性をいかに確保していくかという観点から、常に量的なものが優先されてきた歴史と関わっているといえよう。質的なものを質的なままで多量に処理可能であれば問題ないが、時間的、能力的な関わりから二者択一にならざるを得ないのが実状であろう。

質的データを量的データに変換する数量化の可能性が説かれ、社会科学領域に導入されて久しいが、近年体育社会学の領域でもそれらを利用した多変量解析による研究成果発表も少なくない。

数量化そのものの論理的妥当性は能力外の問題であるが、社会調査の限界からすれば、人間の行動の特定状況をいくつかの調査項目により分割した質的局面を量的に表現することの可能性、及びその局面を重ね合わせることで全体像が構築されていくという論理構成の可能性に関しては今一度問い直される必要があると思われる。システム論的に全体が部分に可分割であり、その部分としての要素が閉じた形で全体を有機的に構成していくような対象であれば問題ないが、閉システム的に捉えきれない人間行動を可分割的に捉えるいかなる試みも不完全さを払拭できないと思われる。

調査票法は調査票に用いられた設問の範囲からの分析であり、それ以上でも以下でもない。他の質問項目を用いず、その質問項目をそのような用語、そのような構成で実施したというそれだけの限定の中でのみ可分割不可能な人間の諸行動の一部分を分割可能なものとして捉えた一結果にしか過ぎない。

その限定の中で一昨年、昨年の調査結果を本年度の研究関心に従い集約し、その量的データを質的データで埋め、補足していくことにする。

本年度の質的データの蒐集は「女性がスポー

ツを続けていく上での問題」というテーマで、「自分が選手生活（練習や試合）を継続していくうえで、こまったこと、腹がたったこと、情けなかったこと、いやだったこと、つらかったことなど、選手生活を続けていく上でマイナスになったと思われるような体験」について自由記述してもらい、それを整理集約する作業を試みた。

この作業は一般にKJ法やTKJ法と称されるものを用いて行ったが、それらの方法は本来文化人類学などの領域で、ある現象を理解していく上で、従来の学問研究の成果がストレートに援用しにくい、またはできないような対象に対する研究方法として開発されたものであるが、問題の根底に多様なものが複雑に絡み、その整理がうまく行かないような問題を概略的に捉えるにはある程度の利用が可能なものとして考えられている。調査票法では設問が限定され、その限定された質問からはそれに関わる問題の理解は可能でも、それ以外の問題に対しては全く無力である。自由記述は基本となる体系がないため集約しにくい、思いつかない観点の発見や、より具体的な実態への接近が可能となる。

具体的な記述にあたっては、テーマの説明の後、人から聞いた話、本から得た知識、その体験の評価・解釈・判断、その体験にもとづく対策、一般論・べき論・評論などは記入しないように、また印象深い過去の体験を、写生するように、体験した情景が目浮かんでくるように、きわめて具体的に、できるだけ新しい体験を、関係ありそうなことすべてを、1枚のラベルに1体験ずつ記入するように記入上の注意をし、ラベル構成の具体例として、悪い例と良い例をあげ協力を求めた。なおこれらの例示は時にはそれに影響されすぎることがないわけではないが、その回答ラベルの質をより向上させるために教えて例示した。

今回の調査は自由記述を中心にデータを蒐集したが、対象とした第38回国民体育大会秋季大会選手全員（選手及び予備員）の77名に調査票を郵送法で実施し、督促1回後の回収結果は回

収標本数30（うち無効1）、有効回収率39.0%、総ラベル数233枚であった。なお最高34枚、最低1、平均8.0、標準偏差6.47であった。

莫大なラベルの集約はKJ法ならびにTKJ法に従い整理を行った。ラベルは生データとして利用可能であるかという選択作業を試み、その上で生データの具体的グルーピング作業に移るのが通例であるが、問題があらゆる場面を対象とするため、記入内容も多様であり、その多様性をラベル精選作業で失うことを危惧して全て採用した。それ故データの質としては玉石混濁ということをまぬがれ得ない。

またこのような各個人の体験を具体的に記入していく調査では、答えが具体的であればあるほど質が高いといえるが、回答者の心的態度からは記入したくない部分にもつながり、また抽象化されればされるほど、せつかく自由記述にした意味がなくなり、一般の調査票法の回答カテゴリーを設定した方が有効となる。

また、具体的生データは生データであるが故に価値を有するが、その反面、そのデータを公開することが回答者のプライバシーとの関わりから慎重に取り扱われねばならない。例えば合宿形式を用いるトレーニングなどで討論を加えながらの問題解決作業でのKJ法では、その課題内容にもよるが、模造紙に集約し、発表した後には焼却してしまうことも少なくない。そこにはより細密な資料が質の高いデータとして評価される反面、その公開については一層の配慮が必要になってくる。抽象化、集約化がされればされるほど、そのラベルが生き生きとして語りかけようとするラベルの心を捨て去り、単なる思いつきの集約と大差なくなってしまう。

本研究ではその内容から取り扱いが極めて難しいが本研究の根幹に関わる問題に接し、以下のような方針でラベルを処理した。

より望ましいスポーツの発展というより上位の目的を意識し、集約作業は回答者の心情を無駄にしないということから、出来るだけ生データそのものを生かし、それが特定個人、特定集団に迷惑をかけると判断されることが予想され

る場合には部分削除や修正を行うことにした。こと個人の内部に関わる問題であり、本論文の中でもラベルの表現には十分配慮したつもりではあるが、何か問題があるとすれば全て筆者の責任であり、それもスポーツのよりよき発展への配慮故のことと御寛恕願いたい。また種目に関しては削除すればあまり意味がなくなるものもあり、ケースバイケースで処理をした。

なお本論の流れとしては、まず昨年、一昨年までの集約を行い、次に今回の調査のうち、男女に共通すると思われる、換言すれば取り立てて女性に限定される問題ではないと思われるものについて集約したものを、練習や試合についての内容のものとしてそれらを取りまくことがらの2つに大別し述べていく。次に女性であるという理由でスポーツ選手生活にマイナスに働きかけることがらについて述べることにした。

### 3. 女子選手の選手生活の現在及び将来についての考え方

本節は一昨年、昨年度の研究の中の女子のデータの要約の一部を特に将来との関わりからまとめたものである。

本研究で用いられた調査票は、日本体育協会スポーツ科学委員会が昭和56年度から3年間の継続研究で取り組んだ、「女子のスポーツ適性に関する研究」のプロジェクトの中央企画班のスポーツ社会学班が作成し、全国8都道府県の比較を試みる際に用いられたものである。

昭和56年度に滋賀県の基礎データを本委員会紀要No.2の中で紹介した。男女別の単純集計による結果からは男女差が顕著にみられるものについて項目別にNo.3で述べたが、特にいくつかの項目については結語の中で列挙しておいた。それは、専門種目への社会化の過程で極めて重要だと思われるクラブ活動における指導についての評価の男女差であり、中でも練習計画決定については男女差が大きく、女子は指導者に依存する傾向が強くなっている。そして、練習を続けていく上での障害となる事項として、女子は人間関係や束縛されるのがいやということ

で、不満を持ちながら練習をしていく傾向が男子より強く出ていた。

このことは将来のスポーツとの関わり方で、女子は「競技関係者として」は関わっていく傾向が男子より少なく、「もう一度チャンスがあったらまた競技選手の道を選ぶか」という問への肯定的回答の低さにつながり、スポーツ競技選手生活への時限的な消極的な取り組み姿勢が集約されてきた。

また女子が選手生活の継続がしにくい理由について、男子選手は女子の精神的弱さをあげるのに対し、女子選手は体力的要因をあげるという男女の認識差も注目される。またこれは年齢の上昇とともに女性であるという理由で不利益をこうむる率が上昇していくことなどもあわせて考えねばならない問題であると思われる。

全体的傾向として本人の判断を求める質問に対し、女子は男子に対し「わからない」とするDKグループ所属の傾向が強くあらわれている。DKに回答がかたよることを、女子に顕著であるという結論づけをすれば、物事に対する自己主張が男子に比較して少なく、消極的、受動的と解釈されないこともないが、回収率や調査票の体裁、記入上の回答者の心的態度など多様な要素が絡みあう問題もあるので結論づけるのは尚早であろう。

しかし、一流競技選手であったために、何かを犠牲にし、逆に犠牲にして得た一流競技選手の座であったはずの女子選手が、チャンスがあれば再び競技選手の道を選ぶかという間に消極的であったり、今後の取り組みも競技とはかわかわらずに行うという姿勢は、多少強引ではあるが、競技生活それ自体に何らかの後悔めいた影がつきまとっているように思われてならない。

自分はもう結構という集約の仕方は、自分の後に続く後輩達にとり、またその選手を養成してきた関係者にとっては誠に残念なことである。

どちらかといえば受動的に練習を続ける事の多い女子選手であることから、指導者に対する今後の課題としては多様なものが考えられてしるべきであろう。従来の単にスポーツ領域が



スポーツ領域内で純粹に閉じているとする考え  
方からは、根性論や体力論による誤解や偏見し  
か生まれてこないと思われる。

社会における女性の位置づけ、その中で  
のスポーツする女性の位置づけが、社会の中  
での女性の立場を理解しないままにただ期  
待のみするという極めて無責任な関わり  
方の中で論じられねばならないことが問  
題であるように思われる。

とにかく世界的な傾向として男子中心  
文化としてのスポーツが人間文化として性  
を超越して享受されていく趨勢の中で、  
日本社会の中での女性の立場を理解した  
上で女性がスポーツエリートとして育っ  
ていく望ましいあり方が求められねばな  
らない。少なくともそれは「犠牲にした」  
という意識で苦言を呈するようなもの  
ではなく、前進的な積極的な意味で将来  
も選手生活が出来る限り行い、選手生活  
が終了しても競技団体等を通して関われ  
る可能性を自らが閉してしまうものであ  
ってはならないと思われる。

#### 4. スポーツ選手生活におけるマイナ ス要因

本節は特に女性ということに限定できな  
い問題と考えられることを、練習や試合  
そのものに関すること、家庭や学校や職  
場などの環境との関わりとの2つに分け  
て考えてみた。なお図は構成上5節末に  
まとめてある。

前者に関するものは全体的には図1の  
通りである。エリートとしての道を歩む  
ためには相当量の練習を必要とするが、  
指導者の問題、練習仲間との関係、試  
合やその結果、国体選手としてのあり  
方、技術ののびなど多様なものがある。

##### (図1 P.13)

それらのことと関連することで練習を  
支える基本姿勢としての消極性は、誰の  
ための何のためのスポーツなのかを考  
えていく上で大切な観点かと思われ  
る。消極的取り組みのラベルには次の  
ようなものがあった。

女子選手の合宿への参加が少なく(特に高  
校生)、合宿の盛りあがりがないので次の合宿

から理由づけをしてさぼってしまった。

きつい練習の時、「あと一本いったらやめ  
よう、やめよう」と、良く考える。なさけ  
なくなってくる。

毎日が、しんどい練習だったので少し  
でもらしくしたい、さぼりたいと、みんな  
で考えた。

考えなくてはならなかった自分が情け  
なかった。

えらい練習の時など、ついなまけてし  
まう。そんな時でも試合に負けたら誰よ  
りもくやすい。やる事もやらずにくやし  
がっている自分が情けない。

県体前、週三回(夜)の練習にみんなバ  
テ気味。

「えらいなあ!もうどうでもええわ」「  
ほんまやなあ、なんでこんなことにな  
ったんやろ、やめたるかと、時々思  
うなあ。」

冬の練習では毎日毎日何kmも走って  
同じ練習の繰り返しで、「やめたい」「  
やめたい」と心の中で何度も思っ  
た。

高1の終わり、何となくクラブにやる  
気がなくなった。県でもわりと期待さ  
れていたもので、やめられるわけがな  
いこともよく知っていたし、自分でも  
本当にやめたいとは思わなかった。そ  
れでも、マンネリ化してやる気のない  
状態でクラブを続けていた時……勝  
とうという気持ちがわきおこってこ  
ない状態でした。

まわりの期待、特に国体選手である  
ということとの関りでは次のような  
ものがある。

国体選手だからとか、全日本級の選  
手だからとか言われてプレッシャー  
がかかり、試合で記録が悪いと、へ  
んな目で見られるような気がした。

国体選手ということで就職したので、いろいろな人に義理立てしなくてはいけない。

出場したくない大会にも国体選手だからとか、国体で滋賀県へ来たんだからとか言われて、いやいや出場した。

国体選手だから、後輩指導などをするのはあたりまえだといわれて、なかなか現役をやめさせてもらえない。

修学旅行で、川を船に乗って下ったとき、正座していたわけでもないのにしびれがきれてしばらく立てなかった。クラスメイトや先生が「それでも国体選手？毎日鍛えてるんやろ」と言われた。

部の先生は、私がやることに対し「国体選手のくせに！」とか、「学校の生徒達は、国体選手のやることを、お手本にするんだ！」など、すぐ国体選手と言う言葉を出してくる。

体育祭などの種目をきめる時に「やっぱり普段スポーツしている特に〇〇……部の人とかがそうゆうのに出るべきや」などと、中距離走などに名を出す人や、種目を立候補して決まっているにかかわらず、誰も出ないえらい方にまわしたりする時、教室から出て行きたい気分……。

練習継続のためには上述の図1のまとまりの諸項目が直接的な関わりをするが、実際にはそれと時には同等、とれ以上にまわりとの関わりが重要な項目となる。それは人間が多くの集団に属し、それぞれの集団の中でいろいろな役割期待を持ち、それが練習というある1つの集団の役割期待に努力の焦点をあわすと他の役割期待が達成できないこととの関わりである。各個人はそれにある程度のランク付けをし、または自分の意志よりはまわりの意向でランク付けを強いられたりする。

練習のとりまく種々のこととしては、概略は図2の通りである。(図2 P.14)

ここでの大きな問題はreal領域の仕事や勉強との両立問題、学校の友達や職場の同僚とのスポーツ以外での人間関係、家族への負担、自分の時間が持てないことなどが大きい。

学業との両立は古くて新しい問題であるが、合宿や試合で学校を離れることが多すぎるといういろいろな問題が出てくる。ラベル数としても14枚と多かった。

学校へ行く日が少なくなる。合宿の方が楽しくなり結構だったが学校へ行っても友達の話についていけないし勉強もいい加減。

「そんなこといつあったん」「そういううんかったんやなあ、あの時……」

部に力を入れすぎて成績が下がり、親に注意される時、そういう時に限って部の方ではぐんぐんと成績が上がってきた時なのでショック！

また職場との関連では、

県体に優勝した時「やったなー。おめでとう。さすがやなー」と喜んでもらった。その後、「県一番やったら、国体へ行かんならん？一銭にもならんのに、程々にしとけよ。そんな事ばかりしてたら、会社やめんらん様になるで」と上の人に言われた。

此から先、続けていけるだろうかと思った。

職場の行事、忘年会とか、送別会とか、歓迎会とかの時、小さな大会でも試合などがあると、職場の方の行事に出れなくて淋しい思いをした。日頃から職場の人とあまり交流がないだけに、会話の中に入れられない時もある、悲しかった。

などがあり、単に人間関係がうまくいかないということばかりでなく、そのreal領域での集団からの離脱をも意識するという事は重大な問題であろう。

学校での人間関係では図3の通りである。

(図3 P. 15)

また異性との交友関係も同様にうまくいかない。

つき合っている彼に「今日も部……明日も部」と休み(冬休みetc)の予定を言った時に「そんなん休んで……」と言われた時……部かその人かそれと言われたことと同じで……結局、部を優先してしまわなければいけない。

「日曜毎に汗まみれの合宿ばかり行って、たまには恋人でもつれてきてデートに行ってくれないと、年頃の娘の親として恥ずかしいわ」と送り出される。

休日の日に練習に行くため電車に乗ると私と同じ年ごろの子がおしゃれをして、彼氏といっしょにいます。それを見たとき、私はこれから練習なのにあの子は楽しいデートか……なんて考えてしまいます。

家族に迷惑をかけるということでは、時には口論、意志疎通がうまくいかなかったり、送り迎え、健康管理など気をつかわせ、金銭的な面での多くの負担をかけている。

図2のCの具体的なラベルは図4、図5の通りである。(図4 P. 16、図5 P. 17)

これらが日常であるかどうかは個人により異なると思われるが、それらのみをクローズアップすればスポーツ選手生活継続の価値づけが見失われてしまうことに繋がっていく。

特に金銭のことは直接家計にも影響することであり、「……わたしは『ごめんさい』としかいえなかった」というラベルの背景をどのように理解すればよいのだろうか。

それにも拘わらず選手生活が続けられていくということは、それらマイナスの要因との比較でそれ以上のプラスの面があることを前提としている。今回そのプラス面との比較についてのラベルは求めていないが、昨年度までの要約でスポーツ選手生活継続への意識が男子に比較し

て低いことを考慮すれば、そのプラスの方向づけもある程度のところで停止せざるを得ないのかもしれない。

以上男子にも関連すると思われる項目について述べたが、これも厳密に言えば、同じ経験が女性であるが故に個人内部でもまわりでもより強く印象づけられていくという言い方も出来るかもしれない。

技能レベルで一般人との乖離の量的拡大に拍車をかける練習や試合が、単にスポーツの技能レベルのみではなく、スポーツ以外のところでも乖離現象を有形無形に惹起させているとするならば、unreal領域のスポーツのreal領域への負の介入以外の何ものでもなくなる。

## 5. 女性であることが作用するスポーツ生活継続へのマイナスの要因

前節は主として特に性別とは直接関連しない内容を集約したものであるが、本節は女性であるという理由でのことがらをまとめた。女性であるということから種々の社会的役割期待を背負うが、それが練習や試合のために十分実行できなかったり、特定種目の女性の競技人口が低いということによって評価されたりすることがある。

unreal領域のスポーツがreal領域に侵出する顕著なもの1つとして結婚、出産がある。「国体出場のため妊娠できずに家族に迷惑をかけた」という切実なラベルや、「大会で出逢う関係者から『まだ嫁に行かんのか』『おまえまだやってんのか』『もらい手なくなるぞ』と口々に言われる」とか「同僚が結婚すると話が出るたびに『あんたは〇〇やっている以上、嫁にはなれんね』と同性にまで言われる」といったものが見られ、スポーツを継続するために何を犠牲にするかということからすれば、とにかく大きな問題の1つになるであろう。

練習の継続にあたりいろいろな問題が出てくる。全体に関しては図6の通りであるが、女子が遊び半分だとか、まわりが長く選手生活を期待していないなどということを書き入せざるを得ない体験として持つ女子選手の気持ちはどう理解

すればよいのか。今も心に鮮明に残る記憶としては余りに酷なものではなからうか。(図 6 P. 18)

具体的事例としては次のようなものがあげられる。

Bの継続を期待しないまわりの反応には次の

国体終了後、あいさつしたら、「ごくろうさん、思ったよりがっばって来てごくろうだった。まだやるんやったらきばってや」と、もう現役選手として相手にもされず、期待もされなかった。

日本リーグの試合などで、いつもみじめに感じる事は、〇〇競技の場合、女子で私の年齢で実業団でバリバリに現役を続けている人は、本当に数少ないものです。又、やり続けている人は、日本でも相当のトップレベルにいる人ばかりです。そういう人達と自分を比べてしまうと、チームとしては一応名のある実業団で、私の様なレベルで〇〇を続けているのは本当にめずらしいのです。試合会場で自然とまわりをみれば、本当にみじめになります。

「国体参加中、皆様に勤務上ご迷惑をおかけしましてありがとうございます」と礼を述べると、「もうこんで〇〇もやめるんやろ」と日々と言われ、「いいえ、続けます」と答えると、「へえーまだやる気」といろいろイヤミを言われた。

もう部活が普通では引退となっている時期でも、がっばって練習に行こうと思っているところをクラスの子が「えー、まだ〇〇してんの?」「うん、やってんの。」という「もう引退とちがうの。」「引退となってるけど、まだやってんの。」と言って練習に行った。

「もう就職したし〇〇を卒業よ」と2~3年でやめていく女子が多く、この4年間、きそい合う同志も先輩もなかった。現在もない。

がある。

またCの男子と女子との対処の仕方として

練習中まで、男の話や、きゃっきゃと笑いころげてだらだらした後輩が多く、「どうせ、女子はあそび半分やろ」と男子から相手にされない。

「女だから手かげんしてやれ」と指導者に言われて、後輩男子にまで、手かげんして練習される。

「次、〇〇。女子は△△の自習。むこうへ行って」と指導なし、〇〇に参加させてもらえない。

男子から「やっぱり〇〇なんかやってる女を嫁の対象とは考えんな」と、こんな時だけ女扱いされる。

「女子の手を通してもらわないとえんぎが悪い」と試合のたびに雑用とゼッケンつけをさせられる。

後輩の乱雑な仕事の後始末をして、謝罪すると「〇〇してるような女の子はすることが雑で荒っぽくてねー」と私一人の責任にされてイヤミをいわれる。「もう少しやさしく仕事しなさいね。〇〇〇〇かなんかしらんけど女性でしょう」と。

「これもこべ」と私に先生は言う。男子と同じ仕事だ。そりゃあ、私は人より体が大きい。しかし、体が大きいからといって力があるわけではない。男子の一番大きい力もちの人と同じ重いにもつ運びなど私にはできない。考えものだ。

があり、女性としての役割の解釈が時には必要以上に強調されたり、無視されたりすることがよくあらわれている。

また家の手伝いは女子に限定されるものではないが、年頃の子に対しての家庭での役割期待は少なくないと思われる。

高校生になったのに家庭的なこと、たとえば料理など、全くわからないので一人暮らしになるのがおそろしい。

クラブ活動(学校の)を見なくてはいけない(国体選手だから……)ので、帰りが遅くなって夕食のしたくがたいへんだ。

休みがないので、家の手伝いがあまりできないので「たまには、家の手伝い少しでもしたらどうやの。みんな働いてしんどいのに」といみよのように言われる時がある。

休日の朝、祖母が「今日も練習か。家にいてくれると助かるのにな。」と言った。私はそのことには何も答えず練習に出掛けた。

「お勝手はいつになったら手伝ってくれんにや」と母が私に聞く。「部活が終わってから」と答えると「いっつもそんなことゆーて、中学の時も、そんなんゆーて手伝ってくれへんかったやろ」と言いつつ腹立てながら茶わんを洗っていてわった。

くれ(年末)に祖母が、「〇〇ちゃんが全部おにしめ作らはんにやって。」と言った。私は「大掃除は毎年私がするし、おにしめも切ったりはするよ。」と言ったら、祖母は「そうかなあ。」と言った。

家で「おまえが何もしないひんで弟もしよらんのだや!」といわれたこと。  
※かえりがおそくなって手伝いをしないため

家の仕事など「やって」などと選手生活中言われなかったの、今「あれやって」と言われても「わからん」と、全然やる気がでないし、やっても「もう、こんなとちやうやる」と言われたりする。

祖父が、明日は〇〇〇の手伝いをしてほし

いと言っても、「クラブがあるから」と言うとき々、「クラブなんかして何か役に立つのか」という、皮肉なことを言われたことがあった。

日曜日などで、父母がそうじしていて私だけ一日中クラブに出ていく時、母が「家の手伝いを少しはやりなさい。自分の部屋もきちんとかたづけなさい。」とよくしかられた事。

その他多くの役割がうまく果たせないこととの関わりでいろいろなものがあった。

主人の姉は独身で今病気加療中。

私 「ちょっと、あしたの練習どうしよう?」

主人 「ええがな、あれぐらい大したことないから練習にいきなさい」

私 「そやかて、御飯もっていったげんと、可愛想やし、やっぱり休むワ」

働きながら、婦人会の役員をしておりました去年一年間はあまりにも多忙すぎて家庭のことにかえりみる時間がなく、ふと、自分だけなぜこんな忙しい生活をしているのかと情けなくなるがありました。

今日は木曜日、〇〇の練習日。朝学校の行事板には夜PTA運営委員会と書かれてある。どっちをさぼろうかなあ、PTAをさぼって練習、練習!

また生理中の練習にはいろいろと無理がかかり、特にコーチが男性の場合は相談もしにくく、いろいろといやな思いをすることがある。これは指導者の姿勢とも関わる女性特有の、しかし避けて通ることのできない問題である。

女性がスポーツを続けていく上での問題は別にないと思うけど、1ヶ月に1度は苦しい時がある。(女の子の病気)

生理中、体調がよくない時は、ふだんより練習に身が入らず、しっかり練習できない。

生理のときは、体もだるく下腹が痛いのであまり体を動かしたくないのに、練習中先生に「しんどいのでぬけます。」と言っても「それは病気じゃないんだからやれ。」と言われ、練習をしなければならないとき。

中学のとき、試合や合宿となると必ず生理になってしまって、気にする中、練習や試合をしなくてははいけないとき。

中学のときに生理が始まって以来、だんだんと体がまるくなってきて、友達が目の前で「このお菓子おいしーで。たべてみたら？」

とか言うのです。でも私はやっぱり太るから、と思い「いいわ」とがまんしなければならないこと。

私たちの〇〇のチームは男の先生がマネージャーけん、コーチをやっておられてちょっとしたことでもきがるにそうだんしにくかったし、あまりよくなかった。

生理ですごくお腹がいたいけど練習にはでなくてははいけない。先生が男だからはずかしくて「生理です」なんて言えない。「お腹がいたい」と言うと「普段からの健康管理が悪いからだ」とおこられる。生理の時の痛みは男にはおからない。そして、痛みの表現ができない、いや、表現しにくい。

図1 練習上のことがら(要約ラベル)

練習を続けていく上で指導者が納得のいかない指導をしたりすることもあるが、練習が厳しく、練習仲間との関係にも気遣い、また国体選手であるということで、いろいろプレッシャーがかかる。技術や成績が伸びることにももちろん関心はあるが、練習への取り組みが時に消極的になってしまうこともある。とにかく努力している姿は評価してほしい。

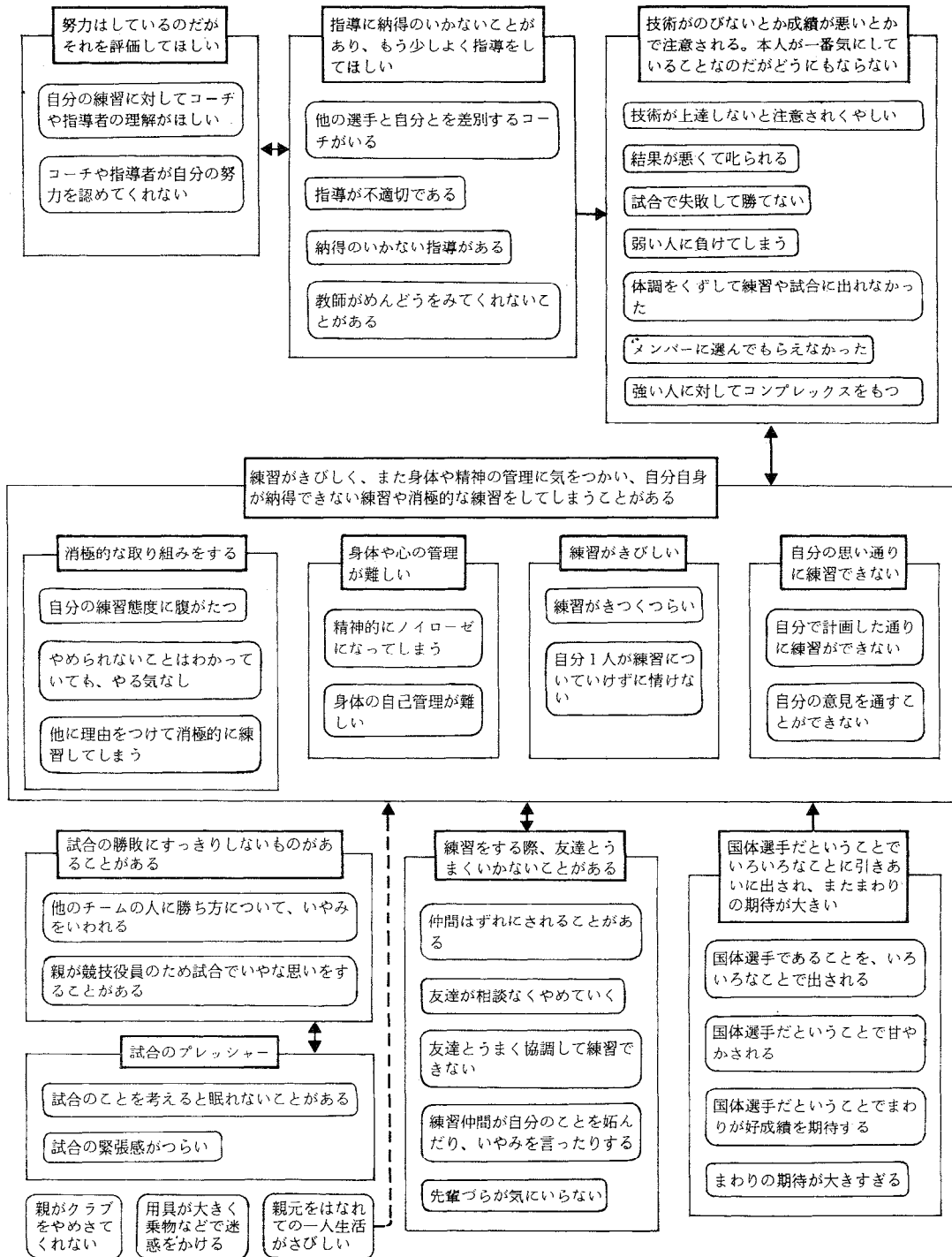
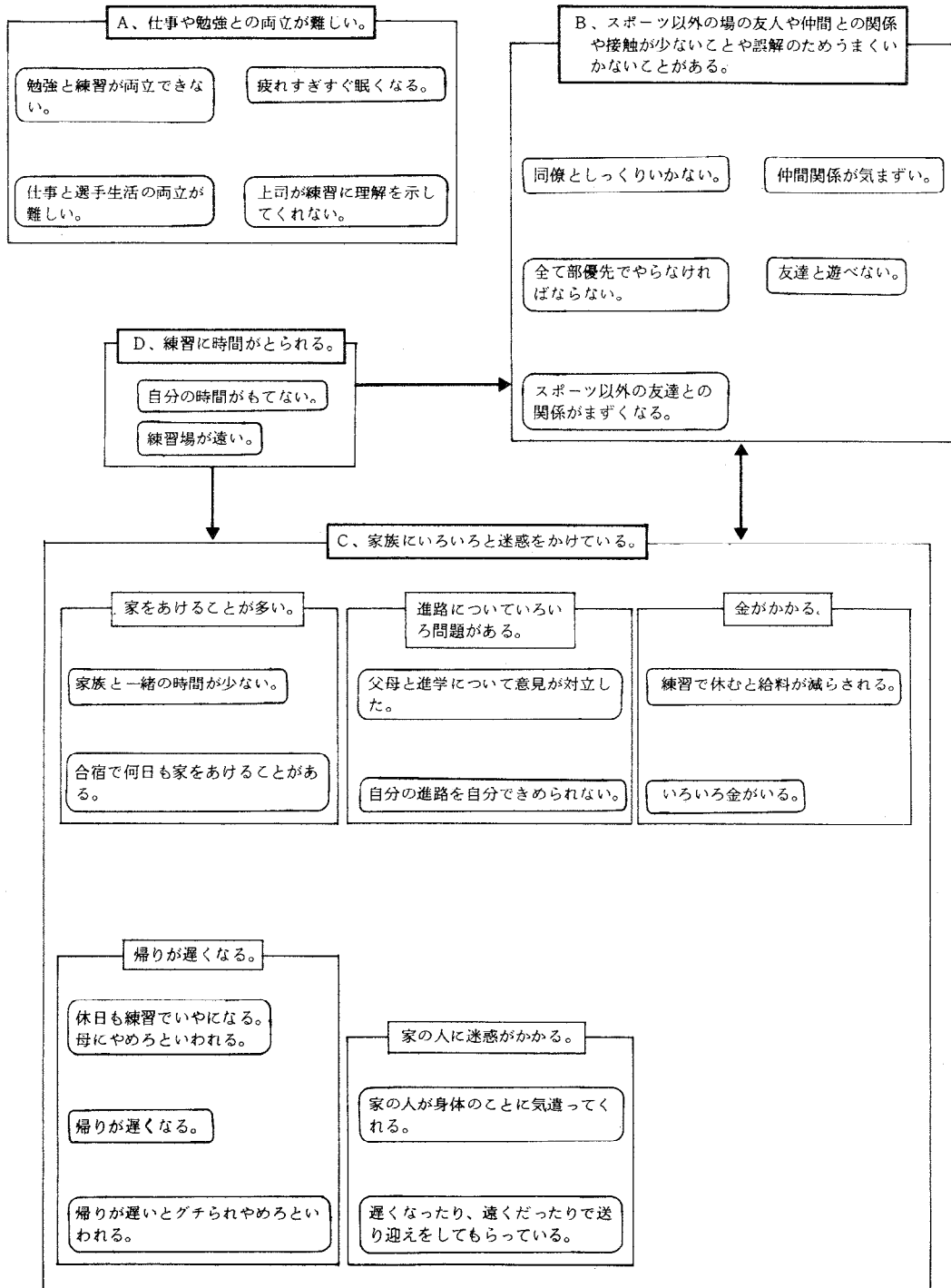


図2 練習とまわりの関係についてのことがら（要約ラベル）

とにかく仕事や勉強と選手生活との両立は難しく、自分の時間がもてず、スポーツでの友達以外の人との関係がうまくいなくなることもあり、家族にも金銭、手伝い、その他でいろいろと迷惑をかけている。





### 図3 学校での友だちづきあい（生ラベル）

練習のために他の友達と放課後や休みなどにいっしょにつきあったりすることができにくく、話題についていけず、スポーツ関係以外の人とうまくつきあっていけないことがある。

友達がみんなクラブをやめていく。そして、楽しそうに帰っていくのを見ながら、私はくらくらなるまでの練習に行く。私と同級生の子はひとりもいなくなり、順備係の1年の私はたくさんの仕事をしなくてはいけない。「あした、帰ろうかな」ときぼり心が出てきた。

授業が終わるとクラスの友達らは「今日は〇〇へ行って××食べよう」とか、「□□で遊ぼう」とか言って楽しそうに帰る時、私も同じ年頃なんだから、たまにはおしゃべりしたりしてどこかへ遊びにいきたいなあと思った。

成人式の日、普通なら楽しい一日を送れて同級生とワイワイってさわげるはずだったのに、式に出た後、夜中の11時まで練習しました。

下級生2年間の間のたった一日の楽しい日になる予定だったのに……悲しかった。

学校の休み時間に、友達が「きのうアップルパイ作ったん。大成功でものすごくおいしかった。」「いいな、私も一回作って食べてみたいわ。」「という「作ったらいいやん。」「けど、作っても食べられへんしあかんの……。」「

合宿などで夏休みなどの長期の休み中でも、家族や友達と同じ行動がとれなかったりして、他の人と同じように、休みに入ったらのんびりと旅行に行っても行けたらなといつも思いました。

部活で休みがないため、自分のやりたい事ができず、友達の約束もまもれなかったり、昔の友人と話せず、だんだんよそよそしくなってしまう、話せなくなったりする。

土曜日に授業が全部終わったとき、友達が「今日いっしょに遊ばへん？」と私に言ってくれたが、私は「練習があるし」と言っておくと、友達は、「練習か、そしたらがんばりや。」と軽く言って別の友達にまた声をかけているのを聞きながら教室を出ていく。

合宿があるために、学校行事の学園祭などに参加できず、ステージ発表の練習などにも休みがちで、友だちに「合宿あるんか、残念やな。」と言われ、自分もほんとはがっかりだった。また、本番とぶつかったので中間テストが受けられず成績ガタ落ち。担任の先生から、「団体に行ってたしかたないですね。気にせんといってください」と言われた。

友達がみんな学校が終わったら何もすることないとか、買物行った時など「きのうよ、あつこでええもんうってでん」「うそーうちもきのう行ったけどあったけ?」などと会話するとき練習で夜おそくて朝も練習やから全然行けず……。だから全然話についていけないとき、どうしようもないから……。

土曜日、学校が終わると「お弁当食べよう。」とか言って同じ部活の子たちといっしょにしゃべりながら食べていました。私はそのころ自分の学校で練習をしていなかったの、一度でいいから練習前にお弁当を友達といっしょに食べたいと思った。

連休や日曜日など友達と会うきかひがない。

図4 家族とのかかわり(生ラベル)

帰りが遅くなったり、日曜日にも練習が多く、家の人と口論することもある。

ふだんは日曜日もないほど練習練習でひまがないので、「部活いきたくない。やめたい」という感じになるのに、いったんけんかして、母に「やめてしまい」と言われると反対に「なにがなんでもやめん!!」という気持ちになるのが不思議

「なんで毎日こんな遅いんや、先生に言ってもう少し早くおわってもらい」と母が言う。「そんなゆうたかて練習してんにやもん仕方ないやんか」と答えると「こんな遅いんやったらやめてしまい」と言う。好きではじめてのにやめると言われてもやめられない。

部活が終るのがおそくて、親におこられる

「あーあー今日は何時でかえる?もーまっくらや!」という毎日の部からのかえりの会話

遅くなったり、遅くだったりして送り迎えしてもらふことがある。

練習に行く時、親に、家から駅まで車で送ってもらったりして、後々になって「いつもいつも送らせて」とかいわれた。

日曜日なんかには練習や試合があると、どうしても朝早くなってバスや電車の時間がなかったりすると送って行ってもらわなければならなくなり、父にめいわくかけた事。

「お父さん、送ってって……」という風

遠征など、かばんの重たい時などは父が送ってくれる。

家をあげたり、遅くなったりすることが多く、家の人とゆっくり話をすることがあまりない。

家族との交流が少ない。  
帰りがおそいので食事をいっしょにとれない。

土、日曜日国体練習会があってほとんどかえるのがおそくなって、母親に「土、日はみんながそろって夕食をたべられるのに又おそなるんか」と何回も何回もいわれた。

自分たちのチームの練習、国体のチームの練習と2つあったので、学校の合宿、国体の方の遠征などで、何日も家に帰れない時が何度かあった時があった。

こんどの日曜日、「私、あかんわ。おばあちゃんが具合悪いのや」「ほんま、大へんやな。無理せんときや、その分今度頑張ったらよいやん」友達からのTEL。「おばさん選手はつらいなあ」

土曜日の日に「明日も部活や」と言えば、母は「また部活?少しぐらいは、体休めなあかん」と言っている。心配してくれているのか?あきれているのか。

図5 お金がかかる(生ラベル)

シーズン中は合同練習や試合のための旅費や会費、運動用品などに多くの出費があり、両親から金をもらう時、いろいろいわれたりして申し訳なく思うことがよくある。また、練習や試合などで仕事を休むとボーナスにひびきこまる。

シーズン中になると試合などが多く、遠くへ遠征する事があるが、その度に「お金ちょうだい……」と言うのがいやというかいいにくくなるのでこまる。

夕食の時、みんなの前で「明日、ジャージ代1万円と後援会費2万円いるの」と言うと、祖母に「高いお金払って、スポーツで一生食って行けるほどうまいならしょうがないけど、お父さんもお母さんもおまえにおいまわされてるんやで」と言われ、私は「ごめんなさい」としかいえなかった。

昇段試験だとか、防具だとか、稽古着だとかで金がかかり、練習で思うようにいかない時は、金を出している親に申し分けなくて、やらなければよかったと思う時がある。

練習会はいつも遠くの学校で行われる。そのために電車賃3,000円もかかり、時間もかかる。

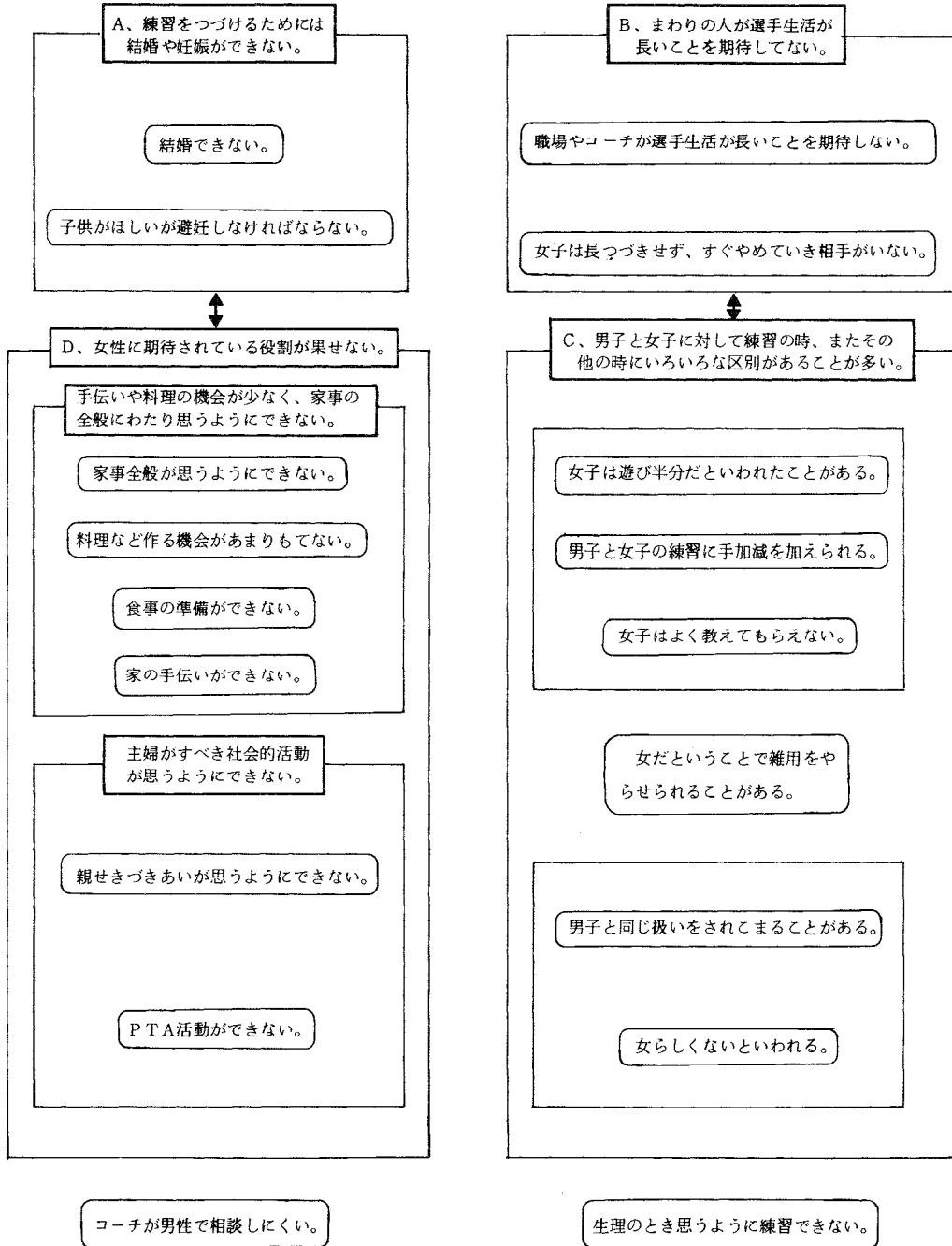
部費以外のお金をもらう時、お母さんは、「あなたの部はお金がかかるし私立に行かしてんのかわりない」とおこりながらいう時がある。

「〇〇に使うお金がほしい」といった。すると母は「今月はお金ばっかし使うなあ。もうサイフの中からばやわ」とつめたい態度でしぶしぶお金を出した。こういうことが何度か続くとたまらない。

お金の事で申し訳ございません。仕事がレジャー関係の為、日曜、祭日は特別の事以外は休めないという会社の方針があります。一日休むと十日間分引かれるという事です。ボーナスがガタンと少なくなります。でも、その人の日頃の仕事ぶりで、多少違う様ですが？でも私達にはこたえます。

図6 選手生活を継続しにくい女子選手(要約ラベル)

練習を続けていくためには、家事や手伝い、PTA活動その他女性や主婦に期待されている役割が思うように果せず、また、結婚や妊娠などがそのためにうまくいかない。また、まわりの人が選手生活が長くなることを期待していないし、練習では男子と女子を区別して指導がされたり、女子だからという理由で雑用をさせられたりすることがある。また、生理時は思うように練習が出来ず、コーチが男性のため相談しにくいことも多い。



## 6. 結 語

ある人のある時の経験が意識に残るまでにはいろいろな経過をたどる。同じ経験をしても意識に残る場合もあれば残らない場合もある。また意識に残すまいとしてある時は合理化や補償その他自己防衛機制を働かす場合も少なくなる。

今回の調査で回収された233校のラベルは29人の女子選手の生々しい体験であり、意識に残り、現在も鮮明に残っている選手生活継続へのマイナス経験である。それをマイナスと感ずるのも個人の感覚であり、他の人であればプラスとまではいかないにもそこまで意識に残さない人もいよう。しかしそのラベルを記入した個人にとっては誰がどうその体験について注釈を加えようと、ラベル記入時、即ち選手生活を最低限数ヵ月前までは継続していた人の体験であり、多くの人は現在もその生活を継続している状況での体験である。

回収率の低さからも今回のものが滋賀県国体選手の人々の体験を代表するものであるとか、典型的事例ということはもちろんいえない。しかし少なくとも回答を寄せた選手の率直なありのままの姿として謙虚に受けとめる必要がある。

人間は一人では生活できないし、特定の目的達成のためにはそれにふさわしい集団の中で活動をする。スポーツも例外ではない。その集団の中での相互作用としての社会関係を維持していく上には、多くの思いちがい、ズレが存在し、そのズレを土台にしてまた新しいズレを作り出したり、ズレそのものを大きくしたりする。自分のつもりと相手に映った姿とのズレの存在は今回のラベルにも多く含まれていると思う。しかし相互作用はジョハリの窓の人に隠している部分と本人が気づかない部分を割愛して、開かれた共通理解の窓だけでは構築されていないことを再認識し、その現状、正確に言えば現状のある一部分を認め、その上で次の作業に進めねばならない。

近年チームビルディングのトレーニングの手

法をスポーツ集団の中にそのまま導入し、チームの組織力活性化を試みるものが試験的に行われてくるようになってきた。チーム力活性化は従来企業集団の中で、よりよい集団を目標に行われてきていたが、企業集団とスポーツ集団の相違点を明確にし、その利用の限界を理解しさえすれば、その中では採用可能なものは少なくないと思われる。

本研究で用いたKJ法は従来はその名の由来にもある川喜田二郎氏が文化人類学研究での資料整理に用いたものであるが、チームビルディングの道具としても盛んに利用されているものである。

チーム力の向上には結果としての成績向上につながるもの全てを含み、単にスポーツの技術構造の体系に関わるものばかりでなく、人間関係を中心とした、リーダーシップやコミュニケーションスキルの向上、感受性訓練など、個人と他者の認識のズレの理解を手掛りとした自己概念の再構築などが行われている。

いずれも指導する立場としての監督やコーチ及び指導される立場の選手が、一方的指導や消極的受動といった図式から、主体的な取り組み、それも相手の立場を尊重し、全体の中の自分の位置づけを常に対人関係でのデータをフィードバックしながら確認した形で進められる。

まだ試験的な形でしかないが、従来の心理学や運動生理学、運動力学といった個別の分野からの関わりではなく、社会諸科学の成果を行動科学に集約し、伝統やカンに頼ってきたコーチングの裏づけをその成果により実証しようとするものでもある。

本研究では実践への応用のレベルにはとてもいけなかったが、それら具体的な資料を選手相互の中でそれぞれ自分達の問題として意識し、それをどう活かし、自分達の練習に役立てていくかが今後の大きな課題となる。

そのためにはチーム力活性化に関し、関心がある特定集団を抽出し、実験的に問題を進めていくことが必要かと思われる。この作業については三年前の本研究紀要に一部紹介した、コー

チと選手のコーチングに対する意識のズレなども含まれる。

またチーム力の活性化については、スポーツにおける<sup>アゴーン</sup>αγων(競争)そのものが、社会の中でいかに個人から社会へとステージが変わるにつれ、また技術が上るにつれ変容してくるのか、いかに社会的事実となって個人を逆に拘束してくるのかについての基本的枠組をさらに明確にしておく必要がある。それは社会からの圧力による、個人を無視したチーム力活性化であったり、集団のために個人を犠牲にせざるを得ないというものでないことを確認する意味で特に大切である。

スポーツ文化ではアマがプロより価値あるとする他の文化と異質な体系が少しずつ変容しているとはいえ、日本ではまだまだ旧態依然としたアマチュアリズム観が根強いことからすれば、将来の補償がない中で個人がどこまで自己の現在及び将来を犠牲にするか、についてはあくまで個人の意志に委ねられてしかるべきものである。

そのことが女性であるという理由で個人以外のレベルで、少なくともマイナス方向での影響を受けるものであってはならないし、ましてやスポーツの一流選手であったことが将来マイナス評価されるようなことは絶対にあってはならないことであろう。

三年間の継続研究の中で女性が一流競技選手であり続けることの難しさがある程度理解可能となったが、次にはその原因を追求するラウンドが続き、さらにその原因を除去する方策決定や実施、及びその評価を継由したフィードバックループの繰り返し、より実践的な内容となり続けられることになる。そこにはスポーツがスポーツ文化の中で閉じていないという理解を基本に置いたオープンシステム観に立った分析が必要であろう。

## 参考文献

- (1) 川喜田二郎「発想法」中公新書、1974.
- (2) 川喜田二郎「続発想法」中公新書、1974.
- (3) Kenyon,G.S.and McPherson,B  
“Becoming Involved in Physical Activity and Sport;A Process of Socialization.”  
Academic Press 1972.
- (4) 松尾隆編「実践グループKJ法入門」日本能率協会、1978.
- (5) 日本能率協会編「経営のためのKJ法入門」  
日本能率協会、1981.
- (6) 沢田和明「一流運動競技選手のスポーツへの社会化の過程に関する基礎的研究」  
滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要No 2、1982.
- (7) 沢田和明「一流競技選手のスポーツへの社会化の過程に関する基礎的研究」その2、  
滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要No 3、1983.
- (8) スポーツ社会学国際調査委員会「一流競技者のスポーツへの社会化に関する調査研究報告」道と書院、1981.
- (9) 体育社会学研究会編「一流競技の社会学」  
道と書院、1981.
- (10) 体育社会学研究会編「スポーツ参与の社会学」道と書院、1977.
- (11) 安田三郎「社会調査ハンドブック」有斐閣、1980.

# 「競技団体のリーダーシップに関する基礎的研究」

## コーチのリーダーシップ

沢田和明

### 1. 緒言

現代社会の中におけるスポーツの位置づけは、社会の動きに伴い多様に変容してきている。現代社会の変化の指標として、近代化、産業化、都市化、官僚制化、大衆化をはじめ、情報化、余暇化、高学歴化、公害化等種々のものが列挙されよう。それら社会の諸変化の指標相互の関りの中で、スポーツはともかく文化の1つとしての地位を、これまでの歴史を通し、競技力向上の側面においても、底辺拡大の側面においても、確保してきているといえよう。スポーツが社会的価値を持つ背景にはスポーツ以外の文化や社会体系との多様な相互作用があり、政治や経済や教育からのスポーツへの関り方と、スポーツ文化自体が持つ特質的なものの人間との関り方が錯綜する中で具体的問題を抱える諸現象が生起してくる。高度化と大衆化、政治、経済とスポーツ競技会、健康とスポーツとの科学的関連、余暇社会におけるスポーツの役割等の問題の裏には、スポーツが内包する特性を無視して論究できない問題が含まれてくる。

それはスポーツのもつplay性をベースに、playとしての諸要素（参加の自発性、時間的・空間的隔離性、結果の未確定性、経済的非生産性、行動様式を規制する規則性、現実と対立する非現実的虚構性）を原則として、Caillois, R.のいうagon<sup>アゴーン</sup>（競争）を成立せしめる、平等条件の下での他よりの力を全く貸りず、特性の資質を競い、その優秀性を認めさせあうという心的態度に裏づけられスポーツが基本的に成立するということであり、その中で勝敗に関する社会的価値観の相違により、スポーツの価値が大きく変容する。

スポーツはagon<sup>アゴーン</sup>的要素を内包する限り、高度化し、究極的には世界一になり、それを維持し続けることを最高峰に目的的に営まれていく宿命を持つ。その価値が一般の人が近寄り難く、しかも出来れば入手したいものであるが故に、また、観

客の大量動員可能性を背景とした他の文化との関りの中で、競技会の大規模化と、勝利への絶対的価値の増大化が見られる。それが時には勝利万能主義、勝利至上主義になり、特定の行動様式を規制された中での個々人だけの努力で競われたある資質のみの優秀性が、その選手が所属する競技団体はもとより、あらゆる所属集団の優秀性につながり、国威発揚や県民意識高揚、会社のイメージアップや商品販売の宣伝といった手段的利用を成立させる価値へと歪曲させられ、歪曲させられたものが市民権を得、勝手に一人歩きするといった状況が生まれる。

多項目実施の大規模競技会（オリンピック、地域の国際大会、国民体育大会等）は、スポーツの持つプラスの価値のみを前面に出す神話を背景に、選手は基本的にplay領域のみに関心を示し、一方選手の所属する集団は勝敗の結果が示す優秀性を他の方面へ転移させる手段として利用し、その間において競技団体や総括団体は目的としての勝利、仕事としての勝利のために事業を他の社会体系との関連の無視を装いながら黙々と進めることになる。

昭和56年に開催される第36回国民体育大会の夏季、秋季大会を滋賀県で開催する場合についても上述のことと無縁でない。国民体育大会が第3回福岡大会から天皇杯、皇后杯獲得のための都道府県対抗形式になり、第19回新潟大会で両方も地元が獲得したことを契機に、開催県の勝利が慣例化し、純粋な未確定性を競いあう競技会と訣別した。各都道府県の人口構成やスポーツ普及度を無視した対抗形式はスポーツの平等条件を損い、agon<sup>アゴーン</sup>が必要とする基本的属性を変質させることにより、playの興味そのものは著しく減退させられることになる。

本研究は地元開催県が競技力向上のための基礎的資料を得るためのものであるが、その背景には

上述のことが否定され得ない。その中の競技力向上であり、選手強化であり、競技団体のリーダーシップの問題の検討である。いずれも未確定要素を確定要素に、確定要素の壁の上塗りといったreal領域に通用する原理に立った極めてnormativeな内容を含んだ研究である。

## 2. 集団におけるリーダーシップ

国民体育大会に出場する選手団はピックアップにしろ、既存チームにしろ集団の属性を内包し、これまでの小集団研究の諸成果から得るところは少なくない。「強いチーム作り」「勝利」という目標は集団の業績に関するものであり、「チームワーク」は集団維持のための一要素であろう。集団の生成、発展、維持、衰退、消滅という流れからすれば、選手団組織は国体終了とともに消滅する。とすればその時までの「グループ作り」であり、集団維持の機能(Maintenance function)や、個人的欲求充足の機能(Individual function)は目標達成の機能(Task function)のためにある程度犠牲になっても仕方ないという極端な論法も可能であろうし、少なくとも個人的欲求充足の機能は押えられるのが通例であろう。

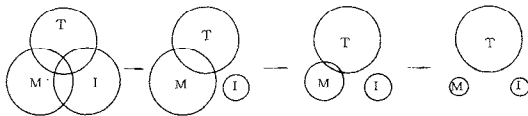


図1 集団の機能のマイナス的変容例

しかし目標達成万能で業績のみを紐帯とする集団は多くの場合、特に達成への予測確率が低い場合内部分裂し集団維持機能を中心としたサブグループを生じさせる。

集団は一般に (1)共通の目標、関心、(2)役割分化にもとづく組織性、(3)成員の行動や関係を規制する規範、(4)統一的なわれら感情、(5)相互行為の持続性等を属性としてあげられるが、これら5つは個々に独立しているのではなく相互連関している。これらを有機的に結びつけ「成熟度」の高い集団を育成するには、リーダーの発揮するリーダーシップとメンバーの発揮するメンバーシップとの相

補性や、課題によりメンバーが発揮するリーダーシップの有効性が、そこで用いられるコミュニケーションのあり方と関連し、重要な問題となってくる。リーダーによるリーダーシップの独占は完全に依存する消極的メンバーを育てたり、時には威圧、権力による力による自律性を無視した集団運営を生じさせたりする。目標達成のために手段を選ばずという方向から、先述のMやIの機能を無視しつつけることは、少なくともスポーツという任意のプレイ領域の活動を保証することと相反する。

リーダーシップとは目標を達成する方向に個性の発揮と自発的な行動を促進しながら集団の成員に影響を及ぼす過程であり、従属的、隷属的な行動を強制するものではない。内包的に上のように捉えられても、外延を類型化すると、「専制的」なものも顕在化してくるが、「民主的」「放任的なものとの関りの中で「専制的」リーダーシップはあくまで短期間の特殊事例状況の中で表われるものであり、短期間であるが故に効果が上がるもので永続的なものは作業能率を逆に低下させる

特性論から類型論、機能論、さらには状況論とリーダーシップ研究が進む中で、スポーツという特殊対象に先行研究がどれくらい一般化できるかは問題であるが、これまでの先行研究の諸成果をもとに、国民体育大会に参加する予定の滋賀県選手のチームづくりの問題に焦点をあててみる。

## 3. コーチのリーダーシップと研究枠組

集団の選択設定にあたり、びわこ国体を選択した場合、競技団体が直接の対象となるが、競技団体自体が多様な問題を抱え焦点が定まりにくいいため、びわこ国体に焦点を合せ強化しているコーチと選手の間関係に限定した。その現状の理解をすることが、コーチと選手の作り出す集団関係を改善する糸口を導き出し、ひいては競技全体の集団としての諸問題理解、解明に繋がると思われる。

先述の通りびわこ国体で開催県が優秀な成績を修めるという極めてnormativeな目標達成への意識を背景とした研究であるが、その目標達成の機能が集団維持や他の機能とどのように連関しあっている現状であるのか、またその際のリーダーシップやコミュニケーションのあり方はどのように



あるかということが本研究における当面の課題であり、そのためのデータ蒐集が直接の作業となる。

研究に用いる枠組設定に関しては、リーダーシップ機能論の立場から、某民間会社開発の4機能説(日本リクルートセンターRODのLDPプログラム)に基づくものを用い、データ蒐集に関しては、そこで用いられる調査票の内容を修正援用した。なおこのモデルはあくまで企業組織における上司のリーダーシップに関するものであり、直接スポーツの集団に利用するには必ずと限界があることを了解せねばならないが、集団のもつ基本的性格からすれば、その限界内で利用でき得るものと思われる。

本研究ではそれに従い、リーダーシップを「目標を達成する方向に個性の発揮と自発的な行動を促進しながら集団の成員に影響を及ぼす過程」として捉える。またリーダーシップの機能としては、生産性をあげ、努力を求める、いわゆる目標達成のための督励といった機能(要望性)と、思いやりと支持を与える、集団維持に関連する配慮の機能(共感性)、必要な情報技術の提供による全体の中での位置づけや見通しといった情報提供に関する機能(通意性)、企画や提案をし問題解決へ状況に応じ適切に対処するといった職務能力に関する機能(信頼性)の4つの機能で捉える。これら4つの機能は信頼性を核に他の3機能との相互連関の中で望ましいリーダーシップが発揮されることになる。

この機能論は三隅のPM理論との関連からすれば、要望性としてのP機能、共感性としてのM機能に対応するが、両者の連関を捉えるには類型論としては説得性に乏しい。しかし通意性という新しい因子の抽出は要望性と共感性を側面からバックアップする重要なものといえ、信頼性を中心とする他二者との相補的な捉え方は興味深いし、PとMの二側面のみからの捉え方に比して、より包括的に捉えられよう。とにかく因子分析を中心に抽出された因子の質は元の因子分析に用いた項目の限界を背負い、項目に含まれない要因は除外されることになる。また因子の命名により因子が一人歩きする危惧は指摘されねばならないが、用いた項目とその因子負荷量の大きさを常に意識する

ことでその限界と可能性を捉え、その範囲内での援用をしていく。

一般にあることがらに対する自己認知と他者認知はズレていることが多い。自分のつもりと他者のそのことについての理解が一致すればコミュニケーションはうまくいき、無駄が省け、より効果的な意志疎通が可能となる。ジョハリの窓の図式のO領域のある程度の拡大は集団育成に非常に有効であるといえるが、かといってHやBの不要な増大は集団の成熟度にとっては無用なものであると思われる。

		自分からみて	
		知っている	知らない
他者からみて	知っている	開かれた窓 O	盲目的窓 B
	知らない	隠された窓 H	わからない窓 D

図2 ジョハリの窓

びわこ国体の競技種目は、コーチと強化選手が数人ずつ集って一つの集団を形成することが多い。選手団結成に至るまでは集団としての準拠枠は自分の所属する競技団体であり、また種別である。その最小の基本的単位は1人のコーチに対し数人の強化選手というパターンであろうと思われる。その組合せにおいて上述のコミュニケーションの問題を捉え直し、その現状を理解することは無用の混乱や誤解を解く方策の糸口となり得る。コーチのよかれと思う練習上のアドバイスがその通りに伝わっていなかったり、気にもしない言動が多大の影響を与えているという現状の把握は、直接競技力向上に結びつくものではないが、その目標達成や集団維持に関する極めて基本的な問題であろう。

具体的な手順は、びわこ国体強化コーチ、選手に対し、コーチのリーダーシップについてのコーチからみた自己評価と、コーチに対する選手の評価を同一の質問項目によりズレの現状を説明し得

るデータを得ることから始まる。その際に用いた項目は先述の企業のリーダーシップ調査のものをスポーツ集団にあてはまるよう修正し採用した。項目は全部で46項目からなり、要望性11、共感性12、通意性11、信頼性12はそのまま利用し、企業集団とスポーツ集団とのリーダーシップのあり方の相違を捉える材料の1つとして考えている。

今回の調査はスポーツ集団におけるリーダーシップのあり方の問題の理解というよりは、企業用のリーダーシップ調査項目のスポーツ集団への採用の可能性を問うといった方が適切である。それ故企業調査における因子分析結果による4因子の抽出がスポーツ集団に妥当かどうかという根本問題がまず理解されねばならない。それ故同調査票による因子分析そのものも作業の1つとなり得る。各因子を構成する質問項目の評定尺度による得点の個々の平均値を中心とした分析は、因子分析そのものの結果に従い修正され実施される手順となるが、今回の調査はスポーツ集団への適用の初めてのケースであり、因子分析そのものよりは、既成枠組によるスポーツ集団の分析に重点を置く。

コーチのデータとそのコーチの下で指導を受ける選手との評定のズレの認識は、偶然的誤差の範囲から、現実を極めて明瞭に描き出す資料まで種種のものが考えられようが、そのデータを一つの現実のある側面として謙虚にその原因分析をし、その原因に従った修正行動計画立案から実行していく過程へ、更に、その結果がデータ蒐集の時点へとフィードバックされる手順により、より好ましい集団作りに寄与することになる。

本研究では調査によるデータ蒐集とズレに関する若干の分析、及び因子分析結果の既成4因子の比較を中心にとまとめてみる。

#### 4. 調査の実施と結果

調査は昭和55年7月～8月にかけて、びわこ国体強化選手及びコーチ全員に対し、コーチのリーダーシップに関する項目46を基礎項目11の項目について配票調査により行った。配布、回収は県体協から各競技団体を通じて行った。回収率は20種目コーチ39、選手290(配票、種目42

種目、コーチ400、選手1,600、計2,000、回収率14.5%)と極めて低くかった。これは配布回収に対する手続きよりは具体的な調査内容によるものが影響していると思われる。各コーチのあり方をコーチ自身と選手が評価しあうという方法は、できればふれられたくない、または客観的なデータとして他と比較されたくない一種のタブー的領域を内包しているからだろうと思われる。個人の努力それも非日常的部分に対し勤務評定的なデータが産出されることは会社の上層部においては入用であっても、競技団体という現実を離れた自由裁量領域まで管理社会や競争社会の影が入り込まれることの拒絶を表わす意志表示とも受けとられる。他方、その内容の客観性そのものやそのデータで何がどう改善され得るかという具体的な成果を考えた場合の生産性の低さの認識による反映とも受けとられる。

いずれにしても回収種目数及び、回収種別が少なく、また偏り、種目間、種別間を単純に比較するには困難を伴う結果となった。このあたりはこのような内容の調査の限界の1つともいえるが、誠に残念な結果である。

#### 1) 基礎的項目

この項目は回収率が高まらねば全く意味のないものであるので、その結果の分析等は避け、比率のみを列挙する。

表1 基礎項目集計 1  
・年令

		10代	20代	30代	40代	50代
コーチ	39		28.2	48.7	20.5	2.6
選手	290	69.3	19.7	1.0	-	-

・性別

		男性	女性
コーチ	39	97.4	2.6
選手	290	70.0	30.0

・コーチの指導人数

1～5人	6～10人	11～15人	16～20人	20人以上
40.0	17.1	14.3	8.6	20.1

同じ内容についての選手とコーチのズレという

点のみを考慮にいれば以下の4つの項目は1つの事実としてあげられるかもしれない。

表2 基礎項目集計 2

・練習回数

		毎日	2~3/週	1/週	2~3/週	1/月	なし
コーチ	39	36.1	30.6	16.7	8.3	8.3	-
選手	290	64.5	12.1	6.7	8.2	5.7	2.8

・選手の練習への積極性

		++	+	○	-	--
コーチ	39	30.8	53.8	5.1	10.3	-
選手	290	24.8	47.6	19.6	7.0	1.0

・コーチの積極性

		++	+	○	-	--
コーチ	39	48.7	38.5	10.3	2.1	-
選手	290	67.0	27.2	6.0	2.5	0.4

・問題点の記述

		あり	なし
コーチ	39	33.3	66.7
選手	290	17.6	82.4

練習回数は意識のズレというよりは、コーチのいる練習という言葉の見落としや解釈のズレによるものであろうと思われるが、選手の積極性とコーチの積極性については、いずれも他方（コーチからみた選手、選手からみたコーチ）に対する評定が高くなっている。そのあり方は肯定的評定（++）で選手に対する評定（コーチ84.6%、選手72.4%）とコーチに対する評定（コーチ87.2%、選手94.2%）からすればコーチの方が選手より積極的といえるが、その自己認知との差は選手の方が大きい。このことは++のみを比較した場合さらに顕著となる。いずれにしてもコーチの方が選手より積極的であることは自己認知、他者認知両方からいえよう。そのことは、次の設問の練習における問題点の記述の有無の結果の差からもうかがえよう。

2) 各項目別の平均値、標準偏差、最大値最小値

項目は先述の調査票のモデルに従い4因子それぞれに11~12の設問があり計46項目に及ぶ。

基礎集計は表3の通りであり、平均値の差に有意差が見出せるものは項目番号の右に(\*)で示した。

\*のあるもの(5%水準まで)の数を単純に比較した場合、第1因子(要望)1、第2因子(共感)5、第3因子(通意)2、第4因子(信頼)2と第2因子が多い。この因子は選手のチームワーク作りの根幹となるものであり、技術そのものではなく、人間関係や心情などに対する配慮に関するもので、コーチの自己認知は選手からの他者認知よりも高い、即ち、コーチはある程度配慮しているつもりと考えているが、選手にはそれがそのまま伝わっていない。

他の3つの因子に比較して第2因子のみがコーチの自己認知の方が高いものである。他の因子の差のある項目が全て選手の方がよりよい評定をしているのに自己評定が低いという消極的な自己評定、厳しい自己評定に比し、第2因子は自信過剰的な、甘い自己評定ともいえよう。

またコーチ自己評定中に最低の評価(--)があるものが16(34.8%)あり、これらの項目がリーダーシップの望ましいあり方に対し肯定的に評価できるものとすれば、注意を払わねばならない数字である。もちろんこれは一部のコーチの消極的な自己評定、または、厳しすぎる自己評定によるものといえるかもしれない。

4因子別の基礎集計は表4の通りであるが各項目の有意差と同様に、因子別でも第2因子に1%水準で有意な差がみられている。また巾については明らかに選手の評定に差が大きく、個々の選手によりとり方が多様であることを裏づけている。これは指導している選手の数が複数になれば、その対応の仕方も多様になることは十分に考えられ、異った対応がそのまま表わされたものか、同様な対応が異って受けとられたのかは確定できない。

3) 各競技種目別の4因子別平均値、標準偏差、最大値、最小値、巾

競技種目別では表4の有効回収数に示される通り、コーチの回収のないものがいくつかみられる。また種別が偏っているものもあり単純に競技種目の比較をすることは出来ない。

表3 項目別平均値、標準偏差、最小値、最大値、巾(\*\*\*P<0.001, \*\*P<0.01, \*P<0.05)

	質問項目	有意水準	コーチ (N=39)					選手 (N=290)				
			M	SD	MIN	MAX	RANGE	M	SD	M J N	MAX	RANGE
第1因子 (要望)	1 さらに高い目標	*	3.47	1.07	1	5	4	3.86	0.97	1	5	4
	2 期待以上の業績		3.67	1.06	1	5	4	3.62	1.07	1	5	4
	3 もっと努力するよう		4.39	0.63	3	5	2	4.32	0.85	1	5	4
	4 練習にきびしい		4.00	0.91	2	5	3	4.27	0.97	1	5	4
	5 ぎりぎりいっぱい		3.59	0.97	1	5	4	3.89	0.98	1	5	4
	6 練習改善要求		3.85	0.84	2	5	3	3.58	1.06	1	5	4
	7 最大限に働かず		3.95	0.82	3	5	2	3.99	1.05	1	5	4
	8 なまけたときしかる		4.15	0.75	3	5	2	4.11	1.13	1	5	4
	9 むだロスに口やかましい		3.85	0.96	1	5	4	4.01	1.03	1	5	4
	10 他の種目にまけるな		3.05	1.31	1	5	4	3.19	1.28	1	5	4
	11 練習の質のチェック		3.69	0.83	2	5	3	3.57	1.05	1	5	4
第2因子 (共感)	1 個人的問題に応ずる	***	3.71	1.00	1	5	4	3.61	1.16	1	5	4
	2 体の具合の心配	***	4.41	0.72	3	5	3	3.88	1.11	1	5	4
	3 やる気ない時勇気づけ	*	4.28	0.72	3	5	2	3.77	1.13	1	5	4
	4 選手の人間関係		4.26	0.82	2	5	3	3.85	1.04	1	5	4
	5 選手の理解		3.82	0.79	2	5	3	3.69	1.06	1	5	4
	6 失敗したとき気持ちをくむ	***	3.74	0.85	2	5	3	3.45	1.18	1	5	4
	7 スランプを気づかう		4.05	0.86	2	5	3	3.42	1.17	1	5	4
	8 選手の成長に気を配る		4.26	0.72	3	5	2	4.00	1.05	1	5	4
	9 練習上の問題を考える	*	4.00	0.76	3	5	2	3.94	0.99	1	5	4
	10 いい練習を認める		4.44	0.75	3	5	2	4.06	0.93	1	5	4
	11 コーチを知っている		3.77	0.99	2	5	3	3.76	1.10	1	5	4
	12 言いたいことを言うてくるか		3.49	1.21	1	5	4	3.08	1.24	1	5	4
第3因子 (通意)	1 連盟、体協のうごき		3.00	1.21	1	5	4	3.13	1.22	1	5	4
	2 運営方針を知らせる		3.08	1.16	1	5	4	3.01	1.17	1	5	4
	3 練習計画を知らせる	**	4.43	0.82	2	5	3	3.98	1.12	1	5	4
	4 必要な情報を知らせる		3.92	0.90	2	5	3	3.90	1.00	1	5	4
	5 上層の処置で		3.21	1.08	1	5	4	3.34	1.04	1	5	4
	6 練習の方針を知らせる		4.05	1.00	1	5	4	3.75	1.13	1	5	4
	7 何をやるべきか知らせる		4.21	0.70	3	5	2	3.96	1.02	1	5	4
	8 能力不足を指導		3.87	0.86	2	5	3	4.03	1.05	1	5	4
	9 連盟との関係説明		2.77	1.18	1	5	4	2.88	1.12	1	5	4
	10 方針変更知らせる	*	4.13	0.77	3	5	2	3.84	1.09	1	5	4
	11 規則、規定知らせる		2.69	1.15	1	5	4	2.94	1.20	1	5	4
第4因子 (信頼)	1 決めたこと実行		3.92	0.74	3	5	2	3.92	1.13	1	5	4
	2 知識、技術がある	**	3.77	1.16	1	5	4	4.23	1.08	1	5	4
	3 新しいアイデア		3.80	0.77	2	5	3	3.62	1.14	1	5	4
	4 上層に対する発言力	*	3.05	1.32	1	5	4	3.57	1.21	1	5	4
	5 話し合いを能率的に		3.49	0.76	2	5	3	3.49	1.10	1	5	4
	6 手をこまねくことない		3.41	1.19	1	5	4	3.42	1.16	1	5	4
	7 練習評価が適切		3.87	0.77	3	5	2	3.75	1.05	1	5	4
	8 問題を適切に処理		4.08	0.81	2	5	3	3.81	0.97	1	5	4
	9 選手はあなたから学ぶか		3.56	0.97	2	5	3	3.85	1.09	1	5	4
	10 練習のアドバイス適切		3.62	0.91	2	5	3	3.91	1.05	1	5	4
	11 納得いくよう回答		3.92	0.81	3	5	2	3.72	1.09	1	5	4
	12 決定判断を信ずる		3.90	0.78	2	5	3	3.96	1.06	1	5	4

表4 因子別平均値、標準偏差、最小値、最大値巾 (\*P<0.001)

	コ ー チ (N=39)					選 手 (N=290)				
	M	S D	MIN	MAX	RANGE	M	S D	MIN	MAX	RANGE
第1因子(要望)	3.78	0.51	2.58	4.83	2.25	3.83	0.64	1.58	5.00	3.42
第2因子(共感) *	4.05	0.50	2.90	5.00	2.09	3.72	0.76	1.00	5.00	4.00
第3因子(通意)	3.57	0.61	2.36	4.73	2.36	3.53	0.75	1.46	5.00	3.55
第4因子(信頼)	3.70	0.56	2.58	4.83	2.25	3.77	0.76	1.25	5.00	3.75

回収されたものでコーチ、選手があらゆる種別にわたってれば、その種目としての考察は可能であろうが、その偏りが認められればそのまま考察しても無意味であり、内容によっては有害な結果を導くことにもなる。要は特定コーチとそのコーチの下で練習をしている選手との組み合わせの詳しい分析が必要なわけであるが、その特定化は今回の調査では技術的に失敗し、またその特定化を回収時に義務づけることになれば回収率はさらに低くなることは十分予想される。それはこれまで築きあげたコーチと選手との関係に対する科学という名の下での非情な介入であり、できれば不問にしておいてほしい領域であるからである。特定データの公表は個人的内面の暴露にもつながり、研究が許される限界とも関連する。種目別の合計、偏った回収の合計もその点が考えられないわけではないが、その度合は低くなり、反面、積極的な取り組みへの資料としての価値は低減する。

個々の種目については上述のことから詳しい考察は不可能であるが、一般的には個々の種目において下に示した図3のようなコーチの自己認知と選手のコーチへの評定をグラフ化することにより、そのズレの大小から現状を確認することは可能であろう。

#### 4) 選手の各因子間の相関関係(種目別)

各因子を構成する項目は事前に相関係数の低いものを抽出選択して項目決定が行われる。しかし、各因子を構成する項目それぞれを因子ごとに単純に加算したものによる相関をみてもと表5の通りの結果となった。

ハンドボール、自転車、野球、相撲においては全因子間に0.1%水準の相関がみられ、他方水球においては全くみられない。この意味づけは非常

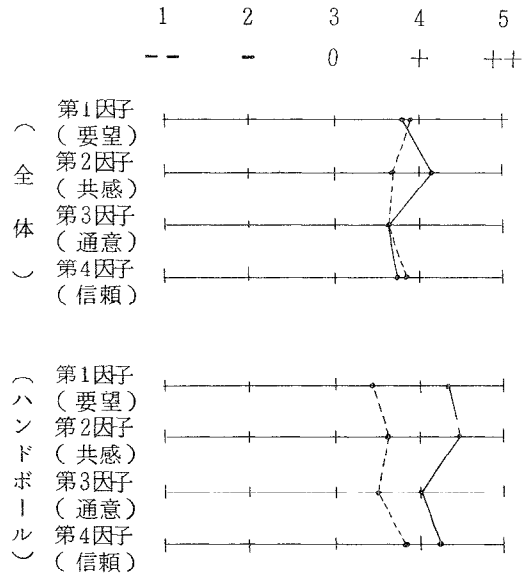


図3 自己認知と他者認知のズレ

— コーチ  
.....選手

に難しいが、もしデータが客観的な裏づけに耐えるものなら個々の選手へのコーチの接触の程度や質の違いに由来する面を含んだものであるといえるかもしれない。しかし現在のところ回収の偏り等から断定できない。

他方各項目間の相関の小さいものを選定したはずのモデルの調査票を用いた結果の合計が、因子間で相関ある結果を一部に見せていることについては、修正援用を可能とした基本的解釈の誤りなのか、単に技術的な問題なのかは特定化できない。しかし項目間それ自体の相関関係はとにかく相関が有意にみられるものが非常に多いことは事実である。因子分析は逆の手続きによるが、リーダーシップということを内容的に細分化し、因子を4つに分けること、さらにその因子の下に10を超

える質問項目を設定すること自体、基本的に相関が高くなる項目を含まざるを得ない限界を持つものなのかもしれない。またこのことからすればこのような問題については統計的に有意な水準に関する一般的な考え方を適用することが無理なのかもしれない。さらに根本的なことからすれば、段階的な評定尺度という非連続的な順序尺度レベルのものに数量を与え相関係数を操作すること自体、統計学の基本を逸脱しているが、そのことによる結果なのかもしれない。いずれにしてもその限界の中での参考的な資料の範囲を超えた分析は無用である。

### 5) 項目別度数分布

2) から 4) までは順序尺度に対し強引に平均値以下の諸統計値を算出したもので多少無理があったことは否めない。質問形式がカテゴリーによって回答を求めるものであるので、度数分布がその分析の主要部分を形成すべきであると思われる。

項目別の度数分布の構成比率は表 6 の通りである。また 5 段階尺度の上位 2 つ ( + , ++ ) の肯定的評価の構成比を加算すると表 7 の通りであり、そのズレは第 2 因子に極めて顕著に表われる。第 2、第 3 因子はその差が正となり、第 1、第 4 因子は負となる。

### 6) 種目別因子別度数分布

11~12 の各項目別カテゴリー値をそのまま加算し平均を求め平均値を 1.49 までを 1、2.49 までを 2、3.49 までを 3、4.49 までを 4、それ以上を 5 と再コードして度数分布を求めた。順序尺度の平均自体多少問題があり、また再コードの基準が妥当であるかも問題である。とにかくその結果は表 8 の通りである。なおコーチの方は数が少なく意味があまりないので割受した。上位 2 カテゴリー ( + , ++ ) を加えた肯定的な回答の比率は表 8 の右の通りである。種目的に、また因子別に相当差がみられる。

## 5. 考察と今後の課題

種目数と種別の偏りと回収率の絶対的低さがあらゆる考察の可能性を著しく減退させてしまう。

詳細な分析がされればされるほどその結果についての信頼性や妥当性の保証がその限界の中でしか認められない。確かに一つの傾向として、第 1 因子についてのコーチの過小評価と選手の過大評価がみられ、第 2 因子第 3 因子では逆にコーチの過大評価、選手の過小評価が指摘できよう。具体的な表現にすれば、選手はコーチ自身が思っている以上に努力について要求されていると感じ、個人的問題や体の具合の心配、勇気づけ、失敗した時の気持を理解してくれるなどの配慮についてはコーチが思っているほどに理解されていないということである。また練習計画を知らせるや方針変更を知らせるなどの情報伝達もコーチが思っているほどうまく理解されていないということがいえよう。しかし、全体としての信頼をもって頼れるということに関してはコーチが意識する以上に選手は理解しており、知識や技術があり、上層に対して発言力があると思っている。

これはいずれも既成の枠組としてのモデルをそのままスポーツにあてはめた時、即ちモデルそのものについての考察をせずに所与のものとして出発した場合のことである。企業という集団では整合性のみられる説得力のある枠組であってもそれがそのままスポーツ集団に援用できるとは限らない。実際これら 46 項目で因子分析をほどこすと、もちろん因子分析の手法が異なるが、既成枠を作り上げた際の分析結果ほど鮮明に 4 因子が抽出されなかった。1 つの因子が種々の因子分析の手法で寄与率 40~45% 程度のものが抽出され、続いて 6~7% 程度のものが 2 種類抽出される。この 3 つで約 60% 程度を包括することになるが、一番大きい因子の内容は既成枠の 2 因子 ( 共感・信頼 ) が入り混っている。また回転前の因子負荷量が 0.7 以上のものが約 10 項目、0.6 以上のものが約 12 項目、0.5 以上のものが約 5 項目で半数以上のものが含まれてしまう。このことは項目間の相関が極めて高いものを無処理のまま投入したことが影響していると思われる。混然としたリーダーシップの互に相関高いものをそのまま利用すれば、同一側面を多様に調べているのみで無意味となる。結果としてそれらの項目が極めて高い寄与率を持つのも当然であろう。これがスポーツ集団で

あるが故なのか、回収標本の偏りよるものかは現時点では判別の仕様がなない。

今回の調査では資料が特定コーチと特定選手の組み合わせを限定できなかったために個々のズレの認識の材料にはなり得ない。しかしデータフィードバックの際の生々しさを意識することからくる回答の意図的操作の軽減にはつながるといえよう。それにしても回収率は低く、せいぜい種目別のズレの認識ぐらいにしか役立たない。ましてやこのデータによりその原因分析や原因除去のための話し合い、それを通しての成熟度の高いチームワーク作りなど望むべくもない。

極めてnomativeな内容で出発したが、基本的枠組の捉え方、援用の仕方、回収率の低さ、回収方法の欠点で役立ち得る内容は得られなかった。全体としてのズレはあるが程度理解可能であるがそれも限界つきである。

今後の問題としては、上述の3点の克服が中心となるが、スポーツは実社会と異なり何もあくせくやらずともよいとすることが言えるとするればこれ以上は

無駄である。しかし現実でないからやる以上は徹底して行うとすればまだまだ利用の余地がある。とにかくびわこ国体向けの生々しいデータとしてはあまり価値がないものになったが、これを機会にコーチの意識と選手の意識が種々の側面で差違がみられることを再認識していただければ幸である。

主要参考文献

- 1) 日本リクリートセンター LDP企画趣意書
- 2) " LDP解説書
- 3) " ROD解説書
- 4) 日本社会学会 現代社会学入門 有斐閣
- 5) 三隅二不二 新しいリーダーシップ  
ダイヤモンド社
- 6) 鈴木 博 組織開発(Organization Development)理論にもとづく組織変革実験に関する報告行動科学研究  
Vol1 No1

表5 選手種目別4因子の相関係数有意水準 (\*\*P<0.001, \*P<0.01, \*P<0.05)

		1	2	3			1	2	3			1	2	3			1	2	3		
陸上競技 (29)	2	-			ヨット (16)	2	*			野球 (15)	2	***			バドミントン (5)	2	**				
	3	**	***			3	***	***				3	***	***				3	*	*	
	4	**	***	***		4	***	***	***			4	***	***		***		4	-	-	*
水球 (11)	2	-			ハンドボール (28)	2	***			相撲 (20)	2	***			弓道 (6)	2	*				
	3	-	-			3	***	***				3	***	***				3	*	**	
	4	-	-	-		4	***	***	***			4	***	***		***		4	*	**	**
漕艇 (37)	2	***			自転車 (9)	2	***			馬術 (11)	2	***			ラグビー (30)	2	-				
	3	***	***			3	***	***				3	***	**				3	*	***	
	4	***	***	***		4	***	**	***			4	***	**		***		4	-	***	***
ホッケー (11)	2	***			庭球 (8)	2	-			フェンシング (7)	2	-			山岳 (4)	2	*				
	3	*	*			3	-	-				3	-	-				3	-	-	
	4	**	**	-		4	**	-	-			4	*	-		-		4	-	-	**
ボクシング (10)	2	**			卓球 (11)	2	-			ソフトボール (13)	2	*			空手 (9)	2	***				
	3	***	***			3	***	-				3	**	**				3	*	*	
	4	***	**	***		4	*	***	-			4	**	***		***		4	*	***	**

( )は集計数、1は第1因子(要望)、2は第2因子(共感)  
3は第3因子(通意)、4は第4因子(信頼)

表6 項目別度数分布

	項 目	コ					チ					選 手				
		--	-	0	+	++	--	-	0	+	++	--	-	0	+	++
因子別	第1因子(要望)	-	-	25.6	64.1	10.3	-	2.8	23.1	57.2	16.9	-	2.8	23.1	57.2	16.9
	第2因子(共感)	-	-	17.9	56.4	25.6	0.7	5.5	31.0	45.2	17.6	0.7	5.5	31.0	45.2	17.6
	第3因子(通意)	-	2.6	46.2	41.0	10.3	0.3	10.0	36.2	41.0	12.4	0.3	10.0	36.2	41.0	12.4
	第4因子(信頼)	-	-	28.2	64.1	7.7	0.3	5.5	23.4	50.7	20.0	0.3	5.5	23.4	50.7	20.0
第1因子(要望)	1 さらに高い目標	10.3	-	38.5	38.5	12.8	1.4	4.1	34.5	27.6	32.4	1.4	4.1	34.5	27.6	32.4
	2 期待以上の業績	2.6	7.7	38.5	23.1	28.2	3.8	6.9	39.3	23.4	26.6	3.8	6.9	39.3	23.4	26.6
	3 もっと努力するよう	-	-	7.7	46.2	46.2	1.0	0.7	16.6	28.3	53.4	1.0	0.7	16.6	28.3	53.4
	4 練習にきびしい	-	2.6	33.3	25.6	38.5	1.4	4.8	14.5	24.5	54.8	1.4	4.8	14.5	24.5	54.8
	5 ぎりぎりいっぱい	2.6	10.3	28.2	43.6	15.4	1.7	5.5	27.2	32.8	32.8	1.7	5.5	27.2	32.8	32.8
	6 練習改善要求	-	2.6	35.9	35.9	25.6	4.5	7.6	36.2	28.6	23.1	4.5	7.6	36.2	28.6	23.1
	7 最大限に働かす	-	-	35.9	33.3	30.8	2.8	5.9	20.7	30.7	40.0	2.8	5.9	20.7	30.7	40.0
	8 なまけたときしかる	-	-	20.5	43.6	35.9	4.5	5.2	15.9	23.8	50.7	4.5	5.2	15.9	23.8	50.7
	9 むだロスに口やかましい	2.6	-	38.5	28.2	30.8	1.0	8.3	21.4	27.6	41.7	1.0	8.3	21.4	27.6	41.7
	10 他の種目にまけるな	20.5	7.7	30.8	28.2	12.8	13.4	13.1	35.5	17.2	20.7	13.4	13.1	35.5	17.2	20.7
	11 練習の質のチェック	-	5.1	38.5	38.5	17.9	3.1	12.8	29.0	34.8	20.3	3.1	12.8	29.0	34.8	20.3
第2因子(共感)	1 個人的問題に应付する	2.6	5.1	35.9	30.8	25.6	6.6	7.9	31.0	26.9	27.6	6.6	7.9	31.0	26.9	27.6
	2 体の具合の心配	-	-	12.8	33.3	53.8	3.8	7.9	22.1	29.0	37.2	3.8	7.9	22.1	29.0	37.2
	3 やる気ない時勇気づけ	-	-	15.4	41.0	43.6	5.2	7.2	25.2	30.3	32.1	5.2	7.2	25.2	30.3	32.1
	4 選手の人間関係	-	2.6	15.4	35.9	46.2	3.1	5.9	26.9	31.7	32.4	3.1	5.9	26.9	31.7	32.4
	5 選手の理解	-	2.6	33.3	43.6	20.5	3.8	6.9	33.1	29.3	26.9	3.8	6.9	33.1	29.3	26.9
	6 失敗したとき気持ちをくむ	-	5.1	35.9	38.5	20.5	7.9	11.7	29.3	29.3	21.7	7.9	11.7	29.3	29.3	21.7
	7 スランプを気づかう	-	5.1	17.9	43.6	33.3	7.2	12.4	32.4	26.6	21.4	7.2	12.4	32.4	26.6	21.4
	8 選手の成長に気を配る	-	-	15.4	43.6	41.0	3.1	5.2	20.3	31.0	40.3	3.1	5.2	20.3	31.0	40.3
	9 練習上の問題を考える	-	-	28.2	43.6	28.2	2.8	3.1	25.9	33.8	34.5	2.8	3.1	25.9	33.8	34.5
	10 いい練習を認める	-	-	15.4	25.6	59.0	0.7	4.5	23.1	31.7	40.0	0.7	4.5	23.1	31.7	40.0
	11 コーチを知っている	-	7.7	38.5	23.1	30.8	4.1	7.6	27.9	29.0	31.4	4.1	7.6	27.9	29.0	31.4
	12 言いたいことを言うてくる	5.1	12.8	30.8	30.8	20.5	14.1	15.5	33.8	21.4	15.2	14.1	15.5	33.8	21.4	15.2
第3因子(通意)	1 連盟、体協のうごき	12.8	17.9	41.0	12.8	15.4	10.7	19.0	34.8	17.6	17.9	10.7	19.0	34.8	17.6	17.9
	2 運営方針を知らせる	7.7	23.1	38.5	15.4	15.4	11.4	19.3	40.7	14.1	14.5	11.4	19.3	40.7	14.1	14.5
	3 練習計画を知らせる	-	5.1	5.1	30.8	59.0	4.1	6.2	20.7	25.2	43.8	4.1	6.2	20.7	25.2	43.8
	4 必要な情報を知らせる	-	7.7	20.5	43.6	28.2	2.4	5.5	23.8	35.9	32.4	2.4	5.5	23.8	35.9	32.4
	5 上層の処置で	7.7	12.8	43.6	23.1	12.8	4.5	12.8	43.4	22.8	16.6	4.5	12.8	43.4	22.8	16.6
	6 練習の方針を知らせる	2.6	2.6	23.1	30.8	41.0	3.8	11.0	23.4	29.7	32.1	3.8	11.0	23.4	29.7	32.1
	7 何をやるべきかを知らせる	-	-	15.4	48.7	35.9	2.4	6.9	19.0	35.5	36.2	2.4	6.9	19.0	35.5	36.2
	8 能力不足を指導	-	5.1	28.2	41.0	25.6	2.8	5.9	19.0	30.3	42.1	2.8	5.9	19.0	30.3	42.1
	9 連盟との関係説明	20.5	15.4	35.9	23.1	5.1	13.8	19.7	40.0	17.9	8.6	13.8	19.7	40.0	17.9	8.6
	10 方針変更を知らせる	-	-	23.1	41.0	35.9	1.7	9.7	29.0	22.1	37.6	1.7	9.7	29.0	22.1	37.6
	11 規則、規定を知らせる	17.9	25.6	30.8	20.5	5.1	13.8	21.4	33.8	19.3	11.7	13.8	21.4	33.8	19.3	11.7
第4因子(信頼)	1 決定したこと実行	-	-	30.8	46.2	23.1	3.8	7.9	21.0	27.2	40.0	3.8	7.9	21.0	27.2	40.0
	2 知識、技術がある	7.7	5.1	17.9	41.0	28.2	3.1	4.8	15.5	18.6	57.9	3.1	4.8	15.5	18.6	57.9
	3 新しいアイデア	-	2.6	33.3	46.2	17.9	6.2	7.2	32.4	26.6	27.6	6.2	7.2	32.4	26.6	27.6
	4 上層部に対する発言力	17.9	15.4	23.1	30.8	12.8	7.6	8.6	32.4	22.4	29.0	7.6	8.6	32.4	22.4	29.0
	5 話し合いを能率的に	-	2.6	59.0	25.6	12.8	4.1	12.4	37.6	22.4	23.4	4.1	12.4	37.6	22.4	23.4
	6 手をこまねくことない	10.3	5.1	38.5	25.6	20.5	6.9	12.8	33.1	25.9	21.4	6.9	12.8	33.1	25.9	21.4
	7 練習評価が適切	-	-	35.9	41.0	23.1	3.1	7.2	30.0	31.0	28.6	3.1	7.2	30.0	31.0	28.6
	8 問題を適切に処理	-	2.6	20.5	43.6	33.3	1.4	7.2	28.6	34.8	27.9	1.4	7.2	28.6	34.8	27.9
	9 選手はあなたから学ぶ	-	12.8	38.5	28.2	20.5	3.1	7.9	26.2	26.9	35.9	3.1	7.9	26.2	26.9	35.9
	10 練習のアドバイス	-	10.3	35.9	35.9	17.9	3.1	5.9	23.4	32.4	35.2	3.1	5.9	23.4	32.4	35.2
	11 納得いくよう回答	-	-	35.9	35.9	28.2	3.4	9.3	28.6	29.3	29.3	3.4	9.3	28.6	29.3	29.3
	12 決定判断を信ずる	-	2.6	28.2	46.2	23.1	3.1	5.2	24.1	27.6	40.0	3.1	5.2	24.1	27.6	40.0



表7 肯定的回答比率と差

項目		コーチ	選手	コーチ -選手	項目		コーチ	選手	コーチ -選手	
因子別	第1因子(要望)	74.4	74.1	0.3	第3因子	1 連盟、体協のうごき	28.2	35.5	- 7.3	
	第2因子(共感)	82.0	62.8	19.2		2 運営方針を知らせる	30.8	28.6	1.7	
	第3因子(通意)	51.3	53.4	- 2.1		3 練習計画を知らせる	89.8	69.0	20.8	
	第4因子(信頼)	71.8	70.7	- 1.1		4 必要な情報を知らせる	71.8	68.3	3.5	
第1因子(要望)	1 さらに高い目標	51.3	60.0	- 8.7	第3因子(通意)	5 上層の処置で 4.	35.9	39.4	3.5	
	2 期待以上の業績	51.3	50.0	1.3		6 練習の方針を知らせる	71.8	61.8	10.0	
	3 もっと努力するよう	92.4	81.7	10.7		7 何をやるべきかを知らせる	84.6	71.7	12.9	
	4 練習にきびしい	64.1	79.3	-15.2		8 能力不足を指導	66.6	72.4	- 5.8	
	5 ぎりぎりいっぱい	59.0	65.6	- 6.6		9 連盟との関係説明	28.2	26.5	1.7	
	6 練習改善要求	61.5	51.7	- 9.8		10 方針変更を知らせる	76.9	59.7	17.2	
	7 最大限に働かず	64.1	70.7	- 6.6		11 規則、規定を知らせる	25.6	31.0	- 5.4	
	8 なまけたときしかる	79.5	74.5	5.0		第3因子(信頼)	1 決定したことを実行	69.3	67.2	2.1
	9 むだロスに口やかましい	59.0	69.3	-10.3			2 知識、技術がある	69.2	76.5	- 7.3
	10 他の種目にまけるな	41.0	37.9	3.1			3 新しいアイディア	64.1	54.2	9.9
	11 練習の質のチェック	56.5	55.1	1.4			4 上層部に対する発言力	43.6	51.4	- 7.8
第2因子(共感)	1 個人的問題に应ずる	56.1	54.5	1.6	5 話し合いを能率的に		38.4	45.8	- 7.4	
	2 体の具合の心配	87.1	66.2	20.9	6 手をこまねくことない	46.1	47.3	- 1.2		
	3 やる気ない時勇気づけ	84.6	62.4	22.2	7 練習評価が適切	64.1	59.6	4.5		
	4 選手の間人間関係	82.1	64.1	18.0	8 問題を適切に処理	76.9	62.7	14.2		
	5 選手の理解	64.1	56.2	7.9	9 選手はあなたから学ぶ	48.5	62.8	-14.2		
	6 失敗したとき気持ちをくむ	59.0	51.0	8.0	10 練習のアドバイス適切	53.8	67.6	-13.8		
	7 スランプを気づかう	76.9	48.0	28.9	11 納得いくよう回答	64.1	58.6	5.5		
	8 選手の成長に気を配る	84.6	71.3	13.3	12 決定判断を信ずる	69.3	67.6	1.7		
	9 練習上の問題を考える	71.8	68.3	3.5						
	10 いい練習を認める	84.6	71.7	12.9						
	11 コーチを知っている	53.9	60.4	- 6.5						
	12 言いたいことを言うてくる	51.3	36.6	14.7						

表 8 選手種目別因子別度数分布、肯定的回答比率

	因子	--	-	0	+	++	+, ++
陸上競技 (29)	1	-	-	10.3	79.3	10.3	89.6
	2	-	3.4	20.7	58.6	17.2	75.8
	3	-	6.9	20.7	72.4	-	72.4
	4	-	3.4	10.3	55.2	31.0	86.2
水球 (11)	1	-	-	-	63.6	36.4	100.0
	2	-	-	18.2	81.8	-	81.8
	3	-	-	63.6	36.4	-	36.4
	4	-	-	-	100.0	-	100.0
漕艇 (37)	1	-	-	16.2	62.2	21.6	83.8
	2	-	5.4	13.5	59.5	21.6	81.1
	3	-	8.1	35.1	48.6	8.1	56.7
	4	-	2.7	27.0	51.4	18.9	70.3
ホッケー (11)	1	-	-	-	81.8	18.2	100.0
	2	-	-	9.1	63.6	27.3	90.9
	3	-	9.1	63.6	27.3	-	27.3
	4	-	-	-	72.7	27.3	100.0
ボクシング (10)	1	-	-	50.0	40.0	10.0	50.0
	2	-	-	40.0	40.0	20.0	60.0
	3	-	-	50.0	30.0	20.0	50.0
	4	-	10.0	40.0	30.0	20.0	50.0
ヨット (16)	1	-	6.3	31.3	62.5	-	62.5
	2	-	-	37.5	50.0	12.5	62.5
	3	-	12.5	25.0	62.5	-	62.5
	4	-	-	25.0	43.8	31.3	75.1
ハンドボール (28)	1	-	10.7	53.6	32.1	3.6	35.7
	2	-	7.1	50.0	39.3	3.6	42.9
	3	-	25.0	46.4	25.0	3.6	28.6
	4	-	10.7	50.0	32.1	7.1	39.2
自転車 (9)	1	-	-	11.1	77.8	11.1	88.9
	2	-	-	33.3	55.6	11.1	66.7
	3	-	-	33.3	55.6	11.1	66.7
	4	-	-	55.6	44.4	-	44.4
庭球 (8)	1	-	25.0	37.5	37.5	-	37.5
	2	-	12.5	62.5	25.0	-	25.0
	3	-	37.5	62.5	-	-	0.0
	4	-	28.0	62.5	12.5	-	12.5
卓球 (11)	1	-	-	18.2	81.8	-	81.8
	2	-	-	54.5	36.4	9.1	45.5
	3	-	-	27.3	18.2	54.5	72.7
	4	-	-	-	90.9	9.1	100.0

	因子	--	-	0	+	++	+++
野 球 (15)	1	-	-	33.3	40.0	26.7	66.7
	2	-	6.7	26.7	26.7	40.0	66.7
	3	-	6.7	26.7	26.7	40.0	66.7
	4	-	6.7	26.7	46.7	20.0	66.7
相 撲 (20)	1	-	-	35.0	35.0	30.0	65.0
	2	10.0	15.0	25.0	20.0	30.0	50.0
	3	5.0	25.0	20.0	20.0	25.0	45.0
	4	5.0	20.0	25.0	20.0	30.0	50.0
馬 術 (11)	1	-	18.2	18.2	45.5	18.2	63.7
	2	-	-	18.2	72.7	9.1	81.8
	3	-	18.2	9.1	63.6	9.1	72.7
	4	-	9.1	9.1	63.6	18.2	81.8
フェンシング (7)	1	-	-	57.1	42.9	-	42.9
	2	-	-	85.7	14.3	-	14.3
	3	-	-	57.1	42.9	-	42.9
	4	-	-	57.1	42.9	-	42.9
ソフトボール (13)	1	-	-	7.1	76.9	15.4	92.3
	2	-	7.7	23.1	53.8	15.4	69.2
	3	-	-	38.5	38.5	23.1	61.6
	4	-	-	7.7	53.8	38.5	92.3
バドミントン (5)	1	-	-	-	40.0	60.0	100.0
	2	-	-	-	40.0	60.0	100.0
	3	-	-	20.0	60.0	20.0	80.0
	4	-	-	-	40.0	60.0	100.0
弓 道 (6)	1	-	-	-	16.7	83.3	100.0
	2	-	-	-	16.7	83.3	100.0
	3	-	-	-	16.7	83.3	100.0
	4	-	-	-	16.7	83.3	100.0
ラグビー (30)	1	-	-	20.0	76.7	3.3	80.0
	2	-	16.7	56.7	26.7	-	26.7
	3	-	6.7	60.0	30.0	3.3	33.3
	4	-	6.7	20.0	73.3	-	73.3
山 岳 (4)	1	-	-	-	75.0	25.0	100.0
	2	-	-	-	75.0	25.0	100.0
	3	-	25.0	-	75.0	-	75.0
	4	-	-	25.0	75.0	-	75.0
空 手 (9)	1	-	-	22.2	22.2	55.6	77.8
	2	-	-	11.1	44.4	44.6	99.9
	3	-	-	11.1	77.8	11.1	99.9
	4	-	-	11.1	33.3	55.6	99.9

コーチのリーダーシップについての調査（選手用）

昭和55年8月20日

滋賀県体育協会スポーツ科学委員会

<お願い>

栃木国体、びわこ国体をひかえ、各競技団体のコーチ、選手のみなさんは連日猛練習に励んでいらっしゃると思います。強いチーム作り、選手作りにはいろいろな事が考えられますが、選手に対するコーチの指導は特に重要なものと思われれます。この点についてスポーツ科学委員会では「コーチの選手への働きかけかたを中心にした調査をすることになりました。結果はすべて統計的に処理され、個人にご迷惑がかかるようなことは全くありませんので、ありのまま答え下さるようお願い致します。

なお、9月10日までに回収の上、県体育協会まで御返送下さいますようお願い申し上げます。

<記入上の注意>

- ・調査票は、A、あなた自身についての基礎的なことと、B、あなたのコーチのリーダーシップについての2つに分れています。
- ・Aはあてはまるところに○をつけたり、( )の中にあてはまることばを入れて下さい。
- ・Bはあなたに直接指導してくれるコーチの指導について、5段階尺度であてはまるところに○をつけて下さい。なお、各文章はすべてコーチの人の立場になっていますので、各文章の前に「あなたのコーチは」をつけた質問文にしてお答え下さい。

A、あなた自身についての基礎的なことがら

1. 年齢( )才
2. 性別( 1. 男性 2. 女性 )
3. 職業(在学中の人も答えて下さい)  
( 1. 教員 2. 公務員 3. 農林水産業 4. 自営業 5. 会社員 6. 団体職員  
7. 大学生 8. 中高生 9. その他( ) )
4. 競技種目名( ) 例、陸上競技
5. あれば細かい種目名( ) 例、100M
6. 出場競技種別  
( 1. 成年男子 2. 成年女子 3. 少年男子 4. 少年女子 )
7. 国体をめざした練習のためのコーチは主にどの人ですか。  
( 1. 県体協強化コーチ 2. これまでのコーチ 3. 両方とも 4. その他( ) )
8. コーチのいる練習の回数(本年6、7月について答えて下さい)  
( 1. ほぼ毎日 2. 週2、3回 3. 週1回 4. 月2、3回 5. 月1回  
6. 2ヶ月に1回 7. なし )
9. あなたの練習へのとりくみ方  
( 1. ひじょうに積極的 2. まあ積極的 3. どちらともいえない 4. やや消極的  
5. ひじょうに消極的 )
10. あなたのコーチの指導のとりくみ方  
( 1. ひじょうに積極的 2. まあ積極的 3. どちらともいえない 4. やや消極的  
5. ひじょうに消極的 )
11. 練習の上での問題点などありましたら自由にお書き下さい。

B. コーチのリーダーシップ

	不 十	ま ず	ま ず	十 分
	1	2	3	4 5
1. 予定どおり練習をした時でもさらに高い目標を要求するか				
2. 選手の体の具合や気分がすぐれない時心配しているか				
3. 選手に県体協や連盟の動きについてよく知らせているか				
4. いったん決定したことは実行しているか				
5. 選手に県体協や連盟の期待を上回る業績を要求しているか				
6. 選手が練習にやる気をなくした時勇気づけているか				
7. 選手に県体協や連盟の運営方針を知らせているか				
8. 練習に必要な知識や技術を持っているか				
9. 選手にもっと努力するよう求めているか				
10. 選手の間関係がうまくゆくよう気を使っているか				
11. 選手に練習の計画を知らせているか				
12. 問題を解決するために新しいアイデアを出しているか				
13. 選手に対して練習の面できびしいか				
14. 選手を理解しているか				
15. 練習に必要な情報を選手に知らせているか				
16. 県体協や連盟上層部に対して発言力、影響力を持っているか				
17. 選手のかからみてぎりぎりいっぱいの練習を要求しているか				
18. 選手が失敗やミスをしたとき、選手の気持をくんで処理するか				
19. 選手に対して運営の上層部でとられた処置のうち必要なことがらを説明しているか				
20. チームの話し合いを能率的にすすめているか				
21. 選手に練習の改善を要求しているか				
22. 選手がスランプにおちいった時には気をつけているか				
23. 練習の方針について選手に知らせているか				
24. 問題がおきたときに、手をこまねていることがあるか				

( 1. つねに 2. しばしば 3. ときどき 4. たまには 5. まったく )

	不 十 分	2	ま ず ま ず 3	4	十 分	
25. 選手を最大限に働かせようとするか	25.	1	2	3	4	5
26. 選手の成長に気を配っているか	26.					
27. 選手に何をやるべきかを知らせているか	27.					
28. 選手の練習に対する評価は適切か	28.					
29. 選手が練習をなまけた時しかっているか	29.					
30. 選手の練習上で問題が起きた時いっしょに考えるか	30.					
31. 選手の能力や知識の不足なところをつかみ指導しているか	31.					
32. 選手が問題を持ちこんだ場合、適切な処置ができるか	32.					
33. むだロスについて口やかましくいっているか	33.					
34. 選手がいい練習をした時にはそれを認めているか	24.					
35. 選手の練習と県体協や連盟全体の仕事との関係を説明しているか	35.					
36. 選手は練習のことであなた(コーチ)から学んでいるか	36.					
37. 選手に他の種目に負けてはならないことを強調しているか	37.					
38. 選手はあなた(コーチ)の考え方や人柄を知っているか	38.					
39. 練習の方針や計画を変更した時、そのことをただちに知らせているか	39.					
40. 選手の練習に対するあなた(コーチ)のアドバイスは適切か	40.					
41. 選手の練習の質をきびしくチェックしているか	41.					
42. 選手は練習のことで言いたいことを何でも言っているか	42.					
43. 選手に県体協や連盟の規則や規定を知らせているか	43.					
44. 選手の出した質問や意見に対して納得のいくよう回答しているか	44.					
45. 選手の個人的問題の相談にこころよく応じているか	45.					
46. 選手はあなた(コーチ)の決定や判断を信頼しているか	46.					

調査についての感想がありましたらご自由にお書き下さい。

ありがとうございました。

## サッカー少年団活動の実態に関する基礎的研究

—— 団員，指導者，保護者の意識の相違を中心に ——

沢田 和明 (滋賀大学教育学部)

### 1. 緒 言

昭和37年に日本体育協会創立50周年記念事業として発足したスポーツ少年団は，同年末22団体753名で出発し，20数年を経た今は，全国で24,377団体886,634名，指導者89,928名(昭和58年度)を有する日本で最大の青少年団体となっている。

昭和53年度より団員・指導者の有料登録制が実施され，第5次育成計画(第2次基礎建設期)を経て，昭和58年度より第6次育成5ヶ年計画(第1次発展期)がスタートし，2年目を迎えている。

スポーツ少年団は日本体育協会寄附行為の第4章事業第4条5項に「スポーツ少年団を育成すること」とあり，他の18項目と並んで日体協の重要な事業であり，第16章スポーツ少年団育成委員会により管理・運営がなされている。日本スポーツ少年団団員綱領及び日本スポーツ少年団指導者綱領にはスポーツの人間教育の可能性が謳われ，「スポーツを通じて青少年の心と身体を育てる組織を地域社会に作りあげる」基本的考え方が示されている。

他の少年団との交流は，国内では毎夏の全国スポーツ少年大会や全国スポーツ少年団競技別交歓大会が行われ，また国際的にはオリンピックムーブメント啓蒙の一環としてオリンピックユースキャンプの参加，日独スポーツ少年団同時交流などが行われている。同時に指導者養成には少年団員の中から指導者を育てる中央リーダースクール構想，さらには都道府県指導者研修会，中央指導者講習会がその上に位置づけられている。また指導者相互の交流，情報交換の組織として日本スポーツ少年団指導者協議会が出来ている。

スポーツ普及，振興に始まり，競技力向上へ，さらには地域社会の発展に，民族と世界の平和

と繁栄にと構想は広げられていく。

ところで組織が大きくなり，相互の交流が進み，種目別の全国大会が開催されるにつれ，技術水準は年毎に高まってきているといえよう。その技術の高度化現象と併行して量的拡大の大衆化現象も生起していくのは大人のスポーツ社会と類似しているといえよう。大人のスポーツ社会から多様なことがそのままの形で，また多少修正された形で導入されていく過程で，大人のスポーツ社会が抱えている問題をそのまま模倣したような状況を生み出すと言われたりする。このことは大人が成長を完了した者であるのに対し，スポーツ少年団の団員は身体的，精神的な発育発達の過渡期にあり，特に構成の約9割を占める小学生にとってはそのあり方をめぐって大人のスポーツ社会以上の問題を抱えているといっても過言でなからう。

スポーツは両刃の剣といわれる。日本にはその普及が学校を中心に行われたためにより面のみが強調され，スポーツをプラスの側面で判断する傾向が強いといえるが，マイナスの側面を軽視したり無視したりすることは真の意味でのスポーツの発展にはつながらないと思われる。

本人の自由意思とは離れた位置でのスポーツ活動継続のあり方がより専門性が高まった状況に指摘されたりする現象も，大人のスポーツ社会に限ったこととはいえないであろう。また少年団，中学校，高校という各々の限られた単位期間の中のみ意識を集中させるために，各期間が完結した捉え方がされ易く，これまでの伸びが頭打ちになったり，次の期間でより大きく成長させるための配慮が欠けたりすることもよく指摘されたりする。また特定種目へ早期に専門化しすぎる傾向は，長期展望から底辺拡大につながらないとの意見も出ている。学校体育で体育嫌いを醸成することが否定され得ないよう

に、スポーツ少年団活動の中でスポーツ嫌いを助長することも十分あり得る問題でもある。

多種多様な問題が「たかが子供の問題」から「たかが子供の問題で済まされない」段階にきているともいえよう。スポーツ少年団のスポーツ活動は、「指導の手引き」に示される「全てのスポーツは、遊戯としてのシュピール (Spiel) に始まり、競技としてのシュピールに終わる」とする Carl Diem の言葉を基本としていよう。ところが大人のスポーツ社会のスポーツが Spiel の領域を逸脱してきているように、同様なことがスポーツ少年団活動にも経験的に見出されている。錦の御旗のスポーツがその用い方により全てのものをその理念から遠ざけてしまうことも十分あり得るし、それが子供の世界にも浸透してきていることに注意を向けねばならない。

## 2. 目的, 手順

本研究は上述のスポーツ少年団の現状をより的確に把握し、今後のより望ましいスポーツ少年団の運営のあり方に役立ち得る基礎的資料を蒐集することを目的としている。

スポーツ少年団活動も多様な組織集団や文化と結びついているが、ここではその中心的関わりとして、本人と指導者と保護者の三者の関連に限定して、特にスポーツ少年団活動のあり方を三者それぞれの関心の実態把握と三者の関心のズレを中心に調べていく。特に小学校高学年が中心の活動であり、指導者の影響力が重要となると思われるので、そこに重点を置く調査票を作成した。

仮設的には、一部の熱中の関心のある大人(指導者, 保護者)と、関心はあるけれども行動が今一つ不十分な指導者と、多くの傍観者的保護者の間で、子供達が種々の問題を抱え迷っており、迷いすぎた子供は脱落者として少年団活動から去っていくという図式を想定している。

なお今回はその予備的、基礎的研究でもあるので、種目の構成比率が多い種目からサッカーを選び、地域差の比較ということで湖西と甲賀

の2地区の全少年団(湖西29団, 甲賀22団)を対象としプリテストを試みた。調査票は指導者悉皆、団員及び保護者は、各団15~20を標本とし、4年生以上、同一学年に集中しないようにして、各ブロック会議の席で実施回収を依頼した。なお今回は女子は異った状況下にあると判断し割愛した。

## 3. 結果

回収率は督促1回の結果、有効回収数は団員548(62.6%), 指導者74(72.2%), 保護者536(61.2%)であった。

体裁及び内容、量の関連から中途回答放棄もあったが、有効部分を生かすことで全てを集計対象とした。なお単純集計結果は文末に資料としたので参照されたい。

調査票は三者ともA(基礎的項目), B(活動への期待), BB(活動の現実), C(指導者の指導について), D(よかったこと, 悪かったこと), E(他の人に言いたいこと, 調査の感想)から構成されている。

なお、保護者のA17~A30については調査票の不手際から、湖西地区のみ分析の対象に入れ、甲賀地区及び全体の分析は割愛した。

### (1) 基礎項目

3つの調査の基礎項目(少年団活動を支える背景に関するもので、対象者の具体的属性のみではない)の集計結果は以下の通りである。

#### 1) 団員

湖西272名, 甲賀276名, 計548名。3年生までが0.7%, 4年19.8%, 5年32.0%, 6年47.6%である。入団した学年は、2年生までが8.9%, 3年19.6%, 4年57.4%, 5年9.9%, 6年3.9%と4年生入団が多い。入団した季節も4月が多く全体の約7割を占めている。6月から2月までの入団は15%前後である。入団時に他に習いごとをしていた者54.1%, 現在の習いごと46.8%で、現在の内容はそろばん32.1%, 勉強25.6%, 習字18.4%, スポーツ16.7%の順である。

入団の決定は自分できめたものが87.0%で



残りは父、母が半分ぐらいずつである。入団に積極的なもの66.8%で、入りたいとは思ってなかったもの4.0%、どちらともいえない者が29.2%であった。

両親のスポーツの生活化に関しては、否定的なものが父親39.1%、母親64.0%いた。また少年団活動への参観は父親42.4%、母親51.3%が否定的な回答をしている。特に甲賀の母親が他に比較して否定的である。少年団活動での話をよくする、ときどきするがそれぞれ4割強である。またサッカーの記事やテレビなどについても同様な傾向である。

練習への積極性は、練習がいつも待ち遠しいもの26.4%、ときどき56.4%であり、逆に練習を休みたいと思うことに関しては、いつも及びときどきが23.9%いる。またやめたいと思うことに対してはときどき、いつもをあわせると8.2%いる。

この調査はスポーツ少年団活動を現在継続中の小学校のみが対象であり、団員外の小学生との比較や入団したが途中でやめてしまったものとの比較は不可能であるが、総じて取り組み方が思ったより積極的である。それは後述の自分の少年団の活動での生活の変化や具体的な意見でもふれるが、継続している団員本人としては各団相互の較差を考慮に入れなければ、1割弱のやめたい団員の存在以外にはこれらの調査項目からは問題点がありません。

## 2) 指導者

湖西52, 甲賀20, 計74名。

年代は20代, 30代が中心で両方で7割強を占めている。職業は教員が32.9%と多く、会社員, 公務員とつづいている。運動部所属歴では、サッカーが8割(重答)であとは10数程目に所属歴があるが、いずれも1割を越えるものはなかった。所属年数は3年までが38.5%を占めている。公の資格を持っている者は93.2%で、内訳はスポーツ少年団指導員35.9%、体育指導委員20.5%、体育教員免許取得者23.1%、スポーツ指導員7.7%、日体協

コーチ2.6%、他各種目別の資格者が28.2%であった。

少年団指導開始年齢は20代半が37.8%が一番多く、20代後半, 30代後半16.7%とつづいている。また40代以降になって始めた者も11.1%いる。指導年数は2年未満が40.6%、3~4年が17.6%、5~10年が28.4%で10年以上が13.6%いる。また指導以外のスポーツ活動をしている者45.2%、その内訳はサッカー50%、テニス14.7%、ゴルフ11.8%と続く。指導については自分から求めたものが2割、残りは、指導者からの依頼47.3%、父兄からの依頼13.5%である。指導決定については、42.3%がやりたかったと答え、しかたなくという引き受け方をした者22.5%で、残りはたのまれるまま33.8%である。週練習日数は平均2.45日で、内訳は1日が32.9%と多く、日が多くなるほど、頻度が少なくなっているが、5日以上が4.2%あった。指導時間は週平均21.8時間であり、11~20時間が42.9%、次いで21~30時間が22.8%であった。試合については月2回の39.0%が多かった。父兄の協力については、52.0%が肯定的に評価し、20.5%は否定的である。練習中の傷害については、35%が通院以上の怪我を出し、1ヶ月以上のもので13.7%である。怪我をしたままで練習する者の存在を否定できないものが13.9%いた。またけがをした者への配慮を特にしないものが4.9%であった。練習日は多い方が14.9%、少ない方が41.9%、練習の質は高い方が14.8%、低い方が42.4%であった。

指導をして思うこととして、生甲斐の1つを肯定的に答えるものが45.2%、否定するもの13.7%である。やってよかったと思うことをよく感ずるものは71.3%、また、ときどき、いつも指導を休みたいと思うもの32.9%、できればやめたいと思う者24.6%である。

団員に比較すればかなり問題があるといえよう。

## 3) 保護者

湖西269, 甲賀267, 計536名。

父親は56.9%が運動部員経験者で内訳は野球30.5%、陸上競技14.8%、サッカー14.1%、バスケットボール10.8%、母親は37.9%が有経験者でバレーボール41.9%、ソフトボール18.2%、バスケットボール16.3%、卓球10.3%とつづいている。現在のスポーツ活動は父親35.9%、母親20.7%である。その内訳は父親はゴルフ29.2%、野球27.5%、庭球11.8%、母親はバレーボール49.0%、庭球11.0%、バドミントン5.0%が多い。本人の兄姉の定期的スポーツ活動については、約半数50.6%がありと回答している。父母の教育関心は肯定的なもの父親58.4%、母親72.0%、スポーツ関心は肯定的なもの父親70.3%、母親62.3%である。サッカーへの関心は父68.0%、母61.9%である。入団に関しては父親の影響14.8%、母親10.9%、友人が38.0%で友人が重要な他者としての位置が高い。入団はサッカーをやりたかったもの48.1%、スポーツであればよかったもの47.7%で半々であり、けいこごとの1つとして捉えているものは0.2%しかない。父母の少年団運営への協力については、父36.9%、母37.3%が肯定的であると回答している。怪我は23.0%、そのうち通院55.2%、入院2.6%である。怪我のままの練習は29.4%がしたことがあると答えている。練習量は量的に多いが8.0%、少なすぎるが22.2%、質は高すぎるが2.0%、低すぎるが22.5%である。

評定尺度を平均値を用いて推論を行うことには当然限界を意識せねばならないが、上述の度数分布比率を5段階評定尺度の平均値で補足しながら、父親と母親を比較してみると、教育への関心は父親3.82、母親4.04(0.1%水準)、スポーツへの関心は父親4.09、母親3.84(0.1%水準)、サッカーへの関心は父親4.09、母親3.90(5%水準)である。また入団決定、入団当初、現在、将来の関心の推移については、入団決定には有意差なし、入団当初は父親が母親より高い(5%水準)。現在は有意差なく、将来には1%水準で父親が高い。スポーツが男性優位文化といわれるが、関心は父親

の方が高いといえよう。しかし、スポーツ少年団運営への協力となると父親3.27、母親3.48と0.1%水準で母親が高くなっている。父親と母親の差以前に保護者の関心の程度を把握することが必要であるが、その差を含んだ保護者の関心であると考えておく必要がある。

## (2) 活動への期待とその現実

この節に用いられた調査項目は、団員、指導者、保護者とも同様のものであり、団員は現実のみ、指導者と保護者は期待と現実の両方を調査した。

調査票では5段階評定尺度で回答を求め、具体的結果は文末資料にあげたが、ここでは肯定、否定をそれぞれくり、3段階尺度にしたもので結果を述べていく。

### 1) 活動での期待

指導者はスポーツマンシップ(94.4%)、自主的行動力(91.5)、やり通す力、友達関係(90.1%)とサッカーそのものの技能よりは態度への期待が大きく、サッカーでの技能は、基礎的技能82.9%、本格的技能47.2%である。また基礎体力や健康安全への態度はそれぞれ85.9%、83.1%で第2番目の期待内容に位置づけられている。一方低いものはサッカー少年団での一流選手(22.5%)、体育の成績の向上(36.6%)、チーム主力メンバー(43.5%)、他教科での成績向上(45.7%)である。

他方保護者の期待は、やり通す力(90.5%)、基礎体力(90.3%)、しつけ(86.1%)、友達関係(85.1%)とつづき、サッカーの技能は基礎的なもの76.7%と指導者以上に低い期待である。低いものは、少年団での一流選手(48.8%)、家での勉強への影響、家庭での手伝い(58.8%)である。両者の肯定回答比率を示したのが図1である。

両者で差の大きいものは、サッカーチーム主力メンバー、はげしい運動に耐える体力、体育での成績向上、サッカー少年団の

一流選手などであり、全体的に指導者より保護者の方が期待が高いといえよう。

## 2) 活動の現実

団員本人の評定では、24項目中5項目(家での手伝い、家での勉強、体育以外の成績、一流選手になる、ブロック優勝)以外は全て60%以上の肯定的回答をしている。体力づくり、サッカーの理解、基本的技能などは90%以上である。とにかく全体的にサッカー少年団での影響をプラスの方向で評価している傾向がみられる。

指導者では期待と現実の差ははげしく、現実で50%以上の肯定的評価をしているのは友達関係(62.5%)、ただ1項目だけである。続いて評価の高いものはサッカーへの熱意(45.1%)、スポーツマンシップ(43.1%)、サッカー継続意志(37.5%)、やり通す力(36.1%)、基礎体力(34.7%)となっている。低いのは家での手伝い(8.8%)、一流選手(11.3%)、本格的技能(12.5%)、家での勉強(14.7%)などである。

保護者は友達関係(68.0%)、サッカーへの情熱(65.3%)、基礎体力(64.9%)、サッカー継続意志(63.0%)が高く、サッカー一流選手(23.2%)、家での手伝い(24.6%)、本格的技能(29.5%)、家での勉強(30.1%)である。

この三者の肯定的回答比率を図にしたものが図2である。

全項目が団員、保護者、指導者の順に並び団員の成果の捉え方と指導者の捉え方の中間に保護者の捉え方が位置している。友達関係を除けば指導者の成果評価は厳しく、団員との較差は著しい。指導者と保護者で差の顕著なものは体力に関するもの、サッカー継続意志や得意なスポーツを持つこと、自主的行動力などで、いずれも保護者が他項目以上に指導者より高く評価している。また保護者、指導者が高く評価している友達関係以上に、団員自身は総合的に高く評

## 活動への期待・現実についての調査項目

1. 基礎体力, 健康
2. はげしい運動に耐える体力
3. 健康や安全への態度
4. サッカーの基礎的 skill
5. サッカーの本格的 skill
6. サッカーの知識
7. サッカーへの情熱, 熱意
8. サッカーチーム主力メンバー
9. サッカー少年団の一流選手
10. サッカーでブロック優勝
11. サッカーを続けていく気持
12. 得意なスポーツを持つ
13. スポーツマンシップ
14. やり通す力, がんばり
15. 自主的行動力
16. 判断力, 決断力
17. 精神的強さ, ねばり
18. 礼儀正しさ, 挨拶, しつけ
19. 体育の成績向上
20. 他教科の成績向上
21. 家での勉強への影響
22. 家庭での手伝い
23. 友達関係
24. 総合的にみて

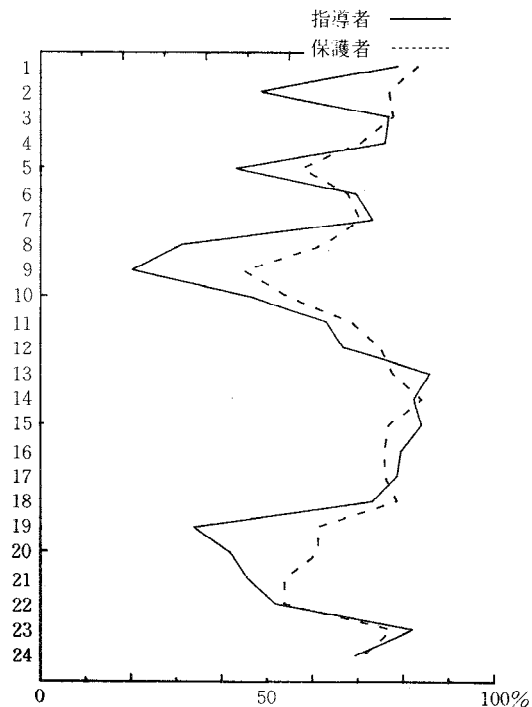


図1 活動への期待(肯定的評価)

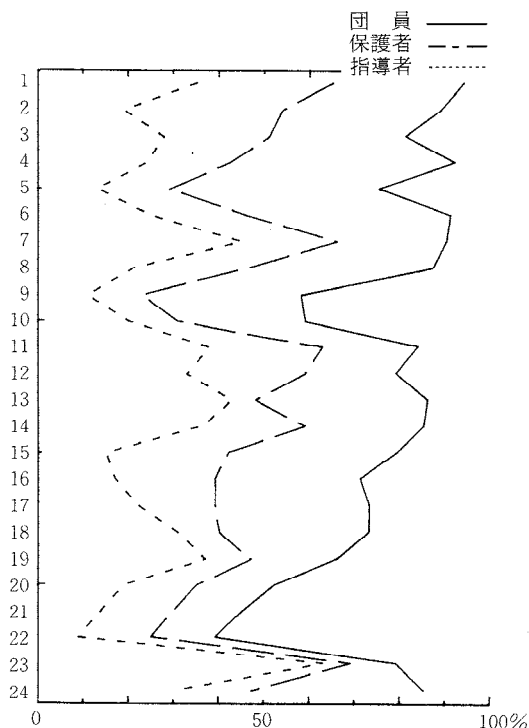


図2 活動の現実(肯定的評価)

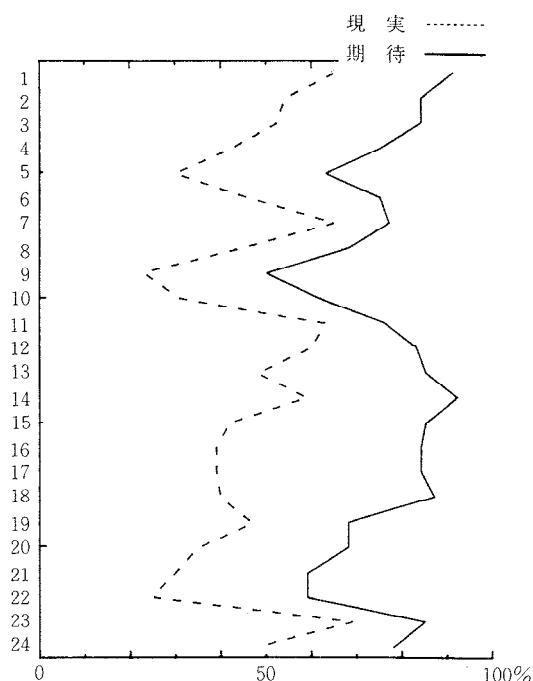


図4 期待と現実のズレ(保護者)

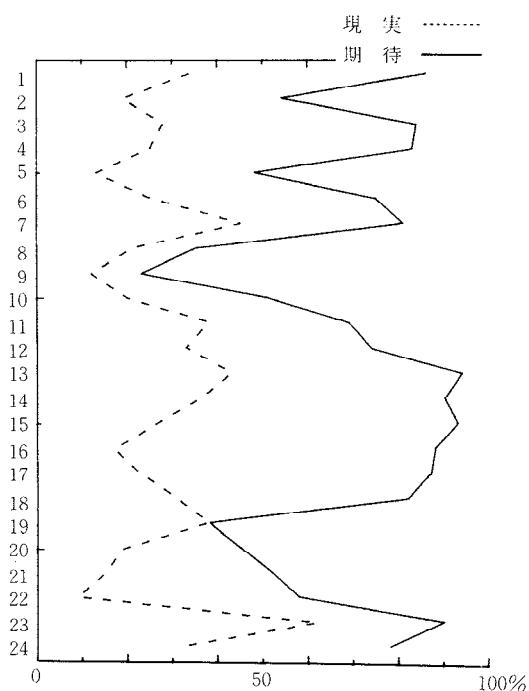


図3 期待と現実のズレ(指導者)

値し、活動自体を成果あるものとして受けとめている者が多い。

指導者の期待と現実、保護者の期待と現実のズレは図3、図4の通りであるが、ズレの大きいものは両方とも共通なものとして、自主的行動力、判断・決断力、精神的強さ・ねばり、礼儀正しさ・しつけがあげられよう。また指導者の健康安全への態度、基礎的技術も差が大きい。ズレの小さいものは、指導者では体育の成績向上、主力メンバー、一流選手、保護者ではサッカーへの情熱、サッカー継続意志、友達関係などである。5段階評定での平均値の差のt検定では指導者は体育成績のみ有意差がみられず、一流選手が1%水準で残りは全て0.1%水準で有意差がみられ、保護者では全てが0.1%水準で有意差がみられた。

(3) 指導者の指導について

指導についての指導者の自己評価、及び、団員からみた評価、保護者からみた肯定的評価は図5の通りである。全体的パターンは現

実の三者と同様、団員、保護者、指導者自身の順に低くなっている。

団員の評価の高いものは、サッカーの知識(96.1%)、サッカーの指導(92.6%)、練習をみる眼のたしかさ(88.3%)、なまけたとき叱る(88.0%)などで、20質問中半数が80%以上の評価をしている。低いものはいいたいことが言える、個人的な相談にのる(59.5%)である。

#### 指導についての調査項目

1. 子供達にもっと努力するように求めているか
2. 練習にやる気をなくしたとき勇気づけているか
3. 子供達に練習の計画の流れを知らせているか
4. いったん決定したことは実行しているか
5. 子供達に対し練習の面で厳しいか
6. 子供達の人間関係がうまくいくよう気を使っているか
7. 練習に必要な知識や情報をつねに与えているか
8. 練習に必要な知識や情報を持っているか
9. 子供達の力からみてギリギリの練習を求めているか
10. 失敗やミスしたときの気持ちを汲んで指導しているか
11. 練習や指導の方針について理解させているか
12. 子供達の練習に対する評価は適切であるか
13. 練習をなまけたとき叱っているか
14. 練習で問題が起きたとき一緒になって考えているか
15. 能力や知識不足なところをつかみ指導しているか
16. 問題を持ちこんできた場合適切に処置できているか
17. 他チームに負けてならないことを強調しているか
18. 子供達は練習のことで言いたいことを言ってくるか
19. 子供達の個人的問題の相談に快く応じているか
20. 子供達はあなたの決定や判断を信頼しているか

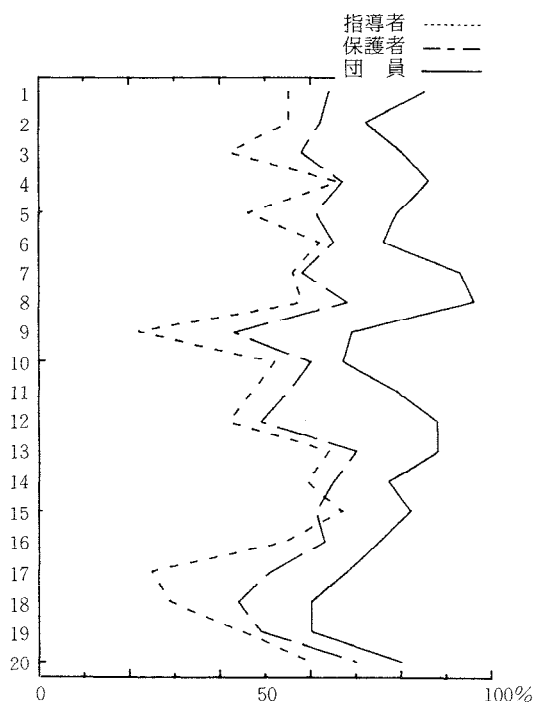


図5 指導者の指導の肯定的評価

指導者本人では、決定したことの実行、能力不足をつかみ指導(66.7%)、なまけたとき叱る(64.8%)、人間関係配慮(62.5%)などが高く、ギリギリの練習を求める(22.2%)、他チームに負けるな(25.0%)、言いたいことをいえる(29.2%)などが低い。保護者は高低の幅は小さいが、決定判断の信頼(69.6%)、必要な知識情報(67.8%)が高く、ギリギリの練習を求める(43.0%)、言いたいこと言う(44.3%)が低い。

指導者と保護者のズレは少ないが、団員とのズレはギリギリ練習、評価の適切さ、他チームに負けるななどで大きく見られる。

この質問項目は4年前の本研究紀要で国体選手と指導者の調査で用いたコーチのリーダーシップ測定のものうちから選択した。本研究ではその組み合わせから要望性、共感性、通意性、信頼性にわけて分析予定であったが、後述の因子分析結果から好ましい4因子として抽出できなかったこともあり、それらの平均点標準偏差のみを示しておく。

表1 リーダーシップ因子別平均点と標準偏差

	要 望 性	共 感 性	通 意 性	信 頼 性
団 員	3.29 (64.2)	3.29 (80.8)	3.49 (71.0)	3.64 (59.1)
指 導 者	3.32 (54.2)	3.53 (71.4)	3.44 (82.5)	3.62 (71.5)
保 護 者	3.51(118.5)	3.42(131.3)	3.50(114.2)	3.36(118.4)

表2 リーダーシップ因子別平均点と標準偏差

	勝 つ	ベ ス ト	フ ェ ア	楽 し む
団員(サッカー)	17.7③	56.7①	9.8④	20.4②
指導者(試合)	5.5④	70.3①	13.7②	10.8③
保護者父(サッカー)	6.3④	73.5①	11.4②	11.3②
〃 母(サッカー)	4.9④	70.3①	11.6③	15.2②
指導者(練習)	1.4④	77.0①	5.6③	16.2②

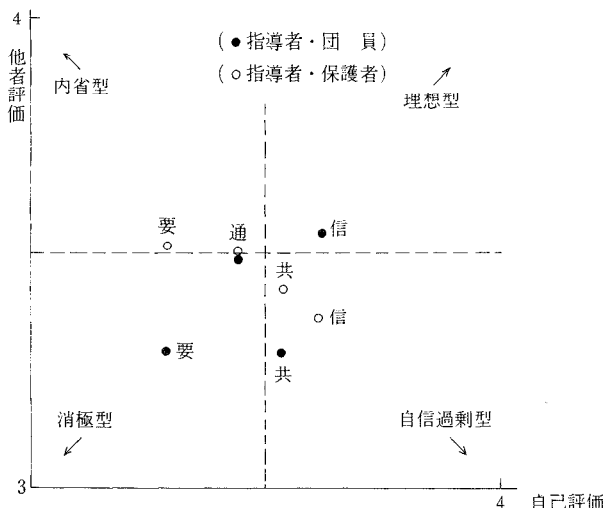


図6 指導についての自己認知と他者認知

一般リーダーシップ類型にも共通するが、団員との共感性の自己認知の高さの理解、要  
望性、通意性、及び信頼性のよい方向での一  
致の理解は今後の指導に大切であろう。また  
保護者とは信頼性の自信過剰傾向、要  
望性の自己認知の低さとのギャップなどは心に止  
めておいてよい材料と思われる。

なおここでの各因子は要望性 (C 1, C 5, C 9, C13, C17), 共感性(C 2, C 6, C 10, C14, C18, C19), 通意性 (C 3, C 7, C11, C15), 信頼性 (C 4, C 8, C 12, C16, C20) から構成した。

表3 指導上での順位づけ

	わかる	できる	すき
指 導 者	6.8③	26.0②	67.6①
保護者父	33.6②	33.0③	38.4①
〃 母	35.4②	28.6③	41.2①

(4) サッカーでの価値

サッカーを行う上で大切なことを、勝つ、  
ベストをつくす、フェアに行う、楽しむの4  
つの順位づけをした設問と、わかる、できる、  
好きの3者を順位づける設問を設けた。

これらはサッカーの魅力として何をどう考  
えているかという基本的接し方を概略把握す  
るには興味あるものである。実際それらの価  
値観は並列的に同レベルに考えらえるもの  
ではなく、上位下位、部分全体などの多様に交  
錯しているものであり、回答をする側では順  
位づけに困惑することもあり得る。それ故信  
頼性のレベルで多少問題はあるが、結果を概  
括していく。

数値はいずれも第1位と回答した比率であ  
り、合計しても100%にはならない。

サッカーの価値はいずれもベストをつくす  
が第1位であり、その比率も6割から7割を  
占めている。団員を除くと一般的には楽しむ、  
フェアにふるまう、勝つと続くが、団員はフェア  
と勝つが逆である。勝つはスポーツの特性

表4 活動への期待(B)

	F 1 (36.0%)	F 2 (14.2%)	F 3 (7.3%)	F 4 (6.1%)	F 5 (4.9%)
1. 指導者 (68.5%)	B16 判断力 0.811	B20 他教科 成績 0.803	B 4 基 礎 技 能 0.834	B 2 はげし い体力 0.668	B 5 本格的 技 能 0.502
	B18 礼儀し つけ 0.759	B19 体 育 成 績 0.779	B 6 知 識 0.466	B 1 基 礎 体 力 0.606	
	B13 スポー ツマン シップ 0.746	B21 家での 勉 強 0.766			
	B15 自主的 行動力 0.721	B 9 一 流 選 手 0.624			
		B 8 主力メ ンバー 0.571			
	F 1 (48.0%)	F 2 (10.3%)	F 3 (6.6%)	F 4 (5.1%)	
2. 保護者 (70.1%)	B15 自主的 0.831	B 9 一 流 選 手 0.783	B22 家 の 手伝い 0.779	B 3 健 康 全 0.672	
	B16 判断力 0.824	B 8 主力メ ンバー 0.740	B21 家 の 勉 強 0.760	B 1 基 礎 体 力 0.668	
	B17 精神力 0.822		B20 他教科 成績 0.656	B 2 はげし い体力 0.568	
	B14 が ん り 0.791			B 4 基 礎 技 能 0.564	

表5 活動の現実(BB)

	F 1 (36.4%)	F 2 (6.5%)	F 3 (5.0%)	F 4 (4.6%)	F 5 (4.3%)
1. 団 員 (56.8%)	B 8 主力メ ンバー 0.612	B15 自主的 0.653	B20 他教科 成績 0.714	B 1 基 礎 体 力 0.652	B18 しつけ 0.474
	B 9 一 流 選 手 0.593	B16 判断力 0.636	B21 家での 勉 強 0.630	B 2 はげし い体力 0.650	B16 判断力 0.473
	B 7 情 熱 0.491	B14 が ん り 0.568			
		B17 精神力 0.533			
	F 1 (42.3%)	F 2 (8.9%)	F 3 (6.4%)	F 4 (6.1%)	F 5 (4.4%)
2. 指導者 (67.4%)	B15 自主的 行動力 0.823	B10 ブロッ ク優勝 0.725	B20 他教科 勉 強 0.785	B11 サッカ ー継続 0.738	B 2 はげし い体力 0.775
	B16 判断力 0.800	B 9 一 流 選 手 0.706	B21 家での 勉 強 0.715	B12 得 意 なス ポーツ 0.759	B 1 基 礎 体 力 0.437
	B17 精神力 0.628	B 8 主力メ ンバー 0.566			
	B18 礼 儀 0.568				
	F 1 (46.4%)	F 2 (8.2%)	F 3 (5.4%)	F 4 (4.4%)	
3. 保護者 (64.4%)	B14 が ん り 0.669	B21 家 の 勉 強 0.707	B 5 本 格 技 能 0.657	B 2 はげし い体力 0.734	
	B13 スポー ツマン シップ 0.661	B20 他教科 成績 0.696	B 9 一 流 選 手 0.632	B 1 基 礎 体 力 0.673	
	B12 得 意 なス ポーツ 0.629	B18 しつけ 0.547	B 8 主力メ ンバー 0.612	B 3 健 康 全 0.647	
	B11 ブロッ ク優勝 0.607				

表 6 指導者の指導(C)

	F 1 (36.1%)	F 2 (7.3%)	F 3 (6.5%)	
1. 団員 (49.9%)	C19 個人的 0.734	C 7 知識を与 0.678	C 9 ギリギリ 0.550	
	C14 一緒に考 0.634	C 8 知識をつ 0.658	C 5 きびしい 0.478	
	C10 気持ちを 0.601	C11 練習方針 0.500	C17 他チーム 0.444	
	C15 不足の 0.578		にまけるな	
	C11 練習方針 0.572			
	F 1 (46.7%)	F 2 (7.0%)	F 3 (5.9%)	F 4 (5.5%)
2. 指導者 (65.0%)	C15 不足の 0.829	C19 個人相談 0.583	C 9 ギリギリ 0.912	C 1 努 力 0.459
	C10 気持ちを 0.766	C4 決定の行 0.578	C 5 きびしい 0.518	
	C14 一緒に考 0.708	C20 決定信頼 0.552		
	C 2 勇気づけ 0.702	C13 なまける 0.528		
	F 1 (58.2%)	F 2 (5.1%)		
3. 保護者 (63.3%)	C10 気持ちを 0.774	C 5 きびしい 0.713		
	C11 練習方針 0.739	C 1 努 力 0.647		
	C15 不足の 0.711	C17 他チーム 0.597		
		C13 なまける 0.595		

の agōn による基本的なものであり、これを欠くと本当の醍醐味は味わえず、その生活化、生涯スポーツ化につながらないとする「楽しい体育」の中心的テーマでもある。しかし理念的に勝つが前面に出ることを控える傾向が指導者、保護者に表われているのか、団員の素朴な意見か、指導者の指導の影響なのかは特定できない。スポーツの価値を順位づける先行研究は欧米のスポーツ社会学の業績にいくつかみられるが、日本では用語の概念規定から難しい問題があるといえよう。

指導上の順位づけについては、認知レベル、行動レベル、性向レベルの諸変数の積が動機づけエネルギーにつながるとするモチベー

ション期待理論によるものであるが、そのいずれを優先するかは動機づけにとって重要な問題である。保護者はすき、わかる、できるの順であり、指導者はすき、わかる、できる、その構成比率も相当ちがう。「楽しい体育」の展開の背景に「わかる、できる、けれども嫌い」というタイプの児童生徒の存在を否定できないこともあることからすれば、指導者のすきが7割弱あることは好ましいことであるかもしれない。しかし3つは相互に密に連関しあうものでもあり、指導者と保護者との認識のズレを把握することがとりあえず必要であるといえよう。

(5) いくつかの因子分析



活動への期待及び現実、指導者の指導についてそれぞれの対象ごとに因子分析した。因子分析はそれに含まれる項目間の共通部分と共通ではない部分を想定し、共通でない部分をいくつかに分類する手続きであるが、その方法も多様で、また結果の解析の仕方がその結果を出す手続きほど厳密でないことからいづれも大枠を考えていく資料として位置づけられることが多い。

以下に8つの因子分析（バリマックス法）結果を示したが、いずれもすっきりと解釈できるものがあまりない。三者の活動の期待（B）、活動の現実（BB）、指導者の指導について（C）の分析結果は表2～4の通りである。

指導者の期待はF1態度徳目、F2成績目標達成、F3サッカーの基本、F4体力、F5本格技能、また、保護者の期待はF1態度徳目、F2サッカー目標、F3手段役立て、F4運動への基礎などと仮称できるかもしれない。また活動の現実では、団員はF1サッカー目標、F2態度徳目、F3勉強、F4、体力、指導者はF1態度徳目、F2サッカー目標、F3勉強、F4継続、F5体力、また、保護者はF1未仮称、F2勉強、F3サッカー目標、F4体力と仮称できるかもしれない。

表7 地域差（団員）

	尺度	湖西	甲賀	有意差
A5 加入	3(-)	1.42	> 1.31	*
A9 母親参観	4(-)	2.21	< 2.82	***
A12C 価値フェア	4(-)	2.58	> 2.82	**
A15A 練習休みたい	4(-)	3.13	> 2.97	*
B23 現実・友人関係	5(-)	1.83	> 1.58	***
C11 指導方針伝達	5(-)	1.64	< 1.85	*
C13 なまけ叱る	5(-)	1.37	< 1.66	***
C15 不足をつかみ指導	5(-)	1.57	> 1.78	*
C16 問題適切処置	5(-)	1.81	< 2.01	*
C18 言いたいこといえる	5(-)	1.12	< 2.41	*

表8 地域差（指導者）

	尺度	湖西	甲賀	有意差
A5A 指導開始年齢		29.5	> 25.5	*
A9C サッカー同活等時間		5.1	> 3.6	*
A17B 練習の質	5(-)	3.0	< 3.7	**
B1 期待はげしい体力	5	3.14	< 3.84	*
BB4 現実基礎的技能	5	3.05	> 2.57	*
BB13 // スポーツマンシップ	5	3.49	> 3.00	*
BB23 // 友達関係	5	3.86	> 3.42	*
C3 練習計画伝達	5	3.42	> 2.70	*
C5 きびしさ	5	3.63	> 3.10	*
C8 知識や情報	5	3.76	> 3.15	*
C13 なまけ叱る	5	3.88	> 3.26	*
C16 問題適切処置	5	3.76	> 3.25	*
D3 指導休みたい	5	2.75	< 3.52	**
D4 できればやめたい	5	2.52	< 3.19	*

表9 地域差（保護者）

	尺度	湖西	甲賀	有意差
A14 兄弟サッカー関心	5	3.68	> 3.92	*
A31A 価値父楽しむ	5	3.22	> 3.04	*
A31D 価値母勝つ	5	3.38	> 3.20	*
A35A 練習量	3(-)	2.10	< 2.32	***
A35B 練習質	3(-)	2.27	< 2.45	**
BB1 現実基礎体力	5	3.89	> 3.68	**
BB2 // はげしい体力	5	3.68	> 3.50	*
BB9 // 一流選手	5	2.83	< 3.01	*
C1 努力を求める	5	3.95	> 3.69	**
C3 練習計画伝達	5	3.91	> 3.55	***
C4 決定の実行	5	4.01	> 3.78	**
C7 知識情報	5	3.85	> 3.57	**
11 指導方針理解	5	3.76	> 3.54	*

また指導者の指導に関しては、団員は、F1共感性、F2直接指導、F3要望性、指導者は共感性、F2信頼性、F3要望性、保護者はF1未仮称、F2要望性と仮称できるかもしれない。

なお保護者の現実と指導者についてのF1

は多様でまとまりが悪く未仮称のままである。

ここでは保護者、指導者とも同様な期待を持ちながら、団員はサッカーへ、指導者は態度徳目へ、保護者は多様にと、三者三様に別れていく方向がみられる。また指導者の指導に関しては、指導者と団員が共感性で結ばれていることがみられる。しかしリーダーシップの4因子がはっきり抽出できなかった。

#### (6) 湖西と甲賀の地域差

地域差についてはサッカー少年団そのものの全体像が明確になった上での作業であるといえるが、湖西と甲賀を標本対象としたのは、湖西が地方都市を中心としているのに対し、甲賀は農村地域であり、またサッカー少年団の活動はいずれの地域も盛んであり、よくまとまっているとの評価によるものである。

以下に平均値の差による検定可能と思われる項目について有意差がみられたもの(団員10, 指導者14, 保護者13)を表に示した。表中尺度に(-)のあるものは数値が小さいものが程度が高いことを示している。

これらから三者ともに湖西地域の方が甲賀地区より積極性を示しているものが多いことがわかる。団員では加入や母親の参観、練習参加、友人関係での評価などが、また指導者では、指導の質や量、現実の成果、リーダーシップ項目の要望性、信頼性、通意性項目と、指導への積極性で、また保護者では、練習の質や量、指導者のリーダーシップの通意性を中心に、いずれも湖西地区の評価が高い。これらは統計的に有意な差がみられたということであり、指導のあり方の適切さを判断する材料ではない。しかし指導者の取り組み姿勢の中での指導を休みたいと思うこと、またできればやめたいとする傾向に対しては、その具体的指導そのものを評価としてではなく、性向レベルでの問題点として指摘されてよかろう。その点を短絡的に指導者の指導への評価に結びつけることは避けねばならないが、上述のようなデータが出ていることは事実として受けとめる必要がある。

地域差は団員、指導者、保護者といった独立変数としての位置づけが可能であることから、その推論の展開はより慎重であらねばならない。

#### (7) 自由記述から

統計処理され数値になるとそれ自体が権威づけされ、数値に支配される傾向を否定できないが、それらはあくまで設問のその問いかけ方という限定の中でしか通用しないものであり、他の設問があれば当然その結果が変わり得るという限定の中での推論の展開でしかない。統計処理化された量的処理化された数値の冷たさから生き生きした暖かみを持った質的データはその取り扱いの難しさから敬遠されがちだが、自由記述の中には調査本来の意図を再確認させる記述にふれはとすることが少なくない。

記述を求められる方は多少煩雑ではあるが、それらの記述を調査への関心の指標と考えることも一部可能であろう。

記述の有無は、団員のまわりの人の言動については父74.6%、母、74.8%、指導者47.4%、学校の友人48.9%、プラスのこと85.8%、マイナスのこと50.5%、両親への希望42.7%、指導者への希望45.4%、調査の感想45.4%、である。

指導者は指導活動の評価プラス85.1%、マイナス71.6%、団員への希望82.4%、保護者への希望75.7%、調査について45.9%であり、保護者は活動の評価プラス72.4%、マイナス、7.8%、本人への希望66.7%、指導者への希望48.5%、調査の感想13.6%であった。

量的にかなり多い調査票であり、最後の方に自由記述が大量にあり、記入者はその記入にかなりの抵抗を感じたものと思われる。特に団員の調査に関するものには「くたびれた」「よくわからない」「いやだ」が多かった。中に「アンケートは好きです。もっとやりたい。」というものもあり救われる思いであった。また保護者も熱心な人は相当量記入してあり、サッカー少年団や調査への関心の高さを示し

ているのに比較し、反面全く無記入のものも数多くあり対象的であった。指導者はその回答内容からも多少関心の多寡を判断できるものが多いが、とにかく何らかの役立ち得る資料づくりに協力的な傾向を示していた。

具体的な内容の分析はその方法から吟味する必要があり、昨年度的女子一流競技選手の調査に用いたKJ法方式なども考慮の余地があり、また記入の多いものを類型化することも可能である。詳しい分析はまだ行っていないが、概略次のようである。

団員のまわりの人の言葉については、父親は具体的な技術についてのものが母親より多く、母親は具体的なサッカー内容より心がまえや指導についてのものが多い。継続への積極的働きかけもあれば、やめろという声もある。「サッカーのいやみをいう」「中学校いったら野球やれ」「サッカー部やめなさい」を一方向的に言われる団員もいる。指導者は「もっとがんばれ」「うまくなった」が多い。「負けるな」「勉強もがんばれ」「練習に來い」などが次に多い。学校の友人は「がんばれ」「うまいなあ」「ほくも入りたい」「楽しそう」など激励、賞讃、接近が多いが中には「かっこつけ」「野球の方がおもしろい」などがある。

団員のよかったことについては「友達が増えたこと」が圧倒的に多い。次いで「勝ったとき」、「うまくなったとき」、「試合に出れるとき」があがっている。「走りが速くなり、スポーツテストが4級から1級になった」との記述もある。

悪いこと、いやなことは「遊べない」が多い。「帰りが遅い」「失敗して叱られる」「宿題がづらい」が次に多い。「主将だからまとめるのが大変」とか「がんばってるのにCチームからおろされる」など苦勞ぶりがうかがえる。

指導者がよかったと感ずることは、技術の向上、精神的成長がみられることに対してが多く、指導の苦勞が報いられること、団員に接し新しい発見をすることなどが次に多い。いやだったことつらかったことは時間的拘束、

家庭を犠牲にすることの記述が多い。また団員はやりたいのに親がやめさせること、指導能力不足でやめていくことなどがいくつみられる。

保護者は友達が多くなったこと、体力がついたことを成果としてあげるものが多い。サッカーを続けながら成長していくことが実感として受けとれるときがうれしいことにつながっていくようである。逆に、勉強への影響や、過度の練習が多少心配な様子が見えがえる。

いろいろな集約を試みるよりは生のデータに触れたほうがわかりやすいと思われるので、団員の保護者、指導者への希望の一部を列挙する。

両親へ

「ジャージ上下買ってほしい」「新しいスパイクがほしい」「サッカーのこと詳しくきいてほしい」「弁当をおいしく作ってほしい」「あまり心配いらん」「手伝いできなくてもおこらない」「もっとサッカーに関心もって」「はげましてほしい」「サッカーを続けさせてほしい」「お母さんたちも運動して欲しい」「勉強のことおこらんでほしい」「応援にきてほしい」「ここまでサッカーやらしてくれてありがとう」……。

指導者へ

「ゲームを多くしてほしい」「もっと厳しく」「いつも練習みにきてほしい」「練習をいっしょにしてほしい」「もっといろいろ教えてほしい」「きまりばかりきめないで」「あまりガミガミいわないでほしい」「練習を楽しくしてほしい」「満足」「ありがとう」……。

これらをプリテストとして自由記述のKJ法を本格的に行ってみたいと思っている。

#### 4. 結語にかえて

団員と指導者と保護者の三者の立場からその意識や行動のズレを中心に結果をみたが、それぞれの立場にそれぞれの役割があり、その役割期待通りに行動が行われていれば、そ

の集団はよりよい方向へ発展成長していく。

サッカー少年団をどのような機能集団とみるかはいろいろな立場から多様な見方が可能であるが、最低限はサッカーというスポーツの継続的実施が条件である。サッカーが相手と共通のルールの下でどちらがより優秀かを競う形式での試合がその運動文化の根幹をなしていることを理解すれば、練習のための練習といった基本や応用の技術練習よりは、得点につながるチャンスをつくる楽しさ、それを得点に結びつけるための努力する喜び、試合によりよく勝つためには何が不足し、どうすればその目標に近づくかといった自分達が主体となったチームづくりの大切さを共通に理解することが不可欠である。またスポーツの上位概念の play についての条件、agōn を成立させるための努力や工夫が指導者のみでなく団員、保護者にも必要なことである。

学校体育ではないスポーツ少年団活動の位置づけについては、具体的な運営やその実態把握と併行して、単にサッカー少年団だからサッカーをすることから始まるのではなく、三者が相互に十分理解しあうための努力が不可欠であろう。その位置づけの中で、その限界を理解した上でお互の役割期待に合致した行動目標への努力が必要となってくる。

「待っていても何も始まらない。待って、待って、待つことに慣れすぎ、待ちくたびれた」状況から脱出するには、共通の理解の土俵を求める自己変革が最優先課題であろう。責任転嫁して待っていても、よくて現状維持

でしかありえないし、その努力への省力化は集団崩壊につながるのみである。「気付き」「考え」「行動し」「その行動の結果を見極め」「また新しく気付く」一連の流れに興味と関心を示していくことが大切であろう。集団からの逃避的離脱が自己保全の最良の方法と認識するのは機能集団の機能についての共通理解作業への最大級の努力の後に許された最後の救済であることを、サッカー少年団退団予定者、その保護者、そして指導者に理解合意できていることが必要であろう。

よりよき方向模索のためには退団者の実態把握が同時に行われてこそ稔り多いものといえよう。今後はこの点をふまえて本調査の実施をしていきたい。

#### 参考文献

- 1) Coakley, J.T. 現代のスポーツ, その神話と現実, 89-118, 道和書院, 1982
- 2) 伊東春雄 スポーツ少年団育成試論中, 日本スポーツ少年団本部 1977
- 3) 影山健他 「スポーツ参与の社会学」 体育社会学研究会編 体育社会学研究 6号1-24, 道和書院 1977
- 4) 桑野豊編 現代社会とスポーツ 77-85, 127-169 不昧堂 1984
- 5) 日本スポーツ少年団編 スポーツ少年団育成事業報告書 1981
- 6) 日本スポーツ少年団編 日本スポーツ少年団指導の手引き 1983

#### 資料1 団員(%は不明を除いて修正したもの)

##### A. 基礎項目

##### A1-1 学年

	~3	4	5	6	不明
湖西(272)	1.9	24.6	33.5	40.0	(0.8)
甲賀(276)	—	14.5	30.5	55.0	(3.3)
計 (548)	0.7	19.8	32.0	47.6	(1.6)

##### A1-2 入団学年

1	2	3	4	5	6	不明
2.3	4.5	16.2	64.2	9.4	3.4	(2.2)
6.3	4.8	23.5	50.7	10.3	4.4	(1.4)
4.3	4.6	19.8	57.4	9.9	3.9	(1.8)

A 1-3 入団月

3～5	6～8	9～11	12～2	不明
86.4	5.4	3.8	4.3	(4.8)
83.4	4.5	6.4	5.7	(4.0)
84.9	5.0	5.1	5.0	(4.4)

A 5 入団希望

入りたかった	どちらとも いえない	入りたいと 思わなかった	不明
63.2	30.9	5.9	(-)
70.3	27.5	2.2	(-)
66.8	29.2	4.0	(-)

A 2-1 入団時の習いごと

あり	ない	不明
58.8	41.2	(1.8)
49.5	50.5	(0.4)
54.1	45.9	

A 6 父親のスポーツ

よくしている	ときどき	あまりしない	不明
18.0	40.6	41.4	(2.2)
22.7	40.3	37.0	(-)
20.4	40.4	39.2	(1.6)

A 2-2 その内容 (重答 湖西155 甲賀136 計291)

勉強	スポーツ	音楽	習字	絵画	そろばん	その他
15.5	29.7	9.7	34.8	0.6	39.4	-
8.7	13.9	8.7	22.5	0.6	44.5	1.2
10.4	18.7	8.0	24.9	0.5	36.9	0.5

A 7 母親のスポーツ

よくしている	ときどき	あまりしない	不明
10.0	26.5	63.5	(0.4)
9.5	25.9	64.6	(0.7)
9.7	26.2	64.0	(0.5)

A 3-1 現在の習いごと

あり	なし	不明
53.4	46.6	(1.8)
40.3	59.7	(1.1)
46.8	53.2	(1.3)

A 8 父親の参観

よくくる	ときどき	あまりこない	不明
21.2	34.4	44.4	(0.7)
21.2	38.5	40.3	(1.1)
21.2	36.5	42.4	(0.9)

A 3-2 その内容(重答 湖西139 甲賀107 計246)

勉強	スポーツ	音楽	習字	絵画	そろばん	その他
29.5	21.6	7.2	23.7	0.7	43.2	0.7
28.7	16.3	7.0	17.8	0.8	29.5	-
25.6	16.7	6.2	18.4	0.7	32.1	0.3

A 9 母親の参観

よくくる	ときどき	あまりこない	不明
20.0	38.1	41.9	(0.7)
10.6	28.8	60.6	(0.7)
15.3	33.5	51.3	(0.7)

A 4 入団の決定

自分	父	母	その他	不明
86.0	5.9	6.6	1.5	(-)
88.0	5.1	4.0	2.9	(0.4)
87.0	5.5	5.3	2.2	(0.2)

A 10 少年団の話をするか

よくする	ときどき	あまりしない	不明
44.4	43.3	12.2	(0.7)
41.3	44.9	13.8	(-)
42.9	44.1	13.0	(0.4)

A12 大切なこと

	湖西					甲賀					計				
	1位	2位	3位	4位	不明	1位	2位	3位	4位	不明	1位	2位	3位	4位	不明
勝つ	15.6	19.8	28.0	36.6	(5.5)	19.8	20.2	24.3	35.6	(10.5)	17.7	20.0	26.2	36.1	(8.0)
ベスト	55.3	29.0	12.2	3.5	(6.3)	58.0	21.8	16.8	3.4	(5.1)	56.7	25.3	14.5	3.5	(5.7)
ウェア	12.3	36.0	32.8	19.0	(7.0)	7.4	32.8	30.7	29.1	(11.2)	9.8	34.4	31.8	23.9	(9.1)
楽しむ	20.8	14.6	25.1	39.6	(6.3)	20.0	24.1	26.5	29.4	(11.2)	20.4	19.2	25.8	34.6	(8.6)

A11 サッカー記事など

よくみる	ときどき	あまりしない	不明
45.6	40.8	13.6	(-)
47.5	39.1	13.4	(-)
46.5	40.0	13.5	(-)

A16-1 やめたい

いつも	ときどき	あまり	全くない	不明
1.1	4.8	25.7	68.4	(-)
-	10.4	27.6	61.9	(2.9)
0.6	7.6	26.7	65.2	(1.5)

A13 練習待ちどおしい

いつも	ときどき	あまり	全くない	不明
26.6	56.9	14.6	1.9	(1.8)
26.3	55.8	14.2	3.6	(0.7)
26.4	56.4	14.4	2.8	(1.3)

A16-2 内容記述

あり	なし
2.2	97.8
6.2	93.9
4.2	95.8

A14 練習楽しい

いつも	ときどき	あまり	全くない	不明
39.1	54.2	5.2	1.5	(0.4)
35.9	56.5	5.4	2.2	(-)
37.5	55.4	5.3	1.8	(0.2)

D. まわりの方がよくいうことの記述

D1 おとうさん

あり	なし
73.9	26.1
75.4	24.6
74.6	25.4

A15-1 練習休みみたい

いつも	ときどき	あまり	全くない	不明
0.4	18.8	48.2	32.7	(-)
1.1	27.7	43.5	27.7	(1.8)
0.7	23.2	45.9	30.2	(0.9)

D2 おかあさん

あり	なし
76.8	23.2
72.8	27.2
74.8	25.2

A15-2 内容記述

あり	なし
9.2	90.8
17.0	83.0
13.1	86.9

D3 サッカーの先生

あり	なし
52.6	47.4
42.4	57.6
47.4	52.6

B. サッカーを始めて変わったこと

	湖西				甲賀				計									
	-	+	0	不明	-	+	0	不明	-	+	0	不明						
B1. ふつうの体力, じょうぶになる	52.5	40.4	6.4	0.8	-	(2.6)	46.0	48.2	5.5	-	0.4	(1.4)	49.2	44.3	6.0	0.4	0.2	(2.0)
B2. はげしい運動ができる体力	51.3	39.5	8.7	0.4	-	(3.3)	48.7	39.0	11.6	0.4	0.4	(3.3)	50.0	39.2	10.2	0.4	0.2	(3.3)
B3. 安全にサッカーができること	35.0	45.7	16.9	2.4	-	(6.6)	37.0	44.7	16.7	0.8	0.8	(6.9)	36.0	45.2	16.8	1.6	0.4	(6.4)
B4. サッカーのやさしいわざ	53.9	36.7	8.6	0.4	0.4	(6.3)	51.0	39.5	9.2	0.4	-	(5.4)	52.4	38.1	8.9	0.4	0.2	(5.7)
B5. サッカーのむずかしいわざ	16.6	61.5	19.4	2.0	0.4	(9.2)	18.2	54.5	26.1	1.2	-	(8.3)	17.4	58.0	22.8	1.6	0.2	(8.8)
B6. サッカーについてわかる	49.2	42.9	7.5	0.4	-	(6.7)	44.4	45.9	8.2	1.6	-	(6.9)	46.8	44.4	7.8	1.0	-	(6.8)
B7. サッカーへのやる気	63.4	29.1	6.8	0.4	0.4	(2.6)	62.2	24.4	10.0	1.9	1.5	(2.2)	62.8	26.7	8.7	1.1	0.9	(2.4)
B8. チームの選手になる	50.0	37.0	11.0	1.6	0.4	(6.6)	56.4	30.0	12.1	1.2	0.4	(6.9)	53.2	33.5	11.5	1.4	0.4	(6.8)
B9. サッカーの一流選手になる	18.2	40.1	37.0	1.0	3.6	(29.4)	21.2	36.8	38.3	2.1	1.6	(30.0)	19.7	38.4	37.7	1.6	2.6	(29.8)
B10. サッカーでプロック優勝する	26.5	30.4	32.8	6.4	3.9	(25.0)	30.0	31.0	32.4	3.8	2.9	(24.0)	28.3	30.7	32.6	5.1	3.4	(24.4)
B11. サッカーを続けていくきもち	63.1	23.0	11.5	1.6	0.8	(7.4)	61.3	21.5	13.8	2.3	1.1	(5.4)	62.2	22.2	12.7	1.9	1.0	(6.4)
B12. スポーツマンシップ	33.3	44.4	19.3	2.9	-	(10.7)	41.4	39.3	16.7	2.1	0.4	(13.4)	37.3	41.9	18.0	2.5	0.2	(12.1)
B13. とくいなスポーツがある	56.1	27.9	15.2	0.4	0.4	(10.3)	62.0	24.0	13.1	0.8	-	(11.2)	59.1	26.0	14.1	0.6	0.2	(10.8)
B14. やりぬぐ力, がんばり	45.1	40.2	11.3	3.0	0.4	(2.2)	46.1	40.1	12.4	1.1	0.4	(3.3)	45.6	40.2	11.8	2.1	0.4	(2.8)
B15. 自分から進んでやる力	34.0	46.6	16.4	2.7	0.4	(3.7)	33.5	43.6	19.5	1.9	1.5	(3.6)	33.7	45.1	18.0	2.3	0.9	(3.6)
B16. よくみて考えを決める力	26.5	42.0	30.3	0.8	0.4	(2.9)	20.8	51.8	24.3	2.0	1.2	(7.6)	23.7	46.8	27.4	1.3	0.8	(5.3)
B17. ねばり, 精神的強さ	29.9	44.5	23.6	2.0	-	(6.6)	28.9	44.0	22.9	2.3	1.9	(3.6)	29.4	44.2	23.3	2.1	1.0	(5.1)
B18. あいさつ, しつけ	28.0	44.1	24.5	2.7	0.8	(4.1)	33.2	41.0	21.8	4.1	-	(1.8)	30.6	42.5	23.1	3.4	0.4	(2.9)
B19. 体育の成績	40.1	26.0	31.3	1.9	0.8	(3.7)	36.6	30.2	29.1	4.2	-	(4.0)	38.3	28.1	30.2	3.0	0.4	(3.8)
B20. その他の科目の成績	14.1	34.8	44.1	5.9	1.2	(5.9)	17.2	37.4	38.2	6.5	0.8	(5.1)	15.6	36.1	41.1	6.2	1.0	(5.5)
B21. 家での勉強	14.4	28.1	47.9	8.7	0.8	(3.3)	14.5	33.1	42.8	8.6	1.1	(2.5)	14.5	30.6	45.3	8.6	0.9	(2.9)
B22. 家での手伝い	9.9	23.6	51.3	11.8	3.4	(3.3)	17.3	26.7	41.7	9.8	4.5	(3.6)	13.6	25.1	46.5	10.8	4.0	(3.5)
B23. 友達とのつきあい	47.9	26.8	20.4	3.8	1.1	(2.6)	61.3	22.3	13.9	2.2	0.4	(0.7)	54.7	24.5	17.1	3.0	0.7	(1.6)
B24. 全体として	34.6	49.6	14.2	1.6	-	(6.7)	41.7	43.6	13.6	1.1	--	(4.3)	38.2	46.5	13.9	1.4	-	(5.5)

C. 先生の教え方

	湖西				甲賀				計									
	いつも	ときどき	どちらともいえない	あまりぜんぜん	不明	いつも	ときどき	どちらともいえない	あまりぜんぜん	不明	いつも	ときどき	どちらともいえない	あまりぜんぜん	不明			
C1. 先生はもっと努力するように言っているか	55.2	30.0	10.0	3.6	1.2	(8.1)	53.3	31.8	8.6	3.5	2.7	(7.6)	54.3	30.9	9.3	3.6	2.0	(7.9)
C2. 練習にやる気をなくしたとき力つけてくれるか	38.5	34.0	18.4	5.7	3.3	(10.3)	44.1	27.7	18.1	5.5	4.6	(13.8)	41.3	30.9	18.3	5.6	3.9	(12.0)
C3. 先生はみんなに練習の計画の流れを知らせるか	55.3	26.4	11.1	3.7	3.3	(9.5)	46.1	32.5	10.3	6.6	4.5	(12.0)	50.7	29.4	10.8	5.1	3.9	(9.5)
C4. 先生はいったん決めたことは実行しているか	61.9	24.7	10.0	2.9	0.4	(12.2)	55.0	30.2	12.0	1.7	1.2	(12.3)	58.4	27.4	11.0	2.3	0.8	(12.2)
C5. 先生は練習に厳しいか	48.0	32.1	15.9	3.3	0.8	(9.6)	44.6	34.5	16.9	2.4	1.6	(9.8)	46.3	33.3	16.4	2.8	1.2	(9.7)
C6. 先生は友達となかよく練習できるような気を使うか	48.0	25.6	19.4	5.3	1.8	(16.6)	49.1	30.3	14.5	2.6	3.4	(15.2)	48.6	28.0	16.9	3.9	2.6	(15.9)
C7. 先生はサッカーのことをよく教えてくれるか	78.2	16.0	2.7	2.7	0.4	(3.7)	69.8	21.0	5.7	2.7	0.8	(5.1)	74.0	18.5	4.2	2.7	0.6	(4.4)
C8. 先生はサッカーのことをよく知っているか	90.7	5.8	1.9	1.2	0.4	(4.8)	86.9	8.7	3.6	0.4	0.4	(8.7)	88.8	7.2	2.7	0.8	0.4	(6.8)
C9. 先生はがんばりのギリギリの練習をさせるか	32.6	37.4	20.4	7.0	2.6	(15.4)	28.5	40.6	19.7	7.5	3.8	(13.4)	30.5	39.0	20.0	7.2	3.2	(14.4)
C10. 失敗やミスをしたときの気持ちをわかってくれるか	35.1	34.7	22.2	4.4	3.6	(17.0)	33.3	31.6	23.7	5.7	5.7	(17.4)	34.2	33.1	23.0	5.1	4.6	(17.4)
C11. 練習や教え方の方針についてわからせているか	58.1	22.9	15.9	2.2	0.9	(16.6)	42.0	35.3	19.2	2.2	1.3	(18.8)	50.1	29.0	17.5	2.2	1.1	(17.7)
C12. 先生はみんなの練習をみるめはたしかか	69.8	20.0	8.5	1.3	0.4	(13.6)	67.5	19.2	11.5	0.9	0.9	(15.2)	68.7	19.6	10.0	1.1	0.6	(14.4)
C13. 先生は練習をなまけたときしかかっているか	75.4	16.4	4.7	2.3	1.2	(5.9)	60.6	23.5	9.2	2.4	4.4	(9.1)	68.0	19.9	6.9	2.4	2.8	(7.5)
C14. 問題が起きたときいっしょになって考えるか	47.8	33.2	14.2	1.3	3.5	(16.9)	42.6	30.9	19.3	3.1	4.0	(19.2)	45.2	32.1	16.7	2.2	3.8	(18.1)
C15. 先生は力不足なところをうまく教えてくれるか	63.2	20.7	13.2	1.7	1.2	(11.1)	48.8	32.2	13.2	3.3	2.5	(12.3)	56.0	26.4	13.2	2.5	1.9	(11.7)
C16. 先生は問題をテキパキとかつたずけるか	44.7	33.6	18.4	1.8	1.4	(20.3)	36.7	34.9	21.4	4.2	2.8	(22.1)	40.7	34.3	19.9	3.0	2.1	(21.2)
C17. 先生は他のチームに負けてならないと言うか	35.2	30.4	14.2	13.0	7.1	(7.0)	39.0	31.5	16.2	9.5	3.7	(12.7)	37.0	31.0	15.2	11.3	5.5	(9.9)
C18. 先生は練習のことで言いたいことを言えるか	34.3	30.4	27.0	5.2	3.0	(15.5)	28.1	25.9	30.4	8.0	7.6	(18.8)	31.3	28.2	28.6	6.6	5.3	(17.2)
C19. 先生は自分だけの相談を聞いてくれるか	36.3	24.6	30.7	2.8	5.6	(34.2)	31.2	26.9	25.8	9.1	7.0	(32.6)	33.7	25.8	28.2	6.0	6.3	(33.4)
C20. みんなは先生の決め方や判断を信頼しているか	64.8	16.1	16.5	1.3	1.3	(15.4)	63.7	17.1	16.7	1.3	1.3	(15.2)	64.2	15.6	16.6	1.3	1.3	(15.3)



D 4 学校の友達

あり	なし
54.4	45.6
43.5	56.5
48.9	51.1

D 6 うれしいこと

あり	なし
85.7	14.3
85.9	14.1
85.8	14.2

D 7 いやなこと

あり	なし
53.7	46.3
47.5	52.5
50.5	49.5

E. 意見・希望の記述

E 1 両親へ

あり	なし
41.9	58.1
43.5	56.5
42.7	57.3

E 2 サッカーの先生へ

あり	なし
43.0	57.0
47.8	52.2
45.4	54.6

E 3 調査へ

あり	なし
29.8	70.2
30.4	69.6
45.4	54.6

資料 2. 指導者(N=74)

A. 基礎項目

A 1 年齢

10代	2.7
20代	37.8
30代	35.1
40代	21.6
50代	2.7
(不明)	—

A 2 職業

教員	32.9
公務員	12.3
農採小産業	—
自営業	13.7
会社員	31.5
団体職員	2.7
学生	1.4
(不明)	(1.4)

A 3-1 運動部歴(重答)

野球	5.7
剣道	4.3
サッカー	80.0
バレー	5.7
バスケット	5.7
柔道	1.4
卓球	10.0
水泳	1.4
庭球	5.7
スキー	1.4
陸上	4.3
ラグビー	8.6
すもう	1.4
ハンド	1.4
山岳	5.7
ボクシング	1.4

A 3-2 年数

～3年	38.5
4～6年	19.2
7～9年	15.4
10～19年	17.3
20年～	9.6

**A 4 資格(重答)**

日体協コーチ	2.6
スポーツ指導員	7.7
スポ少指導員	35.9
体育教員免	23.1
他	20.5
	28.2

**A 5-1 少年団指導開始年齢**

～19	6.9
20～24	37.8
25～29	16.7
30～34	11.1
35～39	16.7
40～	11.1

**A 5-2 指導年数**

～1	14.9
1～2	25.7
3～4	17.6
5～10	28.4
10～	13.6

**A 6 指導以外のスポーツ活動**

ある	45.2
なし	54.8
不明	(1.4)
内容 サッカー	50.0
テニス	14.7
ゴルフ	11.8

**A 7 指導きっかけ**

自分から	20.3
指導者から	47.3
父兄から	13.5
子供から	1.4
その他	17.6
不明	(-)

**A 8 指導決定**

やりたかった	42.3
たのまれるまま	33.8
しかたなく	22.5
その他	1.4
不明	(4.1)

**A 9-1 指導日数/週**

1日	32.9
2日	27.1
3日	21.4
4日	11.4
5日	4.2

**A 9-2 月指導時間**

～10	15.7
～20	42.9
～30	22.8
～40	14.3
41～	4.3

**A 9-3 試合頻度**

毎週	25.4
月2回	39.0
月1回	27.1
2月1回	5.1
3月1回	3.4
不明	(20.3)

**A 10 保護者の協力**

++	26.0
+	26.0
0	27.4
-	12.3
--	8.2
不明	(1.4)

**A 11 試合で大切**

	(勝つ)	(ベスト)	(フェア)	(楽しむ)
1位	5.5	70.3	13.7	10.8
2位	13.7	17.6	57.5	12.2
3位	34.2	12.2	21.6	31.1
4位	46.2	—	6.8	45.9
不明	(1.4)	(-)	(1.4)	(-)

**A 12 練習で大切**

	(勝つ)	(ベスト)	(フェア)	(楽しむ)
1位	1.4	77.0	5.6	16.2
2位	5.6	14.9	50.0	31.1
3位	19.4	8.1	43.1	28.4
4位	73.6	—	1.4	24.3
不明	(2.7)	(-)	(2.7)	(-)

A13 教えること

	(わかる)	(できる)	(すき)
1位	6.8	26.0	67.6
2位	47.9	28.0	23.0
3位	45.2	45.2	9.5
不明	(1.2)	(1.4)	(-)

A15 けがのまま練習

いる	4.2
わからない	9.7
いない	86.1
不明	(2.7)

A14 傷害

1ヵ月以上	13.7
2週間	2.7
1週間	6.8
2～3日	12.3
なし	64.4
不明	(1.4)

A16 けが人の配慮

特にしない	4.9
ときどき	16.4
いつも	78.7
不明	(17.6)

B：サッカーを通して子供達に身につけてほしいことがらとその実際

	期待する程度						実際身につけている程度					
	(しない)			(する)			(不十分)			(十分)		
	--	-	0	+	++	(不明)	--	-	0	+	++	(不明)
B1.基礎体力, 健康	—	1.4	12.7	23.9	62.0	(4.1)	4.2	19.4	41.7	33.3	1.4	(2.7)
B2.はげしい運動に耐える体力	4.2	9.9	32.4	25.4	28.2	(4.1)	1.4	34.7	44.4	18.1	1.4	(2.7)
B3.健康や安全への態度	—	—	16.9	28.2	45.1	(4.1)	1.4	15.3	55.6	23.6	4.2	(2.7)
B4.サッカーの基礎的技術	—	2.9	14.3	28.6	54.3	(4.1)	2.9	27.1	45.7	22.9	1.4	(5.4)
B5.サッカーの本格的技術	4.2	12.7	35.2	36.6	11.3	(4.1)	12.5	33.3	41.7	12.5	—	(2.7)
B6.サッカーの知識	—	1.4	22.5	46.5	29.6	(4.1)	4.2	29.2	41.7	23.6	1.4	(2.7)
B7.サッカーへの情熱, 熱意	—	—	20.0	25.7	54.3	(5.4)	2.8	11.3	40.8	33.8	11.3	(4.1)
B8.サッカーチーム主力メンバー	5.8	4.3	46.4	24.6	18.8	(6.8)	4.3	13.0	60.9	18.8	2.9	(6.8)
B9.サッカー少年団の一流選手	11.3	19.7	46.5	11.3	11.3	(4.1)	14.1	29.6	45.1	7.0	4.2	(4.1)
B10.サッカーでブロック優勝	7.0	16.9	25.4	23.9	26.8	(4.1)	28.6	21.4	30.0	10.0	10.0	(5.4)
B11.サッカーを続けていく気持	—	1.4	29.6	25.4	43.7	(4.1)	—	11.1	51.4	29.2	8.3	(2.7)
B12.得意なスポーツを持つ	—	1.4	25.4	26.8	46.5	(4.1)	1.4	9.7	55.6	29.2	4.2	(2.7)
B13.スポーツマンシップ	—	—	5.4	17.6	73.0	(4.1)	—	13.9	43.1	37.5	5.6	(2.7)
B14.やり通す力, がんばり	—	1.4	8.1	20.3	66.2	(4.1)	1.4	18.1	44.4	31.9	4.2	(2.7)
B15.自主的行動力	—	1.4	7.0	31.0	60.6	(4.1)	6.9	22.2	55.6	13.9	1.4	(2.7)
B16.判断力, 決断力	—	1.4	11.3	33.8	53.5	(4.1)	5.6	23.6	54.2	16.7	—	(2.7)
B17.精神的強さ, ねばり	—	—	14.1	21.1	64.8	(4.1)	4.2	27.8	45.8	20.8	1.4	(2.7)
B18.礼儀正しさ, 挨拶, しつけ	—	—	19.7	23.9	56.3	(4.1)	2.8	19.4	47.2	23.6	6.9	(2.7)
B19.体育の成績向上	12.7	7.0	43.7	18.3	18.3	(4.1)	1.4	2.8	59.2	36.6	—	(4.1)
B20.他教科の成績向上	5.7	2.9	45.7	24.3	21.4	(5.4)	1.4	5.8	73.9	15.9	2.9	(6.8)
B21.家での勉強への影響	4.3	7.2	37.7	34.8	15.9	(6.8)	1.5	7.4	76.5	13.2	1.5	(8.1)
B22.家庭での手伝い	1.4	4.3	37.1	34.3	22.9	(5.4)	—	16.2	75.0	8.8	—	(8.1)
B23.友達関係	—	—	9.9	38.0	52.1	(4.1)	—	6.9	30.6	44.4	18.1	(2.7)
B24.総合的にみて	—	—	23.9	55.2	20.9	(9.5)	—	15.9	53.6	30.4	—	(6.8)

C：サッカー少年団の指導について

	(不十分)			(十分)		
	--	-	0	+	++	(不明)
C 1. 子供達にもっと努力するように求めているか	—	4.2	40.3	41.7	13.9	(2.7)
C 2. 練習にやる気をなくしたとき勇気づけているか	2.8	8.3	33.3	36.1	19.4	(2.7)
C 3. 子供達に練習の計画の流れを知らせているか	6.9	15.3	36.1	31.9	9.7	(2.7)
C 4. いったん決定したことは実行しているか	2.8	6.9	23.6	38.9	27.8	(2.7)
C 5. 子供達に対し練習の面で厳しいか	1.4	6.9	45.8	33.3	12.5	(2.7)
C 6. 子供達の人間関係がうまくいくよう気を使っているか	1.4	9.7	26.4	38.9	23.6	(2.7)
C 7. 練習に必要な知識や情報をつねに与えているか	2.8	12.5	29.2	40.3	15.3	(2.7)
C 8. 練習に必要な知識や情報を持っているか	2.8	12.5	26.4	38.9	19.4	(2.7)
C 9. 子供達の力からみてギリギリの練習を求めているか	5.6	26.4	45.8	22.2	—	(2.7)
C10. 失敗やミスしたときの気持ちを汲んで指導しているか	1.4	5.6	40.3	36.1	16.7	(2.7)
C11. 練習や指導方針について理解させているか	1.4	20.8	30.6	37.5	9.7	(2.7)
C12. 子供達の練習に対する評価は適切であるか	1.4	11.1	45.8	33.3	8.3	(2.7)
C13. 練習をなまけたとき叱っているか	1.4	8.5	25.4	46.5	18.3	(2.7)
C14. 練習で問題が起きたとき一緒になって考えているか	1.4	6.9	33.3	38.9	19.4	(2.7)
C15. 能力や知識不足なところをつかみ指導しているか	1.4	6.9	25.0	52.8	13.9	(2.7)
C16. 問題を持ちこんできた場合適切に処置できるか	1.4	6.9	37.5	36.1	18.1	(2.7)
C17. 他チームに負けてならないことを強調しているか	4.2	23.6	47.2	19.4	5.6	(2.7)
C18. 子供達は練習のことで言いたいことを言ってくるか	4.2	20.8	45.8	20.8	8.3	(2.7)
C19. 子供達の個人的問題の相談に快く応じているか	2.8	9.7	41.7	30.6	15.3	(2.7)
C20. 子供達はあなたの決定や判断を信頼しているか	—	5.6	34.7	41.7	18.1	(2.7)

A17 練習の量

多い	2.7
やや	12.2
ちょうどよい	43.2
やや	28.4
少ない	13.5
不明	—

A18 練習の質

高い	4.1
やや	13.7
ちょうどよい	39.7
やや	34.2
低い	8.2
不明	(1.4)

D：指導をして思うこと

	(全く思わない)			(いつも思う)		
	--	-	0	+	++	(不明)
D 1. 指導が自分の生甲斐の一つであると思うこと	4.1	9.6	41.1	32.9	12.3	(1.4)
D 2. やってよかった、うれしかったと思うこと	—	4.1	24.7	56.2	15.1	(1.4)
D 3. 指導を休みたいと思うこと	13.7	13.7	39.7	27.4	5.5	(1.4)
D 4. できれば指導者をやめたいと思うこと	20.5	19.2	35.6	17.8	6.8	(1.4)

D 5. 指導上よかったこと

あり	なし
85.1	14.9

D 6. 指導上悪かったこと

あり	なし
71.6	28.4

## E 1. 子供達へ

あり	なし
82.4	17.6

## E 3. 調査へ

あり	なし
45.9	54.1

## E 2. 父兄達へ

あり	なし
75.7	24.3

## 資料 3. 保護者

## A—基礎項目

	A 1-1 子供の学年					A 1-2 入団学年						A 1-3 入団月					
	～3	4	5	6	不明	1	2	3	4	5	6	不明	3～5	6～8	9～11	12～1	不明
湖西(269)	0.8	26.1	36.0	37.1	(1.9)	2.3	4.3	14.7	64.3	10.9	3.5	(3.4)	88.0	4.0	4.0	4.0	(6.4)
甲賀(267)	—	9.9	30.8	59.3	(2.2)	5.2	4.0	24.0	49.4	12.4	4.8	(7.4)	86.5	4.5	3.5	4.4	(9.7)
計 (536)	0.4	17.9	33.4	48.3	(2.1)	3.7	4.1	19.3	57.0	11.6	4.1	(5.4)	86.2	4.2	4.2	4.2	(8.0)

	A 2-1 父親の運動歴(重答 湖西156 甲賀149 計305)								A 2-2 父親の運動年数				
	野球	陸上競技	バレーボール	サッカー	バスケットボール	庭球	柔道	卓球	1～3年	4～6年	7～9年	10～19年	20年～
湖西	25.0	14.1	12.8	14.7	9.6	6.7	5.3	8.3	54.7	26.6	4.0	10.6	3.0
甲賀	36.2	15.4	14.1	13.4	12.1	6.7	7.4	7.4	62.4	19.5	3.8	8.7	5.8
計	30.5	14.8	13.4	14.1	10.8	6.7	6.6	7.8	58.5	23.0	3.9	9.6	4.4

	A 3-1 母親の運動歴(重答 湖西104 甲賀99 計203)							A 3-2 母親の運動年数			
	バレーボール	ソフトボール	バスケットボール	卓球	庭球	陸上競技	体操	1～3年	4～6年	7～9年	10年～1
	43.3	14.4	17.3	11.5	10.6	7.7	6.7	69.3	19.6	3.9	7.1
	40.4	22.2	15.2	9.1	9.1	8.1	7.1	70.0	25.2	1.6	3.2
	41.9	18.2	16.3	10.3	9.9	7.9	6.9	69.6	22.4	2.7	5.1

	A 4-1 現在の父親スポーツ			A 4-2 その種目				
	ある	なし	不明	ゴルフ	野球	庭球	サッカー	ソフトボール
	33.2	66.8	(5.2)	27.7	15.7	19.3	7.2	7.2
	38.7	61.3	(7.8)	30.5	34.7	8.4	5.3	8.4
	35.9	64.1	(6.5)	29.2	27.5	11.8	6.2	7.9

	A 5-1 現在の母親スポーツ			A 5-2 その種目					
	ある	なし	不明	バレーボール	庭球	バドミントン	水泳	ソフトボール	サッカー
	21.7	78.3	(8.6)	46.3	18.5	7.4	9.3	5.6	—
	19.7	80.3	(11.2)	52.2	2.2	2.2	—	6.5	15.2
	20.7	79.3	(9.9)	49.0	11.0	5.0	5.0	6.0	7.0

A 6 兄姉のスポーツ活動

ある	なし	不明
47.3	52.7	(24.0)
54.1	45.9	(27.9)
50.6	49.4	(25.9)

A 12 父親のサッカー関心

--	-	0	+	++	不明
1.6	2.0	27.2	32.3	37.0	(4.9)
0.8	2.3	30.1	27.3	39.5	(4.8)
1.2	2.2	28.6	29.8	38.2	(4.9)

A 7 父親の教育関心

--	-	0	+	++	不明
2.3	2.7	35.3	30.6	29.1	(3.4)
1.2	1.5	40.4	27.7	29.2	(3.4)
1.7	2.1	37.8	29.2	29.2	(3.4)

A 13 母親のサッカー関心

--	-	0	+	++	不明
2.3	2.7	29.2	37.4	28.4	(3.7)
2.3	5.8	33.9	33.5	24.5	(4.5)
2.3	4.3	31.5	35.4	26.5	(3.5)

A 8 母親の教育関心

--	-	0	+	++	不明
0.8	1.1	25.7	37.5	34.9	(2.2)
1.2	0.4	26.7	34.1	37.6	(4.1)
1.0	0.8	26.2	35.8	36.2	(3.2)

A 14 兄姉のサッカー関心

--	-	0	+	++	不明
4.7	5.3	33.9	29.2	26.9	(35.9)
3.3	2.6	30.3	26.3	37.5	(43.5)
4.0	4.0	32.2	27.9	31.9	(39.7)

A 9 父親のスポーツ関心

--	-	0	+	++	不明
1.2	3.5	25.2	24.8	45.3	(3.3)
1.2	1.9	26.5	24.1	46.3	(4.4)
1.2	2.7	25.8	24.5	45.8	(3.9)

A 15 重要な他者

父親	母親	友人	指導者	その他	なし	不明
15.6	15.6	32.4	5.7	16.0	14.5	(1.9)
13.9	6.2	43.6	3.9	17.4	15.1	(3.7)
14.8	10.9	38.0	4.8	16.7	14.8	(2.8)

A 10 母親のスポーツ関心

--	-	0	+	++	不明
2.7	3.5	30.0	34.6	29.2	(2.6)
2.0	5.2	32.5	28.9	31.3	(7.4)
2.4	4.3	31.2	31.8	30.5	(5.1)

A 16 入団目的

サッカー	スポーツ	おけいごと	その他	不明
49.2	47.3	0.4	3.1	(1.9)
47.0	48.1	—	4.9	(1.9)
48.1	47.7	0.2	4.0	(1.9)

A 11 兄姉のスポーツ関心

--	-	0	+	++	不明
2.3	3.5	24.0	31.0	39.2	(8.2)
1.9	1.3	22.1	26.0	48.7	(42.7)
2.2	2.5	23.1	28.6	43.7	(39.4)

A 17 父親の入団関心

--	-	0	+	++	不明
5.4	2.3	32.6	27.5	32.2	(3.3)
24.1	14.2	33.2	15.4	13.0	(6.0)
14.7	8.2	32.9	21.5	22.7	(4.6)

**A 18 母親の入団関心**

--	-	0	+	++	不明
4.2	1.2	30.1	32.0	32.4	(3.0)
19.5	15.2	39.8	16.0	9.4	(4.8)
11.8	8.2	35.0	24.1	21.0	(3.9)

**A 19 兄姉の入団関心**

--	-	0	+	++	不明
9.3	4.3	41.6	21.7	23.0	(39.7)
18.9	11.2	42.7	11.9	15.4	(56.9)
13.8	7.6	42.1	17.1	19.4	(43.3)

**A 20 父親 当時の関心**

--	-	0	+	++	不明
5.9	4.3	42.6	29.7	17.6	(4.1)
17.7	13.8	43.3	15.4	9.8	(5.6)
11.8	9.0	42.9	22.5	13.7	(4.8)

**A 21 母親 当時の関心**

--	-	0	+	++	不明
3.9	4.3	38.4	35.3	18.2	(3.4)
15.7	15.3	47.1	14.9	7.1	(5.2)
9.7	9.7	42.7	25.1	12.7	(4.4)

**A 22 兄姉 当時の関心**

--	-	0	+	++	不明
7.5	6.9	51.6	23.3	10.7	(40.4)
15.5	18.9	43.2	10.8	11.5	(45.0)
11.4	12.7	47.6	17.3	11.1	(42.7)

**A 23 父親 現在の関心**

--	-	0	+	++	不明
6.2	4.3	27.2	30.7	31.5	(3.7)
17.3	14.9	34.5	19.2	14.1	(5.2)
11.7	9.6	30.9	25.0	22.9	(4.4)

**A 24 母親 現在の関心**

--	-	0	+	++	不明
3.5	3.9	27.0	37.5	28.2	(3.0)
15.7	14.1	41.2	19.2	9.8	(5.2)
9.5	8.9	34.0	28.4	19.1	(4.1)

**A 25 兄姉 現在の関心**

--	-	0	+	++	不明
7.8	7.2	38.9	25.7	20.4	(37.4)
17.4	13.9	38.9	16.7	13.2	(46.5)
12.2	10.3	38.9	21.5	17.0	(42.0)

**A 26 父親 将来の関心**

--	-	0	+	++	不明
4.0	3.6	31.9	31.0	29.4	(7.1)
19.7	13.8	36.2	16.9	13.4	(5.6)
12.0	8.8	34.1	23.9	21.3	(6.3)

**A 27 母親 将来の関心**

--	-	0	+	++	不明
3.6	4.4	35.9	32.7	23.5	(6.0)
17.9	12.3	42.1	17.9	9.9	(5.3)
10.7	8.3	39.0	25.2	16.7	(6.1)

**A 28 兄姉 将来の関心**

--	-	0	+	++	不明
7.0	7.6	42.4	25.9	17.1	40.8
20.0	11.4	43.6	11.4	13.6	48.0
13.1	9.4	43.0	19.1	15.4	44.4

**A 29 父親 運営協力**

--	-	0	+	++	不明
10.7	12.3	36.8	18.6	21.7	(5.2)
12.5	17.9	36.2	16.3	17.1	(4.5)
11.6	15.1	36.5	17.5	19.4	(4.8)

**A 30 母親 運営協力**

--	-	0	+	++	不明
5.4	7.4	40.9	24.9	21.4	(3.8)
10.5	16.0	45.3	14.1	14.1	(4.8)
8.0	11.7	43.1	19.5	17.8	(4.3)

**A 31-1 父親 大切なこと**

	湖西					甲賀					計				
	1位	2位	3位	4位	不明	1位	2位	3位	4位	不明	1位	2位	3位	4位	不明
勝つ	5.5	16.0	29.0	49.6	(10.9)	7.2	20.8	32.2	39.8	(12.3)	6.3	18.4	30.6	44.7	(11.6)
ベストをつくす	72.7	18.5	7.6	1.2	(6.7)	74.3	19.3	6.0	0.4	(7.4)	73.5	18.9	6.8	0.8	(7.1)
フェア	11.4	52.3	27.4	8.9	(11.2)	11.5	49.8	32.3	6.4	(12.6)	11.4	51.1	29.9	7.6	(11.9)
楽しむ	11.3	10.5	35.1	43.1	(10.5)	11.4	8.9	27.8	51.9	(11.9)	11.3	9.7	31.5	47.5	(11.2)

**A 31-2 母親 大切なこと**

	湖西					甲賀					計				
	1位	2位	3位	4位	不明	1位	2位	3位	4位	不明	1位	2位	3位	4位	不明
勝つ	2.4	13.8	26.4	57.3	(7.9)	7.4	11.5	33.7	47.3	(9.7)	4.9	12.7	30.1	52.4	(8.8)
ベスト	72.9	17.1	8.1	1.9	(3.4)	67.7	23.3	8.2	0.8	(4.5)	70.3	20.2	8.2	1.4	(3.9)
フェア	10.6	53.3	25.5	10.6	(7.1)	12.7	52.7	28.6	6.1	(8.9)	11.6	52.9	27.0	8.3	(8.2)
楽しむ	15.1	13.1	39.4	32.5	(7.5)	15.4	11.0	28.9	44.7	(8.6)	15.2	12.0	34.1	38.5	(8.2)

**A 32-1 父親 教えてもらいたいこと**

	湖西				甲賀				計			
	1位	2位	3位	不明	1位	2位	3位	不明	1位	2位	3位	不明
わかる	30.0	48.3	21.7	(13.9)	37.0	37.4	25.4	(13.8)	33.6	42.9	23.5	(13.8)
できる	34.9	31.9	33.2	(12.0)	31.1	34.2	34.6	(13.8)	33.0	33.0	33.9	(13.1)
すき	39.9	18.0	42.1	(12.7)	36.9	25.3	37.7	(13.0)	38.4	21.7	39.9	(13.1)

**A 32-2 母親 教えてもらいたいこと**

	湖西				甲賀				計			
	1位	2位	3位	不明	1位	2位	3位	不明	1位	2位	3位	不明
わかる	31.1	46.9	22.0	(9.7)	39.7	38.8	21.3	(10.8)	35.4	42.9	21.7	(10.5)
できる	29.9	33.2	36.9	(8.6)	27.4	32.5	40.0	(11.5)	28.6	32.9	38.5	(10.2)
すき	44.0	17.8	38.2	(9.7)	38.3	25.8	35.8	(10.4)	41.2	21.8	37.0	(10.3)

**A 33-1 怪我の有無**

**A 33-2 その内容**

**A 35-1 練習内容 量**

ある	なし	不明	入院	通院	自宅治療
22.3	77.7	(0.7)	3.6	57.1	39.3
23.8	76.2	(1.5)	1.7	53.3	45.0
23.0	77.0	(1.4)	2.6	55.2	42.2

多すぎる	ちょうどよい	少なすぎる	その他	不明
9.3	72.6	16.6	1.5	(3.0)
6.9	59.9	27.8	5.4	(2.3)
8.0	66.2	22.2	3.4	(2.6)

**A 34 怪我のまま練習**

ある	なし	不明
29.0	71.0	(12.0)
30.3	69.7	(12.3)
29.4	70.1	(12.2)

**A 35-2 練習内容 質**

高すぎる	ちょうどよい	低すぎる	その他	不明
2.0	75.0	16.9	6.0	(7.1)
2.0	61.0	28.0	9.0	(4.1)
2.0	67.8	22.5	7.5	(5.8)



B. 活動に、期待すること

	湖西					甲賀					計							
	--	-	0	+	++	不明	--	-	0	+	++	不明	--	-	0	+	++	不明
B 1. 基礎体力, 健康	—	—	8.8	25.3	65.9	(2.2)	—	0.5	10.0	29.5	60.0	(3.0)	—	0.2	9.4	27.4	63.0	(2.6)
B 2. はげしい運動に耐える体力	0.4	0.4	11.6	39.4	48.3	(3.0)	0.5	1.6	17.7	31.5	48.8	(3.4)	0.4	1.0	14.6	35.5	48.6	(3.2)
B 3. 健康や安全への態度	—	—	14.0	31.0	55.0	(3.4)	0.5	—	16.8	27.3	55.4	(4.9)	0.2	—	15.3	29.2	55.2	(4.1)
B 4. サッカーの基礎的技能	0.4	1.2	19.2	35.0	44.2	(2.6)	0.9	1.3	23.9	34.5	39.6	(5.2)	0.6	1.2	21.5	34.8	42.0	(3.9)
B 5. サッカーの本格的技能	1.6	3.5	32.3	38.1	24.5	(3.7)	2.1	3.6	31.4	33.3	29.8	(5.2)	1.8	3.5	31.9	35.8	27.1	(4.5)
B 6. サッカーの知識	0.8	0.8	22.9	37.2	38.4	(3.4)	0.9	1.3	26.1	32.4	39.5	(6.0)	0.8	1.0	24.4	34.9	39.0	(4.7)
B 7. サッカーへの情熱, 熱意	—	0.8	22.0	35.7	41.6	(4.5)	1.3	1.3	21.6	30.4	45.5	(7.1)	0.6	1.0	21.7	33.1	43.6	(5.8)
B 8. サッカーチーム主力メンバー	2.0	1.6	30.0	34.8	31.6	(5.2)	1.7	3.8	25.8	30.3	38.5	(9.3)	1.8	2.6	27.9	32.6	35.0	(7.3)
B 9. サッカー少年団の一流選手	6.3	5.6	40.5	32.1	15.5	(5.6)	7.4	4.6	38.2	25.6	24.4	(8.6)	6.8	5.0	39.4	29.0	19.8	(7.1)
B 10. サッカーでプロック優勝	6.9	4.9	29.4	24.1	34.7	(8.2)	4.6	4.6	27.3	23.6	40.0	(10.3)	5.7	4.7	28.4	23.8	27.4	(9.2)
B 11. サッカーを続けていく気持	1.6	0.8	19.5	32.7	45.4	(6.0)	3.4	3.8	19.6	27.3	50.0	(9.0)	2.4	2.2	19.5	30.0	45.7	(7.5)
B 12. 得意なスポーツを持つ	—	1.2	16.9	32.7	49.2	(4.9)	—	0.5	16.9	25.7	56.9	(7.5)	—	0.8	16.9	29.3	53.1	(6.2)
B 13. スポーツマンシップ	—	0.4	13.4	26.8	59.4	(4.9)	—	1.7	15.5	20.7	62.2	(6.3)	—	1.0	14.4	23.8	60.8	(5.6)
B 14. やり通す力, がんばり	—	0.4	7.8	22.3	69.5	(4.1)	—	2.5	8.3	18.1	71.1	(5.6)	—	1.4	8.0	20.3	70.4	(4.9)
B 15. 自主的行動力	—	0.8	14.1	27.1	58.0	(4.5)	—	2.1	13.4	21.8	62.8	(7.8)	—	1.4	13.7	24.4	60.3	(6.2)
B 16. 判断力, 決断力	—	1.2	16.5	25.1	57.3	(4.5)	—	2.1	14.2	21.4	62.3	(7.8)	—	1.6	15.3	23.3	59.8	(6.2)
B 17. 精神的強さ, ねばり	—	0.8	12.9	21.6	64.7	(4.5)	—	1.7	17.0	13.8	67.6	(7.8)	—	1.2	14.9	17.7	66.1	(6.2)
B 18. 礼儀正しさ, 挨拶, しつけ	0.4	2.4	10.2	19.6	67.5	(4.5)	—	1.7	13.1	19.1	66.1	(6.3)	0.2	2.0	11.6	19.4	66.8	(5.4)
B 19. 体育の成績向上	0.4	2.0	30.8	36.8	30.0	(5.2)	0.9	1.7	29.9	25.4	42.0	(8.2)	0.6	1.8	30.3	31.2	36.0	(6.7)
B 20. 他教科の成績向上	1.2	1.2	29.5	33.5	34.7	(6.0)	1.3	2.5	30.0	33.2	42.9	(7.5)	1.2	1.8	29.8	28.3	38.8	(6.7)
B 21. 家での勉強への影響	0.8	0.4	41.9	27.6	27.3	(5.2)	0.9	2.5	36.0	29.9	30.7	(8.2)	0.8	1.4	39.0	29.8	28.9	(6.7)
B 22. 家庭での手伝い	0.8	3.6	37.9	28.5	29.2	(5.2)	0.9	5.3	34.0	26.3	33.6	(8.2)	0.8	4.4	36.0	27.3	31.4	(6.7)
B 23. 友達関係	—	—	11.8	30.6	57.6	(4.5)	—	0.5	17.7	22.9	58.9	(7.5)	—	0.2	14.7	26.8	58.3	(6.0)
B 24. 総合的にみて	—	0.8	20.7	38.6	39.8	(6.0)	—	0.9	22.0	34.0	43.1	(7.1)	—	0.8	21.3	36.4	41.5	(6.5)

B B. 活動の現実

	湖西					甲賀					計							
	--	-	0	+	++	不明	--	-	0	+	++	不明	--	-	0	+	++	不明
B 1. 基礎体力, 健康	0.4	4.0	24.4	48.4	22.8	(6.4)	1.6	6.6	33.1	38.9	19.8	(4.5)	1.0	5.3	28.8	43.6	21.3	(5.4)
B 2. はげしい運動に耐える体力	0.4	5.6	37.9	37.5	18.5	(7.1)	2.3	11.7	35.2	35.2	15.6	(4.8)	1.4	8.7	36.5	36.3	17.1	(6.0)
B 3. 健康や安全への態度	0.8	7.3	36.7	40.7	14.5	(7.1)	2.0	5.1	45.5	33.0	14.1	(5.2)	1.4	6.2	41.2	37.0	14.3	(6.2)
B 4. サッカーの基礎的技能	2.8	9.3	43.1	33.9	10.9	(7.1)	3.1	12.5	44.7	30.0	9.7	(4.5)	3.0	10.9	44.0	31.9	10.3	(5.8)
B 5. サッカーの本格的技能	5.2	16.9	50.4	22.2	5.2	(7.1)	6.3	16.9	45.3	27.2	4.3	(5.6)	5.8	16.9	47.8	24.7	4.8	(6.3)
B 6. サッカーの知識	2.0	9.6	43.2	32.4	12.8	(6.4)	1.9	10.9	40.5	30.0	16.7	(4.5)	2.0	10.3	41.8	31.2	14.8	(5.4)
B 7. サッカーへの情熱, 熱意	0.8	4.9	24.7	37.2	32.4	(7.5)	2.0	4.4	32.5	32.5	28.5	(7.4)	1.4	4.6	28.6	34.9	30.4	(7.5)
B 8. サッカーチーム主力メンバー	4.1	11.1	43.2	27.6	14.0	(9.0)	4.5	11.8	34.6	29.3	19.9	(8.6)	4.3	11.5	38.9	28.4	17.0	(8.8)
B 9. サッカー少年団の一流選手	12.2	12.2	57.4	16.0	2.1	(11.2)	9.1	13.7	49.0	23.2	5.0	(10.4)	10.7	13.0	53.1	19.7	3.6	(10.8)
B 10. サッカーでプロック優勝	16.5	12.6	43.9	18.3	8.7	(13.9)	11.5	15.3	39.1	19.6	14.5	(12.6)	14.0	14.0	41.5	18.9	11.6	(13.2)
B 11. サッカーを続けていく気持	0.8	4.5	28.5	29.3	36.8	(9.4)	3.2	5.3	31.6	22.7	37.2	(8.2)	2.0	4.9	30.1	26.0	37.0	(8.8)
B 12. 得意なスポーツを持つ	2.5	4.5	32.2	36.0	24.8	(9.4)	1.6	7.0	32.9	31.7	26.7	(9.7)	2.1	5.8	32.6	33.8	25.8	(9.5)
B 13. スポーツマンシップ	1.6	3.7	47.8	33.1	13.9	(8.2)	1.6	5.3	42.7	32.1	18.3	(8.6)	1.6	4.5	45.2	32.6	16.1	(8.4)
B 14. やり通す力, がんばり	1.2	4.5	37.4	37.8	19.1	(7.9)	1.6	7.3	31.5	38.3	21.4	(7.8)	1.4	5.9	34.4	38.1	20.2	(7.8)
B 15. 自主的行動力	1.6	10.0	49.0	30.5	8.8	(6.7)	2.5	9.4	42.2	34.8	11.1	(9.3)	2.0	9.7	45.6	32.7	9.8	(8.0)
B 16. 判断力	2.8	11.3	49.0	31.6	5.3	(7.5)	2.5	12.3	44.0	31.3	9.9	(9.7)	2.7	11.8	46.5	31.4	7.6	(8.6)
B 17. 精神的強さ, ねばり	1.6	12.2	48.6	28.6	9.0	(8.2)	2.8	13.0	43.9	29.3	11.0	(8.6)	2.2	12.6	46.2	28.9	10.0	(8.4)
B 18. 礼儀正しさ, 挨拶, しつけ	2.0	11.7	51.0	29.1	6.1	(7.5)	1.6	11.7	42.7	35.5	8.5	(7.8)	1.8	11.7	46.9	32.3	7.3	(7.6)
B 19. 体育の成績向上	1.6	6.9	48.2	31.8	11.4	(8.2)	0.4	7.3	43.3	32.0	17.0	(8.2)	1.0	7.1	45.7	31.9	14.2	(8.2)
B 20. 他教科の成績向上	2.4	10.2	55.3	28.5	3.7	(7.9)	1.2	8.5	52.2	30.8	7.3	(8.2)	1.8	9.3	53.8	29.6	5.5	(8.0)
B 21. 家での勉強への影響	2.0	8.5	62.9	23.0	3.6	(7.1)	2.5	7.4	56.6	29.5	4.1	(9.3)	2.2	7.9	59.8	26.2	3.9	(8.2)
B 22. 家庭での手伝い	3.2	16.5	59.0	15.7	5.6	(6.7)	3.7	16.0	52.3	21.8	6.2	(9.7)	3.5	16.3	55.7	18.7	5.9	(8.2)
B 23. 友達関係	0.8	1.2	30.6	40.8	26.5	(8.2)	—	12	30.1	38.2	30.5	(7.4)	0.4	1.2	30.4	39.5	28.5	(7.8)
B 24. 総合的にみて	0.8	2.0	50.0	43.1	4.1	(7.9)	0.5	5.0	46.7	38.2	9.8	(9.2)	0.6	3.4	48.3	40.6	6.9	(8.0)

C. 指導者の指導

	湖西					甲賀					計										
	--	--	0	+	++	+++	不明	--	--	0	+	++	+++	不明	--	--	0	+	++	+++	不明
C1. 子供達にもっと努力するように求めているか	0.9	1.9	26.8	41.3	29.1	(20.2)		1.4	9.0	32.2	33.6	23.7	(21.6)		1.2	5.4	29.5	37.5	26.4	(20.1)	
C2. 練習にやる気をなくしたとき勇気つけているか	0.5	3.5	27.9	43.8	24.4	(24.7)		2.0	6.9	26.1	37.9	27.1	(24.5)		1.2	5.2	27.0	40.8	25.7	(24.6)	
C3. 子供達に練習の計画の流れを知らせているか	1.5	4.0	29.4	32.3	32.8	(24.7)		3.0	9.5	37.0	30.0	20.5	(25.6)		2.2	6.7	33.2	31.2	26.7	(25.2)	
C4. いったん決定したことは実行しているか	--	2.0	27.5	37.7	32.8	(23.6)		2.0	5.4	30.0	37.4	25.1	(24.5)		1.0	3.7	28.7	37.6	29.0	(24.1)	
C5. 子供達に対し練習の面で厳しいか	0.5	5.8	29.8	38.5	25.5	(22.1)		1.5	8.6	33.3	35.9	20.7	(26.4)		1.0	7.1	31.5	37.2	23.2	(24.3)	
C6. 子供達の人間関係がうまくいくよう気を使っているか	0.5	3.0	31.8	39.9	24.7	(25.8)		1.5	8.5	25.9	38.3	25.9	(25.2)		1.0	5.8	28.8	39.1	25.3	(25.5)	
C7. 練習に必要な知識や情報をつねに与えているか	1.0	3.0	33.7	34.7	27.7	(24.3)		3.5	11.9	31.7	29.7	23.3	(24.9)		2.2	7.4	32.7	32.2	25.5	(24.6)	
C8. 練習に必要な知識や情報を持っているか	0.5	4.9	24.3	30.6	39.8	(22.8)		3.5	6.0	25.4	30.8	34.3	(25.2)		2.0	5.4	24.8	30.7	37.1	(24.0)	
C9. 子供達の力からみてギリギリの練習を求めているか	1.5	6.0	47.5	36.0	9.0	(25.1)		3.6	9.2	46.2	26.2	14.9	(27.5)		2.5	7.6	46.8	31.1	11.9	(26.3)	
C10. 失敗やミスしたときの気持ちを放んで指導しているか	1.1	2.6	35.8	32.6	27.9	(28.8)		3.1	6.1	32.1	35.7	23.0	(27.1)		2.1	4.4	33.9	34.2	25.4	(28.0)	
C11. 練習や指導の方針について理解させているか	0.5	5.2	34.4	37.0	22.9	(28.1)		2.6	10.5	36.3	31.1	19.5	(29.4)		1.6	7.9	35.3	34.0	21.2	(28.7)	
C12. 子供達の練習に対する評価は適切か	0.5	5.8	30.0	36.8	26.8	(28.8)		2.7	5.9	36.8	29.2	25.4	(31.2)		1.6	5.9	33.3	33.1	26.1	(30.0)	
C13. 練習をなまけたとき叱っているか	0.5	5.0	23.0	38.5	33.0	(25.1)		1.5	3.6	27.9	34.5	32.5	(26.8)		1.0	4.3	25.4	36.5	32.7	(25.9)	
C14. 練習で問題が起きたとき一緒に考えて考えるか	--	4.4	26.1	38.9	30.6	(32.6)		2.7	5.4	31.7	32.8	27.4	(30.9)		1.4	4.9	29.0	35.8	29.0	(31.8)	
C15. 能力や知識不足のところをつかみ指導しているか	1.0	5.2	31.1	34.2	28.5	(27.7)		2.6	9.4	28.6	32.8	26.6	(28.6)		1.8	7.3	29.9	33.5	27.5	(28.2)	
C16. 問題を持ちこんできた場合適切に処置できるか	1.1	2.8	30.4	39.2	26.5	(32.2)		2.2	3.8	34.6	34.6	24.9	(31.2)		1.6	3.3	32.5	36.9	25.7	(31.7)	
C17. 他のチームに負けてならないことを強調しているか	1.0	6.1	43.4	31.3	18.2	(25.8)		2.6	5.3	40.0	32.1	20.0	(29.4)		1.8	5.7	41.8	31.7	19.1	(27.6)	
C18. 子供達は練習のことで言いたいことを言っているか	2.2	3.4	53.9	27.0	13.5	(33.3)		3.4	7.5	40.8	31.0	17.2	(35.3)		2.8	5.4	47.4	29.0	15.3	(34.3)	
C19. 子供達の個人的な問題に快く応じめているか	--	5.4	47.6	25.6	21.4	(37.1)		4.1	5.3	40.2	27.8	22.5	(37.2)		2.1	5.3	43.9	26.7	22.0	(37.1)	
C20. 子供達はあなたの決定や判断を信頼しているか	--	2.1	24.4	29.0	44.6	(27.7)		1.1	2.8	30.7	25.7	39.7	(33.5)		0.5	2.4	27.4	27.4	42.2	(30.6)	

D. よかったこと, わるかったこと

	湖西		甲賀		計							
	あり	なし	あり	なし	あり	なし						
D1. うれしかったこと, やらせてよかったと思ふこと	15.7	35.7	48.6	6.7	1.6	0.4	17.7	33.7	46.6	(7.4)		
D2. できればやめてほしい, やめさせたいと思ふこと	62.9	17.5	14.4	4.4	0.9	(14.2)	65.5	19.5	11.5	2.7	0.9	(16.0)
	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	0	+	+	+	+	+	0	+	+	+	+	不明

D3. よかったことの記述

あり	なし
73.8	26.2
71.0	29.0
72.4	27.6

D4. わるかったことの記述

あり	なし
7.9	92.1
7.8	92.2
7.8	92.2

E 意見, 感想

E1. 本人へ E2. 指導者へ E3. 調査へ

あり		なし		あり		なし	
69.3	30.7	50.2	49.8	13.1	86.9		
63.9	36.1	46.8	53.2	14.1	85.9		
66.6	33.4	48.5	51.5	13.6	86.4		

# スポーツクラブ参加者, 指導者, 保護者の意識の相違に関する基礎的研究

## —— スイミングスクールの事例 ——

沢田和明 (滋賀大学教育学部)

牧野健士 (滋賀県立膳所高等学校)

町田 登 (滋賀県立玉川高等学校)

### 1. 緒 言

現代社会の多様な変化に伴い, 社会におけるスポーツに対する関心の高まりは, その質の高揚の高度化現象, 量的拡大の大衆化現象の双方にみられている。両者は相補的に関わりを持ちながら, スポーツへの直接的及び間接的参与に行動, 認知, 性向のレベルで多様な社会化の状態を作り出している。

それらにはスポーツがスポーツ自体に限定された領域としてではなく, 他の多くの社会体系からの複雑な関わりの結果として見ざるを得ない極めて社会的な側面を含んでいるといえよう。それ故1つのスポーツ現象もそこに関わる立場により取り組み姿勢, 価値, 期待, 評価などが自ずと異ってくる。

あるスポーツ現象における所与の役割セット構成者が, そのことに「より望ましい関わり方」を考える場合には, 相互の立場の現状の認識する作業が不可欠であると思われる。

「より望ましい関わり方」は個々の役割セット構成者の価値観により異なるものであり一義的に規定できるものではなく, またそれは役割のあり方から単純に集約される性格のものではないが, 現状における各役割の相互の理解の作業は, 少なくともその欠落に起因する無用の混乱を避けるためには重要な意味づけを持っているといえよう。

スポーツ現象をめぐる問題として指摘されるものには, 多かれ少なかれ上述のことが含まれ, ある時は全く誤解に基づく偏見であったり, 些細なズレのある面が誇張されたりして適正な判断を困難にするような状況が現出するように思

われる。

意識のズレでよく利用されるジョハリの窓<sup>(1)</sup>の図式は, そのズレの存在の認識そのものばかりでなく, そのズレの除去に向けての方法をも示唆してくれるものである。一般的にそのズレを十分的確に捉えながら, それを認識した上で, そのズレを利用していくという方策がとられたりすることがある。これはより上位の地位役割のものが下位の立場のものをよりよく操作する時などにみられるが, この場合は下位がそのズレを意識していないことと, 上位がそのズレを客観的に把握していることが前提となり, 容易に操作可能なものではない。それは同様に操作している「つもり」の次元であることが少なくないといえよう。

		自分からみて	
		わかる	わからない
他者からみて	わかる	開かれた窓 O	気づかない窓 B
	わからない	H 隠された窓	D わからない窓

図1. ジョハリの窓 (1)を修正)

社会的に順機能的なズレは別にして, 相互が知らずにいるズレが逆機能的に働らくものがあるとすれば, それはより好ましい社会的相互作用

用の継続に不必要なものであり、多くの場合有害なものとなるであろう。そのズレの存在の認識とそれにもとづくズレの除去作業はあらゆる人間社会の場に不可欠である。

スポーツの社会的価値が漸次高まりつつある昨今、小は個人的日常的なスポーツの関わりから大はオリンピックに至るまで、その規模を問わず役割セット構成者の相互の認識のズレを理解する作業は、今後のスポーツのあり方を考える上で極めて重要な資料を提供してくれるものと思われる。

## 2. 目的, 手順

本研究はスイミングスクールに例をとりながら、その会員、指導者、保護者の三者の相互のスイミングスクールについての関わり方の現状について明らかにすることにより、今後のスイミングスクールの望ましいあり方を考えていく上で役立ち得るとされる基礎的資料を収集することを目的としている。

なお調査票はスポーツ社会学班が昨年度サッカー少年団を対象として行ったもの<sup>6)</sup>を、部分比較する意図を含めてスイミングスクール用に修正したものを用いた。会員用、指導者用、保護者用には同一の内容に関するものが50項目ばかり含まれている。

調査対象は昨年度の対象が4年以上の小学生であることから小学校高学年とし、滋賀県下の8つのスイミングスクールを当初調査対象としていた。調査票配布段階になってから民間企業のスイミングスクールから調査内容に不適当なものが含まれていて協力できないとの連絡を受け、結果的にはそれらを除いたものうち1スイミングスクールのみからしかデータを得ることができなかつた。そのため3年生を加えて、学年性別に偏らないように配票調査を行った。

## 3. 結果

スイミングスクールを通しての配票回収作業の結果、有効回収数は会員及び保護者は114(81.4%)、指導者は21(75.0%)であった。

調査票は三者共通に、基礎的項目、活動への期待、活動の現実の評価、指導者の指導について、よかったこと、わるかったこと、他の人の意見、他の人への意見、調査の感想から構成されている。

### (1) 基礎的事項

#### 1) 指導者

指導者用調査票の回収数は21で百分率で記述するには問題があるが、回収率の観点、特定組織の一事例ということなどから概略する。基礎的単純集計は文末資料にあげた。

水泳との関連では、水泳部所属歴有が8割、競技歴レベルは全国レベルが3分の1、競技歴なしが2割である。6割が水泳関連の資格を持ち、その内訳は半数が水連であり、3分の1が日赤であった。指導歴は1年未満が2割、3年以上が半数近くいた。指導については6割余りが積極的に引き受けている。指導の重点をわかる・できる・好きの3次元で順位をつけたところ、各順位で多い構成比率は、1位は好き(71.4%)、2位できる(65.0%)、3位わかる(65.0%)であり、それは各次元の1位構成比率の順位と同じである。練習の量、質ともに8割がちょうどよいと回答している。また水泳以外の定期的スポーツは4分の3が行っていない。

#### 2) 会員

配布依頼が学年別、性別にかたよらないようにということで行ったため回収比率もそれに近似している。スイミングスクール以前の習いごとでは71.9%が行っており、音楽関係(45.7%)、習字(35.8%)が多かった。また現在の習いごとでは82.5%が行っており、音楽関係(42.6%)、習字(35.1%)、そろばん(25.5%)と続いている。入会決定は自分で決めたもの45.6%、母23.7%、父12.3%である。入会に積極的だったもの41.1%、消極的だったもの7.1%である。父母のスポーツ参加は「よく」が父21.8%、母12.5%、「あまりしてない」は父35.5%、母63.4%で父親が積極的である。父母の参観は父母とも6割強は消極的である。家庭での水泳の話は「よくする」が36.3%「ときどき」が54.0%、水

泳の記事、テレビなどの間接的参与は約半数が「よく」「ときどき」している。

スポーツの価値（勝つ、ベスト、フェア、楽しむ）の各次元で比率の高いものは、1位では「ベスト」(43.1%)、「楽しむ」(42.6%)、2位では「フェア」(40.4%)、「ベスト」(29.4%)、3位では「フェア」(34.6%)、「ベスト」(23.9%)、4位では「勝つ」(71.2%)、「楽しむ」(12.1%)である。「ベスト」または「楽しみ」の価値が高く、次に「フェア」、最後に「勝つ」である。

水泳の練習を待ちどおしいと思うか、楽しいかについては、4割が待ちどおしくなく、4分の1が楽しいと思っていない。また休みたいと思うか、やめたいと思うかについては楽しさ、待ち遠しさの消極性に比較すると休みたいやめたいの積極性はそれほど多くはない。(図2参照)

1. 練習を待ちどおしく思うか

いつも	ときどき	あまり	ぜんぜん
11.7	47.7	29.9	12.6

2. 水泳楽しいか

いつも	ときどき	あまり	ぜんぜん
34.2	47.4	29.4	0.9

3. 休みたいと思うか

ぜんぜん	あまり	ときどき	いつも
26.3	32.5	38.6	2.6

4. やめたいと思うか

ぜんぜん	あまり	ときどき	いつも
43.8	40.0	16.2	0.9

図2. 練習参加について (単位 %)

3) 保護者

プールまでの交通機関はバス・電車76.1%、車15.0%、自転車6.2%、徒歩2.7%で、所要時間は20分までが32.6%、40分までが57.9%、それ以上が9.4%で平均27.9分であった。

父母の運動部経験は父43.9%、母32.4%、現在の定期的運動は父30.1%、母29.2%、兄妹65.0%である。スイミングスクール参加に影響のあった者は母51.8%、友達16.4%、父13.6%

で母親が多い。習う目的は単に習いごとの1つ(0.9%)としてではなく、スポーツの1つとして捉えるもの(59.3%)が多く、水泳そのものを目的とするものが39.8%であった。

父母のスポーツ、水泳、教育に対する関心は5段階尺度での比率を表わすと図3のようになる。スポーツへの関心には差がみられるが、水泳、教育への関心には差がみられない。

また入会決定から将来までの肯定的な関心の推移は図4の通りである。父母、兄妹とも少しずつ積極的な関心がうすれていっている。

保護者のスポーツ価値観は父、母とも同様な傾向で、1位では「ベスト」(父63.6%、母61.5%)、「楽しむ」(22.2%、母30.7%)、2位では「楽しむ」(父33.3%、母30.7%)、「フェア」

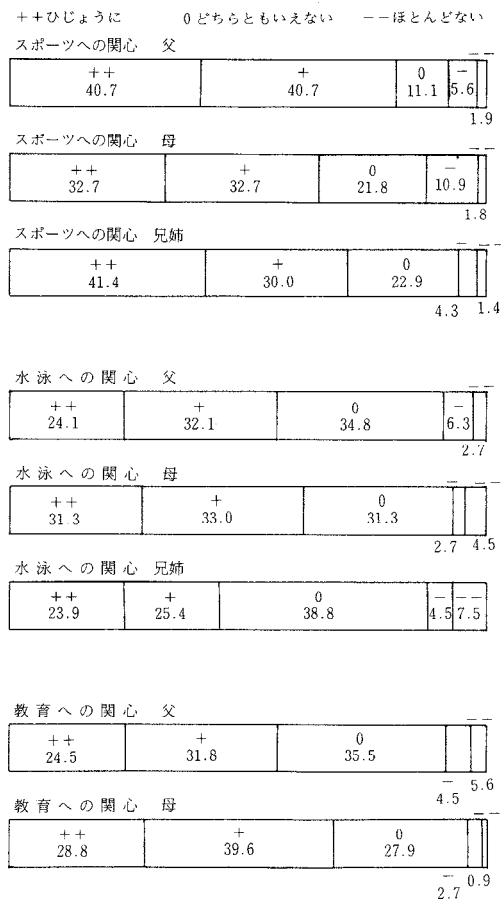


図3. スポーツ、水泳、教育への関心

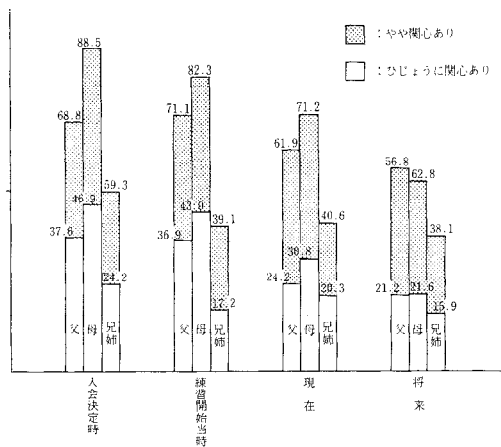


図4. まわりの人の関心の推移

(父28.9%, 母32.3%), 3位では「フェア」(父48.9%, 母49.5%)と4位では「勝つ」(父67.8%, 母74.0%), 「楽しむ」(父21.1%, 母13.2%)であり, 全体として1位は「ベスト」, 4位は「勝つ」, 2位3位は「楽しむ」, 「フェア」で「楽しむ」方が多少強いといえよう。

また教えてもらいたい内容に関しては, 1位は「できる」(父53.8%, 母49.5%), 「好き」(父36.4%, 母36.3%), 2位は「わかる」(父50.6%, 母44.9%), 3位は「好き」(父38.6%, 母39.2%), 「わかる」(父33.3%, 母34.7%)で, 1位構成比率からは, 「できる」, 「好き」, 「わかる」となるが, 「わかる」ことの2位比率が高いこと, 「好き」の各順位の比率が均等であることからいくつかの類型があるように思われる。

参観は父母とも3分の1程度は肯定的に回答している。練習量, 質はちょうどよいとするものがそれぞれ83.9%, 91.8%である。費用は15.1%が高く, 11.3%が安いと評価し, 4分の3はちょうどよいとしている。また本人が休みたいときは本人まかせが27.1%で残りほできるだけ休ませない方向で取り扱っている。

#### (2) 活動での期待と現実

活動での期待と現実についての質問項目は指導者, 保護者とも全く同一で, 会員は現実のみ

を平易なことばで質問文を作成している。

いずれも5段階評定尺度で回答を求めた。詳細は文末資料としてあげたが, 本節では5段階尺度の上位2つの肯定的尺度を合計した比率のもので記述していく。なお質問項目は以下の25項目で構成されている。

1. 基礎体力, 健康な身体
2. はげしい運動に耐える体力
3. 健康や安全への態度
4. 水泳の基礎的技能
5. 水泳の本格的技能
6. 水泳の知識
7. 水泳への情熱, 熱意
8. 級があがること
9. 水泳選手になること
10. 一流選手になること
11. 水泳を続けること
12. 得意なスポーツを持つ
13. スポーツマンシップ
14. スポーツの楽しさ
15. スポーツの厳しさ
16. 自主的行動力
17. 判断力, 決断力
18. 精神的強さ, ねばり
19. 礼儀作法, しつけ
20. 体育の成績向上
21. 他教科の成績向上
22. やればできる自信
23. 家庭での手伝い
24. 友達関係をよくする
25. 総合的にみて

#### 1) 活動での期待

指導者では「安全な水泳」, 「スポーツの楽しさ」, 「スポーツの厳しさ」が100.0%, 次に「基礎体力」, 「水泳への情熱」, 「スポーツマンシップ」, 「やればできる自信」が95.3%, 次いで「水泳の基礎的技能」, 「精神的強さ」, 「礼儀作法」が90.5%である。

父兄では「基礎体力」91.6%, 「スポーツの楽しさ」89.3%, 「水泳の基礎的技能」87.9%, 「精神的強さ」, 「やればできる自信」85.7%, 「安全



な水泳への態度」84.2%である。

指導者と保護者とのズレを図にしたものが図5である。差の大きいものは、保護者の方が高いものは「はげしい運動に耐える体力」(45.4%)、指導者の方が高いものは「水泳の選手」(42.1%)や「水泳への情熱」(32.1%)などである。20項目の平均は5.7%である。

### 2) 活動の現実

会員の高かった項目は、「水泳の基礎的技能」(89.2%)、「基礎体力」(80.5%)、「水泳への情熱」(72.8%)、「水泳を続けること」(72.8%)、「水泳の知識」(71.0%)である。

保護者の高かった項目は、「基礎体力」(69.8%)、「やればできる自信」(62.7%)、「水泳の基礎的技能」(59.4%)、「友達関係」(58.7%)、「水泳を続けること」(58.2%)、「級があがることへの関心」(57.5%)である。

指導者の高かった項目は、「級があがることへの関心」(61.9%)、「やればできる自信」(57.2%)、「友達関係」(57.2%)などで、あとは50%を超えるものはなかった。

三者の関係を図にしたものが図6である。全体的には会員、保護者、指導者の順で比率が低くなっている。三者間の項目間で比率の差の大きいものは、会員と保護者間では「水泳の知識」(33.5%)、「一流選手になること」(31.5%)、「水泳の基礎的技能」(29.8%)でいずれも水泳に関するものが保護者の評価以上に会員の方が高くなっている。会員と保護者間の差の平均は13.6%である。また保護者と指導者間では「基礎体力」(31.7%)、「水泳の基礎的技能」(30.8%)、「精神的強さ、ねばり」(30.2%)などでいずれも保護者の方が高く、差の平均は14.1%である。

三者の関係を図にしたものが図6である。全体的には会員、保護者、指導者の順で比率が低くなっている。三者間の項目間で比率の差の大きいものは、会員と保護者間では「水泳の知識」(33.5%)、「一流選手になること」(31.5%)、「水泳の基礎的技能」(29.8%)でいずれも水泳に関するものが保護者の評価以上に会員の方が高くなっている。会員と保護者間の差の平均は13.6%である。また保護者と指導者間では「基礎体力」(31.7%)、「水泳の基礎的技能」(30.8%)、「精神的強さ、ねばり」(30.2%)などでいずれも保護者の方が高く、差の平均は14.1%である。

会員と指導者の差は三者間で最も大きく、平均差は27.6%で会員が思っているほど指導者が評価していない結果になっている。その大きなものは、「水泳の基礎的技能」(60.6%)、「水泳の知識」(56.0%)、「基礎体力」(42.4%)などである。また「級があがることへの関心」は指導者の方が肯定的に捉えている。(11.9%)。

会員達がある程度の評価をしていることがらに対し、保護者が低く、指導者がさらに低く評価しているものの大きなものが水泳そのものに関する認知、行動、性向レベルのものであることは注目すべきである。

### 3) 期待と現実のズレ

指導者では100%を期待していた項目がいくつかありながら、それらの現実はいずれも大きく隔っている。差の大きいものは「精神的ねばり」(76.1%)、「礼儀作法・しつけ」(71.5%)、「スポーツの厳しさ」(71.5%)、

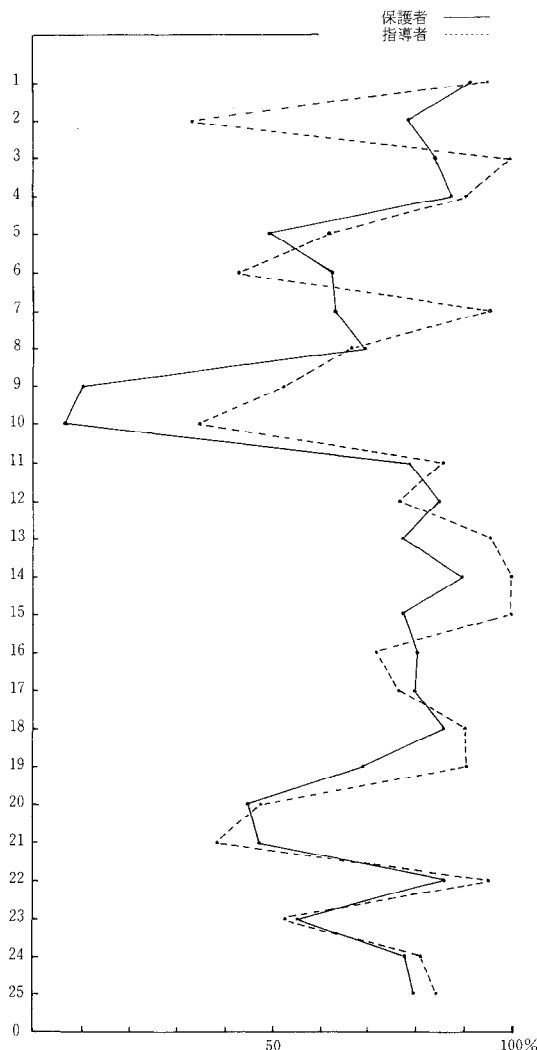


図5. 身につけてほしいことがら (期待)

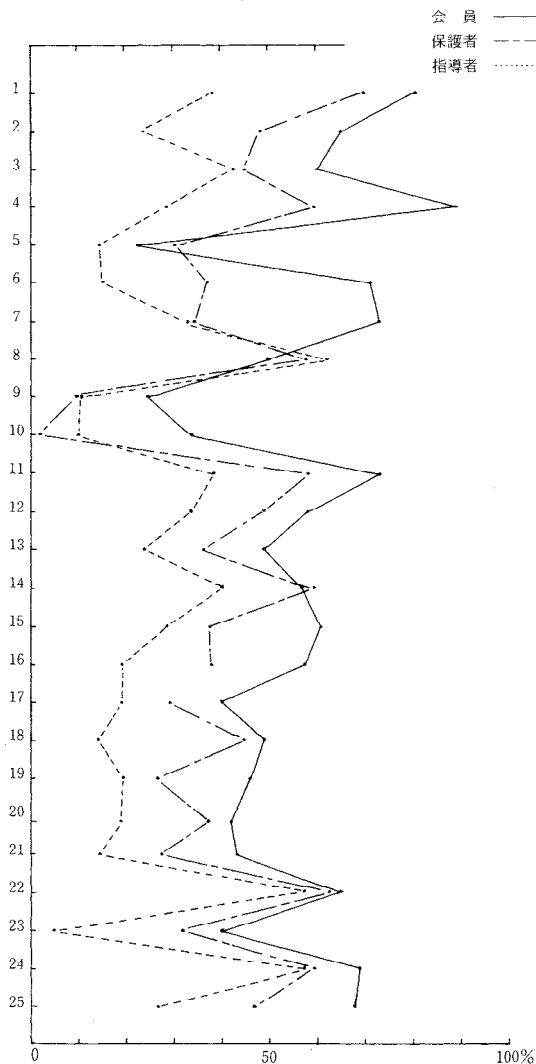


図6. 活動の評価(現実)

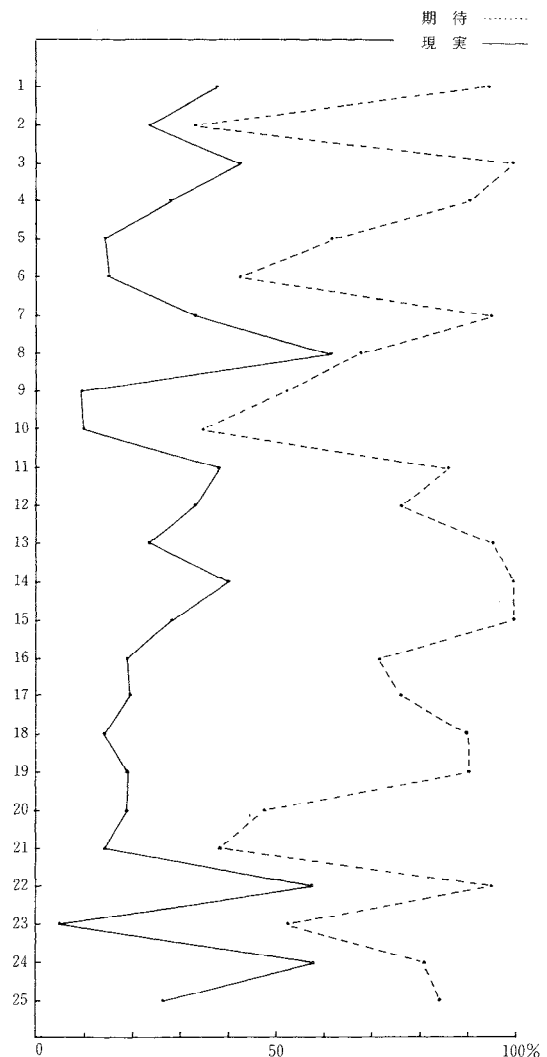


図7. 身につけたいことがら(指導者)

次いで「水泳への情熱」,「水泳の基礎的技能」(61.9%)である。25項目のズレの平均は46.6%である。

保護者では差の大きいものは「判断力・決断力」(50.4%),「自主的行動力」,「礼儀作法・しつけ」(42.5%),「スポーツマンシップ」,「精神的ねばり」(41.3%)といずれも水泳そのものではなく,それ以外の水泳を手段として身につけさせたい態度の項目が多い。その差の平均は26.8%である。

これらの期待と現実の差の大きさは期待が高過ぎることと現実の過小評価とのかかわりで決

まる。そこには指導者の能力に応じた適正な評価や謙虚な回答態度や,保護者の過大な期待しすぎがあるが,根本的には三者の評価基準の相違があり,その基準認識のズレがこれらの差に大きな影響を与えているものと思われる。

### (3) 指導者の指導について

指導者の指導については,指導者の指導開始当時と現在の評価と指導についてのリーダーシップの観点からの三者の認識の2種類の4調査項目群から調べた。

#### 1) 指導者の指導評価の推移

質問項目は行動,認知,性向レベルからの自

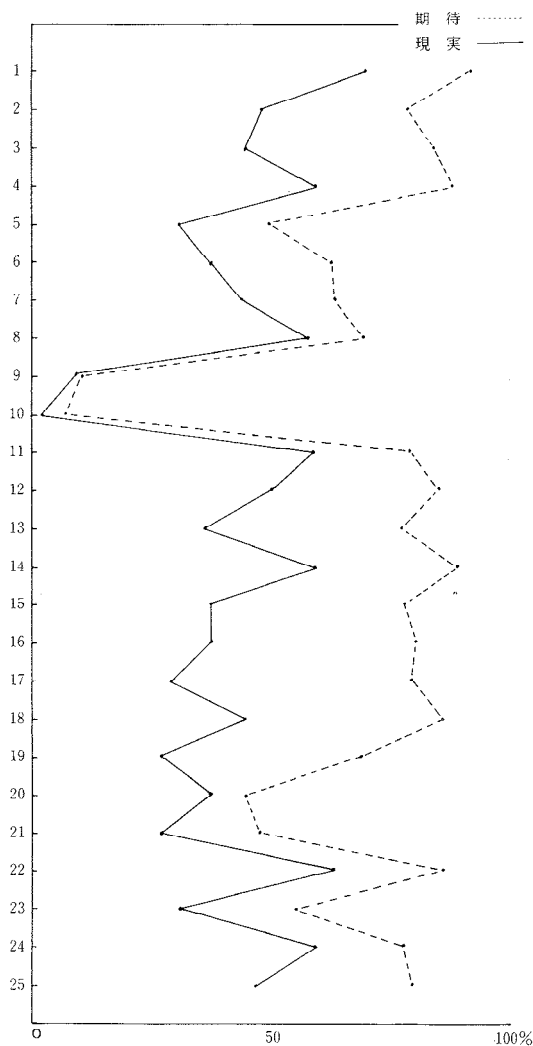


図8. 身につけたいことがら (保護者)

己の水泳, 初心者水泳指導, 選手水泳指導についての以下の9項目である.

1. 水泳の技能
2. 水泳の知識
3. 水泳への熱意
4. 初心者水泳指導の技能
5. 初心者水泳指導の知識
6. 初心者水泳指導への熱意
7. 選手の水泳指導の技能
8. 選手の水泳指導の知識
9. 選手の水泳指導への熱意

それらについての指導開始当時と現在の5段階

階評定尺度の上位2項目の肯定的評価比率の合計を図示したものが図8である.

開始当時から現在まで9項目の平均値は25.3%から52.6%でその差は27.3%である. 現在の本人の水泳, 初心者指導, 選手指導への肯定的評価はそれぞれ57.1%, 58.0%, 42.6%, また行動, 認知, 性向レベル別ではそれぞれ49.8%, 50.8%, 57.2%である.

また指導開始当時と現在との肯定的評価の推移は, 本人水泳, 初心者指導, 選手指導はそれぞれ21.6%, 38.6%, 21.7%で, 初心者水泳への関心が高くなっている. また行動, 認知, 性向レベルについての差では26.4%, 34.9%, 20.6%と認知レベルでの評価の上昇が大きくなってきている.

#### 2) 指導者の指導についての三者の評価

指導者の指導の現状については以下の20項目により調査を行った.

1. 子供達にもっと努力するように求めているか
2. 練習にやる気をなくしたとき勇気づけているか
3. 子供達に練習の計画の流れを知らせているか
4. いったん決定したことは実行しているか
5. 子供達に対し練習の面で厳しいか
6. 子供達の間関係がうまくいくよう気を使っているか
7. 練習に必要な知識や情報をつねに与えているか
8. 練習に必要な知識や情報を持っているか
9. 子供達の力からみてギリギリの練習を求めているか
10. 失敗やミスしたときの気持ちを汲んで指導しているか
11. 練習や指導の方針について理解させているか
12. 子供達の練習に対する評価は適切か
13. 練習をなまけたとき叱っているか
14. 練習で問題が起きたとき一緒になって考えるか

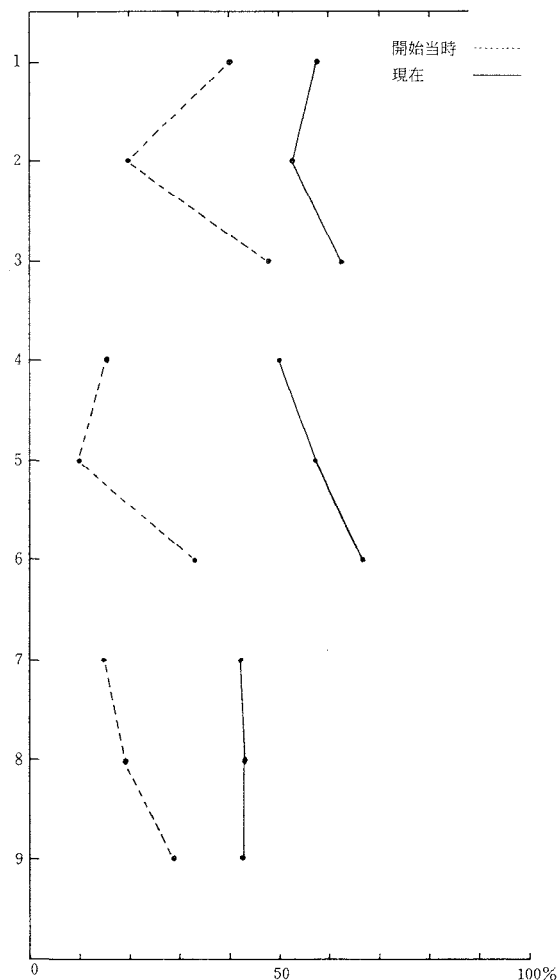


図9. 指導開始当時と現在（指導者）

15. 能力や知識不足なところをつかみ指導しているか
  16. 問題を持ちこんできた場合適切に処置できるか
  17. 他の人や他のグループに負けないよう言っているか
  18. 練習のことで言いたいことを言うてくるか
  19. 個人的問題の相談に快く応じているか
  20. 子供達は先生の決定や判断を信頼しているか
- 三者の20項目の5段階尺度上位2項目の肯定

的比率の合計を図示したものが図10である。全体的傾向は会員、指導者、保護者の順で低くなっている。

会員で高いのは、練習に必要な情報を与えている(85.3%)、練習に必要な情報を持っている(83.0%)、能力不足をつかみ指導、努力するよう求める(78.3%)である。指導者で高いのは、勇気づけ、なまけた時叱る(76.2%)、努力するよう求める、問題を一緒に考える(61.9%)である。また保護者で高いのは先生の決定の信頼(69.8%)、練習に対する評価の適切さ(46.9%)、能力不遇指導(46.0%)、決めたこと実行(43.1%)などである。

また低いのは他のグループに負けるな、個人的問題の相談が三者とも低く、また50%を超えてない評価は会員は4、指導者では10、保護者では19あり、その差は大きい。

また個々の項目での三者間のギャップの大きいものは、会員と指導者間では、必要な情報を持っている(35.4%)、評価の適切さ(33.4%)が会員が高いのに対し、勇気づけは逆に指導者が高くなっている(28.7%)。会員と保護者間では、必要な情報を支えている(46.1%)、必要な情報を持っている(41.3%)、努力するよう求める(39.3%)の差が大きい。指導者と保護者間では、問題を一緒に考える(40.9%)、なまけた時叱る(39.4%)、勇気づけ(37.6%)の差が大きい。全項目の平均差は会員と指導者では11.5%、指導者と保護者では14.0%、会員と保護者では25.6%であった。

これらの項目はあるリーダーシップ調査項目<sup>2)</sup>の一部をスポーツ用に修正し利用したものであり、もとの調査枠組ではリーダーシップを要望性、共感性、通意性、信頼性を4つの機能により類型化を試みている。要望性とは目標達成のために正に働らくものであり、三隅<sup>3)</sup>のP機能に担当し、共感性は集団維持に正に働らくもので、三隅のM機能に担当するものである。また通意性は全体の中での現在の位置、役割を確認するもので個人の集団帰属のアイデンティティに影響するものであり、信頼性はそれを中

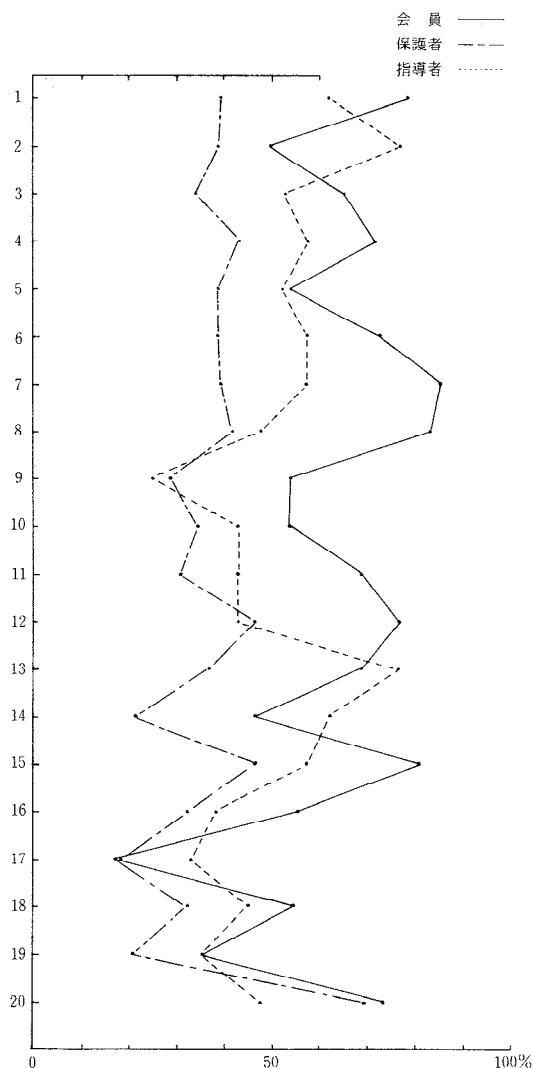


図10. 指導について (会員、保護者、指導者)

心に上述の3機能が有機的に繋がる核となる機能である。それらの機能別得点を三者別にプロットすると図11のようになる。

指導者の指導に関する回答率は指導者はほぼ100%であったが、会員の方は42.1%~68.4%、保護者の方は36.0%~53.5%であり、そのままの数値による考察は問題があるが、指導者と会員に関しては通意性、信頼性に関する若干の内省型の傾向が、また指導者と保護者に関しては共感性を中心に若干の自信過剰型の傾向がみられる。また保護者と会員の指導に関する評価は通意性、信頼性で大きく差がみられている。指

導者が思う以上の会員の評価とそれ以下の保護者の評価は今後の指導のあり方を考えていく一つの材料となると思われる。

#### (4) スポーツの価値

スポーツに対する行動関心を認知、行動、性

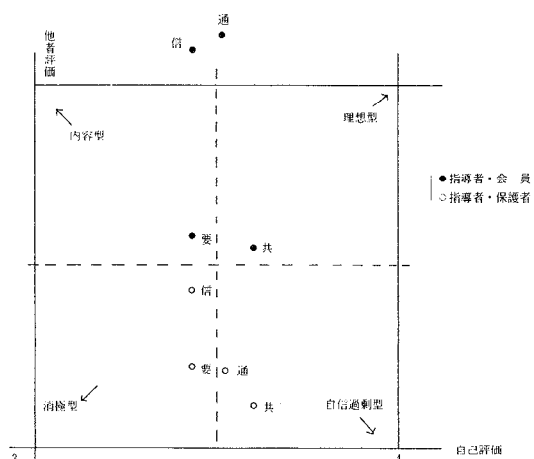


図11. 指導についての自己認知と他者認知

向の3レベルから捉えて水泳に関する、わかる、できる、すきという質問での順位づけの結果、1位に選択した比率は、表1の通りである。

指導者の好きになってほしい願いと保護者のできるようにしてほしい願いのズレは具体的な会員達の練習や日常生活の中でどのように反映されているのだろうか。会員達の身についたことがらでは5段階評価の最上カテゴリーでは知識41.1%、基本的技能54.9%、水泳への熱意37.4%でとにかく技能的な評価は高いといえよう。しかしその自己評価は他二者からの評価との隔差があることは前述の通りである。

またスポーツで大切なことを勝つ、ベスト、フェア、楽しむの4価値で順位づけをさせた第1位の比率は表2の通りである。会員達の楽しみ価値に比較すると、保護者はベストをつくるに比重が高い。これはホンネとタテマエがいろいろ交錯した回答が難しい内容でもあり今後の追調査が必要な項目であると思われる。

#### (5) 男女比較

会員の男女の比較については、平均値がとれるもの(120項目)はt検定を、それ以外のもの

表1. 水泳についての関心

	わかる	できる	すき
指導者	10.0	20.0	71.4
保護者(父)	16.1	53.8	36.4
保護者(母)	20.4	49.5	36.3

はクロス表分析の $\chi^2$ 検定を用いて検定した。

t検定の結果5%水準で有意な差がみられたものは、兄弟の本人の水泳への関心(男>女)、保護者の本人の指導者への信頼(男<女)、会員の勝つことへの関心(男<女)、会員の指導者のきびしさ認識(男>女)の4項目である。

また $\chi^2$ 検定では現在の習いごと、それまでの習いごとが5%水準で有意な差がみられた。

以上から男女には一流競技選手にみられた<sup>45)</sup>ようなスポーツへのかかわり方の自己評価、他者評価についての差はあまりみられなかった。

表2. スポーツについての価値

	勝つ	ベスト	フェア	楽しむ
会 員	4.8	43.1	14.4	42.6
保護者(父)	6.7	63.6	11.1	22.2
保護者(母)	3.0	61.5	9.1	30.7

(6) 自由記述から

自由記入の回答は数値として処理することの難しさと文章を整理してまとめることの困難さから、これまで社会調査では特に客観性の観点から参考程度の取り扱いが多かったように思われる。しかし、内容的には既性の回答カテゴリー一枠外のホンネにせまる記述、思いがけない記述もあり、調査票法の統計的数値処理の限界を超え、それらを補強しながら、調査票法の原点を考える材料を提供することもある。

自由記述はその記述内容そのもの以前に、回答への積極性が調査内容や調査自体への関心度を知る手掛りにもなり得るとも考えられる。

三者に共通したうれしかったこと、いやだったこと及び他二者へ望むこと、調査についての質問項目のうち、回答があったものの比率は表

3の通りである。

うれしかったことといやだったことは、その後の他二者への希望と裏腹になっていくものであると思われるが、会員のうれしかったこと、いやだったことをKJ法的にまとめてみた。ただし、KJ法を用いたものではないので「表礼」の文章集約化因果連関表示などは行わなかった。

ここでは水泳そのもの(技能、知識、関心)やその効果としての体力問題、水泳練習の内容や指導者との関わり、生活時間(学校での勉強、友達との遊び、自由時間など)の変化、家の人との対応、スイミングスクール内外でのいじめ盗難といったトラブルやプール管理などが要約できよう。

プールでのトラブル(いじめ、盗難)といった問題は自由記述ではじめて触れる問題であり、

表3. 記述回答比率

	指導者	会 員	保護者
うれしかったこと	95.2	80.7	78.9
いやだったこと	90.5	51.8	21.1
指導者に望むこと		38.6	57.9
会員に望むこと	95.2		64.0
保護者に望むこと	95.2	27.2	
調査について	76.2	14.9	22.8

水泳以前のこととして今後の要解決課題である。

保護者や指導者への希望の内容は図14、図15の通りであるが、充実してスイミングを送っている内容と多少の改善・改良を自分の甘えと混同させて表現されたものも見受けられるようである。「お父さんといっしょに競争したい」「母をまかしたこと」「もっと私を信じてほしい」「靴をかくされた」「水泳を習わせてもらってよかった」など一つ一つの会員の声の裏に一人一人が努力し、悩み、苦しんだ背景をみると、より詳やかな聞き取り面接調査の必要性を感じる。

会員達の素朴な疑問や希望は時には指導者の意図の取りちがえ、保護者の期待の先取りなどが含まれているかもしれないが、1つの生データとして謙虚に受け取らねばならないものと思

われる。「暗い夜道も1人で喜んで行く姿をたくましく思う」という保護者の観察の眼とそれがいやでたまらないという会員の姿のギャップをどのように理解していけばよいのか。問題を問題として受けとめる力が指導者、保護者にある間は少なくとも会員はスイミングスクールにいて無駄な時間を浪費することはないであろう。サインを見抜く力量が問われるのは単に学校のいじめにおける教師ばかりではない。

### 結語にかえて

三考三様それぞれの立場には、その役割認識行動レベル・認知レベル・性向レベルでまわりの役割期待を意識した形式で行われる。しかし実際の役割期待とは状況によってまた諸個人によって異なっており、相互の立場で理解しえたような「つもり」の世界で認識しあっているといえよう。ジョハリの窓の「開かれた窓」の領域のみで相互行為が理解できるのではなく、あくまでも「隠された窓」「気づかない窓」の領域で日常の行動がなされ、さらに両者ともが認識不能な「わからない窓」があってそれら4つの窓の中で互が互の行動を観察し理解し、評価していく。そこには自分のつもりと他人からみた評価とのズレが絶えず存在し、それが時には全く無用の時には有害な認識のズレとなる。

三者それぞれがそれぞれの意図により、少なくとも自分の中では前後の脈絡が理解できる形で行動が営まれているにも拘らず、本稿でみたようないくつかのズレは、まずそのズレの存在とその大きさを認識することから、自己の軌道修正の出発点の1つになるものと思われる。

自分の立場のみの主張が相手の不理解に結びつくことは相互行為の持続にとって重大な要件を欠くことに繋がる。あるがままの受容からそれぞれの立場を今一度理解し直すことがより充実したスイミングスクールのあり方を探る一つの方途であると思われる。

今後は昨年度行ったサッカー少年団との比較を中心に、期待や現実の評価、指導者の自己評価を因子分析の結果をふまえてより深い考察を深めていきたい。また今回は営利団体の調査が都合で不可能となったがチャンスを作り実施できる方向を模索したいと思っている。

### 参考文献

- 1) 青井和夫 社会学講座1「理論社会学」250—252, 東京大学出版会, 1974.
- 2) 日本リクルートセンター「LDP解説書」, 1975.
- 3) 三隈二不二「新しいリーダーシップ」, ダイヤモンド社, 117—202, 1974.
- 4) 沢田和明「一流競技選手のスポーツへの社会化過程に関する基礎的研究」その2, 滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要No.3, 17—54, 1983.
- 5) 沢田和明「一流競技選手のスポーツへの社会化過程に関する基礎的研究」その3, 滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要No.4, 3—20, 1984.
- 6) 沢田和明「サッカー少年団活動の実態に関する基礎的研究」, 滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要No.5, 13—42, 1985.

図12. うれしかったこと (会員)

<p>クロールや背泳ぎができるようになった バタフライがへただけでできるようになった 平泳ぎが泳げるようになった 25m泳げるようになった 水泳の知識がわかった 知らない泳ぎがよくできるようになった タイムが速くなった 泳ぐことに自信がついた 泳ぐコツがわかった 遠泳ができる いろいろな大会に出た</p>	<p>水泳が好きになった 級がどんどんあがる できなかったことができるようになる 前はかおつけもできなかったがたくさん泳 げるようになった リレーが楽しい</p>
<p>学校でもよく泳げるようになった 学校で水泳するとき「うまいなあ」とか、 「つぎバタフライやってくれ」とか言って くれる 学校の水泳競技会の選手になれてほめられた</p>	<p>人よりも1つだけでも得意なものがあって あって自信につながった</p> <p>運動がよくできるようになった</p>
<p>先生がやさしく、明るい先生ばかりでとてもう れしい 先生がふざけてものをいってくれるのがうれしい にがてなものやとできて先生にほめられて うれしい</p>	<p>友達が多くできた 進級して仲間が増えた 友達関係が深まった 仲良しになった人と会えることがうれしい 毎週いろんな人と会える みんなとできる、一緒にできる 友達の学校の話がきける 知らない人としゃべれる 合宿などあってみんなと仲良くなった</p>
<p>電車の行き帰りが楽しい 電車で行けるのが楽しい 自分で電車で行けるようになった</p>	
<p>母をまかしたこと</p>	



図13. いやだったこと（会員）

<p>練習がきついとき 練習についていけないとき 息つきができないとき 級がうからない</p>	<p>先生がおこる，こわい 先生から何かいわれる 上級でもないのにすごくきつくおしえる</p>
<p>疲れていても宿題や勉強はさぼれない つかれる</p> <p>しんどくてもいきなさいといわれたとき 行くのがしんどい めんどくさい じゃまくさい</p>	<p>友達とゆっくり帰れない ずっと遊びたかったとき 学校の友達とあまりあそべない 習いごとがつづくとき 家での自由時間がなくなる すきなことができなくなった 月曜日はいきたくない</p>
<p>水がつめたい 深くてこわい</p> <p>プールの水がくさい プールの水がきたない 病気をもらうときがあった かぜをひいた しもやけがわるくなる 寒くて身体がひえたとき</p>	<p>友達が少ないので楽しくない 友達の方が級が高いのでいや 友達とちがう級になったとき 友達と口げんかしたとき</p> <p>友達にいじめられていた いやなことをされたとき 服をかくされる かぎをとられる ぞうりが便所の中にあった お金がなくなる 水をかけられる スリにあった 友達の物がなくなっても責任をもって くれない 上級のものがいばる</p>
<p>ちこくしたとき 授業がおそくまであり，忙しい いけないこともある</p> <p>夜道を歩くのがいや，こわい 行くまでが遠い 寒い時暗い中を自転車でかえるのがいや 駅まで歩いて20分，雨の日特にいや さむいとき</p>	

図14. 保護者に望むこと（会員）

<p>水泳を習わしてもらってよかった。 ずっと続ける もと進級したい</p>	<p>もう少しあたたかい目で見てほしい 家に帰ったらゆっくりさせてほしい おかあさんはすぐおこなるのでおこなわないでほしい 練習がしんどいことをわかってほしい もっと私を信じてほしい あんまりうるさく言わないでほしい もっとやさしくしてほしい</p>
<p>車で送り送ってほしい 迎えにきてほしい ときどき見学にきてほしい</p>	<p>もっとスポーツをして下さい お父さんといっしょに競争したい もっと夏に水泳につれて行ってほしい 泳ぎにいったときいっしょに泳いでほしい 家族ともっと泳ぎにいきたい</p>
<p>スイミングスクールのかえりにおやつを買 うお金がほしい</p>	
<p>日曜はゆっくりさせてほしい 水泳の日をかえてほしい 冬はスイミングをやめたい</p>	

図15. 指導者に望むこと（会員）

<p>中学生になっても水泳教室に参加したい 髪がキャップの中に入らずこまっていたら手伝 ってくれた。ありがとう</p>	<p>先生をきめさせてほしい 先生をもっとやさしくしてほしい</p>
<p>他の水泳グループと力の差が大きすぎる</p>	<p>時間より30分くらい前に出席をとるのでよ くおこなってしまう</p>
<p>プールの水がよごれていて目がいたい</p>	<p>タイムをはかって励みにしたい 自分のタイムを知りたい クリスマス会とかをいつもの練習時間にや りたい</p>
<p>同じ水泳仲間にいじめられる（盗難など） 更衣室を管理してほしい</p>	

資料1. 指導者調査 (N=21)

A. 基礎的事項

性別

男	女
66.7	33.3

年代

10代	20代
19.0	81.0

職種

専任	パート	その他	不明
—	95.0	5.0	(4.8)

学歴

大学卒	専門学校卒	高校卒	不明
30.0	5.0	65.0	(4.8)

水泳部歴

水泳	水泳以外	不明
80.0	20.0	(4.8)

水泳競技歴レベル

全国レベル	地域	県	なし
28.6	19.0	33.3	19.0

資格

有	無
61.9	38.1

その内容

審判員	指導員	日赤	教員免許
4.3	47.8	34.8	13.0

指導歴

1年未満	～2年	～3年	3年以上	不明
20.0	15.0	20.0	45.0	(4.8)

指導について

やりたかった	なんとなく	しかたなく
57.1	38.1	4.8

指導の重点(わかる)

1位	2位	3位	不明
10.0	25.0	65.0	(4.8)

指導の重点(できる)

1位	2位	3位	不明
20.0	65.0	15.0	(4.8)

指導の重点(すき)

1位	2位	3位	不明
71.4	9.5	19.0	—

練習の量

多い	やや	ちょうどよい	やや	少ない	不明
—	5.0	80.0	15.0	—	(4.8)

練習の質

高い	やや	ちょうどよい	やや	低い	不明
5.0	5.0	80.0	5.0	5.0	(4.8)

指導以外のスポーツ

あり	なし	不明
25.0	75.0	(23.8)

指導時間

～20時間	～40時間	40時間～	不明
19.6	33.3	47.6	(4.8)

	指導開始当時						現在					
	--	-	0	+	++	不明	--	-	0	+	++	不明
水泳の技能	10.0	10.0	40.0	15.0	25.0	(4.8)	14.3	4.8	23.8	28.6	28.6	—
水泳の知識	—	23.8	57.1	14.3	4.8	—	—	9.5	38.1	42.9	9.5	—
水泳への熱意	—	9.5	42.9	23.8	23.8	—	—	—	38.1	33.3	28.6	—
初心者指導の技能	10.0	60.0	15.0	10.0	5.0	(4.8)	5.0	15.0	30.0	35.0	15.0	(4.8)
初心者指導の知識	14.3	57.1	19.0	4.8	4.8	—	4.8	14.3	23.8	42.9	14.3	—
初心者指導の熱意	4.8	28.6	33.3	28.6	4.8	—	—	4.8	28.6	52.4	14.3	—
選手指導の技能	15.0	35.0	35.0	5.0	10.0	(4.8)	10.5	10.5	36.8	31.6	10.5	(9.5)
選手指導の知識	14.3	42.9	23.8	9.5	9.5	—	14.3	9.5	33.3	38.1	4.8	—
選手指導の熱意	9.5	23.8	38.1	14.3	14.3	—	4.8	4.8	47.6	14.3	28.6	—

B. 会員達に身につけてほしいことから

	期待する程度						実際身につけている程度					
	--	-	0	+	++	不明	--	-	0	+	++	不明
1. 基礎体力, 健康な身体	—	—	4.8	33.3	61.9	—	—	9.5	52.4	33.3	4.8	—
2. はげしい運動に耐える体力	—	33.3	33.3	33.3	—	—	4.8	19.0	52.4	19.0	4.8	—
3. 安全な水泳への態度	—	—	—	31.6	68.4	(9.5)	4.8	19.0	33.3	38.1	4.8	—
4. 水泳の基礎的技能	—	—	9.5	47.6	42.9	—	4.8	—	66.7	28.6	—	—
5. 水泳の本格的技能	4.8	—	33.3	42.9	19.0	—	14.3	14.3	57.1	14.3	—	—
6. 水泳の知識	—	—	57.1	28.6	14.3	—	—	35.0	50.0	15.0	—	(4.8)
7. 水泳への情熱・熱意	—	—	4.8	52.4	42.9	—	—	9.5	57.1	28.6	4.8	—
8. 級があがることへの関心	4.8	—	28.6	28.6	38.1	—	4.8	9.5	23.8	47.6	14.3	—
9. 水泳選手になること	4.8	4.8	38.1	19.0	33.3	—	4.8	33.3	52.4	9.5	—	—
10. 一流選手になること	15.0	20.0	30.0	10.0	25.0	(4.8)	15.0	30.0	45.0	10.0	—	(4.8)
11. 水泳を続けること	—	—	14.3	23.8	61.9	—	—	14.3	47.6	33.3	4.8	—
12. 得意なスポーツを持つ	—	—	23.8	23.8	52.4	—	—	9.5	57.1	23.8	9.5	—
13. スポーツマンシップ	—	—	4.8	42.9	52.4	—	—	19.0	57.1	14.3	9.5	—
14. スポーツの楽しさ	—	—	—	35.0	65.0	(4.8)	—	5.0	55.0	30.0	10.0	(4.8)
15. スポーツのきびしさ	—	—	—	42.9	57.1	—	—	23.8	47.6	23.8	4.8	—
16. 自主的行動力	—	—	28.6	14.3	57.1	—	4.8	19.0	57.1	14.3	4.8	—
17. 判断力, 決断力	—	—	23.8	33.3	42.9	—	4.8	23.8	52.4	14.3	4.8	—
18. 精神的強さ, ねばり	—	—	9.5	33.3	57.1	—	4.8	28.6	52.4	9.5	4.8	—
19. 礼儀作法, しつけ	—	—	9.5	23.8	66.7	—	4.8	33.3	42.9	14.3	4.8	—

20. 体育の成績向上	4.8	4.8	42.9	33.3	14.3	—	4.8	—	76.2	19.0	—	—
21. 他教科の成績向上	14.3	—	47.6	28.6	9.5	—	9.5	—	76.2	14.3	—	—
22. やればできる自信	—	—	4.8	33.3	61.9	—	4.8	—	38.1	47.6	9.5	—
23. 家庭での手伝い	9.5	—	38.1	38.1	14.3	—	9.5	14.3	71.4	4.8	—	—
24. 友達関係をよくする	9.5	—	9.5	33.3	47.6	—	4.8	9.5	28.6	42.9	14.3	—
25. 総合的にみて	—	—	15.8	47.4	36.8	(9.5)	—	5.3	68.4	15.8	10.5	(9.5)

### C. スイミングスクールの指導について

	—	—	0	+	++	不明
1. 努力するよう求める	—	9.5	28.6	38.1	23.8	—
2. やる気のないときの勇気づけ	—	4.8	19.0	61.9	14.3	—
3. 計画の流れ知らせる	—	23.8	23.8	38.1	14.3	—
4. 決定したことは実行	—	14.3	28.6	47.6	9.5	—
5. 練習の面で厳しい	—	9.5	38.1	33.3	19.0	—
6. 人間関係に気をつかう	—	4.8	38.1	33.3	23.8	—
7. 必要な知識、情報を与える	—	14.3	28.6	42.9	14.3	—
8. 必要な知識、情報を持っている	—	14.3	38.1	38.1	9.5	—
9. ギリギリの練習を求める	—	40.0	35.0	20.0	5.0	(4:8)
10. 失敗・ミス of 気持ちを汲む	—	4.8	52.4	23.8	19.0	—
11. 練習指導の方針理解させる	—	14.3	42.9	33.3	9.5	—
12. 練習の評価は適切	—	14.3	42.9	33.3	9.5	—
13. なまけたとき叱る	—	—	23.8	42.9	33.3	—
14. 問題を一緒に考える	—	4.8	33.3	47.6	14.3	—
15. 能力・知識不足なところ指導	—	9.5	33.3	38.1	19.0	—
16. 問題を適切に処置	—	14.3	47.6	28.6	9.5	—
17. 他の人やグループにまけるな	9.5	19.0	38.1	23.8	9.5	—
18. 言いたいことを言ってくる	—	15.0	40.0	30.0	15.0	(4:8)
19. 個人的問題の相談にのる	10.0	10.0	45.0	20.0	15.0	(4:8)
20. 決定や判断を信頼	—	—	52.4	42.9	4.8	—

	回答率	最小値	最大値	平均値	S. D.
要望性	95.3	2.60	5.00	3.43	0.584
共感性	95.3	2.67	4.67	3.60	0.647
通意性	100.0	2.00	5.00	3.51	0.772
信頼性	100.0	2.40	4.60	3.43	0.631

### D. 記述の有無

	有	無
1. うれしかったこと	95.2	4.8
2. いやだったこと	90.5	9.5
3. 子供に望むこと	95.2	4.8
4. 父兄達に望むこと	95.2	4.8
5. この調査について	76.2	23.8

資料2. 会員調査 (N=114)

A.

学年

3年	4年	5年	6年	不明
12.4	31.0	30.1	26.5	(0.9)

父親のスポーツ

よく	ときどき	あまり	不明
21.8	42.7	35.5	(3.5)

性別

男	女	不明
49.1	50.9	(1.8)

母親のスポーツ

よく	ときどき	あまり	不明
12.5	24.1	63.4	(1.8)

以前の習いごと

あり	なし
71.9	28.1

父親参観

よく	ときどき	あまり	不明
9.1	25.5	65.5	(3.5)

現在の習いごと

あり	なし
82.5	17.5

母親参観

よく	ときどき	あまり	不明
5.3	28.1	66.7	—

入りがかったか

はい	どちらともいえない	いいえ	不明
41.1	51.8	7.1	(1.8)

水泳のはなし

よく	ときどき	あまり	不明
36.3	54.0	9.7	(0.9)

以前の習いごとの内容 (重答)

音楽	そろばん	絵画	英語	学習塾	習字	バレー	スカウト	スポーツ	不明
45.7	21.0	4.9	4.9	13.6	35.8	2.5	2.5	13.6	(28.9)

現在の習いごとの内容 (重答)

音楽	そろばん	絵画	英語	学習塾	習字	バレー	スカウト	スポーツ	不明
42.6	25.5	3.2	8.5	23.4	35.1	2.1	3.2	17.0	(17.5)

入会決定者

自分	父	母	その他	父母	自分・母	自分・父	自分・父母	不明
45.6	12.3	23.7	3.5	9.6	2.6	0.9	1.8	—

水泳の記事

よく	ときどき	あまり	不明
4.4	43.9	51.8	—

練習のまじり度

いつも	ときどき	あまり	ぜんぜん	不明
11.7	47.7	27.9	12.6	(2.6)

スポーツの価値 (勝ち)

1位	2位	3位	4位	不明
4.8	8.7	15.4	71.2	(8.8)

水泳楽しいか

いつも	ときどき	あまり	ぜんぜん	不明
34.2	47.4	17.5	0.9	—

スポーツの価値 (ベスト)

1位	2位	3位	4位	不明
43.1	29.4	23.9	3.7	4.4

休みたいと思うか

いつも	ときどき	あまり	ぜんぜん	不明
2.6	38.6	32.5	26.3	—

スポーツの価値 (フェア)

1位	2位	3位	4位	不明
14.4	40.4	34.6	10.6	(8.8)

内容記述

あり	なし
42.1	57.9

スポーツの価値 (楽しむ)

1位	2位	3位	4位	不明
42.6	21.3	24.1	12.0	(5.3)

やめたいと思うこと

いつも	ときどき	あまり	ぜんぜん	不明
—	16.2	40.0	43.8	(7.9)

B. 身についたことから

	--	-	0	+	++	不明
1. 基礎体力, 健康な身体	1.9	2.9	14.6	32.0	48.5	(9.7)
2. はげしい運動に耐える体力	4.0	8.1	22.2	27.3	38.4	(13.1)
3. 安全な水泳への態度	3.2	5.3	31.6	30.5	29.5	(16.7)
4. 水泳の基礎的技術	—	2.0	8.8	34.3	54.9	(10.5)
5. 水泳の本格的技術	24.7	23.7	28.9	11.3	11.3	(14.9)
6. 水泳の知識	0.9	6.5	21.5	29.9	41.1	(6.2)
7. 水泳への情熱, 熱意	2.8	7.5	16.8	35.5	37.4	(6.2)
8. 級があがること	7.7	18.3	24.0	22.1	27.9	(8.8)
9. 水泳選手になること	34.3	20.2	21.2	16.2	8.1	(13.2)
10. 一流選手になること	24.2	21.2	21.2	15.2	18.2	(13.1)
11. 水泳を続けること	2.9	4.9	19.4	33.0	39.8	(9.7)
12. 得意なスポーツを持つ	4.8	9.6	27.9	24.0	33.7	(8.7)
13. スポーツマンシップ	7.6	17.4	26.1	26.1	22.8	(19.3)
14. スポーツの楽しさ	1.9	9.7	32.0	27.2	29.1	(9.7)

15. スポーツのきびしさ	3.9	6.8	29.1	28.2	32.0	(9.6)
16. 自主的行動力	6.1	9.1	27.3	32.3	25.3	(13.1)
17. 判断力, 決断力	5.4	10.8	44.1	25.8	14.0	(18.5)
18. 精神的強さ, ねばり	9.9	15.8	25.7	24.8	23.8	(11.4)
19. 礼儀作法, しつけ	12.0	16.3	26.1	27.2	18.5	(19.3)
20. 体育の成績向上	13.6	10.7	34.0	14.6	27.2	(9.7)
21. 他教科の成績向上	12.2	10.2	34.7	22.4	20.4	(14.0)
22. やればできる自信	3.9	8.8	22.5	28.4	36.3	(10.6)
23. 家庭での手伝い	18.4	10.2	31.6	20.4	19.4	(14.0)
24. 友達関係をよくする	5.8	6.8	18.4	25.2	43.7	(9.7)
25. 総合的にみて	5.3	2.1	25.3	37.9	29.5	(16.6)

C.

	--	-	0	+	++	不明
1. 努力するよう求める	5.2	5.2	11.3	37.1	41.2	(14.9)
2. やる気のないとき勇気づけ	9.9	12.1	28.6	24.2	25.3	(20.2)
3. 計画の流れ知らせる	6.9	12.7	15.7	27.5	37.3	(10.6)
4. 決定したことは実行	2.1	6.4	20.2	23.4	47.9	(17.5)
5. 練習の面で厳しい	4.8	7.7	33.7	25.0	28.8	(8.8)
6. 人間関係に気をつかう	3.0	6.1	18.2	20.2	52.5	(13.2)
7. 必要な知識, 情報を与える	2.0	3.9	8.8	28.4	56.9	(10.5)
8. 必要な知識, 情報を持っている	--	2.1	14.9	16.0	67.0	(17.6)
9. ギリギリの練習を求める	2.2	5.6	38.2	28.1	25.8	(22.0)
10. 失敗・ミス of 気持ちを汲む	4.3	13.0	29.3	27.2	26.1	(19.3)
11. 練習指導の方針理解させる	6.7	5.6	19.1	27.0	41.6	(22.0)
12. 練習の評価は適切	1.0	5.9	16.8	17.8	58.4	(11.4)
13. なまけたとき叱る	6.3	8.3	16.7	29.2	39.6	(15.8)
14. 問題を一緒に考える	11.6	8.7	33.3	20.3	26.1	(39.5)
15. 能力, 知識不足なところを指導	--	6.7	12.5	22.1	58.7	(8.8)
16. 問題を適切に処置	1.2	12.0	31.3	28.9	26.5	(27.2)
17. 他の人やグループにまけるな	35.6	12.6	34.5	10.3	6.9	(23.2)
18. 言いたいことを言える	9.3	9.3	26.7	17.4	37.2	(24.6)
19. 個人的問題の相談にのる	19.1	11.8	33.8	16.2	19.1	(40.4)
20. 決定や判断を信頼	2.4	2.4	22.4	21.2	51.8	(25.5)

	回答率	最小値	最大値	平均値	S. D.
要望性	54.4	2.00	5.00	3.58	0.67
共感性	42.1	1.00	5.00	3.55	0.93
通意性	68.4	2.00	5.00	4.14	0.79
信頼性	57.0	1.80	5.00	4.10	0.72



D. 記述回答

	有	無
父の意見	59.6	40.4
母の意見	70.2	29.8
コーチの意見	28.9	71.1
友人の意見	39.5	60.5
うれしいことの内容	80.7	19.3
いやなことの内容	51.8	48.2
両親へ望むこと	27.2	72.8
コーチへ望むこと	38.6	61.4
調査について	14.9	85.1

資料3. 保護者調査 (N=114)

A.

週練習日

1回	2回以上	不明
59.6	40.4	(4.4)

学年

3年	4年	5年	6年	不明
12.5	31.3	29.5	26.8	(1.8)

性別

男	女	不明
50.5	49.5	(2.6)

交通機関

徒歩	自転車	バス・電車	車	不明
2.7	6.2	76.1	15.0	(0.9)

所要時間

～10分	～20分	～30分	～40分	～50分	～60分	不明
11.1	21.5	43.0	14.9	4.7	4.7	(6.1)

重要な他者

父	母	友達	その他	不明
13.6	51.8	16.4	18.2	(3.5)

目的

水泳	スポーツ	ならいごと	不明
39.8	59.3	0.9	(0.9)

運動部経験

	有	無	水泳
父	43.9	56.1	2.6
母	32.4	67.6	3.5
兄弟			

定期的運動

有	無	不明
30.1	69.9	(9.6)
29.3	70.7	(9.7)
65.0	35.0	(29.8)

スポーツへの関心

--	-	0	+	++	不明
1.9	5.6	11.1	40.7	40.7	(5.3)
1.8	10.9	21.8	32.7	32.7	(11.5)
1.4	4.3	22.9	30.0	41.4	(38.6)

教育への関心

--	-	0	+	++	不明
3.6	4.5	35.5	31.8	24.5	(3.5)
0.9	2.7	27.9	39.6	28.8	(2.6)

水泳への関心

--	-	0	+	++	不明
2.7	6.3	34.8	32.1	24.1	( 1.8)
4.5	2.7	31.3	33.0	28.6	( 1.8)
7.5	4.5	38.8	25.4	23.9	(41.2)

入会決定への関心

--	-	0	+	++	不明
2.8	1.8	26.6	31.2	37.6	( 4.4)
-	0.9	10.6	41.6	46.9	( 0.9)
9.1	-	40.9	25.8	24.2	(42.1)

練習開始当時の関心

--	-	0	+	++	不明
2.7	1.8	24.3	34.2	36.9	( 2.6)
-	-	17.8	39.3	43.0	( 6.2)
6.3	1.6	53.1	21.9	17.2	(43.9)

現在の練習への関心

--	-	0	+	++	不明
1.0	1.0	36.2	37.1	24.8	( 7.9)
-	1.0	27.9	40.4	30.8	( 8.8)
6.3	1.6	51.6	20.3	20.3	(43.9)

将来の練習への関心

--	-	0	+	++	不明
1.0	3.8	38.5	35.6	21.2	( 8.8)
1.0	2.9	33.3	41.2	21.6	(10.5)
4.8	3.2	54.0	22.2	15.9	(44.8)

スポーツの価値 (勝つ)

	1位	2位	3位	4位	不明
父親	6.7	7.8	17.8	67.8	(21.1)
母親	3.0	7.0	16.0	74.0	(12.3)

スポーツの価値 (ベスト)

1位	2位	3位	4位	不明
63.6	27.3	9.1	-	(13.2)
61.5	27.9	9.6	1.0	( 8.8)

スポーツの価値 (フェア)

1位	2位	3位	4位	不明
11.1	28.9	48.9	11.1	(21.1)
9.1	32.3	49.5	9.1	(13.2)

スポーツの価値 (楽しむ)

1位	2位	3位	4位	不明
22.2	33.3	23.3	21.1	(21.1)
30.7	30.7	23.8	13.2	(11.4)

教えてもらいたいこと (わかる)

1位	2位	3位	不明
16.1	50.6	33.3	(23.7)
20.4	44.9	34.7	(14.0)

教えてもらいたいこと (できる)

1位	2位	3位	不明
53.8	21.5	24.7	(18.4)
49.5	27.7	22.8	(11.4)

教えてもらいたいこと (好き)

1位	2位	3位	不明
36.4	25.0	38.6	(22.8)
36.3	24.5	39.2	(10.5)

参観

--	-	0	+	++	不明
16.5	22.3	30.1	19.4	13.6	( 7.9)
17.3	13.5	32.7	24.0	12.5	( 8.8)

練習の内容（量）

多い	ちょうどよい	少ない	不明
2.3	83.9	13.8	(23.7)

費用

高い	やや	ちょうどよい	やや	安い	不明
0.9	14.2	73.6	10.4	0.9	(7.1)

練習の内容（質）

高い	ちょうどよい	低い	不明
—	91.8	8.2	(35.9)

本人が休みたとき

休ませない	本人まかせ	不明
72.9	27.1	(6.1)

B. 身につけてほしいことから

	期待する程度						実際身につけている程度					
	--	-	0	+	++	不明	--	-	0	+	++	不明
1. 基礎体力, 健康な身体	—	—	8.3	15.7	75.9	(5.3)	—	1.9	28.3	40.6	29.2	(7.0)
2. はげしい運動に耐える体力	—	1.9	19.4	38.0	40.7	(5.3)	—	9.4	42.5	32.1	16.0	(7.0)
3. 安全な水泳への態度	—	—	15.7	33.3	50.9	(5.3)	1.0	4.8	49.5	33.3	11.4	(7.9)
4. 水泳の基礎的技能	—	0.9	11.1	33.3	54.6	(5.3)	0.9	9.4	30.2	39.6	19.8	(7.0)
5. 水泳の本格的技能	4.7	5.6	40.2	27.1	22.4	(6.1)	8.6	15.2	45.7	24.8	5.7	(7.9)
6. 水泳の知識	—	2.8	34.6	28.0	34.6	(6.1)	2.9	11.5	48.1	29.8	7.7	(8.8)
7. 水泳への情熱, 熱意	—	0.9	35.8	31.1	32.1	(7.0)	1.9	6.8	47.6	33.0	10.7	(9.6)
8. 級があがることへの関心	3.7	1.9	25.2	43.0	26.2	(6.1)	1.9	9.4	31.1	41.5	16.0	(7.0)
9. 水泳選手になること	37.0	13.0	39.8	7.4	2.8	(5.3)	37.5	20.2	32.7	7.7	1.9	(8.8)
10. 一流選手になること	44.4	14.8	34.3	5.6	0.9	(5.3)	37.5	20.2	32.7	7.7	1.9	(8.8)
11. 水泳を続けること	0.9	1.8	18.6	32.7	46.0	(0.9)	2.7	4.5	34.5	30.9	27.3	(3.5)
12. 得意なスポーツを持つ	—	—	15.2	39.3	45.5	(1.8)	2.7	6.4	41.8	33.6	15.5	(3.5)
13. スポーツマンシップ	—	0.9	21.6	36.0	41.4	(2.6)	2.8	5.6	55.6	25.9	10.2	(5.3)
14. スポーツの楽しさ	—	0.9	9.8	41.1	48.2	(1.8)	0.9	4.5	35.5	39.1	20.0	(3.5)
15. スポーツのきびしさ	—	1.8	20.5	36.6	41.1	(1.8)	2.7	13.6	46.4	27.3	10.0	(3.5)
16. 自主的行動力	—	1.8	17.9	33.9	46.4	(1.8)	4.5	16.4	41.8	26.4	10.9	(3.5)
17. 判断力, 決断力	0.9	1.8	17.9	39.3	40.2	(1.8)	3.6	15.5	51.8	21.8	7.3	(3.5)
18. 精神的強さ, ねばり	—	—	14.3	33.0	52.7	(1.8)	1.8	16.4	37.3	30.0	14.5	(3.5)
19. 礼儀作法, しつけ	—	3.6	27.7	30.4	38.4	(1.8)	2.7	13.6	57.3	21.8	4.5	(3.5)
20. 体育成績向上	5.4	3.6	46.4	23.2	21.4	(1.8)	2.7	10.0	50.0	23.6	13.6	(3.5)
21. 他教科の成績向上	8.0	7.1	37.5	25.9	21.4	(1.8)	5.5	10.9	56.4	22.7	4.5	(3.5)
22. やればできる自信	—	0.9	13.4	28.6	57.1	(1.8)	0.9	6.4	30.0	41.8	20.9	(3.5)
23. 家庭での手伝い	2.7	5.4	36.9	24.3	30.6	(2.6)	3.7	12.8	52.3	21.1	10.1	(4.4)
24. 友達関係をよくする	—	0.9	21.6	35.1	42.1	(2.6)	—	5.5	35.8	40.4	18.3	(4.4)
25. 総合的にみて	—	—	20.9	47.3	31.8	(3.5)	—	2.8	50.5	35.8	11.0	(4.4)

### C. スイミングスクールの指導について

	--	-	0	+	++	不明
1. 努力するよう求める	—	8.5	52.4	28.0	11.0	(28.1)
2. やる気のないときの勇気づけ	3.6	14.5	43.4	24.1	14.5	(27.2)
3. 計画の流れ知らせる	4.1	20.3	41.9	23.0	10.8	(35.0)
4. 決定したことは実行	—	6.2	50.8	27.7	15.4	(43.0)
5. 練習の面で厳しい	2.3	9.3	50.0	31.4	7.0	(24.6)
6. 人間関係に気をつかう	4.0	5.3	52.0	22.7	16.0	(34.2)
7. 必要な知識、情報を与える	5.4	18.9	36.5	28.4	10.8	(35.1)
8. 必要な知識、情報を持っている	5.6	8.3	44.4	23.6	18.1	(36.9)
9. ギリギリの練習を求める	4.1	10.8	56.8	18.9	9.5	(35.1)
10. 失敗・ミス of 気持ちを汲む	2.7	11.0	52.1	24.7	9.6	(35.9)
11. 練習指導の方針理解させる	2.7	18.7	48.0	22.7	8.0	(34.2)
12. 練習の評価は適切	2.5	5.1	45.6	30.4	16.5	(30.7)
13. なまけたとき叱る	2.6	14.5	46.1	32.9	3.9	(33.3)
14. 問題を一緒に考える	1.6	22.6	54.8	14.5	6.5	(45.6)
15. 能力・知識不足なところ指導	2.6	18.4	32.9	34.2	11.8	(33.4)
16. 問題を適切に処置	—	7.5	60.4	11.3	20.8	(43.5)
17. 他の人やグループにまけるな	1.8	12.7	67.3	12.7	5.5	(51.7)
18. 言いたいことを言ってくる	—	13.6	54.2	27.1	5.1	(48.2)
19. 個人的問題の相談にのる	1.9	17.0	60.4	11.3	9.4	(53.5)
20. 決定や判断を信頼	1.2	1.2	27.9	32.6	37.2	(24.5)

	回答率	最小値	最大値	平均値	S. D.
要望性	41.2	2.00	4.40	3.22	0.57
共感性	36.0	2.17	4.50	3.11	0.59
通意性	53.5	1.75	4.75	3.21	0.83
信頼性	41.2	2.20	5.00	3.43	0.65

### D. うれしいこと、いやなこと

	--	-	0	+	++	不明
うれしいこと	1.0	—	13.3	48.6	37.1	( 7.9)
いやなこと	66.7	18.6	13.7	1.0	—	(10.5)

### E. 記述回答

	有	無
うれしい内容	78.9	21.1
いやな内容	21.1	78.9
本人に望むこと	64.0	36.0
コーチに望むこと	57.9	42.1
調査について	22.8	77.2

## スポーツクラブ参加者、指導者の意識の相違に関する基礎的研究

### ——高校バスケットボールクラブの事例——

沢田 和明 (滋賀大学教育学部) 町田 登 (滋賀県立玉川高等学校)

#### 1. 緒 言

人間は各個人の目標の合理的な遂行のために多様な集団に属している。集団は一般的に共通の目標や関心、役割分化にもとづく組織性、成員の行動や関係を規制する規範、統一的なわれら感情、相互行為の持続性などの基本的な特徴を持つものと考えられている。それら各属性は相互に関わりを持ち、具体的な構成員の行動様式となって表れてくる。その具体的な行動はその目標遂行のためにプラスの影響を成員に及ぼすリーダーシップと成員相互のコミュニケーションを中核として営まれていく。

スポーツを対象とした機能集団においても同様なことがらが考えられ、集団の成熟度を増すためにも集団の基本的特徴のチェックや具体的相互作用の現状の把握、その背景にある諸個人の価値観やそれに基づく他者の評価等にも配慮をする必要がでてくる。

スポーツそれ自体はこれまでその基本的性格をプレイにおきアゴン(競争性)を中核とした捉え方で、生理的必要や経済的效果とは無縁または余り関連がないという見方が強い。そこには共通の目標の設定という集団の存続の基盤を形成することがらが副次的なものとして考えられていくことを容認するような風土があり、その問題よりは具体的な練習活動が定期的に継続されていく実績を優先させてきた傾向の存在を必ずしも否定できないように思われる。このことは個人の自由意志で参加するスポーツであるから、個人の自由意志で脱退することができるというプレイの基本的性格をよりどころとし、許容される範囲

で、またはその範囲を若干越えても、各人の目標が集団の目標に優先する一種の自由裁量の空間を成立させてきている。このことは二者択一を迫られた場合に容易にスポーツを放棄していく立場(たかがスポーツ)からと、スポーツに他と同様またはそれ以上の価値を見出そうとする立場(されどスポーツ、だからスポーツ)からの両面から同じように考えられることである。

具体的なスポーツ現象は、極めて受動的な日常的な仕事、ある時は苦役ににも似た活動から、人間性回復の特効薬として、新しい価値観創造の原点の一つとしてまで多様な捉え方がなされるが、展開される事象は上述の諸個人の多様な価値観を背景に、いつでも自由裁量が顔をのぞかす危険性を内包しながら続けられてきている。これはそのスポーツ活動の質の問題とは関連しない普遍的なものであるといえよう。その不安定な活動の一つのあり方がある地域を限定した競技会で上位入賞や優勝することであったり、仲間と楽しく活動することであったり、時には苦役以外の何ものでもなかったりする。

ところで集団の活動は十分な集団自体の認識や成員相互の理解がなされていることがより効果的機能を発揮すると思われるが、必要充足よりは活動自体を目的的に遂行するスポーツクラブにおいては他の機能集団ほど明確な了解がないことが多い。それは自己中心的な判断がかなりの範囲に許され、その修正を必要とする必然性を持たなくとも集団それ自体の存続が可能な機能集団であるからである。

## 2. 目的・手順

本研究は集団の目標遂行をより効果的にすることを共通テーマとして認識できる成員を持ちながら、その成果が今一つ不十分であるとするスポーツ集団にとって、より効果的運営のための検討に必要とされる基礎的データを、指導者の指導についての指導者の自己評価とクラブ員の他者評価のズレを中心に収集しようとするものである。

スポーツ社会学班ではこれまで国体選手、スポーツ少年団員、中学校運動クラブ所属者を対象にこれらズレを手懸りとする研究を続けてきた。本年度は高等学校運動クラブ所属者を対象とし、それらを総括して、この一連の研究のまとめをも意図している。

調査対象は滋賀県の高등학교のバスケットボールクラブ所属者（男子41校、女子43校）及び指導担当教員で、部員は各校15名抽出、教員は悉皆で、調査票の配票回収を各指導者に依頼する方法で実施した。

また集計は、単純基礎集計に加え、性別、競技力別の単純クロス集計、及び項目間のクロス等を予定している。

なおここで用いられている調査項目のうち、教師のリーダーシップに関するものは、国体選手以下の調査に用いられたものとほぼ同様のもので、企業の管理職リーダーシップの調査に用いられているもののうち24項目を部分的にスポーツに修正し適用したものである。それ故集団の目標が異なるため若干の違和感やその援用の限界を考慮に入れねばならないが、同様なものによる模擬的比較の可能性と他に適当なスポーツ用のテストが見当たらないことを理由に用いてきた。

この調査項目は本来46項目で構成され、それらは大きく4つの因子で考えられている。即ち信頼できるリーダーを感じさせる〈信頼性〉、目標遂行という機能にとって活動を進めるように働くリーダーシップとしての〈要望性〉、集団維持、仲間づくりなどの連帯意識、心のつながりといったリーダーシップの

〈共感性〉、具体的な練習方法が全体の中でどのように位置づいているのかについての情報提供や確認のリーダーシップとしての〈通意性〉である。それらは信頼性を中核として、他の3つが相互に関わりあいを持ち、調和がとれていることが必要となるものといえよう。要望性、共感性は三隅のPM理論のP(Performance)機能、M(Maintenance)機能にあたるものであり、TMI理論からすればT(Task)機能、M(Maintenance)機能にあたるものといえる。

なお本研究では信頼性をS、要望性をY、共感性をK、通意性をTとして略記する部分がある。

## 3. 結 果

回収数は督促1回の結果、27校（64.3%）から部員480名、教師36名であった。各校各クラブ毎に男女それぞれ15校ずつ配票したが、正確なクラブ員数、指導者数を把握していなかったため各々の回収率を算出することはできなかった。

また、内容的にかなり指導者の内面に入る項目もあり、指導者自身の回答のみがないものや男女チームのうち一方のみの回収等もあり、また地域的に若干回収のかたよりなどがみられ、調査票作成や配票、督促などの調査方法にも問題があるように思われる。

それ故以下の結果はそれらの偏りの中でのいう限界の下の結果であり、標本の代表値として適切であるかに関しては多少問題があるといえよう。

### (1) 基礎集計

#### A 部員調査（N=480）

性別では男子40.2%；59.6%、学年別では1年51.0%、2年47.7%、3年1.0%であった。3年の少ないのは調査の時期的問題である。中学校時代のスポーツクラブはバスケットが76.0%、その他が20.4%で、女子より男子の方が経験比率が高い。現在のクラブでのリーダー的役割の者15.8%、レギュラー選手

36.9%である。週活動日数は6日以上が68.5%、4～5日25.8%、2～3日は4.2%、1日0.8%。活動への積極性は5段階評価でひじょうに積極的なもの24.6%、やや積極的なもの43.5%で7割余りが肯定的に回答している。

活動目的は全体の比率の高いものから、人間形成19.2%、健康体力づくり17.9%、仲間づくり13.3%であるが、男子では人間形成が24.4%、女子では仲間づくり17.1%と性別の差が大きい。これまでに出場した競技レベルでの最高のもは、全国2.5%、近畿4%、県64.8%、不参加と思われる不明者が28.7%いた。

活動継続でのなやみとして、勉強との両立の問題では15.0%がひじょうに悩み、32.5%はやや悩みをもっている。余りまたはぜんぜん悩まないというものは24.5%であった。また私生活との関係ではひじょうに悩んでいるものが12.3%、やや悩んでいるもの27.9%で、両者で約4割を占め、若干勉強の方での悩みが強いといえるが、かなりのものが悩みを抱えた形で練習を続けている。

練習時間は短い、長いと判断するものがそれぞれ12.7%、14.6%で、練習内容の消化は22.9%が精一杯と回答し、9.0%が消化不足と回答している。練習内容の決定は指導者51.7%、指導者と一部部員が31.9%で両方で8割を占めている。練習の計画は年間計画を組んで行っているもの26.9%、特定大会を中心に組んでいるもの38.3%、その日その日によっての練習が33.1%である。指導の厳しさは12.5%がひじょうに、23.1%がやや厳しいと回答している。部員の練習への積極性は余り積極的でないが19.6%、ぜんぜん4.2%で両者で約4分の1が否定的に回答している。

指導に対する部員の理解度は36.2%が肯定的に、19.8%は否定的に回答している。一方クラブ活動への教師の理解度については34.9%が肯定的に、22.7%が否定的に回答し、それら2つの質問は同様な結果になっている。

チームの実力の自己評価は、ひじょうに強

い4.8%、やや強い26.5%、あまり強くない22.1%、ぜんぜん強くない13.3%で、残り33.3%がふつうと回答している。目標とする競技成績については、全国大会入賞9.2%、全国大会出場22.9%、近畿大会入賞10.6%、近畿大会出場10.6%、県大会入賞32.7%、県大会出場16.7%となっている。また全国大会への関心は26.7%がひじょうに、17.7%はやや、30.4%は否定的に回答し、全国大会出場への関心も同様に25.4%がひじょうに、18.1%がやや、32.7%は否定的に回答している。

教師の指導内容で、個人的技能については87.7%が理解できると回答し、それが自分でできるもの37.1%、できないもの50.6%であり、理解できず、できないものが10.6%である。集団的技能の指導については、35.8%がわかり、できると回答し、わかるができないもの50.0%、わからないしできないもの12.5%である。なおこの2つの質問は男女で若干の差がみられ、男子は肯定的なわかるできるタイプが多いが女子にはできないと回答する比率が高くなっている。練習で重点をおくことがらについては、基礎と応用では基礎75.0%、応用24.4%、オフェンス・ディフェンスではオフェンス34.5%、ディフェンス63.1%である。

クラブ活動を続けてよかったこと、いやだったことの記述は、それぞれ78.1%、72.7%であった。社会調査では自由記述の回答の比率が調査内容に対する関心の程度や調査そのものの回答の積極性を判断する資料として用いられたりすることがある。結果はかなりの者が記入をし、関心が高いとみてよかろう。よかったこと、いやだったことそれぞれに記入があり、その内容も技術、教師との関係、生徒相互の関係、勉強との関係、目標と練習成果とのギャップなど、多種多様にわかれている。具体的なまとめについては稿を改める。

#### B 指導者調査 (N=38)

クラブ員とちがい指導者は悉皆調査であったが、回収率が低いのと、もともと総数が少

ないことから、統計的に処理に耐え得るものとはいえないが、概略を述べていく。

男性80.6%、女性19.4%。20代33.3%、30代47.3%、40代16.6%、50代2.8%。担当教科は保健体育38.9%、それ以外58.3%。校務分掌では51.4%が担任をもっている。指導は男女両方の指導をしているもの11.1%、男子のみ38.9%、女子50.0%で、勤務校のクラブは80.6%が両方ともありと回答している。

学生時代のバスケット部所属歴については、中学校63.9%、高校61.1%、大学50.0%で、クラブ所属なしが中高大それぞれ11.1%、16.7%、19.4%であった。バスケットボール指導歴は5年未満26.5%、10年未満29.4%、10～19年35.3%、20年以上8.8%である。週指導日数は1日以下が5.8%、2～3日28.6%、4～5日17.1%、6日以上48.6%で約半数が6日以上指導をしている。指導への積極性についての5段階評価ではひじょうに積極的が37.1%、やや積極的が28.6%、どちらともいえないが14.3%、余り積極的でないが20.0%、ぜんぜん積極的でないが0%である。指導の協力者がいると回答したもの66.7%でその内訳は同僚87.5%、OB,OG 4.2%、その他8.3%である。指導目的は勝利33%、人間形成47.2%、余暇利用2.8%、健康体力2.8%、仲間づくり8.3%である。

チームの実力評価はやや強いが22.2%でふつうが36.1%、否定的な評価が41.7%である。目標としては全国大会出場25.0%、近畿大会出場13.9%、県大会入賞41.7%、県大会出場19.4%である。全国大会への関心は5段階評価でひじょうにありが27.8%、ややあり11.1%、ふつう19.4%、余りない16.7%、ぜんぜんない25.0%で、これは全国大会出場への関心とほぼ同じになっている。部員の指導内容の理解に関しては個人的技能、わかるできるが25.0%、わかるできない61.1%、わからないできない13.9%、集团的技能については、わかるできる16.7%、わかるできない63.9%、わからないできない19.7%である。また練習

で大切なものは基礎練習、応用練習の二分法ではそれぞれ97.2%、2.8%、オフェンス・ディフェンスでは36.1%、63.9%である。

自由記入によるよかったこと、わるかったことに関しては記入が72.2%、77.8%である。

### C 教師のリーダーシップについて

教師の指導に関する24項目の5段階評価における上位2つのカテゴリーの合計値を、教師側の自己評価と、生徒側の他者評価を図示したものが図1である。項目は以下の通りである。

1. 予定どおり練習をしたときでもさらに高い目標を要求するか
2. 部員の体の具合や気分がすぐれないとき心配しているか
3. 部員に高校生のクラブ活動のありかたについて考えさせているか
4. いったん決定したことは実行しているか
5. 部員に生徒会や学校の期待を上回る成績を要求しているか
6. 部員が練習にやる気をなくしたとき勇気づけているか
7. 部員に学校や高体連の運営方針をしらせているか
8. 練習に必要な知識や技術をもっているか
9. 部員にもっと練習するよう求めているか
10. 部員の人間関係がうまくいくように気をつけているか
11. 部員に練習の計画をしらせているか
12. 問題解決のための新しいアイデアをだしているか
13. 部員に対して練習の面で厳しいか
14. 部員を理解しているか
15. 練習に必要な情報を部員に知らせているか
16. 学校や高体連に対して発言力、影響力をもっているか
17. 部員のかからみてギリギリいっぱい練習を要求しているか
18. 部員がミスをしたとき、部員の気持ちをくんで処理しているか



19. 学校でクラブについて決められたことを説明しているか
20. チームの話し合いを能率的にすすめているか
21. 部員に練習の改善を要求しているか
22. 部員がスランプにおちいったときには気をつかっているか
23. 部員に練習の方針について知らせているか
24. 問題がおきたときに、いつもできばきと処理しているか

教師とクラブ員の間で差の大きかった項目は、2, 6, 10, 19, 22などであり、19は質問の内容が多様にとられ回答のしにくい項目であることを考えると、残りはいずれも集団の目標遂行の問題ではなく、チームワークや人間関係、集団関係の維持という内容のものである。三隅のPM理論のM機能に属するものであり、本研究の枠組からすると共感性の項目になる。

教師のリーダーシップについての男女の差は図2の通りであり、同様な傾向を示しているが、5段階評価の上位肯定の2つのカテゴリーの構成比率からすると、13の練習の面での厳しきに対する評価に差がみられる。

また上位校、下位校別にみたものは、男子図3、女子図4、教師図5の通りである。なお両者は県大会前年度成績ベスト8までを上位校、それ以外を下位校とした。

4要素別に項目得点を合計し平均したものは表1～5の通りである。男女比較ではt検定の結果、信頼性に1%水準で有意差がみられた。上位校、下位校については、男子では4要素全てに0.1%水準で有意な差がみられ、女子は全てに有意な差はみられなかった。この点に関してはもう少し別の角度からの分析が必要なように思われる。

教師のリーダーシップの自己評価・他者評価の要因別の平均値及びt検定の結果の有意水準については文末資料に教師16項目、生徒14項目をあげてある。(資料4, 5)。

表1. 要因別平均値(教師, 部員)

	部員 (N=400)	教師 (N=36)	有意差
Y	3.26	3.29	—
K	3.10	3.73	***
T	3.31	3.46	—
S	3.25	3.22	—

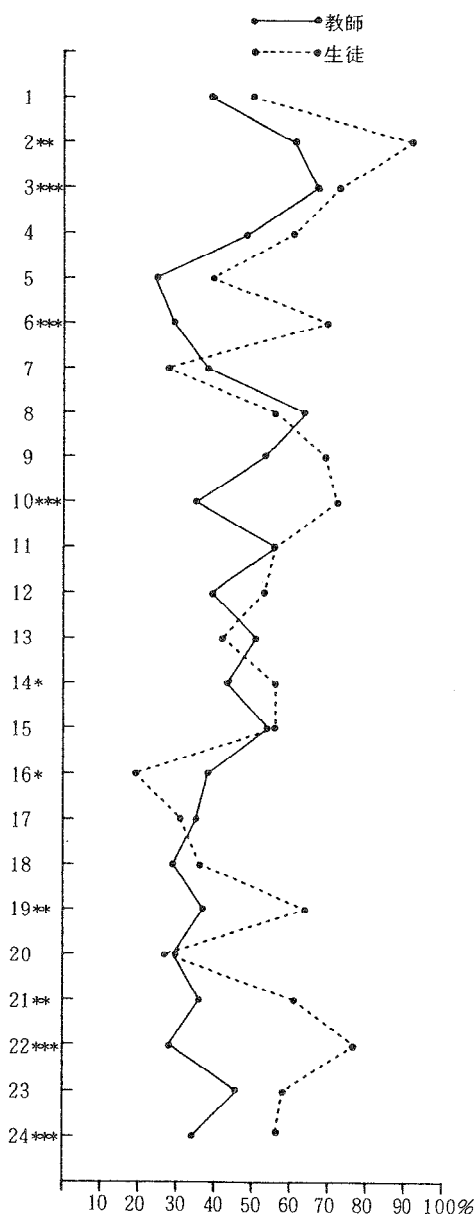


図1. 教師のリーダーシップ (自己評価, 他者評価)

表 2. 要因別平均値(部員)

	男子 (N=193)	女子 (N=287)	有意差
Y	3.34	3.21	—
K	3.02	3.15	—
T	3.38	3.27	—
S	3.40	3.15	**

表 3. 要因別平均値(男子部員)

	上位校	下位校	有意差
Y	3.77	3.07	***
K	3.30	2.85	***
T	3.67	3.19	***
S	3.97	3.05	***

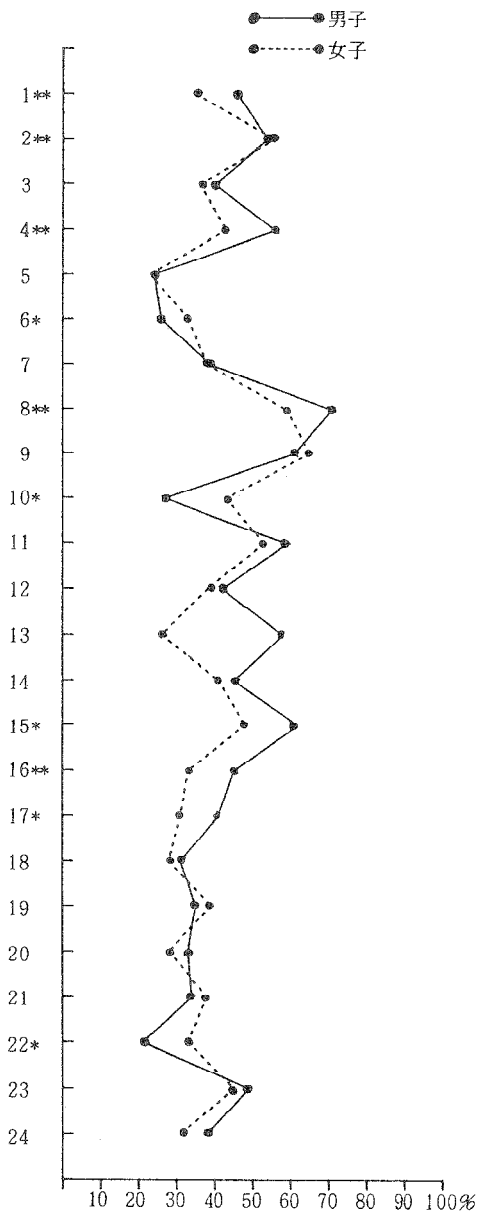


図 2. 教師のリーダーシップ (他者評価, 男女)

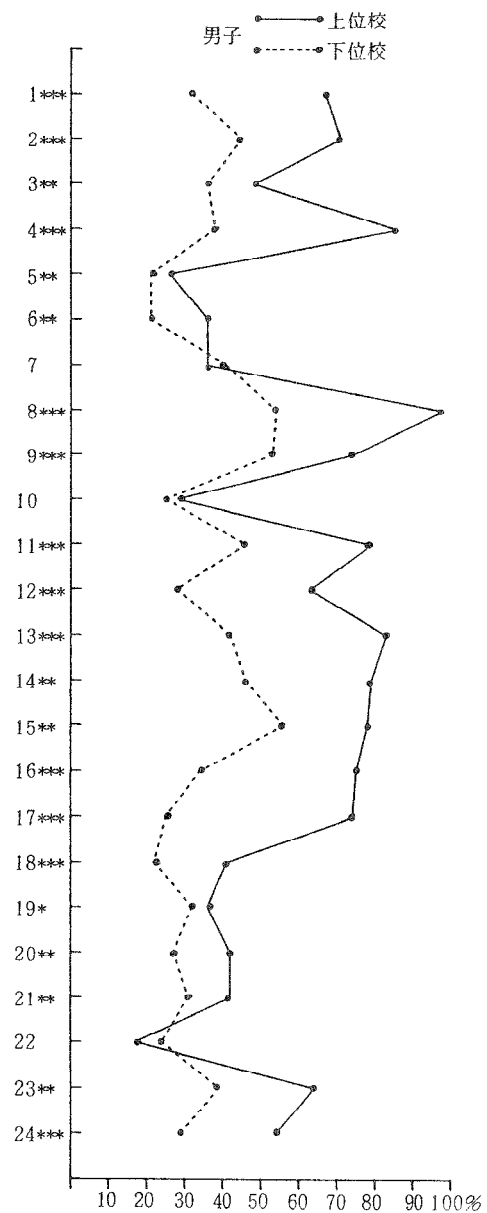


図 3. 教師のリーダーシップ (他者評価男子)

表4. 要因別平均値(女子)

	上位校 (N=90)	下位校 (N=196)	有意差
Y	3.14	3.25	—
K	3.31	3.09	—
T	3.38	3.23	—
S	3.25	3.12	—

表5. 要因別平均値(教師)

	上位校	下位校	有意差
Y	3.36	3.26	—
K	3.83	3.68	—
T	3.59	3.40	—
S	3.53	3.08	—

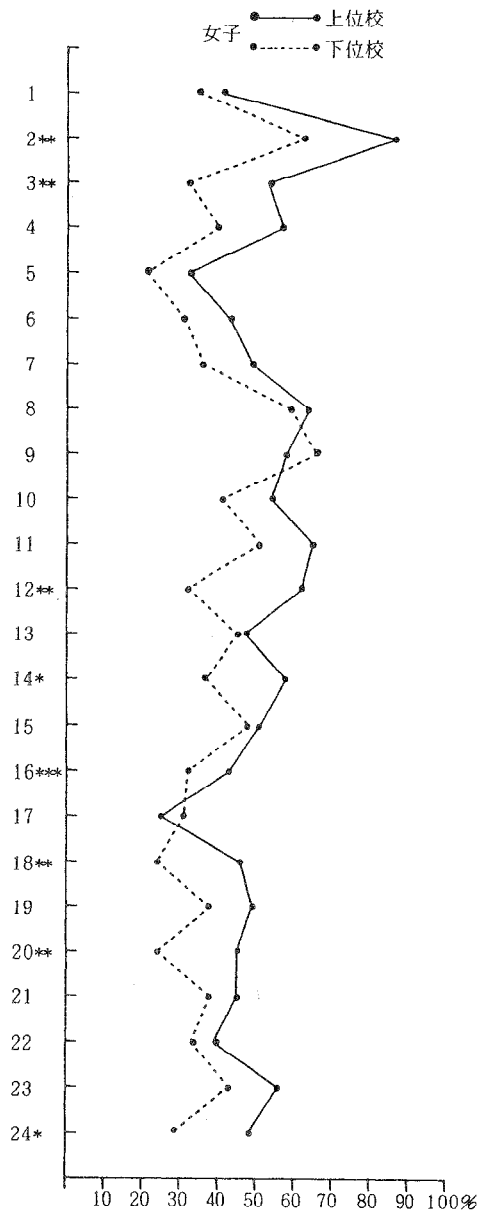


図4. 教師のリーダーシップ(他者評価女子)

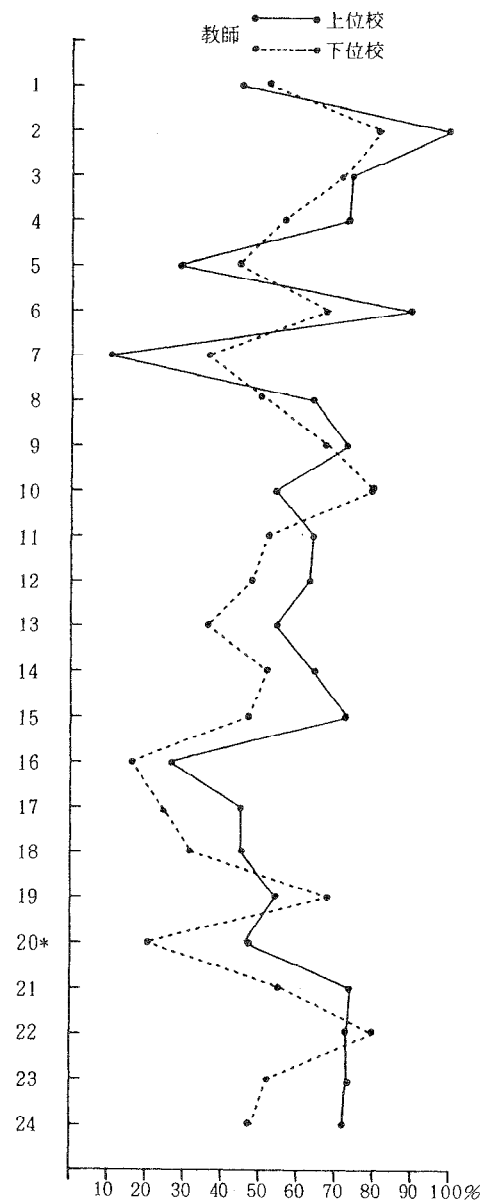


図5. 教師のリーダーシップ(自己評価)

その結果、教師調査で要因別に特定質問項目と有意差があったものは、要望性では指導日数(0.1%)、指導積極性(1%)、練習内容の決定(5%)、指導のきびしさ(0.1%)、部員の積極性(1%)、チームの実力認識(5%)、全国大会への関心(1%)であり、共感性では指導のきびしさ(5%)、部員の積極性(1%)、教師の部員理解(5%)、部員の教師理解(5%)であった。また通意性では週指導日数(5%)、指導のきびしさ(0.1%)、部員の積極性(0.1%)、部員の教師理解(0.1%)、チームの実力認識(5%)であり、信頼性は担当教科(1%)、高校時代の運動歴(5%)、週指導日数(1%)、指導積極性(0.1%)、指導のきびしさ(0.1%)、部員の積極性(0.1%)、チームの実力認識(1%)、全国大会への関心(1%)であった。

部員からみた教師のリーダーシップの要因別平均点との差の検定では、教師の自己評価以上に有意な差を示すものが多いといえよう。4項目とも5%水準までの差があるものは、本人の積極性、活動目的、練習内容の決定、部員の積極性、部員の教師理解度、教師の部員理解度、チームの実力認識、全国大会への関心、指導内容の理解(個人、集団とも)であった。特に活動目的、部員の教師理解度、指導内容理解の集団技術については全て0.1%水準の差であった。これは勝利目的に活動し、教師が練習内容を決定し、部員の教師理解が高く、指導内容がわかり、できる部員はそうでない部員に比較して、教師のリーダーシップの4要因全てに高評価をしていることを示している。

各要因別では若干共感性に関するものが他に比較すると少ないように思われる。またリーダー的存在であるかどうかには有意な差がなく、レギュラーかどうかは共感性(5%)のみに、また個人的な勉強との悩みは要望性(1%)に差がみられた。

上述の男女差が大きいことを考え合わせると、男女別、さらには実力別、またその組み

合わせ別の比較が必要となるように思われる。

## (2) 教師と部員の比較

### A 共通質問項目について

今回の調査の中心である教師と部員との意識のズレをみるために、両者に類似の質問を設けている。

活動の目的は表6の通りで、勝利目的には差はないが、人間形成的側面は教師の方に大きい。チームの実力認識、および全国大会への関心は表7、8であるが、同様な傾向ではあるが、教師の方が部員よりやや厳しい評価をし、関心のない比率が教師に多い。

相互理解については、指導に対する教師の部員理解度と部員自身の評価及び、活動に対する教師の部員理解度と部員自身の評価については表8、9の通りである。上下の各2つのカテゴリーを合計するとほぼ同様の結果になるが若干5段階評価では、教師より部員が肯定的評価が高いといえまた部員の分散が大きい。

また指導内容の理解については個人技能、集団技能は表10の通りである。いずれも教師以上によりよく理解し、できていると回答している。

また他のこととの間での悩みについては、両者への質問の尺度が不統一で単純比較不能であるが、教師の方がより悩みをかかえて指導にあたっているように思われる。

### B 教師のリーダーシップについて

部員の全体、男女別、実力別(部員男、女及び教員)についての24項目の平均値プロフィールおよびY. K. T. S. の平均値は前述の通りである。ここではそれらをも含め同一の項目についてのY. K. T. S. の自己評価・他者評価を二次元にプロットし、そのズレをみていく。

プロットの結果は基本的には図6のような名称で表現することができよう。45°の線上にあれば両者の評価が一致し、離れればそれぞれの評価の異なりを示す。

図7は教師と部員全体及び部員の男女別の

表6. 活動目的

	勝利	人間形成	余暇利用	健康体力	仲間づくり	その他
教師	33.3	47.2	2.8	2.8	8.3	5.6
部員	35.8	19.2	2.5	17.9	13.3	10.0

表7. チームの実力

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん
教師	—	22.2	36.1	27.8	13.9
部員	4.8	26.5	33.3	22.1	13.3

表8. 全国大会への関心

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん
教師	27.8	11.1	19.4	16.7	25.0
部員	26.9	17.7	24.8	16.2	14.2

表9. 教師の部活指導への部員の理解

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん
教師	8.3	19.4	52.8	16.7	2.8
部員	11.0	25.2	43.8	12.7	7.1

表10. 部員の部活動への教師の理解

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん
教師	5.6	30.6	47.2	13.9	2.8
部員	11.2	23.7	42.1	15.0	7.7

表11. 指導内容理解

	個人技能			集団技能		
	わかる できる	わかる できない	わからない できない	わかる できる	わかる できない	わからない できない
教師	25.0	61.1	13.9	16.7	63.9	19.7
部員	37.1	50.6	10.6	35.8	50.0	12.5

表12. 勉強や校務との間の悩み

	ひじょうに	やや	どちらとも いえない	あまり	ぜんぜん
教師	25.0	44.4	( )	22.2	8.3
部員	15.0	32.5	22.1	16.9	13.5

表13. 私生活との間での悩み

	ひじょうに	やや	どちらとも いえない	あまり	ぜんぜん
教師	22.2	47.2	( )	25.0	5.6
部員	12.3	27.9	24.4	20.2	15.0

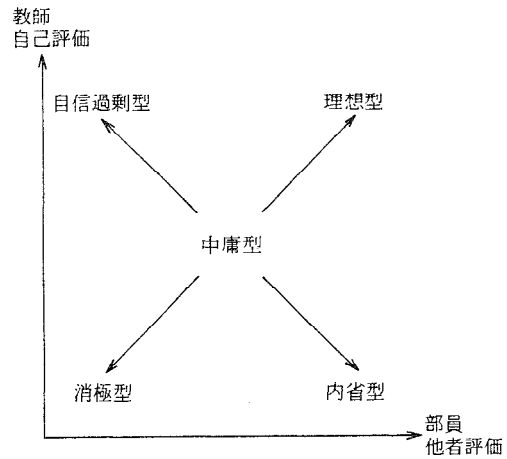


図6. 自己評価, 他者評価類型

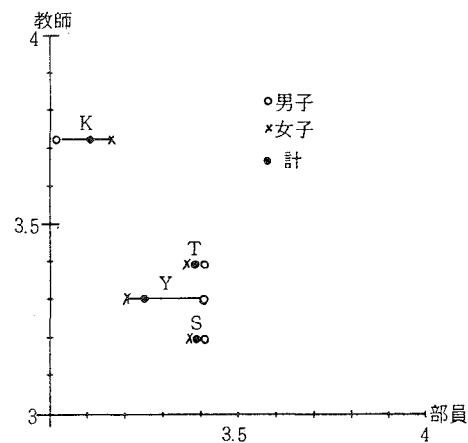


図7. 教師と部員(男女)

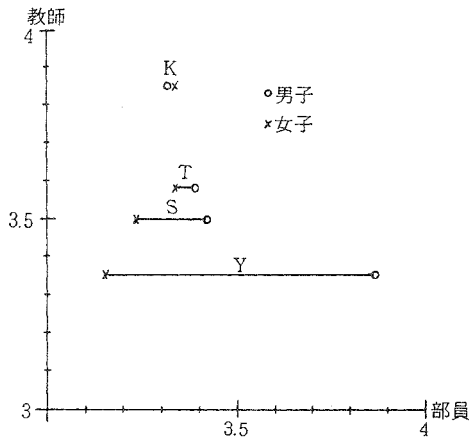


図8. 教師と部員 (上位校)

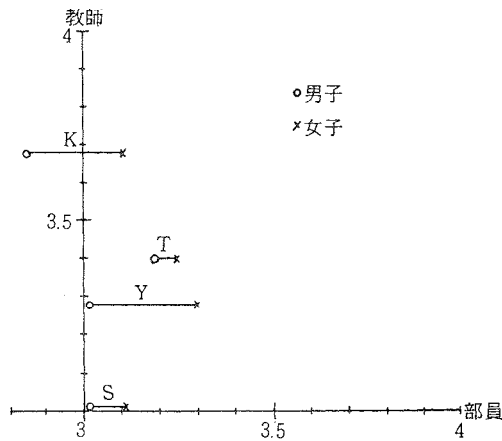


図9. 教師と部員 (下位校)

ものであるが、共感性を除いてはほぼ両者の評価は同じであるが、共感性のみは教師の自信過剰傾向がみられ、また男子が好評価をしている他3つの要因に比較し、女子が共感性で評価が高い。

また上位校では、要望性を除き男女の差は小さく、共感性では教師の自信過剰型である。要望性は男女でかなりの差がみられ、女子は自信過剰型、男子は内省型であり、この観点は興味深いといえよう。

他方下位校では共感性がかなり自信過剰型で、信頼性の値にはズレはないが評価が低い。

### (3) 因子分析

リーダーシップ調査に用いた24項目は先述の通り46項目からなる調査項目より抽出したもので、4要素はそれらより因子分析で出たものである。教師と部員の両者とも同じような要素が出るかどうか、教師、男子、女子、上位校、下位校の5種類の因子分析を主因子法、バリマックス回転により行った。

その結果固有値1以上の因子数は教師8、男子部員4、女子部員3、上位校4、下位校3で、負荷量の多いいくつかの項目は表14の通りである。

教師は数多くの因子に分かれ、内容をまとめるのに難点があるが、第1因子は通意性に関わるものと要望性的一部分を加えたもの、第2因子もいくつかの要素が組み合わさっている。第3因子は信頼性、第4因子は通意性に関わるものである。教師は多様さそれ自体が特徴であるといえるかもしれない。

男子部員は第1因子は共感性、第2因子は信頼性と要望性、第3因子は通意性、また女子部員は第1因子共感性、第2因子は通意性を中心に一部信頼性、第3因子は要望性である。男女とも共感性が第一に明確に上がってきている。

上位校は第1因子は通意性、第2因子要望性、第3因子共感性、下位校は第1因子共感性、第2因子共感性を除く3因子、第3因子は要望性である。

表14. 因子分析結果(因子別主要因子負荷項目)

〈教 師〉											
F 1 (52.4%)			F 2 (15.2%)			F 3 (10.0%)			F 4 ( 6.9%)		
C 23	練習方針	0.846	C 12	問題解決 アイデア	0.753	C 16	発言力・ 影響力	0.697	C 7	運営方針	0.752
C 13	練習厳しさ	0.788	C 6	勇気づけ	0.725	C 8	必要な知識 技術	0.673	C 19	決められた ことの説明	0.673
C 11	練習計画	0.556	C 15	練習の情報	0.627	C 24	てきばき 処理	0.584	C 3	クラブ活動 のあり方	0.542
〈男 子〉											
F 1 (72.4%)			F 2 (14.6%)			F 3 ( 8.4%)			F 4 ( 4.5%)		
C 18	気持ちをく んだミス処理	0.759	C 13	練習厳しさ	0.753	C 23	方針連絡	0.734	C 17	ギリギリ 練習	0.533
C 14	部員の理解	0.733	C 17	ギリギリ 練習	0.656	C 11	計画を 知らせる	0.687	C 21	練習改善	0.370
C 6	勇気づけ	0.674	C 8	知識や技術	0.648	C 7	運営方針	0.639	C 19	決められた ことの説明	0.311
C 10	人間関係	0.674	C 16	発言力・ 影響力	0.613	C 15	必要情報 報告	0.571			
C 22	スランプ 気づかい	0.673	C 1	より高い 目標	0.584						
			C 4	決定事項の 実行	0.569						
〈女 子〉											
F 1 (84.9%)			F 2 (10.7%)			F 3 ( 4.4%)					
C 14	部員の理解	0.769	C 20	能率的 話しあい	0.589	C 5	上回る成績 要求	0.774			
C 18	気持ちをく んだミス処理	0.724	C 19	決められた ことの説明	0.577	C 1	さらに高い 目標	0.694			
C 6	勇気づけ	0.723	C 15	必要情報 報告	0.568	C 17	ギリギリ 練習	0.574			
C 22	スランプ 気づかい	0.717	C 16	発言力・ 影響力	0.545	C 13	練習厳しさ	0.557			
C 10	人間関係	0.680	C 23	練習方針	0.530						
C 2	気分すぐれ ぬ心配	0.615									
〈上位校〉											
F 1 (66.5%)			F 2 (17.4%)			F 3 (10.5%)			F 4 ( 5.6%)		
C 19	決められた ことの説明	0.722	C 13	練習厳しさ	0.801	C 6	勇気づけ	0.758	C 21	練習改善	0.555
C 23	練習方針	0.666	C 17	ギリギリ 練習	0.705	C 10	人間関係	0.692	C 11	練習計画	0.359
C 15	必要情報 報告	0.656	C 1	さらに高い 目標	0.630	C 22	スランプ 気づかい	0.681			
C 7	運営方針	0.642				C 10	人間関係	0.666			
C 20	チームの 話し合い	0.622									
〈下位校〉											
F 1 (84.1%)			F 2 (11.0%)			F 3 ( 4.8%)					
C 14	部員の理解	0.792	C 13	練習厳しい	0.690	C 5	上回る成績 要求	0.841			
C 22	スランプ 気づかい	0.742	C 15	必要情報 報告	0.627	C 1	より高い 目標	0.554			
C 6	勇気づけ	0.720	C 23	練習方針	0.617						
C 10	人間関係	0.685	C 8	知識・技術	0.573						
C 2	気分すぐれ ぬ心配	0.664	C 16	発言力・ 影響力	0.565						

因子分析をする標本単位が何らかの共通性を持たず持つほどその結果に明確な因子構造が出るものであるが、このことは4因子をもとにした見方の採用可能性の問題とも関わり、今後の検討課題になる。

#### 4. 結語にかえて

高等学校のバスケットボールの調査結果では、教師と部員の間でかなりの意識のズレがあることがわかった。またそのズレも部員の属性としての男女差、実力差によりその大小のあることがわかった。それは教師がチーム実力の差によってリーダーシップ項目に殆ど認識の差がみられないことを考えあわせるとさらに興味深い問題になってくる。

これらのことは現在集計に加えられた、即ち回収された部分による結果であり、滋賀県を代表する結果とするには問題があるし、また実力の有無の評価基準をどこで区切るかにより異なるし、さらに基本的属性の組み合わせに何をを用いるかにもより違った結果になってくる。もちろん学校の規模、部員数の大小により配票依頼数の検討なども重要な基本的問題となろう。この結果はそれらの限界の中での考察であり、それ以上でも以下でもない。

社会調査の限界を調査方法の改良や分析の方法でカバーする努力は必要であり、可能な限り行われねばならないが、徒らに細部にわたる統計的検定にふりまわされることも不要である。社会調査の一般的な限界の中で謙虚にこのズレについての結果を受容したいものである。

これまでの団体選手、スポーツ少年団などの調査とも関連させ共通的なところを略記すると、指導者は選手や部員に比較して一般的にはリーダーシップ評価に自省的傾向がみられ、その傾向は指導対象が低年齢化すればするほど強くなるように思われる。それは各指導者の専門性の自己認識のちがいによることなどがそのような見せかけのズレを作るといえるかもしれない。またその中では信頼性や

要望性が特に内省的であるのに対し、共感性は逆に指導者の自信過剰的傾向が見うけられるといえよう。即ち指導を受ける側からすれば、結構いい指導者であるという評価にも拘わらず指導者自身はまだまだ指導は不十分であると評価し、逆に人間的関わりの指導は指導者自身がかかり配慮しているにも拘わらず指導を受ける側に伝わっていないということに集約される。

何をもって教師のリーダーシップの判断基準にするかは具体的諸事情により異なるが、このズレの存在を少なくとも指導者自身は理解し、その原因究明さらには原因除去への努力が望まれてくる。ズレの中には必要なズレ、そう思い込ませるための被指導者操作に役立つ「誤解」も指導の手だてとして利用されてよいと思われるが、その利用のためには、そのズレを指導者自身がはっきりと認識しておく必要があり、それが不十分であったり、全く配慮されていないければ「一人よがり」「一人相撲」的なスポーツ活動場面の展開となり、集団の目標遂行にとって効果的リーダーシップを発揮していくにはかなり問題のある状況を招来してくるものと思われる。

ところで、両者のズレが余りなければそれで十分であるわけではなく、両者のズレがないことを少なくとも指導者が認識しながらより理想的な立場への認識にズレがない形で上昇する手だてを考え、実践していくことが次の課題となり、それは常に何らかのデータをフィードバックしながら相互にズレに対する関心を高める作業を続けていくことが不可欠となろう。一方が他方に利用され、仕方なく活動を続けるという消極的取り組みにならないよう、今後の両者の努力が必要であり、それらは単に両者間の問題につきるものではなく、両者で構成する集団、及び個々の成員を取りまく多様な集団との関わりの中でのズレの問題も考慮に入れた形で展開されるものでなければ稔り多いものとはいえないように思われる。



紙面の関係で自由記述項目の内容にふれることはできなかったが、いずれ稿を改めて報告したい。なお本調査に快く御協力をいただいた滋賀県高体連バスケットボール専門部の先生方及び各校バスケットボール部員の方々に厚く御礼申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 沢田和明：「競技団体のリーダーシップに関する基礎的研究ーコーチのリーダーシップー」, 滋賀県体育協会スポーツ科学委員会報告集（昭和55年度）, 1981.
- 2) 沢田和明：「一流運動競技選手のスポーツへの社会化の過程に関する基礎的研究（その1～その3）」, 滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要（No. 2～4）, 1982-84.
- 3) 沢田和明：「サッカー少年団の実態に関する基礎的研究」, 滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要, No.5, 1985.
- 4) 沢田和明：「スポーツクラブ参加者, 指導者, 保護者の意識の相違に関する基礎的研究ースイミングスクールの例ー」, 滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要, No. 6, 1986.

資料1 部員基礎集計(N=480)

A1. 学年

	N	1年	2年	3年	不明
男	193	45.6	54.4	—	—
女	286	54.9	43.4	1.7	—
計	480	51.0	47.7	1.0	0.2

A2. 性別

	男	女	不明
男	100.0	—	—
女	—	100.0	—
計	40.2	59.6	0.2

A3. 中学時代のクラブ

	バスケ	その他	なし	不明
男	87.0	13.0	—	—
女	68.9	25.5	5.6	—
計	76.0	20.4	3.3	0.2

A4. リーダー的役割

	あり	なし	不明
男	21.8	77.7	0.5
女	11.9	86.7	1.3
計	15.8	82.9	1.3

A5. レギュラーか

	はい	いいえ	不明
男	42.0	57.0	1.0
女	33.6	64.0	2.4
計	36.9	61.0	2.1

A6. 週活動日数

	6日以上	4~5日	2~3日	1日以下	不明
男	70.5	22.8	5.2	0.5	1.0
女	67.5	28.0	3.5	1.0	—
計	68.5	25.8	4.2	0.8	0.6

A7. 活動への積極性

	ひじょうに	やや	どちらとも いえない	あまり	ぜんぜん	不明
男	26.9	44.6	22.8	4.1	1.6	—
女	23.1	43.0	24.8	7.7	1.4	—
計	24.6	43.5	24.0	6.3	1.7	—

A8. 活動の目的

	勝利	人間形成	余暇利用	健康体力	仲間作り	その他	不明
男	39.4	24.4	2.6	15.5	7.3	10.4	0.5
女	33.6	15.7	2.4	19.6	17.1	9.8	1.7
計	35.8	19.2	2.5	17.9	13.3	10.0	1.2

A9. これまでの最高レベル

	県	近畿	全国	不明
男	67.9	6.7	4.7	20.7
女	62.6	2.1	1.0	34.3
計	64.8	4.0	2.5	28.7

A10. 勉強との間のなやみ

	ひじょうに	やや	どちらとも いえない	あまり	ぜんぜん	不明
男	11.9	34.7	22.3	16.6	14.5	—
女	17.1	31.1	22.0	17.1	12.6	—
計	15.0	32.5	22.1	16.9	13.5	—

A11. 私生活との間のなやみ

	ひじょうに	やや	どちらとも いえない	あまり	ぜんぜん	不明
男	13.5	27.5	24.9	21.2	13.0	—
女	11.5	28.3	24.1	19.6	16.1	0.3
計	12.3	27.9	24.4	20.2	15.0	0.2

B1. 練習時間

	短い	ふつう	長い	不明
男	11.9	68.9	19.2	—
女	13.3	75.2	11.5	—
計	12.7	72.5	14.6	0.2

B 2. 練習内容の消化

	精一杯	ふつう	不足	不明
男	26.4	62.7	10.9	—
女	20.6	71.3	7.7	0.3
計	22.9	67.7	9.0	0.4

B 3. 練習内容の決定

	指導者	指導者 一部部員	一部部員	部員	その他	不明
男	53.4	29.0	13.5	2.6	1.6	—
女	50.7	33.9	10.5	4.2	0.7	—
計	51.7	31.9	11.7	3.5	1.2	—

B 4. 練習の計画性

	年間	大会中心	その日その日	不明
男	30.1	40.4	29.5	—
女	24.8	37.1	35.7	2.4
計	26.9	38.3	33.1	1.7

B 5. 指導のきびしさ

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん	不明
男	14.5	25.9	38.9	11.4	9.3	—
女	11.2	21.3	46.9	13.6	7.0	—
計	12.5	23.1	43.5	12.7	8.1	—

B 6. 部員の練習積極性

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん	不明
男	8.8	30.6	39.4	16.6	4.7	—
女	13.6	18.2	43.0	21.7	3.5	—
計	11.7	23.1	41.5	19.6	4.2	—

B 7. 指導への部員の理解度

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん	不明
男	11.9	30.1	39.4	10.9	7.3	0.5
女	10.5	22.0	46.9	14.0	6.6	—
計	11.0	25.2	43.8	12.7	7.1	0.2

B 8. 部活動への先生の理解度

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん	不明
男	11.9	28.0	39.4	14.5	6.2	—
女	10.8	21.0	44.1	15.4	8.4	0.3
計	11.2	23.7	42.1	15.0	7.7	0.2

B 9. チームの実力

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん	不明
男	9.3	29.5	30.1	18.7	12.4	—
女	1.7	24.5	35.7	24.5	13.6	—
計	4.8	26.5	33.3	22.1	13.3	—

B 10. 成績目標

	全国入賞	全国出場	近畿入賞	近畿出場	県入賞	県出場	不明
男	14.0	30.6	3.6	9.3	31.6	8.8	2.1
女	5.9	17.8	2.4	11.5	33.2	22.0	7.0
計	9.2	22.9	2.9	10.6	32.7	16.7	5.0

B 11. 全国大会の関心

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん	不明
男	32.1	22.8	24.4	12.4	8.3	—
女	23.4	14.3	25.2	18.9	17.8	0.3
計	26.9	17.7	24.8	16.2	14.2	0.2

B 12. 全国大会出場への関心

	ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん	不明
男	31.1	23.8	21.2	13.0	10.9	—
女	21.7	14.3	25.2	16.4	22.0	0.3
計	25.4	18.1	23.5	15.0	17.7	0.2

B 13. 指導内容(個人的技能)

	わかる できる	わかる できない	わからない できない	不明
男	48.2	42.5	8.3	1.0
女	29.7	56.3	12.2	1.7
計	37.1	50.6	10.6	1.6

B14. 指導内容(集団的技能)

	わかる できる	わかる できない	わからない できない	不明
男	45.6	43.0	10.4	1.0
女	29.4	54.9	14.0	1.7
計	35.8	50.0	12.5	1.6

B15. 練習で大切なもの

	基礎	応用	不明
男	68.4	31.6	—
女	79.7	19.6	0.7
計	75.0	24.4	0.6

B16. 練習で大切なもの

	オフェンス	ディフェンス	不明
男	36.8	62.7	0.5
女	34.6	63.6	1.8
計	35.4	63.1	1.5

D1. よかったこと  
記述

	あり	なし
男	68.9	31.1
女	84.6	15.4
計	78.1	21.9

D2. いやだった  
こと記述

	あり	なし
男	65.8	34.2
女	76.6	23.4
計	72.7	27.7

	男 子						女 子						計					
	--	-	○	+	++	不明	--	-	○	+	++	不明	--	-	○	+	++	不明
C1	5.2	11.4	38.3	28.0	17.1	—	10.5	11.9	42.0	24.8	10.5	0.3	8.5	11.7	40.4	26.0	13.1	0.2
C2	8.3	11.4	25.4	36.8	18.1	—	6.6	10.1	16.1	33.2	33.6	0.3	7.5	10.6	19.8	34.6	27.3	0.2
C3	11.9	10.9	36.8	20.7	19.7	—	10.8	16.4	35.3	23.4	12.9	1.0	11.5	14.2	35.8	22.3	15.6	0.6
C4	7.3	10.9	25.4	31.6	24.9	—	7.7	17.8	29.7	28.7	15.7	0.3	7.7	15.0	27.9	29.8	19.4	0.2
C5	17.1	16.1	43.5	13.0	10.4	—	15.7	20.3	41.3	15.0	7.0	0.7	16.5	18.5	42.1	14.2	8.3	0.4
C6	19.2	23.8	31.1	19.7	6.2	—	16.1	18.9	32.2	20.3	12.2	0.3	17.5	20.8	31.7	20.0	9.8	0.2
C7	14.5	13.5	33.2	19.2	19.7	—	12.9	14.7	33.2	23.1	15.7	0.3	13.7	14.2	33.1	21.5	17.3	0.2
C8	7.3	6.2	15.5	24.9	46.1	—	7.7	10.5	22.4	26.6	32.5	0.3	7.7	8.7	19.6	25.8	37.9	0.2
C9	3.6	6.2	28.5	31.1	30.6	—	3.8	5.6	25.2	39.5	25.5	0.3	4.0	5.8	26.5	26.0	27.5	0.2
C10	10.4	15.5	46.6	19.2	8.3	—	11.9	11.2	33.9	27.3	15.4	0.3	11.5	12.9	39.0	24.0	12.5	0.2
C11	10.4	11.4	19.2	25.9	33.2	—	9.4	14.7	22.0	26.2	27.3	0.3	10.0	13.3	20.8	26.0	29.6	0.2
C12	10.4	15.0	32.6	28.5	13.5	—	13.6	11.5	36.7	25.5	12.2	0.3	12.5	12.9	35.0	26.7	12.7	0.2
C13	7.8	9.8	25.4	26.9	30.1	—	4.9	11.9	36.7	20.6	25.5	0.3	6.3	11.0	32.1	23.1	27.3	0.2
C14	8.3	11.9	34.7	35.2	9.8	—	11.9	12.6	33.6	27.6	14.0	0.3	10.6	12.3	34.0	30.6	12.3	0.2
C15	5.7	6.7	26.4	37.3	23.8	—	8.0	11.2	32.5	26.6	21.3	0.3	7.3	9.4	30.0	30.8	22.3	0.2
C16	12.4	8.3	33.7	17.6	27.5	0.5	16.1	15.7	33.9	15.7	17.8	0.7	14.8	12.7	33.7	16.5	21.7	0.6
C17	7.3	15.5	36.8	22.8	17.6	—	10.5	17.8	40.2	18.5	12.6	0.3	9.4	16.9	38.7	20.2	14.6	0.2
C18	12.4	12.4	45.1	23.8	6.2	—	11.9	18.2	41.3	21.3	7.0	0.3	12.3	15.8	42.7	22.3	6.7	0.2
C19	8.3	13.0	44.6	20.7	13.5	—	7.3	14.7	38.1	23.8	15.7	0.3	7.9	14.0	40.6	22.5	14.8	0.2
C20	9.8	10.9	46.6	21.2	11.4	—	12.2	14.7	44.8	21.3	6.6	0.3	11.5	13.1	45.4	21.2	8.5	0.2
C21	9.8	10.4	45.1	25.4	9.3	—	9.1	18.2	33.9	23.8	14.7	0.3	9.6	15.0	38.3	24.2	12.5	0.2
C22	14.0	20.7	44.0	17.6	3.6	—	17.1	13.3	35.3	22.4	11.5	0.3	16.0	16.2	38.7	20.4	8.3	0.2
C23	9.3	9.3	32.1	28.5	20.7	—	7.0	13.6	33.9	25.9	19.2	0.3	8.1	11.9	33.1	26.9	19.8	0.2
C24	10.9	10.9	39.9	22.8	15.5	—	10.5	16.1	40.9	22.0	9.8	0.7	10.8	14.0	40.4	22.3	12.1	0.4

Cの質問内容については本文(P.63,64)を参照のこと。

資料2 教師基礎集計 (N=36)

指導人数

	～9	10～19	20～	不明
男子	18.2	50.0	31.8	(38.9)
女子	32.1	46.6	21.4	(22.2)

A1. 年齢

20代	30代	40代	50代
33.3	47.3	16.6	2.8

A2. 性別

男	女
80.6	19.4

A3. 担当教科

保健・体育	それ以外
38.9	58.3

A4. 校務分掌

担任	教務	進路	生徒会	生徒指導	渉外	総務	副担	厚生
51.4	17.1	5.7	25.7	14.3	2.9	5.7	2.9	2.9

A5. 勤務校バスケット部

男子のみ	女子のみ	両方
8.3	11.1	80.6

A6. 指導クラブ

男子のみ	女子のみ	両方
38.9	50.0	11.1

A7～9. スポーツクラブ所属

	バスケット	その他	なし
中学	63.9	25.0	11.1
高校	61.1	22.2	16.7
大学	50.0	30.6	19.4

A10. バスケ指導歴

～4年	5～9	10～10	20～	不明
26.5	29.4	35.3	8.8	(5.6)

A11. 週指導日数

6日～	4～5日	2～3日	1日	それ以下	不明
48.6	17.1	28.6	2.9	2.9	(2.8)

A12. 指導への積極性

ひじょうに	やや	どちらともいえない	あまり	ぜんぜん	不明
37.1	28.6	14.3	20.0	—	(2.8)

A13. 指導協力者

いる	いない
66.7	33.3

A13SQ. どんな人か

同僚	OB・OG	その他	不明
87.5	4.2	8.3	(33.3)

A15. 指導目的

勝利	人間形成	余暇利用	健康体力	仲よく関わり	その他
33.3	47.2	2.8	2.8	8.3	5.6

A19. 年間合宿回数

1	2	3・4	5～	なし
33.3	16.7	5.6	5.6	38.9

A19SQ. その回数

1～3	4～6	7～9	10以上
18.2	45.4	13.3	22.7

A20. 他校との練習試合

～5	～10	～20	～30	それ以上
22.2	13.9	33.1	16.7	13.9

A20SQ. その試合数

～10	～20	～50	～100	100～
28.6	14.3	24.2	5.8	17.1

A21. 練習のための県外遠征

1	2・3	4・5	6～	なし
16.7	13.9	2.8	7.8	58.3

A22. これまでの成績

県	近畿	全国	不明
72.4	17.2	10.3	(19.4)

A23. 本年度の最高

県	近畿	全国	不明
92.9	3.6	3.6	(22.2)

A24. 校務との間でのなやみ

ひじょうに	やや	あまり	ぜんぜん
25.0	44.4	22.2	8.3

A25. 私生活との間での悩み

ひじょうに	やや	あまり	ぜんぜん
22.2	47.2	25.0	5.6

B1. 練習時間

短い	ふつう	長い
44.4	52.8	2.8

B2. 練習内容の消化

精一杯	ふつう	不足
13.9	38.9	47.2

B3. 練習内容決定者

指導者	指導者一部部員	一部部員
52.8	36.1	11.1

B4. 練習の計画性

年間	試合	その日その日
27.8	58.3	13.9

B5. 指導のきびしさ

ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん
2.8	30.6	38.9	22.2	5.5

B6. 部員の積極性

ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん
8.3	22.2	50.0	16.7	2.8

B7. 部活指導への部員の理解

ひじょうに	やや	まあまあ	あまり	ぜんぜん
8.3	19.4	52.8	16.7	2.8

B8. 部活動への教師の理解度

ひじょうに	やや	まあまあ	あまり	ぜんぜん
5.6	30.6	47.2	13.9	2.8

B9. チームの実力

ひじょうに	やや	ふつう	あまり	ぜんぜん
—	22.2	36.1	27.8	13.9

B10. 目 標

全国入賞	全国出場	近畿入賞	近畿出場	県入賞	県出場
—	25.0	—	13.9	41.7	19.4

B11. 全国大会への関心

ひじょうに	や や	ふつう	あまり	ぜんぜん
27.8	11.1	19.4	16.7	25.0

B12. 全国大会出場への関心

ひじょうに	や や	ふつう	あまり	ぜんぜん
30.6	11.1	19.4	11.1	27.8

B13. 部員の指導内容理解(個人技能)

わかる・できる	わかる・できない	わからない できない
25.0	61.1	13.9

B14. 部員の指導内容理解(集団技能)

わかる・できる	わかる・できない	わからない できない
16.7	63.9	19.7

B15. 練習内容で大切

基 礎	応 用
97.2	2.8

B16. 練習内容で大切

オ フェ ンス	デ ィ フ ェ ンス
36.1	63.9

D1. よかったこと記入

あ り	な し
72.2	27.8

D2. わるかったこと記入

あ り	な し
77.8	22.2

	—	—	0	+	++		—	—	0	+	++
C 1	5.6	13.9	30.6	44.4	5.6	C 13	5.6	19.4	33.3	36.1	5.6
C 2	—	2.8	5.6	52.8	38.9	C 14	—	5.6	38.9	52.8	2.8
C 3	2.8	5.6	19.4	50.0	22.2	C 15	2.8	22.2	19.4	50.0	5.6
C 4	—	13.9	25.0	41.7	19.4	C 16	33.3	16.7	30.6	13.9	5.6
C 5	19.4	13.9	27.8	30.6	8.3	C 17	8.3	27.8	33.3	30.6	—
C 6	2.8	5.6	16.7	61.1	13.9	C 18	2.8	13.9	47.2	30.6	5.6
C 7	16.7	22.2	33.3	22.2	5.6	C 19	8.3	2.8	25.0	41.7	22.2
C 8	13.9	5.6	25.0	47.2	8.3	C 20	2.8	19.4	50.0	22.2	5.6
C 9	—	2.8	27.8	38.9	30.6	C 21	5.6	5.6	27.8	52.8	8.3
C 10	—	—	27.8	52.8	19.4	C 22	2.8	8.3	11.1	75.0	2.8
C 11	2.8	8.3	33.3	30.6	25.0	C 23	5.6	11.1	25.0	44.4	13.9
C 12	5.6	19.4	22.2	50.0	2.8	C 24	—	2.8	41.7	47.2	8.3

※Cの質問内容については本文(P.63,64)を参照のこと。

資料3 教師のリーダーシップ平均点(性別, 実力別)

	性別					男子					女子				
	男	SD	女	SD	有意差	下位	SD	上位	SD	有意差	下位	SD	上位	SD	有意差
1	3.40	1.06	3.12	1.10		3.19	1.09	3.87	0.81	<***	3.10	1.08	3.25	1.16	
2	3.45	1.15	3.76	1.21	<***	3.21	1.20	3.83	0.96	<***	3.63	1.22	4.39	0.87	<***
3	3.25	1.23	3.10	1.16		3.06	1.29	3.55	1.07	<***	3.04	1.12	3.43	1.31	
4	3.55	1.18	3.26	1.16	>***	3.13	1.21	4.24	0.73	<***	3.15	1.14	3.78	1.10	<***
5	2.83	1.17	2.76	1.10		2.64	1.23	3.13	0.99	<***	2.71	1.09	3.03	1.13	
6	2.69	1.16	2.93	1.24	<*	2.49	1.20	3.02	1.03	<***	2.84	1.22	3.35	1.23	<***
7	3.16	1.29	1.13	1.23		3.09	1.35	3.27	1.18		3.08	1.20	3.41	1.34	
8	3.96	1.23	3.65	1.25	>***	3.47	1.31	4.74	0.47	<***	3.58	1.26	3.98	1.10	<*
9	3.78	1.06	3.76	1.02		3.56	1.11	4.14	0.87	<***	3.75	1.00	3.86	1.07	
10	2.99	1.04	3.22	1.20		2.89	1.16	3.14	0.82		3.15	1.17	3.56	1.25	
11	3.60	1.32	3.46	1.29		3.30	1.34	4.08	1.15	<***	3.36	1.28	3.96	1.21	<***
12	3.19	1.16	3.10	1.18		2.90	1.20	3.66	0.94	<***	3.00	1.15	3.62	1.18	<***
13	3.61	1.22	3.49	1.14		3.26	1.27	4.18	0.90	<***	3.49	1.12	3.52	1.20	
14	3.26	1.06	3.18	1.19		3.03	1.12	3.63	0.83	<***	3.07	1.17	3.74	1.09	<***
15	3.66	1.08	3.41	1.18	>*	3.48	1.16	3.95	0.88	<***	3.35	1.17	3.70	1.13	
16	3.39	1.31	3.02	1.30	>***	2.95	1.34	4.09	0.89	<***	3.04	1.21	3.00	1.64	
17	3.27	1.14	3.04	1.14	>*	2.90	1.04	3.87	1.04	<***	3.08	1.14	2.90	1.08	
18	2.98	1.05	2.92	1.07		2.78	1.13	3.31	0.82	<***	2.82	1.07	3.41	0.92	<***
19	3.18	1.08	3.25	1.12		3.04	1.07	3.40	1.07	<*	3.23	1.12	3.39	1.09	
20	3.13	1.07	2.94	1.06		2.94	1.09	3.43	0.98	<***	2.87	1.03	3.31	1.12	<*
21	3.13	1.05	3.16	1.16		2.98	1.15	3.39	0.82	<***	3.13	1.14	3.31	1.24	
22	2.76	1.01	2.97	1.23		2.70	1.12	2.85	0.82		2.93	1.20	3.19	1.34	
23	3.41	1.18	3.36	1.15		3.19	1.21	3.78	1.05	<***	3.29	1.14	3.70	1.13	<*
24	3.21	1.16	3.03	1.10		2.94	1.19	3.64	0.97	<***	2.93	1.08	3.52	1.04	<***

Cの質問内容については本文(P.63,64)を参照のこと。



資料4 教師リーダーシップ他者評価要因別平均値とtテスト結果(\*\*\*P<0.001 \*\*P<0.01 \*P<0.05)

A3. 中学生クラブ所属

	バスケット	それ以外	有意差
N	365	115	
Y	3.31	3.09	*
K	3.14	2.96	—
T	3.39	3.06	***
S	3.33	3.02	**

A4. リーダー的役割

	あり	なし	有意差
N	76	400	
Y	3.13	3.28	—
K	3.12	3.09	—
T	3.35	3.30	—
S	3.31	3.24	—

A5. レギュラーか

	はい	いいえ	有意差
N	177	295	
Y	3.18	3.31	—
K	3.20	3.02	*
T	3.37	3.26	—
S	3.28	3.23	—

A6. 活動日数

	6日以上	それ以下	有意差
N	329	150	
Y	3.47	2.80	***
K	3.16	2.98	—
T	3.48	2.96	***
S	3.45	2.84	***

A7. 本人の積極性

	ひじょうにあり	それ以下	有意差
N	118	362	
Y	3.50	3.18	***
K	3.31	3.03	**
T	3.66	3.20	***
S	3.58	3.15	***

A8. 活動目的

	勝利	それ以外	有意差
N	172	303	
Y	3.56	3.09	***
K	3.34	2.96	***
T	3.67	3.10	***
S	3.59	3.05	***

A10. 勉強との悩み

	ひじょうに	それ以下	有意差
N	72	408	
Y	3.50	3.22	**
K	3.01	3.11	—
T	3.32	3.31	—
S	3.34	3.24	—

A11. 私生活との悩み

	ひじょうに	それ以外	有意差
N	59	420	
Y	3.47	3.23	*
K	2.62	3.16	***
T	3.10	3.34	—
S	3.09	3.27	—

B 3. 経済内容の決定

	指導者	それ以外	有意差
N	248	232	
Y	3.58	2.97	***
K	3.36	2.94	***
T	3.64	2.98	***
S	3.64	2.90	***

B 5. 指導のきびしさ

	ひじょうに・やや	それ以外	有意差
N	60	420	
Y	4.13	3.16	***
K	3.24	3.14	—
T	3.60	3.28	*
S	3.86	3.20	***

B 6. 部員の積極性

	ひじょうに・やや	それ以外	有意差
N	56	424	
Y	3.82	3.21	***
K	3.52	3.11	**
T	3.79	3.26	***
S	3.77	3.22	***

B 7. 部員の教師理解度

	ひじょうに・やや	それ以外	有意差
N	53	426	
Y	3.76	3.22	***
K	4.00	3.05	***
T	4.20	3.21	***
S	4.23	3.17	***

B 8. 教師の部員理解度

	ひじょうに・やや	それ以外	有意差
N	54	425	
Y	3.62	3.24	**
K	3.98	3.05	***
T	4.11	3.22	***
S	4.08	3.18	***

B 9. チームの実力

	ひじょうに・やや	それ以下	有意差
N	150	330	
Y	3.89	3.01	***
K	3.33	3.07	**
T	3.62	3.19	***
S	3.72	3.09	***

B11. 全国大会への関心

	ひじょうに	それ以下	有意差
N	129	350	
Y	3.68	3.14	***
K	3.31	3.10	*
T	3.61	3.22	***
S	3.63	3.16	***

B13. 指導内容理解(個人)

	わかる・できる	それ以外	有意差
N	178	296	
Y	3.41	3.21	*
K	3.63	2.97	***
T	3.67	3.10	***
S	3.60	3.10	***

B14. 指導内容理解(集団)

	わかる・できる	それ以外	有意差
N	172	302	
Y	3.53	3.14	***
K	3.48	2.96	***
T	3.66	3.12	***
S	3.68	3.06	***

資料5 教師リーダーシップ自己評価要因別平均値とtテスト結果(\*\*\*P<0.001 \*\*P<0.01 \*P<0.05)

A2. 性別

	男	女	有意差
N	29	7	
Y	3.32	3.19	—
K	3.68	3.90	—
T	3.44	3.52	—
S	3.19	3.33	—

A3. 担当教科

	保健・体育	その他	有意差
N	14	21	
Y	3.44	3.18	—
K	3.84	3.62	—
T	3.63	3.32	—
S	3.57	2.95	**

A8. 高校時代

	バスケット	その他	有意差
N	22	14	
Y	3.43	3.08	—
K	3.73	3.72	—
T	3.59	3.26	—
S	3.47	2.82	—

A9. 大学時代

	バスケット	その他	有意差
N	18	18	
Y	3.32	3.26	—
K	3.83	3.62	—
T	3.53	3.38	—
S	3.42	3.01	—

A10. 指導歴

	10年以上	～9年	有意差
N	21	15	
Y	3.27	3.32	—
K	3.71	3.75	—
T	3.39	3.55	—
S	3.06	3.44	—

A11. 週指導日数

	6日以上	それ以下	有意差
N	17	18	
Y	3.70	2.87	***
K	3.84	3.60	—
T	3.72	3.17	*
S	3.58	2.86	**

A12. 指導積極性

	ひじょうに	それ以下	有意差
N	13	22	
Y	3.64	3.06	**
K	3.84	3.64	—
T	3.75	3.25	—
S	3.71	2.91	***

A15. 指導目的

	勝利	それ以外	有意差
N	12	24	
Y	3.52	3.18	—
K	3.87	3.65	—
T	3.58	3.40	—
S	3.38	3.13	—

A24. 校務との悩み

	ひじょうに	それ以下	有意差
N	9	27	
Y	3.44	3.24	—
K	3.70	3.74	—
T	3.61	3.41	—
S	3.09	3.26	—

A25. 私生活との悩み

	ひじょうに	それ以下	有意差
N	8	28	
Y	3.16	3.33	—
K	3.54	3.78	—
T	3.20	3.53	—
S	3.10	3.25	—

B 3. 練習内容の決定

	指導者	それ以外	有意差
N	19	17	
Y	3.53	3.02	*
K	3.85	3.59	—
T	3.69	3.20	—
S	3.42	3.00	—

B 5. 指導のきびしさ

	ひじょうに・やや	それ以下	有意差
N	12	24	
N	3.74	3.06	***
K	4.04	3.57	*
T	3.94	3.22	***
S	3.76	2.95	***

B 6. 部員の積極性

	ひじょうに・やや	それ以下	有意差
N	11	25	
Y	3.69	3.11	**
K	4.04	3.59	**
T	3.98	3.23	***
S	3.81	2.95	***

B 7. 教師の部員理解度

	ひじょうに・やや	それ以下	有意差
N	10	26	
Y	3.44	3.23	—
K	3.96	3.64	*
T	3.68	3.37	—
S	3.48	3.12	—

B 8. 部員の教師理解度

	ひじょうに・やや	それ以下	有意差
N	13	23	
Y	3.56	3.14	—
K	3.96	3.60	—
T	3.92	3.20	***
S	3.51	3.05	—

B 9. チーム実力

	ひじょうに・やや	それ以下	有意差
N	8	28	
Y	3.68	3.18	*
K	3.74	3.72	—
T	3.91	3.33	*
S	3.64	3.10	**

B11. 全国大会への関心

	ひじょうに・やや	それ以下	有意差
N	10	26	
Y	3.11	3.76	**
K	3.99	3.62	—
T	3.78	3.33	—
S	3.80	2.99	**

B13. 部員の指導内容理解(個人)

	わかる・できる	それ以外	有意差
N	9	27	
Y	3.48	3.23	—
K	3.64	3.75	—
T	3.35	3.49	—
S	3.44	3.14	—

B14. 部員の指導内容理解(集団)

	わかる・できる	それ以外	有意差
N	6	30	
Y	3.41	3.27	—
K	3.47	3.78	—
T	3.02	3.54	—
S	3.36	3.19	—

## 健康と体力についての意識と行動に関する研究

### ——大津市民の事例——

澤田 和明 (滋賀大学教育学部) 町田 登 (玉川高等学校)  
豊田 一成 (滋賀大学教育学部)

#### 1. 緒 言

今日の日まぐるしく変化する社会の中であって、これまでどちらかといえばある特定の人々の独占的な文化であったスポーツは、その社会的機能が大きく変容しつつある。社会の大きな流れに組み込まれていく中で、これまでのエリートとマスという捉え方も、その格差がさらに強まっていく状況を見せている。そしてそのマス自体の中もいくつにも階層化されながら、ある意味で1つの危機的状況と見なされる高齢化社会への進行に備える貴重な足がかりとして位置づけられ、運動やスポーツが初めて見直され、組み直しがなされていく状況にある。

その中で運動やスポーツは個人の価値観にしたがって益々多様化していく反面、これまでのスポーツや運動を支配してきた経験至上主義的なあり方の当然の帰結として、多様化している個々人の欲求を素直に受け入れていくようなスポーツの実践や展開が難しいことも事実である。

このような状況の中で個々人は運動やスポーツをどの様に捉え、日常生活の中でどの様に関わっているのかということに関する基礎資料を得ることは、今後の社会体育行政の上から、また学校体育の運営からも大切なことになってくる。

ところで、国民体育大会が昭和56年に実施されて6年余り経過する。いろいろなスローガンの下に県民のかかなりのエネルギーを費やして実施されたあのイベントの、滋賀県にとって、また滋賀県民にとっての意味づけを総括をする意味においても、そのような調査は何等

かのデータを提供してくれるものと考えている。

#### 2. 目的・手順

本研究は滋賀県におけるそれらの実状を知するために行う基礎的な作業であり、このような研究はその必要性は認識されながらもなかなか実施されることは無かった。先行研究として滋賀県民を対象としたものは、国民体育大会に限定したものが行われてはいるが、総括的なものはここ10年ほど実施されてはいない。

本研究は、滋賀県民がこれまでの自分の運動やスポーツ経験をもとにしながら、日常生活の中でスポーツや運動をどのように考え、どのように実施してきているのか、また、今後どのように取り組んでいこうとしているかについての基礎的な資料を得ることを目的として行った。調査は大津市に在住する20歳以上の年齢、性別に比例抽出した500名を対象にして行われた。

なおこの調査は県下7市12郡(42町1村)の全市町村を対象に、人口比率により各年齢、性別毎に標本を抽出し(1,215名)質問紙による配票調査法で調査を行ったものと同様の内容のものを大津市に配票して行ったものである。

この報告では、まず現代社会における運動やスポーツについての状況を概括し、大津市のみの調査結果について報告する。当初滋賀県民を対象とした調査結果との比較する予定であったが、それは次年度の課題とした。

### 3. 現代社会とスポーツ

#### (1) 余暇観の推移

現代社会の多様な変化にともない社会的、個人的な価値観も時代の流れと共に少しずつ変わってきている。その中には人間の生きがいの問題をも含めて生活の基本を構成する労働や余暇に関するものが含まれている。

人間が地球上で人間としての生活を始めて以来、生活の上での至上の価値の1つとして労働があった。労働に対する関心に加えて、長い間一部有閑階級の独占物として考えられていた余暇にも、余暇の絶対的量的拡大に伴い単なるレクリエーションとしてばかりでなく、余暇活動そのものとして近年少しずつ関心が払われるようになってきた。そしてその中で活動に新しい生活の広がり空間を求めようようになってきている。

現在ではそれがさらに進み、余暇を労働と対等な価値づけをし、労働も大切であるが余暇も同じように大切である、という考え方を持つ人の比率が少しずつ増えてきており、さらには、余暇時間の漸増にともない余暇を労働より優先していく考え方も少しずつ見られるようになってきている。

#### (2) 現代社会における運動やスポーツ

労働や余暇の対する考え方と同じように、生活の中での運動やスポーツの個人的、社会的意味づけも、社会の動きにともない歴史の中で時代ともに多様に変遷してきている。

運動やスポーツは人間にとって、プレイ領域で考えられたり、体育に代表される教育の領域で利用されたり、時には労働またはそれに近い領域のものとして取り扱われたりする。それらはそれぞれに社会的に多様な他の文化領域と不可分に関わり合いを持って、いろいろな問題を生起させてきている。

それらの中では技術の質と、実施者の量的なこととがらに関わる問題、即ち高度化、大衆化の問題がそれらの背景の基本的なものとしてよかろう。

高度化は基本的には「する」と「みる」に

別れそれぞれの様相を見せている。これまで運動やスポーツは例えば体育に代表されるように「する」こととの関わりで問題にされてきたが、スポーツのアゴン（競争性）という特性に従い、技能レベルがかなり高度になり一般の人の努力では入手したくても容易に接近できない価値をもつようになってくる。それに従い「みる」ことへの関心が高まり、これまでスポーツに余り関心を示していなかった人々を巻き込み、次第により多くの人々が関心を持つようになってくる。

運動やスポーツの社会的な価値が高揚していくに従い、これまで以上に経済的、政治的な関わりが新しい問題として出て来るようになる。「みる」ことと関わる問題は、スポーツの技能水準の高度化に関わる問題であり、特にオリンピックを1つの頂点とする「勝ち負け」を問題とする大規模な競技大会が商業主義や政治的なかけひきの道具として利用されるようになる。

またこのようにスポーツに対する社会的な価値の高揚は、単にそのスポーツそれ自体に関わる結果としての勝敗や単なる大規模なイベントとしての問題ばかりではなく、そのことをそれ以外の関心を引き上げる手段的な材料として利用されていく傾向が強まっていくことにつながっていく。スポーツにおける技術水準の質的な高度化の問題は、スポーツを行う人々の量的拡大の大衆化の問題と微妙に関わってくる。

大衆化の問題は、優秀選手の早期発見という技術の高度化問題にいずれはつながっていく単純な底辺拡大のためばかりでなく、そのイベントを新しい刺激材料とする、これまで一般の人々が日常生活において遠ざかっていた「するスポーツ」への接近の問題である。それは技術の高度化という次元の問題と直接に関わる問題ではなく、運動の持っている効果的な特性に焦点をおいたスポーツへの大衆化の問題であり、「いつでも、どこでも、だれでも」という「みんなのスポーツ」の問題

である。

このことは来るべき高齢化社会におけるより少ない若者に支えられるより多くの高齢者の身体的、精神的な問題であり、高齢者の生きがいや健康の問題と不可分の問題でもある。高齢者の健康の問題は単に本人や家族の問題を越えた、この社会を構成している全員の問題である。それはまた国民総医療費の問題と直接関わる日本全体の大きな社会問題であり、そこにスポーツや運動が予防医学との関わりで、クローズアップされてきており、また高度に文明の発達した現代社会における、いわゆる運動不足によるとされる文明病とも称される慢性的呼吸循環器系疾患の増大と関わっている世界的な社会問題でもある。

### (3) 余暇の中での運動スポーツ

運動やスポーツの社会存続にとっての順機能的と言う意味での社会的機能の重要性は、運動やスポーツの個人的な機能を集約したものから生まれるものとは限らない。個人的な運動需要を集約し総括したものを社会的運動需要と称した場合、社会的機能と社会的運動需要のあいだには微妙なまたかなりの食い違いがあることも事実である。

価値観が多様化していく現代社会の中でのこれからの運動やスポーツを考えていくには、そのズレずれを意識した上で、個々人のこれまでの運動やスポーツの経験を背景として、個々人がおかれている現在のそれぞれの状況の中で、運動やスポーツをどのように捉えているかを明らかにすることが不可欠な作業の1つとなろう。そして個々人によってそれぞれ運動やスポーツの意味や機能が異なっていることを大切にしながら、それらを集約していくことが必要である。またその際運動の特性との関わりで捉えていくことが重要になってくる。

運動の特性は一般的には、効果的特性、構造的特性、及び、機能的特性の3つに分類されることが多い。効果的特性は、運動の内容そのものよりは、その結果としての効果、高

揚にあり、運動を手段的に用いる考え方によるものである。また構造的特性は、その運動に用いられている技術構造に着目する捉え方であり、その運動特有の魅力を創り出す原点でもある。また機能的特性は個々人がそれぞれその運動にどのような楽しさ、魅力を感じるかという、運動との関わりからみた捉え方である。

これまでの運動やスポーツについての考え方は効果的特性を背景としながら、構造的特性の学習をいかに効果的能率的な学習が出来るかを中心に展開されてきた。それは学校教育における教科体育でも、運動部活動でも同じであり、さらには学校卒業以降の定期、不定期を問わず日常生活の中の運動やスポーツにおいても同じであるといえよう。

そこに展開される世界は、経験至上主義に基づく、技能レベルを指標としたハイラーキーが構成されていて、努力と到達技能の関係が単純な相関を示すという神話によって支えられることが多い。また努力や工夫の方向付けそのものについては「これまでのものを是」として基本的にまたは無批判的に踏襲するという形で余り変化がみられない場を構成している。このことは教育が三育（知育、徳育、体育）に分化されてきた考えが1人歩きし、体育は知育とも徳育とも関連しないかのような取り扱いがされてきたことと無縁ではない。

過去にかなりの運動を実施してきた人々をも含めて、生涯スポーツが叫ばれながら、なかなか進展していかないといわれる背景には、運動能力の低いものを結果的に締めだしてきたあり方があるように思われる。その打開のためには、少なくとも学校体育の中では、多様化する価値観を前提とした、個々人にとっての運動の意義づけに関心をおいた教科体育のあり方に関心が向けられねばならないし、そのためには基本的な学習課題としてその運動やスポーツの固有の楽しさ、醍醐味に触れる機能的特性からの観点が必要になってくる。努力しながらその特性に触れていけるような

学習の場を補償していかなければならない。またこのことは、単に教科体育の問題に限らず、課外のクラブ活動や卒業後の地域や職場や家庭でのスポーツ活動にも当然いえることであるが、実際はスポーツに対する観念的な文化体系が個人レベルでの変容が難しくなかなか思うように進展していかないのが実状であるように思われる。

#### 4. 調査について

調査は昭和62年の12月から63年1月にかけて天津市の成人を対象に人口比例による性別、年代別のサンプリングを行い、500名を対象として配票法により行った。

##### (1) 調査項目

調査項目は健康や体力に関する自己診断やひごろの健康や体力維持に対する配慮、スポーツや運動の実施、クラブや同好会加入、地域でのスポーツ行事参加の、学校体育の影響や期待など27項目81質問などで構成されている。

##### (2) 回収率

有効回収数は337で回収率は67.4%であった。集計分析対象標本の内訳は性別では男性51.3%、女性48.7%、年齢別では20代16.1%、30代15.2%、40代18.4%、50代14.3%、60代15.8%、70代以上20.2%である。

##### (3) 基礎的項目

これ以降の節については、性別と年齢別クロス表分析での $X^2$ 検定の結果、差のみられるものは必ずその記述をしている。記述のないものは有意差がないものである。なお年齢別のクロス表についてはの各セルの数を確保するために20~30代、40~50代、60以上の3つの区分によるもので検定したものである。

休暇の形態は週休1日半以上のものが31.2%、週休1日が21.0%、週休制でないもの10.4%、その他37.7%（休日無し、未就職）である。通勤しているもの〔56.3%、性別、年齢別で有意差あり（0.1%）〕のうち通勤時間が30分までのもの54.1%、45分まで14.9%、60分まで13.9%、90分まで8.8%、それ以上3.6%で

ある（年齢別で0.1%水準）。

家庭の状況（末子の年齢）は未就学児童8.7%、小学生19.5%、中学生14.7%、高校生14.4%、いない42.8%である（年齢別で0.1%水準）。暇の程度（年齢別で0.1%水準）については全くなし5.7%、ないほう45.5%、あるほう39.9%、ありすぎる8.9%である。

##### (4) 健康・体力について

健康について（年齢別で5%水準）は、おおいに19.3%、まあ健康70.6%、余り健康ではない10.1%、健康体力への配慮について（性別で1%、年齢別で0.1%水準）は、常に37.8%、ときどき52.7%、余り9.5%であり、その内容（年齢別で1%水準）は、栄養・食事23.1%、睡眠・休養31.3%、体操・運動23.8%、規則的生活13.4%、特になし6.6%であった。

体力評価（年齢別で1%水準）は人並以上が13.8%、人並64.7%、人並以下15.3%、体力への自信あり43.1%、なし19.4%どちらもいえない37.5%である。女性は男性より体力が無いと回答するものが多い（1%水準）。

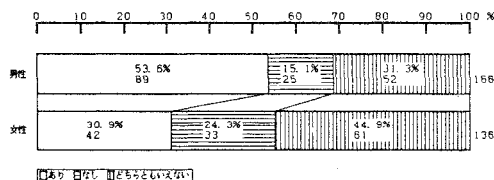


図1 3S：体力自信

疲れを感じることにについては、よくある13.0%、ときどき71.6%、ない15.4%、眠れば疲れがとれるかについては、とれる54.0%、とれない18.8%、どちらもいえない27.2%である。女性にはとれにくいという回答多い（5%水準）。

年齢別での有意差はいずれも年齢が高くなるに従い体力の低下や健康への配慮が大きくなっていることを示している。

##### (5) 運動やスポーツの実施について

運動の必要性（年齢別で0.1%水準）については、感じる60.4%、感じない35.3%で、1年間に体力テストを受けたもの（年齢別で



0.1%水準)は8.1%であり、体力テストを受けたいと思っているものは49.4%である。

学校卒業後のこれまでの運動経験のパターン(性別、年齢別で0.1%水準)は図2の通りで、21.3%は卒業後何も実施せず、この1年間に何かを実施したものは38.6%、過去にはやったがこの1年はしていないもの40.1%である。

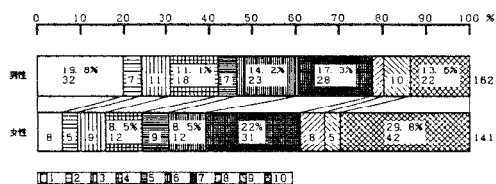


図2 7: 運動、スポーツ経験タイプ

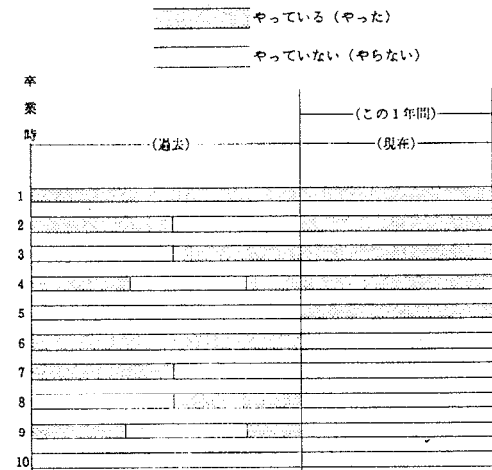
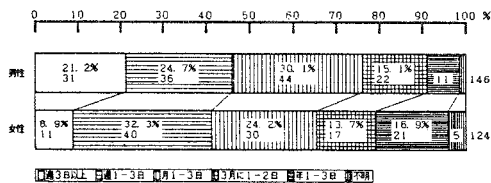


図3 8 S: スポーツ実施日数

この1年間の運動やスポーツの実施は年齢別で0.1%水準で差があり、その種目は、多いものから軽い球技42.3%、体操42.0%、ボーリング29.0%、歩くこと24.8%、ゲートボール16.4%、ジョギング16.1%、釣り15.0%、スキー13.3%、ゴルフ12.9%、海水浴12.6%、バレーボール12.2%、軽い水泳11.2%で競技スポーツは少ない。



実施日数は週3日以上15.4%、週1~2日27.4%、月1~3日27.6%、3月に1~2日14.7%、年1~3日11.8%である。

スポーツ実施の理由(複数回答:回答者91.4%、年齢別で1%水準)は多いものから健康・体力維持59.4%、運動不足・ストレス解消58.1%、友人との交流54.5%体を動かすことが好き37.3%、生活を豊かに楽しく21.9%、能力・技能向上17.4%、美容肥満解消15.8%、家族とのふれ合い12.5%と続いている。100%に修正したものは図4の通りである。

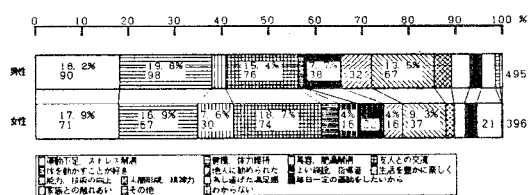


図4 スポーツをやる理由(重答:100%に修正)

スポーツをしない理由(複数回答(回答者21.3%))には、疲れる35.4%、忙しい26.2%、仲間がいない24.6%、病気・怪我20.0%、他の趣味16.9%、おっくう16.9%等が多い。100%に修正したものは図5の通りである。

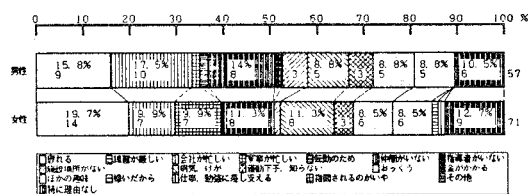


図5 スポーツをやらない理由(重答:100%に修正)

今後やってみたいスポーツには軽い球技、歩き、体操、ゴルフ、軽い水泳、スキー、ゲートボール、ランニング、ボーリングと続いている。年齢により差がみられる。

(6) 体育の授業、クラブ経験等について

体育の授業が社会人になってから役立ったかについては、大変役立った13.4%、ある程度44.4%、あまり26.3%、わからない15.9%で、男性のほうが役立ったと回答している(5%水準)。60歳以上が評価が低いものや回答保留が多い(年齢別で0.1%水準)。その

内容（複数回答）については、ルール49.2%、スポーツの楽しさ45.8%、技術37.8%、健康・体力25.4%、精神力20.8%、人間関係19.5%等であった。60代以上は技術やルールへの効果についての評価が低い（0.1%水準）。

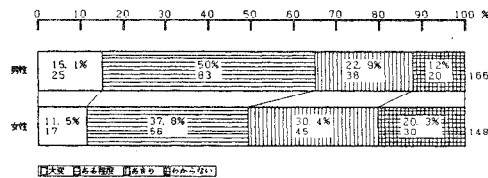


図6 10：体育の授業は役立ったか

クラブ経験等については役立ったか（年齢別で0.1%水準）については、大変役立ったが23.6%、ある程度39.8%、あまり16.3%、わからない20.8%で、その内容（複数回答，年齢別で5%水準）については、ルール43.0%、スポーツの楽しさ40.4%、技術35.9%健康・体力32.7%、精神力30.9%、人間関係24.7%である。

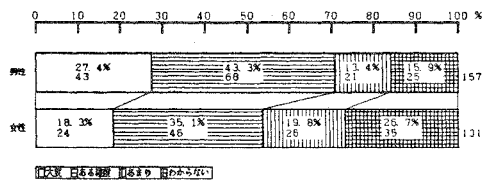


図7 11：クラブ経験は役立ったか

この2つについては男性の評価が高かった（5%水準）。年齢別には60歳以上と以下に差がみられた。

### (7) スポーツ行事

地域のスポーツ行事予定の情報について、知っているもの89.5%で、うち行事に参加したもの64.3%、しなかったもの22.7%、見物のみ13.0%である。男性（1%水準）、40～50代が（0.1%水準）が積極的に参加している。今後のスポーツ行事（年齢別で0.1%水準）については、60.5%が参加したいと回答している。また参加したい行事（年齢別で0.1%水準）はレクリエーションの行事36.9%、協議会35.1%、野外活動12.2%、トレーニング9.5%、スポーツテスト3.6%である。年齢が上がるほど競技的なものからレクリエーション

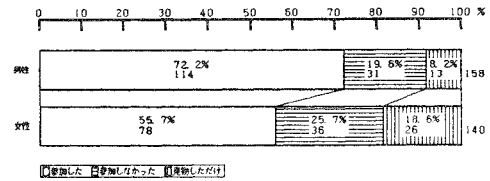


図8 12S：スポーツ行事参加

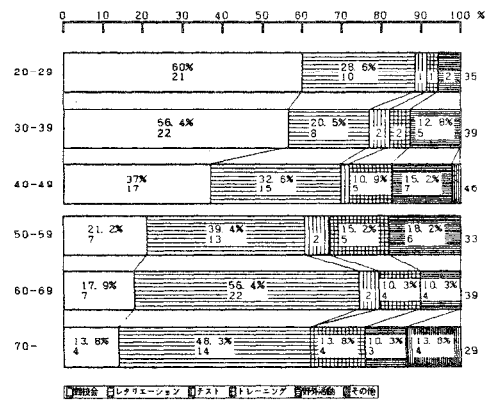


図9 13S：参加したい行事

的なものになっている（0.1%水準）

職場のスポーツ行事〔性別で有意差あり（0.1%）〕については参加したもの35.9%、しない22.7%、見物だけ5.1%、勤めていない36.3%である。今後のスポーツ行事について参加したいもの71.2%である〔性別で有意差あり（0.1%水準）〕。就労の関係から年齢別で差がある（0.1%水準）。

### (8) スポーツ教室

スポーツ教室参加（年齢別で0.1%水準）については23.1%が参加したと回答し、今後のスポーツ教室参加については49.5%が参加したい、33.1%が参加したくないと回答している。その内容としては、仲間と楽しむもの49.4%、健康・体力作り36.7%、知識や技能を高める12.2%である（年齢別で5%水準）。年齢別では地域のスポーツ行事と同様な傾向を示している。

### (9) スポーツクラブや同好会

スポーツクラブや同好会加入については男性5割、女性3割（0.1%水準）で全体では41.3%が加入しているとしている。年齢が上がるにつれ参加率が低くなっている（年齢別で1%水準）。そのクラブの内容（年齢別で

5%水準)は楽しみと親睦を中心とするもの48.6%, 競技と楽しみを中心とするもの31.8%, 競技中心14.9%である。その運動種目はゲートボールの16.6%を最高に、ソフトボール、野球、ゴルフと続いている。入会動機は体力増強64.1%, 親睦64.8%, 好きだから35.5%, 継続可能性35.2%等となっている。

また現在加入していない人に新しくスポーツクラブにはいるか(年齢別で0.1%水準)という問いについては、加入する40.8%, しない42.4%, わからない16.8%で、加入したい人が希望するクラブ(年齢別で1%水準)は楽しみと親睦を中心としたもの73.7%, 競技と楽しみを中心としたもの23.7%, 競技指向の者は1.8%であった。希望種目(年齢別で0.1%水準)はテニス20.9%, 歩き17.4%, ゲートボール17.4%, ゴルフ16.5%, フォークダンス15.7%と続いている。

#### (10) スポーツの国際競技への関心

国際大会への関心は、非常に31.2%, やや49.1%, 余り15.1%, 全くない4.6%で、男性の関心が高く(5%水準), 40~50代の関心が高い(0.1%水準)。国際大会の観戦はテレビでが95.0%が多い。

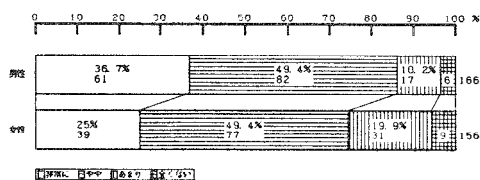


図10 18: 国際大会への関心

#### (11) その他

学校体育でこれから教えて欲しいことについては、スポーツの楽しさを味わう28.2%, 道徳やマナー24.1%, 精神力20.9%, 身体づくり13.6%, 技術9.2%となっている。60代以上では精神力が高く、楽しみが低い(年齢別で0.1%水準)。

またスポーツをしていくために必要なことながら(複数回答, 年齢別で0.1%水準)については、手軽な施設74.8%, 手軽なスポーツの普及60.3%, 初心者用クラブ43.8%, 学校

施設の開放38.6%, 税金の利用26.9%等となっている。

## 5. 高齢化社会にむけて

先述の高齢化社会に向けてのいろいろな問題を検討するための資料として、60代以上のものと、50代までのものに分けて有意差のあるものをみたところ、5%水準で有意差のない項目は無く、そのほとんどが0.1%水準であった。それは20~30代と40~50代との間で有意差がみられるものとの差が顕著である。

20~30代と40~50代との間で有意差がみられる項目は、通勤(20~30代が多い。1%水準)、家庭の状況(20~30代に未就学児童多い。0.1%水準)、暇の程度(40~50が忙しい。5%水準)、健康・体力への配慮(40~50代多い。5%水準)、スポーツ経験タイプ(5%水準)今後参加したい行事と参加したいクラブの内容(20~30代競技会指向多い。5%水準、1%水準)の7種目と具体的運動種目である。具体的運動種目は種目数が多いことから統計的に当然であるといえるかも知れない。

60代以上の生活様式や運動やスポーツ活動の実際や、スポーツ観がそれより若い人々と異なるのは当然といえるが、実際のデータとして裏付けられるとそのデータに示された状況を尊重しながら、具体的な運動やスポーツあり方を考えていかねばならない。

また40~50代が運動やスポーツへの関わり方が、20~30代と60代以上の中間に位置するものばかりでは無いことに留意することも大切な要点であると思われる。

## 6. 結語にかえて

この調査結果をみる限り、スポーツや運動はまだまだ男性優位の文化であることがよくわかる。運動能力や体力の問題は性別により明確な差があるが、そのことは、女性をスポーツから遠ざけることと直接結びつかない。このことは単に身体的、精神的な問題であると

いうよりは、女性とスポーツとの関わりという極めて社会的な問題であるといえよう。

また、卒業後の運動やスポーツとの関わりやスポーツをしない理由などからみる限り、スポーツや運動が一種独特な優勝劣敗の思想を持ち、それがスポーツ以外のことと容易に結び付き、特定の資質を持つもの以外は接近しにくくなるような雰囲気や長い間かかって築き上げてきたこととの関わりが全くないとはいえないように思われる。これらのことは更にいろいろなことがらとの関わりについての検討が必要であるが、これからのスポーツや運動のあり方を考えていく大きな基本的問

題を含んでいることを共通理解して進めていかなければならない「スポーツについての風土的問題」であるといえよう。

余暇社会、高齢化社会が進行していく中で、スポーツや運動のがそこに起こる様々な現象、特に社会的にマイナスに評価される問題についていくつかの解決の糸口を持っていることを理解した上で、今後のスポーツや運動とスポーツとの関わりを考え実践していくことは重要である。またそのことについて躊躇している時代はとうに過ぎていくといえる。

資料：基礎集計結果（集計対象数Nは項目により異なる）

F 3：休暇の形態

		N	完全週休2日制	その他完全週休2日	週休1日半制	週休1日	週休制度なし
性別	合計	332	9.3	15.7	6.0	21.1	10.2
	男性	172	12.8	22.7	7.6	23.8	8.7
	女性	160	5.6	8.1	4.4	18.1	11.9
年齢別	20-29	54	20.4	24.1	13.0	16.7	7.4
	30-39	51	17.6	19.6	3.9	31.4	5.9
	40-49	61	6.6	19.7	11.5	37.7	13.1
	50-59	48	4.2	29.2	6.3	20.8	6.3
	60-69	53	9.4	5.7	1.9	18.9	20.8
	70-	66	-	1.5	-	3.0	7.6

F 4：通勤（通学）

F 4 S：通勤時間

		休日はない	その他	N	している	していない	N
		合計	5.4	32.2	315	56.2	43.8
性別	男性	2.9	21.5	163	69.3	30.7	120
	女性	8.1	43.8	152	42.1	57.9	72
年齢別	20-29	1.9	16.7	54	98.1	1.9	53
	30-39	3.9	17.6	50	68.0	32.0	35
	40-49	3.3	8.2	60	65.0	35.0	43
	50-59	8.3	25.0	46	65.2	34.8	30
	60-69	3.8	39.6	49	40.8	59.2	25
	70-	10.6	77.3	56	3.6	96.4	8

		-30分未満	30-44分	45-59分	60-89分	90-119分	120分以上
		合計	54.2	15.1	14.1	8.9	3.1
性別	男性	50.8	15.8	14.2	13.3	3.3	0.8
	女性	59.7	13.9	13.9	1.4	2.8	-
年齢別	20-29	43.4	18.9	24.5	5.7	5.7	1.9
	30-39	60.0	14.3	14.3	11.4	-	-
	40-49	55.8	14.0	11.6	11.6	2.3	-
	50-59	56.7	13.3	10.0	10.0	6.7	-
	60-69	64.0	16.0	4.0	8.0	-	-
	70-	50.0	-	-	-	-	-

F 5：家庭の状況（末子）

		わからない	N	未就学児童	小学生	中学生	高校生
		合計	4.2	332	8.7	19.6	14.2
性別	男性	1.7	171	12.3	17.0	14.0	12.3
	女性	8.3	161	5.0	22.4	14.3	16.8
年齢別	20-29	-	54	5.6	9.3	7.4	13.0
	30-39	-	51	29.4	47.1	5.9	2.0
	40-49	4.7	62	4.8	24.2	38.7	24.2
	50-59	3.3	47	4.3	2.1	10.6	17.0
	60-69	8.0	51	5.9	21.6	9.8	7.8
	70-	50.0	68	4.4	11.8	11.8	19.1

F6：ヒマの程度

		いない	N	全くなし	ないほう	あるほう	ありすぎる
合計		43.1	334	5.7	45.5	40.1	8.7
性別	男性	44.4	172	4.1	46.5	41.9	7.6
	女性	41.6	162	7.4	44.4	38.3	9.9
年齢別	20-29	64.8	54	7.4	38.9	51.9	1.9
	30-39	15.7	51	3.9	58.8	37.3	-
	40-49	8.1	62	11.3	69.4	19.4	-
	50-59	66.0	48	8.3	60.4	29.2	2.1
	60-69	54.9	53	3.8	35.8	49.1	11.3
	70-	52.9	67	-	16.4	50.7	32.8

1：健康か

2：健康，体力への注意

		N	おおいに	まあ	あまり	N	つねに
合計		335	19.4	70.4	10.1	334	38.0
性別	男性	172	23.3	68.0	8.7	171	38.0
	女性	163	15.3	73.0	11.7	163	38.0
年齢別	20-29	54	35.2	57.4	7.4	54	16.7
	30-39	51	17.6	76.5	5.9	51	15.7
	40-49	62	12.9	82.3	4.8	61	23.0
	50-59	48	25.0	66.7	8.3	48	39.6
	60-69	53	20.8	71.7	7.5	53	64.2
	70-	68	8.8	67.6	23.5	68	61.8

2S：健康への心かけ

		ときどき	あまり(全然)	N	栄養，食事	睡眠，栄養	体操，運動
合計		52.4	9.6	318	23.0	31.4	23.9
性別	男性	51.5	10.5	165	15.2	32.1	29.7
	女性	53.4	8.6	153	31.4	30.7	17.6
年齢別	20-29	59.3	24.1	46	6.5	28.3	41.3
	30-39	76.5	7.8	50	24.0	32.0	22.0
	40-49	67.2	9.8	61	19.7	34.4	23.0
	50-59	54.2	6.3	46	26.1	17.4	32.6
	60-69	30.2	5.7	52	44.2	34.6	13.5
	70-	33.8	4.4	64	17.2	37.5	15.6

3：体力評価

		規則的生活	その他	とくになし	わからない	N	人並み以上
合計		13.5	0.9	6.3	0.9	332	13.9
性別	男性	12.7	0.6	8.5	1.2	170	20.6
	女性	14.4	1.3	3.9	0.7	162	6.8
年齢別	20-29	8.7	-	13.0	2.2	54	24.1
	30-39	10.0	-	12.0	-	49	14.3
	40-49	14.8	-	8.2	-	61	18.0
	50-59	15.2	2.2	6.5	-	48	10.4
	60-69	7.7	-	-	-	53	5.7
	70-	21.9	3.1	1.6	3.1	68	10.3

## 3 S : 体力自信

		人並み	人並み以下	わからない	N	あり	なし
		合計	64.8	15.1	6.3	302	43.4
性別	男性	65.9	10.6	2.9	166	53.6	15.1
	女性	63.6	19.8	9.9	136	30.9	24.3
年齢別	20-29	66.7	7.4	1.9	50	54.0	12.0
	30-39	71.4	12.2	2.0	47	40.4	19.1
	40-49	65.6	11.5	4.9	57	47.4	10.5
	50-59	70.8	12.5	6.3	47	40.4	19.1
	60-69	69.8	18.9	5.7	50	44.0	26.0
	70-	48.5	26.5	14.7	52	32.7	30.8

## 4 S : 眠れば疲れはとれるか

## 4 : 疲れを感じること

		どちらともいえない	N	よくある	ときどき	ない	N
		合計	37.4	329	13.1	71.4	15.5
性別	男性	31.3	168	13.7	69.6	16.7	160
	女性	44.9	161	12.4	73.3	14.3	151
年齢別	20-29	34.0	54	13.0	66.7	20.4	45
	30-39	40.4	48	10.4	72.9	16.7	48
	40-49	42.1	59	10.2	72.9	16.9	57
	50-59	40.4	48	12.5	70.8	16.7	47
	60-69	30.0	53	11.3	75.5	13.2	52
	70-	36.5	68	19.1	70.6	10.3	63

## 5 : 運動の必要感

		とれる	とれない	どちらともいえない	N	感じる	感じない
		合計	53.7	19.0	27.3	329	60.5
性別	男性	60.0	18.1	21.9	170	60.0	36.5
	女性	47.0	19.9	33.1	159	61.0	34.0
年齢別	20-29	57.8	17.8	24.4	53	79.2	20.8
	30-39	50.0	27.1	22.9	49	79.6	20.4
	40-49	56.1	22.8	21.1	61	78.7	21.3
	50-59	59.6	19.1	21.3	46	60.9	37.0
	60-69	59.6	15.4	25.0	53	52.8	43.4
	70-	42.9	12.7	44.4	68	22.1	61.8

## 6 : 体力テスト

## 6 S : 体力テスト希望

		わからない	N	受けた	受けない	N	受けたい
		合計	4.3	333	8.1	91.9	314
性別	男性	3.5	172	10.5	89.5	161	52.2
	女性	5.0	161	5.6	94.4	153	47.1
年齢別	20-29	—	54	25.9	74.1	45	48.9
	30-39	—	51	5.9	94.1	50	56.0
	40-49	—	61	8.2	91.8	59	69.5
	50-59	2.2	48	8.3	91.7	47	63.8
	60-69	3.8	52	1.9	98.1	52	44.2
	70-	16.2	68	—	100.0	62	19.4

## 7：運動、スポーツ経験タイプ

		受けたくない	N	1	2	3	4
性別	合計	50.3	303	13.2	4.0	6.6	9.9
	男性	47.8	162	19.8	4.3	6.8	11.1
	女性	52.9	141	5.7	3.5	6.4	8.5
年齢別	20-29	51.1	54	33.3	1.9	7.4	11.1
	30-39	44.0	49	18.4	6.1	6.1	14.3
	40-49	30.5	60	8.3	5.0	6.7	8.3
	50-59	36.2	45	8.9	2.2	13.3	13.3
	60-69	55.8	43	4.7	7.0	4.7	7.0
	70-	80.6	54	3.7	1.9	1.9	5.6

		5	6	7	8	9	10
性別	合計	5.3	11.6	19.5	4.0	5.0	21.1
	男性	4.3	14.2	17.3	2.5	6.2	13.6
	女性	6.4	8.5	22.0	5.7	3.5	29.8
年齢別	20-29	3.7	14.8	9.3	7.4	1.9	9.3
	30-39	4.1	2.0	14.3	6.1	10.2	18.4
	40-49	3.3	15.0	23.3	1.7	5.0	23.3
	50-59	6.7	17.8	15.6	4.4	4.4	13.3
	60-69	4.7	16.3	32.6	4.7	-	18.6
	70-	9.3	3.7	22.2	1.9	7.4	42.6

## 8：1年間のスポーツ実施

## 8 S：この1年間にやったスポーツ

		N	実施した	実施しなかった	N	軽い球技	体操
性別	合計	333	85.0	15.0	284	42.6	41.9
	男性	172	89.0	11.0	154	44.2	37.7
	女性	161	80.7	19.3	130	40.8	46.9
年齢別	20-29	54	98.1	1.9	53	67.9	35.8
	30-39	51	94.1	5.9	48	60.4	43.8
	40-49	62	95.2	4.8	58	51.7	50.0
	50-59	48	81.3	18.8	39	38.5	46.2
	60-69	53	81.1	18.9	43	23.3	53.5
	70-	66	63.6	36.4	44	2.3	22.7

		あるけあるけ運動	フォークダンス	ボーリング	ゲートボール	ランニング	軽い水泳
性別	合計	25.0	9.5	28.9	16.2	16.2	10.9
	男性	22.1	4.5	28.6	18.2	21.4	12.3
	女性	28.5	15.4	29.2	13.8	10.0	9.2
年齢別	20-29	7.5	5.7	58.5	-	24.5	18.9
	30-39	12.5	8.3	37.5	6.3	18.8	20.8
	40-49	24.1	8.6	24.1	3.4	20.7	5.2
	50-59	33.3	15.4	33.3	12.8	12.8	10.3
	60-69	30.2	11.6	14.0	27.9	14.0	9.3
	70-	47.7	9.1	2.3	56.8	2.3	2.3



		室内運動器具運動	その他軽いスポーツ	スキー	海水浴	スケート	登山
性別	合計	7.0	6.3	13.0	12.7	5.6	6.3
	男性	7.1	9.7	14.3	9.7	5.2	7.8
性別	女性	6.9	2.3	11.5	16.2	6.2	4.6
	20-29	11.3	3.8	34.0	20.8	11.3	3.8
年齢別	30-39	2.1	4.2	25.0	20.8	6.3	2.1
	40-49	10.3	6.9	8.6	20.7	8.6	10.3
年齢別	50-59	7.7	5.1	2.6	2.6	5.1	15.4
	60-69	9.3	4.7	4.7	4.7	-	7.0
年齢別	70-	-	13.6	-	-	-	-

		キャンプ	ハイキング	オリエンテーリング	ボート, ヨット	ゴルフ	サイクリング
性別	合計	5.6	7.0	2.5	2.8	13.0	3.5
	男性	6.5	6.5	3.2	2.6	20.1	2.6
性別	女性	4.6	7.7	1.5	3.1	4.6	4.6
	20-29	7.5	7.5	5.7	13.2	11.3	5.7
年齢別	30-39	4.2	14.6	-	-	25.0	10.4
	40-49	13.8	5.2	5.2	-	22.4	-
年齢別	50-59	2.6	7.7	2.6	2.6	10.3	2.6
	60-69	2.3	7.0	-	-	4.7	2.3
年齢別	70-	-	-	-	-	-	-

		釣り	非競技的野外スポーツ	陸上競技	水泳競技	柔道, 剣道	野球
性別	合計	15.1	3.2	1.8	0.4	1.4	4.9
	男性	25.3	4.5	0.6	-	1.9	9.1
性別	女性	3.1	1.5	3.1	0.8	0.8	-
	20-29	11.3	1.9	1.9	1.9	1.9	9.4
年齢別	30-39	12.5	6.3	4.2	-	4.2	8.3
	40-49	17.2	3.4	1.7	-	1.7	5.2
年齢別	50-59	15.4	5.1	2.6	-	-	5.1
	60-69	16.3	2.3	-	-	-	-
年齢別	70-	18.2	-	-	-	-	-

		ソフトボール	バレーボール	テニス	卓球	その他の球技	その他の競技スポーツ
性別	合計	9.9	12.3	2.8	2.8	4.9	1.1
	男性	11.0	5.8	3.9	1.9	6.5	0.6
性別	女性	8.5	20.0	1.5	3.8	3.1	1.5
	20-29	9.4	18.9	9.4	5.7	17.0	-
年齢別	30-39	22.9	14.6	-	4.2	4.2	-
	40-49	13.8	24.1	1.7	3.4	1.7	1.7
年齢別	50-59	7.7	7.7	2.6	2.6	2.6	5.1
	60-69	2.3	2.3	-	-	2.3	-
年齢別	70-	-	-	2.3	-	-	-

8 S : スポーツ実施日数

		N	週3日以上	週1-3日	月1-3日	3月に1-2日	年1-3日
合計		270	15.6	28.1	27.4	14.4	11.9
性別	男性	146	21.2	24.7	30.1	15.1	7.5
	女性	124	8.9	32.3	24.2	13.7	16.9
年齢別	20-29	53	22.6	24.5	34.0	13.2	3.8
	30-39	48	10.4	43.8	25.0	10.4	10.4
	40-49	53	13.2	28.3	22.6	20.8	11.3
	50-59	37	13.5	29.7	35.1	8.1	10.8
	60-69	38	5.3	18.4	36.8	21.1	15.8
	70-	42	23.8	21.4	14.3	14.3	21.4

8 S : スポーツをする理由

		不明	N	運動不足, ストレス解消	健康, 体力維持	美容, 肥満解消	友人との交流
合計		2.6	277	58.1	59.6	15.9	54.2
性別	男性	1.4	150	60.0	65.3	9.3	50.7
	女性	4.0	127	55.9	52.8	23.6	58.3
年齢別	20-29	1.9	53	60.4	66.0	18.9	60.4
	30-39	-	48	75.0	54.2	14.6	58.3
	40-49	3.8	55	61.8	49.1	14.5	63.6
	50-59	2.7	39	61.5	59.0	20.5	53.8
	60-69	2.6	40	57.5	70.0	17.5	35.0
	70-	4.8	43	27.9	60.5	9.3	48.8

		他人に勧められた	よい施設, 指導者	生活を豊かに楽しむ	能力, 技術の向上	体を動かすことが好き	人間形成, 精神力
合計		7.6	6.5	21.7	17.3	37.5	9.0
性別	男性	4.0	1.3	25.3	21.3	44.7	12.0
	女性	11.8	12.6	17.3	12.6	29.1	5.5
年齢別	20-29	3.8	3.8	26.4	39.6	52.8	9.4
	30-39	10.4	4.2	18.8	22.9	43.8	10.4
	40-49	9.1	7.3	25.5	14.5	30.9	12.7
	50-59	7.7	17.9	12.8	7.7	35.9	7.7
	60-69	2.5	2.5	30.0	10.0	30.0	7.5
	70-	11.6	4.7	16.3	4.7	25.6	7.0

8 S : スポーツをしない理由

		為し遂げた満足感	毎日一定の運動をしたいから	家族との触れあい	その他	わからない	N
合計		10.1	8.3	12.6	2.2	1.1	65
性別	男性	12.7	8.7	9.3	3.3	2.0	30
	女性	7.1	7.9	16.5	0.8	-	35
年齢別	20-29	17.0	3.8	-	-	3.8	2
	30-39	12.5	6.3	22.9	2.1	-	4
	40-49	5.5	7.3	20.0	-	-	9
	50-59	10.3	7.7	10.3	-	-	9
	60-69	10.0	7.5	15.0	7.5	2.5	14
	70-	7.0	16.3	7.0	4.7	-	27

		疲れる	会社が忙しい	家事が忙しい	転勤のため	仲間がいない	指導者がいない
	合計	35.4	26.2	12.3	1.5	24.6	1.5
性別	男性	30.0	33.3	3.3	3.3	26.7	3.3
	女性	40.0	20.0	20.0	—	22.9	—
年齢別	20-29	50.0	50.0	—	—	—	—
	30-39	—	50.0	50.0	—	—	—
	40-49	22.2	66.7	33.3	—	55.6	—
	50-59	11.1	33.3	11.1	11.1	33.3	—
	60-69	42.9	35.7	14.3	—	28.6	—
	70-	48.1	—	—	—	14.8	3.7

		施設場所がない	病気がけが	おっくう	金がかかる	ほかの趣味	嫌いだから
	合計	6.2	20.0	9.2	16.9	16.9	1.5
性別	男性	10.0	16.7	10.0	16.7	16.7	—
	女性	2.9	22.9	8.6	17.1	17.1	2.9
年齢別	20-29	—	—	—	50.0	50.0	—
	30-39	—	25.0	—	—	—	—
	40-49	—	22.2	11.1	11.1	—	—
	50-59	22.2	11.1	11.1	11.1	22.2	—
	60-69	—	21.4	28.6	14.3	28.6	—
	70-	7.4	22.2	—	22.2	14.8	3.7

9：今後やってみたいスポーツ

		仕事、勉強に差し支える	特に理由なし	する必要を感じない	N	軽い球技	体操
	合計	1.5	23.1	3.1	289	33.6	28.7
性別	男性	—	20.0	3.3	151	31.8	19.2
	女性	2.9	25.7	2.9	138	35.5	39.1
年齢別	20-29	—	—	—	52	44.2	19.2
	30-39	—	25.0	—	50	56.0	20.0
	40-49	11.1	11.1	—	60	33.3	45.0
	50-59	—	22.2	11.1	43	41.9	30.2
	60-69	—	35.7	—	42	16.7	33.3
	70-	—	22.2	3.7	44	4.5	22.7

		あるけあるけ運動	フォークダンス	ボーリング	ゲートボール	ランニング	軽い水泳
	合計	32.2	12.8	14.5	14.5	14.9	23.9
性別	男性	25.2	4.6	14.6	15.2	21.9	23.8
	女性	39.9	21.7	14.5	13.8	7.2	23.9
年齢別	20-29	9.6	3.8	25.0	—	17.3	28.8
	30-39	16.0	12.0	20.0	—	24.0	20.0
	40-49	30.0	21.7	16.7	5.0	18.3	26.7
	50-59	37.2	18.6	16.3	7.0	11.6	39.5
	60-69	59.5	9.5	4.8	35.7	11.9	19.0
	70-	47.7	9.1	2.3	50.0	2.3	6.8

		室内運動器具運動	その他軽スポーツ	スキー	海水浴	スケート	登山
性別	合計	14.5	6.2	19.0	7.3	4.2	8.7
	男性	16.6	9.3	19.9	6.6	3.3	11.9
	女性	12.3	2.9	18.1	8.0	5.1	5.1
年齢別	20-29	9.6	-	51.9	17.3	7.7	5.8
	30-39	12.0	4.0	38.0	8.0	10.0	8.0
	40-49	20.0	6.7	15.0	10.0	3.3	16.7
	50-59	18.6	9.3	2.3	-	4.7	9.3
	60-69	14.3	9.5	-	2.4	-	7.1
	70-	13.6	9.1	-	2.3	-	2.3

		キャンプ	ハイキング	オリエンテーリング	ボート, ヨット	ゴルフ	サイクリング
性別	合計	4.8	6.9	1.4	4.8	24.6	6.9
	男性	6.6	6.6	1.3	7.3	29.8	7.9
	女性	2.9	7.2	1.4	2.2	18.8	5.8
年齢別	20-29	5.8	1.9	1.9	13.5	40.4	11.5
	30-39	6.0	10.0	4.0	6.0	40.0	8.0
	40-49	8.3	6.7	-	5.0	30.0	11.7
	50-59	4.7	14.0	2.3	2.3	16.3	7.0
	60-69	2.4	9.5	-	-	11.9	-
	70-	-	-	-	-	-	-

		釣り	非競技的野外スポーツ	陸上競技	水泳競技	柔道, 剣道	空手, ボクシング, レスリング
性別	合計	11.8	1.4	1.4	0.7	0.7	0.7
	男性	19.9	2.0	2.0	-	1.3	0.7
	女性	2.9	0.7	0.7	1.4	-	0.7
年齢別	20-29	5.8	1.9	5.8	1.9	-	3.8
	30-39	8.0	2.0	2.0	2.0	-	-
	40-49	13.3	-	-	-	1.7	-
	50-59	20.9	4.7	-	-	2.3	-
	60-69	11.9	-	-	-	-	-
	70-	11.4	-	-	-	-	-

		弓道, 洋弓	野球	ソフトボール	バレーボール	テニス	卓球
性別	合計	1.0	5.5	6.2	6.9	9.3	4.2
	男性	2.0	10.6	7.3	4.0	7.9	2.0
	女性	-	-	5.1	10.1	10.9	6.5
年齢別	20-29	3.8	9.6	3.8	13.5	25.0	-
	30-39	2.0	8.0	18.0	6.0	10.0	8.0
	40-49	-	10.0	8.3	11.7	11.7	1.7
	50-59	-	2.3	2.3	4.7	4.7	9.3
	60-69	-	-	2.4	2.4	-	4.8
	70-	-	-	-	-	-	2.3

10：体育の授業は役立ったか

		その他の球技	その他の競技スポーツ	N	大変	ある程度	あまり
性別	合計	5.9	0.7	314	13.4	44.3	26.4
	男性	7.9	0.7	166	15.1	50.0	22.9
	女性	3.6	0.7	148	11.5	37.8	30.4
年齢別	20-29	17.3	1.9	53	15.1	52.8	26.4
	30-39	6.0	-	51	13.7	43.1	33.3
	40-49	5.0	-	62	16.1	59.7	22.6
	50-59	2.3	-	45	15.6	42.2	28.9
	60-69	2.4	-	45	13.3	42.2	26.7
70-	-	2.3	58	6.9	25.9	22.4	

10S：体育の役立ち方

		わからない	N	技術	ルール	健康体力	スポーツの楽しさ
性別	合計	15.9	235	37.0	48.9	25.5	45.5
	男性	12.0	136	36.0	50.0	25.7	39.0
	女性	20.3	99	38.4	47.5	25.3	54.5
年齢別	20-29	5.7	42	57.1	66.7	33.3	47.6
	30-39	9.8	36	30.6	50.0	19.4	52.8
	40-49	1.6	53	60.4	49.1	15.1	52.8
	50-59	13.3	36	25.0	58.3	22.2	58.3
	60-69	17.8	37	24.3	35.1	32.4	43.2
70-	44.8	31	9.7	29.0	35.5	12.9	

11：クラブ経験は役立ったか

		精神力	指導力	協力	人間関係	わからない	N
性別	合計	20.9	6.4	16.2	19.6	8.9	288
	男性	27.9	7.4	14.7	22.1	9.6	157
	女性	11.1	5.1	18.2	16.2	8.1	131
年齢別	20-29	11.9	14.3	14.3	7.1	2.4	51
	30-39	8.3	5.6	11.1	30.6	11.1	42
	40-49	22.6	7.5	13.2	18.9	3.8	60
	50-59	22.2	2.8	19.4	19.4	8.3	40
	60-69	27.0	2.7	24.3	27.0	8.1	44
70-	35.5	3.2	16.1	16.1	25.8	52	

11S：クラブ活動の役立ち方

		大変	ある程度	あまり	わからない	N	技術
性別	合計	23.3	39.6	16.3	20.8	222	36.0
	男性	27.4	43.3	13.4	15.9	132	31.1
	女性	18.3	35.1	19.8	26.7	90	43.3
年齢別	20-29	37.3	41.2	15.7	5.9	47	42.6
	30-39	33.3	35.7	16.7	14.3	40	45.0
	40-49	30.0	50.0	11.7	8.3	49	55.1
	50-59	17.5	45.0	17.5	20.0	30	26.7
	60-69	9.1	45.5	25.0	20.5	33	18.2
70-	9.6	21.2	13.5	55.8	24	4.2	

		ルール	スポーツの楽しさ	精神力	指導力	協力	人間関係
合計		43.2	40.5	31.1	7.7	22.5	24.8
性別	男性	47.7	36.4	35.6	9.8	24.2	27.3
	女性	36.7	46.7	24.4	4.4	20.0	21.1
年齢別	20-29	44.7	29.8	36.2	12.8	38.3	21.3
	30-39	35.0	50.0	30.0	5.0	12.5	30.0
	40-49	44.9	44.9	32.7	14.3	14.3	26.5
	50-59	60.0	56.7	23.3	-	20.0	30.0
	60-69	45.5	39.4	33.3	3.0	33.3	18.2
	70-	25.0	16.7	25.0	4.2	12.5	20.8

12S：スポーツ行事参加

		わからない	健康体力	N	知っている	知らない	N
合計		9.0	32.9	323	89.5	10.5	298
性別	男性	8.3	35.6	170	90.0	10.0	158
	女性	10.0	28.9	153	88.9	11.1	140
年齢別	20-29	4.3	36.2	53	88.7	11.3	48
	30-39	5.0	45.0	50	92.0	8.0	47
	40-49	6.1	20.4	58	94.8	5.2	58
	50-59	10.0	30.0	47	93.6	6.4	45
	60-69	6.1	36.4	51	92.2	7.8	49
	70-	37.5	29.2	65	78.5	21.5	52

13：今後のスポーツ行事

		参加した	参加しなかった	見物しただけ	N	参加したい	したくない
合計		64.4	22.5	13.1	307	60.9	19.2
性別	男性	72.2	19.6	8.2	160	70.6	13.8
	女性	55.7	25.7	18.6	147	50.3	25.2
年齢別	20-29	60.4	35.4	4.2	51	64.7	11.8
	30-39	74.5	14.9	10.6	45	66.7	6.7
	40-49	84.5	10.3	5.2	58	72.4	12.1
	50-59	64.4	24.4	11.1	43	67.4	11.6
	60-69	53.1	18.4	28.6	48	64.6	20.8
	70-	46.2	34.6	19.2	63	33.3	44.4

13S：参加したい行事

		わからない	N	競技会	レクリエーション	テスト	トレーニング
合計		19.9	221	35.3	36.7	3.6	9.5
性別	男性	15.6	131	38.2	34.4	3.8	9.9
	女性	24.5	90	31.1	40.0	3.3	8.9
年齢別	20-29	23.5	35	60.0	28.6	2.9	2.9
	30-39	26.7	39	56.4	20.5	5.1	5.1
	40-49	15.5	46	37.0	32.6	2.2	10.9
	50-59	20.9	33	21.2	39.4	6.1	15.2
	60-69	14.6	39	17.9	56.4	5.1	10.3
	70-	22.2	29	13.8	48.3	-	13.8

14：職場のスポーツ行事

		野外活動	その他	N	参加した	しない	見物だけ
		合計	12.2	2.7	294	36.1	22.4
性別	男性	11.5	2.3	155	49.0	22.6	4.5
	女性	13.3	3.3	139	21.6	22.3	5.8
年齢別	20-29	5.7	—	53	54.7	26.4	1.9
	30-39	12.8	—	47	57.4	17.0	—
	40-49	15.2	2.2	53	37.7	34.0	3.8
	50-59	18.2	—	43	39.5	20.9	14.0
	60-69	10.3	—	46	26.1	26.1	4.3
	70-	10.3	13.8	53	1.9	11.3	7.5

14S：今後の職場のスポーツ行事参加

15：スポーツ参加

		勤めてない	N	したい	したくない	わからない	N
		合計	36.4	196	71.4	12.8	15.8
性別	男性	23.9	124	77.7	9.7	12.9	166
	女性	50.4	72	61.1	18.1	20.8	154
年齢別	20-29	17.0	45	71.1	11.1	17.8	54
	30-39	25.5	37	89.2	—	10.8	49
	40-49	24.5	42	73.8	11.9	14.3	60
	50-59	25.6	33	81.8	9.1	9.1	48
	60-69	43.5	28	50.0	17.9	32.1	49
	70-	79.2	13	30.8	53.8	15.4	60

16：今後のスポーツ教室参加

		参加した	参加してない	N	したい	したくない	わからない
		合計	22.8	77.2	321	49.5	33.0
性別	男性	22.3	77.7	166	50.6	33.1	16.3
	女性	23.4	76.6	155	48.4	32.9	18.7
年齢別	20-29	20.4	79.6	54	63.0	25.9	11.1
	30-39	34.7	65.3	50	62.0	16.0	22.0
	40-49	40.0	60.0	61	63.9	24.6	11.5
	50-59	27.1	72.9	45	62.2	15.6	22.2
	60-69	12.2	87.8	48	39.6	37.5	22.9
	70-	5.0	95.0	64	14.1	68.8	17.2

16S：参加したいスポーツ教室内容

17：クラブ同好会の加入

		N	知識や技能を高める	仲間と楽しむ	健康体づくり	その他	N
		合計	179	12.3	49.7	36.3	1.7
性別	男性	94	14.9	47.9	34.0	3.2	171
	女性	85	9.4	51.8	38.8	—	159
年齢別	20-29	35	28.6	48.6	22.9	—	54
	30-39	33	9.1	51.5	39.4	—	51
	40-49	39	12.8	48.7	38.5	—	61
	50-59	32	6.3	56.3	37.5	—	48
	60-69	26	7.7	30.8	53.8	7.7	52
	70-	15	—	66.7	26.7	6.7	65

17S：クラブの内容

		はい	いいえ	N	競技志向	競技+楽しむ	楽しむ+親睦
性別	合計	41.2	58.8	147	15.0	32.0	48.3
	男性	52.0	48.0	95	13.7	32.6	46.3
	女性	29.6	70.4	52	17.3	30.8	51.9
年齢別	20-29	51.9	48.1	29	34.5	41.4	24.1
	30-39	51.0	49.0	26	11.5	34.6	50.0
	40-49	41.0	59.0	27	22.2	25.9	48.1
	50-59	50.0	50.0	25	—	28.0	72.0
	60-69	28.8	71.2	21	9.5	38.1	38.1
	70-	29.2	70.8	20	5.0	20.0	65.0

17S：クラブの運動種目

		その他	N	体操	あるけあるけ運動	フォークダンス	ボーリング
性別	合計	4.8	144	2.8	2.8	5.6	0.7
	男性	7.4	93	1.1	3.2	3.2	1.1
	女性	—	51	5.9	2.0	9.8	—
年齢別	20-29	—	28	—	—	7.1	—
	30-39	3.8	26	—	—	3.8	—
	40-49	3.7	28	3.6	—	3.6	—
	50-59	—	24	8.3	4.2	12.5	4.2
	60-69	14.3	19	—	10.5	5.3	—
	70-	10.0	20	5.0	5.0	—	—

		ゲートボール	ランニング	スキー	水泳	ゴルフ	釣り
性別	合計	16.0	2.1	2.1	0.7	5.6	0.7
	男性	16.1	2.2	2.2	1.1	8.6	1.1
	女性	15.7	2.0	2.0	—	—	—
年齢別	20-29	—	—	3.6	—	—	—
	30-39	—	3.8	3.8	—	3.8	3.8
	40-49	—	—	3.6	—	14.3	—
	50-59	—	8.3	—	—	8.3	—
	60-69	42.1	—	—	5.3	5.3	—
	70-	80.0	—	—	—	—	—

		陸上競技	柔道、剣道	野球	ソフトボール	バレーボール	テニス
性別	合計	1.4	1.4	10.4	7.6	16.0	5.6
	男性	2.2	1.1	16.1	9.7	5.4	6.5
	女性	—	2.0	—	3.9	35.3	3.9
年齢別	20-29	3.6	3.6	10.7	7.1	14.3	7.1
	30-39	—	—	15.4	23.1	19.2	19.2
	40-49	—	3.6	21.4	3.6	32.1	—
	50-59	4.2	—	4.2	4.2	12.5	—
	60-69	—	—	—	5.3	10.5	—
	70-	—	—	5.0	—	—	5.0



17S：入会動機

		卓球	その他	N	継続可能	場所の利用	施設用具
合計		2.8	16.0	144	35.4	9.7	6.3
性別	男性	1.1	18.3	94	34.0	8.5	5.3
	女性	5.9	11.8	50	38.0	12.0	8.0
年齢別	20-29	3.6	39.3	28	35.7	7.1	—
	30-39	—	3.8	26	38.5	11.5	3.8
	40-49	3.6	10.7	27	40.7	3.7	7.4
	50-59	4.2	25.0	25	32.0	12.0	4.0
	60-69	5.3	10.5	21	38.1	19.0	9.5
	70-	—	—	18	22.2	11.1	22.2

		指導者	親睦	好きだから	体力増進	技術修得	その他
合計		13.2	64.6	38.2	64.6	10.4	4.2
性別	男性	6.4	67.0	39.4	69.1	7.4	5.3
	女性	26.0	60.0	36.0	56.0	16.0	2.0
年齢別	20-29	10.7	50.0	42.9	92.9	21.4	—
	30-39	3.8	73.1	34.6	69.2	19.2	3.8
	40-49	11.1	70.4	44.4	59.3	3.7	—
	50-59	28.0	56.0	40.0	60.0	8.0	4.0
	60-69	19.0	57.1	33.3	57.0	—	14.3
	70-	5.6	88.9	27.8	33.3	5.6	5.6

17S：クラブがあれば加入するか

17S：希望クラブ内容

		特にない	N	はい	いいえ	わからない	N
合計		2.8	190	40.5	42.6	16.8	112
性別	男性	2.1	82	39.0	45.1	15.9	51
	女性	4.0	108	41.7	40.7	17.6	61
年齢別	20-29	3.6	26	69.2	19.2	11.5	23
	30-39	—	23	47.8	26.1	26.1	21
	40-49	—	35	57.1	28.6	14.3	24
	50-59	4.0	26	42.3	46.2	11.5	15
	60-69	9.5	33	39.4	42.4	18.2	18
	70-	—	47	10.6	70.2	19.1	13

17S：希望クラブの運動種目

		競技志向	競技+楽しむ	楽しむ+親睦	その他	N	体操
合計		1.8	24.1	73.2	0.9	114	10.5
性別	男性	2.0	33.3	62.7	2.0	54	1.9
	女性	1.6	16.4	82.0	—	60	18.3
年齢別	20-29	8.7	39.1	52.2	—	24	16.7
	30-39	—	42.9	57.1	—	21	14.3
	40-49	—	12.5	87.5	—	22	18.2
	50-59	—	13.3	86.7	—	14	—
	60-69	—	16.7	77.8	5.6	22	4.5
	70-	—	7.7	92.3	—	12	8.3

		あるけあるけ運動	フォークダンス	ポーリング	ゲートボール	ランニング	スキー
性別	合計	17.5	15.8	13.2	17.5	6.1	10.5
	男性	11.1	9.3	16.7	20.4	7.4	11.1
	女性	23.3	21.7	10.0	15.0	5.0	10.0
年齢別	20-29	—	4.2	12.0	—	4.2	33.3
	30-39	9.5	14.3	9.5	—	9.5	19.0
	40-49	22.7	27.3	9.1	4.5	9.1	4.5
	50-59	14.3	28.6	42.9	14.3	—	—
	60-69	36.4	4.5	9.1	40.9	9.1	—
	70-	25.0	25.0	8.3	66.7	—	—

		ゴルフ	サイクリング	釣り	陸上競技	柔道, 剣道	野球
性別	合計	16.7	3.5	10.5	0.9	3.5	6.1
	男性	22.2	3.7	20.4	1.9	5.6	13.0
	女性	11.7	3.3	1.7	—	1.7	—
年齢別	20-29	16.7	4.2	—	—	4.2	4.2
	30-39	23.8	—	4.8	—	4.8	19.0
	40-49	27.3	4.5	9.1	4.5	4.5	9.1
	50-59	21.4	—	35.7	—	—	—
	60-69	4.5	9.1	13.6	—	4.5	—
	70-	—	—	8.3	—	—	—

		ソフトボール	水泳	スケート	登山	キャンプ	ハイキング
性別	合計	7.9	8.8	0.9	5.3	3.5	4.4
	男性	13.0	5.6	—	5.6	1.9	3.7
	女性	3.3	11.7	1.7	5.0	5.0	5.0
年齢別	20-29	4.2	20.8	4.2	—	—	—
	30-39	14.3	9.5	—	4.8	—	9.5
	40-49	13.6	4.5	—	13.6	13.6	9.1
	50-59	14.3	7.1	—	14.3	—	7.1
	60-69	—	4.5	—	—	4.5	—
	70-	—	—	—	—	—	—

		オリエンテーリング	ボート, ヨット	バレーボール	テニス	卓球	その他
性別	合計	0.9	4.4	8.8	21.1	8.8	3.5
	男性	—	3.7	5.6	18.5	5.6	3.7
	女性	1.7	5.0	11.7	23.3	11.7	3.3
年齢別	20-29	—	20.8	20.8	45.8	8.3	8.3
	30-39	4.8	—	4.8	23.8	4.8	4.8
	40-49	—	—	13.6	18.2	4.5	—
	50-59	—	—	7.1	14.3	21.4	7.1
	60-69	—	—	—	9.1	13.6	—
	70-	—	—	—	—	—	—

18：国際大会への関心

18S：国際大会の  
観戦

		N	非常に	やや	あまり	全くない	N
性別	合計	322	31.1	49.4	14.9	4.7	315
	男性	166	36.7	49.4	10.2	3.6	164
	女性	156	25.0	49.4	19.9	5.8	151
年齢別	20-29	54	37.0	53.7	7.4	1.9	53
	30-39	50	34.0	58.0	8.0	—	50
	40-49	61	50.8	41.0	8.2	—	61
	50-59	48	35.4	54.2	10.4	—	47
	60-69	49	14.3	65.3	12.2	8.2	47
	70-	61	14.8	27.9	41.0	16.4	58

19：学校体育で教えること

		テレビ	ラジオ	新聞(雑誌)	会場	N	身体づくり
性別	合計	94.9	0.3	3.5	1.3	314	13.7
	男性	95.1	0.6	3.0	1.2	164	12.2
	女性	94.7	—	4.0	1.3	150	15.3
年齢別	20-29	96.2	—	—	3.8	54	13.0
	30-39	98.0	—	2.0	—	50	10.0
	40-49	95.1	—	3.3	1.6	61	13.1
	50-59	95.7	—	4.3	—	45	8.9
	60-69	93.6	—	4.3	2.1	46	21.7
	70-	91.4	1.7	6.9	—	59	15.3

		技術練習	精神力	道徳心	楽しさを味わう	その他	わからない
性別	合計	9.2	20.7	24.2	28.0	0.3	3.8
	男性	9.1	20.7	29.9	24.4	—	3.7
	女性	9.3	20.7	18.0	32.0	0.7	4.0
年齢別	20-29	9.3	22.2	11.1	44.4	—	—
	30-39	10.0	14.0	28.0	36.0	—	2.0
	40-49	13.1	18.0	19.7	34.4	1.6	—
	50-59	15.6	15.6	26.7	33.3	—	—
	60-69	2.2	30.4	32.6	13.0	—	—
	70-	5.1	25.4	27.1	8.5	—	18.6

20：これから必要なもの

		N	大きな競技施設	手軽な施設	選手用クラブ	初心者用クラブ	高度な指導者
性別	合計	288	10.1	75.0	4.5	43.4	4.9
	男性	149	10.7	80.5	2.7	37.6	3.4
	女性	139	9.4	69.1	6.5	49.6	6.5
年齢別	20-29	54	18.5	77.8	7.4	42.6	11.1
	30-39	48	6.3	83.3	10.4	50.0	2.1
	40-49	60	8.3	75.0	5.0	51.7	3.3
	50-59	45	15.6	75.6	—	44.4	4.4
	60-69	45	4.4	64.4	—	35.6	4.4
	70-	37	8.1	70.3	2.7	35.1	2.7

		初心者の指導者	手軽なスポーツの普及	地域運動会	日常のスポーツ活動の充実	税金をスポーツのために使う	スポーツの広報活動
合計		27.8	60.1	13.5	24.0	26.7	13.9
性別	男性	23.5	61.7	14.8	26.2	33.6	18.1
	女性	32.4	58.3	12.2	21.6	19.4	9.4
年齢別	20-29	22.2	59.3	7.4	25.9	22.2	14.8
	30-39	29.2	60.4	6.3	37.5	25.0	12.5
	40-49	40.0	63.3	10.0	25.0	35.0	20.0
	50-59	20.0	68.9	13.3	26.7	28.9	6.7
	60-69	42.2	53.3	24.4	8.9	22.2	15.6
	70-	10.8	56.8	27.0	16.2	27.0	10.8

		スポーツの科学的研究	学校施設の開放	高度なスポーツの普及
合計		9.7	38.9	6.3
性別	男性	13.4	46.3	6.0
	女性	5.8	30.9	6.5
年齢別	20-29	11.1	37.0	13.0
	30-39	10.4	56.3	10.4
	40-49	11.7	43.3	1.7
	50-59	8.9	40.0	2.2
	60-69	6.7	22.2	2.2
	70-	5.4	29.7	8.1

## 滋賀県民の健康と体力についての意識と行動に関する研究

澤田 和明 (滋賀大学教育学部) 町田 登 (玉川高等学校)

豊田 一成 (滋賀大学教育学部)

### 1. 緒 言

本研究は昨年度の本紀要に発表した大津市のデータのみを取り扱った研究の継続研究であり、今年度は滋賀県全体のデータを収集したものについて考察する。それ故研究への基本的姿勢は全く同一である。

スポーツの社会的価値はその経済的、政治的な利用とも関連しながら、オリンピックをその技術的な頂点の1つとしてマスコミの報道により次第に高揚してきている。今日では社会の中の経済や政治がスポーツの中に影響を及ぼすばかりでなく、スポーツの側から社会へいろいろな影響を及ぼしていくことも増えてきている。

目まぐるしく変化する社会の中であって、これまでの歴史の中でどちらかといえばある特定の人々の独占的な文化であったスポーツの社会的機能はその過程で大きく変容しつつある。

スポーツへの関わり方をエリートとマスという従来からの捉え方からみていけば、それら両者の格差はこれまで以上に広がりを見せ、現実的にはスポーツの場でのエリートはマスメディアでしか接近不能なものとなってきている。そしてその卓越した技能がマスにとって絶対到達不可能な希少価値を持ったものになり、多くの人間ができれば接近したい社会的に共通な価値のあるものとして位置づけられてきている。

他方マスはスポーツへの関心の増大につれそれ自体がいくつにも階層化され、今やマスをひとまとめにできないような状況になってきている。また底辺拡大という単なる量的問題ばかりでなく、新しく質的な問題としての見直しが、日本を含めて先進諸国の共通の危

機的状況とも見なされる高齢化社会への進行に備える貴重な足がかりとして位置づけられてきている。21世紀の人類の生き残りの問題とも関連して運動やスポーツが改めて見直され、組み直しがなされていく状況にある。

またこれまでのスポーツや運動を支配してきた画一的な経験至上主義的なあり方の見直しの当然の帰結として、個々人の価値観や欲求の程度の多様化に伴った運動やスポーツの展開がなされるべきであるように思うが、これまでの学校体育のあり方、社会のエリートスポーツの取り扱いなどに関わりながら、それらが素直に受け入れていくようなスポーツの実践や展開が難しいことも事実である。

このような状況の中で個々人は運動やスポーツをどのように捉え、日常生活の中でどのように関わっているのかということに関する基礎資料を得ることは、今後の社会体育行政の上から、また学校体育の運営からも大切なことがらになってくる。

ところで国民体育大会が昭和56年に実施されて7年余り経過する。いろいろなスローガンの下に県民のかんりのエネルギーを費やして実施されたあのイベントは、滋賀県や滋賀県民にとって何であったのであろうか。その意味づけを総括をする意味においても、このような調査は何等かのデータを提供してくれるものと考えている。

### 2. 目的・手順

本研究は滋賀県民の健康や体力、スポーツや運動についての意識や行動の実態を知るための基礎的な作業である。このような研究は以前からその必要性は認識されながらもなかなか実施されなかった。先行研究として滋賀

県民を対象としたは国民体育大会に限定したものは行われてはいるが、健康体力から運動スポーツにわたる総括的なものはここ10年ほど実施されてはいない。

本研究は、滋賀県民がこれまでの自分の運動やスポーツ経験をもとにしながら、日常生活の中でスポーツや運動をどのように考え、どのように実施してきているのか、また、今後どのように取り組んでいこうとしているかについての基礎的な資料を得ることを目的として行った。調査は県下7市12郡（42町1村）の全市町村を対象に、人口比率により各年齢、性別ごとに標本を抽出し（1,715名）質問紙による配票調査法で調査を行った。

### 3. 現代社会とスポーツ

#### (1) 余暇観の推移

現代社会の多様な変化にともない社会的、個人的な価値観も時代の流れと共に少しずつ変わってきている。その中には人間の生きがいの問題に関わる生活の基本を構成する労働や余暇に関するものも含まれている。

人間が地球上で人間としての生活を始めて以来、生活の上での至上の価値の1つとして労働があった。労働に対する関心に加えて、長い間一部有閑階級の独占物として考えられていた余暇にも、余暇の絶対的量的拡大に伴い単なるレクリエーションとしてばかりでなく、余暇活動そのものとして近年少しずつ関心が払われるようになってきた。そしてその中で活動に新しい生活の広がり空間を求めようになってきている。

現在ではそれがさらに進み、余暇を労働と対等な価値づけをし、労働も大切であるが余暇も同じように大切である、という考え方を持つ人の比率が少しずつ増えてきており、さらには、余暇時間の漸増にともない余暇を労働より優先していく考え方も少しずつ見られるようになってきている。

#### (2) 現代社会における運動やスポーツ

労働や余暇に対する考え方と同じように、

生活の中での運動やスポーツの個人的、社会的意味づけも、社会の動きにともない歴史の中で時代とともに多様に変遷してきている。

運動やスポーツは人間にとって、プレイ領域で考えられたり、体育に代表される教育の領域で利用されたり、時には労働またはそれに近い領域のものとして取り扱われたりする。それらはそれぞれに社会的に多様な他の文化領域と不可分に関わり合いを持って、いろいろな問題を生起させてきている。

それらの中では技術の質と、実施者の量的なことがらに関わる問題、即ち高度化、大衆化の問題がそれらの背景の基本的なものとしてよかろう。

高度化は基本的には「する」部分と「みる」部分に分かれ、各々が各々の様相を見せている。これまで運動やスポーツは例えば体育に代表されるように「する」こととの関わりで問題にされてきたが、スポーツのアゴン（競争性）という特性に従い、技能レベルがかなり高度になり一般の人の努力では入手したくても容易に接近できない価値をもつようになってくる。それに従い「みる」ことへの関心が高まり、これまでスポーツに余り関心を示していなかった人々を巻き込み、次第により多くの人々が関心を持つようになってくる。

運動やスポーツの社会的な価値が高揚していくに従い、これまで以上に経済的、政治的な関わりが新しい問題として出て来るようになる。「みる」ことと関わる問題は、スポーツの技能水準の高度化に関わる問題であり、特にオリンピックを1つの頂点とする「勝ち負け」を問題とする大規模な競技大会が商業主義や政治的なかけひきの道具として利用されるようになる。

またこのようにスポーツに対する社会的な価値の高揚は、単にそのスポーツそれ自体に関わる結果としての勝敗や単なる大規模なイベントとしての問題ばかりではなく、そのことをそれ以外の関心を引き上げる手段的な材料として利用されていく傾向が強まっていく

ことにつながっていく。スポーツにおける技術水準の質的な高度化の問題は、スポーツを行う人々の量的拡大の大衆化の問題と微妙に関わってくる。

大衆化の問題は、優秀選手の早期発見という技術の高度化問題にいずれはつながっていくという単純な底辺拡大の次元ばかりでなく、そのイベントを新しい刺激材料とする、これまで一般の人々が日常生活において遠ざかっていた「するスポーツ」への再接近の問題でもある。それは技術の高度化という次元の問題と直接に関わる問題ではなく、運動の持っている効果的な特性に焦点をおいたスポーツへの大衆化の問題であり、「いつでも、どこでも、だれでも」という「みんなのスポーツ」の問題である。

このことは来たるべき高齢化社会におけるより少ない若者に支えられるより多くの高齢者の身体的、精神的な問題であり、高齢者の生きがいや健康の問題と不可分の問題でもある。高齢者の健康の問題は単に本人や家族の問題を越えた、この社会を構成している全員の問題である。それはまたスポーツや運動が予防医学との関わりでクローズアップされてきている、国民総医療費の問題と直接関わる日本全体の大きな社会問題であり、また高度に文明の発達した現代社会における、いわゆる運動不足によるとされる文明病とも称される慢性的呼吸循環系疾患の増大と関わっている世界的な社会問題でもある。

### (3) 余暇の中での運動スポーツ

社会存続にとっての順機能的と言う意味での運動やスポーツの社会的機能の重要性は、運動やスポーツの個人的な機能を集約したものから生まれるものとは限らない。個人的な運動需要を集約し総括したものを社会的運動需要と称した場合、社会的機能と社会的運動需要のあいだには微妙な、またかなりの食い違いがあることも事実である。

価値観が多様化していく現代社会の中でのこれからの運動やスポーツを考えていくには、

そのズレずれを意識した上で、個々人のこれまでの運動やスポーツの経験を背景として、個々人がおかれている現在のそれぞれの状況の中で、運動やスポーツをどのように捉えているかを明らかにすることが不可欠な作業の1つとなろう。そして個々人によってそれぞれ運動やスポーツの意味や機能が異なっていることを大切にしながら、それらを集約していくことが必要である。またその際運動の特性との関わりで捉えていくことが重要になってくる。

運動の特性は一般的には、効果的特性、構造的特性、及び、機能的特性の3つに分類されることが多い。効果的特性は、運動の内容そのものよりは、その結果としての効果、高揚にあり、運動を手段的に用いる考え方によるものである。また構造的特性は、その運動に用いられている技術構造に着目する捉え方であり、その運動特有の魅力を創り出す原点でもある。また機能的特性は個々人がそれぞれその運動にどのような楽しさ、魅力を感じるかという、運動との関わりからみた捉え方である。

これまでの運動やスポーツについての考え方は効果的特性を背景としながら、構造的特性の学習をいかに効果的能率的な学習が出来るかを中心に展開されてきた。それは学校教育における教科体育でも、運動部活動でも同じであり、さらには学校卒業以降の定期、不定期を問わず日常生活の中の運動やスポーツにおいても同じであるといえよう。

そこに展開される世界は、経験至上主義に基づき、技能レベルを指標としたハイラーキーが構成されていて、努力と到達技能の関係が単純な相関を示すという神話によって支えられることが多い。また努力や工夫の方向付けそのものについては「これまでのものを是」として基本的にまたは無批判的に踏襲するという形で余り変化がみられない場を構成している。このことは教育が三育（知育、徳育、体育）に分化されてきた考えが一人歩きし、

体育は知育とも徳育とも関連しないかのような取り扱いがされてきたことと無縁ではない。

過去にかなりの運動を実施してきた人々をも含めて、生涯スポーツが叫ばれながら、なかなか進展していかないとされる背景には、運動能力の低いものを結果的に締めだしてきたあり方があるように思われる。その打開のためには、少なくとも学校体育の中では、多様化する価値観を前提とした、個人にとっての運動の意義づけに関心を抱いた教科体育のあり方に関心が向けられねばならないし、そのためには基本的な学習課題としてその運動やスポーツの固有の楽しさ、醍醐味に触れる機能的特性からの観点が必要になってくる。努力しながらその特性に触れていけるような学習の場を補償していかなければならない。またこのことは、単に教科体育の問題に限らず、課外のクラブ活動や卒業後の地域や職場や家庭でのスポーツ活動にも当然いえることであるが、実際にはスポーツに対する観念的な文化体系が個人レベルでの変容が難しくなかなかなるよう進んでいかないと実状であるように思われる。

#### 4. 調査について

調査は昭和62年の12月から63年5月にかけて全県の成人を対象に人口比例による性別、年代別のサンプリングを行い、該当人数について配票法により行った。

##### (1) 調査項目

調査項目は健康や体力に関する自己診断やひごろの健康や体力維持に対する配慮、スポーツや運動の実施、クラブや同好会加入、地域でのスポーツ行事参加、学校体育の影響や期待など27項目81質問で構成されている。

##### (2) 回収率

有効回収数は1,195で回収率は68.9%であった。集計分析対象標本の内訳は性別では男性50.6%、女性49.4%、年齢別では20代17.6%、30代18.0%、40代18.5%、50代14.0%、60代14.8%、70代以上17.1%である。

##### (3) 基礎的項目

これ以降の節については、性別と年齢別クロス表分析での $\chi^2$ 検定の結果、差のみられるものは必ずその記述をしている。記述のないものは有意差がないものである。なお年齢別のクロス表については各セルの $\chi^2$ を確保するために20-30代、40-50代、60以上の3つの区分によるもので検定したものである。各比率の後の( )の中の%は昨年度の報告の天津市のものである。

なお以下の結果の図及び性別、年齢別の基礎的な集計結果(有効標本数1,195名)の資料は文末に資料としてまとめてある。

休暇の形態は週休1日半以上のものが36.6% (31.2%)、週休1日が17.9% (21.0%)、週休制でないもの14.3% (10.4%)、その他31.1% (37.7%) (休日無し、未就職)である。通勤しているもの60.9% (56.3%) (性別、年齢別で有意差あり(0.1%))のうち通勤時間が30分までのもの71.1% (54.1%)、45分まで9.1% (14.9%)、60分まで7.4% (13.9%)、90分まで6.6% (8.8%)、それ以上5.9% (3.6%)である(年齢別で0.1%水準)。(図1、図2、図3、図29)

家庭の状況(末子の年齢)は未就学児童17.3% (8.7%)、小学生20.4% (19.5%)、中学生11.3% (14.7%)、高校生12.7% (14.4%)、いない38.8% (42.8%)である(年齢別で0.1%水準)。暇の程度(年齢別で0.1%水準)については全くなし10.2% (5.7%)、ないほう46.9% (45.5%)、あるほう35.3% (39.9%)、ありすぎる7.5% (8.9%)である。(図3)

##### (4) 健康、体力について

健康について(年齢別で5%水準)は、おおいに14.8% (19.3%)、まあ健康73.0% (70.6%)、余り健康ではない12.2% (10.1%)、健康体力への配慮について(年齢別で0.1%水準)は、常に35.7% (37.8%)、ときどき52.9% (52.7%)、余り11.4% (9.5%)であり、その内容(年齢別で1%水準)



は、栄養・食事28.1% (23.1%)，睡眠・休養28.7% (31.3%)，体操・運動18.3% (23.8%)，規則的生活14.3% (13.4%)，特になし8.8% (6.6%)であった。(図6，図7，図8，図30，図31，図32)

体力評価(年齢別で1%水準)は人並以上が10.3% (13.8%)，人並67.4% (64.7%)，人並以下16.8% (15.3%)，体力への自信あり39.9% (43.1%)，なし20.1% (19.4%)，どちらともいえない40.0% (37.5%)である。女性は男性より体力が無いと回答するものが多い(0.1%水準)。(図9，図10，図33，図34)

疲れを感じることにについては、よくある12.3% (13.0%)，ときどき71.8% (71.6%)，ない15.9% (15.4%)で、眠れば疲れがとれるかについては、とれる53.4% (54.0%)，とれない19.1% (18.8%)，どちらともいえない27.5% (27.2%)である。女性にはとれにくいという回答多い(5%水準)。(図11，図12，図35，図36)

年齢別での有意差はいずれも年齢が高くなるに従い体力の低下や健康への配慮が大きくなっていることを示している。

#### (5) 運動やスポーツの実施について

運動の必要性(年齢別で0.1%水準)については、感じる66.6% (60.4%)，感じない29.9% (35.3%)で、1年間に体力テストを受けたもの(性別，年齢別で0.1%水準)は、7.1% (8.1%)であり、体力テストを受けたいと思っているものは50.2% (49.4%)である(性別で0.1%水準)。(図13，図14，図37，図38)

学校卒業後のこれまでの運動経験のパターン(性別，年齢別で0.1%水準)は図15，図40の通りで、24.8% (21.3%)は卒業後何も実施せず，この1年間に何かを実施したものは35.7% (38.6%)，過去にはやったがこの1年はしていないもの39.5% (40.1%)である。(図15，図40)

この1年間の運動やスポーツの実施は性別，

年齢別で0.1%水準で差があり，その種目は，多いものから体操45.2% (42.0%)，軽い球技44.3% (42.3%)，ポーリング28.8% (29.0%)，歩くこと19.1% (24.8%)，ゲートボール18.0% (16.4%)，スキー15.6% (13.3%)，ジョギング15.1% (16.1%)，バレーボール14.7% (12.2%)，海水浴13.4% (12.6%)，ゴルフ13.2% (12.9%)，釣り11.3% (15.0%)，軽い水泳12.3% (11.2%)で競技スポーツは少ない。運動やスポーツの(図8，実施日数は週3日以上12.7% (15.4%)，週1-2日22.7% (27.4%)，月1-3日29.1% (27.6%)，3月に1-2日19.5% (14.7%)，年1-3日12.2% (11.8%)である(性別で5%水準)。(図16，図22，図41)

スポーツ実施の理由(複数回答：回答者(81.5% (91.4%))，性別，年齢別で0.1%水準)は多いものから運動不足・ストレス解消59.4% (58.1%)，友人との交流56.8% (54.5%)，健康・体力維持56.1% (59.4%)，体を動かすことが好き34.5% (37.3%)，生活を豊かに楽しく21.0% (21.9%)，能力・技能向上15.9% (17.4%)，美容肥満解消15.1% (15.8%)，家族とのふれ合い14.6% (12.5%)と続いている。(図23，図43)

スポーツをしない理由(複数回答(回答者18.5% (21.3%)))には，疲れる30.8% (35.4%)，忙しい20.0% (26.2%)，仲間がいない16.7% (24.6%)，病気・怪我15.4% (20.0%)，他の趣味12.9% (16.9%)等が多い。(図24，図44)

今後やってみたいスポーツにはゴルフ，テニス，ソフトボール，バレーボール，卓球，スキーと続いている。年齢により差がみられる。(図21，図42)

#### (6) 体育の授業，クラブ経験等について

体育の授業が社会人になってから役立ったかについては，大変役だった11.0% (13.4%)，ある程度47.1% (44.4%)，あまり27.1% (26.3%)，わからない14.9% (15.9%)で

ある。60歳以上が評価が低いものや回答保留が多い（年齢別で0.1%水準）。その内容（複数回答）については、ルール47.0%（49.2%）、スポーツの楽しさ45.8%（45.8%）、技術37.8%（37.8%）、健康・体力25.0%（25.4%）、精神力23.3%（20.8%）、人間関係20.9%（19.5%）等であった。60代以上は技術やルールへの効果についての評価が低い（0.1%水準）。（図26、図45）

クラブ経験等については役立ったか（年齢別で0.1%水準）については、大変役立ったが21.4%（23.6%）、ある程度42.1%（39.8%）、あまり17.5%（16.3%）、わからない19.0%（20.8%）で、その内容（複数回答、年齢別で5%水準）については、ルール43.8%（43.0%）、スポーツの楽しさ39.4%（40.4%）、技術37.5%（35.9%）、健康・体力29.3%（32.7%）、精神力8.1%（30.9%）、人間関係29.4%（24.7%）等である。（図27、図46）

この2つについては男性の評価が高かった（5%水準）。年齢別には60歳以上と以下に差がみられた。

#### (7) スポーツ行事

地域のスポーツ行事予定の情報について、知っているもの91.7%（89.5%）で、うち行事に参加したもの65.4%（64.3%）、しなかったもの21.7%（22.7%）、見物のみ12.8%（13.0%）である。男性（0.1%水準）、40-50代が（0.1%水準）が積極的に参加している。今後のスポーツ行事（性別、年齢別で0.1%水準）については、64.4%（60.5%）が参加したいと回答している。また参加したい行事（年齢別で0.1%水準）はレクリエーションの行事41.1%（36.9%）、競技会30.3%（35.1%）、野外活動10.3%（12.2%）、トレーニング9.5%（9.5%）、スポーツテスト6.3%（3.6%）である。年齢が上がるほど競技的なものからレクリエーション的なものになっている（0.1%水準）。（図28、図48）

職場のスポーツ行事（性別で有意差あり（0.1%））については参加したもの44.5%（35.9%）、しない18.1%（22.7%）、見物だけ5.8%（5.1%）、勤めていない31.6%（36.3%）である。今後のスポーツ行事について参加したいもの74.1%（71.2%）である。就労の関係から年齢別で差がある（0.1%水準）

#### (8) スポーツ教室

スポーツ教室参加（年齢別で0.1%水準）については18.7%（23.1%）が参加したと回答し、今後のスポーツ教室参加については49.5%（49.5%）が参加したい、32.6%（33.1%）が参加したくないと回答している。その内容としては、仲間と楽しむもの48.7%（49.4%）、健康・体力作り35.5%（36.7%）、知識や技能を高める13.4%（12.2%）である（年齢別で5%水準）。年齢別では地域のスポーツ行事と同様な傾向を示している。

#### (9) スポーツクラブや同好会

スポーツクラブや同好会加入については男性5割、女性3割（1%水準）で全体では35.2%（41.3%）が加入しているとしている。年齢が上がるにつれ参加率が低くなっている（年齢別で1%水準）。そのクラブの内容（年齢別で5%水準）は楽しみと親睦を中心とするもの50.2%（48.6%）、競技と楽しみを中心とするもの33.4%（31.8%）、競技中心13.4%（14.9%）である。その運動種目はゲートボールの21.7%（16.6%）を最高に、ソフトボール、野球、テニス、ゴルフと続いている。入会動機は体力増進60.8%（64.1%）、親睦65.0%（64.8%）、好きだから36.6%（35.5%）、継続可能性31.6%（35.2%）等となっている。

また現在加入していない人に新しくスポーツクラブにはいるか（年齢別で0.1%水準）という問いについては、加入する47.2%（40.8%）、しない37.9%（42.4%）、わからない14.9%（16.8%）で、加入したい人が希望するクラブ（年齢別で1%水準）は楽しみと

親睦を中心にしたもの74.0% (73.7%)、競技と楽しみを中心したもの21.1% (23.7%)、競技指向のものは3.0% (1.8%)であった。希望種目(年齢別で0.1%水準)はゲートボール23.0% (17.4%)、テニス18.6% (20.9%)、歩き16.8% (17.4%)、ゴルフ15.0% (16.5%)、フォークダンス10.7% (15.7%)と続いている。

#### (10) スポーツの国際競技への関心

国際大会への関心は、非常に28.1% (31.2%)、やや49.8% (49.1%)、余り18.0% (15.1%)、全くない4.1% (4.6%)で、男性の関心が高く(0.1%水準)、40-50代の関心が高い(0.1%水準)。国際大会の観戦はテレビで93.5% (95.0%)が多い。(図17, 図47)

#### (11) その他

学校体育でこれから教えて欲しいことについては、スポーツの楽しさを味わう25.6% (28.2%)、道徳やマナー18.8% (24.1%)、精神力22.9% (20.9%)、身体づくり16.5% (13.6%)、技術10.9% (9.2%)となっている。性別で5%水準。60代以上では精神力が高く、楽しみが低い(年齢別で0.1%水準)。

またスポーツをしていくために必要なことから(複数回答、年齢別で0.1%水準)については、手がなる施設72.3% (74.8%)、手軽なスポーツの普及63.0% (60.3%)、初心者用クラブ44.2% (43.8%)、学校施設の解放31.8% (38.6%)、税金の利用28.1% (26.9%)等となっている。

### 5. 高齢化社会にむけて

先述の高齢化社会に向けてのいろいろな問題を検討するための資料として、60代以上のものと、50代までのものに分けて有意差のあるものをみたところ、5%水準で有意差のない項目は無く、そのほとんどが0.1%水準であった。それは20-30代と40-50代との間で有意差がみられるものとの差が顕著である。

20-30代と40-50代との間で有意差がみら

れる項目は、通勤(20-30代が多い。1%水準)、家庭の状況(20-30代に未就学児童が多い。0.1%水準)、暇の程度(40-50が忙しい。5%水準)、健康・体力への配慮(40-50代多い。5%水準)、スポーツ経験タイプ(5%水準)今後参加したい行事と参加したいクラブの内容(20-30代競技会指向多い。5%水準、1%水準)、の7項目と具体的運動種目である。具体的運動種目は種目数が多いことから統計的に当然であるといえるかも知れない。

60代以上の生活様式や運動やスポーツ活動の実際や、スポーツ観がそれより若い人々と異なるのは当然といえるが、実際のデータとして裏付けられるとそのデータに示された状況を尊重しながら、具体的な運動やスポーツあり方を考えていかねばならない。

また40-50代が運動やスポーツへの関わり方が、20-30代と60代以上の中間に位置するものばかりでは無いことに留意することも大切な要点であると思われる。

なお50歳代までと60歳代、70歳代の図は文末にある(図49から図64)。

### 6. 結語にかえて

昨年度の天津市の調査結果もそうであったが、滋賀県全体のデータにおいてもこの調査結果をみる限り、スポーツや運動はまだまだ男性優位の文化であることがよくわかる。運動能力や体力の問題は性別により明確な差があるが、そのことは女性をスポーツから遠ざけることと直接結びつかない。昭和56, 57, 58年度の本紀要での一流競技選手の調査結果でも、女性であるということのみを理由に運動の継続が思うようにいかないことが多いという結果が現れていた。このことは単に身体的、精神的な問題であるというよりは、女性とスポーツとの関わりという極めて社会的な問題であるといえよう。

また、卒業後の運動やスポーツとの関わりやスポーツをしない理由などからみる限り、

スポーツや運動が一種独特な優勝劣敗の思想を持ち、それがスポーツ以外のことと容易に結び付き、特定の資質を持つもの以外は接近しにくくなるような雰囲気や長い間かかって築き上げてきたことと関わりが全くないとはいえないように思われる。これらのことは学校体育の中でも例外ではなく、個人の人種としての運動やスポーツの実践という観点が必要であろう。更にいろいろなことがらとの関わりについての検討が必要であるが、これからのスポーツや運動のあり方を考えていく際

に、「スポーツについての日本的風土の問題」であることを共通理解して進めていかなければならないといえよう。

余暇社会、高齢化社会が進行してしていく中で、スポーツや運動がそこに起こる様々な現象、特に社会的にマイナスに評価される問題についていくつかの解決の糸口を持っていることを理解した上で、今後のスポーツや運動とスポーツとの関わりを考え実践していくことは重要であり、緊急的な要解決課題であるといえる。

図1. F3: 休暇の形態

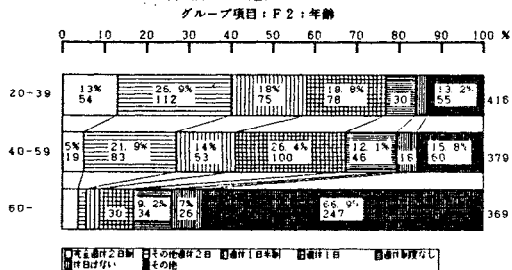


図2. F4: 通勤(通学)

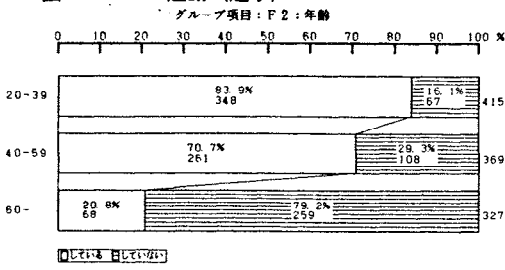


図3. F4S: 通勤時間

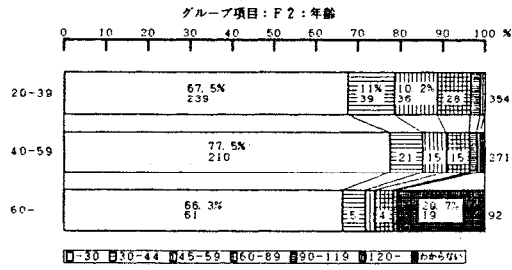


図4. F5: 家庭の状況

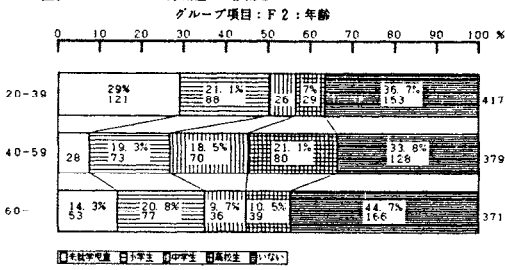


図5. F6: ヒマの程度

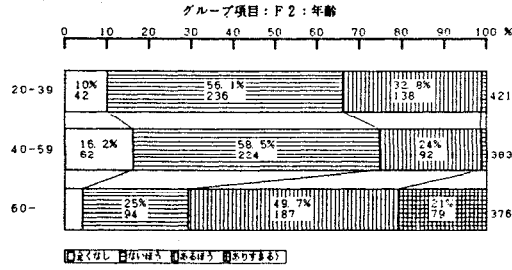


図6. 1: 健康か

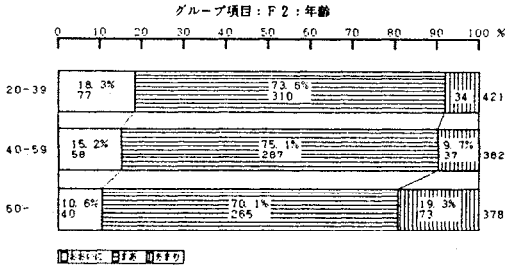
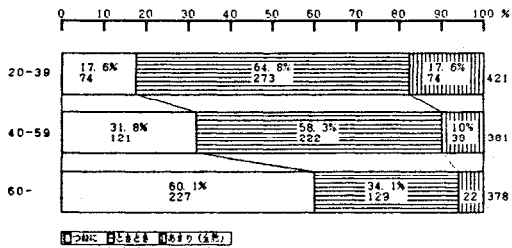


図7. 2 : 健康, 体力への注意

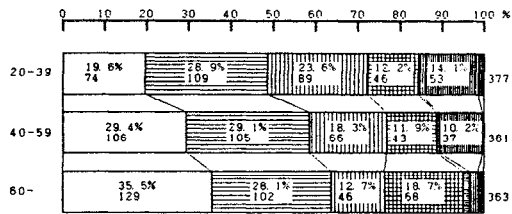
グループ項目: F 2 : 年齢



□注意 □ほとんど注意 □全く注意

図8. 2 S : 健康への心がけ

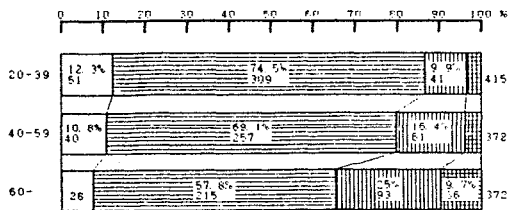
グループ項目: F 2 : 年齢



□心がけ □あまり □ほとんど □全く

図9. 3 : 体力評価

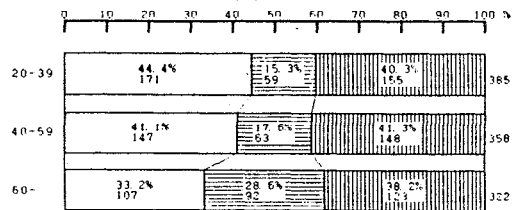
グループ項目: F 2 : 年齢



□よい □普通 □悪い

図10. 3 S : 体力自信

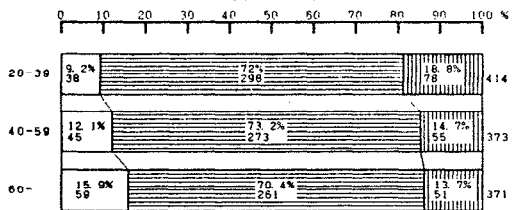
グループ項目: F 2 : 年齢



□あり □ない □わからない

図11. 4 : 疲れを感じる

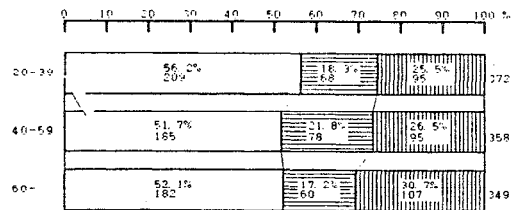
グループ項目: F 2 : 年齢



□よくある □時々 □ない

図12. 4 S : 眠れば疲れはとれるか

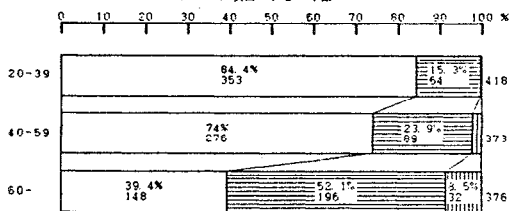
グループ項目: F 2 : 年齢



□とれる □とれない □わからない

図13. 5 : 運動の必要感

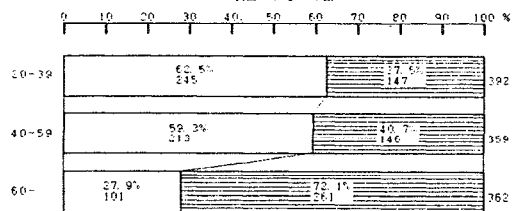
グループ項目: F 2 : 年齢



□感じる □感じない □わからない

図14. 6 S : 体力テスト希望

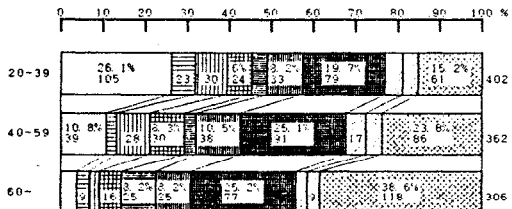
グループ項目: F 2 : 年齢



□希望 □希望しない □わからない

図15. 7 : 運動, スポーツ経験タイプ

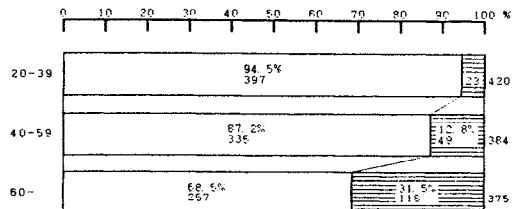
グループ項目: F 2 : 年齢



□1 □2 □3 □4 □5 □6

図16. 1年間のスポーツ実施

グループ項目: F 2 : 年齢



□実施した □実施しなかった

図17. 18：国際大会への関心

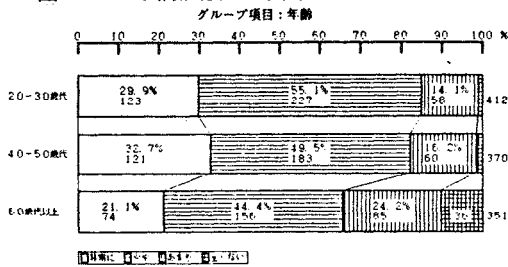


図18. 6：体力テスト

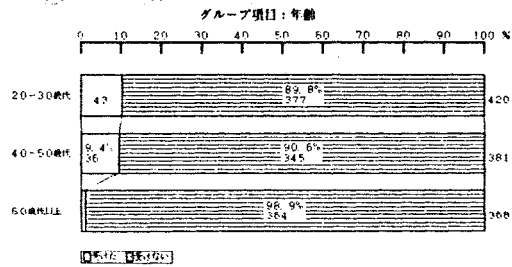


図19. 6 S：体力テスト希望

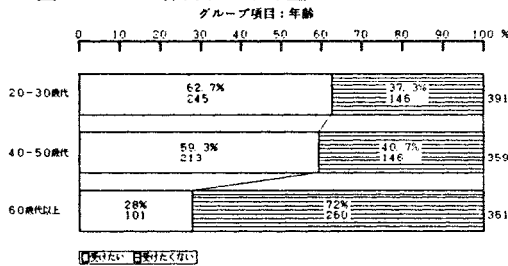


図20. 7：運動、スポーツ経験タイプ

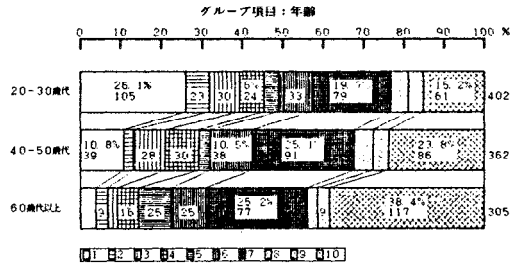


図21. これからしたいスポーツ

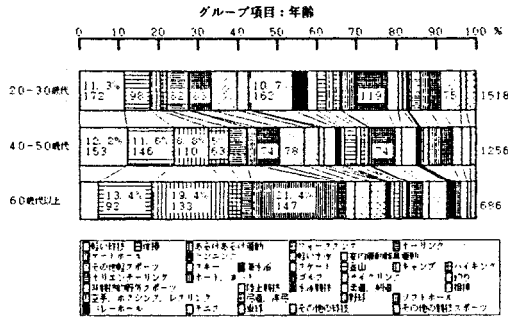


図22. この1年間にしたスポーツ

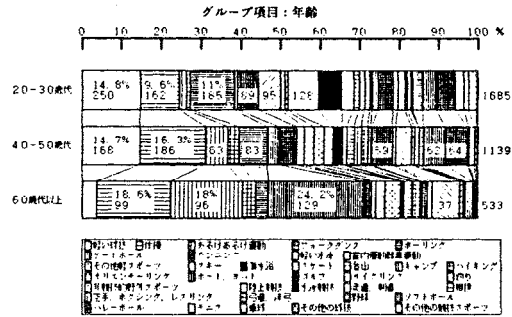


図23. スポーツをする理由

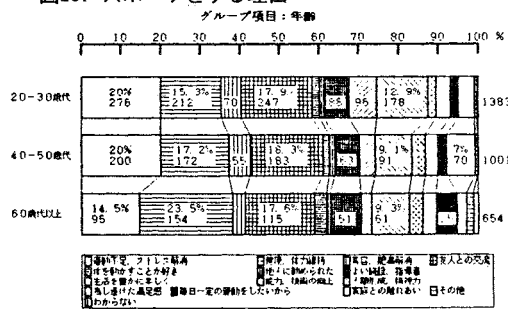


図24. スポーツをしなかった理由

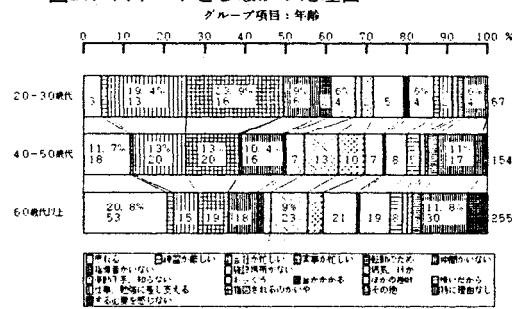


図25. 8 S : スポーツ実施日数  
グループ項目: F 2 : 年齢

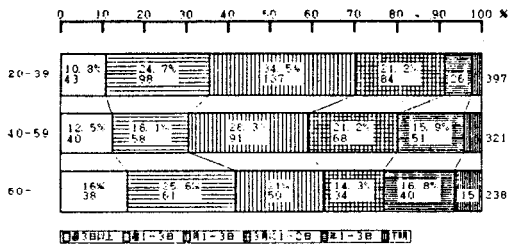


図26. 10 : 体育の授業は役立ったか  
グループ項目: 年齢

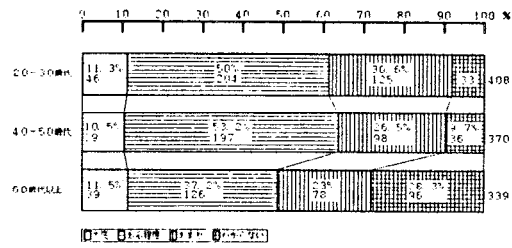


図27. 11 : クラブ経験は役立ったか  
グループ項目: 年齢

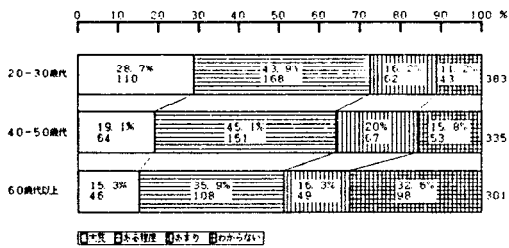


図28. 13 : 今後のスポーツ行事  
グループ項目: 年齢

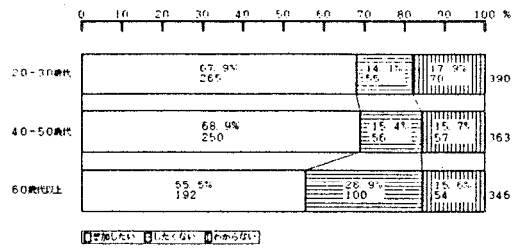


図29. F 4 : 通勤 (通学)  
グループ項目: F 1 : 性別

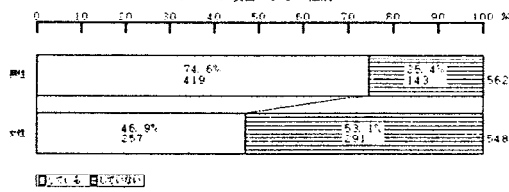


図30. 1 : 健康か  
グループ項目: F 1 : 性別

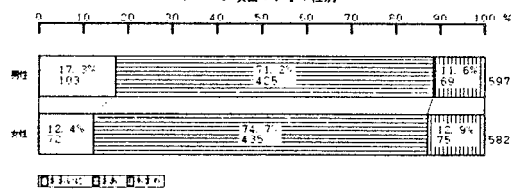


図31. 2 : 健康, 体力への注意  
グループ項目: F 1 : 性別

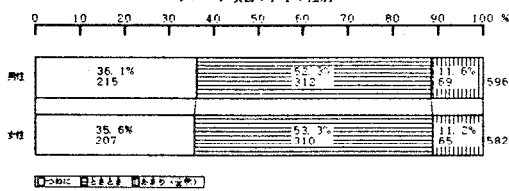


図32. 2 S : 健康への心がけ  
グループ項目: F 1 : 性別

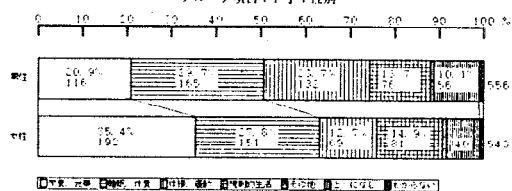


図33. 3 : 体力評価  
グループ項目: F 1 : 性別

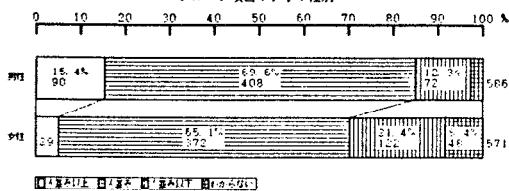


図34. 3 S : 体力自信  
グループ項目: F 1 : 性別

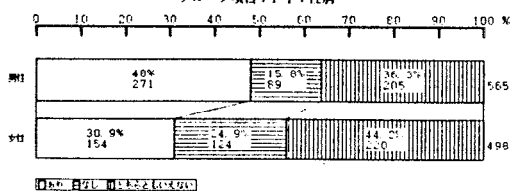


図35. 4 : 疲れを感じる事

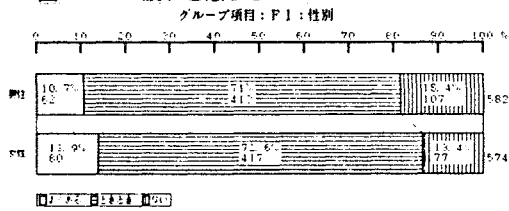


図36. 4 S : 眠れば疲れはとれるか

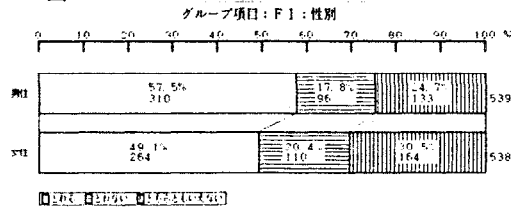


図37. 5 : 運動の必要感

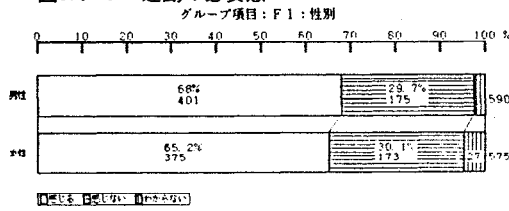


図38. 6 : 体力テスト

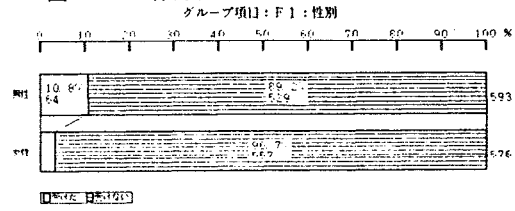


図39. 6 S : 体力テスト希望

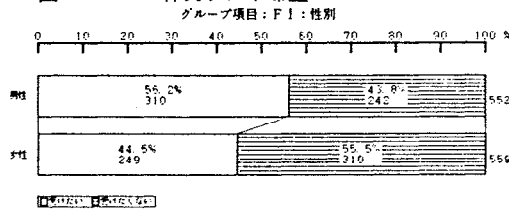


図40. 7 : 運動, スポーツ経験タイプ

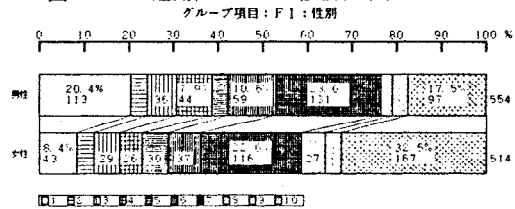


図41. この1年間にしたスポーツ

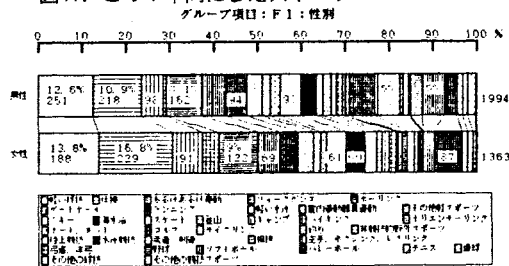


図42. これからしたいスポーツ

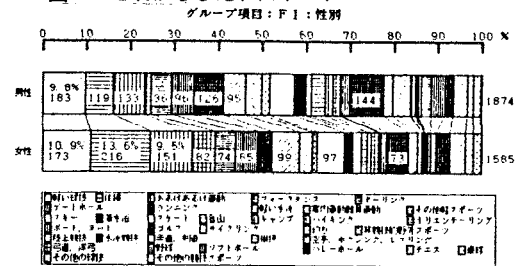


図43. スポーツをする理由

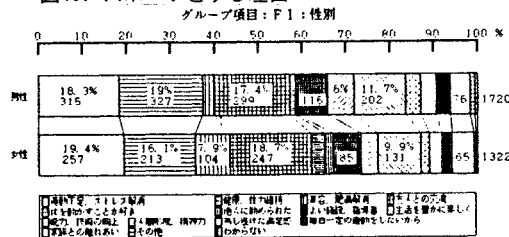


図44. スポーツをしなかった理由

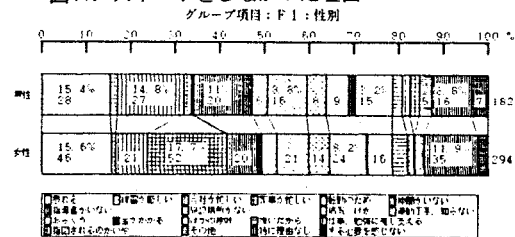




図45. 10：体育の授業は役立ったか

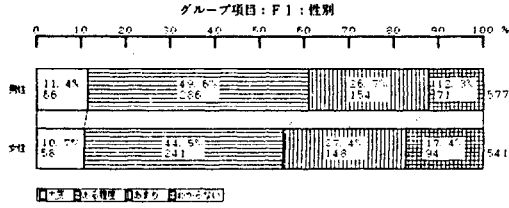


図46. 11：クラブ経験は役立ったか

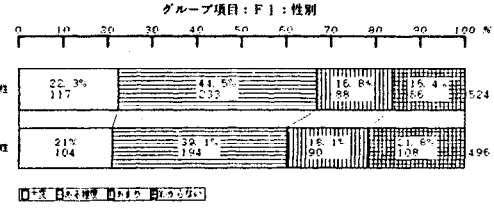


図47. 18：国際大会への関心

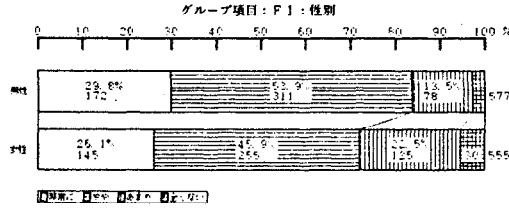


図48. 13：今後のスポーツ行事

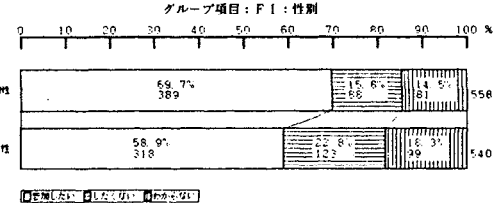


図49. F4：通勤（通学）

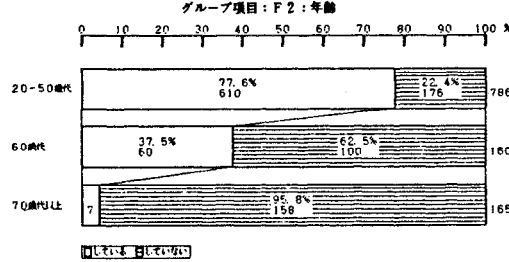


図50. 1：健康か

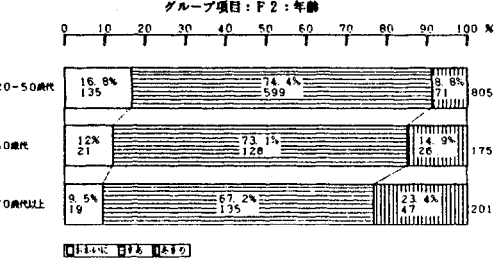


図51. 2：健康，体力への注意

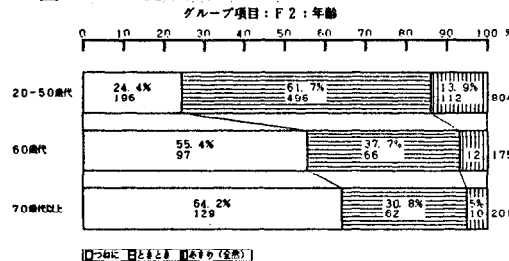


図52. 2S：健康への心がけ

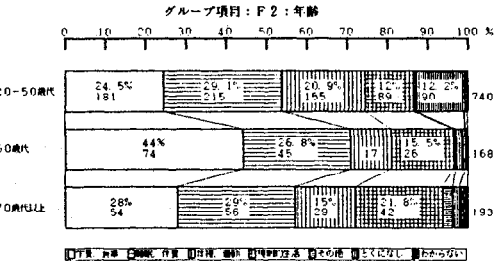


図53. 3：体力評価

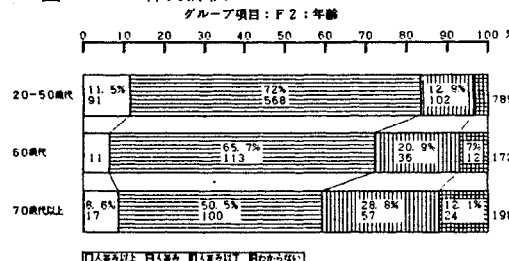


図54. 3S：体力自信

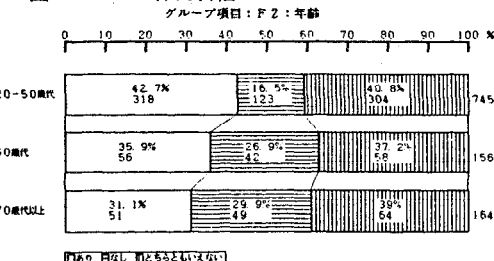


図55. 4 : 疲れを感じる事

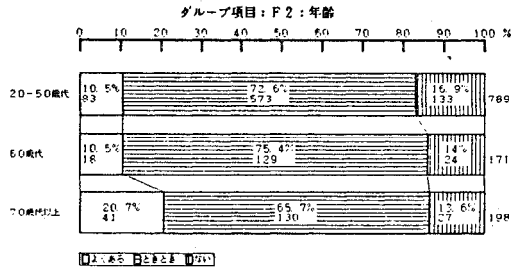


図56. 4 S : 眠れば疲れはとれるか

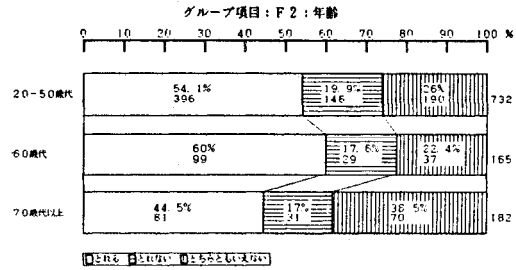


図57. 5 : 運動の必要感

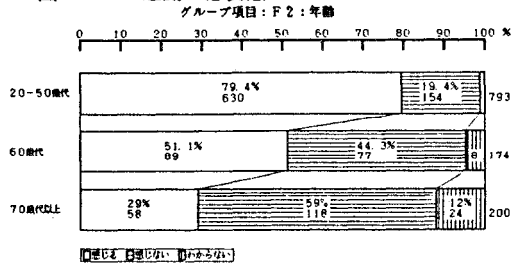


図58. 6 : 体カテスト

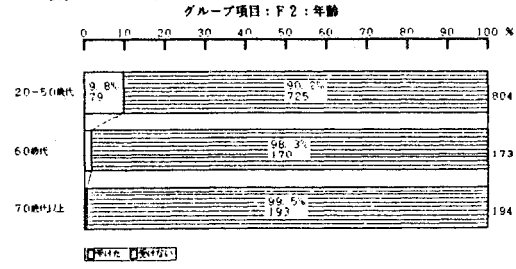


図59. 6 S : 体カテスト希望

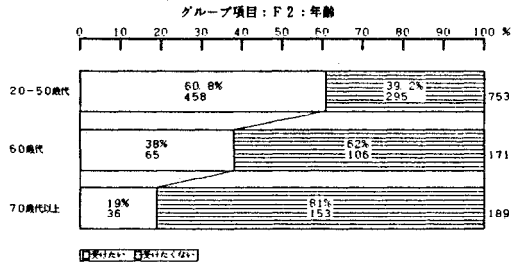


図60. 7 : 運動, スポーツ経験タイプ

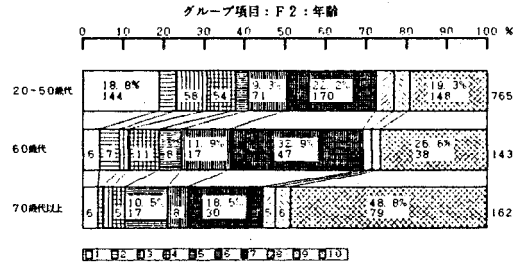


図61. 10 : 体育の授業は役立ったか

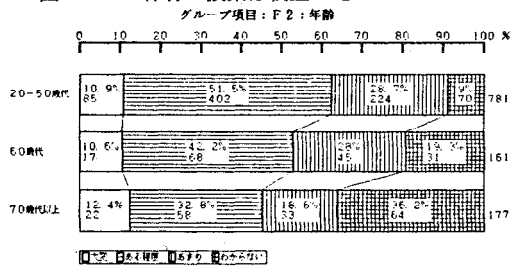


図62. 11 : クラブ経験は役立ったか

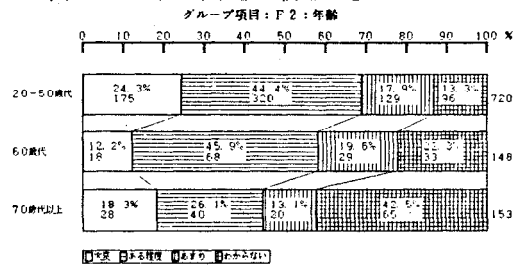


図63. 13 : 今後のスポーツ行事

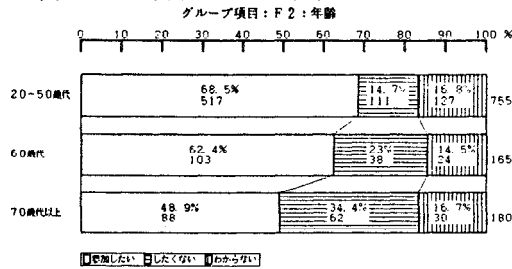
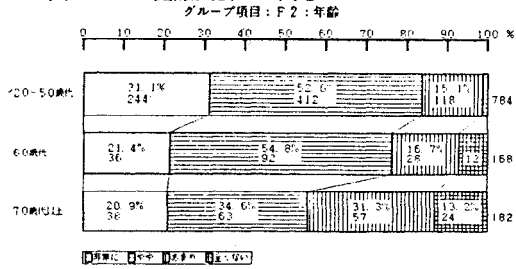


図64. 18 : 国際大会への関心



		F3: 休日の形態										F4: 通勤(通学)			
合計		完全休日	その他休日	休日1日	休日1日半	休日1日	週休制度なし	休日はない	その他	している	していない	小学生	中学生	高校生	いない
合計	100%	7.3%	20.2%	12.9%	12.9%	17.4%	9.2%	4.7%	3.6%	6.7%	4.4%	2.3%	1.2%	1.8%	4.7%
F1: 性別															
男性	59.8%	9.2%	13.4%	7.9%	12.3%	20.6%	10.0%	3.2%	2.0%	4.1%	3.9%	1.1%	0.8%	1.4%	4.3%
女性	48.9%	5.3%	11.7%	10.3%	8.5%	14.8%	8.5%	6.3%	4.0%	2.5%	4.9%	2.2%	1.4%	2.1%	3.4%
年齢															
20-39	42.1%	12.8%	11.2%	17.8%	7.5%	18.3%	7.1%	2.9%	1.3%	3.4%	1.5%	0.9%	0.5%	0.7%	6.7%
40-59	21.9%	5.3%	2.4%	16.0%	3.5%	27.9%	11.4%	4.1%	1.1%	7.3%	2.4%	5.8%	2.6%	1.3%	5.3%
60-	54.4%	3.7%	7.5%	5.3%	2.9%	12.9%	10.1%	6.4%	5.2%	3.0%	1.6%	0.9%	0.8%	1.1%	3.4%

		F4S: 通勤時間										F5: 家族状況			
合計		-30	30-44	45-59	60-89	90-119	120-	わからない	未婚者	小学生	中学生	高校生	いない		
合計	100%	4.5%	5.5%	4.4%	3.9%	1.2%	0.5%	1.2%	2.0%	2.3%	1.2%	1.8%	4.7%		
F1: 性別															
男性	59.8%	4.9%	4.7%	6.4%	5.3%	1.5%	0.8%	1.3%	1.0%	1.4%	1.1%	1.2%	3.3%		
女性	48.9%	3.7%	3.1%	2.6%	2.1%	0.9%	0.2%	2.2%	1.6%	1.2%	1.0%	1.3%	3.6%		
年齢															
20-39	42.1%	5.6%	3.9%	8.6%	6.1%	1.9%	1.0%	-	2.1%	2.9%	2.6%	2.9%	5.3%		
40-59	21.9%	5.8%	5.1%	3.7%	4.1%	1.4%	0.9%	0.9%	5.1%	5.4%	5.8%	5.4%	7.0%		
60-	54.4%	2.6%	2.6%	1.7%	1.7%	0.6%	-	3.7%	1.2%	1.5%	0.8%	1.1%	4.5%		

		F6: ヒヤの程度						1: 健康				2: 健康 体力への注意			
合計		全くなし	ないほう	あるほう	ありすぎる	おおいに	まあ	あまり	つねに	ときどき	あまり(全然)	小学生	中学生	高校生	いない
合計	100%	1.2%	4.6%	3.4%	4.1%	7.4%	14.6%	17.5%	8.6%	12.1%	14.4%	4.2%	3.5%	6.2%	1.3%
F1: 性別															
男性	59.8%	0.9%	4.7%	3.5%	2.8%	6.4%	17.2%	14.2%	7.1%	11.5%	11.5%	5.2%	3.6%	6.2%	1.2%
女性	48.9%	1.4%	4.6%	3.4%	2.0%	8.6%	12.3%	7.4%	12.8%	11.1%	11.1%	5.3%	3.1%	6.5%	1.1%
年齢															
20-39	42.1%	1.0%	5.6%	3.2%	1.3%	1.2%	18.3%	7.7%	17.6%	8.1%	7.4%	6.4%	2.7%	17.6%	7.4%
40-59	21.9%	1.6%	5.8%	2.4%	2.5%	0.5%	12.8%	8.1%	29.2%	8.2%	5.4%	6.0%	1.3%	9.1%	2.0%
60-	54.4%	7.7%	3.4%	4.1%	2.6%	15.3%	12.9%	3.1%	5.2%	2.8%	4.0%	1.9%	1.5%	4.8%	7.4%

2S：健康への心がけ

合計	3：体力評価			
	入浴み以下	入浴み	入浴み以上	わからぬ
合計	1195 100%	309 25.9%	316 26.4%	570 47.7%
性別				
男性	598 50.0%	116 19.4%	165 27.6%	317 52.9%
女性	584 48.9%	192 32.9%	151 25.9%	241 41.1%
年齢				
20-39	421 35.2%	74 17.6%	109 25.9%	238 56.8%
40-59	219 18.3%	53 24.2%	67 30.6%	99 45.2%
60-	544 45.5%	182 33.5%	140 25.7%	222 40.8%

4：寝れを感じること

合計	3S：体力不足		4S：寝れは寝れはとれるか		5：運動の必要感	
	あり	なし	とれる	とれない	感じる	感じない
合計	1195 100%	425 35.6%	214 17.9%	184 15.4%	576 48.2%	349 29.2%
性別						
男性	598 50.0%	271 45.3%	99 14.9%	107 17.9%	310 51.8%	175 29.3%
女性	584 48.9%	154 26.4%	124 21.2%	77 13.2%	264 45.2%	173 29.6%
年齢						
20-39	421 35.2%	171 40.6%	59 14.0%	78 18.5%	209 49.6%	64 15.2%
40-59	219 18.3%	90 41.1%	31 14.2%	30 13.7%	109 49.8%	39 17.8%
60-	544 45.5%	164 30.1%	124 22.8%	76 14.0%	258 47.4%	154 28.2%

6：体力テスト希望

合計	6S：体力テスト希望	
	受けた	受けたくない
合計	1195 100%	83 6.9%
性別		
男性	598 50.0%	64 10.7%
女性	584 48.9%	19 3.3%
年齢		
20-39	421 35.2%	42 10.2%
40-59	219 18.3%	27 12.3%
60-	544 45.5%	12 2.2%

		7：運動、スポーツ経験タイプ										1年間のスポーツ実績					
合計		15.6%	4.1%	5.4%	5.7%	4.5%	8.0%	20.7%	3.2%	2.6%	2.2%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%
合計	10.5%	13.1%	3.4%	5.4%	5.7%	4.5%	8.0%	20.7%	3.2%	2.6%	2.2%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%
男性	59.8%	18.9%	2.1%	3.5%	4.4%	3.2%	9.9%	21.9%	1.4%	1.9%	1.6%	1.9%	1.9%	1.9%	1.9%	1.9%	1.9%
女性	48.9%	7.4%	2.0%	5.0%	4.5%	5.1%	6.3%	19.9%	2.7%	3.1%	2.8%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%
20-39	35.2%	24.9%	5.5%	7.1%	5.7%	3.1%	7.3%	18.8%	4.0%	1.7%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%
40-59	21.9%	12.3%	3.2%	7.3%	7.1%	2.5%	10.3%	22.4%	8.0%	4.9%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%
60-	45.5%	4.4%	2.0%	3.5%	6.1%	5.3%	7.4%	21.9%	3.1%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%

		8：この1年間にやったスポーツ																	
合計		19.5%	10.0%	4.8%	1.8%	15.8%	1.8%	2.8%	2.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%
合計	10.5%	13.1%	3.4%	5.4%	5.7%	4.5%	8.0%	20.7%	3.2%	2.6%	2.2%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%
男性	59.8%	4.2%	3.7%	4.8%	1.8%	15.8%	1.8%	2.8%	2.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%
女性	48.9%	2.2%	2.1%	2.8%	1.6%	16.4%	1.8%	2.7%	2.1%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%
20-39	35.2%	1.8%	3.9%	2.2%	1.5%	15.6%	1.8%	2.0%	4.3%	3.6%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%
40-59	21.9%	5.2%	3.8%	1.6%	7.1%	3.0%	4.0%	2.4%	3.9%	3.6%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%
60-	45.5%	11.9%	3.1%	2.2%	2.1%	2.2%	2.7%	9.4%	9.4%	9.4%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%

		8：この1年間にやったスポーツ																	
合計		19.5%	10.0%	4.8%	1.8%	15.8%	1.8%	2.8%	2.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%
合計	10.5%	13.1%	3.4%	5.4%	5.7%	4.5%	8.0%	20.7%	3.2%	2.6%	2.2%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%
男性	59.8%	4.2%	3.7%	4.8%	1.8%	15.8%	1.8%	2.8%	2.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%
女性	48.9%	2.2%	2.1%	2.8%	1.6%	16.4%	1.8%	2.7%	2.1%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%
20-39	35.2%	1.8%	3.9%	2.2%	1.5%	15.6%	1.8%	2.0%	4.3%	3.6%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%
40-59	21.9%	5.2%	3.8%	1.6%	7.1%	3.0%	4.0%	2.4%	3.9%	3.6%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%
60-	45.5%	11.9%	3.1%	2.2%	2.1%	2.2%	2.7%	9.4%	9.4%	9.4%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%

8：この1年間にやったスポーツ

合計	交遊 親道		空手、ボクシング、レスリング	弓道、洋弓	野球	ソフトボール		バレーボール	テニス	卓球	その他の競技スポーツ	その他の競技スポーツ
	回数	割合				回数	割合					
合計	1195 100%	0.7%	2 0.2%	0.1%	54 4.5%	133 11.1%	146 12.2%	43 3.6%	39 3.3%	47 3.9%	6 0.5%	6 0.5%
男性	598 50.0%	1.2%	2 0.3%	-	54 9.0%	100 16.7%	59 9.9%	25 4.2%	22 3.7%	26 4.3%	4 0.7%	4 0.7%
女性	484 48.9%	0.2%	-	0.2%	-	33 6.8%	44 9.1%	17 3.5%	17 3.5%	21 4.3%	2 0.4%	2 0.4%
20-39	421 35.2%	1.4%	-	0.2%	40 9.5%	145 34.4%	79 18.8%	37 8.8%	12 2.9%	12 2.9%	1 0.2%	1 0.2%
40-59	219 18.3%	0.5%	-	-	9 4.1%	36 16.4%	52 23.7%	4 1.8%	12 5.5%	6 2.7%	0.5%	0.5%
60-	544 45.5%	0.2%	-	-	5 0.9%	66 12.1%	15 2.8%	2 0.4%	6 1.1%	4 0.7%	0.4%	0.4%

8S：スポーツをする理由

合計	8S：スポーツ実施回数				8S：スポーツをする理由					
	週3日以上	週1-3回	3月に1-2回	年1-3回	不明	運動不足解消	健康維持	美容、肥満解消	友人との交流	他人に勧められた
合計	1195 100%	191 16.0%	217 18.2%	186 15.6%	117 9.8%	37 3.1%	573 47.9%	146 12.2%	548 45.9%	65 5.4%
男性	598 50.0%	74 12.4%	121 20.2%	95 15.9%	54 9.0%	15 2.5%	315 52.7%	42 7.0%	299 50.0%	24 4.0%
女性	484 48.9%	47 8.0%	96 19.8%	90 15.4%	63 10.8%	22 3.8%	257 44.0%	104 17.8%	247 42.3%	41 7.0%
20-39	421 35.2%	43 10.2%	98 23.3%	37 20.0%	26 6.2%	9 2.1%	276 65.6%	13 2.6%	248 58.9%	28 6.7%
40-59	219 18.3%	24 11.0%	34 15.5%	38 17.4%	26 11.9%	4 1.8%	125 48.4%	16 3.3%	116 53.0%	9 4.1%
60-	544 45.5%	54 9.9%	85 15.6%	64 11.8%	65 11.9%	24 4.4%	172 31.6%	43 7.9%	184 33.8%	28 5.1%

8S：スポーツをする理由

合計	8S：スポーツをする理由				8S：スポーツをする理由						
	よい施設、指導者	仲間を誘われて	能力、技術の向上	体力、技術の向上	体を動かすことが好き	人間関係、精神力	楽しかった、満足	毎日の運動をした	家族との付き合い	その他	わからない
合計	1195 100%	332 27.8%	262 21.9%	152 12.7%	333 27.9%	85 7.1%	101 8.5%	90 7.5%	141 11.8%	26 2.2%	13 1.1%
男性	598 50.0%	9 1.5%	116 19.4%	103 17.2%	202 33.8%	59 9.9%	62 10.4%	57 9.5%	76 12.7%	20 3.3%	9 1.5%
女性	484 48.9%	24 4.9%	85 17.6%	49 10.1%	131 27.1%	25 5.2%	38 7.8%	33 6.8%	65 13.4%	6 1.2%	4 0.8%
20-39	421 35.2%	14 3.3%	88 20.9%	96 22.8%	179 42.5%	28 6.7%	48 11.4%	39 9.3%	56 13.3%	8 1.9%	4 1.0%
40-59	219 18.3%	7 3.2%	42 19.2%	28 12.8%	57 26.0%	10 4.6%	20 9.1%	12 5.5%	54 24.7%	3 1.4%	-
60-	544 45.5%	212 38.9%	72 13.2%	29 5.3%	97 17.8%	35 6.4%	33 6.1%	48 8.8%	31 5.7%	15 2.8%	9 1.7%

合計	8 S : スポーツをしない理由									
	疲れる	練習が難しい	会社が忙しい	家計が忙しい	移動のため	仲間がいない	指導者がいない	病気が	おっくう	金がかかる
合計	11.95 10.0%	7.4 6.2%	4.6 3.9%	4.8 4.0%	4.55 3.8%	4.0 3.3%	7 5.8%	3.7 3.1%	2.2 1.8%	3.3 2.8%
F1 : 性別	男性	5.98 5.0%	4.78 4.0%	4.57 3.8%	4.5 3.7%	3.5 2.9%	4 3.3%	2.7 2.2%	1.3 1.0%	2.8 2.3%
	女性	5.84 4.8%	7.9 6.5%	3.6 2.9%	5.2 4.3%	2.0 1.6%	3 2.5%	4 3.3%	1.4 1.1%	0.5 0.4%
年齢	20-39	4.21 3.5%	0.7 0.5%	3.1 2.5%	1.5 1.2%	1.4 1.1%	2 1.6%	0.2 0.1%	0.5 0.4%	1 0.8%
	40-59	2.19 1.8%	3.7 3.0%	1.4 1.1%	5.2 4.3%	3.2 2.6%	7 5.8%	0.9 0.7%	3 2.5%	4 3.3%
	60-	5.44 4.5%	1.8 1.5%	3.9 3.2%	2.7 2.2%	5.0 4.1%	4 3.3%	2.8 2.3%	1.7 1.4%	2.4 2.0%

合計	8 S : スポーツをしない理由									
	ほかの趣味	嫌いだから	生活・勉強に 差し支え	生活・勉強に 時間がかかる	指図されるの がイヤ	その他	特に理由なし	やる必要を感 じない		
合計	11.95 10.0%	3.1 2.6%	1.4 1.2%	7 5.8%	0.6 0.5%	5 4.1%	5 4.1%	1.4 1.1%		
F1 : 性別	男性	5.98 5.0%	2.5 2.0%	0.7 0.5%	0.7 0.5%	1 0.8%	2 1.6%	1.7 1.4%		
	女性	5.84 4.8%	1.6 1.3%	1.0 0.8%	0.7 0.5%	1.6 1.3%	3.5 2.9%	7 5.8%		
年齢	20-39	4.21 3.5%	1.0 0.8%	0.2 0.1%	0.5 0.4%	0.2 0.1%	1.0 0.8%	-		
	40-59	2.19 1.8%	0.2 0.1%	0.9 0.7%	0.5 0.4%	1 0.8%	3.7 3.0%	-		
	60-	5.44 4.5%	2.5 2.0%	1.2 1.0%	3 2.5%	1.9 1.5%	4.0 3.3%	1.4 1.1%		

合計	D : 今後やってみたいスポーツ										
	軽い競技	球技	ある程度 運動	フォークダンス	ボウリング	ゲートボール	ランニング	軽い水泳	室内運動器具 運動	その他種 スポーツ	海水浴
合計	11.05 10.0%	2.97 2.5%	2.33 1.9%	2.82 2.3%	1.07 0.9%	1.52 1.2%	1.71 1.4%	1.56 1.3%	1.74 1.4%	8.7 7.3%	1.68 1.4%
F1 : 性別	男性	5.98 5.0%	1.82 1.5%	1.33 1.1%	2.22 1.8%	0.82 0.7%	0.92 0.7%	1.18 0.9%	0.82 0.7%	5.5 4.5%	8.9 7.4%
	女性	5.84 4.8%	2.97 2.4%	1.50 1.2%	1.4 1.1%	0.82 0.7%	0.78 0.6%	0.38 0.3%	0.92 0.7%	3.1 2.5%	7.9 6.5%
年齢	20-39	4.21 3.5%	1.71 1.4%	0.97 0.8%	4.1 3.4%	0.2 0.1%	0.4 0.3%	0.78 0.6%	0.94 0.7%	3.3 2.7%	5 4.1%
	40-59	2.19 1.8%	4.2 3.5%	2.47 2.0%	1.69 1.4%	0.29 0.2%	4.1 3.4%	1.63 1.3%	3.6 3.0%	10.2 8.5%	4 3.3%
	60-	5.44 4.5%	1.65 1.4%	1.47 1.2%	3.88 3.2%	0.45 0.3%	1.58 1.3%	4.4 3.6%	5.32 4.4%	2.9 2.4%	0.4 0.3%

9：今後やってみたいスポーツ

合計	スケート		登山		キャンプ		ハイキング		オリエンテーリング		ボート、ヨット		ゴルフ		サイクリング		釣り		非競技的野外スポーツ		陸上競技		水泳競技			
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
合計	105	100%	19	18%	55	52%	25	24%	33	31%	43	41%	127	121%	24	23%	41	39%	4	4%	9	9%	4	4%	0.3%	0.3%
性別	59.8	56.9%	9	15%	45	75.2%	3.2	5.4%	17	28.6%	30	50.2%	91	152.2%	1.6	2.7%	2.8	4.7%	3	5%	0.5%	0.8%	1.3%	2.2%	0.3%	0.3%
年齢	58.4	55.6%	10	17%	10	17%	5	8.6%	16	27.5%	2	3.4%	13	22.3%	3.6	6.2%	1.3	2.2%	0.5	0.8%	1	1.7%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%
20-39	42.1	40.1%	15	36%	23	55%	3.6	8.6%	17	40.7%	40	95%	7.7	18.3%	3.4	8%	1.4	3.3%	0.5	1.2%	0.2	0.5%	0.5%	1.2%	0.7%	0.7%
40-59	21.9	20.8%	1	5%	19	44.4%	2.7	6.5%	9	21%	3	7.1%	31	73.1%	4	9.3%	1.4	3.3%	0.9	2.2%	0.2	0.5%	0.2	0.5%	0.2%	0.2%
60-	5.44	5.13%	3	6%	13	30.2%	0.6	1.4%	7	16.4%	0.4	0.9%	2.2	5.1%	1.6	3.7%	0.7	1.6%	0.2	0.4%	0.2	0.5%	0.1	0.2%	0.1%	0.1%

9：やってみたいスポーツ

合計	軽い競技		休憩		空手、ボクシング、レスリング		スキー、登山		ボート、ヨット		ランニング		軽い水泳		空手、レスリング		その他の競技		水泳					
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
合計	105	100%	2	1.9%	5	4.8%	1	1%	2	1.9%	12	11.4%	16	15.2%	27	25.7%	37	35.2%	40	38.1%	30	28.6%	40	38.1%
性別	59.8	56.9%	1	1.7%	3	5.2%	0	0%	3	5.1%	5	8.5%	8	13.5%	15	25.2%	20	33.6%	18	30.2%	13	21.9%	18	30.2%
年齢	58.4	55.6%	1	1.7%	2	3.4%	0	0%	2	3.4%	4	6.8%	7	11.8%	15	25.7%	22	37.7%	22	37.7%	17	29.1%	22	37.7%
20-39	42.1	40.1%	1	2.4%	2	4.8%	0	0%	2	4.8%	5	11.9%	8	19%	15	35.6%	19	45.1%	15	35.6%	10	23.8%	15	35.6%
40-59	21.9	20.8%	0	0%	1	4.6%	0	0%	1	4.6%	2	9.1%	5	22.8%	7	31.5%	8	36.5%	8	36.5%	5	22.8%	5	22.8%
60-	5.44	5.13%	1	18.2%	2	36.4%	0	0%	2	36.4%	5	91%	8	147%	10	182%	10	182%	10	182%	5	91%	5	91%

9：今後やってみたいスポーツ

合計	柔道、剣道		相撲		空手、ボクシング、レスリング		弓道、洋弓		野球		ソフトボール		バレーボール		テニス		卓球		その他の競技					
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
合計	105	100%	3	2.9%	1	1%	0	0%	8	7.6%	25	23.8%	22	21%	36	34%	29	27.6%	12	11.4%	13	12.4%	0.2%	0.2%
性別	59.8	56.9%	3	5%	1	1.7%	0	0%	6	10%	17	28.6%	17	28.6%	26	43.6%	20	33.6%	4	6.7%	8	13.4%	0.2%	0.2%
年齢	58.4	55.6%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3.4%	0	0%	0	0%	0	0%	3	5.1%	1	1.7%	1	1.7%	0.2%	0.2%
20-39	42.1	40.1%	0	0%	1	2.4%	0	0%	5	11.9%	18	42.8%	12	28.5%	21	49.9%	16	38%	4	9.5%	10	23.8%	0.2%	0.2%
40-59	21.9	20.8%	1	4.6%	0	0%	0	0%	1	4.6%	4	18.3%	5	22.8%	9	41%	6	27.4%	2	9.1%	1	4.6%	0.2%	0.2%
60-	5.44	5.13%	2	36.4%	0	0%	2	36.4%	0	0%	2	36.4%	1	18.2%	1	18.2%	0	0%	3	54.5%	2	36.4%	0.2%	0.2%



9 : やってみたいスポーツ

合計	9 : やってみたいスポーツ											
	スケート	登山	キャンプ	ハイキング	オリエンテーリング	ボート、ヨット	ゴルフ	サイクリング	釣り	非競技的海外スポーツ	陸上競技	水泳競技
合計	119.5 10.0%	2.3%	2.7%	2.0%	2.8%	1.8%	8.1%	4.9%	5.2%	0.4%	1.1%	0.3%
F1 : 性別												
男性	59.8 50.0%	2.3%	1.4%	2.3%	1.5%	1.3%	6.1%	2.9%	3.9%	0.2%	1.3%	0.3%
女性	48.9%	3.1%	2.2%	1.0%	2.3%	1.3%	10.2%	4.8%	6.5%	0.7%	0.8%	0.2%
年齢												
20-39	42.1 35.2%	1.9%	1.2%	2.6%	2.6%	3.8%	13.1%	2.7%	2.1%	0.5%	1.5%	0.2%
40-59	21.9 18.3%	2.7%	5.5%	1.8%	2.7%	1.4%	8.7%	5.5%	5.9%	-	0.9%	0.5%
60-	54.4 45.5%	1.6%	1.7%	0.9%	1.1%	0.4%	5.0%	1.8%	5.1%	2.8%	0.7%	0.2%

9 : やってみたいスポーツ

合計	9 : やってみたいスポーツ										
	柔道、剣道	相撲	空手、ボクシング、レスリング	弓道、洋弓	野球	ソフトボール	バレーボール	テニス	卓球	その他の球技	その他
合計	119.5 10.0%	0.2%	0.1%	0.5%	0.8%	2.0%	4.1%	4.5%	9.0%	4.2%	0.3%
F1 : 性別											
男性	59.8 50.0%	0.2%	0.1%	0.5%	0.8%	2.1%	4.0%	3.2%	5.0%	2.1%	0.3%
女性	48.9%	0.2%	-	0.5%	0.7%	1.9%	2.1%	2.2%	3.9%	2.0%	0.2%
年齢											
20-39	42.1 35.2%	0.2%	-	0.1%	0.7%	4.0%	5.7%	2.2%	5.1%	4.7%	0.2%
40-59	21.9 18.3%	0.5%	0.5%	1.1%	2.3%	9.9%	7.8%	1.7%	1.9%	1.4%	0.5%
60-	54.4 45.5%	-	-	0.4%	0.2%	0.4%	2.0%	2.1%	1.9%	1.0%	0.2%

10 : 体の健康は改善したか

合計	10 : 体の健康は改善したか	
	ある程度	あまり
合計	119.5 10.0%	1.24 1.0%
F1 : 性別		
男性	59.8 50.0%	2.3 1.9%
女性	48.9%	1.54 1.9%
年齢		
20-39	42.1 35.2%	1.75 1.9%
40-59	21.9 18.3%	2.3 1.9%
60-	54.4 45.5%	1.98 1.9%

10S：体育の設立ち方

合計	技術		ルール	健康・体力	スポーツの楽しさ	精神力		協力	人間関係	わからない
	入要	ある程度				精神力	指率力			
合計	1195 100%	308 25.8%	383 32.1%	204 17.1%	373 31.2%	189 15.8%	43 3.6%	135 11.3%	170 14.2%	60 5.0%
F1：性別	男性	508 50.0%	156 31.0%	126 21.1%	181 30.3%	117 19.6%	28 4.7%	67 11.2%	96 16.1%	48 4.8%
	女性	584 48.9%	150 25.7%	77 13.2%	187 32.0%	71 12.2%	15 2.6%	68 11.6%	73 12.5%	31 5.3%
年齢	20-39	421 35.2%	142 34.0%	74 17.3%	157 37.3%	56 13.3%	22 5.2%	38 9.0%	60 14.3%	18 4.3%
	40-59	219 18.3%	73 33.3%	91 17.4%	88 40.2%	32 15.1%	3.7%	32 15.1%	36 16.4%	6 2.7%
	60-	544 45.5%	91 16.7%	138 16.7%	123 22.6%	99 18.2%	2.4%	64 11.8%	73 13.7%	36 6.6%

11：クラブ経験は設立ったか

合計	入要		あまり	わからない
	ある程度	あまり		
合計	1195 100%	221 18.5%	434 36.3%	196 16.4%
F1：性別	男性	598 50.0%	117 19.6%	88 14.4%
	女性	584 48.9%	104 17.8%	108 18.5%
年齢	20-39	421 35.2%	110 26.1%	43 10.2%
	40-59	219 18.3%	44 18.7%	25 11.4%
	60-	544 45.5%	70 12.9%	126 23.2%

11S：クラブ活動の設立ち方

合計	技術		ルール	スポーツの楽しさ	精神力	協力	人間関係	健康・体力	12：スポーツ行事情報	
	入要	ある程度							わかっている	知らない
合計	1195 100%	292 24.4%	341 28.5%	307 25.7%	257 22.3%	63 5.3%	153 12.8%	229 19.2%	278 19.7%	86 8.0%
F1：性別	男性	598 50.0%	147 24.6%	156 26.1%	162 27.1%	39 6.5%	94 15.7%	126 21.1%	129 21.6%	40 6.7%
	女性	584 48.9%	144 24.7%	147 25.2%	144 27.1%	23 3.9%	59 10.1%	100 17.1%	88 16.8%	52 8.9%
年齢	20-39	421 35.2%	133 31.6%	132 31.4%	114 27.1%	31 7.4%	66 15.7%	104 24.7%	100 23.8%	34 8.1%
	40-59	219 18.3%	68 31.1%	66 30.1%	56 25.6%	12 5.5%	20 13.2%	14 20.4%	42 91.3%	10 4.6%
	60-	544 45.5%	90 16.5%	105 19.3%	96 17.6%	19 3.5%	58 10.7%	78 14.3%	86 15.8%	48 8.8%

合計	1.2.S: スポーツ行事参加				1.3: 今後のスポーツ行事				1.3.S: 参加したい行事					
	合計	参加した			参加したい	わからぬ			競技会	レクリエーション			その他	
		参加した	参加しなかつた	見物だけ		参加した	参加しない	わからぬ		テスト	トレーニング	野外活動		
合計	119.5 100%	71.3 59.7%	23.7 19.8%	14.0 11.7%	71.5 59.7%	21.2 17.7%	18.2 15.3%	21.0 17.6%	25.1 21.0%	34.2 28.7%	4.4 3.7%	7.9 6.6%	8.5 7.1%	1.8 1.5%
F1: 性別														
男性	50.0%	39.3 65.3%	9.7 16.2%	6.4 10.7%	38.9 65.1%	8.8 14.9%	8.1 13.5%	14.5 24.2%	14.5 24.2%	16.5 27.6%	3.2 5.4%	4.7 7.9%	5.2 8.7%	1.3 1.3%
女性	48.9%	31.4 53.8%	13.8 23.6%	7.5 12.8%	31.8 54.5%	12.3 21.1%	9.0 17.0%	10.6 18.2%	10.6 18.2%	17.1 29.3%	3.3 5.3%	3.2 5.7%	3.2 5.7%	0.5 1.5%
年齢														
20-39	35.2%	27.8 66.0%	8.6 20.4%	5.5 15.5%	26.5 52.9%	5.5 13.1%	7.0 16.6%	11.1 31.1%	11.1 31.1%	9.9 23.5%	4.3 11.8%	2.1 5.0%	7.1 19.8%	0.2 0.5%
40-59	21.9 18.3%	15.3 69.9%	3.5 7.8%	1.7 8.9%	15.1 58.9%	3.0 14.2%	3.1 14.2%	4.9 22.4%	4.9 22.4%	6.3 28.8%	1.4 6.4%	1.4 8.7%	2.1 9.6%	1.4 1.4%
60-	54.4 45.5%	27.8 51.1%	11.4 21.0%	9.0 18.2%	29.2 53.7%	2.6 23.2%	9.0 14.9%	7.1 13.1%	7.1 13.1%	17.6 32.4%	3.5 10.9%	3.9 11.2%	3.2 9.2%	2.2 6.3%

合計	1.4: 観場のスポーツ行事				1.4.S: 今後の観場のスポーツ行事参加				1.5: スポーツ参加				1.6: 今後のスポーツ観戦参加				
	合計	参加した			参加していない	見物だけ	動いてない			参加した	参加していない			参加した	参加していない		
		参加した	参加しない	見物だけ			参加した	参加しない	動いてない		参加した	参加しない	動いてない				
合計	119.5 100%	46.8 39.2%	19.0 15.9%	6.1 5.1%	33.2 27.8%	57.4 48.0%	8.8 7.4%	11.3 9.5%	20.9 17.5%	90.9 76.1%	5.6 4.7%	37.4 31.3%	17.2 14.4%	20.5 17.2%			
F1: 性別																	
男性	59.8%	27.3 45.7%	9.3 15.6%	3.6 6.0%	12.9 21.6%	33.2 53.8%	4.2 7.0%	6.2 10.4%	10.2 17.1%	46.2 77.3%	2.8 4.8%	28.8 48.2%	17.7 29.6%	10.9 18.2%			
女性	58.4%	19.4 33.2%	9.3 15.9%	3.3 3.9%	19.9 34.1%	24.5 42.2%	4.6 7.9%	4.8 8.2%	10.4 17.5%	43.8 75.0%	2.7 4.6%	19.3 33.0%	16.1 16.1%	9.4 16.1%			
年齢																	
20-39	42.1 35.2%	22.7 53.9%	12.6 26.6%	3.6 3.6%	8.9 21.1%	25.5 60.6%	3.2 5.3%	4.0 9.5%	9.2 22.1%	70.9 73.4%	10.9 58.7%	2.4 24.7%	10.3 24.5%	14.5 14.5%			
40-59	21.9 18.3%	10.3 47.0%	4.5 20.5%	3.7 3.7%	4.3 19.6%	13.1 31.3%	1.9 8.1%	1.7 7.8%	19.2 42.0%	16.9 77.2%	12.8 58.4%	2.6 26.5%	5.8 14.2%	3.1 14.2%			
60-	54.4 45.5%	13.7 25.2%	16.2 16.2%	6.6 6.6%	36.2 36.2%	18.3 33.6%	4.6 8.5%	9.7 9.7%	13.2 13.2%	77.6 77.6%	12.2 31.2%	18.6 38.6%	21.0 20.4%	11.1 20.4%			

合計	参加したいスポーツ観戦内容				1.7: クラブの加入							
	合計	知識や技能を高めたい			その他	はい	いいえ					
		知識や技能を高めたい	仲間と楽しむ	健康体力づくり			競技志向	競技を楽しむ	楽しむ+観戦	その他		
合計	119.5 100%	8.7 7.3%	31.5 26.4%	23.0 19.2%	1.5 1.3%	40.9 34.2%	6.3 5.3%	7.5 6.3%	5.9 4.9%	14.7 12.3%	22.1 18.5%	1.3 1.1%
F1: 性別												
男性	59.8%	4.4 7.4%	16.2 27.1%	11.5 19.4%	1.3 1.3%	37.8 37.8%	5.9 5.9%	3.5 3.5%	3.0 5.0%	7.6 12.7%	12.0 21.1%	1.3 1.3%
女性	58.4%	4.2 7.2%	14.9 25.5%	11.2 19.2%	1.2 1.2%	30.3 30.3%	6.6 6.6%	3.8 3.8%	4.8 8.2%	6.8 11.6%	9.0 15.4%	0.4 0.7%
年齢												
20-39	42.1 35.2%	5.5 13.1%	12.5 29.7%	8.1 19.2%	0.2 0.2%	40.6 57.4%	7.1 17.1%	2.4 5.6%	3.6 8.6%	6.6 15.7%	7.1 16.9%	0.5 0.5%
40-59	21.9 18.3%	5.9 5.9%	7.3 33.3%	5.2 24.2%	1.8 1.8%	3.3 3.3%	7.3 6.4%	1.2 1.2%	8.0 3.7%	2.3 10.5%	4.8 21.9%	0.2 0.9%
60-	54.4 45.5%	1.8 3.3%	11.3 20.8%	17.5 17.5%	1.8 1.8%	29.6 29.6%	16.1 66.5%	3.5 8.5%	1.5 2.8%	5.5 10.1%	10.2 18.8%	1.8 1.5%

		17S:クラブの運動種目										
合計		野球	ボクシング	レスリング	柔道	空手	水泳	スキー	登山	キャンプ	ハイキング	
合計	119.5 100%	0.8%	1.4%	1.8%	2.1%	2.5%	2.1%	1.4%	0.3%	0.3%	0.2%	
F1:性別												
男性	59.8 50.0%	0.7%	1.2%	1.6%	2.0%	2.4%	1.9%	1.1%	0.4%	0.4%	0.2%	
女性	58.4 48.9%	0.9%	1.7%	1.5%	2.0%	2.5%	2.1%	1.5%	0.7%	0.7%	0.2%	
年齢												
20-39	42.1 35.2%	0.7%	0.5%	0.6%	0.8%	1.0%	0.8%	0.5%	0.2%	0.2%	0.2%	
40-59	21.0 18.3%	0.9%	0.5%	0.4%	0.5%	0.6%	0.5%	0.3%	0.1%	0.1%	0.2%	
60-	54.4 45.5%	0.7%	2.0%	2.0%	1.6%	1.5%	0.6%	0.6%	0.9%	0.2%	0.2%	

		17S:クラブの運動種目												
合計		オリエンテーリング	ボート・ヨット	ゴルフ	サイクリング	釣り	陸上競技	柔道	剣道	相撲	空手	レスリング	弓道・洋弓	野球
合計	119.5 100%	0.2%	0.2%	2.1%	2.5%	0.2%	0.8%	0.3%	0.4%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	3.3%
F1:性別														
男性	59.8 50.0%	0.2%	0.3%	3.0%	3.2%	0.2%	1.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	3.2%
女性	58.4 48.9%	0.2%	0.2%	0.9%	0.3%	0.2%	0.5%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	5.4%
年齢														
20-39	42.1 35.2%	0.2%	0.2%	1.4%	0.2%	0.2%	0.5%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	1.2%
40-59	21.9 18.3%	0.2%	0.2%	3.2%	0.2%	0.2%	1.4%	0.5%	0.1%	0.5%	0.2%	0.2%	0.5%	5.3%
60-	54.4 45.5%	0.2%	0.2%	2.0%	0.4%	0.2%	0.4%	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.5%	4.6%

		17S:クラブの運動種目			
合計		ソフトボール	ソフトボール	テニス	その他
合計	119.5 100%	2.8%	4.9%	2.3%	1.8%
F1:性別					
男性	59.8 50.0%	2.7%	3.2%	2.0%	1.5%
女性	58.4 48.9%	1.9%	6.7%	3.1%	1.5%
年齢					
20-39	42.1 35.2%	3.1%	8.1%	5.3%	1.4%
40-59	21.9 18.3%	4.6%	5.9%	1.4%	3.2%
60-	54.4 45.5%	0.9%	2.0%	0.7%	0.9%

		I T S : 入会動機									
合計		継続可能	場所の利用	施設利用	指導者	初級	好きなから	体力増強	技術獲得	その他	特になし
合計		11.5%	3.6%	2.7%	4.2%	23.8%	15.9%	26.4%	5.8%	1.2%	
F I : 性別											
男性		12.4%	2.7%	2.5%	2.8%	27.8%	14.7%	24.6%	4.2%	1.7%	
女性		10.4%	3.3%	2.7%	5.7%	19.1%	11.3%	5.7%	7.3%	0.3%	
年齢											
20-39		13.8%	3.3%	1.9%	4.3%	27.3%	15.2%	29.2%	6.7%	1.2%	
40-59		11.3%	2.7%	2.7%	4.1%	22.8%	11.9%	22.8%	3.7%		
60-		9.4%	2.9%	3.3%	4.2%	21.0%	12.7%	16.2%	4.0%	1.8%	

		I T S : カラブがあげれば加入するか										
合計		はい	いいえ	わからない	希望クラブ内容							
					競技志向	競技を楽しむ	楽しむ+初級	その他				
合計		34.8%	28.0%	1.0%	1.2%	7.9%	3.2%	0.7%				
F I : 性別												
男性		27.9%	21.7%	5.5%	1.0%	8.9%	1.8%	0.7%				
女性		48.9%	17.7%	5.4%	1.2%	6.7%	2.8%	0.7%				
年齢												
20-39		32.3%	16.4%	3.6%	2.1%	9.5%	5.4%	0.2%				
40-59		32.9%	21.5%	8.6%	2.1%	12.8%	2.4%	0.2%				
60-		17.6%	16.2%	5.4%	0.6%	5.7%	2.8%	1.1%				

		I T S : 希望クラブの運動種目									
合計		体操	走りあそび	フットボール	ボレー	ボレー	スキー	登山	スケート	キャブ	ハイキング
合計		5.9%	7.5%	4.0%	4.7%	5.6%	10.3%	2.1%	2.8%	1.2%	2.6%
F I : 性別											
男性		3.0%	5.7%	2.8%	5.4%	3.2%	8.2%	1.4%	1.4%	1.3%	1.8%
女性		7.0%	4.0%	5.1%	3.8%	8.7%	5.1%	7.7%	1.6%	1.0%	1.5%
年齢											
20-39		8.1%	3.3%	2.9%	4.0%	3.1%	3.1%	3.3%	1.5%	1.9%	3.1%
40-59		5.9%	7.3%	7.3%	5.0%	1.1%	2.3%	2.3%	0.9%	1.4%	1.8%
60-		2.2%	8.1%	3.5%	4.8%	15.1%	8.2%	1.7%	0.2%	0.6%	1.7%

17S：希望クラブの運動項目

合計	オリエンテーリング		カート、ヨット		ゴルフ		サイクリング		釣り		陸上競技		柔道、剣道		相撲		空手、ボクシング		レスリング		弓道、洋弓		野球			
	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数		
合計	11.95%	100%	0.5%	6	1.4%	17	5.6%	67	1.8%	44	0.5%	6	0.4%	5	0.4%	5	0.4%	5	0.4%	5	0.4%	5	0.4%	5	0.4%	
F1：性別	男性	50.0%	5.0%	4	1.3%	8	7.4%	44	1.1%	40	0.8%	5	0.5%	3	0.3%	3	0.3%	3	0.3%	3	0.3%	3	0.3%	3	0.3%	
	女性	48.9%	4.9%	4	1.5%	9	3.9%	23	0.7%	3	0.2%	1	0.1%	2	0.2%	2	0.2%	2	0.2%	2	0.2%	2	0.2%	2	0.2%	
年齢	20-39	35.2%	352	1.2%	5	5.7%	20	1.2%	5	1.4%	6	1.0%	4	0.7%	3	0.5%	3	0.5%	3	0.5%	3	0.5%	3	0.5%	3	0.5%
	40-59	18.3%	183	0.5%	1	9.1%	20	0.5%	1	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	60-	45.5%	455	0.2%	1	0.7%	4	2.2%	12	5.1%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%

17S：希望クラブの運動項目

合計	ソフトボール		フットボール		テニス		ボクシング		その他																	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数																
合計	11.95%	100%	3.2%	38	4.2%	50	6.9%	83	3.2%	38	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%		
F1：性別	男性	50.0%	3.2%	38	3.2%	39	7.2%	43	1.5%	6	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	
	女性	48.9%	2.6%	15	5.3%	31	6.7%	39	3.6%	1	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	
年齢	20-39	42.1%	421	1.9%	8	6.2%	11	4.8%	10	2.6%	10	2.4%	10	2.4%	10	2.4%	10	2.4%	10	2.4%	10	2.4%	10	2.4%	10	2.4%
	40-59	18.3%	183	6.4%	14	4.6%	10	4.1%	9	1.8%	9	1.8%	9	1.8%	9	1.8%	9	1.8%	9	1.8%	9	1.8%	9	1.8%	9	1.8%
	60-	45.5%	455	2.9%	16	2.6%	14	4.4%	24	2.9%	15	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%	2	0.4%

18：同僚への関心

合計	非常に					あまり					全くない					国際大会の観戦												
	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数				
合計	11.95%	100%	26.3%	322	47.7%	570	17.2%	206	3.9%	47	3.9%	47	1.2%	12	3.9%	47	3.9%	47	3.9%	47	3.9%	47	3.9%	47	3.9%	47	3.9%	
F1：性別	男性	50.0%	28.8%	172	52.0%	311	13.0%	78	2.1%	16	5.4%	16	5.4%	16	5.4%	16	5.4%	16	5.4%	16	5.4%	16	5.4%	16	5.4%	16	5.4%	
	女性	48.9%	24.8%	145	43.7%	255	21.4%	212	5.1%	30	8.8%	30	8.8%	30	8.8%	30	8.8%	30	8.8%	30	8.8%	30	8.8%	30	8.8%	30	8.8%	
年齢	20-39	42.1%	123	29.2%	527	13.8%	58	1.4%	4	3.8%	4	3.8%	4	3.8%	4	3.8%	4	3.8%	4	3.8%	4	3.8%	4	3.8%	4	3.8%	4	3.8%
	40-59	18.3%	32.0%	70	16.9%	194	16.9%	37	0.5%	1	19.7%	1	19.7%	1	19.7%	1	19.7%	1	19.7%	1	19.7%	1	19.7%	1	19.7%	1	19.7%	
	60-	45.5%	125	23.0%	434	19.9%	108	7.5%	41	87.7%	41	87.7%	41	87.7%	41	87.7%	41	87.7%	41	87.7%	41	87.7%	41	87.7%	41	87.7%	41	87.7%

19：学校体育で教えること

合計	19：学校体育で教えること				わからぬ	
	身体づくり	技術練習	精神力	運動心		
合計	119.5 100%	12.3 10.3%	25.8 21.6%	21.2 17.7%	28.9 24.2%	2 1.7%
F1：性別						
男性	59.8 50.0%	6.8 11.4%	13.4 22.4%	11.7 19.7%	13.5 22.7%	—
女性	58.4 48.9%	5.5 9.4%	11.9 20.4%	9.1 15.6%	15.1 25.9%	2 3.4%
年齢						
20-39	42.1 35.2%	5.0 13.3%	13.5 33.7%	11.4 27.1%	14.2 33.7%	1 2.4%
40-59	21.9 18.3%	3.2 11.0%	4.8 21.9%	3.8 17.4%	6.6 30.1%	1 4.5%
60-	54.4 45.5%	4.1 7.9%	7.5 22.8%	6.7 21.3%	7.9 14.5%	—

20：これから必要なもの

合計	20：これから必要なもの										
	大きな施設	手帳な施設	専用クラブ	初心者用クラブ	高度な指導者	初心者の指導者	地域運動会	日常のスポーツ活動	税金をスポーツのため	スポーツの広報活動	スポーツの普及研究
合計	119.5 100%	10.6 8.9%	75.6 63.3%	3.3 2.8%	46.2 38.7%	6.6 5.5%	19.1 16.1%	24.2 20.3%	29.4 24.6%	15.2 12.7%	8.4 7.0%
F1：性別											
男性	59.8 50.0%	5.9 9.9%	39.8 66.6%	1.9 3.2%	23.8 39.2%	3.8 6.4%	10.6 17.7%	12.1 20.2%	16.3 27.3%	8.3 13.9%	5.2 8.7%
女性	58.4 48.9%	4.5 7.7%	35.2 60.3%	1.4 2.4%	22.9 37.5%	2.8 4.8%	8.2 14.0%	12.0 20.5%	12.7 21.7%	6.4 11.0%	3.2 5.5%
年齢											
20-39	42.1 35.2%	1.7 11.2%	31.0 73.6%	2.4 5.7%	18.7 44.4%	3.5 8.3%	5.1 12.1%	10.4 24.7%	11.6 27.6%	6.6 15.7%	3.8 9.0%
40-59	21.9 18.3%	1.7 7.8%	15.7 71.7%	3 11.0%	11.0 50.2%	5.2 23.8%	3.9 17.8%	4.8 21.9%	6.3 28.8%	2.5 11.4%	1.6 7.3%
60-	54.4 45.5%	7.5 28.2%	34.6 63.0%	1.6 29.6%	26.1 61.6%	3.5 8.3%	10.0 23.0%	16.4 34.4%	11.1 24.1%	5.7 12.5%	3.0 6.6%

20：これから必要なもの

合計	20：これから必要なもの			
	大きな施設	手帳な施設	初心者の普及	スポーツの普及研究
合計	119.5 100%	33.2 27.8%	7.0 5.9%	—
F1：性別				
男性	59.8 50.0%	19.0 31.8%	4.0 6.7%	—
女性	58.4 48.9%	14.2 24.3%	2.9 5.0%	—
年齢				
20-39	42.1 35.2%	15.2 36.1%	3.4 8.1%	—
40-59	21.9 18.3%	7.6 34.7%	1.3 5.9%	—
60-	54.4 45.5%	10.4 19.1%	2.3 4.2%	—

## 高齢者の生活とスポーツ活動

滋賀大学教育学部 沢田 和明

### 1. 緒 言

人間が地球上に生まれて以来、「老いていくこと」は人間にとって大きな問題であり、それは宗教の中で「生老病死」が単に個人や個人につながる親族といった狭い範囲の問題に限られるものではなく、部族や民族さらには人間全体、生物全体、宇宙全体の問題として捉えられてきたように、極めて社会的なものでありうる。

しかし「老」の問題は「死」の問題と同じように、またはそれ以上に、現在の社会で「現役」として活動している人々にとっては、頭の中で理解はできても自分自身の体験としてそれらを容易に実感できない、即ち、少なくとも現在の自分とはある程度距離をおいた、時には無縁の問題であるというような、いつもはなれた冷やかによそごのような認識しかできないという宿命をもたされている。

かって人類の4大危機として、1)核戦争による全面破壊、2)環境汚染、3)人口の増加、4)余暇時代の到来が挙げられたことがあるが、高齢化社会の到来は、1)とは生存の可能性、2)とは健康問題、3)とは食料問題、4)とは生活における生甲斐の問題との関わりを強く持ちながら、「やはり来るべきものがやってきた」というべき問題であり、そしてそれは、他の4つの問題と同様に特定の国家の問題の次元をはるかに越えた、人類の危機的捉え方をすべき問題であるといえる。

またそのことは地球的レベルからシステム論的にみれば、1つの種にしか過ぎない人類が科学の発達という名の下に、地球における人類の適正な生存のあり方を、幾分または、かなり「歪めながら繁殖してきた」ことに対する、生物的な、また社会的な問題を総合的に内包した大きな試練的課題の1つであるともいえよう。

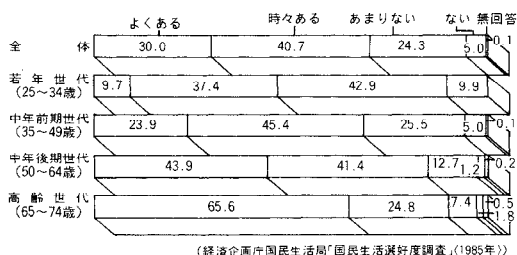


図1. 「老いた自分を考えることがあるか」

ところで社会が経済的に豊かになり、社会福祉に関心もたれ、医科学の発展による高齢者への医療の進歩などにより、日本人の寿命はこれまで以上に延びてきている。しかしそれに対応した形でそれらの人々の社会的生活の充実についての保障への配慮がなされていかなければ、その問題はいろいろ深刻な問題につながっていく。

### 2. 本研究の目的・手順

本研究はきたるべき高齢化社会において高齢者の生活がどのように変化し、その生活の中でかなり重要な位置を占めるであろうと思われる運動やスポーツのあり方について、特に高齢者の置かれた社会的状況を理解しながら望ましい運動やスポーツのあり方についての基礎的知識を集めようとするものである。

今年度は数年間にわたる継続的研究の初年度であるので、特に「高齢化社会」及び「高齢者」の社会的特徴や生活の実態について文献を中心に調べ、また特にその中で運動やスポーツについてこれまで実施されたいくつかの調査結果などを調べることにより、滋賀



県における高齢者問題を考えていくための基本的資料としたい。

### 3. 高齢化問題の背景

社会における高齢者の全人口に対する比率が高くなる傾向を意味する「高齢化社会」という用語自体、その明確な定義づけがなされているわけではない。

一般的に成人のライフサイクルを図2のように示すことがあり、その図に従い、平均寿命を80才とすれば、高齢化の問題は65才以降の約15年間、人によってはさらに長い期間のことからについての問題に違いない。

ところで「高齢者」を60才、65才といったある暦年齢で区切り、その中でのある年齢例えば80才以上の比率の増加をもって「高齢化社会」の到来といわれることがあるが、少な

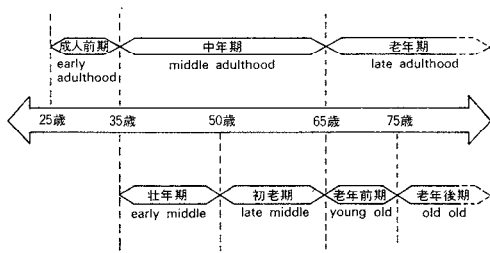


図2. 成人のライフサイクル

くともそのような単なる量的なことから自体が問題であるのではない。

「高齢者」である期間を「老年期」とすれば、一般的に老年期は、生物学的、身体的には衰退期にあるといえるものが多い。しかし精神的なものを考えた場合には単純に衰退的に捉えられるものばかりでなく、G. W. オルポートのいう精神的成熟7ヶ条（自己の拡大、暖かく思いやりのある人間関係、情緒的安定、現実的認知、作業遂行能力、自己洞察、自己の人生哲学）に基づく自己実現の完成期という見方が可能な時期でもある。

そのような高齢者の比率が多くなることで社会全体はどの様に変化してくるのであろうか。それが望ましい方向で楽観視していけな

い状態にあることが高齢化社会の問題であるといえよう。

高齢化社会の到来に関わる問題や、一般的な老人問題の背景には、いくつかのものが指摘されよう。

1つには著しい産業化の進展やその形態の急速な変容に伴う老人の産業社会からの締め出しや、社会福祉の立ち遅れなどによる老人の経済的独立を阻む社会的状況が挙げられよう。それは近年の特に高齢者の就職の難しさとも対応している。

並行して、日本の経済的発展や、医科学の進歩、より望ましい栄養の摂取による健康の増進、生活水準の向上、戦争による死亡者が少ないことなどにより日本人の平均寿命は徐々に延びてきており、その結果高齢者が何らかの形で誰かに依存を必要とする期間が長期化していく傾向にあり、しかも核家族化が進行していく中で、特定の個人や家族で支えていくことが以前より困難な状況になっていることも指摘されよう。

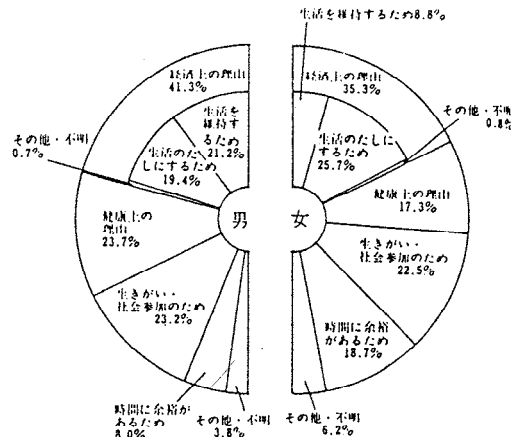


図3. 60歳代の就職希望理由

また高齢者の死亡率の低下ばかりでなく、乳幼児の死亡率も低下し、出生率の低下などとも関わりながら、相対的に高齢者の人口は以前より増えてきている。人口ピラミッドでは昭和25年にはほぼ三角形であったものが、それまで多産多死型から少産少死型への傾向が

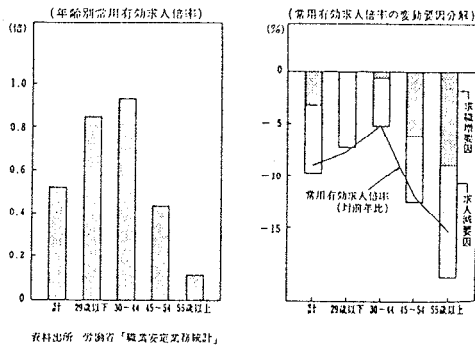


図4. 年齢別常用有効求人倍率の働き

みられ、昭和60年には団塊世代とその子供の部分が増えひょうたん型になり、その後もその影響を受けながら推移していく予測がなされている。

結果的にはそれらのより多くの高齢者の人々をこれまで以上に少ない若年構成者が主体となった社会全体で面倒みていくことになり、そのことに対する可能性や限界などに関してもいろいろな問題が論議されている。

さらにこれまでの社会ではごく常識的に通用した老人への尊敬敬愛の念は、業績や能率を中心的な価値とする産業化社会では徐々に薄れていくようになり、脱産業化社会に至り、社会における価値観が益々多様化し、身近に高齢者の存在を認識できない生活環境にもあって老人への関心が希薄化していることも事実である。このことは戦前までの「家」制度の廃止に伴う、親の扶養に対する考え方の相違、即ち長男による家督の単独相続と引き換えの長男にとっての義務であった親の扶養が、全ての子供にとってまず自分たちの家族の生活保持の次に、余力があれば親を扶養するという考え方に移行していることとも関わっている。

これらの問題が他のいろいろな状況と関わってきて、はじめて「高齢者」や「高齢化社会」が新しく問題視されていくことになる。

#### 4. 日本の高齢化現象

日本では、現在65才の人は、その後男子15年、女子20年の平均余命があるとされている。

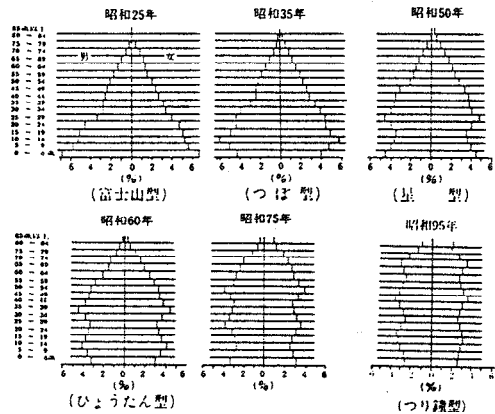
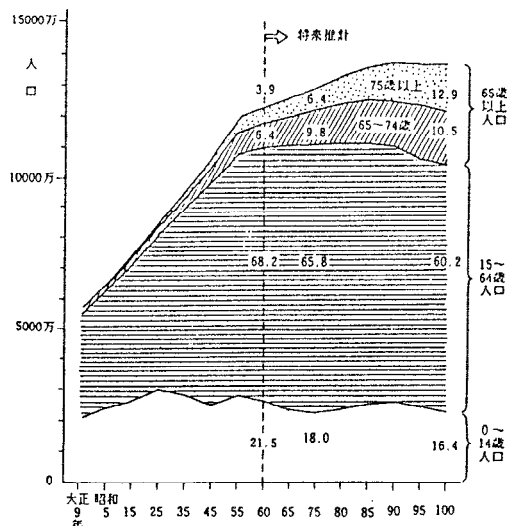


図5. 日本の人口ピラミッドの推移



資料：総務庁統計局「国勢調査」及び厚生省人口問題研究所「日本の将来推計人口(昭和61年12月推計)」の中心推計による。  
 (注) 図中の数値は、昭和160、75、100年における各年齢階級別人口の構成割合を示す(単位%)。  
 (参考) 1. 総人口のピークは、昭和88(2013)年で136,030千人に達する。  
 2. 老年人口のピークは、昭和99(2024)年で31,860千人に達する。  
 3. 高齢化のピークは、昭和96(2021)年で老年人口比率が23.5%に達する。

図6. 日本の将来推計人口の推移

その長い期間の退職者の生活の補償、病気の世話などを含め、誰がどの様にして金銭的、物質的、精神的に支えていくかが問題の基本である。

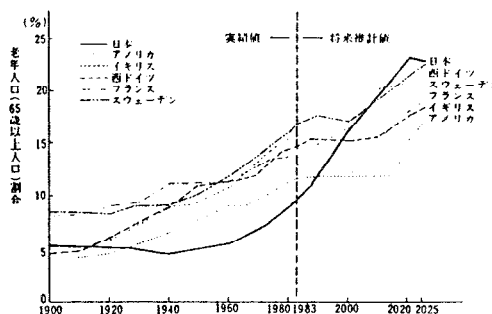
高齢化社会の問題は基本的には社会的弱者としての高齢者という視点が不可欠であり、弱者であることがある時は自らの手で自らを守れないという意味で「被害者」として位置づけられ、またある時はまわりの人に迷惑をかけるという意味で「加害者」になったりも

する。高齢化社会の問題は高齢者人口の全人口に対する比率が小さいときには、潜在的には存在していたとしても、余り、または殆ど問題にされなかったようなことが、その比率が増加していくことによって量的、質的問題として顕在化する社会全体に及ぼされる要解決課題になっていく。

日本の高齢化は現時点においては、人口比率からいっても、また生活様式や社会的風土の観点からも他の先進諸国ほど深刻な状況であるとはいえない。しかし厚生白書に示された人口予測からすれば、1947年にやっと平均寿命が50才をこえたものが、現在では男子75才、女子81才となり、世界的な長寿国になっている。また2000年には男子77.45、女子84.94才にまでなるという予測があり、人類の平均寿命の限界の85才（2045年実現予測）に少しずつ近づきつつあるという。

日本では確実に21世紀のはじめまでに6人に1人は60才以上になり、2021年にその比率はピークの23.6%、即ち4人に1人は60才以上になるという。また日本では1970年に7%であった60才以上の人口比率が、2倍の14%になるのに約30年かかるという。例えば、社会福祉の充実しているスウェーデンが1970年に既に13.7%に達し、2020年には22.7%になるだろうと予測されているが、ヨーロッパの福祉が充実した国が50年から100年かけて老人人口比率が2倍になっていくのに比べると、日本の社会での高齢化のスピードはかなり急激であり、現在ヨーロッパの高齢化社会が抱えているいろいろな問題が、そのままかなり加速度を持った形で緊急要解決課題となっていくことは自明のことであるといえよう。

それだけでなく問題化しつつある高齢化社会の到来への対処や、当面の老人問題整理、理解、解明、及びその解決など問題が山積している中で、その量的、質的に多様化、複雑化していく高齢化社会が抱える問題の解決が、現在の日本社会を構成している一人一人の問題として、それもヨーロッパ以上に深刻な状



資料：日本は総務庁統計局「国勢調査」及び厚生省人口問題研究所の推計に  
 外国は国連資料（UN. Population Studies）に基づく。

図7. 欧米先進諸国と日本の老年人口割合

況に必ず直面するという問題として考えねばならない時期がもうすでに遅いくらいであるという認識が必要であるといえよう。

## 5. 高齢者の社会的立場

ここでは高齢者の社会的特徴を考えていく指標として、加齢とともに経済生活を支えていくための労働からは退くことを基本的な要件とし、それに伴いより多くのものが経済的な貧困に陥り、身体的に不健康な状況が多くなり、いわゆる三大成人病（癌、脳卒中、心臓疾患（心不全、虚血性心疾患など））と称される疾患も加齢に従って増加し、時には老人性痴呆症、「寝たきり老人」をも含め日常生活にも他人の介護を必要とする高齢者も増えていくようになり、しかも受け入れる家族や公私の諸施設の対応はかなり遅れている。

また、社会経済的な活動からはなれることから、自由時間が多いが、それらを用いて経済的な収入に結び付く活動は殆ど望めず、これまでの生活を支えてきた勤労一筋の生活からは、容易に「強制された余暇」の生活に馴染めず、余暇の活用についても殆ど経験がなく、社会的に孤立した中で、精神的にも極めて不安定な状態にあるといえよう。

また高齢者のパーソナリティーの変化が、従来は老人特有のマイナスの変容（不精、不潔、頑固、嫉妬、我がまま、ケチ、短気、怠惰、情緒不安、社会的内向、柔軟性の低下、否定的自己概念などにより適切な社会関係が

保てない)が特徴としてとして報告されていたものが多かったが、今日ではその見解は一部の高齢者の特性が全体のものとして誤解されていたものであるとするのが通説であり、今日では高齢者に共通する性格特性は見あたらないとする見解が一般的であり、中には加齢と共に中年以降の性格がより社会的に望ましいプラス方向への変容(円満になる、外向化、明るくなる、のんきになるなど)が多いとする報告も多くなってきている。

このような状況の中においても、先述した高齢者の加害者や被害者としての社会的弱者であるという位置づけに変わりはない。

## 6. 高齢者のスポーツ活動の実態

ここではこれまで高齢者を対象者に含めて実施されたスポーツ活動についての実態調査のうち、他の年代との比較に有用であると思われる余暇開発センターの調査「東京都総合スポーツ・レクリエーション施策に関する調査研究」(昭和56年)と、高齢者のスポーツ実施についての詳しい実態を報告している総務庁青少年対策本部の調査「体力づくり国民運動推進に関する調査研究—高齢者スポーツの社会心理学的研究」(昭和60年)の2つを概括する。

前者の調査は東京都の「マイタウン東京」構想の中の「生きがいとゆとりある都民生活の創造」というスローガンの下に行われた行政に役立ち得る資料を総合的に収集したものである。

その中でも都民生活の中でのスポーツやレクリエーション活動の1500人を対象とした実態調査によれば、健康や体力についての自己診断や運動不足感についての60才以上の人の回答は図8の通りであり、女性40才以上、男性50才以上になると「あまり健康でない」、「体力に自身が無い」、「運動不足を感じる」ことが少なくなる」といった回答の比率が増えてくる。またスポーツ活動の目的は「健康や体力を維持するため」が年代に関わらず多い

が、活動それ自体を目的的に楽しむという比率は20代と比較するとはるかに少なく、特に女性では少なくなる。

表1. 健康、体力、運動不足感

	健 康		
	健 康	普 通	健康でない
男性	27.3	51.5	18.2
女性	25.5	59.8	13.7
	体 力		
	自信あり	自信なし	どちらともいえない
男性	30.3	18.2	48.5
女性	31.6	27.8	39.2
	運 動 不 足		
	感じる事あり	な し	わからない
男性	60.6	33.3	6.1
女性	47.1	47.1	5.9

また競技指向は年齢と共に低くなり、それも女性の方が低い。過去1年間のスポーツ実施度、やりたい種目の有無は年齢と共に低下し、女性では50代以上になると2人に1人は1年間に殆どスポーツらしいものをしていないと回答している。またスポーツを誰とやりたいかについては他の年代以上にひとりで行いたいとする比率が大きいこともこれからのあり方を考える視点の1つと成ろう。

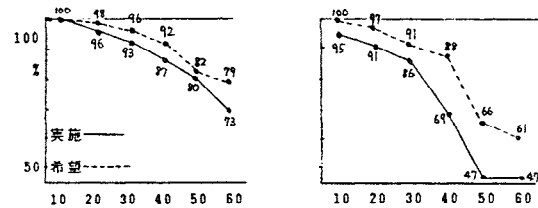


図8. 性別、年齢別スポーツ人口

後者の調査は岡山県のゲートボールクラブについての調査で、クラブの調査、メンバーの調査、メンバーの意識調査、市町村行政担当者の調査の4種類が行われ、クラブの設立から現在までの経過や現状今後の見通しに至るまで種々の観点から質問項目を設定している。その結果を報告書では以下の16項目にまとめている。

- 1) ゲートボールをしている人たちは生活の余裕、自由時間があり、健康で過去の運動経験もわりとある恵まれた人たちが多い。
- 2) ゲートボールをすることにより生理的効果はもとより、心理的効果もあるといえる。
- 3) ゲートボールでなくてはならないと思って入った人はそれほど多くはなく、屋外の軽スポーツであれば何でもよかったものと思われる。
- 4) しかし、現在ほとんどの者はゲートボールが好きであり、老人にとっていいスポーツだと思っており、今後もゲートボールを続けたいと思っている。
- 5) そのため、ゲートボール活動は非常に盛んであるが、組織化や計画的活動は十分さされているとはいえない。しかし、この活動を束縛しない柔軟な活動組織が、かえって高齢者のゲートボール活動をより発展させているものと思われる。
- 6) コート使用でのトラブルは約30%のクラブが経験しており、活動が十分でない、コートが荒れる、子供の遊び場を奪っているという苦情があるなどの問題を抱えている。
- 7) メンバーは仲間とゲームを楽しみながら健康に役立てるためにしている者が多く、メンバー間の交流も盛んで、ゲートボールはコミュニケーションの場を提供している。
- 8) しかし、他のチームとの交流はそれほど盛んとはいえ、試合においては競技指向が強く、おたがいにゲームの楽しさを作り出していこうという意識は低い。
- 9) このことは、現在の競技指向的試合のあり方にも問題があるといえる。
  - ・公式大会よりも日常の親善試合や交流試合を望むものが多い。
  - ・公式大会、親善・交流試合とも出場したいと思うものは比較的少ない。
  - ・メンバーは公式大会に対してもっとリラックスしたものを望んでいる。
 以上のことから、親善・交流試合はもとより、公式大会においても、もっとクラブ間の親善、交流を図ることができるようなゲームの内容、形式にすべきである。
- 10) また、クラブ自体もいくつかの問題を抱えている。
 

ゲートボールをすることによって、うまくなりたいと思うようになり、活動回数が増え、自分で用具を持つようになり、技術向上のための練習が増え、より大きな大会に出たいなど、技術指向的、エスカレートの傾向がみられる。
- 11) このことにより、一方では行政に対して施設の整備・充実、より多くの補助金、大会・講習会などを要求する傾向がみられる。
- 12) また一方では、メンバー間において、ゲートボールで嫌なことを経験したものの、やめたいと思ったことのあるもの、やめたときさまざまな不安を感じるものなど疎外感を持つものが若干存在しており、高齢者のゲートボール活動が必ずしも順機能だけを持っているのではなく、逆機能も存在していることを示している。
- 13) クラブ内の人間関係ができあがり、チームが固定されているため、ゲートボール経験の長いものはやめたときの不安を多くのものが感じている。またこのような人ほどクラブ外の人との交流が少なくなり、地域の中に入りにくく、やめたくてもやめられない状況にある者が少なくないと思われる。
- 14) このように、クラブ内で競技指向、エスカレートによるさまざまな問題を抱えている一方で、クラブが余りにも競技指向、エスカレートの傾向にあるため、クラブそのものが老人会やその地域コミュニティーから遊離する傾向がある。
- 15) クラブに入りたくても、ゲートボールをしたくても、クラブの人間関係ができあがり、チームが固定化している、技術の差があり過ぎる、余りにも勝利指向であるなどの理由により、初心者がクラブに入りにくい状況がある。
- 16) 今後の高齢者ゲートボールクラブ発展の

ためには、1.「健康＋仲間＋日常的なゲームの楽しみ指向」の者と、「競技スポーツ指向」の者などに目的に応じて活動組織を分ける必要があり、2. 各々のクラブに応じて文化的順機能を果たすように活動させ、3. 行政におぶさることなく、自立的に運営していくよう仕向け、4. ゲートボール仲間だけで固まるのではなく、地域社会の人々とのつながりの中でゲートボールクラブが存在するようにしなければならない。いずれもこれからのスポーツやレクリエーションの行政施策の展開のための基礎資料収集のための調査であるが、滋賀県のデータ収集にも大いに参考になるものと思われる。

## 7. 高齢者のスポーツのあり方を考えるためのいくつかの視点

体育やスポーツは、高齢者の生活への寄与という観点からは健康や生甲斐の問題と深く関わっており、また逆に高齢者から体育やスポーツへの寄与という観点からは、新しいスポーツ文化の創造があげられよう。生物学的、身体的には高齢者はルーの法則に従いながら衰退の一途をたどることになるが、その下降曲線のスピードを緩める可能性をもっているものの1つがスポーツをはじめとする身体活動の実施であろう。

### 1) 生涯スポーツとスポーツの楽しさ

生涯スポーツが論議されて久しい。文部省の小学校、中学校、高等学校の学習指導要領は約10年ぐらゐ毎に改訂されてきているが、現行の要領は昭和52年に改訂されている。

この改訂は「楽しい体育」としてまとめられることがあるように、運動の固有の特性に触れることに重点を置き、各々の運動やスポーツが人を魅きつけて離さない各々の醍醐味に触れる体育のあり方がその中心的な考え方として位置づけられている。

それはこれまでの体育がどちらかといえば、日常生活の中で生かされることが少なく、学校卒業後も継続的にスポーツ活動をする人々

の比率が少ないことを背景にしている。

またこのことは学校時代にかなり精力的に実施していた運動部活動の種目の卒業後の継続の実施が同じようにみられないこととも関わっている。

これまでの体育やスポーツはどちらかといえば「仕事の」なイメージが強く、「わかる」「できる」しかし「きらい」というパターンに陥る傾向が否定できず、またその活動は、施設や用具があり、指導者がいて、仲間がいて、練習内容があらかじめ決まっています、参加者は自分の身体一つを持っていけば、そのまま運動する機会に恵まれていたという状況の中で行われていた。スポーツとは誰かが教えてくれるもの、自分で努力するのは、指導者に言われたことがらだけ、というどちらかといえば頭を余り使わず、ただ一生懸命に身体だけを動かしていたという感じが強く、スポーツ実施における感激も自らが作り出したものというよりは指導者に作ってもらったという感じが強いように思われる。このことは特に学校時代に限定されるものではなく社会体育の場でもみんなのスポーツの場でも同じである。

そのあたりを克服するのが現行の体育の基本的考え方である。それは各々の運動やスポーツが持つ機能的特性としての固有の「楽しさ」との出合への着目することにより、「もう一度やってみよう」とか「今度こそ」という向上への動機づけに裏付けられたものになるという前提で成り立っていく体育であり、充実した醍醐味に触れるための努力や感激を運動やスポーツの生活化につなごうとする体育である。

高齢者とスポーツとの関わりも基本的にはこの観点が重要なものになると思われる。

### 2) 強制された余暇問題

スポーツの目的的な楽しさの再確認は、余暇の有効利用にとって重要な観点であるといえるが、その前提となる「高齢者の余暇」そのものについての認識が必要であろう。

高齢者の余暇問題は一般社会人の余暇問題と基本的に様相が異なっている。余暇を社会経済的に必要な社会的地位役割に拘束された活動内容が他方に存在することを前提とし、それに対応するものとして余暇が成立すると捉えた場合、退職した後で特に主体的には取り組む経済的活動を行っていない高齢者の余暇活動には、それに対応するはずの社会的な地位に裏付けられた役割期待を認識できるものが無いことが多い。それは治る見込みが殆ど無い長期療養者の闘病生活に似ている。

基本的には本人がそのような時間帯を持つことそのものを、一般の人と同じレベルで欲してはいないということであり、余暇問題が盛んに論じられた1970年代前半に余暇を「時間の概念」としての余暇と「行動の概念」としての余暇という2つの考え方が示され、当時日本の社会ではまだまだ時間の概念であると指摘されていたが、なかなか活動概念としてみるができなかったその当時の状況そのものが現在の高齢者の余暇問題であるといえよう。

### 3) スポーツと健康との関係

健康に関してはW.H.O.の定義にもあるように、身体的、精神的ばかりでなく社会的に健康であるとする考え方が大切であろう。しかし高度に医療が発達した現在60才以上の人の2人の1人が病院に通っている現在、病気が無いことが健康という考え方から、病気がいかに付き合いながら生活を豊かにしていくかという考え方への転換も必要なように思われる。

スポーツにより味わうことが可能であるとする特性はスポーツ活動そのものを目的的に捉えた場合に大切な観点であるが、その楽しさはこれまで言われてきた身体的、精神的な面での効果というよりは、むしろ社会的な面での健康という観点が必要になってくると思われる。

それは上述の調査結果のように高齢者のスポーツが単にスポーツ活動そのものを楽しむ

ために行われているばかりでなく、仲間と一緒に楽しむというスポーツ活動自体が手段的に捉えられていることから大切な観点であるといえよう。このことは特別高齢者に限定されるものではないが、高齢者のスポーツ活動にその傾向が強いことは留意すべきところである。

またそれに関わる集団そのものや組織づくりについての関心の高まりがより一層重要になってくるといえよう。例えば勝利指向という目的が個人的な次元からどの程度集団的な次元のものになるかということについての適切な調整が一般のスポーツの状況以上に高齢者のスポーツを考える上で必要になってくるといえよう。

### 4) 高齢者のスポーツテストについて

高齢者に関する生理学的な体力と年齢の関係や高齢者の体力測定の標準化されたデータはスポーツクラブやある施設など特定の集団に所属しているもの以外には余り見あたらない。文部省の壮年体力テストでは一応60才以上として年齢区分や標準得点が定められているが、これはあくまでも「壮年」を対象としたものであり、高齢者の体力測定に適したものであるかは問題であるし、標準化された得点も壮年を基準とした統計的処理による推計がなされたものに過ぎない。

この背景には、一方では怪我や事故といったことと関わった信頼性の高い高齢者データを取ることの難しさがあり、他方では本来のかなりバラツキがあると想定される高齢者データの一般化ということの妥当性との関わるものがあると思われる。

これからのより長期間「自由時間」を過ごすことになっていく高齢者比率が増えていく高齢化社会に向けて、運動をその時間の過ごし方の重要なものの1つとして位置づけていく以上運動実施の程度に応じたきめ細かい体力テストの作成が望まれるが、信頼性や妥当性といった客観性が十分検討されたものでないと、かえって怪我や事故や不要な混乱の

みを惹き起こしたりする結果につながることも有り得る。

#### 5) 運動処方の問題

健康の維持増進に目標を置きながら運動やスポーツ活動を実施し、その活動を通して身体的、精神的、社会的に健康であり続けるためには、その運動の内容が質的、量的に各個人に適したものでなければならない。そのためには客観的な指標となるものが単に医学的、運動生理学的な自然科学的なものばかりでなく、スポーツそのものに対する価値観などの把握のためのスポーツ哲学的観点、個人の内面に関わる心理学な観点、スポーツを行う集団そのもののあり方を問う社会学的な観点などを考慮した社会科学的なものによるチェックも必要になってくる。

このことは特別高齢者のスポーツ活動についてのみ強調せねばならないものではないが、高齢者のスポーツ活動はそれ以外の若い年齢層に比較して、時には「やっていなければ」、または「やりはじめなければ何事もなかったのに」という、怪我や事故といった身体的に取り返しのつかない状況に陥る危険性や、社会的な行動範囲が余り広くない生活環境の中で、仲間との付き合いそのものを否定せねばならない危険性を多く持っているということでもある。

#### 8. 今後の課題

今回の研究報告は高齢化社会や高齢者の一

般的状況の把握が中心であったが、今後は滋賀県の高齢者の生活における運動やスポーツとの関わりや位置づけについての基礎的データを定量的なものばかりでなく、定性的なものについても運動実施者と非実施者に分けて収集する予定である。

#### 参考文献

- 1) 井上勝也他編 老年心理学 朝倉書店 1980
- 2) 柄沢昭秀 市民大学講座「老年期」 N H K 1987
- 3) 経済企画庁 国民生活選好度調査 大蔵省印刷局 1985
- 4) 厚生省 厚生白書(昭和62年度) 大蔵省印刷局 1987
- 5) 総務庁青少年対策本部 体力作りづくり 国民運動推進に関する調査研究－高齢者スポーツの社会心理学的研究－ 1985
- 6) 文部省 小学校学習指導要領 大蔵省印刷局 1977
- 7) 文部省 中学校学習指導要領 大蔵省印刷局 1978
- 8) 文部省 高等学校学習指導要領 大蔵省印刷局 1978
- 9) 余暇開発センター 東京都総合スポーツ・レクリエーション施策に関する調査研究 1981
- 10) 労働省 労働白書(昭和61年度) 大蔵省印刷局 1987



## 高齢者の健康や体力と運動からみた高齢者の生活実態

### —滋賀県民健康体力調査と滋賀県老人生活実態調査より—

沢田 和明 (滋賀大学教育学部)

#### 1. 緒 言

高齢化社会の到来が社会問題化して久しい。確実に全人口に対する高齢者人口の比率が高まっていく予測の中で、高齢者が身体的、精神的、社会的に健康な生活を送れることは、単に医療費用や介護関連のサービスに対する経済的問題ばかりでなく、社会全体にとって望ましいことである。労働生活から引退して、なんらかの能力持ちながら身体的、精神的、社会的に不健康な状態の1つとしての強制的余暇を強いられている高齢者の比率が大きいことは、社会的に大きな損失である。高齢化社会における高齢者の余暇時間の有効な活用は今後極めて重要な問題になってくる。そのことはレクリエーション教育やレジャー教育が普及していない日本の現状を考えた場合、余暇時間の漸増ないしは週休2日制の職場や学校が漸増するにつれ、現時点でもそれに対応しきれない労働者の現状をばかりでなく、それらの人々の老後の余暇対策をも含めて考えるとなお一層深刻な問題となってくる。

余暇活動には消極的な休養から、より積極的なレクリエーション、さらには自己実現にいたるまで、余暇時間の量と余暇活動の質に応じて多様な展開が可能である。退職した高齢者にとっては、これまでの専門を生かせるかどうかは別にして、収入を伴う仕事、社会的奉仕活動、個人的な趣味娯楽の活動、教養を身につける活動、友人との交流、近隣との付き合い、旅行やスポーツ活動など多様なものが考えられる。基本的には生活の基盤となる健康な家族関係の中での家庭生活が中核となるが、それらの豊かな余暇活動を通して充実した生きがいのある第2第3の人生として

の老後の生活を過ごしていただきたいものである。高齢者の健康状態は単に体力があり身体的に病気でないということばかりでなく、生きていく張合いがあり精神的にも充実し、個人が経験豊富な社会構成員の一員として認められ尊重されていく社会的にも健康であることが必要である。

#### 2. 目 的

昨年度の研究では、高齢化社会の到来に関わる社会の状況や高齢者の社会的立場、心理的状況などを概括し、高齢者のスポーツ活動の現状報告をした先行研究調査を引例しながら高齢者のスポーツ活動のあり方についての基礎的知識をまとめた。

本年度は高齢化社会の到来を目前にひかえ、特に高齢者の余暇時間における運動やスポーツ活動の可能性と限界をふまえた今後の高齢者のスポーツや運動のあり方を考えていくための基礎的な資料収集を目的として、現在の高齢者がスポーツや運動、健康などについてのどのような意識を持ち、実際どの程度の活動をしているのかについての基礎的資料を得ようとするものである。

#### 3. 手順・方法

滋賀県体育協会スポーツ科学委員では昭和62年度に約1,200名を対象にした県民の健康と体力に関する行動と意識に関する調査を実施している。その中に約400名の60歳以上の標本が含まれているが、それら60歳以上の者の健康や運動に関する実態とそれ以下の年齢層との比較をすることによって高齢者の実態を明らかにしたい。

また滋賀県厚生部では昭和62年度に質問紙を用いた面接法による標本数約6,600名の非常に大規模な老人生活実態調査をおこなっている。その調査自体は老人福祉行政の基礎的資料を収集するということから、スポーツや運動、健康といった領域ばかりでなく、老後の生活全般にわたる質問内容で構成されている。報告書は既に出されてはいるが、内容が多岐にわたるためスポーツや運動、健康そのものに特に詳しく分析する余裕はなかったといえる。貴重なデータであり多様な分析がその後行われていることであろうが、本研究ではその調査データも利用して、特にスポーツや運動、健康に関わることに限定して、さらに詳しい分析を試みる。なお両調査のデータ処理は滋賀大学教育学部計算センター（FACOM-M310）でアプリケーションプログラムANALYSTを用いて分析した。

#### 4. 滋賀県民の健康と体力に関する意識と行動調査

この調査は昭和62年に滋賀県下7市12郡（42町1村）の全市町村の20歳以上の住民を対象に年齢、性別ごとに人口比例抽出した1,715名に対して調査票を用いた留置法によって実施された。有効回収数は男性598名女性584名合計1,182名、回収率は68.9%であった。60歳以上の人の性別、及び年代別クロスの基礎的な集計表は本文末に資料として掲載してある。

60歳以上についての性別（図1から14まで参照）では就労の状況が男性35.1%、女性が6.7%でありそのことからいろいろ運動やスポーツについての関わりが異なってくる思わ

れるが、有意差のあったものを中心に以下述べていく（男性%、女性%）。体力に対する自信の肯定（42.2%、23.3%）、疲れを感じる（12.5%、19.6%）、眠れば疲れが取れるか（59.6%、43.9%）などからは男性の方がより健康的な回答であるといえよう。運動不足感については有意差はなかった。

また体力テストの希望（36.9%、19.2%）、1年間の運動実施（78.9%、57.1%）には0.1%水準で男性が高かった。実施種目は男性では多いものからゲートボール（52.7%）、散歩（36.7%）、体操（32.7%）、釣り（24.0%）、女性はゲートボール（46.2%）、体操（46.2%）、散歩（38.7%）、フォークダンス（10.4%）で、男性は女性よりも多様な種目を行っている。実施日数は週3日以上（16.4%、14.9%）、週1-3日（31.3%、18.8%）で男性の方が活発である。運動やスポーツをする理由については有意差はなかったが、健康、体力維持は63.1%、運動不足、友人との交流46.7%、ストレス解消38.9%、身体を動かすことが好き25.0%、生活を豊かに楽しく20.5%と続いている。運動をしない理由は男性では疲れる（31.6%）、病気、怪我（21.1%）、会社（17.5%）、他の趣味（17.5%）、女性では疲れる（42.2%）、おっくう（20.5%）、家事（19.3%）が多い。これからやってみようスポーツについては男性の方が多様である。学校時代の体育授業についての役立ち方の肯定的回答は男性では54.7%、女性42.2%でありわからないとする比率が女性の方が多かった。今後のスポーツ行事参加（64.2%、46.4%）、国際大会への関心の肯定的回答（78.0%、52.9%）といずれも男性の方が高い。

図1. F4：通勤（通学）

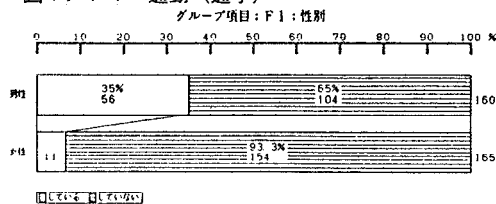


図2. 1：健康か

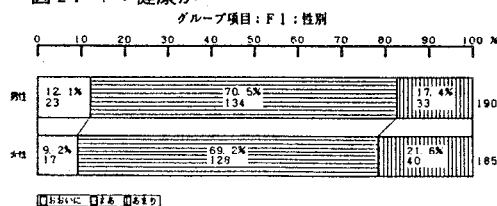


図3. 2 S : 健康への心がけ

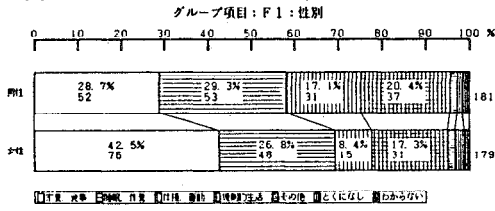


図4. 3 : 体力評価

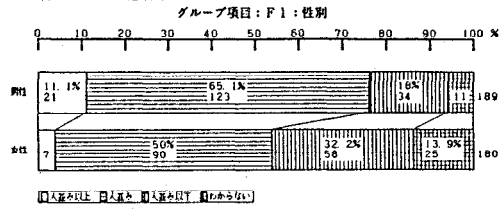


図5. 3 S : 体力自信

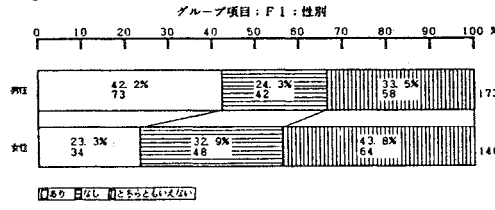


図6. 4 : 疲れを感じる

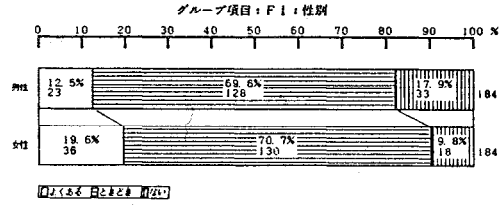


図7. 4 S : 眠れば疲れはとれるか

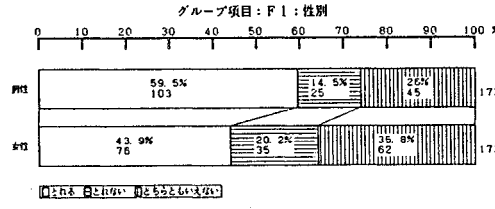


図8. 5 : 運動の必要感

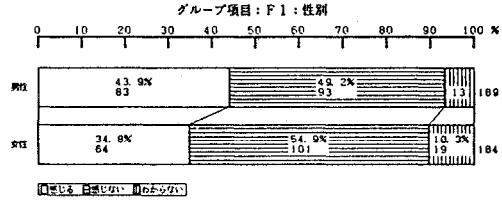


図9. 6 S : 体力テスト希望

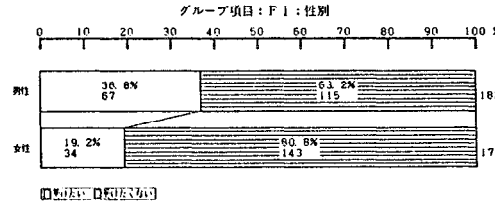


図10. 7 : 運動, スポーツ経験タイプ

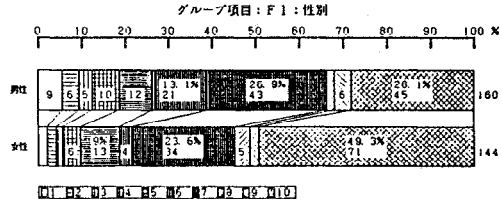


図11. 10 : 体育の授業は役立ったか

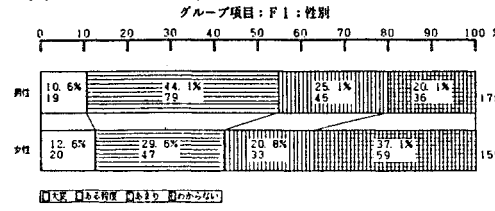


図12. 11 : クラブ経験は役立ったか

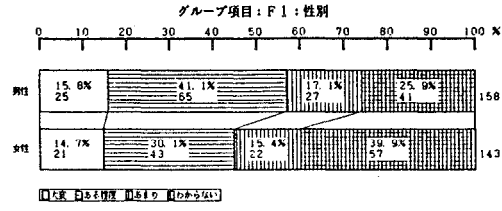


図13. 13 : 今後のスポーツ行事

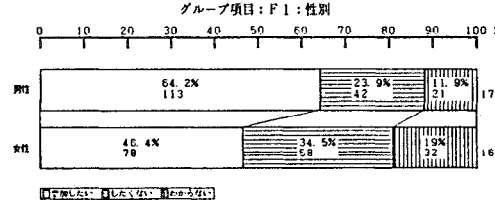
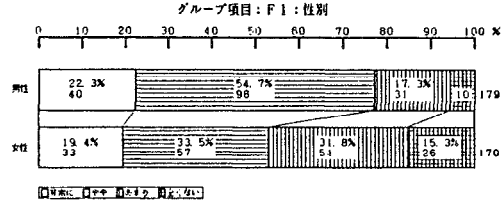


図14. 18 : 国際大会への関心



60歳以上についての年齢別（図15から図30参照）では就労の状況が60歳代37.5%，70歳代4.2%あり，性別以上にいろいろ運動やスポーツについての関わりが異なってくると思われる。有意差のあったものを中心に以下述べていく（60代%，70代%）。暇の程度ではあるほう（46.9%，52.3%），ありすぎる（9.1%，31.7%）でいずれも70代が多い。疲れを感じる（10.5%，20.7%），眠れば疲れが取れるか（60.0%，44.5%），運動不足感（51.1%，29.0%）などからは60代の方が健康的であるといえるが，体力に対する自信の肯定は有意差はなかった。

また体力テストの希望（38.0%，19.0%），1年間の運動実施（75.4%，62.1%）には0.1%水準で60代が高かった。実施種目は60代では多いものから体操（52.7%），ゲートボール（35.9%），散歩（35.9%），釣り（14.5%），70代ではゲートボール（65.1%），散歩（38.9%），体操（23.8%），釣り（14.3%）で，70代のゲートボールが圧倒的に多い。実施日数は週3日以上（9.3%，22.0%），週1-3日（22.9%，28.8%）で70代の方が活発である。これはゲートボールの頻度が就労と関わっていると思われる。運動やスポーツをする理由については性差と同じく有意差はなかった。運動をしない理由は60代では疲れる（32.7%），会社（20.0%），家事（25.5%），仲間がいない（20.0%），怪我（14.5%），他の趣味（14.5%），70代では疲れる（41.2%），おっくう（18.8%），病気，怪我（17.6%）が多い。60代は労働の拘束が強い。これからやってみたいスポーツについては60代でゴルフ，釣りが

多く，70代でバレーボールやテニス，ゴルフなどの比率が高い。学校時代の体育授業についての役立ち方の肯定的回答は60代では52.8%，70代45.0%でありわからないとする比率が70代の方が多かった。今後のスポーツ行事参加（62.4%，48.9%），スポーツ教室参加（39.4%，28.7%），国際大会への関心の肯定的回答（76.2%，55.5%）といずれも60代の方が高い。

これらから男性，女性との関連と60代，70代の関係とがいずれも前者がスポーツの社会化にとって肯定的な内容を含むものが多く後者は少なかった。ここでは会社や家事など労働の関係の違いが基本的な生活様式に大きな影響を及ぼすものと思われる。

なお60歳以上と50歳代までの全項目のクロス表分析では，5%水準で有意差のないものはなかった。

またこの1年間の運動やスポーツの実施についてどの変数が一番影響をしているかということを見るために林の数量化2類を用いて多変量解析を試みた。外的変数として運動実施，説明変数として性別，年齢，休暇の形態，通勤，家庭の状況，暇の程度，健康状態，健康体力への配慮，体力評価，疲れの感じ方，運動の必要感，体力テスト希望，体育の授業の影響，クラブ活動の影響の14項目を用いた。その結果対象者全員では体力評価，年齢，クラブ活動の経験，休暇の形態，家庭の状況の順であった。60歳以上では休暇の形態，クラブ活動の経験，家庭の状況，体力評価となっている。（表1参照）

図15. F4：通勤（通学）

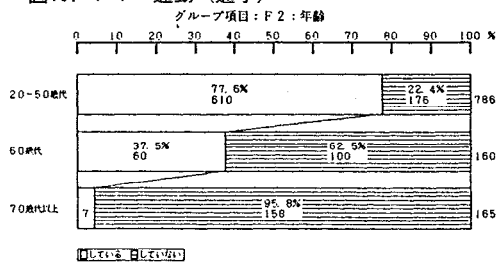


図2. 16：健康か

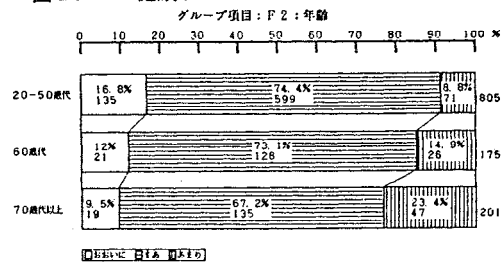


図17. 2 : 健康, 体力への注意

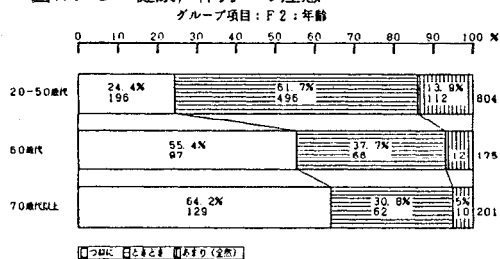


図18. 2 S : 健康への心がけ

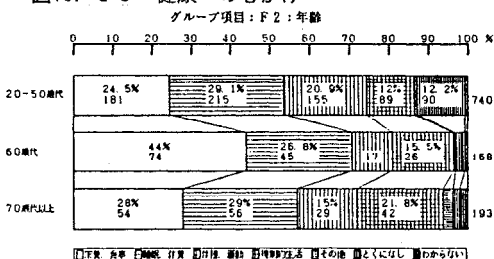


図19. 3 : 体力評価

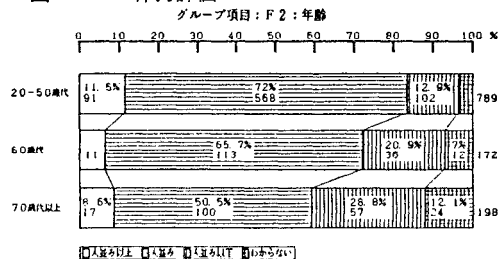


図20. 3 S : 体力自信

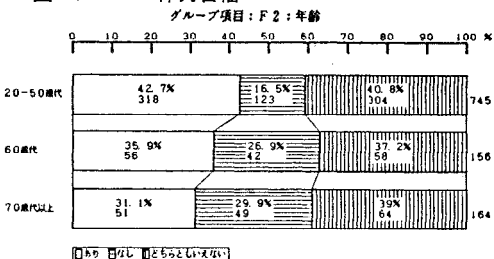


図21. 4 : 疲れを感じる

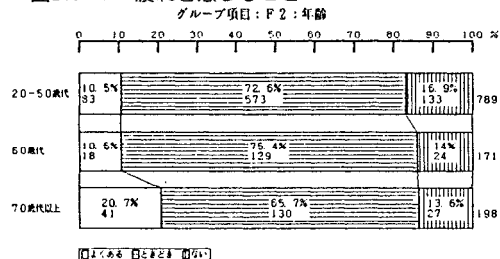


図22. 4 S : 眠れば疲れはとれるか

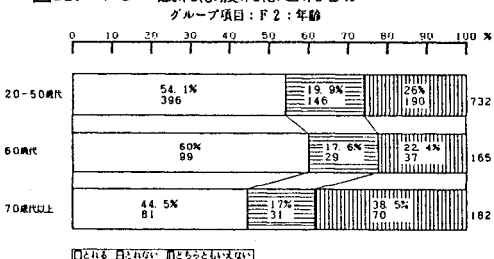


図23. 5 : 運動の必要感

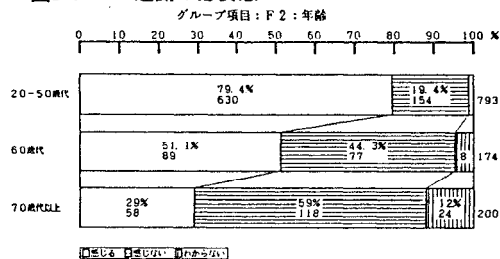


図24. 6 : 体力テスト

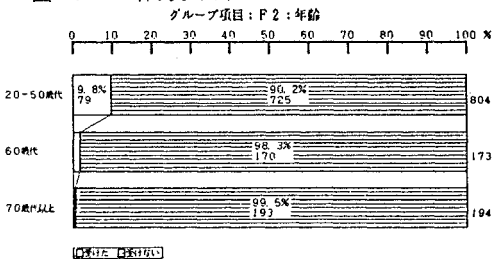


図25. 6 S : 体力テスト希望

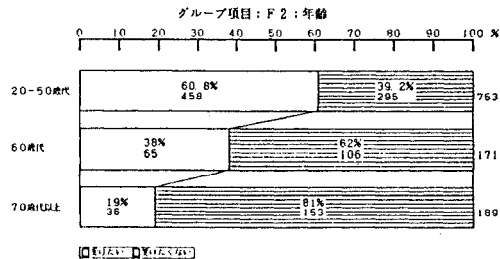


図26. 7 : 運動, スポーツ経験タイプ

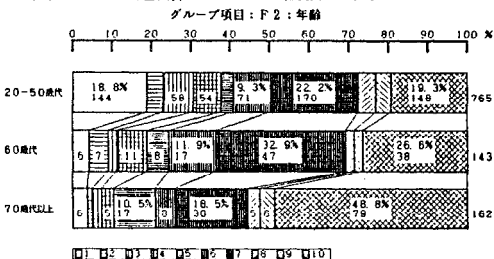


図27. 10: 体育の授業は役立ったか

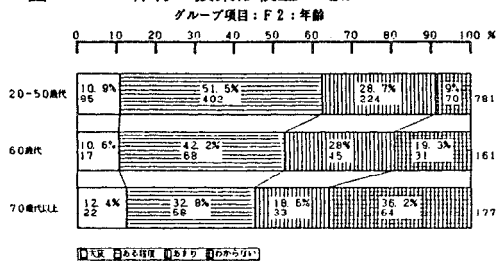


図28. 11: クラブ経験は役立ったか

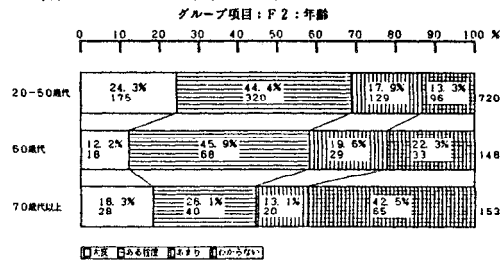


図29. 13: 今後のスポーツ行事

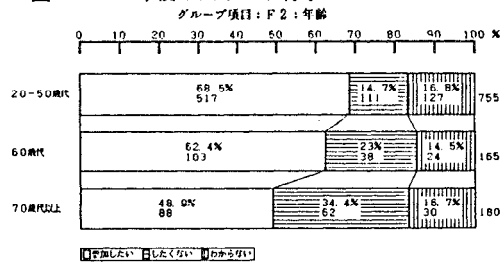


図30. 18: 国際大会への関心

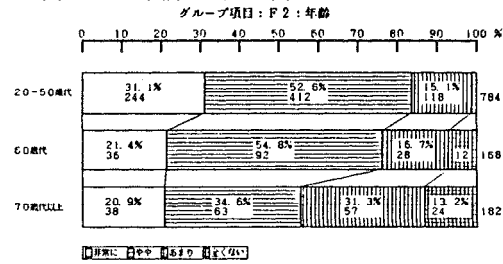


表1. 60歳以上

カテゴリ: 60歳以上 (解1) 外的基準: スポーツ実施

項目	度数	ウェイト	レンジ
F1: 性別			0.2256546
男性	128	-0.1119389	
女性	126	0.1137157	
F3: 体型の形態			1.4816567
完全な身体(2日)	12	-0.2759842	
その程度(2日)	6	-0.0424295	
遊休(1日)	8	-0.0911050	
遊休(1日)	22	0.3466209	
遊休(2日)	23	-0.0127947	
休む(1日)	15	0.1922777	
その他	169	-0.0347950	
F4: 通勤(通学)			0.2718699
している	54	0.2140708	
していない	200	-0.0577991	
F5: 家族の状況			0.9212805
未婚	43	-0.3494525	
未婚(学生)	51	0.2091355	
中学生	20	0.0726329	
高校生	23	0.3718280	
いない	117	-0.0875569	
F6: ヒアの程度			0.3501040
全くなし	10	-0.1462491	
ないほう	65	-0.1200304	
あるほう	124	-0.0509239	
ありすぎる)	55	0.2300737	
1: 健康が			0.5252014
よい	28	-0.4407298	
まあ	177	0.0844716	
あまり	49	-0.0532865	
2: 健康、体力への注意			0.3538265
つねに	151	0.0178161	
ときどき	90	0.0183389	
あまり(全然)	13	-0.3352876	
3: 体力が			0.7821918
入部以上	24	-0.1190273	
入部	140	-0.2226134	
入部以下	61	0.5957874	
わからない	49	0.0038533	
4: 疲れを感じる			0.1210179
よくある	40	0.0260077	
ときどき	178	-0.0133711	
ない	36	0.0950103	
5: 運動の必要感			0.1379223
感じる	104	-0.0758005	
感じない	127	0.0621218	
わからない	23	-0.0002705	
6: 体力テスト希望			0.6645092
付きたい	78	-0.4604473	
付かない	176	0.2040619	
10: 体育の授業は役立ったか			0.6466786
大々	30	-0.3781142	
ある程度	87	0.0582205	
あまり	61	-0.2031705	
わからない	76	0.2685643	
11: クラブ経験は役立ったか			1.2844947
大々	38	-0.1700409	
ある程度	87	-0.5466992	
あまり	45	0.7377955	
わからない	84	0.2478999	

### 5. 滋賀県老人生活実態調査

この調査は昭和62年7月1日現在で65歳以上の人のうち住民基本台帳から無作為に抽出した6,775人を対象とし、民生委員による質問紙を用いた面接調査で実施された。有効回収数6,594人、回収率97.3%であった。

ここでは、分析項目を身体の具合、体力、運動欲求、1年間の運動実施の有無、就労関係、老人クラブ、近所付き合い、生きがいに限定して概括し、次に次の3つの項目 1) この1年間に運動をしたかしないかについての2グループ、2) 運動をした人の運動の頻度から週3日以上、週1-2日、それ以下の3グループ、3) 日頃健康のために特に何かしているかについて3グループに分け(この質問の3: 散歩や軽体操、ジョギングや4: スポーツ活動参加の回答をしている運動やスポーツに積極的に取り組むグループ、9を何もしてない無配慮なグループ、その他を健康配慮非運動グループの3つのグループ)。

それぞれのグループ間の比較やその項目と性別や年齢別、地域別などの比較、及びいくつかの他の項目とのクロス比較を行っていく。

身体の具合については図31、体力については図32、運動欲求については図33、運動実施については図34、運動日数については図35の通りである。なおこれらの図は全体、性別、年齢別での100%の長さはコンピュータのアウトプットの関係で異なっているが未調整のままである。

これらからは女性よりも男性の方が身体の具合、体力、運動欲求など身体的に良好な人が多く、運動に対する関心や実施の比率が高い。また年齢別では年齢が上がるにつれてそれら身体的には劣ってきている。この傾向は1年間の運動実施においても同様である。運動実施者に限定してみると運動実施が週1-2日以上以上の比率は同じであるが、週3日以上以上の運動の実施の頻度だけは年齢が上がるにつれて高くなってきている。

図31. Q 6. 身体の具合

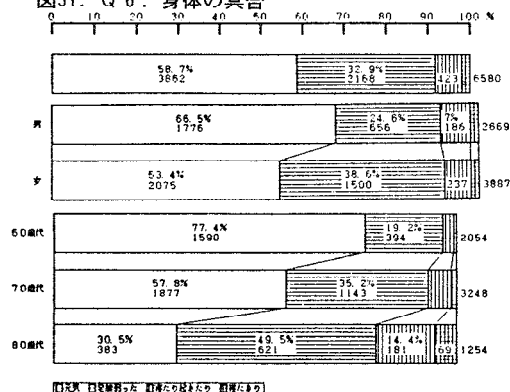


図32. Q 9. 体力

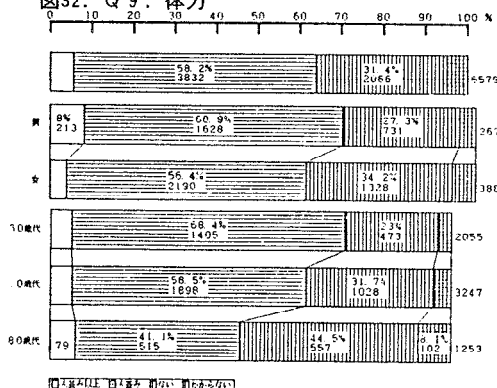


図33. Q 10. 運動欲求

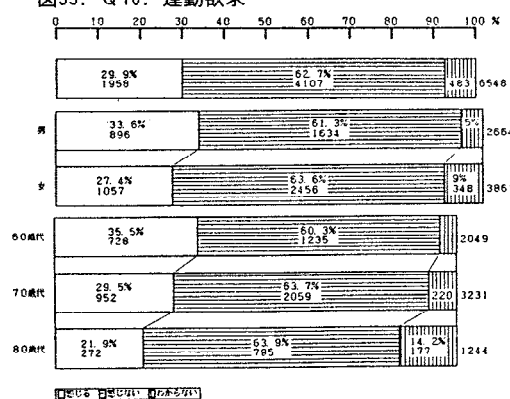


図34. Q 11. 運動実施

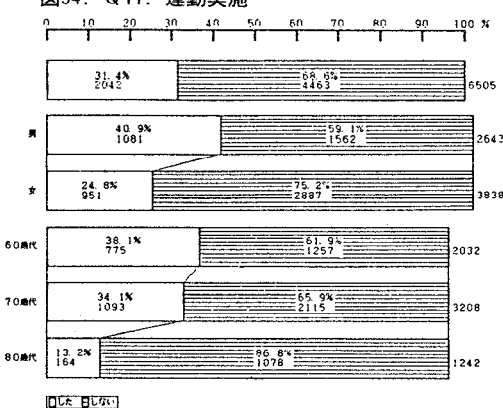
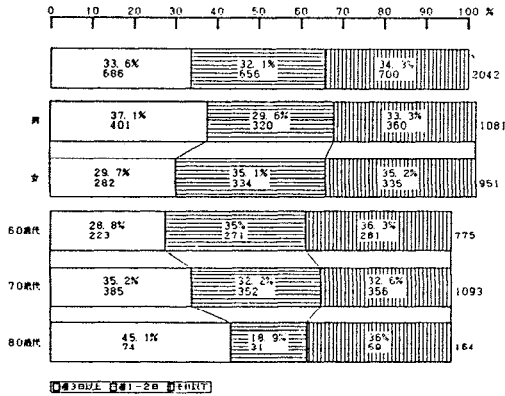


図35. 運動日数



1) この1年間の運動実施について (図36から図51参照)

運動実施したと回答した人は31.4%で男性は40.9%, 女性は24.8%で, 60代38.1%, 70代34.1%, 80代13.2%である。また市部では27.9%, 郡部では34.5%である。

運動を実施した人の体力の自己認知はしない人の体力の自己認知より高く, また運動欲求を感じる比率が高い (図37, 図38)。また収入のある仕事についている人の比率は運動

図36. Q 6. 身体の具合

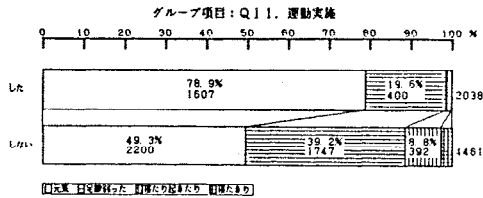


図38. Q 10. 運動欲求

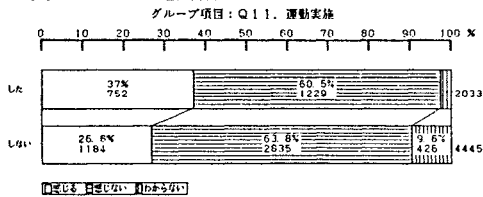
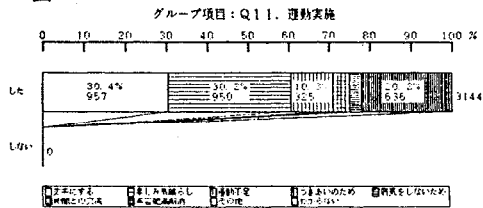


図40



実施した人が27.9%でしない人の18.6%に比べて多い。これは年齢別で就労している人と運動実施との関係によるものであろう。(図45参照)

就労している人の働く理由は図46の通りであるが, 運動実施者が生きがいを第1位にあげるのに対し実施していない人は第1位に健康をあげ, それら2つの項目の比率と逆転している。主要家計費の比率なども考慮すると, 運動していない人は必要な労働が健康につながるというみかたが可能であるように思われる。また就労していない人の働かない理由については, 運動を実施していない人では仕事がないというよりは身体的なものをあげる比率が高く (図47), 仕事があれば働くかという質問に対して運動実施者より働けないと回答する比率が高く働きたいとする比率が低い。

また運動実施者は近所に親しい友人が多く, また老人クラブでの活動が活発である。このことは老人クラブの活動が近所の人と行われ, その活動の中に運動に関わるものがあることが考えられる。

図37. Q 9. 体力

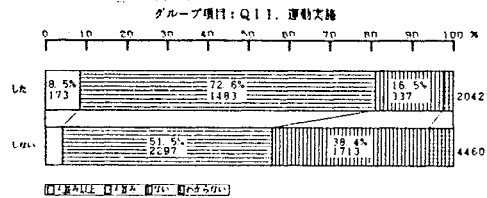


図39. 運動日数

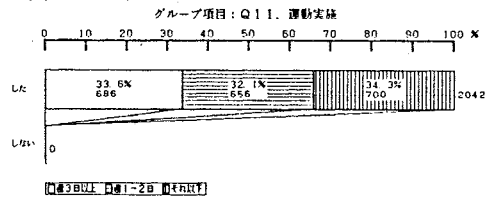


図41. スポーツをしない理由

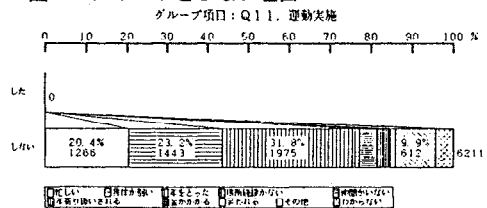




図42. この1年間にやったスポーツ

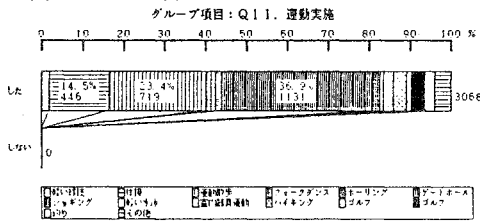


図44. 生きがいを感じる

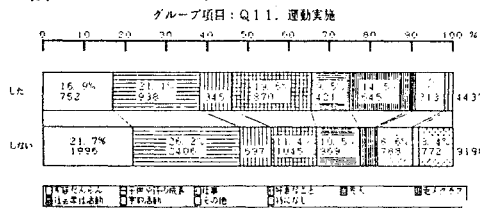


図46. Q23. 仕事をする理由

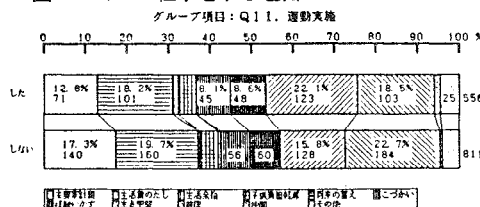


図48. Q23. 仕事の種類

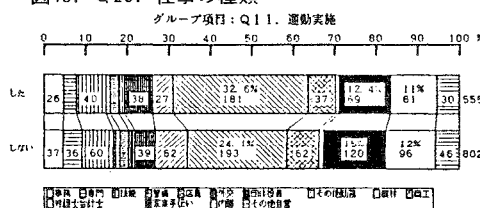


図50. Q24. 近所づきあい

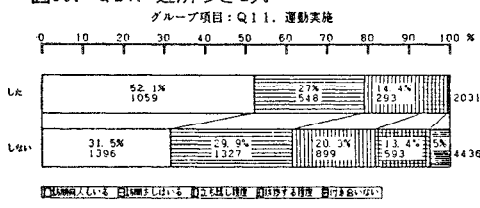


図43. 老人会以外の活動

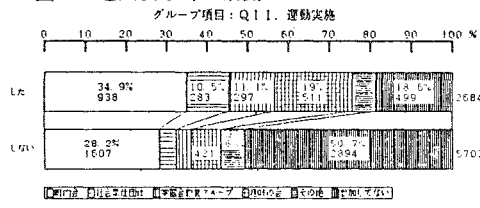


図45. Q23. 収入ある仕事に

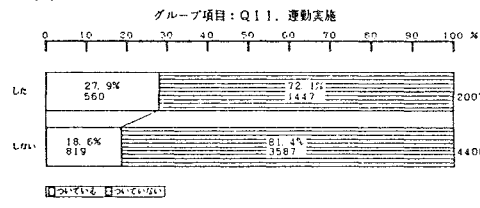


図47. Q23. 働いてない理由

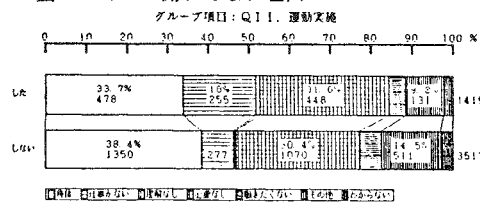


図49. Q23. 仕事があれば

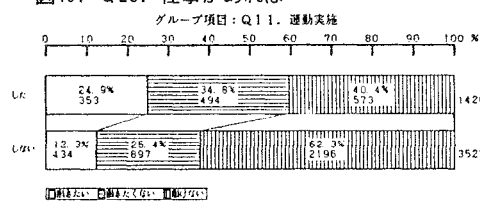
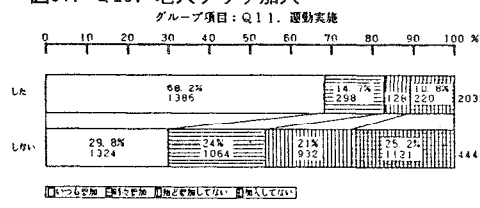


図51. Q25. 老人クラブ加入



2) 実施者の運動の頻度について (図52から図61参照)

運動実施した人は31.4%のうち週3日以上の人33.6%、週1-2日の人32.1%、それ以下の人34.3%で約3分の1ずつである。性別、年齢別では先述の通り女性と高齢者に実施が低い傾向がみられた。また市部では27.9%、

郡部では34.5%で郡部の方が比率が高かったが、実施した人の頻度では週3日以上が市部の方に多かった。

運動実施者は身体の具合いは7割以上良好で、体力も8割が人並であると回答し、週3日以上では13.1%が人並以上と答えている。体力の評価の質問内容は同じ世代の人と比べ

てということではないのでかなりの自信があるものと思われる。就労については3割がしてそれは運動実施の頻度が増えるについて少しずつ減っている。就労してない理由は

図52. Q6. 身体の具合

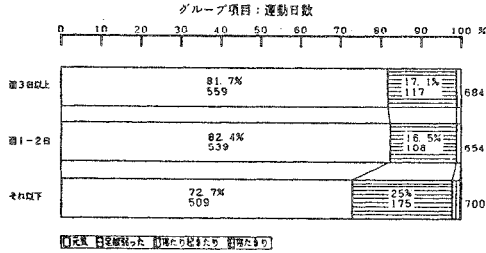


図54. Q10. 運動欲求

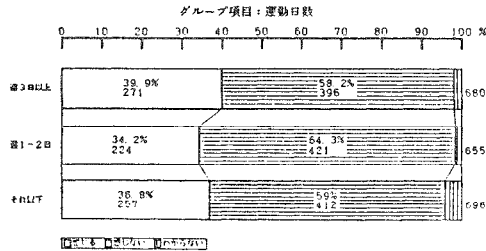


図56. この1年間にやったスポーツ

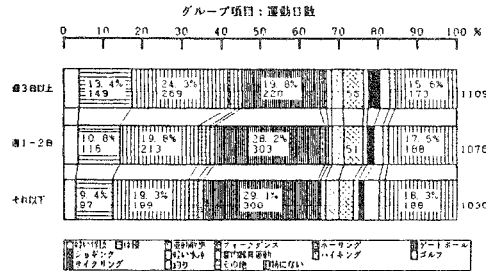


図58. Q23. 働いてない理由

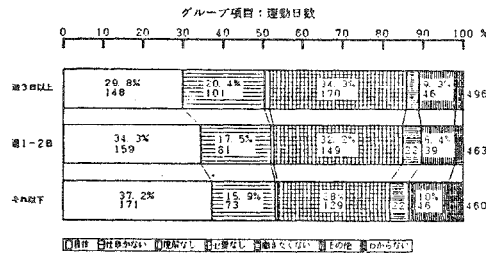
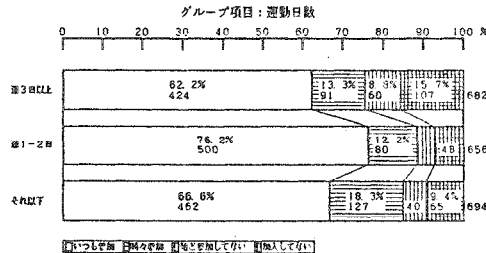


図60. Q25. 老人クラブ加入



身体的理由と仕事がないで5割であるが運動の実施の頻度が減るにつれ身体的理由が多くなる。仕事があれば働くかについては実施頻度が高くなるにつれ希望が高くなっている。

図53. Q9. 体力

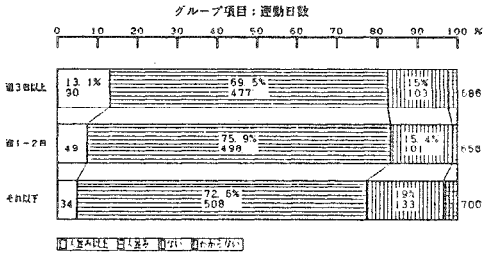


図55. スポーツをする理由

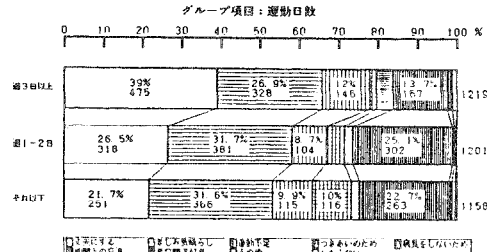


図57. Q23. 収入ある仕事に

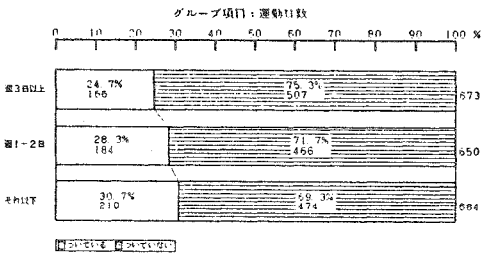


図59. Q23. 仕事あれば

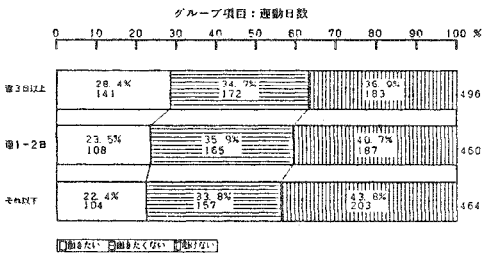
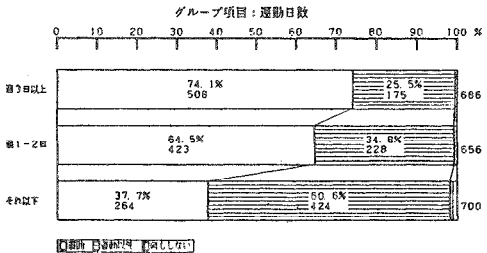


図61. 健康



3) 日頃健康のために特に何かしているかについて (図62から図74参照)

散歩や軽体操, ジョギングなど運動やスポーツに積極的に取り組んでいる運動グループは26.7%, それ以外の何等かの配慮をしている運動以外グループは70.2%, 特に何もしていない無配慮グループは3.1%である。ほとんどの人が何等かの配慮をしているがそれと身体の具合の関係は運動グループ73.2%, 運動以外グループ53.3%, 無配慮グループ56.9%であり, また体力の自己評価も同じ傾向である。無配慮グループが運動以外の配慮をしているグループより健康や体力について劣ってはいないということは, 運動以外グループの健康への配慮が健康であることにつながっているかどうかという判断以前に, 無配慮グループには特に留意しないでもいいほどに健康であるという人がいると解釈すべきであるかもしれない。また運動欲求について, 運動実施, その頻度については運動グループ, 運動以外グループ, 無配慮グループの順で肯定的な評価が少なくなっている。就労については有意な差はないが, 就労していない人の仕事があれば働きたいかに関しては同様な減少傾向にあり, 近所付き合いや老人クラブでの活動などでは運動グループが他のグループより積極的である。

生きがいについては何もしないグループで

は家族だんらんや子供や孫の成長など家族の関連項目の比率が高いのに対し運動以外や運動のグループになるにつれ家族の関係項目の減少や社会奉仕活動への参加での生きがいの増大がみられる。

4) 運動実施に関係することがら

この1年間の運動やスポーツの実施についてどの変数が一番影響をしているかということを知るために体力調査と同様に林の数量化2類を用いて多変量解析を試みた。外的変数として運動実施, 説明変数として性別, 年齢, 配偶者の有無, 市部郡部, 身体の具合, 病気, 就労, 近所付き合い, 老人クラブ加入の9項目を用いた。その結果男女別では両方とも老人クラブ加入が1位で身体の具合, 年齢, 近所付き合いと同じであった。また年齢別では60歳代, 70歳代, 80歳代いずれもが老人クラブの加入, 身体の具合, 性別, 近所付き合いであった。年齢別, 性別ともに同じ順位付になっていた(表2, 3参照)。これらからすれば高齢者については性別, 年齢別に上位2位の項目は変わらず, 次に性別, 年齢別があり近所付き合いと続いている。項目間の関連の強弱はあっても順位は変わらないという結果であるが, このことについては説明変数の選択の問題があり今後の分析課題である。

図62. Q 6. 身体具合

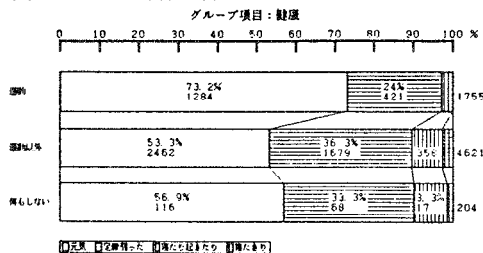


図63. Q 9. 体力

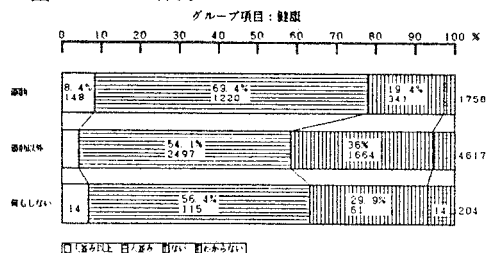


図64. Q10. 運動欲求

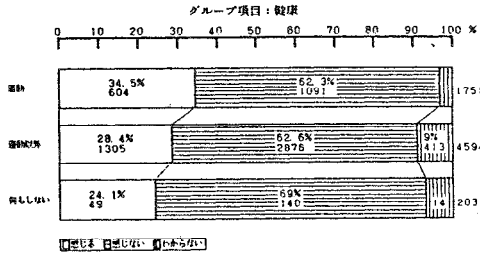


図65. 運動日数

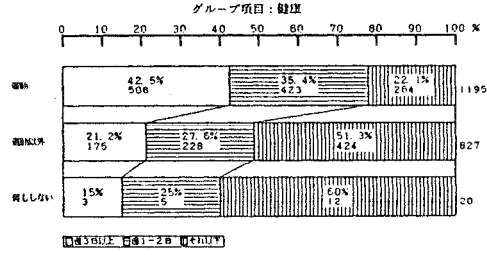


図66. この1年間にやったスポーツ

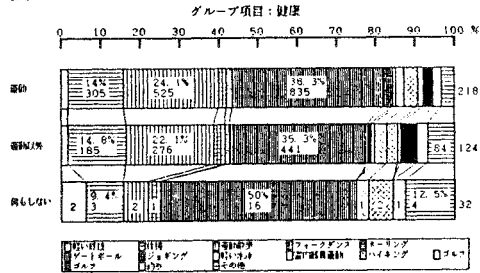


図67. スポーツをする理由

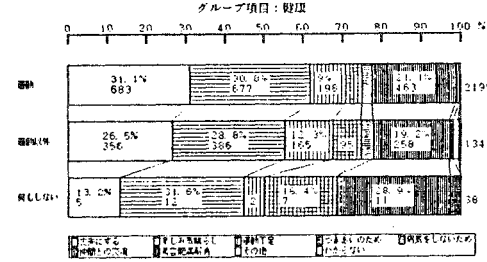


図68. Q23. 仕事あれば

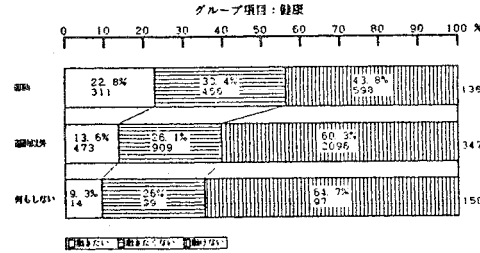


図69. Q23. 仕事をする理由

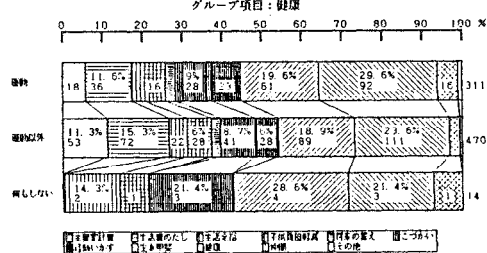


図71. Q23. 働いてない理由

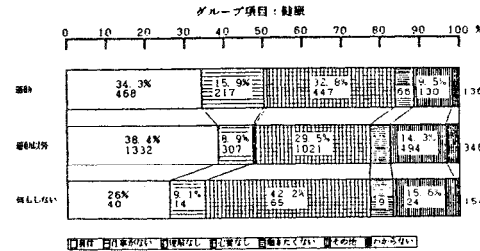


図72. Q25. 老人クラブ加入

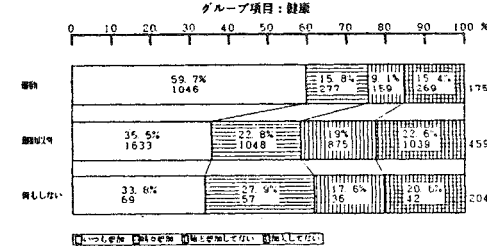


図73. 生きがいを感じる

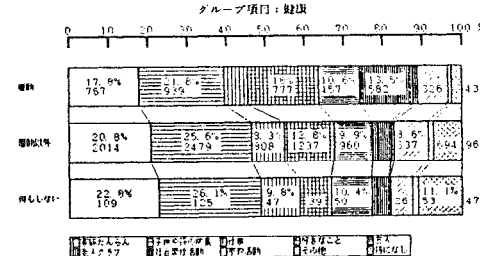


図74. Q24. 近所づきあい

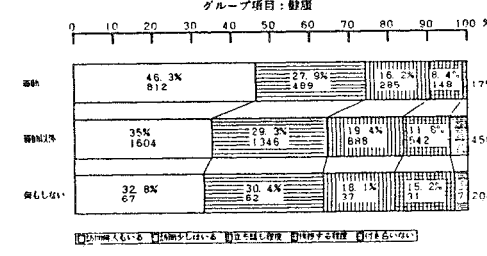


表2. 男性

外的基準: Q11. 運動実施

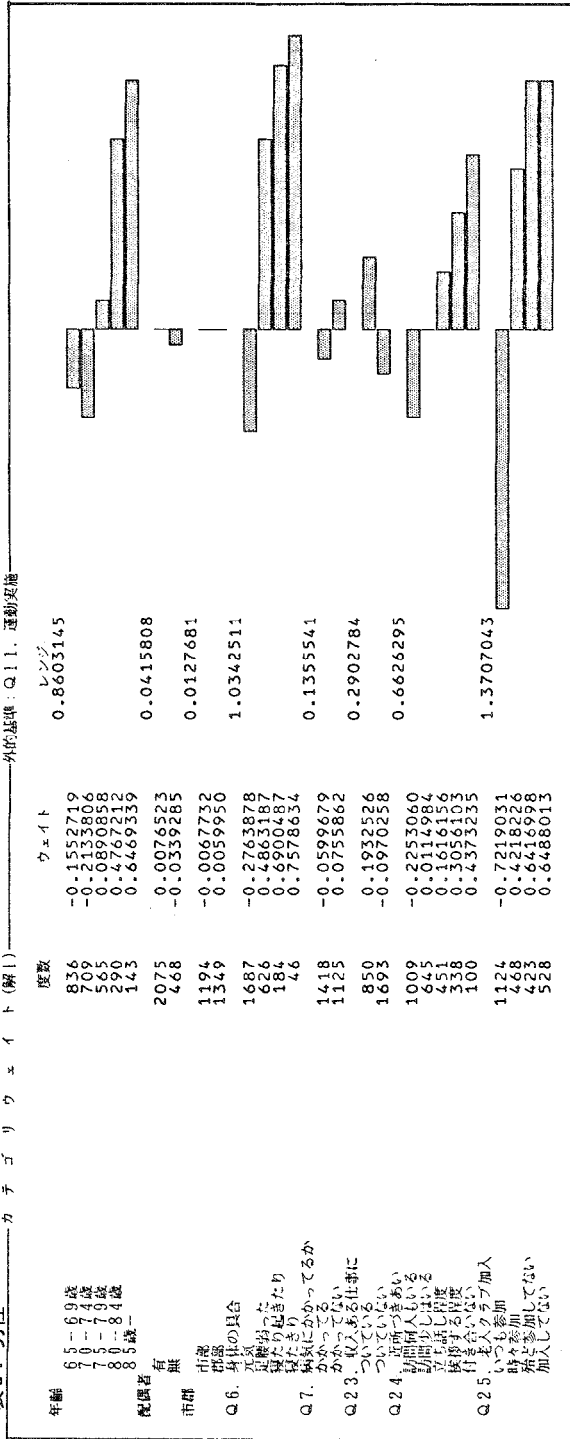
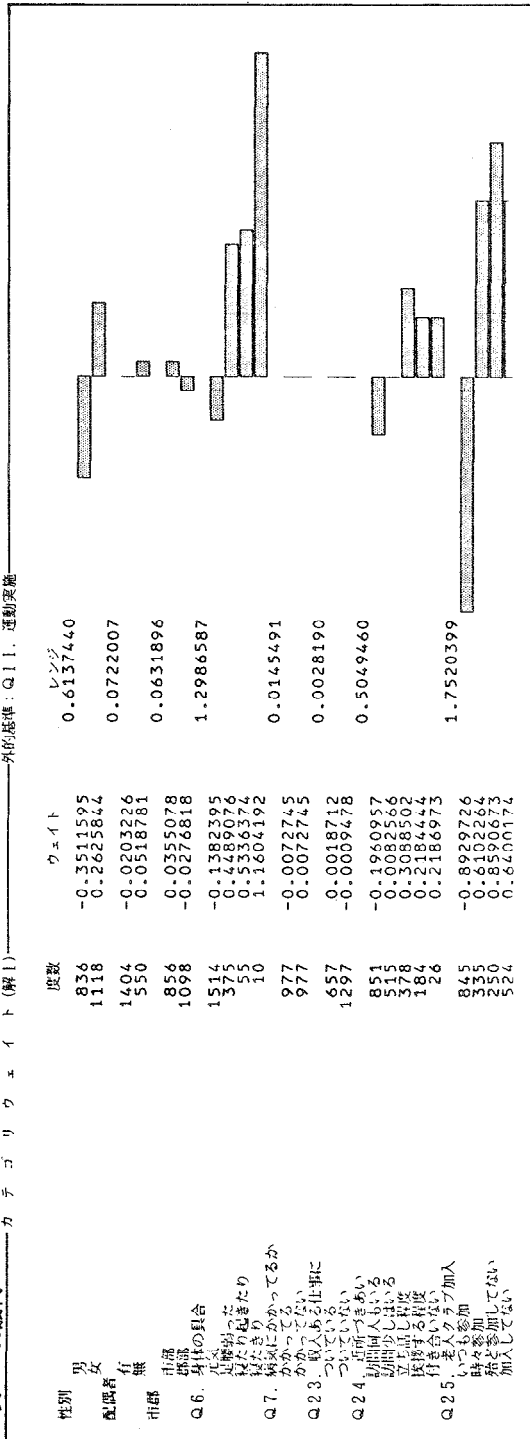


表3. 60歳代

外的基準: Q11. 運動実施



## 6. 結語と今後の課題

運動やスポーツの実施はそのひとのおかれた個人的社会的な条件に大きく左右される。身体的に不健康であれば運動やスポーツはしたくてもできないし、また指導者や仲間や施設用具、時間などと自分の能力などの条件にあった運動やスポーツの場がなければもちろんできない。また運動やスポーツは何等かの精神的身体的な活動を伴うものでありそれが健康につながり、新しい活動のエネルギーにもつながっていく。

同じように労働に関しても身体的に不健康であれば働きたくても働けないし、適切な労働の場がなければもちろん働けない。また働くことは何等かの精神的身体的な活動を伴うものでありそれが健康につながることもなる。労働に関しては数量化の結果からはあまりきいていない項目となったが、実際の生活を考えるともっと影響があつていいように思われる。これらに関しては変数の選択にも関連し今後の課題である。

高齢者といってもその殆どはしばらく前は現役の労働者であり、日本人の現在の生活観、労働観からしてもその人たちの生活は労働優先の生活であったと思われる。労働そのものの考え方は別にして、主たる労働から定年になりすぐ強制された余暇に埋没することにはかなり抵抗が大きいものと思われる。個人の体力と能力に応じた適切な職場があれば多くの人は働くであろう。それは金銭が適切に伴えばそれに越したことはないが、その程度が低くてもまた全くの無報酬であっても活動をもてあます強制的な余暇よりは充実できるであろうし、かえって金銭を離れることでより精神的な充実が期待できるかもしれない。

労働や仕事と運動やスポーツとは健康な身体と不可分に結び付いている。健康な状態にあることを前提にした場合、個人にとって労働や仕事と余暇生活の充実、身体的な運動のいずれを比重の大きいものとするであろうか。これについては、現役を離れたという意

識に伴い労働への比重が減っていくとする考え方と、健康である以上一生働き続けるとする考え方の間に、個人の労働観や人生観とも関わり多様な実態があるものと思われる。必要性と欲求充足の観点からすれば、労働の継続は経済的な必要性と大きく関わり、スポーツは必要性ばかりでなく欲求充足と関わってくる。スポーツや労働は労働以上に必要性があつても欲求充足がなければ継続は困難なものであり、基本的には欲求がなければ行動は起こりにくいものである。また欲求充足が満たされれば必要性としての健康維持にはある程度つながる可能性のあるものである。

ところでそれらの活動は個人の生きがいと大きく関わっている。生きていく張合いとしての労働と運動やスポーツの観点は非常に重要である。とにかく生きがいを失っては金銭であれ運動の楽しさであれ健康であれ全く問題にならない。なに1つ不自由のないと思われる高齢者の自殺問題などを考えると、そこには個人の人間としての存在、社会の中に必要として生かされている実感を意識づけるものが需要である。今回はこの生きがいの観点は余り十分に分析がなされなかったが、今後の重要な課題となろう。

日々の生活がその基本であるとするれば、その日常生活がいかにか充実しているかが大切な観点となる。同居別居を問わず家族との人間関係を基本に1日1日が充実して送れることが古くて新しい問題である。その中で生涯学習の中の余暇時間の過ごし方についての学習がこれからの高齢化社会を迎えるにあたっての生涯学習の大きな課題であるといえよう。

今回はこれら2つの調査結果から滋賀県の高齢者の生活の状態を概括したが、特にスポーツや運動、健康の問題での全国規模の先行調査研究データとの比較、他の年齢層との比較、他の文化との比較などをおこないながら、高齢者の日常生活の中でのスポーツ、運動の位置づけ、健康への意識や具体的行動の実態などを集約する必要がある。

なお今回の研究の内容はいずれもかなりの標本数のある貴重なデータであり、今後さらに深い分析が可能であり、また必要である。またそれらの調査は一方の体力健康の調査は全ての年齢層に対するものであり、高齢者そのものの運動やスポーツを取り扱ったもので

はなく、またもう一方の高齢者の生活調査は特に運動やスポーツに言及したものではない。今後は高齢者の生活の中での運動やスポーツに焦点を当てた社会調査が必要であると思われる。

	合計	F3：休暇の形態							F4：通勤（通学）	
		完全週休2日 制	その他週休2 日	週休1日半制	週休1日	週休制度なし	休日はない	その他	している	していない
合計	377 100%	13 3.4%	1.9 0.5%	2.1 0.6%	3.0 0.8%	3.4 0.9%	2.6 0.7%	2.5 0.7%	17.8 4.7%	258 68.4%
F1：性別										
男性	190 50.4%	10 5.3%	3.2 0.8%	4.9 1.3%	11.1 3.0%	11.6 3.1%	6.3 1.7%	10.5 2.8%	5.6 1.5%	104 28.1%
女性	186 49.3%	3 0.8%	0.5 0.1%	2 0.5%	4.8 1.3%	6.5 1.7%	7.5 2.0%	14.0 3.7%	5.9 1.6%	154 40.8%
F2：年齢										
60歳代	175 46.4%	13 3.4%	3.4 0.9%	8 2.1%	14.3 3.8%	20 5.3%	12 3.2%	8.9 2.4%	60 16.2%	100 26.6%
70歳以上	202 53.6%	-	0.5 0.1%	3 0.8%	2.5 0.7%	6.9 1.8%	14 3.7%	15.7 4.2%	7 1.9%	158 42.2%

	合計	F4S：通勤時間							F5：家庭の状況				
		-30	30-44	45-59	60-89	90-119	120-	わからない	未就学児童	小学生	中学生	高校生	いない
合計	377 100%	60 15.9%	1.5 0.4%	0.5 0.1%	1.4 0.4%	0.3 0.1%	-	5.0 1.3%	5.2 1.4%	7.5 2.0%	3.6 0.9%	3.0 0.8%	155 41.1%
F1：性別													
男性	190 50.4%	50 26.3%	2.1 0.5%	1.1 0.3%	2.4 0.6%	0.5 0.1%	-	3.7 1.0%	3.0 0.8%	3.8 1.0%	1.5 0.4%	1.2 0.3%	81 21.0%
女性	186 49.3%	10 5.4%	0.5 0.1%	-	-	-	-	5.1 1.3%	2.3 0.6%	3.7 1.0%	2.0 0.5%	2.7 0.7%	75 19.7%
F2：年齢													
60歳代	175 46.4%	50 28.6%	2.9 0.8%	1.1 0.3%	4 1.1%	0.6 0.2%	-	2.3 0.6%	40 11.1%	33 8.8%	5.1 1.4%	7 1.9%	81 21.5%
70歳以上	202 53.6%	10 5.0%	-	-	-	-	-	7.4 1.9%	13 3.4%	4.2 1.1%	1.7 0.4%	3.2 0.8%	85 22.5%

	合計	F6：ヒヤの程度					1：健康か			2：健康、体力への注意	
		全くなし	ないほう	あるほう	ありすぎる	おおいに	まあ	あまり	つねに	ときどき	あまり（全然）
合計	377 100%	4.2 1.1%	24.7 6.5%	18.6 4.9%	7.9 2.1%	4.0 1.1%	26.3 7.0%	19.4 5.1%	7.3 1.9%	2.6 0.7%	2.2 0.6%
F1：性別											
男性	190 50.4%	1.0 0.5%	4.5 2.3%	9.9 5.2%	3.4 1.7%	2.3 1.2%	13.4 7.0%	17.3 10.1%	3.3 1.4%	1.4 0.4%	1.0 0.3%
女性	186 49.3%	3.2 1.7%	25.8 13.9%	8.7 4.6%	4.4 2.3%	1.7 0.9%	12.8 6.8%	21.5 11.5%	4.0 2.1%	1.2 0.3%	1.2 0.3%
F2：年齢											
60歳代	175 46.4%	1.2 0.7%	37.1 21.2%	8.2 4.6%	1.6 0.9%	2.1 1.2%	12.8 7.3%	14.9 8.5%	2.5 1.4%	9.7 5.5%	1.2 0.3%
70歳以上	202 53.6%	2.0 1.0%	28.3 13.9%	10.4 5.1%	6.3 3.1%	1.9 0.9%	13.5 6.6%	23.3 11.8%	4.7 2.3%	1.2 0.3%	1.0 0.3%



合計	2S：健康への心掛け						3：体力評価					
	栄養・食事	睡眠・休養	体操・運動	規則的生活	その他	とくになし	わからない	人並み以上	人並み	人並み以下	わからない	
合計	37.7 10.0%	10.1 26.8%	4.6 12.2%	6.8 18.0%	1.6 4.3%	1.9 5.0%	1.3 3.5%	7.4 19.5%	2.3 6.1%	9.3 24.7%	3.6 9.5%	
F1：性別												
男性	19.0 50.4%	5.2 13.5%	3.1 8.1%	3.7 9.5%	1.3 3.4%	2.1 5.6%	1.6 4.3%	11.1 29.1%	4.3 11.4%	17.9 47.2%	5.1 13.5%	
女性	18.6 49.3%	7.6 19.5%	1.5 3.9%	3.1 8.1%	1.6 4.3%	2.4 6.3%	1.1 2.8%	3.7 9.5%	4.0 10.5%	15.8 41.4%	2.5 6.4%	
F2：年齢												
60歳代	17.5 46.4%	7.4 19.5%	1.7 4.5%	2.6 6.8%	0.6 1.6%	2.4 6.3%	1.1 2.8%	6.3 16.7%	1.3 3.4%	3.6 9.5%	1.2 3.1%	
70歳以上	20.2 53.6%	5.4 14.3%	2.9 7.7%	4.2 11.1%	2.5 6.6%	1.5 3.9%	2.0 5.3%	8.4 22.3%	1.0 2.6%	5.7 15.1%	2.4 6.3%	

合計	3S：体力自信			4：疲れを感じること			4S：眠れば疲れはとれるか			5：運動の必要感		
	あり	なし	どちらともいえない	よくある	ときどき	ない	とれる	とれない	どちらともいえない	感じる	感じない	わからない
合計	10.7 28.4%	24.1 63.9%	32.4 86.7%	5.9 15.6%	6.8 18.1%	5.1 13.5%	4.7 12.5%	1.8 4.8%	6.0 16.2%	1.7 4.5%	1.4 3.7%	3.2 8.5%
F1：性別												
男性	7.3 18.4%	22.1 58.1%	30.5 80.5%	2.3 6.1%	2.8 7.4%	3.3 8.7%	1.0 2.6%	3.2 8.4%	2.5 6.6%	4.5 11.9%	1.3 3.4%	1.3 3.4%
女性	18.6 49.3%	3.4 8.9%	6.4 17.1%	3.6 9.5%	4.0 10.5%	1.8 4.7%	7.6 20.0%	3.5 9.2%	3.5 9.2%	6.2 16.4%	1.0 2.6%	1.9 4.9%
F2：年齢												
60歳代	5.6 14.3%	24.0 62.1%	33.1 87.2%	1.8 4.7%	2.9 7.7%	2.4 6.3%	5.6 14.8%	2.9 7.7%	1.6 4.2%	3.7 9.7%	1.7 4.5%	0.8 2.1%
70歳以上	25.2 66.7%	24.3 64.3%	31.7 84.3%	4.1 10.8%	3.9 10.3%	2.7 7.2%	8.1 21.6%	3.1 8.1%	7.0 18.7%	5.8 15.5%	1.8 4.7%	2.4 6.3%

合計	6：体カテスト		6S：体カテスト希望	
	受けた	受けたい	受けた	受けたくない
合計	3.7 9.8%	36.3 96.3%	10.1 26.8%	25.9 68.7%
F1：性別				
男性	1.1 2.8%	18.4 49.3%	6.7 17.8%	11.5 30.7%
女性	1.2 3.2%	17.8 47.2%	3.4 9.1%	14.3 38.1%
F2：年齢				
60歳代	1.7 4.5%	17.0 45.1%	6.5 17.3%	10.6 28.2%
70歳以上	2.0 5.3%	19.2 51.0%	3.6 9.5%	15.2 40.3%

合計	7: 運動 スポーツ経験タイプ										1年間のスポーツ実施		
											実施した	実施しなかつた	
合計	377 100%	12 3.2%	9 2.4%	7 1.9%	16 4.2%	25 6.6%	25 6.6%	77 20.4%	8 2.1%	9 2.4%	117 31.0%	255 67.6%	118 31.3%
F1: 性別													
男性	190 50.4%	9 4.7%	6 3.2%	5 2.6%	10 5.3%	12 6.3%	12 6.3%	43 22.6%	3 1.6%	6 3.2%	45 23.7%	150 78.9%	40 21.1%
女性	186 49.3%	3 1.6%	3 1.6%	2 1.1%	6 3.2%	13 7.0%	13 7.0%	34 18.3%	5 2.7%	3 1.6%	71 38.2%	104 55.9%	78 41.9%
F2: 年齢													
60歳代	175 46.4%	6 3.4%	7 4.0%	3 1.7%	11 6.3%	8 4.6%	8 4.6%	47 26.9%	3 1.7%	3 1.7%	38 21.7%	132 75.4%	43 24.6%
70歳以上	202 53.6%	6 3.0%	2 1.0%	4 2.0%	5 2.5%	17 8.4%	17 8.4%	30 14.9%	5 2.5%	6 3.0%	78 39.1%	123 60.9%	75 37.1%

8：この1年間にやったスポーツ

合計	8：この1年間にやったスポーツ											
	軽い球技	体操	あるけあるけ運動	フックダンス	ボーリング	ゲートボール	ランニング	軽い水泳	室内運動器具運動	その他軽スポーツ	スキー	海水浴
合計	377 100%	26.99%	25.59%	4.88%	4.77%	34.29%	2.71%	1.66%	3.22%	2.12%	0.52%	0.83%
F1：性別												
男性	190 50.4%	49.49%	28.99%	3.77%	6.33%	41.66%	4.28%	2.65%	5.10%	1.83%	-	0.51%
女性	186 49.3%	49.49%	22.0%	5.11%	2.75%	26.33%	1.12%	0.51%	1.12%	1.63%	1.22%	1.12%
F2：年齢												
60歳代	175 46.4%	39.4%	26.9%	6.33%	8.6%	26.9%	4.07%	2.9%	5.1%	4.6%	1.12%	1.73%
70歳以上	202 53.6%	30.9%	24.3%	3.57%	1.02%	40.9%	1.53%	0.51%	1.53%	6.4%	-	-

8：この1年間にやったスポーツ

合計	8：この1年間にやったスポーツ											
	スケート	登山	キャンプ	ハイキング	オリエンテーリング	ボート・ヨット	ゴルフ	サイクリング	釣り	非競技的野外スポーツ	陸上競技	水泳競技
合計	377 100%	2.10%	0.5%	2.4%	0.5%	-	2.1%	1.9%	9.8%	3.75%	0.5%	-
F1：性別												
男性	190 50.4%	4.2%	1.1%	4.2%	-	-	4.2%	1.6%	18.9%	3.63%	1.6%	-
女性	186 49.3%	1.1%	-	0.5%	1.1%	-	-	2.2%	0.5%	1.1%	-	-
F2：年齢												
60歳代	175 46.4%	4.6%	1.1%	4.0%	0.6%	-	4.0%	4.0%	10.9%	1.7%	-	-
70歳以上	202 53.6%	1.0%	-	1.0%	0.5%	-	0.5%	-	8.9%	1.0%	1.0%	-

8：この1年間にやったスポーツ

合計	8：この1年間にやったスポーツ										
	柔道、剣道	相撲	空手、ボクシング、レスリング	弓道、洋弓	野球	ソフトボール	バレーボール	テニス	卓球	その他の球技スポーツ	その他の球技スポーツ
合計	377 100%	-	-	-	-	2.4%	0.5%	0.3%	0.5%	0.3%	0.3%
F1：性別											
男性	190 50.4%	-	-	-	-	4.2%	0.5%	0.5%	0.5%	1.1%	0.5%
女性	186 49.3%	-	-	-	-	0.5%	0.5%	-	0.5%	-	-
F2：年齢											
60歳代	175 46.4%	-	-	-	-	4.6%	1.1%	-	1.1%	2.2%	1.1%
70歳以上	202 53.6%	0.5%	-	-	-	0.5%	-	0.5%	-	-	-

	8S:スポーツ実施日数			
	週3日以上	週1-3日	月1-3日	3月に1-2日
合計	377 100%	37 16.2%	61 13.0%	49 9.0%
F1:性別				
男性	190 50.4%	42 22.1%	24 12.6%	20 10.5%
女性	186 49.3%	19 10.2%	24 12.8%	20 10.8%
F2:年齢				
60歳代	175 46.4%	11 6.3%	27 18.9%	33 13.1%
70歳以上	202 53.6%	26 12.9%	34 7.8%	16 9.4%

	8S:スポーツをする理由												
	運動不足 トレス感	健康 維持	体力維持	美容・肥満解消	友人との交流	他人に勧められた	よい施設・指導者	生活が豊かに 楽しく	能力・技術の 向上	技術を 活かすこと が好き	人間形成・精神 力	精 神 を 癒 す た い	毎日一定の運 動をした
合計	377 100%	95 25.2%	154 40.8%	21 5.6%	115 30.5%	20 5.3%	6 1.6%	51 13.5%	17 4.5%	61 16.2%	23 6.1%	22 5.8%	35 9.3%
F1:性別													
男性	190 50.4%	54 28.4%	94 49.5%	6 3.2%	65 34.2%	11 5.8%	2 1.1%	29 15.3%	12 6.3%	35 18.4%	17 8.9%	12 6.3%	21 11.1%
女性	186 49.3%	41 22.0%	60 32.3%	15 8.1%	49 26.3%	9 4.8%	4 2.2%	21 11.3%	5 2.7%	26 14.0%	5 2.7%	9 4.8%	14 7.5%
F2:年齢													
60歳代	175 46.4%	64 36.6%	76 43.4%	14 8.0%	59 33.7%	9 5.1%	4 2.3%	30 17.1%	8 4.6%	29 16.6%	8 4.6%	11 6.3%	12 6.9%
70歳以上	202 53.6%	31 15.3%	78 38.6%	7 3.5%	56 27.7%	11 5.4%	2 1.0%	21 10.4%	9 4.5%	32 15.8%	15 7.4%	11 5.4%	23 11.4%

	8S:スポーツをする理由	
	家族との触れ あい	その他 わからない
合計	377 100%	15 4.0%
F1:性別		
男性	190 50.4%	11 4.2%
女性	186 49.3%	4 1.6%
F2:年齢		
60歳代	175 46.4%	8 4.6%
70歳以上	202 53.6%	7 3.5%

		8 S : スポーツをしない理由										
合計		疲れる	練習が厳しい	会社が忙しい	家庭が忙しい	軽動のため	仲間がいない	指導者がいない	施設場所がない	病気が	おっくう	金がかかる
合計	377 100%	14.1%	1.1%	4.1%	5.1%	-	4.8%	1.1%	1.3%	6.1%	2.7%	0.5%
F1 : 性別	190 50.4%	9.3%	1.6%	5.3%	1.6%	-	5.8%	1.6%	1.1%	6.3%	2.1%	0.5%
男性	186 49.3%	18.8%	0.5%	2.7%	8.6%	-	3.8%	0.5%	1.6%	5.9%	9.1%	0.5%
女性	175 46.4%	10.3%	1.1%	6.3%	8.0%	-	6.3%	1.1%	-	4.6%	2.9%	0.6%
F2 : 年齢	202 53.6%	17.3%	1.0%	2.0%	2.5%	-	3.5%	1.0%	2.5%	7.4%	1.5%	0.5%
60歳代	175 46.4%	10.3%	1.1%	6.3%	8.0%	-	6.3%	1.1%	-	4.6%	2.9%	0.6%
70歳以上	202 53.6%	17.3%	1.0%	2.0%	2.5%	-	3.5%	1.0%	2.5%	7.4%	1.5%	0.5%

		8 S : スポーツをしない理由						
合計		ほかの趣味	嫌いだから	仕事・勉強に差し支え	指図されるのがいや	その他	特に理由なし	する必要を感じない
合計	377 100%	5.0%	2.1%	0.8%	0.8%	1.6%	8.0%	3.2%
F1 : 性別	190 50.4%	5.3%	1.1%	1.1%	1.6%	1.6%	4.7%	3.2%
男性	186 49.3%	4.8%	3.2%	0.5%	-	3.6%	1.3%	3.2%
女性	175 46.4%	4.6%	1.1%	1.1%	0.6%	0.6%	7.4%	1.7%
F2 : 年齢	202 53.6%	5.4%	3.0%	0.5%	1.0%	2.5%	8.4%	4.5%
60歳代	175 46.4%	4.6%	1.1%	1.1%	0.6%	0.6%	7.4%	1.7%
70歳以上	202 53.6%	5.4%	3.0%	0.5%	1.0%	2.5%	8.4%	4.5%

合計	9：今後やってみたいスポーツ											
	軽い球技	体操	走る/あるけ運動	フュークダグ	ボーリング	ゲートボール	ランニング	軽い水泳	室内運動器具	その他軽スポーツ	スキー	海水浴
合計	37.7 10.0%	24.1 9.1%	35.0 9.2%	5.8 1.5%	5.2 1.4%	3.9 1.0%	2.9 0.8%	3.4 0.9%	5.0 1.3%	5.3 1.4%	0.3 0.8%	1.4 0.4%
F1：性別	男性	2.4 5.0%	7.0 18.8%	5.3 14.4%	7.4 19.7%	4.1 10.8%	4.7 12.5%	3.7 9.7%	7.4 19.7%	6.8 18.1%	0.5 1.3%	1.3 3.4%
	女性	3.8 9.8%	4.2 11.1%	6.2 16.3%	3.2 8.4%	3.1 8.1%	1.9 5.0%	3.2 8.4%	4.4 11.7%	3.8 10.0%	0.5 1.3%	1.6 4.2%
F2：年齢	60歳代	2.4 6.4%	6.1 16.2%	7.6 20.0%	1.3 3.4%	1.3 3.4%	3.0 8.0%	5.1 13.5%	9.9 26.5%	8.8 23.4%	0.6 1.6%	2.2 5.8%
	70歳以上	3.7 9.8%	3.0 7.8%	5.6 14.8%	4.9 13.0%	4.2 11.1%	2.5 6.6%	2.0 5.3%	5.0 13.2%	5.9 15.7%	0.6 1.6%	2.2 5.8%

合計	9：今後やってみたいスポーツ											
	スケート	登山	キャンプ	ハイキング	オリエンテーリング	ボート、ヨット	ゴルフ	サイクリング	釣り	非競技的野外スポーツ	陸上競技	水泳競技
合計	37.7 10.0%	1.3 3.5%	1.5 4.0%	0.5 1.3%	0.2 0.5%	0.2 0.5%	1.6 4.3%	0.8 2.1%	3.7 9.8%	1.4 3.7%	0.3 0.8%	0.3 0.8%
F1：性別	男性	0.3 0.8%	1.3 3.4%	1.1 2.9%	0.5 1.3%	0.2 0.5%	2.6 6.9%	0.5 1.3%	7.4 19.7%	1.4 3.7%	0.5 1.3%	0.3 0.8%
	女性	0.5 1.3%	1.1 2.9%	0.2 0.5%	0.5 1.3%	0.2 0.5%	0.5 1.3%	1.1 2.9%	0.2 0.5%	0.2 0.5%	0.3 0.8%	0.3 0.8%
F2：年齢	60歳代	0.6 1.6%	2.3 6.1%	4.4 11.7%	0.6 1.6%	0.2 0.5%	2.9 7.7%	1.7 4.5%	3.4 9.0%	6.6 17.5%	0.2 0.5%	0.3 0.8%
	70歳以上	0.2 0.5%	0.5 1.3%	0.5 1.3%	0.5 1.3%	0.2 0.5%	0.5 1.3%	0.2 0.5%	4.0 10.6%	1.2 3.2%	0.3 0.8%	0.3 0.8%

合計	9：今後やってみたいスポーツ										
	柔道、剣道	相撲	空手、ボクシング、格闘技	弓道、洋弓	野球	ソフトボール	バレーボール	テニス	卓球	その他の球技	その他の競技スポーツ
合計	37.7 10.0%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%
F1：性別	男性	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%
	女性	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%
F2：年齢	60歳代	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%
	70歳以上	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%	0.3 0.8%

	9：やっぴみたいスポーツ											
	合計	壁い球技	体操	あるけあるけ運動	フックダンス	ボウリング	ゲートボール	ランニング	軽い水泳	室内運動器具運動	その他球スポーツ	スキー
合計	377 100%	0.3%	0.3%	0.3%	—	—	2.7%	1.1%	0.8%	1.9%	0.5%	2.0%
F1：性別												
男性	190 50.4%	0.5%	0.5%	—	—	—	2.6%	1.6%	1.1%	3.2%	1.1%	0.5%
女性	186 49.3%	—	—	0.5%	—	—	2.7%	0.5%	2.2%	0.5%	—	0.5%
F2：年齢												
60歳代	175 46.4%	0.6%	0.6%	0.6%	—	—	3.4%	0.6%	2.9%	4.0%	—	1.1%
70歳以上	202 53.6%	—	—	—	—	—	2.0%	1.5%	—	—	1.0%	—

	9：やっぴみたいスポーツ												
	合計	スケート	登山	キャンプ	ハイキング	オリエンテーリング	ボート、ヨット	ゴルフ	サイクリング	釣り	非競技的野外スポーツ	陸上競技	水泳競技
合計	377 100%	1.4%	1.3%	0.5%	1.6%	0.5%	0.5%	4.5%	2.1%	4.5%	—	0.8%	0.3%
F1：性別													
男性	190 50.4%	1.1%	2.1%	0.5%	2.1%	—	—	6.3%	2.1%	7.4%	—	1.1%	0.5%
女性	186 49.3%	1.1%	0.5%	0.5%	1.1%	1.1%	1.1%	2.7%	2.2%	1.6%	—	0.5%	—
F2：年齢													
60歳代	175 46.4%	1.7%	1.1%	0.6%	2.3%	—	0.6%	6.9%	2.9%	6.3%	—	0.6%	—
70歳以上	202 53.6%	0.5%	1.5%	0.5%	1.0%	1.0%	0.5%	2.5%	1.5%	3.0%	—	1.0%	0.5%

	9：やっぴみたいスポーツ											
	合計	柔道、剣道	相撲	空手、ボクシング、格闘技	弓道、洋弓	野球	ソフトボール	バレーボール	テニス	卓球	その他の球技	その他
合計	377 100%	—	—	0.5%	—	0.8%	0.8%	1.9%	3.2%	1.1%	2.1%	0.3%
F1：性別												
男性	190 50.4%	—	—	0.5%	—	—	1.1%	2.1%	3.2%	1.6%	2.6%	0.5%
女性	186 49.3%	—	—	0.5%	—	1.6%	0.5%	1.6%	3.2%	0.5%	1.6%	—
F2：年齢												
60歳代	175 46.4%	—	—	1.1%	—	0.6%	1.7%	1.1%	1.7%	1.1%	2.3%	—
70歳以上	202 53.6%	—	—	—	—	1.0%	—	2.5%	4.5%	1.0%	2.0%	0.5%

	合計	10:体育の授業は役立ったか		
		大変	ある程度	あまり
合計	377 100%	3.9 10.3%	12.6 33.4%	7.8 20.7%
F1:性別	男性	1.9 50.4%	7.9 41.5%	4.5 23.7%
	女性	1.8 49.3%	4.7 25.3%	3.3 17.7%
F2:年齢	60歳代	1.7 46.4%	5.8 38.3%	4.5 25.7%
	70歳以上	2.2 53.6%	3.8 28.7%	3.3 16.3%

	合計	10S:体育の役立ち方									
		技術	ルール	健康・体力	スポーツの楽しさ	精神力	指導力	協力	人間関係	わからない	
合計	377 100%	5.4 14.3%	3.1 21.5%	6.7 17.8%	6.4 17.0%	9.9 26.5%	2.4 6.4%	3.7 9.8%	5.0 13.3%	2.6 6.9%	
F1:性別	男性	1.9 50.4%	3.0 25.3%	4.9 24.2%	3.6 18.9%	4.7 24.7%	3.2 15.8%	2.0 9.7%	3.0 15.8%	1.9 4.7%	
	女性	1.8 49.3%	2.4 17.2%	2.1 11.3%	3.1 16.7%	1.7 9.1%	1.6 7.8%	1.7 9.1%	2.0 10.8%	1.7 4.7%	
F2:年齢	60歳代	1.7 46.4%	3.0 23.4%	4.1 19.4%	4.4 25.1%	3.3 18.9%	1.7 7.8%	3.0 15.8%	2.6 14.6%	1.9 5.1%	
	70歳以上	2.2 53.6%	2.4 19.3%	3.3 15.3%	2.3 11.4%	3.1 15.3%	3.0 15.3%	1.7 8.4%	2.4 11.9%	1.7 4.4%	

	合計	11:クラブ経験は役立ったか		
		大変	ある程度	あまり
合計	377 100%	4.6 12.2%	10.8 28.6%	4.0 13.0%
F1:性別	男性	1.9 50.4%	5.5 34.2%	2.7 14.2%
	女性	1.8 49.3%	4.3 23.1%	2.2 11.8%
F2:年齢	60歳代	1.7 46.4%	6.8 38.9%	2.9 16.6%
	70歳以上	2.2 53.6%	4.0 19.3%	2.0 9.9%



	11.S: クラブ活動の役立ち方										12: スポーツ行事情報	
	合計	技術	ルール	スポーツの楽しさ	精神力	指導力	協力	人間関係	わからない	健康、体力	知っている	知らない
合計	377 100%	51 13.5%	72 19.1%	64 17.0%	61 16.2%	13 3.4%	41 10.9%	44 11.7%	24 6.4%	53 16.7%	322 85.4%	40 10.6%
F1: 性別												
男性	190 50.4%	31 16.3%	45 23.7%	36 18.9%	43 22.6%	9 4.7%	24 12.6%	26 13.7%	10 5.3%	45 23.7%	169 88.9%	15 7.9%
女性	186 49.3%	20 10.8%	27 14.3%	28 15.1%	18 9.7%	4 2.2%	17 9.1%	18 9.7%	14 7.5%	8 4.3%	152 81.7%	25 13.4%
F2: 年齢												
60歳代	175 46.4%	30 17.1%	45 25.7%	39 22.3%	32 18.3%	4 2.3%	23 13.1%	19 10.9%	7 4.0%	34 19.4%	156 89.1%	13 7.4%
70歳以上	202 53.6%	21 10.4%	27 13.4%	25 12.4%	28 13.5%	9 4.5%	18 8.9%	25 12.4%	17 8.4%	29 14.4%	166 82.2%	27 13.4%

対象ケース 377

	12.S: スポーツ行事参加										13.S: 参加しない行事			
	合計	参加した	参加しなかった	見物だけ	参加したい	したくない	わからない	競技会	レクリエーション	テスト	トレーニング	野外活動	その他	
合計	377 100%	179 47.5%	80 21.2%	73 19.4%	191 50.9%	100 26.5%	54 14.3%	47 12.5%	121 32.1%	8 2.1%	25 6.6%	19 5.0%	10 2.7%	
F1: 性別														
男性	190 50.4%	99 52.1%	38 20.0%	33 17.4%	133 69.5%	42 22.1%	21 11.1%	32 16.8%	64 33.7%	6 3.2%	16 8.4%	11 5.8%	4 2.1%	
女性	186 49.3%	70 42.5%	42 22.6%	40 21.5%	78 41.9%	58 31.2%	32 17.2%	15 8.1%	56 30.7%	2 1.1%	9 4.8%	8 4.3%	5 2.7%	
F2: 年齢														
60歳代	175 46.4%	95 54.3%	34 19.4%	32 18.3%	103 58.9%	78 44.6%	24 13.7%	25 14.5%	69 39.4%	3 1.7%	10 5.1%	9 4.6%	3 1.7%	
70歳以上	202 53.6%	84 41.6%	46 22.8%	41 20.3%	88 43.6%	62 30.7%	30 14.9%	22 10.9%	52 25.7%	5 2.5%	15 7.4%	10 5.0%	7 3.5%	

対象ケース 377

	14: 職場のスポーツ行事				14.S: 今後の職場のスポーツ行事参加				15: スポーツ参加				16: 今後のスポーツ観望参加	
	合計	参加した	しない	見物だけ	勤めてない	したい	したくない	わからない	参加した	参加してない	したい	したくない	わかからない	わかからない
合計	377 100%	76 20.2%	55 14.6%	19 5.0%	161 42.7%	97 25.7%	88 23.3%	33 8.8%	47 12.5%	289 76.7%	117 31.0%	155 41.1%	74 19.6%	74 19.6%
F1: 性別														
男性	190 50.4%	47 24.7%	36 18.9%	13 6.8%	62 32.6%	62 32.6%	46 24.2%	16 8.4%	25 13.2%	147 77.4%	68 35.8%	70 36.8%	36 18.9%	36 18.9%
女性	186 49.3%	29 15.6%	19 10.2%	6 3.2%	99 53.2%	34 18.3%	42 22.6%	17 9.1%	22 11.8%	142 76.3%	49 26.3%	84 45.2%	38 20.4%	38 20.4%
F2: 年齢														
60歳代	175 46.4%	45 25.7%	37 21.1%	3 1.7%	64 36.6%	59 33.7%	16 9.1%	22 12.6%	29 16.6%	135 77.1%	65 37.1%	61 34.9%	39 22.3%	39 22.3%
70歳以上	202 53.6%	31 15.3%	18 8.9%	13 6.4%	97 48.0%	38 18.8%	17 8.4%	15 7.4%	18 8.9%	154 76.2%	52 25.7%	94 46.5%	35 17.3%	35 17.3%

合計	合計	参加したいスポーツ教室内容				17:クラブ同好会の加入			17S:クラブの内容			
		知識や技能を高める	仲間と楽しむ	健康づくり	その他	はい	いいえ	競技志向	競技+楽しむ	競技+楽しむ	楽しむ+競技	その他
合計	377 100%	12 3.2%	74 19.6%	56 14.9%	9 2.4%	112 29.7%	246 66.0%	11 2.9%	39 10.3%	67 17.8%	6 1.6%	
F1:性別	男性	3.7%	38 20.0%	35 18.4%	3.6 3.2%	65 34.2%	115 62.1%	6 3.2%	22 11.6%	27 19.3%	6 3.2%	
	女性	2.7%	36 19.4%	21 11.3%	3 1.6%	46 24.7%	130 69.9%	5 2.7%	17 9.1%	29 15.6%	-	
F2:年齢	60歳代	4.0%	37 21.1%	34 19.4%	4 2.3%	55 31.4%	116 66.3%	6 3.4%	20 11.4%	31 17.7%	3 1.7%	
	70歳以上	2.5%	37 18.3%	22 10.9%	5 2.5%	57 28.2%	133 65.8%	5 2.5%	19 9.4%	36 17.8%	3 1.5%	

	合計	J7S：クラブの運動種目											
		体探	あるけあるけ運動	フュークダグ	ボウリング	ゲートボール	ランニング	スキー	水泳	スケート	登山	キャンプ	ハイキング
合計	377 100%	0.8%	1.6%	2.4%	-	7.4%	-	0.3%	0.3%	-	-	-	-
F1：性別	男性	1.1%	2.1%	4.4%	-	4.2%	-	-	0.5%	-	-	-	-
女性	1.86%	1.1%	2.7%	5.5%	-	3.1%	-	-	-	-	-	-	-
F2：年齢	60歳代	0.6%	2.3%	4.0%	-	2.7%	-	-	0.6%	-	-	-	-
70歳以上	2.02%	1.0%	2.0%	1.0%	-	4.7%	-	-	-	-	-	-	-

	合計	J7S：クラブの運動種目												
		オリエンテーリング	ポート	ボート、ヨット	ゴルフ	サイクリング	釣り	陸上競技	柔道、剣道	相撲	空手、ボクシング	レスリング	弓道、洋弓	野球
合計	377 100%	-	-	-	0.5%	0.3%	0.2%	0.3%	-	0.3%	-	-	0.3%	0.8%
F1：性別	男性	-	-	-	1.1%	-	1.1%	-	-	0.5%	-	-	-	1.1%
女性	1.86%	-	-	-	-	0.5%	-	-	-	-	-	-	-	0.5%
F2：年齢	60歳代	-	-	-	1.1%	0.6%	-	-	-	-	-	-	0.6%	1.1%
70歳以上	2.02%	-	-	-	-	-	2.0%	0.5%	-	0.5%	-	-	-	0.5%

	合計	J7S：クラブの運動種目				
		ソフトボール	フットボール	テニス	卓球	その他
合計	377 100%	0.8%	1.3%	1.1%	0.8%	2.4%
F1：性別	男性	1.6%	0.5%	1.6%	0.5%	4.2%
女性	1.86%	-	2.2%	0.5%	1.2%	0.5%
F2：年齢	60歳代	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	4.0%
70歳以上	2.02%	0.5%	1.5%	1.0%	0.5%	1.0%

対象ケース 377

17S：入会動機

	合計		17S：入会動機								
	継続可能	場所の利用	施設用具	指導者	和室	好きだから	体力増強	技術修得	その他	特になし	
合計	377 100%	12 3.2%	16 4.2%	16 4.2%	4.2%	8.2 21.8%	4.6 12.2%	6.1 16.2%	1.7 4.5%	6 1.6%	3 0.8%
F1：性別	190 50.4%	23 6.0%	9 2.3%	9 2.3%	3.7 9.5%	4.9 12.8%	2.8 7.4%	3.3 8.7%	9 23.3%	6 15.7%	1 0.3%
男性	186 49.3%	14 3.6%	6 1.6%	6 1.6%	4.8 12.5%	3.2 8.3%	1.8 4.8%	2.8 7.4%	8 21.0%	—	2 0.5%
女性	175 46.4%	22 6.1%	7 2.0%	7 2.0%	1.2 3.2%	3.5 9.3%	2.1 5.6%	3.4 9.1%	1.0 2.7%	4 10.7%	2 0.5%
F2：年齢	202 53.6%	15 4.0%	4 1.1%	4 1.1%	2.4 6.4%	3.7 9.8%	2.5 6.6%	2.7 7.2%	7 18.6%	2 0.5%	1 0.3%
60歳以上	175 46.4%	22 6.1%	7 2.0%	7 2.0%	1.2 3.2%	3.5 9.3%	2.1 5.6%	3.4 9.1%	1.0 2.7%	4 10.7%	2 0.5%
70歳以上	202 53.6%	15 4.0%	4 1.1%	4 1.1%	2.4 6.4%	3.7 9.8%	2.5 6.6%	2.7 7.2%	7 18.6%	2 0.5%	1 0.3%

対象ケース 377

17S：クラブがあれば加入するか

	合計		17S：クラブがあれば加入するか				希望クラブ内容		
	はい	いいえ	はい	わからない	わからない	競技志向	競技+楽しむ	楽しむ+親睦	その他
合計	377 100%	80 21.2%	121 32.1%	39 10.3%	39 10.3%	0.3 0.8%	5.3 14.3%	2.8 7.4%	4 1.1%
F1：性別	190 50.4%	45 11.8%	58 15.1%	14 3.6%	14 3.6%	0.5 1.3%	6.3 16.4%	4.5 11.8%	3 0.8%
男性	186 49.3%	35 9.4%	63 16.9%	25 6.5%	25 6.5%	—	3.8 9.8%	7 18.1%	1 0.3%
女性	175 46.4%	48 13.7%	63 17.7%	18 5.0%	18 5.0%	—	5.1 13.7%	4.7 13.1%	2 0.5%
F2：年齢	202 53.6%	32 7.9%	76 20.3%	21 5.5%	21 5.5%	0.5 1.3%	5.4 13.4%	3.8 9.5%	2 0.5%
60歳以上	175 46.4%	48 13.7%	63 17.7%	18 5.0%	18 5.0%	—	5.1 13.7%	4.7 13.1%	2 0.5%
70歳以上	202 53.6%	32 7.9%	76 20.3%	21 5.5%	21 5.5%	0.5 1.3%	5.4 13.4%	3.8 9.5%	2 0.5%

合計	17S：希望クラブの運動種目											
	体操	あるけるけ運動	フォークダンス	ボリーディング	ゲートボール	ランニング	スキー	水泳	スケート	登山	キャンプ	ハイキング
合計	37.7 100%	32 8.5%	13 3.4%	12 3.2%	17.8 47.2%	6.7 17.8%	2 0.5%	4 1.1%	3 0.8%	5 1.3%	3 0.8%	2 0.5%
F1：性別												
男性	19.0 50.4%	18 45.5%	6 15.8%	4 10.5%	18.4 49.2%	3.5 9.2%	1 2.6%	2 5.3%	1 2.6%	5 13.2%	2 5.3%	1 2.6%
女性	18.6 49.3%	14 36.1%	7 18.1%	8 20.7%	17.4 45.7%	3.2 8.4%	1 2.6%	2 5.3%	0 0%	0 0%	1 2.6%	1 2.6%
F2：年齢												
60歳代	17.5 46.4%	18 47.5%	7 18.4%	7 18.4%	26 69.1%	2 5.3%	3 7.9%	3 7.9%	2 5.3%	1 2.6%	1 2.6%	1 2.6%
70歳以上	20.2 53.6%	14 36.1%	6 15.8%	5 13.2%	21 55.4%	4 10.5%	0 0%	1 2.6%	3 7.9%	3 7.9%	2 5.3%	1 2.6%

合計	17S：希望クラブの運動種目											
	オリエンテーリング	ボート、ヨット	ゴルフ	サイクリング	釣り	陸上競技	柔道、剣道	相撲	空手、ボクシング	レスリング	弓道、洋弓	野球
合計	37.7 100%	4 1.1%	4 1.1%	3.7 9.8%	6 1.6%	4.6 12.2%	2 5.3%	2 5.3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.3%
F1：性別												
男性	19.0 50.4%	0 0%	1 2.6%	3 7.9%	2 5.3%	8.4 22.3%	2 5.3%	2 5.3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 2.6%
女性	18.6 49.3%	4 10.5%	3 7.9%	4 10.5%	2 5.3%	4.6 12.2%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
F2：年齢												
60歳代	17.5 46.4%	0 0%	3 7.9%	5 13.2%	2 5.3%	8 21.2%	2 5.3%	2 5.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
70歳以上	20.2 53.6%	4 10.5%	1 2.6%	1 2.6%	0 0%	6 15.9%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 2.6%

合計	17S：希望クラブの運動種目				
	ソフトボール	ソフトボール	テニス	卓球	その他
合計	37.7 100%	4 1.1%	6 1.6%	16 4.2%	8 2.1%
F1：性別					
男性	19.0 50.4%	2 5.3%	4 10.5%	9 23.9%	4 10.5%
女性	18.6 49.3%	2 5.3%	2 5.3%	7 18.4%	4 10.5%
F2：年齢					
60歳代	17.5 46.4%	2 5.3%	3 7.9%	7 18.4%	6 15.9%
70歳以上	20.2 53.6%	2 5.3%	3 7.9%	9 23.9%	2 5.3%

	合計	18：国際大会への関心			国際大会の観戦					
		非常に	やや	あまり	全くない	テレビ	ラジオ	新聞(雑誌)	会場	その他
合計	377 100%	7.4 19.6%	15.5 41.1%	22.5 59.5%	3.6 9.5%	32.5 86.2%	1.5 3.9%	3.2 8.5%	1.6 4.3%	3 0.8%
F1：性別										
男性	190 50.4%	4.0 21.1%	9.8 51.6%	16.3 42.1%	1.0 5.3%	16.6 87.4%	3 1.6%	4.7 12.3%	1.6 4.3%	—
女性	186 49.3%	3.2 17.2%	5.7 30.6%	5.4 29.0%	2.6 14.0%	15.8 84.9%	2 1.1%	3 1.6%	3 1.6%	3 1.6%
F2：年齢										
60歳代	175 46.4%	2.6 14.9%	9.2 52.6%	16.0 91.4%	1.2 6.9%	15.5 88.8%	2 1.1%	6 3.4%	3 1.7%	—
70歳以上	202 53.6%	3.8 18.8%	6.3 31.2%	5.7 28.2%	2.4 11.9%	17.0 84.2%	3 1.5%	6 3.0%	3 1.5%	2 0.5%

	合計	19：学校休行で観ること				
		身体づくり	技術練習	精神力	道徳心	楽しさを味わう
合計	377 100%	6.1 16.2%	7.4 19.6%	24.7 65.5%	7.4 19.6%	4.9 13.0%
F1：性別						
男性	190 50.4%	2.7 14.2%	1.3 6.3%	4.9 25.8%	4.3 22.6%	2.9 15.3%
女性	186 49.3%	3.4 18.3%	6.1 32.8%	20.8 112.2%	3.1 16.7%	2.0 10.8%
F2：年齢						
60歳代	175 46.4%	3.4 19.4%	5.7 32.6%	19.0 108.0%	2.6 14.9%	2.4 13.7%
70歳以上	202 53.6%	2.7 13.4%	1.6 8.1%	4.4 21.8%	3.8 18.8%	2.5 12.4%

合計	20：これから必要なもの											
	大きな施設	手軽な施設	選手用クラブ	初心者用クラブ	高度な指導者	初心者の指導者	手軽なスポーツの普及	地域運動会	日暮のスポーツ活動の	税金をスポーツのために	スポーツの広報活動	スポーツの科学的研究
合計	37.7 10.0%	17.6 46.7%	1.6 1.6%	10.3 27.3%	3.4 3.4%	21.8 21.8%	16.2 43.0%	7.0 18.6%	5.6 14.9%	7.7 20.4%	3.9 10.3%	1.9 5.0%
男性	19.0 50.4%	7.4 19.1%	1.1 1.1%	6.3 33.2%	3.7 3.7%	25.4 25.4%	8.1 42.6%	4.2 22.1%	3.9 15.3%	3.7 19.5%	2.3 12.1%	1.4 7.4%
女性	18.6 49.3%	10.2 26.9%	0.5 0.5%	4.0 21.0%	0.6 0.6%	17.4 17.4%	8.1 42.6%	2.8 14.5%	1.7 14.5%	4.0 21.5%	1.6 8.6%	5.0 27.7%
60歳代	17.5 46.4%	9.7 25.7%	1.1 1.1%	5.5 31.4%	5.1 5.1%	30.3 30.3%	8.4 48.0%	4.1 23.4%	2.8 16.0%	4.1 23.4%	2.5 14.3%	1.1 6.3%
70歳以上	20.2 53.6%	7.9 20.8%	0.5 0.5%	4.8 23.8%	2.0 2.0%	13.9 13.9%	7.8 38.6%	2.9 14.4%	2.8 13.9%	3.6 17.8%	1.4 6.9%	8.0 40.0%

合計	20：これから必要なもの		
	学校の解説	手軽なスポーツの普及	スポーツの科学的研究
合計	6.3 16.7%	4.2 11.1%	1.6 4.2%
男性	3.8 20.0%	5.3 28.3%	1.0 5.3%
女性	2.5 13.4%	3.2 16.6%	6.0 31.4%
60歳代	2.8 15.0%	3.4 18.4%	6.0 31.4%
70歳以上	3.5 17.3%	5.0 23.7%	1.0 4.7%

	性別		年齢				配偶者			Q6. 身体具合				
	合計	男	女	60歳代	70歳代	80歳代	有	無	元気	足腰弱った	寝たり起きたり	寝たきり		
													割合	割合
合計	6596 100%	2676 40.6%	3890 59.0%	2059 31.2%	3252 49.3%	1255 19.0%	3650 55.3%	2885 43.7%	3852 58.4%	2168 32.9%	422 6.4%	127 1.9%		
性別														
男	2676 40.6%	2676 100%	--	883 33.0%	1337 50.0%	449 16.8%	2180 81.5%	1882 18.8%	1776 66.4%	656 24.5%	186 7.0%	51 1.9%		
女	3890 59.0%	--	3890 100%	1171 30.1%	1909 49.1%	804 20.7%	1462 37.6%	2398 61.8%	2075 53.6%	386 6.1%	237 6.1%	75 1.9%		
年齢														
60歳代	2059 31.2%	883 42.9%	1171 56.9%	2059 100%	--	--	1483 72.0%	565 27.4%	1590 77.2%	394 19.1%	56 2.7%	14 0.7%		
70歳代	3252 49.3%	1337 41.1%	1909 58.7%	--	3252 100%	--	1808 43.8%	1423 34.8%	1877 57.7%	143 3.5%	185 5.7%	43 1.3%		
80歳代	1255 19.0%	449 35.8%	804 64.1%	--	--	1255 100%	552 28.0%	711 31.1%	383 30.5%	621 49.5%	181 14.4%	69 5.5%		
市郡	3137 47.6%	1278 40.7%	1845 58.4%	923 29.4%	1609 51.3%	585 18.8%	1735 55.3%	1373 43.8%	1865 59.5%	987 31.5%	219 7.0%	56 1.8%		
市郡	3457 52.4%	1398 40.4%	2045 59.2%	1136 32.9%	1643 47.5%	670 19.4%	1915 55.4%	1312 43.4%	1997 57.8%	181 4.5%	204 5.9%	71 2.1%		

	Q8. 健康のためにしていること		Q9. 体力			Q10. 運動効果			Q11. 運動実施			
	合計	運動	運動以外	人並み以上	人並み	ない	感じる	感じない	わかつない	した	しない	
												割合
合計	6596 100%	1832 27.8%	11951 181%	364 5.5%	3832 58.1%	2066 31.3%	1958 29.7%	4107 62.3%	317 4.8%	483 7.3%	2042 31.0%	4463 67.7%
性別												
男	2676 40.6%	918 34.3%	5097 190%	213 8.0%	1628 60.8%	731 27.3%	896 33.5%	611 61.1%	102 3.8%	134 5.0%	1081 40.4%	1562 58.4%
女	3890 59.0%	908 23.3%	6813 175%	150 3.9%	2190 56.3%	1328 34.1%	1057 27.2%	2456 63.1%	214 5.5%	348 8.9%	951 24.4%	2887 74.2%
年齢												
60歳代	2059 31.2%	592 28.8%	3865 188%	108 5.2%	1405 68.2%	473 23.0%	728 35.4%	1235 60.0%	69 3.4%	86 4.2%	775 37.6%	1257 61.0%
70歳代	3252 49.3%	1002 30.8%	5967 183%	176 5.4%	1898 58.4%	1028 31.6%	952 29.3%	2059 63.3%	145 4.3%	220 6.8%	1093 33.6%	2115 65.0%
80歳代	1255 19.0%	229 18.2%	2076 165%	79 6.3%	515 41.0%	457 44.4%	272 21.7%	795 63.7%	102 8.1%	177 14.1%	164 13.1%	1078 85.9%
市郡	3137 47.6%	848 27.0%	1806 564%	182 5.8%	1779 56.7%	999 31.8%	977 31.1%	1896 60.4%	167 5.3%	230 7.3%	861 27.8%	2220 70.8%
市郡	3457 52.4%	984 28.5%	6310 183%	182 5.3%	2053 59.4%	1067 30.9%	981 28.4%	2211 64.0%	150 4.3%	253 7.3%	1181 34.2%	2243 64.9%



	合計	Q11. 実施種目											
		軽い球技	体操	運動散歩	フォークダンス	ボーリング	ゲートボール	ジョギング	軽い水泳	室内器具運動	ハイキング	ゴルフ	サイクリング
合計	6596 100%	64 1.0%	493 7.5%	803 12.2%	81 1.2%	49 0.7%	1292 19.6%	67 1.0%	30 0.5%	82 1.2%	114 1.7%	38 0.6%	111 1.7%
性別													
男	2676 40.6%	53 2.0%	236 10.7%	453 16.9%	18 0.7%	35 1.3%	665 24.9%	58 2.2%	23 0.9%	54 2.0%	81 3.0%	35 1.3%	83 3.1%
女	3890 59.0%	11 0.3%	256 5.3%	347 8.9%	62 1.6%	14 0.4%	619 15.9%	9 0.2%	7 0.2%	28 0.7%	32 0.8%	3 0.1%	28 0.7%
年齢													
60歳代	2059 31.2%	33 1.6%	210 10.2%	286 13.9%	47 2.3%	24 1.2%	458 22.2%	35 1.7%	18 0.9%	31 1.5%	50 2.4%	22 1.1%	48 2.3%
70歳代	3252 49.3%	31 1.0%	247 7.5%	429 13.2%	33 1.0%	24 0.7%	746 22.9%	28 0.9%	10 0.3%	45 1.4%	63 1.9%	13 0.4%	49 1.5%
80歳代	1255 19.0%	-	34 2.7%	86 6.9%	1 0.1%	1 0.1%	80 6.4%	4 0.3%	2 0.2%	6 0.5%	1 0.1%	3 0.2%	14 1.1%
市部													
市部	3137 47.6%	38 1.2%	209 6.7%	364 11.6%	35 1.1%	24 0.8%	435 13.9%	28 0.9%	17 0.5%	43 1.4%	50 1.6%	24 0.8%	52 1.7%
郡部	3457 52.4%	26 0.8%	284 8.2%	439 12.7%	46 1.3%	25 0.7%	857 24.8%	39 1.1%	13 0.4%	39 1.1%	64 1.9%	14 0.4%	59 1.7%

	合計	Q11. 実施種目	
		釣り	その他
合計	6596 100%	80 1.2%	158 2.4%
性別			
男	2676 40.6%	79 3.0%	87 3.3%
女	3890 59.0%	-	69 1.8%
年齢			
60歳代	2059 31.2%	28 1.4%	61 3.0%
70歳代	3252 49.3%	49 1.5%	83 2.6%
80歳代	1255 19.0%	3 0.2%	13 1.0%
市部			
市部	3137 47.6%	38 1.2%	67 2.1%
郡部	3457 52.4%	41 1.2%	91 2.6%

		Q11. 一年間の運動日数				
		週3日以上	週1-2日	月1-3日	3月に1-2日	年に1-3日
合計		6596 100%	656 9.9%	409 6.2%	154 2.3%	71 1.1%
性別	男	2676 40.6%	320 12.0%	198 7.4%	83 3.1%	38 1.4%
	女	3890 59.0%	282 7.2%	208 5.3%	71 1.8%	32 0.8%
年齢	60歳代	2059 31.2%	223 10.8%	178 8.6%	53 2.5%	29 1.4%
	70歳代	3252 49.3%	385 11.8%	204 6.3%	84 2.6%	34 1.0%
	80歳代	1255 19.0%	74 5.9%	22 1.7%	17 1.4%	8 0.6%
市郡	市部	3137 47.6%	352 11.2%	153 4.9%	68 2.2%	20 0.6%
	郡部	3457 52.4%	334 9.7%	256 7.4%	86 2.5%	51 1.5%

		Q11. 運動する理由									
		丈夫にする	楽しむ気晴らし	運動不足	つきあいのため	病気をしないため	仲間との交流	美容心遣い	その他	わからない	
合計		6596 100%	1044 15.8%	1075 16.3%	365 5.5%	192 2.9%	192 2.9%	732 11.1%	32 0.5%	27 0.4%	7 0.1%
性別	男	2676 40.6%	598 22.3%	540 20.2%	198 7.4%	97 3.6%	97 3.6%	362 13.6%	8 0.3%	12 0.4%	5 0.2%
	女	3890 59.0%	439 11.3%	521 13.7%	164 4.2%	94 2.4%	94 2.4%	365 9.4%	25 0.6%	15 0.4%	2 0.1%
年齢	60歳代	2059 31.2%	383 18.6%	388 18.8%	148 7.2%	74 3.6%	74 3.6%	287 13.9%	21 1.0%	12 0.6%	1 0.0%
	70歳代	3252 49.3%	565 17.4%	589 18.1%	192 5.9%	99 3.0%	99 3.0%	401 12.3%	11 0.3%	14 0.4%	6 0.2%
	80歳代	1255 19.0%	92 7.3%	92 7.3%	23 1.8%	15 1.2%	15 1.2%	40 3.2%	1 0.1%	1 0.1%	-
市郡	市部	3137 47.6%	481 15.3%	409 13.0%	185 5.9%	59 1.9%	59 1.9%	250 8.0%	23 0.7%	16 0.5%	2 0.1%
	郡部	3457 52.4%	563 16.3%	666 19.3%	180 5.2%	133 3.8%	133 3.8%	482 13.9%	10 0.3%	11 0.3%	5 0.1%

合 計	Q11. 運動しなかった理由										
	忙しい	身体が強い	年をとった	場所施設がない	仲間がいらない	年寄り扱いされる	金がかかる	笑われる	その他	わからない	
合 計	6596 100%	1266 19.2%	1443 21.9%	1975 29.9%	105 1.6%	269 4.1%	169 2.6%	28 0.4%	78 1.2%	612 9.3%	266 4.0%
性別											
男	2676 40.6%	476 17.8%	478 17.9%	601 22.5%	39 1.5%	87 3.3%	90 3.4%	9 0.3%	24 0.9%	241 9.0%	80 3.0%
女	3890 59.0%	787 20.2%	960 24.7%	1369 35.2%	65 1.7%	180 4.6%	78 2.0%	19 0.5%	53 1.4%	370 9.5%	186 4.8%
年齢											
60歳代	2059 31.2%	613 29.8%	319 15.5%	253 12.3%	46 2.2%	108 5.2%	72 3.5%	16 0.8%	22 1.1%	182 8.8%	81 3.9%
70歳代	3252 49.3%	568 17.5%	742 22.8%	947 29.1%	52 1.6%	116 3.6%	77 2.4%	11 0.3%	40 1.2%	292 9.0%	130 4.0%
80歳代	1255 19.0%	83 6.6%	378 30.1%	771 61.4%	6 0.5%	44 3.5%	19 1.5%	1 0.1%	15 1.2%	135 10.8%	54 4.3%
市部	3137 47.6%	619 19.7%	711 22.7%	944 30.1%	60 1.9%	150 4.8%	91 2.9%	13 0.4%	34 1.1%	298 9.5%	135 4.3%
郡部	3457 52.4%	647 18.7%	732 21.3%	1031 29.8%	45 1.3%	119 3.4%	78 2.3%	15 0.4%	44 1.3%	314 9.1%	131 3.8%

Q12. やってみたい運動

	合計	Q12. やってみたい運動											
		軽い球技	体操	運動散歩	フュークダンス	ボウリング	ゲートボール	ジョギング	軽い水泳	室内器具運動	ハイキング	ゴルフ	サイクリング
合計	6596 100%	19.9 3.0%	77.3 11.7%	152.6 23.1%	135 2.0%	7.8 1.2%	119.3 18.1%	5.0 0.8%	6.6 1.0%	21.5 3.3%	30.0 4.5%	4.9 0.7%	12.0 1.8%
性別													
男	2676 40.6%	12.8 4.8%	35.7 13.3%	76.4 28.6%	4.3 1.6%	5.1 1.9%	59.2 22.1%	4.3 1.6%	4.9 1.8%	10.9 4.1%	20.5 7.7%	4.3 1.6%	9.7 3.6%
女	3890 59.0%	7.0 1.8%	41.0 10.5%	75.2 19.4%	9.2 2.4%	2.7 0.7%	59.5 15.3%	0.7 0.2%	1.7 0.4%	10.6 2.7%	9.3 2.4%	0.2 0.2%	2.3 0.3%
年齢													
50歳代	2059 31.2%	4.8 8.9%	35.2 17.1%	57.1 27.7%	7.3 3.5%	2.5 2.5%	49.5 24.0%	2.9 1.4%	3.5 1.7%	7.6 3.7%	14.7 7.1%	2.8 1.4%	5.6 2.7%
70歳代	3252 49.3%	9.4 2.9%	36.8 11.3%	77.7 23.9%	6.1 1.9%	2.6 0.8%	62.1 19.1%	1.9 0.6%	2.8 0.9%	11.6 3.6%	14.0 4.3%	1.9 0.6%	5.1 1.6%
80歳代	1255 19.0%	0.6 0.5%	3.7 3.7%	17.1 13.6%	1 0.1%	0.1 0.1%	7.0 5.6%	2 0.2%	3 0.2%	2.3 1.8%	1.1 0.9%	0.2 0.2%	1.1 0.9%
市部	3137 47.6%	10.0 3.2%	37.5 12.0%	77.2 24.6%	7.7 2.5%	3.9 1.2%	45.1 14.4%	2.4 0.8%	4.2 1.3%	10.9 3.5%	15.8 5.0%	2.1 0.7%	5.6 1.8%
郡部	3457 52.4%	9.9 2.9%	39.8 11.5%	75.4 21.8%	5.8 1.7%	3.9 1.1%	74.2 21.5%	2.6 0.8%	2.4 0.7%	10.6 3.1%	14.2 4.1%	2.8 0.8%	6.4 1.9%

Q12. やってみたい運動

	合計	Q12. やってみたい運動	
		釣り	その他
合計	6596 100%	18.0 2.7%	15.0 5.5%
性別			
男	2676 40.6%	17.3 6.5%	7.0 4.4%
女	3890 59.0%	0.7 0.2%	8.0 6.3%
年齢			
60歳代	2059 31.2%	7.5 3.6%	3.8 4.2%
70歳代	3252 49.3%	9.4 2.9%	8.0 5.5%
80歳代	1255 19.0%	1.1 0.9%	3.2 7.6%
市部	3137 47.6%	8.1 2.6%	6.0 5.1%
郡部	3457 52.4%	9.9 2.9%	8.1 5.6%

	合計		Q19. 収入源						Q23. 収入ある仕事についている	
	就労	年金	財産収入	子供からの援助	生活保護	その他	ついていない	ついていない		
合計	6596 100%	1312 19.9%	6109 92.5%	501 7.6%	1793 27.2%	69 1.0%	325 4.9%	1397 21.2%	5088 77.1%	
性別	男	2676 40.6%	783 29.3%	2476 92.5%	281 10.5%	577 21.6%	20 0.7%	130 4.9%	877 32.8%	
	女	3800 59.0%	535 13.5%	3615 92.9%	220 5.7%	1210 31.1%	49 1.3%	182 4.9%	1754 45.5%	
年齢	60歳代	2059 31.2%	647 31.4%	1912 92.9%	171 8.3%	422 20.5%	14 0.7%	100 4.9%	1340 65.1%	
	70歳代	3252 49.3%	576 17.7%	3043 93.6%	242 7.4%	920 28.3%	34 1.0%	150 4.6%	2572 79.1%	
	80歳代	1255 19.0%	84 6.7%	1137 90.6%	88 7.0%	445 35.5%	21 1.7%	73 5.8%	1160 92.4%	
市郡	市郡	3137 47.6%	606 19.3%	2845 90.7%	302 9.6%	797 25.4%	36 1.1%	127 4.0%	2444 77.9%	
	郡部	3457 52.4%	706 20.4%	3264 94.4%	199 5.8%	996 28.8%	33 1.0%	198 5.7%	2644 76.5%	

Q23. 仕事の種類

	合計	Q23. 仕事の種類											
		事務	専門	技能	警備	店員	外交	団体役員	その他勤務	農林	商工	弁護士会計士	家事手伝い
合計	6596 100%	63 1.0%	53 0.8%	100 1.5%	18 0.3%	30 0.5%	20 0.3%	78 1.2%	94 1.4%	379 5.7%	99 1.5%	14 0.2%	193 2.9%
性別	男	55 40.6%	47 1.8%	85 3.2%	18 0.7%	18 0.7%	11 0.4%	70 2.6%	47 1.8%	274 10.2%	70 2.6%	13 0.5%	83 3.1%
	女	3890 59.0%	8 0.2%	13 0.3%	-	12 0.3%	9 0.2%	8 0.2%	47 1.2%	105 2.7%	29 0.7%	1 0.0%	110 2.8%
年齢	60歳代	2059 31.2%	38 1.3%	27 3.1%	64 0.3%	19 0.9%	16 0.8%	38 1.3%	56 2.7%	175 8.5%	39 1.9%	9 0.4%	77 3.7%
	70歳代	3252 49.3%	23 0.7%	33 1.0%	12 0.4%	11 0.3%	3 0.1%	36 1.1%	35 1.1%	181 5.6%	50 1.5%	5 0.2%	98 3.0%
	80歳代	1255 19.0%	0.2 0.2%	4 0.3%	2 0.2%	-	-	1 0.1%	4 0.3%	3 0.2%	21 1.7%	0 0.7%	18 1.4%
市郡	市部	3137 47.6%	38 1.2%	30 1.2%	9 0.3%	21 0.7%	11 0.4%	39 1.2%	49 1.6%	127 4.0%	50 1.6%	7 0.2%	82 2.8%
	郡部	3457 52.4%	25 0.7%	73 1.8%	9 0.3%	9 0.3%	9 0.3%	39 1.1%	45 1.3%	252 7.3%	49 1.4%	7 0.2%	111 3.2%

Q23. 仕事の種類

	合計	Q23. 仕事の種類	
		内職	その他自営
合計	6596 100%	157 2.4%	77 1.2%
性別	男	28 40.6%	46 1.7%
	女	3890 59.0%	31 0.8%
年齢	60歳代	2059 31.2%	32 1.6%
	70歳代	3252 49.3%	43 1.3%
	80歳代	1255 19.0%	2 0.2%
市郡	市部	3137 47.6%	51 1.6%
	郡部	3457 52.4%	26 0.8%

Q23. 仕事をする理由

合計	Q23. 仕事をする理由										仲間	その他
	主要家計費	生活費のたし	生活余裕	子供負担軽減	符本の書え	ごつかい	経験いかす	生計中堅	健康			
合計	6596 100%	264 4.0%	264 4.0%	0.2 0.3%	0.7 1.1%	102 1.5%	108 1.6%	257 3.9%	290 4.4%	14 0.2%	58 0.9%	
性別												
男	2676 40.6%	172 6.4%	172 6.4%	29 1.1%	0.2 0.1%	44 1.6%	86 3.2%	149 5.6%	164 6.1%	6 0.2%	32 1.2%	
女	3890 59.0%	91 2.3%	91 2.3%	31 0.8%	0.4 0.1%	58 1.5%	22 0.6%	108 2.8%	125 3.2%	8 0.2%	25 0.6%	
年齢												
60歳代	2059 31.2%	152 7.4%	152 7.4%	26 1.3%	0.5 0.2%	42 2.0%	51 1.6%	111 5.4%	124 6.1%	6 0.3%	23 1.1%	
70歳代	3252 49.3%	99 3.0%	99 3.0%	31 1.0%	0.2 0.1%	55 1.7%	51 1.6%	123 3.8%	140 4.3%	8 0.2%	29 0.9%	
80歳代	1255 19.0%	0.1 0.1%	0.1 0.1%	3 0.2%	-	5 0.4%	5 0.4%	22 1.8%	25 2.0%	-	5 0.4%	
市部	3137 47.6%	123 3.9%	123 3.9%	21 0.7%	0.2 0.1%	52 1.7%	52 1.7%	93 3.0%	127 4.0%	5 0.2%	25 0.8%	
郡部	3457 52.4%	141 4.1%	141 4.1%	39 1.1%	0.5 0.1%	50 1.4%	56 1.6%	164 4.7%	163 4.7%	9 0.3%	33 1.0%	

Q23. 働いてない理由

合計	Q23. 働いてない理由										Q23仕事あれば	
	身体	仕事がない	理解なし	必要なし	働いてない	その他	わからない	働きたい	働きたい	働かない	働かない	
合計	6596 100%	538 8.2%	538 8.2%	233 3.5%	252 3.8%	648 9.8%	141 2.1%	798 12.1%	1404 21.3%	2791 42.3%		
性別												
男	2676 40.6%	267 10.0%	267 10.0%	392 14.6%	93 3.5%	210 7.8%	36 1.3%	390 14.6%	465 17.4%	871 32.5%		
女	3890 59.0%	269 6.9%	269 6.9%	299 11.3%	157 4.0%	435 11.2%	105 2.7%	404 10.4%	934 24.0%	1910 49.1%		
年齢												
60歳代	2059 31.2%	254 12.3%	254 12.3%	306 14.9%	57 2.8%	145 7.0%	40 1.9%	344 16.7%	408 19.8%	555 27.0%		
70歳代	3252 49.3%	244 7.5%	244 7.5%	803 24.7%	123 3.8%	296 9.1%	75 2.3%	399 12.3%	774 23.8%	1364 41.9%		
80歳代	1255 19.0%	39 3.1%	39 3.1%	421 33.5%	70 5.6%	206 16.4%	26 2.1%	54 4.3%	217 17.3%	862 68.8%		
市部	3137 47.6%	249 7.9%	249 7.9%	756 24.1%	137 4.4%	304 9.7%	63 2.0%	381 12.1%	669 21.3%	1317 42.0%		
郡部	3457 52.4%	289 8.4%	289 8.4%	777 22.5%	115 3.3%	344 10.3%	78 2.3%	417 12.1%	735 21.3%	1474 42.6%		

Q23. 仕事をする理由

	Q23. 仕事をする理由												
	合 計	主要家計費	生活費のため	生活余裕	子供負担軽減	将来の蓄え	こつかい	経験いかす	生き甲斐	健康	仲間	その他	
合 計	6596 100%	7.1 1.1%	10.8 1.6%	3.4 0.5%	0.45 0.7%	0.19 0.3%	7.2 1.1%	5.1 0.8%	15.4 2.3%	20.6 3.1%	2.9 0.4%	6 0.1%	
性別	男	2676 40.6%	3.1 1.2%	5.3 2.0%	1.7 0.6%	3.0 1.1%	2.7 1.0%	3.9 1.5%	6.2 2.3%	10.6 4.0%	1.3 0.5%	2 0.1%	
	女	3890 59.0%	3.9 1.0%	5.4 1.4%	1.7 0.4%	1.5 0.4%	9 0.2%	4.5 1.2%	1.1 0.3%	9.1 2.6%	10.0 2.4%	1.6 0.4%	4 0.1%
年齢	60歳代	2059 31.2%	3.0 1.5%	5.3 2.6%	1.9 0.9%	1.8 0.9%	3 0.1%	3.2 1.6%	2.5 3.3%	6.8 3.8%	7.9 3.8%	1.3 0.6%	2 0.1%
	70歳代	3252 49.3%	3.6 1.1%	5.1 1.6%	0.5 0.5%	0.25 0.8%	0.15 0.5%	3.7 1.1%	2.4 2.2%	7.0 3.3%	1.6 0.5%	2 0.1%	
	80歳代	1925 29.2%	0.4 0.3%	0.3 0.3%	--	0.2 0.2%	--	0.2 0.2%	1.3 1.3%	1.6 1.7%	--	0.2 0.2%	
市郡	市部	3137 47.6%	3.6 1.1%	4.4 1.4%	2.2 0.7%	1.9 0.6%	1.2 0.4%	3.9 1.2%	2.5 2.0%	6.2 3.2%	10.0 3.2%	1.8 0.6%	2 0.1%
	郡部	3457 52.4%	3.5 1.0%	6.4 1.9%	1.2 0.3%	0.8 0.8%	7 0.2%	3.3 1.0%	2.5 2.7%	9.2 3.1%	1.1 0.3%	4 0.1%	

Q24. 近所づきあい

Q25. 老人クラブ加入

	Q24. 近所づきあい				Q25. 老人クラブ加入					
	合 計	訪問人もい る	訪問少しはい る	立ち話し程度	付き合い程度	付き合い程度	時々参加	殆ど参加して ない	加入してない	
合 計	6596 100%	2483 37.6%	1897 28.8%	1210 18.3%	721 10.9%	234 3.5%	2748 41.7%	1382 21.0%	1070 16.2%	1350 20.5%
性別	男	2676 40.6%	1056 39.5%	672 25.1%	472 17.6%	354 13.2%	102 3.8%	1175 43.9%	492 16.4%	551 20.6%
	女	3890 59.0%	1420 36.5%	1214 31.2%	732 18.8%	366 9.4%	132 3.4%	1561 40.1%	882 22.7%	628 20.5%
年齢	60歳代	2059 31.2%	88 4.3%	538 26.1%	399 19.4%	193 9.4%	27 1.3%	884 42.9%	350 12.7%	262 5.4%
	70歳代	3252 49.3%	1266 38.9%	935 28.8%	595 18.3%	336 10.3%	96 3.0%	1521 46.8%	710 21.8%	431 17.5%
	80歳代	1925 29.2%	320 25.5%	413 32.9%	213 17.0%	192 15.3%	111 8.8%	332 26.5%	316 29.7%	229 18.2%
市郡	市部	3137 47.6%	1023 32.6%	867 27.6%	640 20.4%	445 14.2%	128 4.1%	1065 33.9%	601 17.0%	534 28.8%
	郡部	3457 52.4%	1460 42.2%	1030 29.8%	570 16.5%	276 8.0%	106 3.1%	1683 48.7%	781 22.6%	536 15.5%



Q25. 活動しない理由

合計	他の団体参加		老人扱い難	一人でするのが好き	内容興味なし	家族理解なし	身体不自由	働いている	参加の機会なし	その他	わからない	
	必要なし	必要あり										
合計	6596 100%	122 1.8%	279 4.2%	258 3.9%	256 3.9%	263 4.0%	25 0.4%	874 13.3%	243 3.7%	332 5.0%	352 5.3%	177 2.7%
性別												
男	2676 40.6%	58 2.2%	114 4.3%	156 5.8%	124 4.6%	113 4.2%	3 0.1%	309 11.5%	164 6.1%	141 5.3%	121 4.5%	51 1.9%
女	3890 59.0%	64 1.6%	164 4.2%	101 2.6%	132 3.4%	149 3.8%	22 0.6%	563 14.5%	79 2.0%	191 4.9%	240 6.2%	126 3.2%
年齢												
60歳代	2059 31.2%	57 2.8%	101 4.9%	169 8.2%	86 4.2%	98 4.8%	7 0.3%	151 7.3%	160 7.8%	160 7.8%	129 5.8%	56 2.7%
70歳代	3252 49.3%	51 1.6%	121 3.7%	78 2.4%	123 3.8%	125 3.8%	11 0.3%	365 11.2%	76 2.3%	136 4.2%	130 4.0%	76 2.3%
80歳代	1255 19.0%	13 1.0%	56 4.5%	10 0.8%	176 5.7%	47 3.1%	39 0.6%	356 28.4%	7 0.6%	36 2.9%	111 8.8%	44 3.5%
市部	3137 47.6%	81 2.6%	179 5.7%	176 5.6%	176 5.7%	161 5.1%	12 0.4%	450 14.3%	148 4.7%	218 6.9%	191 6.1%	109 3.5%
郡部	3457 52.4%	41 1.2%	100 2.9%	82 2.4%	80 2.3%	102 3.0%	12 0.3%	424 12.5%	95 2.7%	114 3.3%	171 4.9%	68 2.0%

Q26. 老人クラブ以外の団体

合計	参加していない				参加している	
	町内会	社会福祉団体	学習会 サークル	趣味の会		
合計	6596 100%	1480 22.4%	561 8.5%	1001 15.2%	521 7.9%	3537 53.6%
性別						
男	2676 40.6%	747 27.9%	290 10.8%	411 15.4%	217 8.1%	1273 47.6%
女	3890 59.0%	733 18.7%	267 6.9%	586 15.1%	302 7.8%	2248 57.8%
年齢						
60歳代	2059 31.2%	551 26.8%	242 11.8%	397 19.3%	171 8.3%	905 44.0%
70歳代	3252 49.3%	779 24.0%	274 8.4%	528 16.2%	257 7.9%	1704 52.4%
80歳代	1255 19.0%	143 11.4%	42 3.3%	73 5.8%	92 7.3%	915 72.9%
市部	3137 47.6%	733 23.4%	244 7.8%	487 15.5%	231 7.4%	1667 53.1%
郡部	3457 52.4%	747 21.6%	317 9.2%	514 14.9%	290 8.4%	1870 54.1%

Q27. 自由時間の活動

合計	自由時間の活動											
	家族と団らん	孫の相手	近所付き合い	家事	散歩	テレビラジオ	読書	趣味稽古	社会奉仕活動	囲碁将棋パチンコ	病院通い	運動、スポーツ
合計	6596 100%	1303 19.8%	1759 26.7%	2091 31.7%	544 8.2%	3246 49.2%	2108 32.0%	711 10.8%	537 8.1%	147 2.2%	540 8.2%	262 4.0%
性別												
男	2676 40.6%	533 19.9%	580 21.7%	132 4.9%	398 11.5%	1406 52.5%	1198 44.8%	288 10.8%	300 11.2%	144 5.4%	221 8.3%	180 6.7%
女	3890 59.0%	754 19.4%	1174 30.2%	1949 50.1%	232 6.0%	1831 47.1%	904 23.2%	419 10.8%	234 6.0%	3 0.1%	318 8.2%	82 2.1%
年齢												
60歳代	2059 31.2%	586 28.5%	537 26.1%	805 39.1%	125 6.1%	907 44.1%	684 33.2%	295 14.3%	179 8.7%	50 2.4%	143 6.9%	88 4.3%
70歳代	3252 49.3%	934 28.7%	897 27.6%	1051 32.3%	285 8.8%	1644 50.6%	1057 32.5%	346 10.6%	313 9.6%	75 2.3%	294 9.0%	152 4.7%
80歳代	1255 19.0%	378 30.1%	278 22.1%	229 18.2%	132 10.5%	690 55.0%	299 24.0%	68 5.4%	41 3.3%	21 1.7%	99 7.9%	21 1.7%
市郡												
市部	3137 47.6%	832 26.3%	557 17.8%	1007 32.1%	331 10.6%	1547 49.3%	1046 33.3%	365 11.6%	231 7.4%	89 2.8%	292 9.3%	120 3.8%
郡部	3457 52.4%	1076 31.1%	746 21.6%	1084 31.4%	213 6.2%	1699 48.1%	1062 30.7%	346 10.0%	306 8.9%	58 1.7%	248 7.2%	142 4.1%

Q27. 自由時間の活動

合計	休養		その他	何もしない
	休養	その他		
合計	6596 100%	881 13.4%	313 4.7%	476 7.2%
性別				
男	2676 40.6%	352 13.2%	143 5.3%	188 7.0%
女	3890 59.0%	524 13.5%	169 4.3%	287 7.4%
年齢				
60歳代	2059 31.2%	205 10.0%	93 4.5%	87 4.2%
70歳代	3252 49.3%	405 12.5%	139 4.3%	202 6.2%
80歳代	1255 19.0%	265 21.1%	77 6.1%	186 14.8%
市郡				
市部	3137 47.6%	449 14.3%	143 4.6%	237 7.6%
郡部	3457 52.4%	432 12.5%	170 4.9%	239 6.9%

Q28. 生き甲斐を感じること

合計	家族だんらん		子供や孫の成長		仕事	好きなこと	友人	老人クラブ	社会奉仕活動	宗教活動	その他	特になし
	割合	人数	割合	人数								
合計	6596 100%	2890 43.8%	3543 53.7%	1116 16.9%	2053 31.1%	1467 22.2%	1055 16.0%	132 2.0%	1189 18.0%	2.175 3.3%	855 13.0%	
性別	男	2676 40.6%	1101 41.1%	1349 50.4%	559 20.9%	434 16.2%	565 18.9%	65 2.4%	389 14.5%	66 2.5%	341 12.7%	
	女	3890 59.0%	1773 45.6%	2185 56.2%	553 14.2%	1031 26.5%	1026 26.4%	543 14.0%	65 1.7%	797 20.5%	109 13.1%	510 13.1%
年齢	60歳代	2059 31.2%	902 43.8%	1177 57.2%	484 23.5%	858 42.2%	433 21.0%	305 14.8%	61 3.0%	293 14.2%	33 1.6%	184 8.9%
	70歳代	3252 49.3%	1412 43.4%	1723 53.0%	526 16.2%	1022 31.4%	749 23.0%	619 19.0%	67 2.1%	601 18.5%	105 3.2%	386 11.9%
	80歳代	1255 19.0%	565 45.0%	634 50.9%	102 8.1%	152 12.1%	276 22.0%	122 9.7%	3 0.2%	290 23.1%	37 2.9%	282 22.5%
市郡	市部	3137 47.6%	1345 42.9%	1627 51.9%	476 15.2%	1034 33.0%	638 20.3%	423 13.5%	64 2.0%	523 16.7%	86 2.7%	428 13.6%
	郡部	3457 52.4%	1545 44.7%	1916 55.4%	640 18.5%	1019 29.5%	829 24.0%	632 18.3%	68 2.0%	666 19.3%	89 2.8%	427 12.4%

合計	健康		何もしない		
	運動	運動以外			
合計	6596 100%	1759 26.7%	4833 70.2%	204 3.1%	
性別	男	2676 40.6%	871 32.5%	1735 64.8%	70 2.6%
	女	3890 59.0%	883 22.7%	2875 73.9%	132 3.4%
年齢	60歳代	2059 31.2%	564 27.4%	1435 69.7%	60 2.9%
	70歳代	3252 49.3%	964 29.6%	2189 67.8%	89 2.7%
	80歳代	1255 19.0%	223 17.8%	978 77.9%	54 4.3%
市郡	市部	3137 47.6%	816 26.0%	2232 71.2%	89 2.8%
	郡部	3457 52.4%	943 27.3%	2399 69.4%	115 3.3%

## 高齢化社会の準備のための運動やスポーツのありかた

——日本とカナダの現状の比較を通して——

沢田 和明 (滋 賀 大 学) 平井 肇 (滋 賀 大 学)

### 1. 緒 言

着実に高齢化社会に向かっている現在、各個人のこの問題への親近感の程度とは関係なく、多様な角度からのその社会への具体的な対応の準備が急務である。今日の社会のシステムをそのまま年齢的人口の構成比率の異なったその社会状況に適應させていくには何等かの修正が必要となり、あるものはその修正の幅が少なく、あるものは修正では対応できない抜本的な改革が必要となる。約20年後先を目指し現在はその計画を試行的に推進し、修正を繰り返していく段階であると思われるが、生活の局面においても経済的な問題や物資など量的に表されるものについては比較的に対応が早い、個人の価値観など質的な問題についてはその変化のスピードが遅いこともあってなかなか着手されないのが現状である。

運動やスポーツは、高齢化社会に向けての準備という観点からは、従来ほとんど関心が示されずに問題にはならなかった領域である。また、たとえそのことが解っていても、実際には殆ど手をつけなかった領域である。これまでこのプロジェクトでは現在の高齢者の運動やスポーツ活動の現状把握、高齢化社会そのものの基本的な理解とその社会の中での高齢者の運動やスポーツ、健康の問題についての理解、さらにそれらをもとにした具体的なプログラムの作成及び試行とその修正作業が進められてきている。またそれと併行してというよりは、高齢者の運動やスポーツの問題以前に運動やスポーツの一般に関する現状についての基本的な共通理解とその修正がそれに先行する要解決問題となっていることを指摘してきた。

このためには、まずこれまでの日本人の運動やスポーツに大きな影響を及ぼしてきている学校における教科体育やクラブ活動などの現状理解、即ちその基本的な考え方の推移の確認やその修正の方向についての共通理解への作業とその経過についての理解が不可欠である。そしてその修正の推移をめぐって、より望ましい運動やスポーツの学習指導のあり方が検討されねばならない。そのためには高齢化社会の問題をも含めた大学での教員指導のあり方も問題にすることが必要となろうし、それらについての現在の教員の再教育の問題もあろう。また学校を卒業してしまっている者については、彼らが社会教育を通して何等かの方法でそれらの情報について入手でき、状況に応じて意見交換できる場を設けることが必要になってこよう。

本研究ではその要点を確認しながら、カナダの運動やスポーツについての情報をも参考に、高齢化社会に向けての運動やスポーツの考え方進め方について述べていく。

### 2. 運動やスポーツの生活化からみた教科体育の目標の推移

高齢化社会の運動やスポーツの問題は教科体育の観点からみる限り、卒業後の運動やスポーツの継続的実施、運動やスポーツの生活化の問題に集約されよう。そして学習成果としての評価内容と卒業後の運動やスポーツとの関わりについては、学習者にとっては直接的には全く結び付かないことや、指導者にとっては両者は理念的には関連づけられても後者についての指導責任は全く低次元でしかなく、それが基本的な問題となってくる。

学校体育の重点目標の推移は、体力づくり

から、民主的人間の形成、さらに運動技能の獲得を経て、現在運動やスポーツの生活化にむけた運動の楽しさ体験が焦点となってきた。高齢化社会の医療健康問題への対応とも関連して、教科体育の目標は生活の中での運動やスポーツの継続が重点的な目標になってくる。

これは行動レベル、認知レベル、性向レベルにおいて運動やスポーツへの動機づけを考えた場合、従来の教師に依存した指導中心的な教科体育のありかたでは、取り組み姿勢が多少またはかなり受動的であっても、確かにある程度の技能が身に付きある程度の知識が獲得されていく。しかし運動やスポーツへの興味関心のレベルになると他の2つのレベルほど高くはなく、教師の指導があり、与えられた目標が存在し、しかも方法もかなり狭い範囲での選択しかない状況の中で、基本的には本人の意思とは必ずしも一致しないで進められることが多い。その結果体育という教科の評価に関わる観点では努力の対象が明確にされても、それを個人の日常生活に積極的に取り入れていくための動機づけには、必ずしも十分ではないというよりは、殆ど効果が期待できないといった方が正確であろう。もちろんその重要性の認識は知識として導入されても運動やスポーツの人を魅きつけて離さない醍醐味に触れる経験が、殆どなされないままに学習単元を終了してしまう。そのため学校を卒業してしまうと、暇や精神的なゆとりとかなりの必要性がなければ、運動やスポーツへの直接的関与はなされない。また仮に再開されても指導者依存の形式や運動技能評価的な関心からなかなか脱出できず、楽しみから離れた仕事のトレーニングになり、その継続もなかなか期待できないのが通例である。

その弊害を軽減していくためには、工夫しながら再度挑戦していくための動機づけの観点への着目、自らが主体的に活動できる環境作りが教科体育の大きな課題になってくる。生活化を目指した体育への転換が1977年（昭

和52年）の文部省学習指導要領の改訂から強調され、その後10数年を経た。その体育では、いわゆる「正しく豊かな体育」から「楽しい体育」「学習内容としての体育」運動やスポーツが人を魅きつけて離さない醍醐味に触れる経験、それも指導者の直接的な指導ではなく、学習者の努力と工夫の過程や結果得られることが必要となってくる。そのためには、従来の学習指導とはかなり異なった観点からの配慮が必要であり、そのような体育で学習してこなかった教師にしてみれば、自らの体験のないことの指導であり、ある時は放任に陥ったり、この体育の考えに批判的であったり、また偏見や誤解が生じたりしてきて、多くの試行錯誤が現在もなお繰り返されているのが現状である。

ところで、現在の高学歴を指向した競争社会の中では、主要教科の学習指導は受験を目指した効率的な学習指導の実現のため、学習者の「自主的、自発的」が建前として空文化した形で、実際は教師の指導中心に展開され、児童生徒はとにかく従っていくことが期待されている。従うことを要請され、それ以外の自由な発想に基づく教育が、建前では認められても実際本音レベルでは排斥されていく現状では、体育の中だけでの改訂ではその実現に限界がある。ましてやその体育の学習内容に「集団行動」の学習が含まれ、従うことを半ば強制される学習がある一方で、その対応とは全く対極的である「楽しい体育」の展開においては、指導者側も学習者側も混乱を生ずるのが当然であるといえよう。

日本は、学校教育が行き届いている国の1つである。その教育の内容や結果が基本的には、その後の国のあり方を大きく左右してきているといっても過言でない。優れた目標を掲げ、そのための適切な教育行政方針を実行し、能力豊かな教師に学習意欲十分な児童生徒の組合せからは何も問題は出てこないし、出てきても解決可能な問題である。ところが、近年の教育をめぐる様々な問題は、そのよう

な対応では対応ができない問題として認識されており、そのような認識にもとづいて、改革の方向が検討され実行に移されてきている。

教育をめぐる国政レベルでの戦後の教育の見直しの必要性の背景には、社会の急激な変化に伴う教育そのものをも含めた社会的な価値観の多様化がある。そして、教育上の諸問題に対する教育機関としての学校機関や地域の教育監督官庁での対応とその効果の現状、今後の改変状況の予想などからして、さらに上からの改革が必要であるという判断の下に行われてきている。

教育の重要性が認識されながらも、社会構成員全体の高学歴化が進み、教師自身の社会的地位が従来ほど高く評価されない状況の中で、教師と児童生徒の人間関係のありかたや学校の位置づけに、多様性が見られるようになってきた。そして相対的に教師の権威が縮小していく部分を権力の導入によって、管理を強化していくような対応もよくみられるようになり、そのことがかえって問題を招来することにもつながってきている。一連の管理強化による教育のあり方は、表面的には平静は保てても、抜本的な修正が困難であるばかりでなく、多くの場合かえって児童生徒自らの判断による自発的な活発な行動を阻害していることが指摘されている。このことは「楽しい体育」の展開が、一方では教師や指導者からの独立をもねらいとしていくことを考え合わせると、とにかく表面的だけでも教師に従っていくということを目標にしたような教育では、そのズレは一向に縮まらないものといわねばならない。

また、1学級の定員問題に関しては、40人学級が財政再建問題との関係で思うように進んでいない。小学校では、児童数の減少との関係もあって、ほぼ達成されたが、上級学校での問題はこれからである。その問題に関連して、今後の社会の新しい構成員となる子供の減少傾向が強まることから、いずれさらに自動的に定員は縮小されていくという予測の

もとに、戦後の団塊世代の子弟が増えていく、しばらくの間をみこした国立大学の教員養成学部の定員減少を含めた改組の作業に着手し、その作業も一応終了するところまできた。この後者の対応は早かったが、抜本的な教育の根本からの見直しからは、対症的な感が払拭できない。

学校という教育の受け皿、それ自体の表面的な改変が外から行われても、教育内容そのものの具体的検討が十分になされなければ、いつまでたっても基本的な問題は解決されないままに残ってくる。また高齢化社会など未知の社会状況に対応していくためには、新しい試みがどこかの時点で必要になり、それは現状の学校教育の改変では対応しきれない広い意味での社会人に対する教育の問題である。

### 3. 日本におけるスポーツの考え方

日本では明治以来、教育における知育、徳育、体育の三育の役割分化やそれぞれの独自性が強調されすぎたあまり、教育というさらに大きな目標を離れ、三育が各々無関係に分離独立しているかのような誤解や相互連関の重要性の軽視や無視がなされたり、さらには教科体育そのものが三育でいう、体育と混同されたりしてきた。知育、徳育と切り離れた教科体育などあり得ないにもかかわらず、その認識のズレが教科体育の発展にとっては、三育の体育の一面の高揚という偏った方向性を支持したりすることにもなっていた。

また日本においては、学校教育を通してスポーツの普及発展が計られてきた経緯があるため、スポーツはこれまでのどの時代においても、教育的な取り扱いがなされることが多く、スポーツ即良いものということが無批判的に是認されることが多かった。そして教科体育の中で行われていく以上、教師に指導してもらいもの、指導される生徒は教えてもらいものということが暗黙の了解事項として定着してきた。即ち、スポーツは個人的なレベルでの自由裁量のきく、個人が責任をもつ

て行う活動としてではなく、社会的に必要なものを教師の指導に従って、能力を身につけていかなければならないという正確づけで指導されてきた。そのために具体的な運動の面白さ以上に、成績評価用としての運動技能到達レベルが意識されたり、学習への態度が強調されたり、また社会的に必要な学習結果としての体力増強に関心がおかれたりすることが多かった。そこでは個々の運動やスポーツの魅力は単にそれらの手段でしかなく、場合によっては全く不要なものとして遠ざけられたこともあった。

また、時に応じて教育の一環性が強調されることのある課外の運動部活動においては、その種目における好成績をあげることが、楽しむこと以上に強調され、ここでもスポーツの人を魅きつけて離さない醍醐味は、仕事としての練習活動に明け暮れることになっていく。そして卒業は、その運動種目からの解放であるかのように卒業後は殆どが、いろいろな理由も伴ってスポーツの実施から遠ざかってしまう。そして、再び運動やスポーツを再開するのも、仕事上の必要性や健康生活における運動やスポーツの必要性によるものが多く、そうして始めていく運動やスポーツは基本的には指導者がいて、その指導に被指導者として受動的についていくものが多く、その中では技術の上下による序列化を意識したり、結果としての効果のみに意識が向いたりして、運動やスポーツそのものの魅力についてはあまり学習しないことが多い。また個人的にはじめ、しかも指導者のいないようなものについては、具体的な工夫をする経験を学習してこなかったために、中断してしまうケースが多い。

いずれにしても運動やスポーツの継続ということからすれば、学校教育の中での教科体育や課外の運動部活動は効果的なものであるとはいえない。また運動やスポーツを余り行ってこない背景のひとつには、教科体育でのスポーツ学習においてその結果としての技能レ

ベル評価がいつも主たる関心としてあり、下手なものは運動やスポーツの場から社会的に排斥されていくラベリングの問題も見逃せないのではないだろうか。このことは運動部活動の継続においても同様である。できないものは努力してできるようになっていくという建前から外れて、見学や応援する方にまわっていく行動様式をとったり、とらされたりするようになり、直接的な関与から間接的な関与へと社会化されていく。

高齢化社会での運動やスポーツの問題は、間接的な関与ではなく直接的な関与である以上、これまでの学校体育のあり方や運動部活動のあり方を抜本的に改革する必要性は大いにあるといえよう。また、学校教育を終了してしまった人を含めた社会教育ないしは、それに準じたものの早急な体系化の作業が計画の上でも実践の上でも必要になってきている。

#### 4. 社会教育の場としての教育の機会

社会教育に関する行政側の取り組みは「生涯学習」として進められてきている。教育に上からの指導的管理的なイメージがついてまわり、一生涯管理されつづけることによる心理的な抵抗を軽減するためにも、「学習」はより好ましい表現であると思われる。しかし、人間は一生学習ということから離れられないという強迫的な観念は、特に学校教育に良い印象をもっていない人々にとって、国家的な管理というイメージは基本的には払拭されえない。また、その中で運動やスポーツを行っていくということは、当然必要性を理解した上でのことであり、この問題を曖昧にしたままの行政主導型の「教え込み」は、ある場合には運動やスポーツから人を遠ざけることになったり、またある場合には運動やスポーツは、個人が自ら工夫したり考えたりすることよりは、指導者に従うことを基本とする従来の学校教育というイメージを強化させることになったりする。

指導者の意向を察知し、その意のままに従っ

ていくことは、母親に従い自らの安全を確保する幼児の行動様式に似ている。学校教育の目標のひとつには、自らの関心に従って、自らが考え、自らの意志で行動し、それら3者が相互に影響しあいながら一人前の社会人となる準備をしていくことがあげられる。基本はあくまでも個人であり、個人の責任において個人が行動していくことが基本となる。運動やスポーツにおいては、個人的な興味、関心のレベルを中心に、知的なレベルでの必要性や可能性を理解し、具体的な行動を起こしていく、これら3者の相互連関を自分の生活の中で位置づけ取り込める範囲で取り込んでいくことが大切になってくる。そのためには必要に応じて、指導者や指導書などが利用していける能力を学校時代に身につけておくことが前提となる。受動的な学習から能動的な学習への変換が、社会教育の関係では必要不可欠な問題である。しかし学校教育における、その観点からの発達については、高学歴社会の中でとにかく教師に従うことを中心に、競争的に展開されていく限り余り期待できない。社会教育は基本的には教師からの卒業であり、また必要に応じた教師の利用であるといってもよい。現実の学校にこのことのモデルを期待することは、かなり難しいことと思われるが、興味や関心を中心に運動やスポーツの楽しさ体験を学習していくことがこれらの根本問題であり、昭和52年度の文部省の学習指導要領の改訂以来このことは建前としては維持され、それが具体的な成果となっていくためには、さらに一層の教師自身の変換を含めた教科体育のあり方の大きな転換が迫られている。

高齢者の身体的、精神的、社会的な健康にとっての運動やスポーツの可能性は理解されるが、その実施にあたっての基本的な方向づけを誤ると、これまで本報告書に示してきたような問題がでてくる。とはいっても各人が長い期間かかって培ってきた運動やスポーツの学習のあり方は、一朝一夕には修正不可能

であり、それを強制することは逆効果にもつながる。

個人が尊重され、個人が主体的に行動を起こしていくことについては、日本より欧米諸国が歴史的に先進国である。一つの事例としてカナダでの学校教育、社会教育、社会スポーツの状況をみながら参考になるところを探ってみたい。

#### 4. カナダの社会スポーツの現状

##### (1) カナダについて

「カナダ」と一口にいえるほどカナダは狭くはない。北米大陸の約半分を占め、面積約998万平方キロメートル（日本の約27倍、ソビエト連邦に次いで世界第2位）、また東西約6,000キロメートルの広がり（北海道から九州までの3倍以上）を持っている。標準時間が6つあり、その時差は4時間半である。

総人口は約2,600万人であり、そのうち約9割はアメリカ合衆国との国境と、それより北約250キロメートルの東西に延びる地域に居住している。人口100万人以上の都市はトロント（342万人）、モントリオール（292万人）、バンクーバー（138万）の3つで、総人口の3割を占める。また上位10の都市に総人口の約半数が含まれる。

歴史的には、原住民の北米インディアンの地への1497年のイタリア人J. ガボットのニューファンドランド到着に始まり、1534年フランス人J. カルチエのケベック地方のフランス国王領地宣言、1583年のH. ギルバートによるニューファンドランドのイギリス国王領土宣言、1759年イギリス軍のケベック攻略による全カナダのイギリス支配隔離確立、さらには1858年西部ブリティッシュ・コロンビア州でのゴールドラッシュ、1880年の大陸横断鉄道の開通による国内の移住やアメリカから移民、第1次大戦後のドイツや政変後のロシアからの移民、中国日本からの移民、第2次大戦後の国家体制の変わったポーランドやハンガリーからの移民、さらにはベトナム戦争忌



避のアメリカからの移民、ベトナム戦争後のベトナムからの移民など、その時々の世界の政治や経済との関わりで、多くの国から異なった文化的背景を持った人々が、それぞれが住みやすい地域に分散した形で定住していった。

カナダ、それ自体の定義づけに関連するが、このように国土と人口の関係から移民を数多く受け入れてきた経緯から、原住民としての北米インディアンを含め、多くの国からの移民をしてきた人々の子孫が、歴史的、民族的、文化的にかなり複雑な様相を呈しながら、またそれぞれの特徴を維持した形で、現在のところみんなカナダ人として10の州 (province) と2つの準州 (territory) に生活している。

## (2) カナダの学校教育について

1 昨年度 (1987~88年) カナダ全体で581.5万人 (人口の約4分の1) が教育を受けている。小中高499.3万人、カレッジ (2年制) 32.1万人、大学49.7万人、大学院9.7万人の他にも、幼稚園44.9万人、大学での社会人の聴講、その他の生涯教育関連では100万人ぐらいが教育を受けているという。

カナダの教育は、一部の教育 (北米インディアン教育、国防関係、矯正教育は国家管理) を除いて、大学教育を含めすべての教育は、1867年制定の憲法第93条の冒頭 (それ以前はBritish North America Act) に示されている通り、法律的、管理的、財政的には各州が責任をもって行ってきている。それゆえカナダには12の異なった教育システムがあり、各州の文部省 (Ministry, Department) が運営することになるが、多少の違いはあっても基本的には共通している。とはいってもスコットランド教育は英語を話す地域に、フランス教育はフランス語を話す地域に普及し、学校の種類や就学の年齢や進級、進学などの条件、さらには教員の資格取得にまで各州各々の方法があり複雑である。

今回はそれらのうちOntario州に関連したものについて、しかもHamiltonという市

(人口55.5万人、カナダ第9番目の都市) に関連した情報について若干報告する。

## (3) Ontario州の学校教育

Ontario州の教育はOntarioの文部省が管轄している。Ontario州には1987年9月30日現在で182の教育局 (school board) があり、そのうち161の教育局の直接的な管轄の下で、約4,500校の小中高校に約181.6万人が通学している。その内訳は、elementary 118.4万人 (公立78万人、私立40.4万人)、secondary 63.2万人 (公立52万人、私立11.2万人) である。私立はローマンカソリック系の学校である。その他に遅滞児や特別児の学校や州立の学校に1.4万人が通っている。

教師は小中高校に約9.3万人いる。elementary には5.5万人 (公立3.7万人、私立1.8万人)、secondary には3.8万人 (公立3.1万人、私立0.7万人) である。また1986年度の経費は総額72億6千万\$, 内33億1千万\$が州政府からの経費で、45.6%を占めている。

日本の学校教育における指導要領にあたるもの (Curriculum Guideline) は、州の文部省で作成しており、Primary (J K, K, G 1, 2, 3), Junior (G 4, 5, 6), Intermediate (G 7, 8, 9, 10), Senior (G 11, 12) の4区分で作成される。また前二者は小学校教育ということでElementaryとして、ひとつにくくられることもある。なおこれらの区分は各学校の種別をそのまま言及しているものではない。幼稚園1年間とG 8までがElementary SchoolでHamilton市ではElementary Schoolは幼稚園2年間とG 1からG 5の5年間、中学校 (Middle School) はG 6からG 8の3年間、Secondary SchoolはG 9からG 13の5年間であるが、カレッジ (2年制) へはG 12で卒業していき、大学に行くにはG 13でO A C (Ontario Academic Course) 6単位以上を取得しないといけない。

学習指導要領と具体的な学校の種別が一致

していないところは、非常に解りにくいところである。また義務教育も16歳の誕生日までということで、高校の途中で就職のために退学するケースもあつたりする。また小学校から高校まで落第制度（私立にはない）と飛び級の制度があり、特別の能力を持っている児童生徒には能力に応じた特別のクラスがある。それ故個人の暦年齢と学校の学年とは日本ほど明瞭ではない。

高校も大学も入学試験がなく、在籍中の学力で決定していくところが興味深い。入学はできても卒業は日本ほど容易ではなく、大学では60%も卒業できればいいところである。どちらの制度がよいのかについては多くの検討を必要とするが、学生の熱心な受講態度には好感がもてる。

#### (4) ハミルトン市の教育委員会

ハミルトン市は人口約55万、カナダ第1の都市トロントから約50分のオンタリオ湖に面した製鉄などが中心の工業都市である。ハミルトン市の運動やスポーツに関する社会教育関係のプログラムは、公的なものとしては教育委員会（Board of Education）と文化レクリエーション部局（Department of Culture and Recreation）が、私的なものはYMCA、YWCAが中心になって提供している。その他民間の営利目的の健康産業などもないわけではないが、ごく限られている。

教育委員会から「Back to School」という成人教育用のパンフレットがでていますが、この中には学齢期の児童生徒に対する学校での教育と、それ以外の社会教育という2分法が適応できないほど、多くの成人用のプログラムが学校を中心に進められ、年間約1万5千人の成人が教育を受けている。

教育委員会関係の教育施設は、エレメンタリースクール（小中学校75校）、セカンダリースクール（高校19校）、成人学習センター（3施設）、コミュニティ施設プログラム（14施設）、野外教育センター（2施設）、地

方事務所（6施設：各地域＋フランス語事務所）などがあり、エレメンタリースクールを除いて各種のプログラムを提供している。

それらには、高校卒業認定のための単位認定のコース（昼間で生徒と同じ教室のもの、別のもの、夜間）と一般的趣味教養コースの他に移民してきた人やその2世3世のための母国語教育、学校へ通えなかった人の基礎教育などがある。

単位認定コース（高校卒業認定）では延べ57教科が開講され単位必要の者は無料、単位と無関係のものは授業料や材料費（熟年市民10\$, その他34~51\$, 材料費5~15\$）が必要である。

また一般の趣味教養コースは、昼間コース開講学校7校（午前28教室、午後29教室）で編物・裁縫、鍵針編物、羅紗縫製、絵画・スケッチ、ヨガ、クリスマス準備、フランス語、家具装飾、キルト作成、ケーキづくり、電子レンジ料理、生け花、刺繍、資金計画と投資、料理、スモークづくり、造園と庭の手入れ、関節炎の体操、太極拳などが、また夜間コースでは開講学校15校（131教室）が同様のものを行っている。また昼間の成人専用クラスも17校で開講され、タイプライター・ワープロ、会計・コンピュータ、木工、商用英語、器楽演奏、自動車修理、その他が行われている。授業料は週2クラス、1クラスでそれぞれ熟年市民20\$, 10\$, 12週のもの81.6\$, 40.8\$, 15週のもの102\$, 51\$である。

またその他として、第8学年（エレメンタリー最高学年：日本の中学2年）までの基礎教育を、昼間2校、夜間4校で、第2外国語としての英語学習を昼間5校5コース、夜間6校10コース、さらに母国語教育17校で23カ国語、30コース（アフガニスタン語、アラビア語、中国語、ドイツ語、ギリシャ語（ヘレニック、オーソドックス）、グルジア語、ヘブライ語、ヒンズー語、イスラム語、日本語、ケララ語、韓国語、ラオス語、ラトビア語、マレー語、モスリン語、ポーランド語、パン

ジャブ語、セルビア語、スペイン語、ウクライナ語）が行われている。

ハミルトン市のあるオンタリオ州は移民の多い州で、ハミルトン教育委員会では価値教育（Value Education）というセクションを設けて、その中で3つの柱の第1に人種関係問題をあげている（その他は、家庭暴力の防止、ドラッグ教育）。

また、特別コースとして音楽鑑賞、算数指導、国語指導、生活指導、ドイツ語会話、スペイン語会話、運転者教育などもある。

とにかく地域と学校の結び付きが強く、学校のフェンスや塀といったものが殆どなく地域に解放され、学校が身近に感じられる。

#### (5) ハミルトン市の文化レクリエーション部局

市の施設としては、2つのコミュニティホール、18のレクリエーションセンターと8つのスケートアリーナと20のプール（室内12、屋外8）、2つの総合体育館、5つの歴史的な施設、100余りの公園、8つの自転車専用道路、2つのスキー場、ゴルフ場、さらにサッカー場、野球場、ピクニック場などがあり、8つのブロックに分けられ各々の地域から2名ずつで構成する公園レクリエーション委員会があり、最高の決定機関となっている。また学校施設の開放率は80%程度である。

専門職員は文化部門に3人、レクリエーション部門には運動関係1人、それ以外2人で、施設に働いている職員は合計90人である。部局全体としては、運動やスポーツの関係の方が重点が置かれている。

指導者は、ボランティアからパートタイムまでプログラムによっていろいろと異なっている。

レクリエーションセンターの年会費は家族68\$（市民以外102\$）、18歳以上44\$（66.5\$）、13~17歳16\$（24.5\$）、12歳以下11\$（16.5\$）、60歳以上と身障者7\$（10.5\$）で、非会員は1日家族3.5\$、18歳以上2\$、

13~17歳1\$、12歳以下と60歳以上及び身障者0.75\$である。スケートアリーナの年会費は約半額である

レクリエーションセンターのプログラムには年齢や能力に応じて多様なものが用意されている。18歳以上のコースには各種の体力作りコース、ウェイトトレーニング、縄跳び、アーチェリー、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球、ヨガ、ダーツ、ホッケー、ゴルフ、体操、水泳、室内野球、室内サッカー、テニス等の他に、ダンス、エアロビクス、社交ダンス、バレエなどがある。また身体活動以外のものに絵画、刺繍、陶芸、クラフト、ジャズ、講演会などもある。13~17歳にはアーチェリー、バドミントン、室内野球、バスケットボール、ダーツ、ホッケー、ラクロス、体操、縄跳び、室内サッカー、水泳、卓球、陸上競技など各種のスポーツの他に絵画、子守トレーニング、応援団、リーダーシップ養成講座などがある。12歳まではアーチェリー、バドミントン、ホッケー、キックベースボール、バスケットボール、簡易フットボール、ダーツ、ホッケー、体操、縄跳び、室内サッカー、水泳、卓球、陸上競技、テニス等の他にクラフト、料理、木工、子守トレーニング、チェッカー、スケートボード、演劇やバレエ、パトン、ジャズ、タップ等各種のダンスリーダーシップトレーニング、作曲などがある。また就学前のプログラムには水泳、体操、ゲーム、体力づくりなどがある。また合気道、柔道、太極拳、護身術、空手もいくつか行われている。また水泳は初歩から赤十字の水安全法の指導員クラスまで14にわかれて教室が行われている。

また身障者の組織もいくつかあり、水泳、スキー、バスケット、体操、ホッケー、総合スポーツ大会、身障者用のプログラムも数多く行われている。

## (6) ハミルトン市のYMCA, YWCA 活動

北米では私的なものとしては、YMCAやYWCAなどのキリスト教を基盤としたレクリエーションがよく普及している。本来宗教の布教との関連が強かったが、現在は加入資格に特別制限もなく、チャペルはあるが施設として専任の神父がいるわけではない。活動内容の中には、キリスト教の精神を大切にしているが、宗教そのものの布教活動をおこなっているわけではない。このあたりは日本の状況と同じである。

ハミルトン市のYMCAは2カ所あるが、ダウンタウンの施設は大体育館1、小体育館1、ラケットボール7面、トレーニング室（サークルステーション1～18、ジョギングコース）、フィットネステスト室1、ウェイトトレーニング室、25Mプール1、サウナ、スチームバス、仮眠室、ラウンジなどがある。

運動やスポーツの指導関係の専任職員は5名で、生活の中での体操、水泳、体育に別れている。パートタイムの指導員やボランティアの指導員も多い。

1990年度のプログラムは、成人用には、レクリエーションスポーツとして、バスケットボール、バレーボール、サッカー（インドアー）、バドミントンがあり、フィットネス教室としては、ストレッチ・リラクセス、スロー・イージー、健康医療体操、エアロビクス、エアロビクス中級、エアロビクス上級、強度負荷コンディショニングがある。また、ウェイトトレーニングクラブでは講義、試合、他のジムとの試合など行っている。

パーティシペーターズという退職した人の特別のクラブもあり、昼食会、バドミントン、フィットネス、水泳などを行っている。またラケットボール、ハンドボール（ボールを手で打つゲーム）などではレベルに応じたクラブ内、クラブ外との試合なども多数行っている。またランニングクラブもある。水泳では成人スキューバ、マスター水泳クラブ、若者

水泳、個人レッスン、リーダー養成なども行っている。

青少年向けには年齢別（3～4歳、5～6歳、7～9歳、10～13、14～15歳）の体操教室、水泳教室がある。またキャンプ、ジャズ体操、ラケットボール、ハンドボール、バスケットボール、サッカー、バレーボール、バドミントンもある。また成人は男性だけを対象としているが、青少年は女性も参加でき、編物教室、料理教室などもある。また、リーダー養成もおこなっている。

開館時間は平日は午前6時半から午後10時まで、ウィークエンドは午前9時から午後7時（日曜は6時）まで（季節により閉館時間が異なる）で、祝日のいくつかを除いては年中無休である。

1年間の会費は、全てのサービスが受けられるYクラブ会員が65歳以上430\$、その他585\$会員、サービスに制限のある一般会員は65歳以上230\$、25歳以上400\$、若者325\$、学生220\$、高校生150\$、子供100\$である。会員以外の利用料金は会員ときた場合、そうでない場合それぞれ学生8\$、6\$、大人10\$、7\$、Yクラブ12\$、9\$である。

会員数、活動状況については正確な数字は把握できなかったが、春秋の一番利用の多い時で1日700人～800人が利用している。夏は特に曜日によって異なり土日は郊外へ出かけるために、減少するとのことである。

YWCAも同様なプログラムを提供しているが、運動やスポーツばかりでなく文化的なものも行っている。

成人女性には、母親講座（月1回）、90年代の親講座、趣味講座（絹スカーフづくり、ビデオカメラの扱い方、ホームビデオの作り方）、離婚後の生活、退職計画、花嫁教室、マッサージ教室、フィットネス教室（45分、60分、昼食時30分、昼食+退社後教室、低負荷エアロビクス、初歩の体操、妊婦体操）ダンス、体操のリーダー養成、心肺蘇生法講座、太極拳、ヨガ、ウェイトトレーニング、バレ

エ、バレーボール、ピックアップバレーボール、歩け歩けクラブ、水泳などが用意されている。

就学前には体操・水泳、バレエ、子供ジャズ体操、タップダンス、幼児教室、土曜学校、遊びの学校、遊びの学校上級、クラフト教室、アルファベットクラブ、乳児水泳、幼児水泳、親子水泳などが、また少年少女にはレクリエーション体操、体操・水泳、ダンス、ジャズダンス、タップダンス、生活訓練、創作演劇、美術クラブ、科学教室などがある。また季節的な少年少女のための特別プログラムとして、ハロウィーンパーティ、クリスマス朝食会、イースター卵づくり、クリスマス会、お菓子の家づくり、チョコレート菓子づくりなどがある。また少年少女キャンプが、学校休日（PAデー）キャンプ（年7、8回）、春休みキャンプ、クリスマスキャンプなどある。その他に10代特別プログラムとしてリーダーシップ養成プログラム、社会性育成プログラム、子供の世話教室、体操リーダー養成クラブ、赤十字水上安全法などがある。

いずれもリーダーを養成していくところが興味深いところである。

#### (7) ハミルトン市シニアシティズンセンター（高齢市民センター）

このセンターは市の文化・レクリエーション部局の予算で運営され、目的としては高齢者が会合し、友人になり、生活を創造し楽しむとある。事務局は交通の便利さからYWCAの建物の一角に設けられている。対象は60歳以上の男女で、年会費は市民7\$、市民以外10\$である。開館時間は午前9時（日曜12時）から午後9時（日木土は5時）までである。

活動には無料のものから有料のもの（4\$～8\$/10週）までいろいろあり、合唱、ゲーム、ビンゴ、ブリッジとユーカ（トランプ）、ブリッジ教室、ウクレレ、裁縫、編物、バザーのクラフト、油絵、寸劇、キルティング、ダー

ツ、水泳、スクウェアダンス、室内ボーリング、初心者のヨガ、ヨガ、太極拳、体操、バレエ・ジャズ、タップダンス初級、タップダンス中級、ラインダンス、社交ダンスなど多様な活動を行っている。

また特別活動として各種のシーズンプログラム、足の健康相談、講演会（補聴器の話、住生活、退職後の収入）、ディナー、ダンスコンサート、茶会などもおこなっている。

## 5. 結 語

西欧の先進諸国は、これからいずれも65歳以上の人口比率が増えていくなかで、高齢化社会の問題を深刻に考えていかねばならない時期にさしかかっている。現時点における高齢者の人口比率については、西欧先進諸国の中に日本より高いところはいくつかあるが、その比率に到達するまでの期間は、日本の将来予測よりはるかに長い期間かかっている。これから約30年間の間に、日本は世界中のどの国も経験したことのないスピードで高齢者の比率が急増していき、それらの国々以上に高齢者比率の高い国になっていく特殊な形での高齢化社会を迎えようとしている。

高齢化社会の問題は政治的、経済的、文化的に多種多様な問題を含んでいるが、運動やスポーツとの関わりから高齢者自身の身体的、精神的、社会的な健康問題を考えていくことは、約1割の高齢者が総医療費の4割を占めるという医療行政の財政的な問題ばかりでなく、いわゆる「強制的な余暇」の有効的利活用の検討でもあり、また社会的に孤立化しがちな高齢者の社会との積極的関わりとの糸口にもつながる可能性を持っている。

そのためには、多くの高齢者が少ない若年者の負担になっていく基本的な状況をふまえ、これまで誰もが経験したことのない状況への準備的な対応を、徐々にしかも着実に進めていくことが必要になってくる。

ところでそのような状況になっていくことについては、これまで高齢者を支える側の若

年者に対する事前の教育が学校教育では殆ど行われてきておらず、また少なくともその当事者となっていく高齢者予備軍に対しては、何の教育もなされてこなかったのが現状ではないだろうか。高齢化社会自体のことをも含め、その社会の中での生涯学習の考え方やその進め方についての社会教育は、早晩いずれかの時点で必ず必要なことがらである。そしてそこでは、生涯学習的な考えに基づく自主的自発的な活動を助長していくものとして、従来の教育における指導とは異質な何らかの指導助言的な機能をはたすものが必要となってくる。

生涯学習そのものについては、これまでの教育についての上からの指導管理的イメージが強かったこととの関連から、生涯にわたる個人の国家管理という捉え方がされることもあるが、全く何の予備知識や対応への準備もないままに高齢化社会を迎えていくことはきわめて危険な状況になるともいえよう。

生涯学習は従来の教育者、被教育者の関係のなかではなく、基本的には教育者、指導者からの独立を念頭においた学習指導のあり方である。運動やスポーツにおいても、非営利の民間団体を含めた公的サービスの限界や、営利の企業のそれらのサービスの商品への接近の可能性の問題を考慮すれば、これまでの学校教育の中での体育やクラブ活動などにおけるスポーツ活動のような「指導側の積極的指導」と「学習者側の受動的学習」が明確に分離したあり方とは異なった形を模索せざるをえなくなると思われる。そして個々の運動やスポーツの実践の過程では、教えてもらうことを基本とするという従来の固定的な運動やスポーツ学習のあり方から、自らが必要とする指導や助言を含めた情報収集を積極的に求めていく方向へと、徐々に学習のあり方の軌道を修正しながら、取り組まれるものが望まれていくようになってくる。

そのことからすれば、継続性のない単発的なイベントや指導性がかなり強いプログラム

サービス中心の行政のありかたは、修正の方向に向かわねばならないといえるが、それ以前に個人自らが、情報を求めて動き出せる社会構成員の育成こそが急務であり、その社会構成員が一線を退いていった場合に、何らかの必要に基づいた社会的な活動の場を自らが求め、また自らが改良しよりよいものに築き上げていける高齢者に育つような配慮が必要であるといえる。

カナダの高齢者の生活においても、生きがいを失って自殺をする例は少なくない。また何をするでもなく、繁華街にでてきて一日中ぼんやり過ごしている高齢者も多いと思われる。日本と異なり3世代家族はまずないカナダの社会生活状況の中で、繁華街に老人が出てきている状況、出てこられる状況は日本よりはいい状態であるといえよう。

カナダの教育行政の中での成人教育に関しては、そのプログラムの豊富さ、質の高さは日本の比ではない。また、民間団体の中にも高齢者を対象とした施設やプログラムをもったものも少なくない。一般的なレベルでの老後の経済的な心配が殆どないカナダの社会においては、病気や怪我で動けないということでない限り、それこそ「やる気」さえあれば多様な選択の幅の中で自分の興味関心にあったものを選び出すことは、そんなに難しいことではない。問題はその「やる気」であり、学校時代を含め、個人がどのような個人と運動やスポーツにどのように関わりを持ってきたか、また具体的な運動やスポーツの知識や方法をも含めた個人の運動やスポーツの実践への価値づけの問題が大切になってくる。また、そこでは個人の生活の中で運動やスポーツのあり方についての知識や方法や関心という、もうひとつ基本的なレベルでの学習がどのようになされてきているかが問題になってくる。

これらのことは、ただそれらのプログラムがあれば事足りるというものではなく、プログラムの情報が各個人に伝わり、参加の意志

がある人々の自発的な参加が促され、さらにはプログラムがなければ自らが考え、働きかけ、動きだして、運動やスポーツの行動をしていける方向づけができる、社会構成員の育成が大切であることを述べている。そのためには、そのような活動のできる能力を身につけられるような学校教育のあり方が望まれ、また運動やスポーツの指導そのもののあり方を問い直していく必要があるといえよう。

以上の基本的な考え方を理解した上で、いわゆる各論にあたる指導者養成の具体的な手引づくりが課題となってくる。これは従来の効率を最優先した特定な期間の終わりに評定をして終了する「指導や学習」という次元での「考え方・進め方」ではなくなってくる。従来の「指導や学習」の否定を基本として成り立っていくもので、どちらかといえば「教育の評価そのもの」のあり方を修正していく考え方もあるといえよう。

ところで、これらの問題については、現在の指導者自身が全く経験したことのない状況であることを考えてみると、その指導者自身の指導のあり方を修正していく方向づけが必要だと思われる。しかし指導者自身が、このような高齢化社会を想定しての指導を構想したこともなく、また指導者自身が指導者からの独立を基本的な目標として指導を受けたことも余りないと思われる状況の中では、これらの考え方は理念的には理解できることではあるが、その実践となると多くの試行錯誤が必要で、また誰もが予想しなかった、またはできなかった事態が起こる可能性を十分に胎んでいるといえよう。また実際には、それら理念的に組み立てられた方法論は、理解不十分の指導者や、そのことがよくないことを一番よく知っているはずの指導者自身が、指導成果を焦るあまりに安易で直接的な指導に軌道修正する局面など、その実施にあたっては

かなり困難な状況が予想されると思われる。

とにかく現在の30歳前後の人間が、65歳になるころに1つのピークを迎えるという将来予測に基づいて、具体的計画の漸次的実施に向けて、理論的かつ実践的な検討を十分に重ねていかねばならない。

#### 主要引用・参考文献

- 1) 宇土正彦：『社会体育ハンドブック』大修館書店、1987.
- 2) 沢田和明：「高齢者の生活とスポーツ活動」『滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要』№8、115-123、1987.
- 3) 沢田和明：「高齢者の健康や体力と運動からみた高齢者の生活実態」『滋賀県体育協会スポーツ科学委員会紀要』№9、128-170、1988.
- 4) 『スポーツ振興法』昭和36年6月16日法律第141号.
- 5) 全国体育指導委員協議会編：『みんなのスポーツ』1986・4月号「特集・体指の社会的役割について」.
- 6) 福岡孝純：『スポーツビジネス』日本経済新聞社、1988.
- 7) 森川貞夫：『生涯スポーツのすすめ』共栄出版、1984.
- 8) 文部省体育局監修：『健康と体力』1985・12月号「特集・社会体育指導者の養成と資格のあり方」, 第一法規.
- 9) McPherson, B. D., Curtis, J. E., Loy, J. W. The Social Significance of Sport Human Kinetics 1989.
- 10) Ball, D. H., Loy, J. E. Sport and Social Order Addison Wesley 1975.
- 11) Ministry of Education Education Statistics Ontario, 1987 1989.
- 12) The Board of Education for City of Hamilton Back to School 1989.

## 社会的統合機能としてのスポーツ —— 甲子園に出場したある学校の場合 ——

平井 肇 (滋賀大学教育学部)

### 1. はじめに

スポーツには、選手や観戦者として、直接・間接に参加することによって、自らが所属している集団や組織、地域、さらには国家や社会などに対する統合機能（アイデンティティ）を喚起し、促進させる作用があるとの指摘がなされている。これらは、しばしば「愛社精神」「愛校心（母校愛）」「郷土愛」「愛国心（母国愛）」等の言葉で表現される。

スポーツにはその発生・発展の経緯からして、遊びの精神が多分に含まれている。そして、その遊びは本来的には、個人的な行為であって、社会的なものではなかった。遊びは非日常的な空間と時間に限定されたもので、個人あるいはごく限られた仲間の間で行われるものであったのであるが、ゲーム、さらにはスポーツとして制度化・組織化されるのに比例して、社会システムの中に組み入れられ、必然的に社会性を帯びたものになって行った。この結果、スポーツは現代社会の中では、きわめて重要な社会制度として位置づけられ、社会的役割も有するものへとその性格を変えて行ったのである。そして、このスポーツに課せられた社会的役割のひとつとして、先に述べたスポーツの統合機能を促進・維持する役割がある。

本研究では、高校野球、特に甲子園が、高校生にとって母校へのアイデンティティ形成のためのシンボルとして、ある一定の意味を持っているとの仮説に立って、母校へのアイデンティティ形成のメカニズムについて考察して行く。その主たる調査項目は以下の通りである。

- A. 母校へのアイデンティティ形成と生徒の特質の関係
- B. 母校へのアイデンティティ形成を促進する要因
- C. 母校へのアイデンティティ形成と甲子園出場の関係
- D. 母校へのアイデンティティ形成の強化要因としてのスポーツ活動の役割

### 2. 調査

#### (1) 対象校について

今回は、先に述べた問題意識にもとづいた、本格的な調査をする前の予備的なものであるとの位置づけから、母校へのアイデンティティ形成に意味を持つと考えられる要素をできる限り幅広く、しかも適度に強く持っているとして予測される学校を事前を選び、調査の対象校とした。その結果選ばれたのは、中国地方のY高校である。

この学校の野球部は、平成元年度の全国高等学校野球選手権大会（以下、夏の甲子園）に出場している。平成元年に学校創設90周年を迎えたこの学校は、県下有数の進学校であると同時に、運動部・文化部等の課外活動も盛んな、世間で言われるところの「文武両道」の学校である。国公立大学への進学者数は平成元年度には、中国地方で第2位であった。クラブは運動部が20（男女はひとつのクラブに数えて）、文化部が17あり、1・2年生の4人に3人が運動部・文化部のいずれかのクラブに加入している。

野球部は明治33年以来、甲子園へは夏12回、春10回出場しており、春には準優勝、夏にはベスト4進出もあって、野球の名門校である。



この県では、進学校で旧制中学の伝統を引き継ぐ学校が、野球でも伝統的に強い。最近の5年間を見ても、このY高とT高、K高等の進学校が甲子園出場をほぼ独占している。

またこの学校では、生徒の学校行事への参加熱も高い。球技大会や運動会、文化祭などの行事には、クラス単位で熱心に取り組む。

このように、Y高は進学率が高く、野球を始めとした運動部や文化部活動、さらには学校行事も盛んであり、それ故地域の人からも注目を集め、その評価は肯定的なものが多いといえよう。ミードが「自我の確立」に関して述べたように、自らの概念が、第三者が自分をどう見ているかによって規定されるところがあるのなら、このY高の生徒は自らや自らが所属する組織（Y高）に対しても、肯定的な印象を強く持っており、母校へのアイデンティティも比較的強いと考えられる。

## (2) 調査方法

調査はアンケート方式を採り、平成元年12月に実施した。1・2学年各10クラスから、それぞれ3クラスを選抜した。そのクラスの全員に担任を通してアンケートを配布し、ホームルームの時間に回答してもらった。

288人からアンケートを回収したが、有効回答数は268であった。その内訳を学年別にみると、1年生が131人（49%）、2年生が137人（51%）である。また、性別で見ると、男子が156人（58%）、女子が112人（42%）であった。

所属クラブ別にみると、クラブに所属している者は196人で、73%がいずれかのクラブに所属している。所属クラブは先にあげた37のクラブほぼ全部に分散しているが、ここでは野球部員（硬式のみ）29人（10.8%）、その他の運動部員126人（47.0%）、文化部員41人（15.3%）といった分類を用いた。なお、いずれのクラブに所属していない者（図表では無所属と表示）は72人で、26.9%であった。

質問内容に関しては、性別や学年、所属クラブ等の基本項目以外は、大部分がマルチ

ブル・チョイス方式を採った。項目は大きく分類すると、①母校へのアイデンティティの度合いを測定する項目、②野球部、その他の運動部、文化部、学校行事に対しての、それぞれの関心と具体的行動（応援や見学を含む）、評価を測定する項目、③甲子園出場に対する関心と具体的行動、評価を測定する項目、であった。

## 3. 結 果

### (1) 母校へのアイデンティティ

母校へのアイデンティティを直接測定する項目として、5つの質問を設定した。また、このアイデンティティを強化する要因として、考えられる具体的な事柄を例に挙げて、どのようなことがアイデンティティ形成に関係しているかも見た。

前者の質問内容は、「校歌へ愛着を感じるか」、「校章へ愛着を感じるか」、「本人がY校生として誇りを感じているか」、「他生徒がY校生として誇りを感じているか」、「母校愛を感じるのは当然か」であった。その結果は、表1、図1、2、3、4に示してある。

後者の質問内容は、「(これまで) どんなくきに母校愛を感じたか」、「母校愛を高めるにはどうしたらよいか」、「(将来) どんなくきに母校愛を感じると思うか」で、その結果は、表2、3、4に示してある。

この表1から判断する限り、対象となったY校生の大部分が、母校に対して誇りを持っていると言えよう。

その中身をもう少し詳しくみて行くと、校歌と校章では、校歌よりも校章への愛着が強

表1 学校への誇り

	大いに YES	やや YES	やや NO	大いに NO	合 計
校 歌 に 愛 着	26 10%	123 46%	88 33%	31 12%	268 100%
校 章 に 愛 着	58 22%	122 46%	67 25%	21 8%	268 100%
Y校生としての誇り (本人)	90 34%	143 53%	27 10%	8 3%	268 100%
Y校生としての誇り (他の生徒)	41 15%	178 67%	40 15%	8 3%	267 100%
母 校 愛 は 当 然	83 31%	138 51%	39 15%	8 3%	268 100%

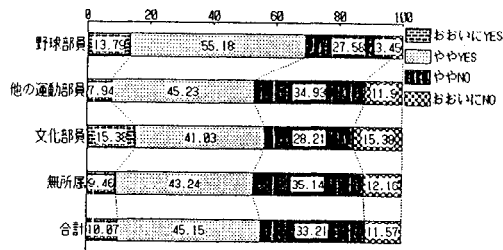


図1 校歌への愛着 (所属クラブ別)

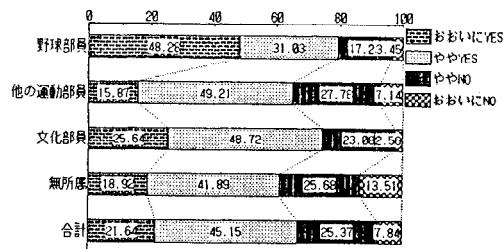


図2 校章への愛着 (所属クラブ別)

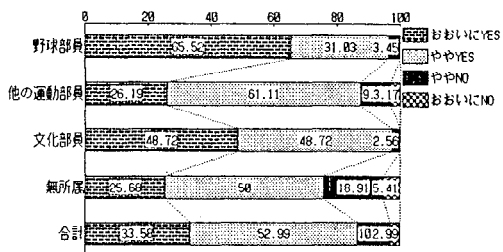


図3 本人のY高生としての誇り (所属クラブ別)

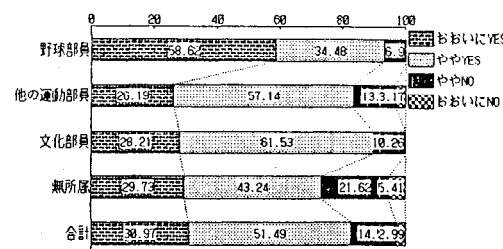


図4 母校愛は当然 (所属クラブ別)

い。また、8割以上の生徒が、自分はY校生としての誇りを持っていると答えており、母校愛を持つのは当然だと思っている。

「校歌への愛着」「校章への愛着」、「本人のY校生としての誇り」「母校愛は当然」について所属クラブ別にみて行くと、図1, 2, 3, 4のようになる。

「校章への愛着」は野球部員が極端に強く、部員の約半数が、校章へ強い愛着を感じている。その次に強いのが、文化部所属の生徒である。野球部以外の運動部員のなかで、校章に愛着を感じる生徒の割合は、無所属の生徒と同じ程度で、文化部員よりも低い。

「本人のY校生としての誇り」についても、野球部員が一番アイデンティティが強い。一人を除いて、全員がY校生としての誇りを感じており、強く感じている者の割合も、他の生徒と比較しても圧倒的に高い。それに次ぐのが文化部員で、野球部以外の運動部員、無所属がそれに続く。

「母校愛は当然」かとの質問項目でも、先のふたつと同じ傾向が認められる。つまり、野球部員が飛び抜けて強く肯定的である一方、野球部以外の運動部員は、この考えを余り強く支持していない。「おおいにYES」と答えた者の比率は野球部員の半分にも見えず、文化部員や無所属の生徒よりも低い。

次に母校へのアイデンティティと具体的な活動や行事との関係であるが、表2によれば、3分の1の学生が母校へのアイデンティティを感じる機会として、野球部の甲子園出場をあげている。ラグビー部は調査直後に全国大会(花園)に出場したが、野球部ほどの注目を集めていないようである。野球部以外では、学園祭の準備をしているときと答えた学生が比較的多かった。また、野球部以外の運動部員は、甲子園出場と母校愛を結び付けているケースが比較的少ないにもかかわらず、ラグビー部の花園出場と母校愛を結び付けているケースが多いことは、注目すべきことである。

表3は、母校愛をもっと高めるにはどうし

表2 母校愛をどんとときに感じたか(所属クラブ別)

	1	2	3	4	5	6	7	合計
野球部員	4	7	25	1	7	1	1	46
	9%	15%	54%	2%	15%	2%	2%	100%
他の運動部員	37	36	51	12	20	12	14	182
	20%	20%	28%	7%	11%	7%	8%	100%
文化部員	17	9	20	2	6	3	3	60
	28%	15%	33%	3%	10%	5%	5%	100%
無所属	27	14	30	1	11	4	14	101
	27%	14%	30%	1%	11%	4%	14%	100%
合計	85	66	126	16	44	20	32	389
	22%	17%	32%	4%	11%	5%	8%	100%

(2個以内、選択可)

1. 学園祭の準備をしているとき
2. ラグビー部が、全国大会出場を決めたとき
3. 野球部が、甲子園出場を決めたとき
4. 教師が親身になって相談に乗ってくれたとき
5. 新聞で母校の大学進学者リストを見たとき
6. その他
7. 誇りなど感じたことはない

表3 母校愛を高めるには(所属クラブ別)

	1	2	3	4	5	6	7	合計
野球部員	9	11	9	9	6	0	3	47
	19%	23%	19%	19%	13%	0%	6%	100%
他の運動部員	35	9	33	39	55	10	19	200
	18%	5%	17%	20%	28%	5%	10%	100%
文化部員	12	3	8	15	19	1	2	60
	20%	5%	13%	25%	32%	2%	3%	100%
無所属	22	4	14	21	24	5	14	104
	21%	4%	13%	20%	23%	5%	13%	100%
合計	78	27	64	84	104	16	38	411
	19%	7%	16%	20%	25%	4%	9%	100%

(2個以内、選択可)

1. 卒業生が、もっと多く一流大学に合格する
2. 野球部が、もっと多く甲子園に行く
3. 運動部が、もっと多く全国大会に行く
4. 教師との信頼関係が、もっと深まる
5. 学校行事が、もっと活発になる
6. その他
7. この程度でよいor誇りなど持つ必要はない

表4 母校愛をどんとときに感じるか(所属クラブ別)

	1	2	3	4	5	6	7	合計
野球部員	1	5	28	2	4	3	0	43
	2%	12%	65%	5%	9%	7%	0%	100%
他の運動部員	22	29	66	18	27	16	6	184
	12%	16%	36%	10%	15%	9%	3%	100%
文化部員	6	8	28	6	5	3	3	59
	10%	14%	47%	10%	8%	5%	5%	100%
無所属	11	16	36	9	15	7	7	101
	11%	16%	36%	9%	15%	7%	7%	100%
合計	40	58	158	35	51	29	16	387
	10%	15%	41%	9%	13%	7%	4%	100%

(2個以内、選択可)

1. 学園祭の見学に行ったとき
2. ラグビー部が、全国大会出場を決めたとき
3. 野球部が、甲子園出場を決めたとき
4. 教師が親身になって相談に乗ってくれたとき
5. 新聞で母校の大学進学者リストを見たとき
6. その他
7. 誇りなど感じることはないだろう

たらよいかとの質問であるが、特に片寄った傾向は認められない。「野球部が、もっと多く甲子園行く」ことと母校愛を結び付けて考える生徒は野球部員以外では極く一部であった。

表4は、卒業後に母校愛を感じるきっかけについて尋ねた結果であるが、ここでは野球部が甲子園出場を決めたときと答えた者が4割以上、野球部員を除いても3人に1人の割合でいる。ラグビー部が全国大会に出場したときと答えた者も多く、第2位であった。

表2, 3, 4の結果から言えることは、現役の生徒にとっては、自分がその活動なり行事に参加するかどうか、母校へのアイデンティティ形成の大きな要因になっている。しかし、卒業後は、母校の存在を自分が知ったり、世間に知らせたりする活動や行事、それも自分が何らかの形で参加できるようなものが、母校へのアイデンティティ形成に大きな要因になっているといえるのではないだろう。

## (2) 部活動と学校行事への関心、行動、評価

野球部への関心は高く、応援等の具体的な参加の割合も高い。また「他校よりもがんばっている」として評価も高い(表5)。野球部以外の運動部への関心や行動、評価に関しても、野球部のそれほどではないにしても、ほとんどの学生が活動を支持し評価していると見て良いだろう(表6)。文化部の活動に関しては、野球部やその他の運動部の活動よりも注目度が低いようである(表7)。文化祭や体育祭等の学校行事に関しては、関心、行動、評価とも極めて高い(表8)。

これらの表から言えることは、この学校では、野球部、運動部、文化部の活動への注目度はきわめて高いが、そのなかでも特に応援のような実際の行動を伴うような場合、野球部への関心が特に強いと言えよう。

表5 野球部への関心

	大いに YES	やや YES	やや NO	大いに NO	合 計
成績に関心あり	114 43%	109 41%	29 11%	16 6%	268 100%
応援に行く	94 35%	104 39%	38 14%	32 12%	268 100%
新聞記事を読む	118 44%	118 44%	22 8%	10 4%	268 100%
他校より頑張っている	128 48%	127 47%	7 3%	6 2%	268 100%

表6 他の運動部への関心

	大いに YES	やや YES	やや NO	大いに NO	合 計
成績に関心あり	71 26%	148 55%	43 15%	9 3%	268 100%
応援に行く	12 4%	49 18%	123 46%	84 31%	268 100%
新聞記事を読む	82 31%	138 51%	36 13%	12 4%	268 100%
他校より頑張っている	77 29%	173 65%	14 5%	4 1%	268 100%

表7 文化部への関心

	大いに YES	やや YES	やや NO	大いに NO	合 計
活動に関心あり	22 8%	66 25%	122 46%	58 22%	268 100%
活動見に行く	20 7%	50 19%	97 36%	101 38%	268 100%
新聞記事を読む	35 13%	72 27%	100 37%	61 23%	268 100%
他校より頑張っている	30 11%	174 65%	55 21%	9 3%	268 100%

表8 学校行事への関心

	大いに YES	やや YES	やや NO	大いに NO	合 計
活動に関心あり	144 54%	109 41%	11 4%	4 1%	268 100%
参加する	94 35%	129 46%	40 15%	5 2%	268 100%
他校より盛んだ	159 59%	104 39%	4 1%	1 0%	268 100%

表9 母校の甲子園出場の意味

	大いに YES	やや YES	やや NO	大いに NO	合 計
高校野球に関心ある	118 44%	105 39%	35 13%	10 4%	268 100%
母校の入場行進に感動した	44 16%	87 32%	80 30%	57 21%	268 100%
出場で母校愛が増した	52 19%	105 39%	71 26%	40 15%	268 100%
出場で母校が有名になった	34 13%	132 49%	79 29%	23 9%	268 100%
出場でよいことがあった	48 18%	65 24%	111 41%	44 16%	268 100%
	YES	NO			
県予選に応援に行った	144 54%	124 46%			268 100%
甲子園に応援に行った	203 76%	65 24%			268 100%

### (3) 甲子園出場への関心, 行動, 評価

この学校はこの調査の4カ月前に、夏の甲子園に出場した。そこで、甲子園出場に関する質問を設けたが、その結果は表9の通りである。

この学校の野球部だけでなく、高校野球一般への関心も高く、8割以上が「関心あり」と答えている。県予選へ行った者とそうでない者は大体半々であるが、甲子園には4人に3人が応援に行っている。

「母校の入場行進に感動したか」との問いには、「YES」と答えた者と「NO」と答えた者の割合は、半々であるが、野球部員の大半が「YES」、しかも「おおいにYES」であった(72%)ことを考慮にいと、野球部以外の生徒は、母校の入場行進にそれほど感動しているとは言えない。

「出場で愛校心が増した」と「出場で母校が有名になった」との質問に関しては、大体6割前後が「YES」と答えている。

### (4) 母校へのアイデンティティと野球部, 甲子園

次に、母校へのアイデンティティと野球部の活動への関心、行動、評価および甲子園の関係について見て行く。

図5～8は野球部への関心と母校愛の関係を、図9～12は野球部への行動(応援に行くこと)と母校愛の関係を、図13～16は野球部への評価と母校愛の関係を、それぞれ示している。

全体的に言って、野球部への関心、行動、評価と母校愛の間には正の関係が認められる。しかし、少し詳しくみて行くと、生徒の所属部間で微妙な違いが認められる。

それはこれまでも触れてきたが、野球部以外の運動部員の間では、母校愛と野球部への関心、行動、評価の間には正の関係があるものの、文化部のそれほど明確ではない。また無所属の生徒の間では母校愛が他のグループと比較して極端に弱くはないものの、野球部以外の運動部員以上に、野球部の活動と母

校愛の間に相関関係が弱いように見える。つまり、野球部以外の運動部員と無所属の生徒においては、野球部員や文化部員ほど、野球部の活躍が自らの母校愛の形成に直接強く結びつかないと予想される。

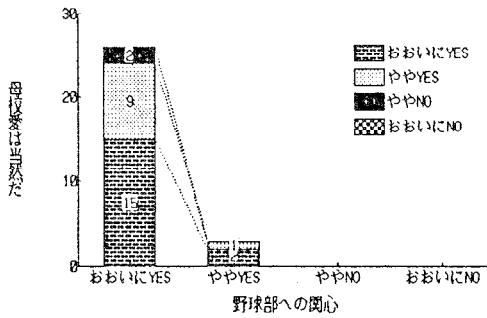


図5 母校愛と野球部への関心（野球部員）

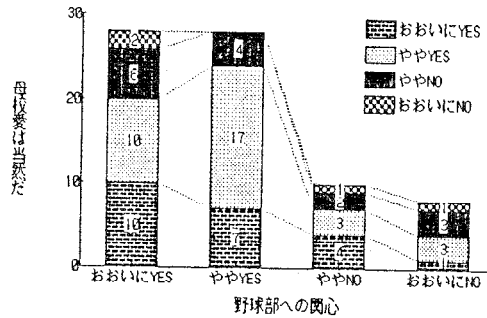


図8 母校愛と野球部への関心（無所属）

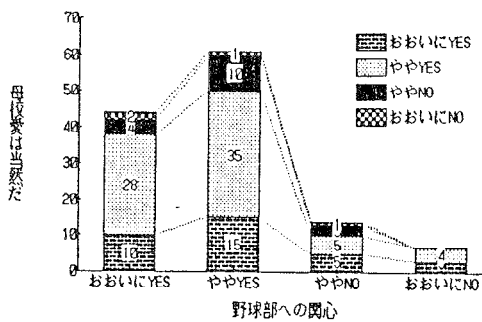


図6 母校愛と野球部への関心（運動部員）

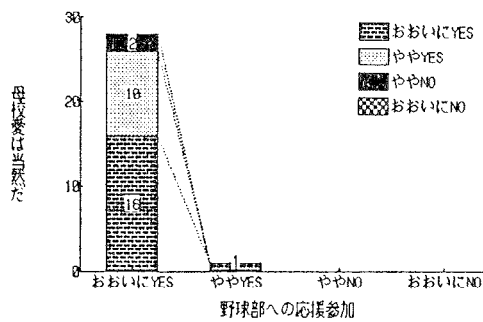


図9 母校愛と野球部の応援参加（運動部員）

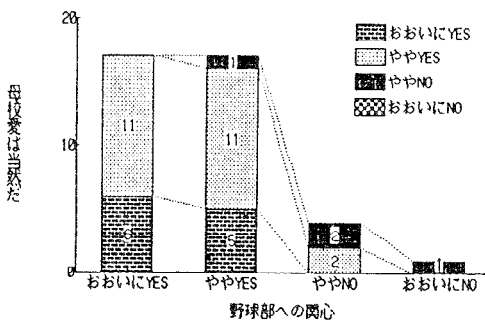


図7 母校愛と野球部への関心（文化部員）

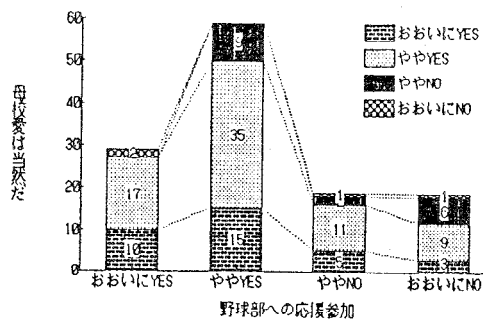


図10 母校愛と野球部の応援参加（運動部員）

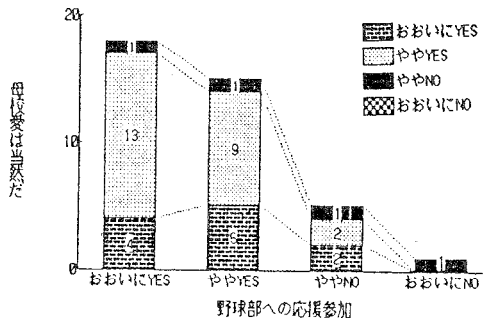


図11 母校愛と野球部の応援参加 (文化部員)

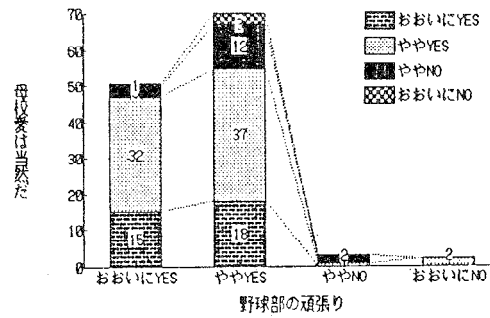


図14 母校愛と野球部の頑張り (運動部員)

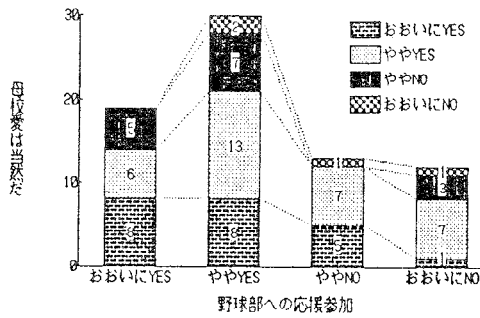


図12 母校愛と野球部の応援参加 (無所属)

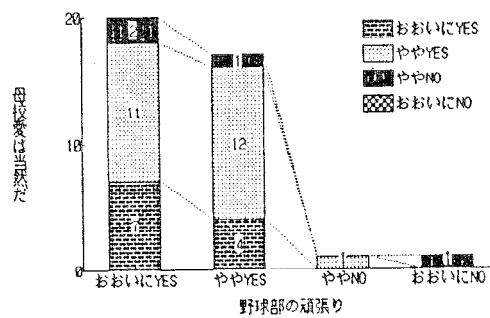


図15 母校愛と野球部の頑張り (文化部員)

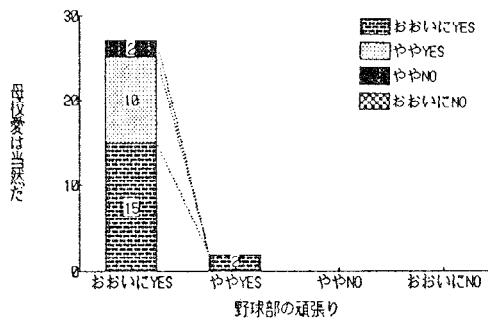


図13 母校愛と野球部の頑張り (野球部員)

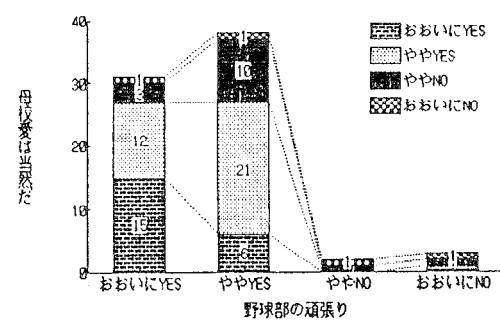


図16 母校愛と野球部の頑張り (無所属)

#### 4. 考察とまとめ

今回の調査で明らかになったことを、以下にまとめておく。

母校へのアイデンティティ形成と生徒の特質の関係に関しては、今回は生徒の特質と言った点では、クラブ活動を中心に見た。その結果、母校へのアイデンティティが最も強かったのは野球部員であった。その次に強かったのは文化部員であった。野球部以外の運動部員は、アイデンティティを感じる割合では文化部員とそれほど違わなかったが、強く感じている生徒の割合は低く、無所属の生徒の割合とあまり変わらなかった。

母校へのアイデンティティ形成を促進する要因に関しては、全体的に言えば、自分が何らかの形で参加できるものが、母校へのアイデンティティ形成の上では大きな意味を持っていることが明らかになった。つまり、所属クラブを問わず、文化祭や運動会などの学校行事に対しては強い関心があり、また積極的に参加している。それがまた彼らの母校への誇りにつながっている。

クラブ活動を見ると、野球部、その他の運動部、文化部を比較した場合、野球部への注目が一番あり、その他の運動部、文化部と続く。アイデンティティ形成との関連でみたとき、野球部が注目されるのは、おそらく野球というスポーツに興味があると言うよりは、野球という場（たとえば応援席）が、母校へのアイデンティティをより強烈に感じさせてくれる場として意義があるからではないだろうか。このことは、「卒業後に母校へのアイデンティティを感じる時はいつか」との質問でも認められる。

野球部の活動、特に甲子園が母校へのアイデンティティ形成に役だったことは否定できないだろう。4人に3人の割合で甲子園に行き、半数以上が甲子園出場をきっかけに、愛校心が増したと答えている。

最後に、母校へのアイデンティティ形成の強化要因としてのスポーツ活動の役割につい

てであるが、この結果からははっきりしたことは言えない。

ただ、スポーツをしていれば、自然と母校へのアイデンティティが強化されるかと言えば、この関係はそれほど単純ではないだろう。どうもスポーツが好きだとか、スポーツにただ打ち込んでいれば、自分が所属している組織や集団へのアイデンティティが自然と強化される訳ではないようである。このことは、野球部員は一般的に母校へのアイデンティティが強いが、他の運動部員は文化部員より低いことからみても明かである。

母校へのアイデンティティが自覚・強化されるためには、スポーツの場に限らず、母校へのアイデンティティを自覚させてくれるようなシンボルの存在が必要で、しかもそれに自分が一体化できるように、何等かのかたちで参加できることが大事なのではないだろうか。

今日の日本では、スポーツが高等学校をはじめとした学校教育の中で行われ、そこでいろいろな役割を求められている。

学校を集団・組織としてとらえた場合、クラブ活動におけるスポーツがそこでの統合機能として働いていることは紛れもない事実である。そのメカニズムについて知り、集団・組織の強化や発展のために、その機能を高めるべく工夫をすることは時として非常に大切になってくる。

これまでクラブ活動については、その教育的な面が強調され、注目されてきた。しかし、ここで紹介した、組織のアイデンティティ形成・強化のための手段としても重要かつ効果的で、今後注目して行く必要がある。

その基礎的なデータを収集するために、今回はひとつの高校にしぼって調査を行った。今後の課題としては、異なる性格を持ったケースの比較検討が必要であろう。たとえば、甲子園出場の経験のある学校とそうでない学校の比較、ある学校が甲子園に出場する前と後の比較、あるいは野球以外のスポーツで好成績をあげている学校間の比較などが考えられ

る。

#### 参考文献

- 1) G.H.ミード：『精神・自我・社会』（稲葉三千男・滝沢正樹・中野取訳），青木書店，1973.
- 2) 黒田由彦：「パーソナリティと社会化」『社会学の視点』（倉橋重史・丸山哲央編著），ミネルヴァ書房，60-67，1987.
- 3) 内海和雄：「スポーツ構造の把握」『スポーツの概念』（体育原理専門分科会編），不昧堂出版，180-189，1986.
- 4) 藤原健固：「スポーツ集団とコミュニケーション」『体育とスポーツ集団の社会学』（体育社会学研究会編），道和書院，159-179，1974.
- 5) 出原泰明：「スポーツと集団・組織」『体育原理講義』（中村敏雄・高橋健夫編），大修館書店，120-131，1987.